

頭註

國譯本草綱目

第二冊

春陽堂藏版

原著　明　李時珍

監修・校註　理學博士　白井光太郎

顧問　木村博昭

考定　理學博士　牧野富太郎

考定　理學博士　脇水鐵五郎

考定　岡田信利

考定　矢野宗幹

考定　木村康一

譯文　鈴木眞海

頭註國譯本草綱目第二册例

本册には本草綱目第三卷上・下第四卷上・中・下百病主治の全部を收載した。頭註は專ら監修白井光太郎博士の執筆に成つたのであるが、特に本册に就ては、顧問木村博昭國手亦極めて多忙なる刀圭の餘暇を割き、全稾を檢閱して親く加註された部分も甚だ多いのである。

主治藥は、所謂舊本には、いづれも序例の一部として附載され、單に藥名下に寒、熱、溫、涼の性を註したに過ぎなかつたのだが、李東璧が本草綱目を編輯して自然科學的分類の體制を創るに方り、序例と分つて一門を設け、藥品は悉く各本條の附方から抄出し、註記は性を削つて使用法を揭げ、一種の對症索引として幾と遺漏なからしめたものである　惟その綜蒐あくまで博洽に涉るがために、亦多少の紛淆を免れず。偶、主治の註記と本條附方の說明とに支吾を認むるものあり、又、重複せるものあり、文字の異同に疑ふべきものなどもあるが、蓋し尺璧の微瑕のみ、寧ろその經營の苦心を觀るべきであらう。本書は譯出にあたり、強ひてこれに改訂を加ふることを避け、勉めて

原文そのままに從ひ、ただ原本板刻の寫誤と認むべきもののみに對し、白井博士の校訂に據つて訂誤した。それ等差謬の存する點は、すべて各本條に照してその正きに據るを可とする。

昭和四年五月八日

鈴木眞海誌

頭註國譯本草綱目　第二册

目次

頭註國譯本草綱目第二册例……一―二
本草綱目主治第三卷上
百病主治第三卷目錄……一―二
諸風……一
痙風……一五
項强……二一
癲癇……二一
卒厥……二六
傷寒熱病……二八

瘟疫……三六
暑……四〇
濕……四二
火熱……四三
諸氣……四九
痰飲……五四
脾胃……六〇
呑酸嘈雜……六五
噎膈……六七
反胃……七一
嘔吐……七五
噦啘……七九
呃逆……八二
霍亂……八四

泄瀉……九一
痢……九六
瘧……一〇九
心下痞滿……一一七
脹滿……一二〇
諸腫……一二五
黃疸……一三九
脚氣……一四五
痿……一五〇
轉筋……一五三
喘逆……一五四
欬嗽……一六一
肺痿肺癰……一六九
虛損……一七一

瘵疰……一七六
邪祟……一八一
寒熱……一八五
吐血衄血……一八七
齒衄……一九六

本草綱目主治第三卷下

血汗……一九九
欬嗽血……二〇〇
諸汗……二〇一
怔忡……二〇四
健忘……二〇四
驚悸……二〇六
狂惑……二〇八
煩躁……二一一

不眠……二一二
多眠……二一四
消渴……二一五
遺精夢洩……二二〇
赤白濁……二二三
癃淋……二二五
溲數遺尿……二三五
小便血……二三九
陰痿……二四二
强中……二四六
囊癢……二四七
大便燥結……二四九
脫肛……二五三
痔瘻……二五五

下血……二六〇
瘀血……二六八
積聚癥瘕……二七一
諸蟲……二七九
腸鳴……二八四
心腹痛……二八四
脇痛……二九四
腰痛……二九七
疝㿗……三〇一

本草綱目主治第四卷上

百病主治第四卷目錄……一―二
痛風……三〇九
頭痛……三一四
眩運……三二〇

眼目……三二三
耳……三四三
面……三四九
鼻……三五七
唇……三六二
口舌……三六五
咽喉……三七四
音聲……三八〇
牙齒……三八四
鬚髮……三九一
胡臭……三九六
丹毒……三九九
風瘙疹疿……四〇一
癧瘍癜風……四〇三

癭瘤疣痣……四〇五
瘰癧……四〇八

本草綱目主治第四卷中

九漏……四一五
癰疽……四一六
諸瘡　上……四三四
諸瘡　下……四六
外傷諸瘡……四六九
漆瘡　凍瘡　皴裂　灸瘡湯火
金鏃竹木傷……四七三
跌仆折傷……四七八
腸出　杖瘡

本草綱目主治第四卷下

五絕……四八七

縊死　溺死　壓死　凍死　驚死

諸蟲傷……四八八

蛇虺　蜈蚣　蜂蠆　蜘蛛　蠼螋　蠶蛓　蚯蚓　蝸牛　射工　沙虱　蛭　螻蛄　蟻　蠅　蚰蜒　辟除諸蟲

諸獸傷……四九六

虎狼　熊羆　猪猫　犬猘　驢馬　鼠咬　人咬

諸毒……四九九

金石　草木　果菜　蟲魚　禽獸

蠱毒……五〇八

諸物哽咽……五一〇

婦人經水……五一四

帶下……五一九

崩中漏下……五二三

經水不止　五十行經

胎前……五二七

子煩　胎啼

產難……五三一
死胎　生胎
產後……五三六
下乳　回乳　斷產
陰病……五四三
陰寒　陰吹　陰腫痛　陰痒陰蝕　陰脫　產門不合　產門生合　脬損
小兒初生諸病……五四六
沐浴　解毒　便閉　無皮　不啼　不乳　吐乳　目閉　血眼　腎縮　解顱　顖陷　顖腫　項輭　龜背　語遲
行遲　流涎　夜啼　臍腫　臍風
驚癇……五五二
諸疳……五五五
痘瘡……五五八
小兒驚癇……五六一

本草綱目主治

第三卷　上

本草綱目主治目錄第三卷 上

百病主治藥 上

諸風　痙風　項強　癲癇　卒厥
傷寒熱病　瘟疫　暑　濕　火熱
諸氣　痰飲　脾胃　吞酸嘈雜　噎膈
反胃　嘔吐　噦啘　呃逆　霍亂
泄瀉　痢　瘧　心下痞滿　脹滿
諸腫　黄疸　脚氣　痿　轉筋
喘逆　欬嗽　肺痿肺癰　虛損　瘵疰
邪祟　寒熱　吐血衄血　齒衄　血汗
欬嗽血　諸汗　怔忡　健忘　驚悸
狂惑　煩躁　不眠　多眠　消渴

遺精夢洩　赤白濁　癃淋　溲數遺尿　小便血
陰痿　强中　囊癢　大便燥結　脫肛
痔瘻　下血　瘀血　積聚癥瘕　諸蟲
腸鳴　心腹痛　脇痛　腰痛　疝㿉

百病主治藥 上

(一)諸風

臓に中り、腑に中り、經に中り、氣に中り、また(二)痰厥、(三)痛風、破傷風、麻痺である。

鼻に吹く 【皂莢末・細辛末・半夏末・梁上塵】【葱莖】鼻耳に挿む。

鼻を熏ず 【巴豆烟・蓖麻烟・黄芪湯】

牙を擦る 【白梅肉・南星末・蜈蚣末・蘇合丸・白礬・鹽・龍腦・南星】

痰を吐く 【藜蘆】或は煎じ、或は散にする。【皂莢末】酒で服す。【食鹽】湯に煎ず。【人參蘆】或は煎じ、或は散にする。【瓜蒂・赤小豆】虀汁で調へて服す。【萊菔子】汁に擂る。【桐油】掃入する。【桔梗蘆】末にし湯で三錢を服す。【牙皂・萊菔子】末にし煎じて灌ぐ。【附子尖】末に研り茶で服す。【牛蒡子末】羗活酒で服す。【常山末】水で煎ず【醋蜜】和して服す。【膽礬末】醋で調へて灌ぐ。【牙皂・(四)晉礬末】水で服す。【大蝦】煮熟して蝦を食ひ、汁を飲んで探り吐かす。【苦茗茶】探り吐かす。【石

(一)風ハ無形ノ邪氣ヲ云フ。
(二)痰厥ハ卒然トシテ人事ヲ省セズ、喉中水雞聲アルヲ云フ。
(三)痛風ハ關節及筋肉僂麻質斯ノ類。
(四)晉礬ハ晉地産ノ白礬。

綠】醋糊で丸薬にし、毎に一丸を服す。【砒霜】末に研り、湯で少量を服す。【地松】汁に搗く。【豨薟】汁に搗く。【離鬲草】汁。【芭蕉油】汁。【石胡荽】汁。【三白草】汁。【蘇方木】酒で煎じ、乳香末二錢を調へて服す。男、女の中風口噤を治するに、立ろに惡物を吐き出す。【橘紅】一斤を熬り、逆流水で一盌服す。痰を吐くの聖薬である。

(五)**喎に貼る** 【南星末】薑汁で調へて貼る。【蓖麻仁】搗いて貼る。【炒石灰】醋に調へて貼る。【烏頭末】龜血で調へて貼る。【雞冠血・蝸牛】搗いて貼る。【生鹿肉】切つて貼る。【鮎魚尾】切つて貼る。【皂角末】醋で調へて貼る。【伏龍肝】鼈血で調へて貼る。【鱓魚血・蛞蝓】搗いて貼る。【寒食麪】醋で貼る。【桂末】水で調へて貼る。【馬膏桂酒・大麥麪】栝樓汁で調へる。【蟹膏】貼る。【衣魚】摩す。【蜘蛛】火に向けて摩す。【牛角鰓】炙いて熨す。【水牛鼻】火で炙いて熨す。【大蒜膏】(六)合谷の穴に貼る。【巴豆】手掌の心に貼る。

(七)**各經主治** 【藁本】手の太陽。【羗活】足の太陽。【白芷】手の陽明。【葛根】足の陽明。【黄芪】手の少陽。【柴胡】足の少陽。【防風】手の太陰。【升麻】足の太陰。【細辛】手の少陰。【獨活】足の少陰。【芎藭】手足の厥陰。

(五)喎ハ顔面神經麻痺。

(六)合谷ノ穴ハ大指ト食指ノ根本ノ合點ノ前ノ陷ノ所。

(七)太陽、陽明、少陽、少陰、太陰、厥陰等ノ經絡。

發散 【麻黄】賊風、風寒、風熱、風濕を發散する。身熱、麻痺、(八)不仁には熬膏して服す。風病を治するに汗を取る。【荊芥】風熱を散じ、表の邪を除き、頭、目を清うし、瘀血を行り、(九)賊風、頑痺、喎斜に主效がある。薄荷と共に熬膏して服すれば、(一〇)偏風を治し、研末して童尿酒で服すれば、産後の中風を治するに神效がある。【薄荷】賊風を治し、風熱、風寒を散じ、關節を利し、毒汗を發する。小兒(一一)風涎の要藥である。【葛根】肌、表の風寒、風熱を發散し、渴を止める。【白芷】陽明及び肺經の風寒、風熱、皮膚の(一二)風痺、瘙痒を解利し、(一三)九竅を利す。表汗には缺くべからざるものである。【升麻】陽明の風邪を發散する。【葱白】風寒、風熱、風濕、身痛を散ずる。【生薑】風寒、風濕を散ずる。【桂枝】一切の風冷、風濕、骨節の攣痛を治し、肌を解し、腠理を開き、肝氣を抑へ、脾土を扶ける。(一四)陰痺を熨す。【黄荊根】肢體の諸風、(一五)心風、(一六)頭風を治し、肌を解し、汗を發する。【鐵線草】男、女の諸風、産後の風發で粘汗を出すを治す。【水萍】熱毒、風濕、麻痺、(一七)左癱、右瘓、三十六風を治す。蜜で丸にし酒で服して汗を取る。風熱癮疹を治するには水で煎じ、浴して汗を取る。

(八)不仁ハ麻痺ニ同ジ。

(九)賊風ハ冬月ノ風邪。頑痺ハ頑固ナル麻痺。風寒、風熱ハ邪氣ヨリ起ル寒熱。風濕ハ筋肉及關節僂麻質斯ノ汎稱。

(一〇)偏風ハ半身不隨。

(一一)風涎、風ヨリ起ルヨダレ。

(一二)風痺ハ氣血凝滯シ手足拘攣スルヲ云フ。

(一三)九竅ハ耳目鼻口前後ヲ云フ。

(一四)陰痺ハ陰性ノ麻痺。

(一五)心風ハ神經過敏。

(一六)頭風ハ神經衰弱ヨリ來ル頭痛。

(一七)左癱、右瘓ハ半身不隨。

風寒、風濕　「草部」【羌活】一切の風寒、風濕には、久と新とを問はず關を透し節を利す。太陽、厥陰、少陰の要薬である。【防風】三十六般の風。(一八)上焦の風邪、頭目の滯氣、經絡の留濕、全身骨節の痛を去り、風を除き濕を去るの仙藥である。【藁本】一百六十の惡風。頭面、身體の風濕、手足の(一九)嚲曳。【石菖蒲】酒に浸して服すればば三十六風、一十二痺を治し、(二〇)骨痿に主效がある。丸にして服すれば中風、濕痺で伸び屈みの出來ぬものを治す。【豨薟】肝、腎の風氣、麻痺、(二一)癱緩の諸病を治す。九回蒸し九回晒し、丸藥にして服するのである。【莫耳】(二二)大風、(二三)濕痺の毒が骨髓に在るには、末にして水で服し、或は丸にして服す。百日服すれば病が丹の如く、疥の如く、駁の如く皮に出るものである。また酒に醸すもよし。【牛蒡根】(二四)風毒、(二五)緩弱には酒に浸して服す。○老人の中風で口、目の(二六)瞤動するもの、風濕で久しく痺れ、筋攣し、骨痛するもの、十年、二十年の永き風疾の患者に用ゐる。【茵蔯蒿】風濕で攣縮するには酒に醸して服す。○風痺には浴する。【白朮】風濕を逐ふ。舌の根の強ばるに效があり。痰を消し、胃を益する。【蒼朮】大風、頑痺、筋骨の軟弱なるには、風を散じ、濕を除き、鬱を解する。○汁を酒に醸して用

(一八)上焦ハ胃口以上。
(一九)嚲曳ハ手垂下シ足引曳スルヲ云フ。
(二〇)骨痿ハ脊椎病ヨリ起ル兩足ノ歩行困難病。
(二一)癱緩ハ半身不遂。
(二二)大風ハ癩病。
(二三)濕痺ハ脚氣ノ類。
(二四)風毒ハ轉筋攣急スルモノヲ云フ。
(二五)緩弱ハ四肢筋肉ノ薄弱ナルヲ云フ。
(二六)瞤ハ目ノ外眥攣動スルヲ云フ。

られば、一切の風濕、筋骨の痛みを治す。【車前子・水蓼・陸英・飛廉・忍冬・坐拏草・蒴藋・伏牛花・石南藤・百靈藤】酒。【青藤】酒。【鉤吻】いづれも風邪、濕痺、骨痛、拘攣に主效がある。【防已】風濕に中つて言語が不能になり、拘攣し、口目喎斜するには血中の濕熱を瀉す。【茵芋】年久しき風濕、痺痛、拘急、軟弱に用ゐる。【艾葉】諸風の口噤には灸し、風濕の麻痺には浴する。【白附子】諸風の冷氣、失音、頭部面部の(二七)遊風、足の弱くして力なきものに用ゐる。風喎には殭蠶、全蠍と共に研り末にして酒で服す。【附子・烏頭・天雄】いづれも風濕、痰氣、麻痺、拘攣して自由ならぬものに主效がある。經絡を通じ、氣道を開き、濕痰を燥す。【草烏頭】惡風、冷痰、癱緩、年久しく麻痺するものに用ゐる。【芫花】(二八)毒風、冷痰、四肢の拘攣に用ゐる。【羊躑躅】賊風が皮中を走つて間斷なく痛むものに用ゐる。○風濕の痺痛で不遂なるもの、言葉のつまるものには、酒で蒸して末にし牛乳酒で服するも效がある。【蓖麻子油】酒で煮て日毎に服すれば偏風不遂を治す ○膏にして用うれば關を通じ、風邪を拔いて外に驅出する。「穀菜」【大豆】炒り焦し酒に入れて飲めば、風痺、癱緩、口噤、口喎、破傷中風、産後の風痙、頭風に主效がある。○煮て食へば、濕痺、膝

(二七)遊風ハ癮疹。支那ノ北人ハ癮チ呼ンデ名ケテ遊ト曰フト云フ。

(二八)毒風ハ惡シキ風邪。

風寒、風濕　「草部」【羌活】一切の風寒、風濕には、久と新とを問はず關を透し節を利す。太陽、厥陰、少陰の要藥である。【防風】三十六般の風。(一八)上焦の風邪、頭目の滯氣、經絡の留濕、全身骨節の痛を去り、風を除き濕を去るの仙藥である。【藁本】一百六十の惡風。頭面、身體の風濕、手足の(一九)嚲曳。【石菖蒲】酒に浸して服すれば三十六風、一十二痺を治し、(二〇)骨痿に主效がある。丸にして服すれば中風、濕痺で伸び屈みの出來ぬものを治す。【豨薟】肝、腎の風氣、麻痺、(二一)癱緩の諸病を治す。九回蒸し九回晒し、丸藥にして服するのである。【葈耳】(二二)大風、(二三)濕痺の毒が骨髓に在るには、末にして水で服し、或は丸にして服す。百日服すれば病が丹の如く、癬の如く、駮の如く皮に出るものである。また酒に釀すもよし。【牛蒡根】(二四)風毒、(二五)緩弱には酒に浸して服す。○老人の中風で口、目の(二六)瞤動するもの、風濕で久しく痺れ、筋攣し、骨痛するもの、十年、二十年の永き風疾の患者に用ゐる。【茵蔯蒿】風濕で攣縮するには酒に釀して服す。○風痺には浴する。【白朮】風濕を逐ふ。舌の根の強ばるに效があり。痰を消し、胃を益する。【蒼朮】大風、頑痺、筋骨の軟弱なるには、風を散じ、濕を除き、鬱を解する。○汁を酒に釀して用

(一八)上焦ハ胃口以上。

(一九)嚲曳ハ手垂下シ足引曳スルヲ云フ。

(二〇)骨痿ハ脊椎病ヨリ起ル兩足ノ歩行困難病。

(二一)癱緩ハ半身不遂。

(二二)大風ハ癩病。

(二三)濕痺ハ脚氣ノ類。

(二四)風毒ハ轉筋攣急スルモノヲ云フ。

(二五)緩弱ハ四肢筋肉ノ薄弱ナルヲ云フ。

(二六)瞤ハ目ノ外部掣動スルヲ云フ。

られば、一切の風濕、筋骨の痛みを治す。【車前子・水蓼・陸英・飛廉・忍冬・坐拏草・蒴藋・伏牛花・石南藤・百靈藤】酒。【青藤】酒。【鉤吻】いづれも風邪、濕痺、骨痛、拘攣に主效がある。【防巳】風濕に中つて言語が不能になり、拘攣し、口目喎斜するには血中の濕熱を瀉す。【茵芋】年久しき風濕、痺痛、拘急、軟弱に用ゐる。【艾葉】諸風の口噤には灸し、風濕の麻痺には淋する。【白附子】諸風の冷氣、失音、頭部面部の(二七)遊風、足の弱くして力なきものに用ゐる。風喎には殭蠶、全蠍と共に研り末にして酒で服す。【附子・烏頭・天雄】いづれも風濕、痰氣、麻痺、拘攣して自由ならぬものに主效がある。經絡を通じ、氣道を開き、濕痰を燥す。【草烏頭】惡風、冷痰、癱緩、年久しく麻痺するものに用ゐる　【芫花】(二八)毒風、冷痰、四肢の拘攣に用ゐる。【羊躑躅】賊風が皮中を走つて間斷なく痛むものに用ゐる。○風濕の痺痛で不遂なるもの、青葉のつまるものには、酒で蒸して末にし牛乳酒で服するも效がある。【蓖麻子油】酒で煮て日毎に服すれば偏風不遂を治す　○膏にして用うれば關を通じ、風邪を扱いて外に驅出する。「穀菜」【大豆】炒り焦し酒に入れて飲めば、風痺、癱緩、口噤、口喎、破傷中風、産後の風痙、頭風に主效がある。○煮て食へば、濕痺、膝

(二七)遊風ハ腫脹。支那ノ北人ハ腫ヲ呼ンデ名ケテ遊ト曰フト云フ。

(二八)毒風ハ惡シキ風邪。

(二九)風血ハ貧血ノコトカ。

(三〇)頭旋ハ眩暈ノ事。

痛を治す。○醋で蒸して臥して居れば四肢の攣縮を治す。【豆豉】酒に浸して用うれば膝攣、不遂、骨痛を治す。【大豆黄巻・巨勝】酒に釀して用うれば風痺痛を治す【麻仁】骨髄が風毒の爲に痛んで動く能はざるには、香しきまで炒つて酒に浸して飲ませる。【麻勃】一百二十種の惡風、全身黑色になつて痺攣に苦むものに用ゐる。【麥麩】醋で蒸して風濕痺痛を熨する。【薏苡】久しきに亘る風濕痺、筋急、拘攣には、酒で煮て服す【茄子】腰脚の(二九)風血、積冷で筋攣して痛むには、汁を煎じて熬膏し、粟粉、麝香、朱砂を入れ、丸薬にして服す。「果木」【秦椒】風濕痺を治す。【蜀椒】大風で肉枯れ、蟲が生じ、遊走して痺痛するもの、死肌、寒熱で腰脚の不遂なものに用うれば、風を散じ濕を除く。丸薬にして服するのである。【呉茱萸】酒で煎じて用うれば、頑風の痛痒を治す。○薑、豉と共に酒で煎じ冷して服す、汗を取り、賊風の口噤不語を治す。【柏葉】酒に釀す。【松節】酒。【秦皮】風寒、濕痺。【五加皮】追風とも名ける。一切の風濕、痿痺、攣急を治するに、酒に釀して用うるがよし。【皂莢】關節を通じ、肝風を捜し、肝氣を瀉す。【蔓荊實】賊風を除き、肝氣を捜し、筋骨の間の寒濕痺、(三〇)頭旋、腦鳴に效がある。【欒荊子】大風、諸風の不遂。「蟲部」【蠶沙】風緩、頑

（三二）痺痛ハ痛風。

痺の不遂には炒つて酒に浸して服す。蒸して熨するもよい。【蠍】半身不遂、口目を抽掣して喎斜するには、研つて麝香を入れて酒で服す。【竹虱】半身不遂には麝香と共に酒に浸して服し汗を出す。「鱗介」【守宮】中風、癱瘓に、それぞれの藥と共に煎じて服む。【鯪鯉甲】中風の癱瘓、寒熱の風痺、及び風濕の強直で痛み堪へ難きに用ゐる。【烏蛇】酒。【白花蛇】酒。【蚺蛇】酒。○いづれも賊風、頭痺の痛痒、大風の瘡癬で蟲のあるものに用ゐる。【鱓魚】十二風邪、濕氣を逐ふ。スープにして服し汗を取る。【水龜】酒に醸して用うれば、大風の緩急、拘攣に主效があり、煮て食へば、風痺痛を除く。「禽部」【雞屎白】炒り研つて豆淋酒で服めば、風寒、濕痺で口噤し、人事不省なものに主效がある。【五靈脂】血を散じ、血を活し、經に引くの功がある。○癱瘓には熱い酒で二錢を服す。○風冷の（三二）痺痛には、乳・沒、川烏と共に丸にして服す。【鴈肪・鵜鶘油】風痺に主效がある。經絡に透つて藥氣を引き内に入る。「獸部」【羊脂】賊風の痿痺、腫痛に用うれば、毒氣に徹し藥を引いて内に入る。【熊脂】風痺。【靑羖羊角】炒り研つて酒で服すれば、風痰で恍惚として悶絶したるを治し、蘇生せしめる。【驢毛】骨中の一切の風には、黄になるまで炒り、酒に浸して服し汗を取る【狸骨】一切の遊

(三二)注痛ハ劇シキ痛。

(三三)濕熱ハ僂麻質斯等ノ熱。

(三四)瘈瘲ハ痙攣強直。

(三五)驚癇ハ驚風。

風。【羊脛骨】酒。【虎脛骨】酒で飲めば諸風(三二)注痛に主效がある。「金石」【雄黄】百節の中の大風を除き、肝氣を搜る。【金牙石】一切の腰脚不遂には、火で煅き酒に淬して飲む。【河砂】風濕、頑痺、冷風、癱緩には、晒し熱してその上に坐る。冷ればまた度度それを取り換へ、汗を取る。【鼠壤土】中風、冷痺、偏枯、死肌を蒸熨する。

風熱、(三三)濕熱「草部」【甘草】火を瀉し、九竅とすべての脈とを利す。【黄芩・黄連・菊花・秦艽】いづれも風熱、濕熱を治す。【玄參・大青・苦參・白鮮皮・白頭翁・白英・青葙子・敗醤・桔梗】いづれも風熱を治す。【大黄】濕熱を蕩滌し、一切の風熱を下す。【柴胡】濕熱、拘攣を治し、肝、膽、三焦、包絡の相火、少陽の寒熱を平調にするに必要の藥である。【升麻】皮膚、肌、肉の風熱を去る。【白微】突然の中風で、身體熱し、腹がはり、人事不省なるに用ゐる。【龍葵】風を治し、熱を消し、睡眠を少くする。【麥門冬】肺火を淸くして煩熱を止める。【天門冬】風濕、偏痺及び熱中風に用う。【牡丹皮】寒熱、中風、(三四)瘈瘲、驚癇、煩熱、手足の少陰、厥陰、四經の伏火に用う。【釣藤】肝風、心熱、大人の頭眩、小兒の十二(三五)驚癇。【紫葳及び

莖、葉】熱風、遊風、風刺。【蒺藜】諸風、瘙痒、大便結。「穀部」【胡麻】久しく食すれば風熱を生ぜず。風病の人はこれを食するがよい。【綠豆】浮風(三六)風疹、【白扁豆】風氣を行らし、濕熱を除く。【茶茗】中風、昏憒、多睡。【梨汁】風熱不語を除く。○葉を煎じて用ゐる。「木部」【槐實】氣熱煩悶。【同じく枝】酒に釀して用うれば、大風、痿痺を治す。【同じく白皮】中風の皮膚不仁、身體が強直して屈伸し得ぬものを治す。酒及び水で煎じて服す。【同じく膠】一切の風熱、口噤、筋攣で四肢自由ならぬもの、頑痺で全身を蟲が匍ふやうに感ずるものに效がある。【側柏葉】凡そ中風の不省、口噤、手足の嚲曳には、一握を取つて葱白と共に酒を入れて擣き、煎じて服すれば、能く風を退け、氣を和し、廢人とならない。【花桑枝】炒り香じ煎じて服めば、風氣、拘攣、身體の風疹を治す。久しく服すれば終身偏風を患はぬ。【同じく葉】酒で煎じて服すれば一切の風を治す。○風痛には蒸し、罨法して汗を出す。【白楊皮】毒風、緩弱で氣が皮膚中に在るには、酒に浸して服す。【皂莢子】五臟の風熱を疏導するには、丸にして服す。腰脚の風痛で歩行困難なるを治す。【巵子】熱毒風を去り、煩悶を除く。【黃蘗皮】腎經の風熱。【地骨皮】腎の疾患、風濕痺。【檉葉】遠近一切の風には、

(三六)風疹ハ俗ニカザホロシ。

汁に煎じ竹瀝を和して服す。【荊瀝】風熱を除き、經絡を開き、痰涎を導くには毎日これを飮む。【竹瀝】(三七)暴中風痺、大熱煩悶、失音不語(三八)子冒、風痙、破傷風の口噤に用ゐ、血を養ひ痰を淸くする。いづれも薑汁と共に飮むがよい。【竹葉】痰熱、中風の不語、煩熱。【天竹黃】諸風熱、痰涎の失音不語。「蟲獸」【蟬花】一切の風熱、瘙痒。【犀角】大熱、風毒で(三九)髭毷し煩悶するもの、中風の失音。【羚羊角】一切の熱毒、風濕が注伏して骨間にあるもの、及び毒風、卒死、(四〇)子癇、痙疾。「金石」【石膏】風熱、煩躁。【鐵華粉】肝を平にし、風熱を除く。【鐵落・勞鐵・赤銅】いづれも賊風、(四一)反折を除く。赤く燒き酒に浸して飮む。

痰氣　「草部」【天南星】中風、中氣、痰厥で人事不省なるには、木香と共に煎じて服す。○諸風口噤には、蘇葉、生薑と共に煎じて服す。【半夏】痰を消し濕を除く。○痰厥、中風には、甘草、防風と共に煎じて服す。【前胡】痰熱を化し、氣を下し、風を散ず。【旋覆花】風氣、濕痺、胸上の痰結、留飮。○中風の壅滯には、蜜で丸にして服す。【香附子】心肺の虛氣、客熱に用ゐ、肝氣を行らし、諸氣を升降する。○湯に煎じて風疹を浴する。【木香】中氣の人事不省には、末に硏つて服す、肝氣を行ら

(三七)暴中ハ卒中。
(三八)子冒ハ子癇ヲ云フ。
(三九)髭毷ハ煩悶ノ貌。
(四〇)子癇ハ姙婦痙攣。
(四一)反折ハ轉筋。

（四二）風結ハ大便秘結。

（四三）麻木ハ無感覺。

し、諸氣を調ふ。【藿香】諸氣を升降す。【蘇葉】風寒を散じ、氣を行らし、肺を利す。【蘇子】腰脚中の濕氣、（四二）風結を治し、風を治し、氣を順にし、痰を化し、膈を利し、腸を寬にする。粥に煮て食すれば、風寒、濕痺で四肢攣急し、地を踐めぬものを治す。【玄胡索】風を除き、氣を治し、血を活し、經絡を通ず。【蘭葉】風痛を治する。俗に風藥と名ける。【大戟・甘遂】いづれも經絡、痰飲、留滯、麻痺、隱痛、牽引、走注を治す。【威靈仙】諸風を治し、五臟を宣通し、冷滯、痰水を去り、腰膝を利す。【牽牛子】風毒を除き、一切の壅滯を下す。「果木」【杏仁】頭面の風氣で往來煩熱するに用ゐ、風を散じ、氣を降し、痰を化す。○逐日生で呑めば、偏風不遂、失音不語、肺中の風熱を治す。【陳橘皮】氣を理し、濕痰を除く【枳實・枳殼】大風が皮膚中に在つて麻豆の如く痒く（四三）麻木に苦むに用ゐ、氣を破り、濕に勝ち、痰を化す。【枳茹】酒に漬けて服すれば、中風の身直、及び口、目の歪むを治す。【檳榔】一切の風、一切の氣を除き、臟腑を宣利す。【烏藥】中風、中氣を治す。氣順なれば風が散じ、氣降れば痰が下る。【龍腦香】骨に入つて骨痛を治し、經絡の壅滯を散ず。【蘇合香・安息香】諸竅、臟腑、一切の不正の氣を通ず。「蟲獸」【麝香】肉に入つて骨髓に在る風を治す。

中風の不省には、香油で二錢を灌ぐ。【白殭蠶】(四四)風痰を散ず。酒で七箇を服すれば口噤を治し、汗を發し、並に一切の風疰、風疹に效がある。「金石」【鉛霜】中風の痰濕を墜す。【礬石】風を除き痰を消す。

(四五)**血滯**　「草部」【當歸・芎藭】いづれも一切の風、一切の氣、一切の虛に主效がある。惡血を破り、新血を養ふ。○蜜で丸にして服すれば、風痰を治し、氣を行らし、欝を解す。【丹參】風邪、留熱、骨節の痛み、四肢不遂を治し、宿血を破り、新血を生ず。○酒に漬けて飲めば風毒足軟を治す。奔馬草と名ける。【芍藥】風を治し(四六)血痺を除き、肝を瀉し、脾、肺を安ずる。○風毒が骨髓に在る痛みには、虎骨と共に酒に浸して飲む。【地黃】血痺を逐ひ、骨髓を補塡する。【茺蔚子】風を治し、熱を解す。○莖と葉は(四七)血風痛を治す。【地楡】汁で酒に釀して服めば、風痺を治し、腦を補ふ。【虎杖】酒で煮て服めば、骨節間に在る風を治す。【薑黃】暴風痛を止め、風熱を除き、血中の氣を理す。【紅藍花】六十二種の風、及び血氣痛を治す。○子を煎じて服すれば婦人の中風(四八)煩渴を治す。「穀菜」【麻仁】中風出汗に氣を下し、一切の風を逐ひ、血脈を利す。【韭汁】肥白の人の中風失音に效がある。「果木」【桃仁】血滯、風痺、大便結に效

(四四)風痰ハ中風半身不遂。

(四五)血滯ハ惡血ノ停滯。

(四六)血痺ハ血脉循環不良ヨリ起ル麻痺。

(四七)血風痛ハ婦人氣血ノ不良ナルガ爲ニ起ル疼痛ニシテ月信痛ニ似タルモノ。

(四八)煩渴ハ甚シク水ヲ飲マンコトヲ欲スル病。

がある。酒に浸し丸薬にして用うれば偏風を治す。【蘇方木】男女の中風口噤には乳香と共に服す。【乳香】中風口噤には、烟に焼いて口目喎斜を熏ず。血を活し、痛を止める。「蟲獸」【蜜蠟】暴風身冷で癱の如くなるには、化して貼り並に手足を裹む。【阿膠】男女一切の風病、骨節痛で自由ならぬに效がある。【醍醐】酒で服すれば、中風煩熱を治す。【野駝脂】一切の風疾、皮膚の急痺には、酒で服し竝に摩す。

(四九)**風虚** 「草部」【天麻】肝氣不足で風虚が中に作り、頭運目旋、麻痺不仁、語言不遂なるに主效がある。定風の神藥である。【黄耆】風虚、自汗に五臟の惡血を逐ひ、陰火を瀉し、虚熱を去る。汗なきには發し、汗あるに止める。【人參】元氣を補ひ、魂魄を定め、煩燥を止め、津津を生じ、痰を消す。【沙參】皮肌の浮風を去り、五臟の風氣を宣し、肝氣を養ふ。【長松】酒で煮て用うれば一切の風虚を治す。【黄精】中を補し、風濕を除く。【葳蕤】中風暴熱で動けぬものを治す。虚風、濕毒、風溫、自汗、灼熱、一切の虚乏に效がある。【牛膝】寒濕、痿痺、拘攣、膝痛に用ゐ、筋を強くし、肝臟の風虚を補ふ。【石龍芮・骨碎補・巴戟天・狗脊・萆薢・菝葜・土茯苓・何首烏】いづれも風虚、風濕、痺痛、軟弱に主效があり、肝腎を補ひ、關節を利す。【列當】酒で煮

(四九)風虚ハ中風症ノ虚ニ屬スルモノ。

て用ゐ、風血を去り、腰腎を補ふ。【白及】腎中の邪氣(五〇)風痱收らぬに效あり、肺氣を補ふ。【仙茅】一切の風氣で腰脚が風冷、攣痺し步行不能のものは、九回蒸し九回晒し、酒に浸して服す。【淫羊藿】一切の冷風、攣急不遂、老人の昏耄。〇酒に浸して服すれば偏風を治す。【蛇牀子】男女の(五一)風虛、濕痺、毒風、腰胯の酸痛。〇大風、身痒を浴す。【補骨脂】風虛、冷痺、骨髓の傷敗、一切の風氣痛には丸にして服す。【兎絲子】肝の風虛を補ひ、腰脚を利す。【覆盆子】勞損、風虛に、肝を補ひ目を明にす。【石斛】脚膝の軟弱、久冷、風痺。〇酥に浸し蒸して服す。一鎰まで服すれば永く骨痛が無くなる。【絡石・木蓮葉・扶芳藤】いづれも風血に主效があり、腰脚を暖む。一切の冷氣には酒に浸して飲む。「菜果」【薯蕷】冷風、頭面の遊風を去り、筋骨を强くし、脾胃を壯にす。【栗】腎虛で腰脚力なきには、日に十箇づつを食ふ。〇栗楔は筋骨の風痛を治す。「木部」【松子】諸風、骨節風。【松葉】風痛、脚痺には酒に浸して服し汗を出す。【松節】風虛の久痺、骨節痛に用ゐ、能く血中の濕を燥す。【杜仲・海桐皮・山茱萸・枸杞子】いづれも風虛、腰脚痛に主效がある。【冬青子】酒に浸して用うれば風虛を去る。【神木】周痺、偏風、毒風不語を治す。【石南】諸風脚弱を

(五〇)風痱ハ半身不隨。

(五一)風虛、解前ニ出ヅ。

逐ふ。【南燭】熬膏して用うれば、一切の風を治し、筋を強くし、氣を益す。【不彫木】酒に浸し用うれば、風氣を去り、虚を補ふ。【放杖木】風痺、腎弱の要藥である。【木天蓼】酒に釀して用うれば、風勞、虚冷を治して奇效がある。「石部」【磁石】(五二)周痺、風濕、肢節中の痛み、男女の風虚には、白石英と共に水に浸し粥に煮て食ふ。【白石英】風虚、冷痺、諸陽不足には、燒いて酒に淬して飲む。【孔公孽】風冷(五三)膝痺には、石斛と共に酒に浸して飲む。【石腦・石鍾乳・陽起石・代赭石・禹餘糧・石硫黄】いづれも風冷、濕痺に主效がある。【雲母粉】中風寒熱で舟か車の中に居るやうに感ずるものに效がある。【海蠶】諸風、冷氣、虚勞。【烏雞】中風で舌强ばり、煩熱、痲痺するには、酒で煮て食ふ。【練鵲】酒に浸して飲めば風を治す。【麋角】風虚、冷痺には腰膝を暖め、陽を壯にする。

(一)痙風

即ち痓病であつて、太陽(二)督脈の二經に屬する。その病證は、發熱し口噤して癇の如く、身體强直し、角弓の如く反張し、甚しきときは搐搦する。傷風で汗あるものを柔痓といふ。〇傷寒濕で汗な

(五二)周痺ハ全身痲痺。
(五三)膝痺ハ膝ノシビレ。
(一)痙風ハ强直痙攣。
(二)督脈ハ脊ノ割レ目ヨリ脊ノ中心ヲ通リ頭頂ヲ過ギ鼻梁ヲ經テ上唇端ニ至ル經脈ヲ云フ。

きものを剛痓といふ。○金瘡、折傷、癰疽、産後、いづれも破傷風濕、發痙の症がある。

風寒、風濕　「草部」【麻黄・桂枝・朮】いづれも風寒、風濕の痙に主效がある。【羌活】風寒、風濕、傷金瘡の痛痙。○産後の中風で口噤し人事不省なるには、酒、水で煎じて服す。【葛根】金瘡が風寒に中つて發痙し、死ぬほど痛むには、汁に煮て服す。乾いたものは末にする。【荊芥】風濕、風熱を散ず。○産後の中風で口噤し、四肢強直し、角弓反張し、或は搐搦して死ぬ苦みをなすものには、末にして豆淋酒で服す。童尿を入れるが尤も妙である。【防風】金瘡が風濕に中つた內痙に效がある。【天南星】打撲傷損、金瘡、破傷風、及び傷濕で(三)牙關緊急し角弓反張するには、防風末と共に熱酒、小便で調へて服す。これを玉眞散と名ける。三服で甦る。○南星、半夏等分を末にし薑汁、竹瀝で一錢を灌ぎ服してから(四)印堂に灸する。○口噤には、生で研り、薑汁或は龍腦と共に牙に搯り付ける。これを開關散と名ける。【薇銜】小兒の破傷風、口噤には、白附子の末と共に薄荷酒で(五)一字を服す。【細辛】督脉の病となり脊強ば

(三) 牙關緊急ハ齒ヲ喰ヒ縛ル。

(四) 印堂ハ兩眼ノ中間ノ經穴。

(五) 一字ハ一撮。

(六) 厥スルトハ下肢ノ冷ユルコト。

(七) 子臓ハ子宮。

り(六)厥するに用ふ。【防已】風濕の手足攣急を治す。【芍藥・芎藭】一切の風氣。【當歸】客血、內寒、中風の痙で汗の出でざるに用ゐる。○產後の中風で人事不省となり、涎を吐き瘛瘲するには、荊芥末と共に童尿酒で服す。咽を下れば生氣が付く。【附子】陰痙、自汗。【草烏】破傷風病には白芷、葱白と共に酒で煎じて汗を取る。【威靈仙】破傷風病には獨蒜、香油と共に擣いて服し汗を取る。「菜穀」【大蒜】產後の中風で角弓反張し言葉の出ぬには、酒で煎じて服し汗を取る。或は水で煎じて服す。【黑大豆】破傷風濕には、炒り半熟して研り、酒で蒸して淋汁を服し、汗を取つてから瘡の上に傅ける。○朱砂末と共に酒で服す。「石部」【雄黃】破傷中風には、白芷と共に煎じ酒で服して汗を取る。「鱗介」【白花蛇】破傷中風で首や身體の強直するには、烏蛇、蜈蚣末と共に服す。【土虺蛇】破傷中風の口噤目斜には、地龍、南星と共に丸にして服し汗を取る。【守宮】破傷風病には南星、膩粉と共に丸にして服し汗を取る。【龍齒】諸痙に主效がある。【鰾膠】破傷風でうづき、強直するには、炒つて研り、麝香、蘇木と共に酒で服し、その上で瘡口を封ずる。○表症あらば蜈蚣末と共に羌活、防風、川芎の煎湯で服す。○產後の搐搦には、風が(七)子臓に入るものと、破傷風とあ

るか、炒り研つた蟬蛻と共に湯で三錢を服す。【牡蠣】破傷濕病の口噤強直には酒で二錢を服し、また傅ける。「蟲」【蜜蠟】破傷風濕で瘧の如きには、一塊を熱酒で溶いて服す。玉眞散と對用すれば立ろに效がある。【蠍】破傷中風には天麻、蟾酥と共に丸にして豆淋酒で服し、汗を取つてから麝香と共に貼る。【蟾蜍】破傷風病には、切り潰して花椒を入れ、酒を入れて炒熟し、再び酒を入れ熱して服み汗を取る。【蜈蚣】破傷中風には、蠍梢、附子、烏頭末と共に熱酒で一字を服し、更に瘡の上へ貼り、汗を取る。○研末して牙に摻れば立ろに甦る。【殭蠶】口噤に汗を發す。「禽獸」【雞子】剛痙。【雞屎白】破傷中風、產後の中風、〔八〕小兒の臍風で口噤し、反張し、強直し、瘛瘲するには、黑豆と共に黃に炒つて酒を沃ぎ、少頃して溫服し汗を取る。或は竹瀝を入れる。【野鴿屎】破傷風が裏に傳へ入りたるには、炒り研つて江鰾、白殭蠶、雄黃末と共に蒸餠で丸にして服す。【雀屎】破傷風の瘡が白痂となり、血なきものは死に至る、最も急なものである。研末して五分を酒で服す。【鵓涎】小兒の痙風で反張するには之を滴す。【黃明膠】破傷風には、燒き研つて酒で服み汗を取る。【狐目】同上。神效無比である。【狐肝・猿屎中骨】破傷風には、蟬脫、桑花末と共に米飲で服

〔八〕小兒臍風ハヒキツケ。

(九)子冒ハ子癇卽姙婦急癇ヲ云フ。

(一〇)狂痓ハ痓病ノ甚シキモノ。

す。【六畜の毛と蹄甲】癇痓。「人」【手足の爪甲】破傷中風には、油で炒つて熱酒で服し汗を取れば癒える。○手足が顫掉するには南星を加へる。

風熱、濕熱 「石部」【鐵落】炒り熱し酒に淬して飲めば賊風痙に主效がある。「草」【黃連】破傷風には酒で煎じ、黃蠟を入れ化して服す。【地黃】產後の風痙に汗を取る。薑汁と交〻浸して焙り、研つて酒で服む。「果木」【杏仁】金瘡及び破傷中風で角弓反張するには、杵き蒸し汁を絞つて服し、また瘡上に塗り、それを燭火で炙いて效を發せしめる。【槐膠・桑瀝】破傷中風には、酒に和して醉ふまで飲む。【篁葉】痙風。【竹瀝】痰熱、(九)子冒、風痙に主效がある。○金瘡中風、破傷中風、產後中風、小兒中風で發痙し、口噤し、反張し、死ぬほど苦むには一二升を飲ます。或は薑汁を入れる。【欒荊】(一〇)狂痓。【蘇方木】破傷中風、產後中風には、末にして三錢を酒で服めば立ろに效がある。「蟲獸」【蟬蛻】破傷風病の發熱には、炒り研つて一錢を酒で服し、葱涎で調へ塗つて惡汗を去る。○小兒の臍風、口噤には、全蠍、輕粉を入れる。【羚羊角】子癇、痙疾。【牛黃】熱痓。【烏牛屎】刺傷中風には一升を熱して飲む。「人」【人屎】痓風、及び產後の風痙には、酒に入れて飲む。【髮髲灰】大人の痓、小兒の驚。

（一一）壯ハ一炷ヲ云フ、百壯ハ百炷。

外に傅ける　【貝母・茅花】いづれも金瘡、傷風。【劉寄奴・麥麪】燒鹽と共に用う。【白芋・炒鹽・鷺頭灰・鼠灰・亂髮灰】いづれも風が瘡中に入つて腫れ痛むものに傅ける。【胡粉】瘡に水濕が入つて腫痛するに主效がある。炭灰と共に傅ける。【煨葱】金瘡の傷水に傅ける。乾薑、黃蘗と共に水で煎じて諸瘡の風水で傷めたものを洗ふ。【薤白・韮葉】いづれも諸瘡の風寒、及び水濕に中つた腫痛に主效がある。搗き烘つて用ゐるので、冷えればその度に取易へる。水が出るまで炙ることが必要である。【箭笴漆】けづつて塗る。【鯉魚目】灰をつける。【鮎魚目】灰をつける。いづれも刺瘡の風、及び水で傷めたものに傅け、汗を取り出す。【豬肉】熱に乘じて貼り、度度取易へる。三回位で立ろに熱の消えるものである。【人耳塞】破傷が風、或は水に中つて耐へ難く痛むにはこれで封ずる。一晩で水が盡きて安になる。

洗浸　【雞腸草】手足の瘡の傷水。【桑灰汁】風水が瘡傷から腹に入つたものに用ゐる。これは死に至るものがある。【自己尿】金瘡中風には日每に數回洗ふ。

熨灸　【商陸】瘡傷の水濕には、汁に擣いて熨し、冷えれば易へる。【蜀椒】諸瘡の中風腫痛には、麪に和して煨熨する。【槐白皮】瘡上に置いて灸を（一一）百壯する。【桑

枝】刺傷の瘡を露水が犯して腫痛するは、多くは死に至るものである。それには炮き熱して瘡を烙し、冷えれば易へる。【黍穣・青布・牛屎・白馬通・贏屎】いづれも諸瘡が風、及び水に傷んで腫痛し、死ぬ苦みをするものに主效がある。その一だけで焼き熏ずれば、冷水が盡く出て癒ゆるものである。

(一)項強

風濕　【防風】凡そ腰痛、項強で頭の回らないのは、手足の太陽の症である。それには必ずこれを用ゐねばならぬ。【荊芥】秋後には枕にし、床の下に敷き、立春になつて取り去る。【羌活・白芷・藁本・薄荷・菊花・貝母】。

癲癇

風熱と驚邪とあり、いづれも虛と痰とを兼るものである。

痰を吐く　【瓜蒂・藜蘆・烏頭尖・附子尖・石膽・石綠】いづれも癲癇の暗風と痰涎とを吐かす。【芭蕉油】(二)暗風、癇疾、眩運で倒れるものには、これを飲ませて吐かす【白梅】牙に擦り付けて涎を追ふ。或は白礬を加へる。【皂莢】水に浸し揉み出し

(一)項強ハウナジノコハバルコト。

(二)暗風ハ眩運。

た汁を熬膏し、麝を入れ撒布して晒し、それを一片づつ漿によく溶して鼻に灌ぎ込み涎を取る。

風熱、驚痰　「草木」【羌活・防風・荊芥・薄荷・細辛・龍膽・防已・藁本・升麻・靑黛・白鮮皮】いづれも風熱、驚癇に主效がある。【百合・鴨跖草】いづれも癲邪、狂叫、身熱に主效がある。【釣藤】卒癇には甘草と共に煎じて服す。【防葵】癲癇で狂走するものには、末に研り酒で服す。【莨菪子】癲狂、風癇には、酒に浸して煎じ、丸にして服す。【蛇含・紫苑・半夏】いづれも風熱、驚癇、瘈瘲に主效がある。【天南星】(一)風癇、(二)痰迷には、九蒸九晒し、薑汁で丸にして服す。【欝金】失心、風癲は痰血が心竅に絡聚するのである。明礬と共に丸として用ゐる。【甘遂】心風、癲癇は痰が心竅に迷ふのである。猪心と煮て食ふ。【黃連】心肝の火を泄し、心竅の惡血を去る。【苦參】童尿の浸汁で酒に釀して飲めば三十年の癇に主效がある。【天門冬】風癲の發作で吐き、耳鳴り、脇に引いて痛むには、末にして酒で服す。【紫河車】驚癇癲疾、頭を搖り舌を弄し、熱の腹中に在るに主效がある。【薇銜】驚癇で吐舌するものに效がある。【附子】睛風、癇疾には、五靈脂末と共に猪心血で丸にして服す。【蒼耳】大風癇疾。【艾葉】癲

(一)風癇ハ神經衰弱ノ甚シキモノニシテ心氣ノ正シカラザルモノ。
(二)痰迷ハ痰ノ充塞スルコトナラン。

(四)穀道正門當中トハ承漿ノ穴ヲ云フカ、若シ然ラバ下唇ノ直下ナリ。年齡ニ隨テ炷數ヲ加減スルコトナラン。

(五)風癇ハ驚風ノ類五種風癇、驚癇、痰癇、飲癇、食癇又五癇トハ心癇、肝癇、脾癇、肺癇、腎癇。

(六)客忤ハ小兒ノオビエヤマヒ。

癇、諸風には(四)穀道正門當中に灸する。壯數は年に隨ふ。【茯神・琥珀・雷丸・莽草・蔓荊子・木蘭皮】いづれも風癲、驚邪、狂走に主效がある。【苦竹笋・竹葉・竹瀝・天竹黃】いづれも風熱、痰涎で癲狂、癇疾を發するに主效がある。【蘆薈】小兒の癲癇。【蘇合香】癇痓邪氣。【皂莢】肝を搜り肺を通ず。(五)風癇五種には、燒き研つて蒼耳、密陀僧と共に丸にして服す。【蓖麻仁】五種風癇には黃連、石膏と共に煮て食ふ。【桑白皮】驚癇(六)客忤に、肺氣を瀉す【桂心】肝を伐ち脾を扶ける。【蕪荑】小兒の蟲癇が發し、惡症で昏搐するには、漆灰と共に水で服す。【紫葳の花・根・葉】久と近との風癇には酒で三錢を服し、その後髮を梳り、水で漱ぐこと四十九口すれば癒える。【震燒木】大驚失心には煮汁を服す。「金石」【丹砂】猪心で煮て茯神と共に丸にして服す。【黃丹】白礬末と共に服す。【黑鉛】水銀、南星と丸にして服す。【密陀僧・金屑・銀屑・生金・生鐵・鐵粉・鐵落・鐵精・鐵華粉・鐵漿・古鏡・珊瑚・紫石英・菩薩石・雄黃】丹砂と共に末に研り丸にして服す。【雌黃】黃丹、麝香と丸にして服す。【礬石】細茶と丸にして服す。【慈石・玄石・石青・消石・靑蒙石・代赭石】已上の二十五味はいづれも風熱、痰涎、癲癇に主效がある。【水銀】失心風には藕節と共に炒り丸に

して服す。【蛇黄】暗風癇疾には火で煅き酢に淬し、末にして服す。【伏龍肝】狂癲風邪で人の見別け付かぬものには、末にして水で服す。【天子の籍田の三推犂下の土】驚悸、癲邪に神を安じ魄を定める。「蟲部」【蜂房・雀甕・蚯蚓・全蝎・蜈蚣・蜣蜋・白殭蠶】いづれも癲癇の發搐に主效がある。【蠶退紙】癲狂し、亂走し、悲泣し、妄言するもの、及び風癇病には燒灰を酒で服す。【蚱蟬】癲病の寒熱、小兒の癇絶で物言へぬに用ゐる。【衣魚】小兒の癇には竹瀝と共に酒で煎じて服す。「鱗介」【龍角・龍骨・龍齒】癲疾、狂走、五驚(七)十二癇に用ゐる。【白花蛇・烏蛇】癇搐を落付ける。【蛇蛻】蛇癇、癲疾、瘈瘲で搖頭弄舌するものに用ゐる。【玳瑁】熱癇。「禽部」【鴨涎】癲癇の發搐。【雁毛】小兒がこれを佩れば癇を辟ける。【啄木鳥】年久しい風癇には、荊芥と共に煅いて服す。【烏鴉】暗風、癇疾には煅いて研り、朱砂を入れて服す。十日を過ぎずして癒える。〇又煅き研つて蒼耳子、胡桃と共に服す。【鴟頭】癲癇の眩冒、瘈瘲には黄丹と共に丸にして服す。〇肉を食ふもよし。【鶡肉】之を食へば風癇に主效がある。【鳳凰臺】雞癇、癲癇、發狂には水で磨して服す。「獸部」【狗齒及び糞中の骨・白狗血】いづれも狗癇。【豚卵・猪屎】いづれも猪癇。【羊齒・羊頭骨】羊癇。【羖羊角】風癇に

(七)十二癇ハ癇病發作中、間〻異聲ヲ發シ、其聲宛モ鳥鳴獸吼ノ如キモノアルヲ形容シ、馬癇、牛癇、雞癇等ノ十二種ニ區別セシヲ云フ。

は燒灰を酒で服す。【牛齒・牛屎中の豆・牛拳木】いづれも牛癇。【馬齒・馬目・馬懸蹄・馬繩索・野馬肉】いづれも馬癇。【驢乳】心熱氣癇。【驢脂】酒で服すれば狂癲の言語不能、人の見別け付かぬものに主效がある。【六畜毛蹄甲】驚癇、癲痓。【牡鼠】油で煎じたものは驚癇に主效がある。【羚羊肉・犀角・犛牛角・象牙・牛黃・鮓荅・野猪黃及び膽・熊膽】いづれも風熱、癲癇に主效がある。【麝香・虎睛鼻・狐肝・狐肉】いづれも癲癇で恍惚として歌ひ笑ふものに主效がある。【猴頭骨】癲癇の口噤。【人髮】癇痓。【人胞】煮て食へば久しき癲病の意志喪失を治す。また藥に和し丸にして服す。【人魄】水に磨つて服すれば癲狂が落付く。

風虛　「草部」【人參】胸中の痰を消し、驚癇を治す。○小兒の風癇には、辰砂、蛤粉末と共に猪心血で丸にして服す。【石菖蒲】心孔を開き、九竅を通じ、音聲を出す。末にし猪心湯で日每に服すれば癲癇、風疾を治す。【遠志】心志を安んず。【天麻】小兒の風癇でよく驚き失心するに用ゐ、肝を補ひ風を定める。【蛇牀子・芍藥・牡丹・女萎】いづれも驚癇の寒熱、瘈瘲に主效がある。【當歸・芎藭・地黃】いづれも血を養ふ。【縮砂・桔梗・香附】いづれも驚癇邪氣。【萆薢】關節を緩にする。老血、頭旋、

風癇。「果木」【酸石榴】小兒の癇には(八)蠍五匹を醸して泥にしたものを煨いて研り、乳で五分を服す。【栢實】癇を定め、血を養ふ。「蟲禽」【蜂蜜・雞子】いづれも癇痓。【白雄雞及び腦】癲邪、狂妄に效がある。

(一)卒厥　(二)尸厥、(三)氣厥、(四)火厥、痰厥、血厥、(五)中惡、魘死、驚死である。

外治　【半夏・菖蒲・皂角・雄黃・梁上塵】いづれも卒死、尸厥、魘死、客忤、中惡に主效がある。末にして鼻から吹込む。【葱黃】鼻中七八寸まで挿入し、又(六)下部に納る。【薤汁・韭汁】いづれも鼻から灌ぐ。【醋】鬼擊で頓死した者には、少量を鼻から灌ぎ込む。【酒】驚怖で頓死したものには、鼻の兩孔から灌ぎ込む。【乳香・安息香・樟木】いづれも酒を付けて燒き熏ずる。【雞冠血】就寢中の死亡者、中惡、頓死者には、顏と心に塗り、口鼻から入れる。【東門上雞頭】末にして酒で服す。【犬肉】心の上に貼る。【靑牛蹄】魘死者の頭上に置けば甦る。【牛黃・麝香】水で服す。【熱湯】忤惡、頓死者には、着衣の上から腹を熨し、冷えれば易へる。【井底泥】打臥したま

(八)蠍ハ和名サソリ。
(一)卒厥ハ卒倒ニ同ジ。
(二)尸厥ハ脈動キテ氣息殆トナキモノ。
(三)氣厥ハ中風ノ如クニシテ體溫殆トナキモノ。
(四)火厥ハ火ニ屬スルモノ、痰厥ハ痰ニ屬スルモノ、血厥ハ血ニ屬スルモノ。
(五)中惡ハ瓦斯中毒。
(六)下部ハ肛門。

ま意識を失ひ囘復せぬものは、火の光で照してはならぬ。ただ足の母指の爪際を強く嚙み、その顏へ唾を多くかけ、泥を目に塗り、他の者に井戸の中へ頭を突き込んでその名を呼ばせると甦る。【瓦甑】魘死して意識の囘復せぬものの顏に覆せて打ち破る。【鞋履】臥すときに一ッを仰向かせ一ッを覆せて臥せば魘に襲はれぬ。【人尿】中惡で意識の囘復せぬものには、顏へ放尿すると甦る。【人の燒灰】枕の中へ入れて置けば魘魅を遠ざける。

內治 【女靑】種種の頓死者には、擣いて末にし、酒で灌げば立ろに活きる。【菖蒲汁・蠡實根汁】いづれも灌ぎ込む。【南星・木香・附子】木香と共に煎じて服す。【陳粟米】突然襲はれたやうなときは擂つて水で服す。【白薇】婦人の故なくして汗多く、卒厥して人事不省になるは血厥と名ける。當歸、人參、甘草と共に煎じて服す。【巴豆】鬼擊には、杏仁汁と共に服すれば效が見れる。【常山】小兒の驚忤、中惡、卒死には、牡蠣と共に煎じて服し、痰を吐かす。【鹽膽水】痰厥を吐かす。【燒尸場上土】尸厥には泡けた湯を灌ぐ。【食鹽】鬼擊の頓死者には水で灌ぎ、顏に噴く。【鍋底土】魘寐死者には、末にして二錢を灌ぎ、鼻からも吹き込む。【白鴨血・白犬血・猪心

血尾血】いづれも灌ぎ込む。【犀角】中惡、鬼氣、卒死、厥逆で口鼻から淸血を出し、俄に救療の法なく、症狀は尸厥に似てただ腹が鳴らず、心臟の部分のまだ暖なものには、麝香、朱砂末と共に二錢を服ませれば甦る。【羚羊角】熱毒風に中惡の毒氣が併發し、人事不省になつたものに效がある。【狐膽】頓死者には溫水で溶して喉へ灌ぎ込めば甦るものであるが、時が經ち過ぎたものには效がない。【馬屎】中惡で頓死した者には汁を絞つて灌ぎ込む。【白馬夜眼】卒死、尸厥には尾と共に燒き、丸にして服す。【褌襠・汗衫】いづれも中鬼の昏厥で口鼻から出血するものに、灰に燒いて湯で服ます。【鐵錐柄】鬼打、鬼排、中惡には桃奴、鬼箭と混ぜ、丸にして服す。【刀鞘】鬼打には燒灰を水で服す。

(一)傷寒、熱病

寒は標、熱は本である。春は溫の爲め、夏は熱の爲め、秋は(二)瘅の爲め、冬は寒の爲めで、四時の天行で疫癘となるのである。

表を發す　「草部」【麻黃・羌活】太陽、少陰。【葛根・升麻・白芷】陽明、太陰。【細

(一)傷寒ハ熱病ノ別名。
(二)瘅ハ疸ト通ズ、又火瘅ハ發疹スル熱病ヲ云フ。

辛】少陰。【蒼朮】太陰。【荊芥・薄荷・紫蘇】いづれも四時傷寒の不正の汗を發する。【香薷】四時傷寒不正の氣に效がある。末にして熱酒で服し汗を取る。【香附】(三)時氣寒疫を散ず。【艾葉】(四)時氣溫疫には煎じ服して汗を取る。【蒼耳葉】風寒頭痛の汗を發す。【浮萍】夾驚傷寒には犀角釣藤末と共に服して汗を取る【天仙藤】傷寒を治するには、麻黃と共に用ゐて汗を發す。【牛蒡根】擣汁を服めば(五)天行時疾の汗を發す。

「穀菜」【豆豉】數種の傷寒を治し、葱白と共に用うれば汗を發し關節を通ずる。○汗後に解せぬには鹽を入れて吐かす。【胡麻】酒で煎じて汗を發する。【生薑・小蒜・葱白】

「果木」【茗茶】いづれも汗を發する。杏仁、酢と煎じたものは時行溫病の汗を發する。【桃葉】蒸して臥し、傷寒の汗を發する。【胡桃】葱薑と共に茶で擂つて服し汗を發する。【桂枝】太陽、肌を解す。【皂莢】傷寒の初期には赤く燒いて水で服し汗を取る。○研汁に薑、蜜に和して服し汗を取る。「水石」【百沸湯】多く飲んで汗を取る。【丹砂】傷寒時氣に感染して一二日のものには煮て服し汗を取る。○身體に塗り火に向つて汗を取る。【石膏】陽明發熱には肌を解し汗を出す。【代赭石】傷寒の汗なきには、乾薑末と共に熱醋で調へ、掌の心に塗つて兩掌を合せ、暖く臥して汗を取る。

(三)時氣寒疫ハ疫痢、赤痢、虎列剌ノ類。
(四)時氣溫疫ハ膓窒扶斯ノ類。
(五)天行時疾ハ傳染性熱病。

(六) 結胸ハ肋膜炎、肺炎ノ類及胃弱ヲ云フ。

(七) 脇下水飮ハ胃加多兒。

(八) 痞滿ハ腹ガツカヘテ張ルコト。

(九) 陽毒ハ熱病消渴等ノ後發スル腫物。

裏を攻む　「草部」【大黃】陽明、太陰、少陰、厥陰、燥熱、滿、痢の諸症。【栝樓實】熱實(六)結胸を利す。【甘遂】寒實、結胸【葶藶】結胸、狂躁。【大戟・芫花】(七)脇下水飮。【蕘花】水を行る。【蜀漆】水を行る。【千里及】流行性疫癘に主效がある。煮汁で吐利する。「果木」【桃仁】瘀血を下す【巴豆】寒熱、結胸。「蟲石」【水蛭・虻蟲】瘀血を下す。【芒消】(八)痞滿、燥結を下す。

和解　「草部」【柴胡】少陽、寒熱の諸症。傷寒の餘熱には、甘草と共に煎じて服す。【半夏・黃芩・芍藥・牡丹・貝母・甘草】いづれも寒熱に主效がある。【白朮・葳蕤・白薇・白鮮皮・防風・防已】いづれも風溫、風濕に主效がある。【澤瀉・秦艽・海金沙・木通・海藻】いづれも濕熱に主效がある。【黃連・大靑・黃藥・白藥・薺苨・船底苔・陟釐】いづれも天行熱毒の狂煩に主效がある。【知母・玄參・連翹・天門冬・麥門冬・栝樓根】いづれも熱病煩渴に主效がある。【前胡・惡實・射干・桔梗】いづれも痰熱咽痛に主效がある。【薰草・白頭翁】熱痢。【五味子】欬嗽。【苦參】熱病で水火も避けず狂ふには蜜で丸にして服ます。【龍膽草】傷寒發狂には末にして一錢を服す。【靑黛】(九)陽毒、發斑、及び天行の頭痛、寒熱には水で研つて服す。【地黃】溫毒發斑

(一〇)脾約ハ秘結ニ同ジ。

には、黒く熬り膏にして服す。○薄荷汁と共に服すれば、熱瘴の昏迷に主效がある。【青葙苗】汁に擣いて服すれば大いに溫癘を治す。【蘘荷】溫病の初期に頭痛し熱甚だ壯なるには、汁に擣いて服す。【蘆根】傷寒の內熱、時疾の煩悶には、汁に煮て服す。【葎草】汗後の虛熱には汁に杵いて服す【蛇苺】傷寒の火熱には汁に杵いて服す【番木鼈】熱病には汁に磨つて服す【虎杖】時疫の流毒が手足に現れ、腫れて切れるやうに痛むには、汁に煮て漬ける。【含水藤】天行時氣の煩渴。「穀部」【黑大豆】疫癘發腫には、炒熟して甘草と共に煎じて服す【豆豉】傷寒の頭痛、寒熱、瘴氣、及び汗後解せずして身熱し懊憹するには、巵子と共に煎じて服す。○餘毒の手足を攻むるには、酒で煎じて服す。○突然下痢するには、薤白と共に煎じて服す。【赤小豆】濕熱を除く。【薏苡仁】風濕痛。【粳米】煩熱【餳】中を健にす。【麻子】(一〇)脾約、秘結。「菜部」【百合】百合病。【葱白】少陰下利。【乾薑】痞濕、及び下痢。【茄子】溫疾。【蒸菜汁】時行壯熱を解す。【生瓜菜汁】陽毒の壯熱頭痛を解す。「果部」【大棗】營衞を和す。【杏仁】肺氣を利す。【桃仁】血を行らす。【烏梅】煩渴及び蚘厥。【橘皮】吐く物もなくて嘔く聲を出す噦、及び痰氣。【檳榔】傷寒の痞滿、結胸には末にして服す【馬檳榔】傷寒熱病には每に數箇

を嚼み水で吞む。【梨汁】熱毒煩渴。（　）木皮、傷寒、温病には甘草、秫米、鍋煤と共に服す。【芰實】傷寒積熱　【吳茱萸】厥陰、頭痛、多涎。【蜀椒】（一一）陰毒、時氣、及び蚘厥。【鹽麩子】天行寒熱。「木部」【巵子】煩熱懊憹。【黃蘗】熱毒下痢、及び吐血。【厚朴】滿痞、頭痛。【枳殼】痞滿。【枳實】滿實。【竹葉】煩熱。【竹茹】溫氣、寒熱。【秦皮】熱痢。【梓白皮】時行溫病の壯熱、發黃には煎じて服す。【桐木皮】傷寒發狂には煎じ服して吐き下す。【欅木皮】時行頭痛、熱結の腸胃にあるもの。【柳葉】天行、熱病。【楝實】溫疾、傷寒の大熱煩狂。【李根白皮】（一二）奔豚。【茯苓】濕を行り小便を利す。【猪苓】熱渴、（一三）水逆、小便の利せぬもの。「水土」【臘雪】傷寒、時氣、溫疾の大熱を解す。【冬霜】傷寒の內熱を解す。【夏冰】陽毒の熱盛なるには兩乳の間へ置く。【凉水】陽毒には靑布に浸して胸へ貼る　【蚯蚓糞】譫語し狂亂するには凉水で服す。【蜣螂轉丸】時氣煩熱には汁を絞つて服す。【梁上塵・釜底墨】いづれも陽毒の（一四）發狂斑に主效がある。「金石」【黑鉛】傷寒、毒氣。【鉛丹】（一五）火刼驚邪。【古文錢】時氣で危篤なるには、汁に煮て麝香を入れて服し、吐き或は下す。【鐵粉】陽毒發狂には龍膽草と共に刀の研き水で服す。【鐵鏵】小兒百日傷寒の壯熱には、赤く燒き水に

（一一）陰毒ハ時疫ニ屬スルモノ。

（一二）奔豚ハ下腹部ヨリ心下ニ衝逆スル狀態。

（一三）水逆ハ渴シテ水ヲ飮マント欲シ水入ツテ卽チ吐スルモノ。

（一四）發狂斑トハ蕁麻疹、發疹窒扶斯等ヲサスナラン。

（一五）火刼ハ火ニ刼カサレテ起ル病、例セバ灸、火傷等。

（一六）欬逆ハ欬嗽ノ甚シキモノ。

（一七）熱結ハ熱ノ甚シキモノ。

（一八）水結ハ心下鬱結シテ下肢水腫ヲ來ス事アリ。

淬して服す。【石膏】傷寒の裂けるやうな頭痛、火のやうな壯熱には、肌を解し發汗する。陽明、潮熱、大渴に效がある。○黄連と共に煎じて服すれば、傷寒發狂を治す。【滑石】四時一切の傷寒を解利するには甘草末と共に服す。【凝水石】時氣熱盛。【雄黄】傷寒、（一六）欬逆には酒に煎じて服す。○烟に燒いて狐惑を熏ずる。【食鹽】傷寒、寒熱。【赤石脂・禹餘粮】少陰下痢。【石蟹】天時熱病。「鱗介」【龍骨】火劫驚邪。○下痢の止まぬに用う。【鼈甲】陰毒。【玳瑁】（一七）熱結して譫語するには水に磨つて服す。【牡蠣】傷寒の寒熱、及び自汗、（一八）水結するに用う。【海蛤】傷寒血結には、芒消、滑石、甘草と共に服す。【文蛤】傷寒の大汗、煩熱、口渴には末にして服す。【貝子】傷寒の狂熱。「禽部」【雞子】傷寒の發斑、下痢。○生で一箇を吞めば、傷寒の發狂、煩躁を治す。○破つて漿に煮込んで啜れば天行の解せぬを治す。○井中に浸して冷し、七箇を吞めば姙娠時疾を治し、胎を安らかにする。【雞屎白】傷寒寒熱。「獸部」【猪膽】少陽の症の熱渴、及び大便不通を導く。【猪膏】傷寒時氣には、一彈丸づつ溫水で日に三回服す。【猪膚】少陰、咽痛。【犀角】傷寒熱毒の發狂、發斑、吐血、下血。【牛黄】天行熱病。【羚羊角】傷寒で熱が肌膚に在るもの。

【牛角】時氣の寒熱、頭痛。【馬屎・羊屎・羊尿】傷寒で手足が抜けるほど疼くを洗ふ。【阿膠】熱毒、下痢。「人部」【人尿】少陰下痢には白通湯に入れて用ゐる。【人屎】大熱で狂走するには水に漬けて服す。【人中黄】水に研つて用ゐる。【胞衣水】飲む。人中黄と同じく熱病發狂に主效がある。

經を溫む　「草部」【人參】傷寒で(一九)厥逆、發躁し、脈の沈むには、半兩を湯に煎じ、牛膽、南星末を調へて服す。○壞症で人事不省なるには一兩を煎じて服すれば脈が復して甦る。○陰を夾む傷寒で小腹が痛み、嘔吐、厥逆し、脈の伏するには、薑、附と共に煎じて服すれば陽を回復する。【附子】三陰の經の症、及び陰毒、傷寒、(二〇)陰陽易病を治す。【蓼子】(二一)女勞復で卵が縮り、腹に入つて絞り痛むには、煮汁を服す。【草烏頭】(二二)陰毒には穀道の中へ挿入する。「穀菜」【黑大豆】陰毒には炒り焦し酒に入れて熱服し汗を取る。【乾薑】陰毒には附子と共に用ゐる。補中に發の作用がある。【韭根】陰陽易病。【葱白】陰毒には炒り熱して臍を熨す。【芥子】陰毒には臍に貼り汗を取る。「果部」【蜀椒】陰毒には湯液に入れて用ゐる。【胡椒】陰毒には葱白、麝香と共に蠟に和し棒に延べて莖内へ挿入すれば汗を出して癒える。【吳茱萸】陰毒には酒に拌ぜ

(一九)厥逆ハ冷厥ノ甚シキモノ。

(二〇)陰陽易病ハ傷寒後婦人病ヲ得、瘥スルト雖モ未ダ百日ニ滿タズ男ト合ス可ラズ、病ヲ爲シ拘急シ手足攣シ腹痛死セント欲ス、丈夫ニ陰易ト名ケ婦人ニ陽易ト名ク、速ニ宜シク汗ス可シ、卽チ愈ユ、四日ニ滿ツレバ治ス可ラズ。

(二一)女勞復ハ病後ニ淫事ヲ行フヨリ發スル病。

(二二)陰毒ハ時疫ニ屬スルモノ、金匱ニ解アリ。

(二三)食復勞復、食復ハ傷寒後ノ食ヒ過ギ、勞復ハ勞傷ノ爲メニ再發スルヲ云フ。

て蒸し、足の心を熨す。「木部」【松節】炒り焦し酒に入れて服すれば陰毒を治す。【烏薬子】陰毒には黒く炒り水で煎じて服し汗を取る。【青竹皮】女勞復で外腎が腫れ、腹中が絞痛するには、水で煎じて服す。【皂莢仁】陰毒。「石部」【雄黄】陰毒には湯薬に入れる。【消石・石硫黄】陰毒にはこの二味を末にし三錢を服して汗を取る。○硫黄を巴豆と共に丸にして服すれば陰陽の二毒を治す。【太陰玄精石】陰毒正陽丹にこれを用ゐる。【雞屎白】陰毒には黒豆、亂髪、地膚子と共に炒り焦し、酒に入れて服し汗を取る。【鴿屎】陰毒には炒り焦して酒で服し汗を取る「獸人」【鼠屎】陰陽の腹痛には韮根と共に汁に煮て服し汗を取る。【豚卵】陰陽易病の小腹急痛には、熱酒で二箇を呑む。【麝香】陰毒。【父母爪甲】陰陽易病には肌襦袢の燒灰と共に酒で服す【婦人陰毛】陰陽易病で卵が縮み、死ぬ程苦むには、これを燒灰にして陰を洗つた水で服む。「服器」【褌襠】女勞復や陰陽易病には燒灰を水で服む。○下裳帶を燒いて服めば病が勞復しない。【月經衣】燒き末にして水で服む。

(二三)**食復勞復**　「草部」【麥門冬】傷寒後に小勞復が發して發熱するには、甘草、竹葉、粳米と共に煎じて服す。【胡黄連】勞復には梔子と共に丸にして服す。【蘆根】勞復、食復

には煮汁を服す。「穀果」【飯】傷寒に多食して復を發し發熱するには、燒き末にして飮で服す。【麹】食復には煮て服す。【橘皮】食復には水で煎じて服す。「木石」【枳殼】勞復の發熱には巵子、豉漿と共に水で煎じて服す。【巵子】食復の發熱には上方は大黃を加へる。○勞復發熱には枳殼、豭鼠屎、葱白と共に煎じて服す。【胡粉】食復、勞復には水で少量を服す。【凝水石】傷寒、勞復を解す。【鼈甲】食復、勞復には燒いて水に研つて服す。【抱出雞子殼】勞復には炒り研つて一合を湯で服し汗を取る。【馬屎】勞復には燒いて末にし冷酒で服す。【豭鼠屎・人屎】勞復には燒灰を酒で服す。【頭垢】勞復には棗程の量を口に含んで水で嚥下す。【洗手足水】食復、勞復には一合を飮む。【頭巾】勞復で口の渇くには、汁に浸して服す。【皺脚布】勞復には洗つた汁を服す。【砧上垢】食復、勞復には、病人の足の下の土、鼠屎と共に煎じて服す。【飯籮】食復には燒灰を水で服す。

(一)瘟疫

辟禳　「草部」【蒼朮】山嵐の瘴氣、溫疾、惡氣、(二)弭災沴。○烟に燒いて熏ずれば

(一)瘟疫ハ傳染性熱病。
(二)弭災沴ハ荒歲後ノ時疫歟。

鬼邪を去る。【升麻】温疫、時氣、毒癘を吐かす。【蒼耳】末にし水で服すれば、惡邪を除き、疫疾に感染せぬ。【虎耳】酒に擂つて服すれば瘟疫を治す。【木香・辟虺雷・徐長卿・鬼督郵・藁本・女青・山奈・蓽茇・葎草】いづれも毒疫、温鬼、邪氣を除く。【白茅香・茅香・蘭草】いづれも湯に煎じて浴すれば疫氣を除く。【艾納香・兜納香・蜘蛛香】「木部」【沈香・蜜香・檀香・降眞香・蘇合香・安息香・詹糖香・樟腦・反魂香・兜木香・皂莢・古厠木】いづれも燒けば疫を避ける。【釣樟葉】門の上に置く。【烏藥・預知子・阿魏・乳香】十二月二十四日の夜、五更に初汲みの水に浸し、元旦の五更にそれを取り出し一塊を嚼んで水を三度飲めば、一年中疫に遭はぬ。【松葉】細かに切り日に三回酒で服すれば五年の慢性瘟を辟ける。【栢葉】時氣、瘴疫には社中の東南の枝を取り末にして日毎に服す。【桃枝・桃橛・桃符】いづれも疫を辟ける。【桃仁】茱萸と青鹽で炒り、十箇二十箇づつ嚼めば瘴癘の豫防になる。【三年經つた古い棗核中の仁】常に服すればすべての邪氣に犯されない。「穀部」【椒柏酒・屠蘇酒】元日に飲めば瘟癘を辟ける。【黒豆】布袋へ一斗を入れて井中へ入れ、一夜で取り出して七粒づつ服すれば時氣を禳ふ。【赤小豆】大晦日と正月の元日、十五日に

井戸へ投げ込めば瘟病を辟ける。正月七日に袋へ入れて井中へ置き、三日經つて取り出し、男は七粒、女は十四粒を呑めば一箇年病に罹らぬ。○元旦に東に向つて二十一粒を呑めば一箇年疫を患はぬ。○立秋の日に西に向つて七粒呑めば痢病を患はぬ。【豉】白朮に和し酒に浸して常に飲めば瘟疫病を除く。【麻子仁】除夜に小豆と共に井中へ投込めば疫を辟ける。【穄米】末にし水で服すれば瘟疫に感染せぬ。【蒜】時氣、溫病には擣汁を服す。○立春と元旦に葱、韮、蓼、蒿芥と和し五辛盤にてし食へば瘟疫を辟ける。【蔓菁】立春直後の庚子の日に汁を飲めば一箇年時疾を免れる。【馬齒莧】元旦に之を食へば疫氣を解する。【生薑】邪を辟ける。【淡竹葉】疫を解する。「服器」【初病人衣】十分に蒸せば一家が感染せぬ。【草繩】住居の戶の中の壁へ張渡し結びためて置けば病に感染せぬ。「水土」【半天河水】飲めば疫を辟ける。【東壁土・塚上土石】五月五日に取つて戶外へ埋めて置けば、一家が時氣を患はぬ。「石部」【丹砂】蜜で丸にし、太歲の日の朝、各二十一丸を呑めば永く疫疾に罹らぬ。【陽起石】瘴疫冷氣を解する　【婆娑石】瘴疫の熱悶頭痛に效がある　「鱗介」【蚺蛇肉・鹹魚・鯢魚・牛魚・鮑魚頭灰・賁龜・珠鼈・蜆肉】いづれも食へば疫を辟ける。

「禽部」【雄雞】冬至に腊にして立春に食へば疫を辟ける。【東門上雞頭】疫を辟け、惡を禳ふ。【雄鵲】冬至に便所の前へ埋めれば時疾、溫氣を辟ける。【石燕肉】炒つて酒に浸して飮めば溫疫、嵐瘴を辟ける。【五靈脂】疫を辟ける。【獺肉】煮て服すれば疫氣、溫病及び牛馬疫に主效がある。【狸肉】溫鬼、毒氣で皮中が針で刺すやうに痛むに效がある。【麝香・靈猫陰・雄狐屎】燒けば疫を辟ける。【馬骨及び蹄】これを佩れば疫を辟ける。【貘皮】これに寢れば癘を辟ける。

瘴癘 「草部」【升麻】吐く【釵子股】吐く。【葛根・草犀・大黃】溫瘴。【附子】冷瘴。【恒山】吐く。【芫花】下す。【金絲草・錦地羅・千金藤・伏雞子根・解毒子・含水藤・千里及・肉豆蔻・蒼朮】「菜穀」【葱・茖葱・蒜・白菘・苦茄・豉・紅麴・燒酒】「果木」【茶・鹽麩子・檳榔・烏梅・大腹皮・安息香・蘇合香・阿魏・相思子】吐く。「石部」【丹砂・雄黃・砒石・婆娑石】「鱗部」【蚺蛇肉・鯪鯉甲・海豚魚】脯にする。【海鷂魚】燒いて服す。「獸部」【猪血・猪屎・羖羊角・山羊肉・羚羊角・犀角・麝香・果然肉・猴頭骨及び肉】「人部」【天靈蓋】

暑

暑　暑を受けて暍に中るものと、涼を受けて暑に中るものとある。

（一）中暍ハ日射病。

（一）中暍　「草穀」【水蓼】汁に煮て灌ぐ。【胡麻】黒く炒り井水に擂つて灌ぐ。【寒食麪】井水で灌ぐ。「菜果」【大蒜】道路の熱土と共に水に擣き澄して服す。【瓜蒂】これで吐かせれば意識を回復する。「水土」【熱湯】布を濡して心を熨すれば甦る。その時徐に口に灌ぐ。【地漿】灌ぐ。【道中熱土】臍の上に盛り上げてそれへ放尿すれば甦る。【車輦土】澄んだ水で服す。【仰天皮】新しい水で調へて灌ぐ。【熱瓦】交互に心の上を熨す。

暑を清す　「草部」【香薷】暑を解し、小便を利し、上に徹し下に徹する功がある。盛暑の時季に表を解する薬であつて、能く陽氣を發越し、畜水を消散する。【黄連】酒で煮て丸にして服すれば、伏暑が心脾に在つて發熱し、吐瀉し、痢渇する諸病に主效がある。【石香薷・紫蘇葉・蒼朮・白朮・木通・車前・澤瀉・半夏・藿香・縮砂】「穀菜」【白扁豆・薏苡仁・稷米・大蒜】「果木」【木瓜・枇杷葉・赤茯苓・厚朴・猪

(一)霍亂ハ夏月ノ吐瀉病。

(二)痿躄ハ兩脚ノ運動不能ヲ云フ。

苓】いづれも傷暑の濕熱の諸病に主效がある。【桂心】大いに暑毒を解す。茯苓と共に丸にして服す。○蜜と共に渇したとき水で飲む。【黄蘗】濕熱を去り、陰火を瀉し、腎水を滋くし、痿弱を去る。「水石」【雪水・夏氷・滑石・石膏・硃砂】渇を解す。【雄黄】暑毒が脾に在り、濕氣が脚に連つて、或は吐き、或は痛み、或は下痢し、或は瘧するには、よく錬つて丸にして服す。【消石・硫黄】この二味を結砂して用ゐれば、外暑熱に傷れ、內生冷に傷れ、それが發して頭痛、寒熱、吐瀉、(一)霍亂、心腹痛の諸病となつたものに主效がある。○三伏の暑季に硫黄百粒を呑めば積滯を去ること甚だ妙である。【玄精石】暑を解し積を消する。

火を瀉し、元を益す 「草部」【黄芪】傷暑の自汗、喘促、肌熱。【人參】暑さで元氣を傷り、大汗し、(二)痿躄するには、麥門冬、五味子と共に煎じて服すれば、大に陰火を瀉し、元氣を補ひ、金水を助ける。【甘草】生は火を瀉し、熟は火を補ふ。參、芪と同じく火を瀉し、氣を益す藥である。【麥門冬】肺の金を淸くし、心の火を降し、煩渇、咳嗽を止む。【黄芩・知母】肺の火を瀉し、腎の水を滋くす。【虎杖】甘草と共に煎じて飲めば、一切の暑毒、煩渇を壓し、小便を利す。「果木」【苦茗】薑と共に煎じて

飲み、或は醋と共に飲めば、傷暑の瀉痢に主効がある。【石南葉】煎じて飲めば暑を解す。【烏梅】津を生じ渇を止める。【西瓜・甜瓜・椰子漿】暑毒を解す。

濕

(一)風濕、(二)寒濕、(三)濕熱である。

風濕　「草部」【羌獨活・防風・細辛・麻黃・木賊・浮萍・藁本・芎藭・蛇牀子・黃芪・黃精・葳蕤・秦艽・菖蒲・漏蘆・菊花・馬先蒿・白蒿・菴䕡・旋覆・豨薟・蒼耳・薇銜・蒴藋・石龍芮・茵蕷・防已・茜根・忍冬・蘇子・南星・草薢・土茯苓・龍常・葱白・薏苡・胡麻・大豆・秦椒・蔓椒・蜀椒紅・柏實・松葉・沈香・龍腦・蔓荊・皂莢・枸杞・五加皮・桂皮・伏牛花】【厚朴】蒼朮、橘皮と共に用ゐて濕病を除く。「石部」【慈石・白石英】「蟲部」【蠍】風淫、濕痺には炒つて研り麝香を入れて酒で服す。【鱓魚】濕風、惡氣には、つゆものにして食ふ。

寒濕　「草部」【蒼朮】(四)上、中、下三焦の濕を除き、汗を發し、小便を利し、水を逐ふの效最も大なるもので、濕氣で身體が重く痛みを感ずるには、膏に熬つて服す。○種種の處方は各本條に詳記してある。【草烏頭】風濕を除き、脾胃を燥す。蒼朮と

(一)風濕ハ筋肉及關節僂痲質斯ノ類。
(二)寒濕ハ寒ヨリ起ル風濕。
(三)濕熱ハ熱ヨリ起ル風濕。
(四)上焦ハ胃口部以上、中焦ハ臍部以上、下焦ハ下腹。

共に製し、煮て丸にして服す。【附子・烏頭・芫花・王孫・狗脊・牛膝・山奈・紅豆蔲・草果・蠡實・艾葉・木香・杜若・山薑・廉薑】「穀菜」【葡萄酒・燒酒・豆黄・生薑・乾薑・芥子・蒜胡・蘹香】「果木」【呉茱萸・胡椒・欓子・蓮實・桂心・丁香・樟腦・烏藥・山茱萸】「獸部」【貘皮・木狗皮・諸獸毛皮毡・火鍼】

濕熱 「草部」【山茵陳・黄芩・黄連・防已・連翹・白朮・柴胡・苦參・龍膽草・車前・木通・澤瀉・通草・白鮮・蓄草・半夏・海金沙・地黄・甘遂・大戟・萱草・牽牛】氣分。【大黄】血分。【欝實根・夏枯草】「穀菜」【赤小豆・大豆黄卷・薏苡仁・旱芹】丸にして服す。【乾薑・生薑】「木部」【椿白皮・茯苓・猪苓・酸棗・柳葉・木槿・楡皮】「介石」【蜆子】濕熱の氣を下す。【滑石・石膏・礬石・緑礬】

(一)火熱

欝火、實火、虚火、氣分の熱、血分の熱、五臟の熱、十二經の熱である。

（一）火熱ハ體温ノ昇進スル病。

升散 「草部」【柴胡】肝、膽、三焦、包絡の相火を平にし、肌熱、潮熱、寒熱往來、小兒の骨熱、疳熱、婦人の産前産後の熱を除く。○虚勞發熱には、人參と共に煎じて服

す。【升麻】肌肉の熱を解し、欝火を散ず。【葛根】陽明の發熱を解し、渇を止め、欝火を散ず。【羗活】火欝發熱を散ず。【白芷】風寒身熱を散ず。小兒の熱を浴す。【薄荷汁】骨蒸、勞熱。【水萍】暴熱、身痒によく汗を發す。【香附】心腹の客熱、氣欝を散ず。

火を瀉す　「草部」【黄連】肝、膽、心、脾の火を瀉し、客熱を退ける。【黄芩】肺、及び大腸の火、肌肉、骨蒸の諸熱を瀉す。○肺熱が火を燎くやうに甚しく、煩躁し欬嗽して飲を引くには、この一味を煎じて服す。【胡黄連】骨蒸勞熱、小兒の疳熱、婦人の(一)胎蒸に效がある。【秦艽】陽明の濕熱、勞熱、潮熱、骨蒸に效がある。【沙参】肺熱を淸うす。【桔梗】肺熱。【龍膽】肝、膽の火、胃中の伏熱。【青黛】五臟の欝火。【蛇苺・白鮮皮・大青】いづれも時行の腹中大熱に主效がある。【連翹】少陽、陽明、三焦の氣分の火。【青蒿】熱が骨間に在るに效がある。【惡實】食前に兩手で揉んで三箇を呑めば、種種の結節、筋骨の煩熱の毒を散ずる。【燈籠草】骨熱、肺熱。【積雪草】暴熱、小兒の熱。【虎杖】一切の熱毒を壓する。【茵蔯】濕熱を去る。【景天】身熱、小兒の(二)驚熱。【釣藤】心、肝を平にし、大に小便を利す。○甘草、滑石と共に服すれば小兒の驚熱を治す。【酸漿・防已・木通・通草・燈心・澤瀉・車前・地膚・石韋・瞿麥】いづ

(一) 胎蒸ハ姙娠中ノ熱。

(二) 驚熱ハ小兒發熱ニテ腦ニ關スル者。早晩兩度スル之ヲ驚熱ト云フ。

(四)面皰ハニキビ。

(五)紫雪以下四名ハ製藥ノ名。

れも小便を利し、火熱を洩す。【烏韮】熱の腸胃に在るに效がある。【屋遊】熱の皮膚に在るに效がある。【土馬騣】骨熱煩敗。【大黄】種種の實熱不通を瀉す。足の太陰、手、足の陽明、厥陰の五經の血分の藥である。「菜果」【莙薘子・李葉・桃葉・棗葉】「木部」【楮葉・楝實・羊桃・秦皮・梓白皮】いづれも小兒の身熱を浴する。【梔子】心、肺、胃、小腸の火鬱を解し、小便を利す。【鼠李根皮】身、皮の熱毒。【木蘭皮】身熱、(四)面皰。【桑白皮】虚勞、肺火。【地骨皮】肺火、腎火、胞中の火を瀉し、正氣を補し、骨間に汗のある蒸を去る。防風、甘草と共に煎じて服す。【溲疏】皮膚の熱、胃中の熱。【竹葉・竹茹・竹瀝】いづれも煩熱で痰あるに主效がある。【荊瀝】熱痰。「水石」【雪水・冰水・井水】いづれも大熱を除く。【石膏】三焦、肺、胃、大腸の熱を除き、肌を解し、汗を發し、熱を退く。潮熱、骨蒸、發熱には丸、散にして服す。○食積、痰火には丸にして服す。○小兒の壯熱には青黛と共に丸にして服す。【長石】胃中の熱、四肢の寒。【理石】營衞の中の大熱煩毒。【方解石】胸中の留熱。【玄精石】風熱。【凝水石】身熱で皮中が火のやうに煩滿するには、水で飲めば血を涼くし火を降す。【食鹽・鹵鹼】大熱を除く。【消石】五臟の積熱。【朴消】胃中の結熱。○(五)紫雪、碧雪、

紅雪、金石淩いづれも熱結を解するの藥である。【玄明粉】胃中の實熱、腸中の(六)宿垢に效がある。「蟲介」【白頸蚯蚓】熱毒狂煩を解す。【雪蛆・玳瑁】心を涼し、毒を解す。「獸部」【犀角】肝を瀉し、心を涼し、胃を淸し、大熱諸毒を解す。【牛黃】心、肝を涼す。【羚羊角】風熱、寒熱。【象牙】骨蒸熱。【牛膽・猪膽・熊膽】いづれも肝火を除く。【白馬脛骨】燒いて用うれば火を降す。黃芩、黃連の代用になる。「人部」【人中白】三焦、膀胱、肝の經の相火を降す。【人溺】火を滋降すること甚だ速なものである。【人屎】大いに五臟の實熱、骨蒸、勞熱を解す。

火を緩にする　「草部」【甘草】生で用うれば三焦、五臟、六腑の火を瀉す。【黃耆】陰火を瀉し、元氣を補し、虛熱を去り、汗なきには發汗し、汗あるには汗を止める。【人參】黃耆、甘草との三味は氣を益し、火を瀉し、肌熱、躁熱を除くの聖藥であつて、甘溫にして大熱を除く。【麥門冬】心火を降し、肺熱、虛勞、客熱を淸し、渴を止める。【五味子】人參、麥門冬との三味は金を淸し、水を滋し、火を瀉し、渴を止め、汗を止め、脈を生ずる劑である。【天門冬】肺勞、風熱には丸にして服す。○陰虛、火動で痰熱あるには、五味子と共に丸にして服す。○婦人の骨蒸には生地黃と共に丸

(六) 宿垢ハトドコホリタル汚物。

にして服す。【葳蕤】(七)五勞、(八)七傷の虛熱。○煎じて服すれば、發熱で口乾き小便少きを治す。【白朮】胃中の熱、肌熱を除き、汗を止める。○婦人の血虛發熱、小兒の脾虛骨蒸には、茯苓、甘草、芍藥と共に煎じて服す。【茅根・地筋】客熱の腸胃に在るに效がある。【甘蕉根・菰根・蘆根・天花粉】いづれも大熱煩渴に主效がある。【栝樓根】肺を潤し、火を降し、痰を化す。○飲酒が原因の發熱には、青黛、薑汁と共に丸にして服す。○婦人の月經不調で夜熱、痰嗽するには、青黛、香附末と共に服す。

「菜穀」【山藥】煩熱を除き、凉にして補す。【小麥】客熱、煩渴に心を凉す。【粱米】脾胃の客熱。【麻仁】虛勞客熱には水で煎じて服す。「果部」【梨】痰を消し、火を降し、心、肺を凉す。【柿】肺を凉し、胃熱を壓する。【李】曝して食すれば骨間の勞熱を去る。【烏梅】氣を下し、熱を除く。【馬檳榔】熱病には嚼んで食ふ。【蕉子】心を凉す。【甘蔗】熱を解す。「介禽」【鼈肉】柴胡、諸藥と共に丸にして服すれば骨蒸を治す。【鴨肉・鴿肉】いづれも解熱の效がある。「獸人」【兎肉】凉、補。【豪猪肉・猪肉】肥熱の人はこれを食ふがよい。【猪乳・酥酪・醍醐・人乳】

陰を滋くす 「草部」【生地黃】諸經の血熱には、陰を滋し陽を退く。○蜜で丸にして

(七)五勞ハ久視、血ヲ傷リ心ヲ勞シ、久臥、氣ヲ傷リ肺ヲ勞シ、久坐、肉ヲ傷リ脾ヲ勞シ、久立、骨ヲ傷リ腎ヲ勞シ、久行、筋ヲ傷リ肝ヲ勞ス。

(八)七傷ハ大飽、脾ヲ傷リ、大怒、肝ヲ傷リ、強力、重ヲ擧ゲ久シク濕地ニ坐スレバ腎ヲ傷リ、形寒、寒飲、肺ヲ傷リ、憂愁、思慮、心ヲ傷リ、風雨、寒暑、形ヲ傷リ、恐大懼節ナラザレバ志ヲ傷ル。

（九）無根ノ火ハ神經熱。

（一〇）白虎ノ證ハ白虎湯ノ效アル病證。

服すれば、婦人の發熱で勞となつたものを治す。○蜜で煎じて服すれば、小兒の壯熱煩渇、昏沈を治す。【熟地黃】血虛勞熱、產後の虛熱、老人の虛燥、生地黃と共に末にし、薑汁糊で丸にして服すれば婦人の勞熱を治す。【玄參】煩躁、骨蒸には陰を滋し、火を降す。地黃の功力と同一である。胸中氤氳の氣、（九）無根の火を治すの聖藥である。大黃、黃連と共に丸にして服すれば三焦の積熱を治す。【當歸】血虛の熱で困渴し、飮を引き、目赤く、顏紅くして日夜退かず、脈は洪にして（一〇）白虎の證の如きには、黃芪と共に煎じて服す。【丹參】冷熱の勞、風邪の留熱には、鼠屎末と共に服す。小兒の中風で身熱拘急するに主效がある。【牡丹】少陰、厥陰の血分の伏火を治す。汗の出ぬ骨蒸を退ける。【知母】心煩骨勞で熱の往來するもの、產後の蓐勞、熱勞には、肺の命火を瀉し、腎水を滋す。「木部」【黃蘗】下焦の濕熱に用ゐて、陰を滋し、火を降す。

各經の火の藥　『肝』氣には柴胡、血には黃芩。『心』氣には麥門冬、血には黃連。『脾』氣には白芍藥、血には生地黃。『肺』氣には石膏、血には梔子。『腎』氣には知母、血には黃蘗。『膽』氣には連翹、血には柴胡。『小腸』氣には赤茯苓、血には木通。『大

腸』氣には黄芩、血には大黄。『膀胱』氣には滑石、血には黄蘗。『胃』氣には葛根、血には大黄。『三焦』氣には連翹、血には地骨。『包絡』氣には麥門冬、血には牡丹皮。

各經發熱の藥　『肝』氣には柴胡、血には當歸。『心』氣には黄連、血には生地黄。『脾』氣には芍藥、血には木瓜。『肺』氣には石膏、血には桑白皮。『腎』氣には知母、血には地黄。『膽』氣には柴胡、血には栝樓。『小腸』氣には赤茯苓、血には木通。『大腸』氣には芒消、血には大黄。『膀胱』氣には滑石、血には澤瀉。『胃』氣には石膏、血には芒消。『三焦』氣には石膏、血には竹葉。『包絡』氣には麥門冬、血には牡丹皮。

諸氣

怒れば氣逆し、喜べば氣散じ、悲めば氣消し、恐るれば氣下り、驚けば氣亂れ、勞すれば氣耗し、思へば氣結し、(一)暑には氣泄し、寒には氣收する。

欝氣　「草部」【香附】心腹、膀胱、脇下に連つて氣妨し、日常憂欝なるもの。すべて一切の氣欝を解し、十二經の氣分を行らす。補あり、瀉あり、升あり、降あるものである。【蒼朮】氣塊を消し、氣欝を解す。【撫芎】香附、蒼朮と共に總て諸欝を解す。【木

(一) 暑ノ字金陵本ニ炅トアレドモ暑ノ誤ナラン。

香】心腹一切の滯氣、胃氣を和し、肺氣を泄し、肝氣を行る、すべて氣鬱して舒びざるものには、これを用うるがよい。(二)衝脈の病となり、逆氣、裏急するには、補藥と同時に用うれば補となり、瀉藥と同時に用うれば瀉す。○中氣には竹瀝、薑汁で調へて灌ぐ。○氣脹には訶子と共に丸にして服す。○一切の(三)走注には酒に磨つて服す。【藿香】氣を快くす。【雞蘇・紫蘇】氣を順にす。【薄荷】憤氣を去る。「穀菜」【赤小豆】氣を縮し、氣を散ず。【萊菔子】五臓の惡氣を練り、積滯を化す。【葱白】肝中の邪氣を除き、上下の陽氣を通ず。【胡荽】熱氣、結滯の年を經て數々發するには煎じて飲む。【萵苣・白苣】胸膈の擁氣を開く。【馬齒莧】諸氣不調には粥に煮て食ふ。【黃瓜菜】結氣を通ず。「果木」【杏仁】結氣を下す。桂枝、橘皮、訶梨勒と共に丸にして服す。【青橘皮】肝を疏し滯を散ず。茴香、甘草と共に末にして服す。【檳榔】五臓、六腑の壅滯を宣利し、胸中一切の氣を破る。性は鐵石の如きものである。【大腹皮】一切の氣を下す。【梔子】五臓の結氣には黑く炒り煎じて服す。【梨木灰】氣積して鬱するに效がある。【橄欖・毘梨勒】胃を開き、氣を下す。【楡莢仁】心腹の惡氣を消し、食慾を增進する。「石部」【鐵落】胸膈に熱氣があつて食の下らぬに用ゐる。【長石】脇肋と

(二)衝脈ハ腹部臍ノ兩側ニアリ。

(三)走注トハ疼痛遊走シテ一處ニ止ラザルモノ。

肺の間の邪氣に用ゐる。【麝香・靈猫陰】「人部」【人尿】一切の氣塊には、苦參を煎じ酒に醸して飲む。

痰氣 「草部」【半夏】心腹、胸脇の痰熱結氣を消す。【貝母】心胸欝結の氣を散じ、痰を消す。【桔梗・前胡・白前・蘇子】いづれも痰を消し、一切の逆氣に主效がある。【射干】胸中の痰結熱氣を散ず。【芫花】種種の氣痛には、醋で炒り玄胡索と共に服す。【威靈仙】五臟を宣通し、心腹の冷滯を去り、陳を排し新を致す。○男女の氣痛には、韭根、烏藥、雞子と共に酒で煮て服す。【牽牛】一切の氣の壅滯を利す。○三焦の壅滯で涕唾し、痰涎し、昏眩して不快なるには、皂角汁で丸にして服す。○氣築[四][五]奔衝には、檳榔と共に末にして服す。「穀菜」【蕎麥】氣を消し腸を寬にする。【黑大豆】中を調へ氣を下す。【生薑】心胸冷熱の氣に效がある。○暴逆、氣上には數片を嚼めば止む。【萊菔子・白芥子】痰を消し氣を下す。「果部」【山樝】結氣を行る。【橘皮】痰膈、氣脹には、水で煎じて服す。○下焦の冷氣には、蜜で丸にして服す。【橙皮】痰を消し氣を下す。生薑、檀香、甘草と餅にして服す。【柚皮】痰を消し氣を下す。憤懣の痰には、酒で煮て蜜を拌ぜて服す【枸櫞皮】痰を除き、心下の氣痛を止む。

(四) 氣築ハサシコミ。

(五) 奔衝ハ下腹部ヨリ心下ニ衝逆スルコト。

【金橘】氣を下し腸を快くする。【枇杷葉】氣を下し嘔吐を止む。【楊梅】憒憒惡氣を除く。「木部」【枳實・枳殼・茯苓】結氣を破り痰水を逐ふ。【桑白皮】氣を下し痰を消す。【皂莢】一切の痰氣には燒いて研り、蘿蔔子、薑汁と共に蜜で丸にして服す。「介部」【龜甲】抑結の氣散ぜぬには、酒で炙り栢葉、香附と共に丸にして服す。【牡蠣】驚、怒の結氣と老血に效がある。【擔羅】昆布と共に羹にして食へば結氣を消す。

血氣　「草部」【當歸】氣中の血。【芎藭】血中の氣。【蓬莪茂】氣中の血。【薑黃】血中の氣。【三稜】血中の氣。【欝金】血氣。【玄胡索】「木部」【乳香・沒藥・騏驎竭・安息香】いづれも血を活し氣を散ず。

冷氣　「草部」【艾葉】心腹一切の冷氣惡氣には、搗いて汁を服す。【附子】諸氣を升降するには、汁に煎じ沈香を入れて服す。【烏頭】一切の冷氣には、童尿に浸し丸にして服す。【肉豆蔻・草豆蔻・紅豆蔻・高涼薑・益智子・蓽茇・畢勃沒・縮砂・補骨脂・胡蘆巴・蒟醬】いづれも冷氣を破る。【五味子】奔豚の冷氣、心腹の氣脹。「菜」【蒜葫・芸薹・蔓菁芥・乾薑・蘹香・秦狄梨・(六)馬荓】いづれも冷氣を破る。【茴香】腎邪の冷氣には附子と取り合せ末にして服す。【白芥子】腹中の冷氣には、少し炒り丸に

(六) 馬荓詳ナラズ馬芹ノ誤ナラン。

して服す。「果木」【蜀椒】欝結を解す。その性能は下行して三焦を通ずるものである。凡そ人は食飽すれば氣が上るのであるが、生で一二十箇を呑めばそれが散ずる。【秦椒・胡椒・蓽澄茄・呉茱萸・食茱萸・桂・沈香・丁香・丁皮・檀香・烏薬・樟脳・蘇合香・阿魏・龍脳樹子】いづれも冷氣を破り、悪氣を下す。【厚朴】男女の(七)氣脹して飲食が落付かず、冷熱相攻めるには、薑汁で炙り研末して飲で服す。【訶黎勒】一切の氣疾、宿食不消化には、毎夜嚼んで呑む。「金石」【金屑】冷氣を破る。【黒鉛】腎臓の(八)氣發には、石膏脂、木香、麝香と共に丸にして服す。【銅器】冷氣痛を炙熨する。【車鎋】冷氣走痛には、燒いて水に淬して服す。【白石英】心、胃の冷氣に中るに效がある。【紫石英】寒熱の邪氣には心氣を補ひ、肺氣を養ふ。【靈砂】冷氣を治し、陰陽を升降し、水火を救ふ。【玄精石・砒石・硇砂】元臓の虚冷、氣痛には、桃仁と共に丸にして服す。○又、川烏頭と共に丸にして服す。【硫黄】一切の冷氣積痛には、青鹽と共に丸にして服す。○消石、青皮、陳皮と共に丸にして服す。「魚禽」【鱧魚】一切の氣を下す。胡椒、大蒜、小豆、葱と共に水で煮て食ふ。【黄雌雞・烏雌雞】いづれも冷氣で床に著くものを治す。

(七)氣脹ハ氣積ノ類ニシテ腹部滿脹ノ證ナラン。

(八)氣發詳ナラズ、石膏附方ヲ案ズルニ小便卒數ニ石膏ヲ用ウル方アルノミニテ他ニ腎臓ニ關係ノモノナシ。

(一)痰飲

痰に濕、熱、風、寒、食、氣の六種あり、飲に(二)支、(三)留、(四)伏、(五)溢、(六)懸の五種あつて、いづれも濕に原因するものである。

風寒濕鬱　「草」【半夏】濕を行り氣を下す。濕が去れば涎が燥き、氣が下れば痰が降る、乃ち痰飲の主藥である。一定の法則に依つて制した半夏を咀嚼するがよし。○胸膈に痰の壅るには、薑汁で餅にし煎じて服す。○停痰、冷飲には、橘皮と共に煎じて服す。○中焦の痰涎には、枯礬と共に丸にして服す。○結痰の出ぬものには、桂心、草烏頭と共に丸にして服す。○支飲で嘔吐するには、生薑、茯苓と共に煎じて服す。○(七)風痰、濕痰には淸壺丸。○風痰には辰砂化痰丸。○氣痰には三仙丸。○驚痰には辰砂半夏丸。○老人の風痰には半夏消石丸。○小兒の痰熱には、南星と共に牛膽を入れ陰乾にし丸にして服す。【天南星】痰を除き濕を燥す。○壯年の人の風痰には、木香、生薑と共に煎じて服す。○痰が心竅に迷ふには壽星丸。○小兒の風痰には抱龍丸。【蒼朮】痰水を消し濕鬱を解し、痰の癖血を夾んで囊となるを治す。【白朮】痰水

(一)痰飲ハ一病ノ名ニ非ズ、胃病ノ汎稱。
(二)支飲ハ水心下ニアリテ喘滿スルモノ、手足ニ浮腫ヲ生ズ。
(三)留飲ハ胃擴張ノ類、水心下ニ停リテ四支脇痛アリ。
(四)伏飲ハ留飲發伏シテ見ハレズ腰間疼痛スルモノ。
(五)溢飲ハ飲水四肢ニ流レ身體疼痛スルモノ。
(六)懸飲ハ飲水流レテ脇下ニアリ、咳嗽スレバ引キ痛ムナリ。
(七)風痰ニハ頭痛、眩運、眼目瞤動、胸肋痛、半身不隨等ノ證アリ。

を消し、脾、胃を燥す。○心下に水あるには、澤瀉と共に煎じて服す。○五飲、酒癖には、薑、桂と共に丸にして服す。【旋覆花】胸上の痰結で唾が膠か漆のやうになるもの、及び膀胱留飲には、焙じ研り蜜で丸にして服す。【威靈仙】心膈の痰水で宿膿が久しく積るものに效がある。○停痰、宿飲、喘欬、嘔逆には、半夏、皂角と共に水で丸にして用ゐる。【麻黄】肺經の火欝を散じ、數ゝ唾を吐き痰喘するを止める。【細辛】痰を破り、水を利し、胸中の滯結を開く。【薄荷】小兒風涎の要薬である。【蘇子】風を治し、氣を順にし、痰を消す。【佛耳草】痰を除き時氣を壓する。【附子】胃冷、濕痰、嘔吐には半夏、生薑と共に丸にして服す。【烏頭・天雄・白附子】いづれも風痰、濕痰に主效がある。【草烏頭】胸上の冷痰で食物が落付かず、心腹の冷痰で痛みを感ずるに用ゐる。【紫金牛】風痰。【百兩金】風涎。【艾葉】口から清い水を吐くには煎じて服す。【防已】膈間の支飲で喘滿水には防已湯。【葶藶】胸中の痰飲、結氣。【人參】胸中の痰が變じて酸水となり、黄色の水を吐くものに效がある。【肉豆蔻】冷氣で沫を嘔くには、半夏、木香と共に丸にして用ゐる。【益智子】上膈に客寒して沫を吐くものに用ゐる【草豆蔻・高凉薑・廉薑・蓽茇・紅豆蔻・蒟醬・狼毒】「茱萸」【乾薑】いづ

(八)嘔噦ハ乾嘔ノ甚シキヲ云フ。
(九)反胃ハ朝食暮吐或ハ暮食朝吐ヲ云フ。
(一〇)嘈雜ハムネヤケ。

れも冷痰に主效があり、濕を燥し、中を溫む。【生薑】濕を除き、痰を去り、氣を下す。○痰厥、卒風には附子と共に煎じて服す。【芥皮子・白芥子】痰が脇下、及び皮裏、膜外に在るときは、此れでなければ除けぬ。○白朮と共に丸にして服す。○蘇子、萊菔子と共に丸にして痰を下す。【米醋・燒酒】「果木」【木瓜・樝子・榲桲・橙皮・柚皮】いづれも濕痰、水唾を去る。【橘皮】濕痰、留飲、(八)嘔噦、(九)反胃を除く。○二陳湯。○潤下丸。○寛中丸。○痰で膈胸中の熱脹するには、水で煎じて服す。(一〇)嘈雜で淸い水を吐くには、末にして舐める。○下焦の冷痰には、丸にして服す。【檳榔】穀物を消化し、氣を下し水を逐ひ、痰濕を除くには、末にして湯で服す。○痰水を嘔吐するには、橘皮と共に煎じ、或は末にして服す。【大腹皮・都念子・都咸子・蜀椒】中を溫め濕を除き、心腹留飲に效がある。○山椒の種子を巴豆と共に丸にして服すれば留飲腹痛を治す。【吳茱萸】厥陰、痰涎。【胡椒・畢澄茄・厚朴】痰を消し中を溫む。○痰壅、嘔逆には、生薑汁で制し末にして服す。【沈香】冷痰、虛熱には、附子と共に煎じて服す。【杉材】肺壅、痰滯。【皂莢】胃中の痰結には、揉み出した汁を熬膏し、丸にして服す。○一切の痰氣には、燒いて研り、萊菔子と共に丸にして服す。○釣痰丸――

（二）痰澼ハ痰積、胸痛。

（二）金陵本ニ白柹ニ作ル。

半夏、白礬と共に丸にして含む。○子、及び木皮いづれも風痰を治す。【白楊皮】酒に浸して用うれば（二）痰澼を化す。【槐膠】一切の風涎。「石蟲」【礬石】痰涎、飲澼。【赤石脂】飲水で澼となり、水を吐いて止まざるには、末にして一斤を服すれば良好の結果を收める。【白殭蠶】風痰、結核を散ず。一切の風痰には、研末して薑汁で服す。【桂蠹】寒澼。

濕熱火鬱 「草」【栝樓】火を降し、金を淸くし、痰結を滌ふ。○痰を淸くし膈を利するには、薤白と共に煎じて服す。○飲酒に因る痰澼、脇脹、嘔吐、腹鳴には、神麯と共に末にして服す。【貝母】痰を化し、氣を降し、鬱を解し、肺を潤す。○痰脹には厚朴と共に丸にして服す。【前胡・柴胡・黃芩・桔梗・知母・白前・紫菀・麥門冬・燈籠草・鵝跖草・懸鉤子・解毒子・辟虺雷・草犀・澤瀉・蛇菜・山藥・竹筍】「果木」烏梅・林檎・（二）白棶・鹽麩子・甘蔗汁・梨汁・藕汁・茗・皐蘆葉・蕤核・枳實・枳殼】胸膈の痰澼、停水、痞脹には、末にして服す。【桑白皮】上焦の痰氣。【荊瀝】煩熱で痰唾が濃濃として吐氣あるに用ゐる。【竹瀝】煩熱を去り、痰を淸くし、血を養ふ。痰が經絡、四肢及び皮裏膜外にあるには、この藥以外では達し行らない。【竹

茹・竹葉】痰熱の嘔逆。【木槿花】風痰の壅逆には、研末にして湯で服す。【茯苓】膈中の痰水に用うれば濕熱を淡滲する。【訶黎勒】火を降し、痰を消する。〇葉も氣を下し痰を消する效力がある。【天竹黄】「金石」【鉛・鉛霜・鉛丹・胡粉・鐵華粉】いづれも風熱驚痰を降す。【密陀僧】痰が胸中に結して散ぜぬには、醋水でよく煮て末にし、酒、水と共に二錢を煎じて飲む。【靈砂】上盛、下虛の痰涎壅逆に用ゐる。【水銀】小兒の驚熱風涎。【蓬砂・浮石】「蟲鱗」【五倍子】いづれも頑强な痰を化し、熱毒を解す。【百藥煎】金を淸くし、痰を化す。細茶、海螵蛸と共に丸にして服す。【海螵蛸】「介貝」【海蛤・文蛤・蛤粉・牡蠣】いづれも濕痰、熱痰、老痰を化す。【爛蜆殼】心胸の痰水で酸を呑み込むものには、燒いて服す。【牛黄】熱痰を化す。【阿膠】肺を潤し、痰を化し、小便を利す。

氣滯食積　「草」【香附子】氣欝を散じ、飲食痰飮を消し、胸膈を利す。〇停痰、宿食には、半夏、白礬、皂角と共に水で丸にして服す。【雞蘇】穀物を消化し、酸水を除く。【蘇葉】「穀菜」【麴・神麴・麥蘖】いづれも食積痰飮を消し、氣を下す。【醋・萊菔及び子】食を消し痰を下すには、墻を推し壁を倒すが如き功がある【仙人杖菜】(一三)冷

(一三)痰癖ハ痰積、胸痛。

(一四)癖飲ハ留飲。

痰澼を去る。【蕻菜】食物を消化し、冷痰をはつきりさす。【桑耳】(一四)癖飲、積聚。○留飲、宿食には、巴豆と共に蒸し、丸にして服す。【蘑菰・茼蒿】「果石」【山樝】いづれも食積痰を消す。【鹽楊梅】食を消し、痰を去る。屑にして服す。【銀杏】生で食へば痰を降す。【杏仁・雄黄・粉霜・輕粉・金星石・青礞石・硇砂・綠礬】いづれも痰涎、積癖を消す。【銀硃】痰氣結胸には、礬石と共に丸にして服すれば聲があつて自ら散ずる。【石膏】食積痰火には、煆いて研り醋糊で丸にして服す。「介禽」【馬刀・牡蠣・魁蛤】痰積。【蚌粉】痰涎が胸膈に結し、心腹の痛が間斷なく、或は乾嘔するものには、巴豆と共に赤く炒つてから巴豆をば取除き、醋糊で丸にして服す。【鬼眼睛】痰飲積、及び濕痰で心腹の痛むには、燒いて研り酒で服す。【五靈脂】痰血の凝結するには、半夏、薑汁と共に丸にして服す。

宣吐　【人參蘆・桔梗蘆・梨蘆・三白草】汁。【恒山・蜀漆・欝金】梨蘆と共に末にする。【杜衡・石莧・石胡荽】汁。【離鬲草】汁。【附子尖・土瓜根・及巳・苦參・地松・豨薟・羊躑躅・紫河車・虎耳草・芭蕉油・蘿蔔子・苦瓠・瓜蔕・苦茗・烏梅・酸榴皮・梨汁・桐油・皂莢・巵子・相思子・松蘿・熱湯・虀水・鹽鹵水・石綠・石

（一）四制、八制ハ製藥ノ方法。

青・石膽・白青・砒石・密陀僧・礬石・大鹽・蝦汁】

蕩滌　【甘遂】直ちに水氣の結するところに達する。【芫花】胸中の痰水、脇下の飮澼。【蕘花】腸胃の留澼。【大戟】濕熱、水澼。【續隨子】痰飮、宿滯。【牽牛】痰飮、宿膿。【大黄・射干・桃花】宿水、痰飮、積滯には、末にして水で服す。或は餅にして食ふも效果を擧げる。【接骨木】水飮を下す。【巴豆】寒澼、宿食、祕結には、酒で三晝夜煮煎し、丸にして水で呑み下す。○風痰、濕病には、掌の心に置いて汗を取る。【芒消・朴消】

脾胃　勞倦內傷、飮食內傷、濕熱、虛寒等である。

勞倦　「草部」【甘草】脾胃を補ひ、邪熱を除き、三焦の元氣を益し、陰血を養ふ。【人蔘】勞倦內傷には、中氣を補ひ、邪火を瀉す。○膏に煎じ、薑、蜜と合せて服す。【黄耆】脾胃を益し、皮毛を實し、肌熱を去り、自汗を止める。【黄精・葳蕤】中を補ひ、血を益す。【白朮】熬膏して服するが良し。【蒼朮】脾を安じ、濕を除く。熬膏して丸、散にするのであつて、（一）四制、八制、坎離交感の諸丸の方法がある。【柴胡】肝を平に

し、淸氣を引いて左方から上る。【升麻】胃に入り淸氣を引いて右方から上る。【芍藥】肝を瀉し、脾肺を安じ、胃氣を收める。【石斛】脾胃、肌肉を增進する。【使君子】脾胃を强健にし、虛熱を除く。【連翹】脾胃の濕熱。【木香・甘松香・藿香・縮砂蜜・白豆蔲・紫蘇】「菜穀」【羅勒・蒔蘿・馬芹】いづれも元氣を理す。【懷香】生薑と共に黃に炒り丸にして服すれば、胃を開き食慾を進める。【茼蒿・薺菜・苜蓿・萊菜・仙人杖草・草豉・胡蘿蔔・芋・山藥・石耳・蘑菰・雞㙛・五芝・胡麻・小麥・大麥・雀麥・糯・粳・秈・稷・黍・蜀秫・粱・粟・秫稌子・䅟子・稂・東廧・彫胡・蓬子・水粟・菵草米・蒒草米・薏苡・罌子粟・黑大豆・赤小豆・綠豆・白豆・豌豆・蠶豆・豇豆・藊豆・刀豆・豆豉・豆腐・豆黃】氣を壯にし肌を潤す。猪脂に和し丸にして毎に百丸を服すれば、身體肥滿し健康となること甚だ顯著である。○脾弱で食物を攝れぬには、麻子と共に香しく熬り、研つて日每に服す。【陳廩米・靑精飯・諸米粥・飴糖・酒・糟】「果木」【大棗】薑と共に末にし、茶のやうに點じて服す。【仲思棗・木瓜・柰・白柹・橘皮・鉤栗。橡子・榛子・龍眼・橄欖・榧子・檳榔・大腹皮・桄榔麪・莎木麪・波羅蜜・無花果・摩厨子・芡實・蓮實・藕・甘蔗・沙糖・鳧茈・淸明柳枝】脾弱で

消化不良となり、翻胃のやうな症状には、煎湯にし、小米遼麪を煮て晒して取收め毎に烹て食ふ。【沈香・檀香・訶黎勒・厚朴・茯苓】「水石」【潦水・甘爛水・立春淸明水・太一餘糧・白石脂・石鹼・代赭石】「蟲部」【蜂蜜・蠶蛹・乳蟲】「鱗介」【龍齒・鱒・鯔・鯮・鰔。鮊・鯽・魴・鯉・鱸・鱖・鯧・鯊・白鯗・鱠殘魚・比目魚・鰕・鼈・淡菜・海蛇】「禽獸」【雞・雉・鸐雉・英雞・鳧・鸊鷉・鷺・鷸・雀・突厥雀・鳩・靑鵻・桑鳸・鷃・鶻嘲・猪脾舌・狗肉・羊肉・牛肉・牛脾・虎肉・兎肉】

虛寒　「草部」【附子・草豆蔻・高良薑・山薑・廉薑・益智子・蓽茇・蒟醬・肉豆蔻】「菜穀」【乾薑・生薑・蒜・韭・薤・芥・蕪菁・糯米・秫・燒酒】「果木」【胡椒・畢澄茄・秦椒・蜀椒・吳茱萸・食茱萸・丁香・桂】

食滯　「草部」【大黃】宿食を蕩滌して陳きを推出し新しきを致す。【地黃】胃中の宿食を去る。【香附・三稜・蓬茂・木香・柴胡】穀類を消化する。【荊芥・薄荷・蘇・荏・水蘇】いづれも魚鱠を消化する。【靑黛・越王餘算・海藻・肉豆蔻・草果・縮砂・蒟醬・紅豆蔻・仙茅】「穀菜」【大麥・蕎麥・豆黃・蒸餅・女麴・黃蒸・麴・神麴】蒼朮と共に丸にして服す。【紅麴・蘗米・麥蘗・飴餹・醬・醋・酒・糟・蒜・葱・胡葱・

胡荽・白松・萊菔・蕪青・薑】「果木」【杏仁】停食には、巴豆を用ゐて炒り、末にして服す。【橘皮】末にして煎じ、茶の代りに飲む。【青皮】鹽、醋、酒、湯の四種を用ゐて制し、末にして煎じて服す。【柑皮・橙皮・柚皮・木瓜・榅桲・山樝】肉を消化する。【柰子・楊梅・銀杏】生で食ふ。【檳榔・大腹子・榧子・無漏子・茶・鳬茈・蜀椒・胡椒・畢澄茄・茱萸・巴豆】一切の生、冷、硬物を消化する。【阿魏】肉を消化する。【皂莢・楸白皮・厚朴・烏藥・樟材・檀香・桂】果物を食つて腹の脹るには、飯で丸にして七箇を呑む。【訶梨勒・枳實・郁李仁】「水土」【虀水】吐かす。【漿水】消化。【生熟湯】消化。【百草霜・梁上塵】「金石」【朴消】食飲の熱結。【青礞石】食積宿滯には、巴豆と等分を丸にして服す。【水中白石】肉を食つて(一)瘕となつたものには、燒いて七回水に淬して服すれば下して了ふ。【食鹽】酒、肉の過食で脹悶するには、牙に擦り付けて含嗽すれば雪に湯をかけたやうにさつぱりする。【硇砂】肉を消化する。【蓬砂・孔公孽】「介禽」【鼈甲・淡菜・海月・白鯗】いづれも宿食を消化する。【鱓頭】燒いて服すれば痞癥の不消化を去る。【鳬・雞屎白・鷹屎白・雀屎白・鴿屎・五靈脂】

(一)瘕ハ腹中ニ塊物ヲ生ズルコト。

酒毒　「草部」【葛花・葛根汁・白茅根汁・水萍・菰筍・秦艽・苦參・地楡・菊花】酒醉で言語不能なるには、末にして酒で服す。【懸鉤子・木鼈子】醋で磨つて用ゐる。【天南星】硃砂と共に丸にして服すれば酒毒、積毒を解す。【五味子・山薑花・高良薑・紅豆蔻・縮砂・白豆蔻・蒟醬・肉豆蔻。蠡實・蕉子】「穀菜」【麥苗汁・丹黍米】酒を飲んで醉はぬ。【黒大豆・赤小豆・腐婢・緑豆・蠶豆苗】煮て食ふ【扁豆】【豆腐】燒酒の醉死には、刻んで身體に貼る。【豉】葱白と共に煎じて用ゐる。【麹・蘿蔔・蔓菁】大醉で苦み堪へ難きには、粥に煮て汁を飲む。○根を三回蒸して研末し、酒の後で二錢を水で服すれば酒氣を作さぬ。【白菘】酒醉の醒めぬを解す。子一合を研つて井水で服す。【水芹・苦苣・白苣・苦竹筍・酸筍・越瓜・甜瓜】「果木」【橘皮・柑皮・橙皮・柚皮・金橘】【楊梅】乾し屑にして服めば酒で吐くを止める。【烏梅・榔梅・梨・樝子・榅桲・柿・椑柿・銀杏・橄欖・檳榔・波羅蜜・都桷子・枳椇子・鹽麩子・醋林子・甘蔗・沙糖・石蜜・藕・芰・西瓜・丁香】【長壽仙人柳】酒病には、末にして酒で服す。【河邊木】端午に酒に入れて飲めば酒に醉はなくなる。【桑椹汁・苦竹葉】「水石」【新汲水】燒酒で醉死したものには、髪及び手足を浸してから少量を灌ぎ込む。

【食鹽】牙に擦り付けて含嗽すれば酒毒を解す。豫め一匙を食つてから酒を飮めば醉はない。【蓬砂】これを服んでから酒を飮めば醉はない。【雄黃】酒を飮んで吐癖のあるものは、巴豆、蠍梢、白麪と共に丸にして服す。【石灰】酒毒で下痢するには、水で練つて煆き、醋糊で丸にして服す。【鉛霜】「蟲魚」【五倍子・鰣魚・黃顙魚】「介部」【蚌・蠣黃・蛤蜊・車螯・田蠃・蝸蠃・海月】「禽部」【雞内金】酒積を消す。豆粉と共に丸にして服す。【五靈脂】酒積の黃腫には、麝香を入れ丸にして服す。【猳猪項肉】酒積の黃脹には、甘遂と共に服して酒布袋を取り下す。【猪腎】酒積には葛粉をまぶして炙いて食ふ。【牛䏐・狐膽・麝香】いづれも酒毒を解す。【鹿茸】飮酒の爲に泄し(一)衝任虛寒するには、狗脊、白斂と共に丸にして服す。【驢蹄底】過度の飮酒で腸を穿つやうになつたものには、水で煮た濃汁を冷して服す。

(二)呑酸嘈雜　痰食で熱する症狀と、陽氣が下陷して虛する症狀とある。

痰食　「草部」【蒼朮・香附・黃連・蓬莪茂・縮砂仁・半夏・雞蘇】生で食ふ【薺薴】

(一)衝任ハ衝脈、任脈。

(二)呑酸ハスキオクビ。嘈雜ハムネヤケ。

(二)陽陷ハ陽氣ノ内陷。

生で食へば腸間の酸水を去る。【旋覆花】「菜穀」【蘿蔔】物を食ふ毎に酸をなすには、生で食へば止る。【米醋】結氣、心中の酸水、痰飲を去る。【神麹・麥糵】「果木」【橘皮・木瓜・樝子・榠樝・榅桲・山樝】いづれも心間の酸水を除き惡心を止める。【胡桃】物を食つて醋心するには、乾薑と共に嚼み下せば立ろに止る。【檳榔】醋心して水を吐くには、橘皮と共に末にして服す。【大腹皮】痰膈で心の醋きには、躁氣の藥、鹽薑と共に煎じて服す。【厚朴】酸水を吐くものに用うれば胃氣を溫む。【樟材】宿食不消化で常に酸臭きものを吐くには、水で煎じた湯を服す【皂莢子心】嚼んで食へば膈痰の吞酸を治す。【巵子】「蟲獸」【蜆殼】吞酸で心の痛むには、燒いて服す。【羊屎】酒で煎じて服す。【頭垢】酸漿を噫吐するには、漿水で煎じて一盃を服す。

(二)**陽陷**　「草部」【人參】胸中の痰が酸水に變ずるものを消す。○妊娠で水を吐き、心が酸痛して飮食不能なるには、乾薑と共に丸にして服す。【柴胡】痰熱を除く。【升麻・葛根】凡そ胃弱、傷冷で陽氣を欝遏するには、右の三味で升發するがよし。【蓽茇】胃冷で口酸く、淸水を流し、心から臍にかけて痛むには、厚朴末、鯽魚肉と共に丸にして服す。【廉薑】胃口が冷えて淸水を吐くものに用ゐる。【草豆蔻・益智子・紅豆蔻　高

良薑】「木鱉」【呉茱萸】甚しき嘈心には、煎じて服す。これを飲んだ爲に二十年間もこの病が發らなかつたといふものがある。【魚鱠】心下の酸水に效がある。

(一)噎膈

噎病は咽嗌に在つて、主として氣に關係し、痰、積に因するものである。膈病は膈膜にあつて、主として氣に關係し、積を挾み、飲澼を挾み、瘀血を挾み、また蟲に因るものである。

氣を利し痰を化す　「草部」【半夏】噎膈、反胃で甚しく氣結するには、白麪、輕粉と共に丸にし煮食して效果を擧げる。【山豆根】研末し橘皮湯で服す。【昆布】氣噎で咽中に物があり、呑んでも吐いても取れぬやうな氣がするには、小麥を用ゐ煮て含み嚥む。【栝樓】胸痺、咽塞には、薤白、白酒と共に煮て服す。【蘆根】(二)五噎、吐逆には煎じて服す。【天南星・前胡・桔梗・貝母・香附子・紫蘇子・木香・藿香・澤瀉・縮砂・茴香・高良薑・紅豆蔻・草果・白豆蔻】【生薑】咽中に物があり呑んでも吐いても出ぬには、一月程含めば癒える。○噎氣には、薑を廁内に入れて浸しよく漂晒

(一)噎ハ食物ガ胃ノ上脘ノ奥ニツカヘテ下ラズムセビテ吐スルヲ云フ、膈ハ食ガ胸ノ下ニツカヘテ吐スルヲ云フ。

(二)五噎ハ憂噎、思噎、氣噎、勞噎、食噎。

(三)氣噎ハ寒氣胃膈ニ塡リ噎塞シテ通ゼズ喘悸シテ胸背痛ムヲ云フ。

(四)五膈ハ思膈、喜膈、怒膈、悲膈、憂膈。

(五)梅核氣ハ食道ニ梅核ノ如キ者アリ氣持ノ宜シカラザルヲ云フ、之ヲ吐ケドモ出デズ、呑メドモ下ラズ、然シ決シテ物アルニ非ズ、卽チ神經性ノ者ナリ。

して研末し、甘草末を入れて服す。【橘皮】(三)卒氣噎には、白い部分を取去り、焙じ研つて水で煎じて服す。○胸痺咽塞でむづ痒いやうに感じて唾するには、枳實、生薑と共に煎じて服す。【檳榔】五膈、(四)五噎には、杏仁と共に童尿で煎じて服す。【青橘皮・厚朴・茯苓・沈香】膈氣には、木香、烏藥、枳殼と共に末にし、鹽湯で服す。【檀香・蘇合香・丁香・枳殼・枳實】

結を開き積を消す 「草部」【三稜】氣脹を治し積氣を破る。○反胃には丁香末と共に服す。【蓬莪茂】積氣を破り、酸水を吐くを治す。【鬱金】惡血を破り痛みを止める。【阿魏】五噎、膈氣には、五靈脂と共に丸にして服す。【威靈仙】噎膈氣には、蜜と共に煎じて服し痰を吐く。【鳳仙子】噎食の下らぬには、酒に浸し晒して研り、酒で丸にして服す。【馬蹄香】噎食膈氣には、末にし酒で膏に熬つて服す。【紫金牛】噎膈を治す。【板藍汁】頻に飲めば噎膈を治し、蟲を殺す。【紅藍花】噎膈で食物を突き返すには、血竭と共に酒に浸して服す。【蕘花。甘遂】(五)梅核氣には、木香と共に末にして服す。【大黄】食後に吐き、大便祕結するには、甘草と共に煎じて服す。「穀菜」【杵頭糠】膈氣噎塞には蜜で丸にして噙嚥する。○卒噎にはこれを噙ひ汁を嚥み、或は煎じて飲む。【蕎麥稭

(六)人言ハ信石、即砒石。
(七)升打ハ乾餾シテ升化セシムルコト。

灰】鹼を淋取し、蓬砂を入れて服すれば噎食を治す。【韭汁】胃脘の血を去る。鹽を入れれば噎膈を治し、薑汁、牛乳を入れれば反胃を治す。「果木」【烏芋】五噎、膈氣に主效がある。【烏梅・杏仁・山楂・桃仁・桑霜】噎食、積塊を消す。【巴豆霜】「水石」【糧罌中水】飲めば噎疾に主效があり、蟲を殺す。【浸藍水】噎疾に主效がある。温めて一盃飲めば蟲を殺す。【梁上塵】噎膈、食積に主效がある。【硇砂】噎膈で食を吐き、積癥のあるものには、之を用うれば意表外の奇效がある。○蕎麪で包んで煨き、檳榔、丁香と共に末にして燒酒で服す。○(六)人言、黃丹と共に各々(七)升打して桑霜と共に末にし、燒酒で服す。○平胃散の末と共に點て三錢を服すれば、石のやうな黑い物を吐くものである。【黑鉛】膈氣には、水銀、人言と共に結砂し、阿魏を入れて丸にして服す。○灰を醋と共に熬膏し、蒸餅で和して丸にして服す。【綠礬】麪に包み泥固して煨き、それを研つて棗肉で丸にして服す。○鯽魚の腸を捨て膽を取つて釀し、それを煨いて末にして服す。【白礬】噎膈を治し、痰澼を化す。蒸餅で丸にして服す。○或は硫黃と共に炒り、硃砂を入れて丸にして服す。【雄黃・輕粉・石鹼・蓬砂・砒石】いづれも積垢を化し、噎膈を通ず。「服器」【寡婦木梳】灰に燒いて鑰匙湯で飲下す。「蟲部」【蛇

合蝦蟆】煆いて研り、酒で服す。【蜣螂】地牛兒と共に用ゐれば噎膈を治す。【壁虎】噎膈、反胃には、炒り焦して藥に入れる。【鯽魚】膈氣には大蒜を釀し、泥包して煨き焦し、平胃散に和して丸にして服す。「禽獸」【鳩】食へば噎せぬ。【巧婦窠】噎膈には、燒いて研り、酒で服すれば神驗がある。【鶻鵃】煆いて研り、酒で服す。【五靈脂】噎膈、痰涎、夾血。【鸕鷀頭】燒いて研り、酒で服す。【鷹糞】食物の咽につかへるには、灰に燒き水で服す。【白鵞尾毛】噎食には、灰に燒いて飲む。【雞嗉】噎氣して通ぜぬには、燒いて研り、木香、沈香、丁香、紅棗を入れ丸にして服す。【猴喉結】噎疾には晒して研り、五分を飯に入れて食ふ。【白水牛喉】噎膈で結腸して通ぜぬには、醋で五回炙いて末にし、一錢づつ飲めば立ろに效がある。【狗寶】噎食の病には、一分づつを威靈仙、食鹽と水に浸し、一日三回三日服すれば癒える。【黄狗膽】五靈脂に和して末し、丸にして服す。【狗屎中粟】噎膈で食を吐くには、粟だけ淘り淨めて粥に煮、薤白、沈香末を入れて食ふ。【狸骨】噎病で飲食の通らぬには、炒つて研り、白湯で服す。【羚羊角】噎塞不通には、研末して二錢づつ日に三回服す。【野人糞】噎膈を治す。阿魏末と共に薑片に蘸けて食ふ。【人溺・秋石】噎病には、一錢づつ服す。【人淋石】俗に澀飯

病と稱する噎食を治す。汁に磨つて服す。【人癖石】堅を消し、噎膈を治す。【天靈蓋】噎膈には、七箇を黑豆と共に煆いて研り、酒で一錢を服す。【人膽】噎膈病には糯米に盛つて陰乾し、黑くなつたものを十五粒づつ通草湯で飲下す。【胞衣水】膈氣、反胃には一鍾を飲む。蟲の出るものである。【頭垢】噎病に主效がある。酸漿で煎膏して用うれば立ろに癒える。【人屎】燒いて服す。

反胃(一)

主に虛に原因し、同時に氣、血、火、寒、痰、積を兼ねる。病が中焦、下焦に在つて食物の入らぬは火ある爲め、食後に吐き出すは火なき爲めである。

中を溫め結を開く　「草部」【附子】中を溫め積を破る。○反胃で食物を受付けぬには、石灰で泡熱して三回薑汁に淬し、丁香、粟米と共に煎じて服す。或は末にして舐め、或は丸にして噙む。○或は丁香を包んで薑汁で煮焙し、丸にして服す。【白豆蔻】脾虛の反胃には、丁香、縮砂、陳廩米と共に薑汁で丸にして服す。【白芷】(二)血風、反胃には猪血を蘸けて食ふ。【木香】丁香と共に煎じて服すれば反胃(三)關格を治す。【王瓜】

(一)反胃ハ朝食シ暮ニ吐シ、又ハ暮ニ食シ朝ニ吐スルモノ。
(二)血風ハ婦人產後ノ眩運。
(三)關格ハ吐逆シ且小便ノ通ゼザル病ナ云フ。

反胃には、焼いて研り酒で服す。或は平胃散末を入れる。【木鼈子】三十箇を皮油を取り、牛涎、蜂蜜各〻半斤を入れ、石器で緩緩と熬り乾して研り、日に一匙づつ粥に入れて食ふ。【火杴草】焙つて末にし、蜜で丸にして用ゐる。【蓽茇・草豆蔲・紅豆蔲・高良薑・肉豆蔲・藿香・撫芎・蘇子・前胡・香附・半夏】いづれも中を温め、食物を消化し、吐を止める。【三稜】丁香と共に末にして服す。【益智子】客寒が胃を犯して唾沫多きもの。「穀菜」【乾餳糟】薑と共に餅に擣いて焙じ研り、甘草、食鹽を入れて服す。【韭菜】鹽で煠熟して十回食へば、噎膈、反胃を治す。【生薑】汁で粥を煮て食ふ。○麻油で煎じ研り、軟かな柿に蘸けて食ふ。【白芥子】酒で二錢を服す【紫芥子・大蒜・乾薑・蘭香】餅にする。【蒔蘿・茴香・杵頭糠・蘿蔔】蜜で煎じて細かに嚼む。【薤白】「果木」【檳榔・青皮・橘皮】西壁土で炒り、薑、棗と煎じて服す。【胡椒】醋で七回煮て酒糊で丸にして服す。或は半夏を加へ、或は煨いた薑と共に煎じて服す。【畢澄茄】黒汁を吐出するには、米糊で丸にして服す。【枇杷葉】人參、丁香と共に煎じて服す。【栗子殼】煮汁。【松節】酒に煎じる。【千槌花】煮汁。【丁香】鹽梅と丸にして嚥む。○薑蔗汁で丸にして服す。○木香と共に煎じて服す。【桂心・沈

香・檀香・茯苓・厚朴・枳實】「金石」【雄黄・雌黄】甘草と共に丸にして服す。【鉛灰】醋で熬蒸し、餅で丸にして服す。【鉛丹】痰を墜し積を消するには、白礬、石亭脂と共に煆いて研り、丸にして服す。【水銀】鉛と共に結砂し、硫黄、官桂を入れて末にし、薑汁で服すれば反胃を清鎮する。【靈砂】反胃を鎮墜する靈薬である。【赤石脂】蜜で丸にして服す。【砒石】巴豆、附子、黄臘と共に丸にして服す。【白礬・丹砂・釜煤・朴消・蓬砂・輕粉・硇砂】「鱗介」【爛蛤】燒いて服す。【蚌粉】薑汁で服す。○田螺殻灰、烏梅と共に燒いて研り、人參湯で服す。【鯽魚】綠礬を釀し、煆き研つて服す。【鯉魚】童尿に浸して煨き、研末を粥に入れて食ふ。「禽獸」【抱出雞子殼】酒で服す。【雞膍胵皮】燒いて研り酒で服す。【鵜鶘皮毛】燒いて研り酒で服す。【五靈脂】狗膽汁で丸にし、熱薑酒に磨つて服す。○或は沈香、木香、阿魏を加へる。【猫衣】煆いて末にし、硃砂を入れて嚥ふ。【虎肚】煆いて研り、平胃散末を入れて服す。【虎脂】塊に切り麻油に浸して取り上げ、油一盃に酒一鍾を和して服す。慢性、急性に拘らず效がある。【猬皮】煮汁を服し、或は炙いて食ひ、或は燒灰を酒で服す。【白馬尿】熱して飲む。【驢尿】已上はいづれも蟲を殺す。【驢屎・羊屎】五錢を童尿で煎じて服

す。【牛齝草】杵頭糠、糯米粉、牛乳と和して丸にし、煮て食ふ。【羊肝子】煨いて研り、棗肉、平胃散末を入れ、沸湯に點て服す。

胃を和し燥を潤す　「草部」【人參】反胃吐食を止むるには煎じて飲み、或は粥に煮て食ひ、或は半夏、生薑と共に蜜で煎じて服す。【白朮・芍藥・蘆根】反胃、五噎、吐逆を止め、膈間の客熱を去る。煮汁を服す。【茅根】反胃上氣の客熱が胃に在るを除く。蘆根と共に煎じて汁を飲む。「穀菜」【山藥・粟米】丸にし醋で煮て呑む【罌粟】人參、山藥と共に煮て食ふ。【陳倉米】水で煎じて服し、或は焙じて末にし、沈香末を入れて服す。【馬齒莧】汁を飲む。【柳蕈】煎じて服す。【蓴心・麻仁・胡麻油】「果木」【杏仁・桃仁】【梨】丁香十五粒を添へ、煨いて食へば反胃を止める。【棠梨葉】炒つて研り、酒で服すれば反胃を止める。【甘蔗汁】薑汁と共に飲めば反胃を治す。【乾柿】滯のまま搗いて酒で服すれば、反胃を止め、胃を開き、痰を化す。【乾棗葉】丁香、藿香と共に煎じて服すれば反胃を止める。【石蓮】肉豆蔻の炒末を入れ蜜湯で服すれば反胃を止める。【烏芋】五噎膈氣に主效がある。【梓白皮】反胃に主效がある。【淡竹茹・竹瀝・醴泉・井華水】いづれも反胃に主效がある。【螺螄泥】一錢づつ火酒

で服すれば反胃を止める。【地龍屎】木香、大黄末と水で服すれば反胃を止める。【白堊土】醋で煆く。【西壁土・竈中土】おも湯で三錢を服す。【蠶繭】反胃吐食には、煎汁で雞子を煮て食ふ。【繰絲湯】粟米粥を煮て食へば反胃を止める。【牛羊乳】反胃で燥結するには、時時これを嚥む。或は湯劑に入れる。【牛涎】噎膈反胃には、水で二匙を服し、或は蜜を入れ、或は麝香を入れ、或は糯米粉を和し丸にして煮て食ふ。【羊肉】蒜、薤を添へて生で食ふ。【羊胃】羹にして食ふ。【烏雄雞】虛冷の反胃には、胡荽子を入れて煮て二羽を食へば癒える。【烏雌雞】香しく炒り、一夜酒中に入れて飮む。【反毛雞】人參、當歸と共に煮て食ふ。

嘔吐　痰熱と、虛寒と、積滯とに因るものである。

痰熱　「草部」【葛根】大熱の嘔吐、小兒の嘔吐には、粉を盪して食ふ。【澤瀉】水を行り吐を止める。【香附】妊娠の惡阻には、藿香、甘草と共に煎じて服す【黃連・苦耽】勞乏の嘔逆。【麥門冬】嘔吐燥渴を止める。【前胡】痰を化し吐を止める。【蘆根】嘔逆不食に主效があり、膈間の客熱を除く。水で煮て服し、或は童尿を入れる。【乾苔】煮

汁。【赤小豆・豌豆】嘔逆を止める。【綠豆粉・蒒草子】「果木」【茯苓・猪苓・巵子・楸白皮・梓白皮】嘔逆を去り氣を下す。【蘇方木】常に嘔吐するには、水で煎じて服す。【楊梅】嘔吐を止め煩慣を除く。【枇杷】吐を止め氣を下す。(一)【木白皮】嘔逆を止めるには、煮て服するが甚だ良好である。【葉】嘔吐止まぬを止める。「水石」【黄丹】吐逆を止める。【胡粉・水銀・鉛・滑石】暴の吐逆には、湯で二錢を服す。【石膏】胃火の吐逆。【陰陽水】數口飲めば落付く。「蟲部」【蟬蛻】胃熱で食を吐くには、滑石と共に末にして水で服す。【蘆蠹蟲】小兒が乳を飲んで吐逆するには、二個の煮汁を服ます。【羊屎】酸水を嘔吐するには、十個を酒で煎じて服す。【牛乳】小兒の乳を吐くには、葱、薑を入れ煎じて服ます。【兎頭骨】天行で吐いて止まぬには、燒き研つて飲む。【人乳】初生兒の吐乳には、籧篨篾鹽少量と共に煎汁し牛黄を入れて服ます。

虛寒　「草部」【細辛】虛寒嘔吐には、丁香と共に末にして服す。【蒼朮】胃を暖め、穀物を消化し、嘔吐を止める。【白朮】胃虛の嘔逆、及び產後の嘔吐。【人參】嘔吐、胃虛の痰を止めるには、煎汁に薑汁、竹瀝を入れて服す。○胃寒には丁香、藿香、橘皮と共に煎じて服す。○姙娠吐水には、乾薑と共に丸にして服す。【艾葉】口から淸水を吐

(一)木白皮詳ナラズ、金陵本ニモ木白皮トアリ、是枇杷ノ木白皮ナラン、次ノ葉モ亦枇杷葉ヲ指スモノナラン。

くには煎じて服す。【半夏】嘔逆、厥冷で內に寒痰あるには、麪で團子にし煮て呑む。○姙娠嘔吐には、人參、乾薑と共に丸にして服す。○小兒の痰吐には、麪と共に丁香を包み、煨熱して丸にして服す。【南星】痰を除き、氣を下し、嘔を止める。【旋覆花】食物の通らぬ嘔逆に用ゐ、痰を消し氣を落付ける。【蘇子】吐を止める。【香薷】傷暑の嘔吐。【藿香】脾胃吐逆の要藥である。【木香・當歸】中を温め嘔逆を止める。【茅香】胃を温め吐を止める。【白豆蔻】吐逆を止め冷氣を散ず。胃冷で忽ち惡心するには、數箇を嚼み酒で飮下す。○小兒の胃寒吐乳には、縮砂、甘草と共に末にして服ます。【生附子】胃寒の痰あるには、半夏、生薑と共に煎じて服す。【縮砂仁・廉薑・白芷・紅豆蔻・高良薑】中を温め、氣を下し、食物を消化する。○忽ち淸水を嘔くには、含み嚥めば平靜になる。【肉豆蔻】中を温め、氣を下し、吐を止め、また小兒の(二)乳霍に效がある。【益智子】胃冷。「穀菜」【糯米】虛寒の吐逆。【燒酒・白扁豆・豇豆・乾薑・生薑】醋で煎じて食ふ。○又半夏と共に煎じて服すれば痰を去り、氣を下し、蟲を殺し、嘔吐を止める。【芥子】胃寒の吐食。【白芥子】「果木」【橘皮】吐を止め、痰を消し、中を温める。○嘈雜で淸水を吐くには、白を棄て研末し、時時

(二)字書ニ霍ハ散之速ナルモノトアリ。乳霍ハ吐乳ヲ云フナラン。

舐める。【蜀椒】吐を止め蟲を殺す。【胡椒】胃中の寒痰で食後水を吐く病を去るに甚だ效驗がある。【蓽澄茄・呉茱萸・食茱萸】いづれも冷吐を止める。【檳榔】吐水を止める。橘皮と共に煎じて服す。【沈香・檀香・丁香】吐を治す。陳皮と共に煎じて服す。小兒は丸にして服す。或は半夏と共に丸にして服す。【厚朴】痰壅、嘔逆で食物の通らぬには、薑汁で炙り、研つておも湯で服す。〇胃冷で吐きの止まぬに主效がある。【訶梨勒】嘔吐不食を止め、痰を消し、氣を下す。炒つて研り糊で丸にして服す。「石獸」【赤石脂】飲食の冷で澼となり水を吐くには、毎日酒で方寸匕づつ服す。一斤を服し盡せば終身痰水を吐かぬ。【硫黃】種種の吐逆には、水銀と共に研り、薑汁糊で丸にして服す。【鹿髓】嘔吐に主效がある。【熊脂】飲食嘔吐。

積滯

「草穀」【香附子】嘔吐を止め、氣を下し、食物を消化する。【縮砂蔤】中を溫め、食物を消化し、吐を止める。【大黃】口中常に淡泔を嘔くには煎じて服す。【續隨子】痰飮で食物が通らず嘔吐するもの。【牽牛・神麴・麥糵】「木禽」【巴豆・五靈脂】嘔吐で湯藥が咽を通らぬを治す。狗膽で丸にして服す。

(一) 噦啘　痰熱と、虚寒とある。

痰熱　「穀菜」【蘆根】客熱嘔噦には、煮汁を服す。【茅根】温病の熱噦には、葛根と共に煎じて服す。【蘇葉】卒啘の止まぬには、濃く煎じて呷ふ。【葛根汁】乾嘔の止まぬにはこれを呷ふ。【前胡・胡麻】嘔啘の止まぬには、清油と合せ煎じて服す。【大麻仁】嘔逆を止めるには、炒つて水に研り、汁を絞つて服す。【小麥・小麥麪】嘔噦の止まぬには、酷で團子にし、煮熟して熱い茶で呑む。なほ落付かぬときは再び試みる。【赤小豆】嘔逆を止める。【生薑】乾嘔、厥逆には、時時これを嚼む。また半夏と共に煎じて服するが嘔に對する最良の方である。【蘿蔔・蔓菁子】「果木」【枇杷】吐逆を止める。○葉は氣を下し、痰を消す。啘噦の止まぬには、煮汁し、或は嚼んで汁を嚥む。【楊梅】嘔噦を止め、痰を去る。【枳椇】嘔噦を止め、酒毒を解す。【甘蔗】嘔噦息まぬを止めるには、薑汁を入れて服す。【茯苓・猪苓・淡竹茹・仙人杖】噦氣嘔逆には煮汁を服す。「水石」【陰陽水・古磚】煮汁。【滑石・蠟螉・黄蜂子】乾嘔。「蟲鱗」【蟬蛻】胃熱嘔逆。【盧蟗蟲・海蛤・蛤粉・白蜆殼】

(一)噦啘ハ吐逆乾嘔ノ汎稱。

いづれも嘔啘を止める。【蛇蛻】嘔を止める。「禽獸」【雞子】天行嘔逆には、水で煮て浸冷して之を呑む。【雞卵黄】鍊汁にして服す。【雁肪】結熱の嘔逆を治す。【水牛肉】啘に主效がある

虛寒　「草部」【細辛】虛寒の嘔噦には、丁香、柿蔕と共に湯で服す。【半夏】傷寒の乾啘には、末にして薑湯で服す。○胃寒の噦逆、停痰、留飲には、霍香、丁香と共に煎じて服す。○支飲で嘔き、嘔逆して死せんとするには、生薑と共に煎じて服す。【燕蓐草】燒いて服すれば嘔噦を止める。【白朮】產後の嘔噦には、生薑と共に煎じて服す。【草豆蔻】胃弱の嘔逆には、高良薑と共に煎じて汁を麪に和して煮て食ふ【高良薑】胃寒の嘔噦を止める。【蓽茇】冷痰惡心には、末にして服す。○胃冷で口から清水を流し心腹の痛むには、厚朴、鯽魚と共に和し丸にして服す。【白豆蔻】胃冷で突然(二)惡心するには、嚼んで酒で飲下す。【益智子・麻黃】いづれも客寒が胃を犯して唾多きを止める。【桔梗】寒嘔を止める。【木香・藿香・旋覆花・紅豆蔻・肉豆蔻・附子・烏頭・蒟醬・蒼朮】「穀菜」【糯米・糟筍中酒】噦氣、嘔逆を止める。或は人參及び牛乳を加へるも良し。【燒酒・白扁豆】【乾薑】乾嘔を止める。【薤】乾嘔を止めるには

(二) 惡心ハムカツキ。

煮て服す。【芥・蘭香】嘔啘には汁を取つて服す　「果部」【橘皮】濕を除き、痰を消し、嘔を止める。凡そ淸水を吐くには、白を取去つて研末し、時時に舐める。【橙皮】惡心を止め、氣を下し、痰を消す。【木瓜】嘔逆、心膈の痰嘔を止める。【榠樝】惡心を止め、胸中の酸水を去る。【樝子】同上【山樝・葡萄藤葉・蘡薁藤】いづれも嘔啘、厥逆に主效がある。煮汁を飲む。【五子實】【柿蔕】煮汁を飲めば欬逆噦氣を止める。〇丁香、生薑と共に煎じて服す。寒には良薑、甘草を加へ、痰には半夏を加へ、虛には人參を加へ、氣には陳皮、靑皮を加へる。【檳榔】【畢澄茄】寒嘔を止める。【吳茱萸】「木石」【梓白皮】溫病が寒に感じて胃啘に變したるには、煮汁を服す。【丁香】胃寒の欬逆噦氣には、煮汁を服す。【訶黎勒】嘔逆不食には炒つて研り、糊で丸にして服す。【厚朴】痰壅、嘔噦。【黃丹・代赭石・硫黃】「鱗獸」【鹹魚】之を食へば嘔が已む。【鯽魚・石首魚・鼈肉】【羊乳】大人の乾嘔、小兒の噦啘には時時に呷ふ。【靑羊肝】病後の嘔逆で痰がからまるにはこれを食ふ。三回以上はよくない。【牛脾】【鹿角】食後嘔を催すには、燒いて研り、人參末と共に薑湯で服す。〇小兒の噦痰には、大豆と共に末にし乳房に塗つて飲ます。【獺骨】嘔噦止まぬには煮汁を飲む。

(一)呃逆

呃の音は噫（オク）である。平ならざるの形である。これには寒あり、熱あり、虚あり、實あり、氣が臍下から衝上して呃呃の聲をなすもので、これは衝脈の病である。世間では欬逆と呼んで居るが、古にいふ欬嗽、氣急の欬逆とは同一でない。朱肱は噦を欬逆とし、王履は欬嗽を欬逆といふがいづれも正しくない。

虚寒　「草穀菜部」【半夏】傷寒で呃逆するは危險の證である。一兩を生薑と共に煎じて服す。【紫蘇】欬逆(二)短氣には、人參と共に煎じて服す。【烏頭】陰毒の欬逆には、乾薑と等分を研り、色の變るまで炒り、煎じて服す。【縮砂】薑皮と共に酒に浸して服す。【麻黃】燒いて烟を嗅げば立ろに止む。【細辛】卒客忤逆で口が利かぬには、桂と共に口に含む。【旋覆花】心痞で噫の止まぬには、代赭石と共に服す。【高良薑・蒟醬・蘇子・荏子・紫菀・女菀・肉豆蔻】【刀豆】病後の呃逆には、殼のまま

(一)呃逆ハシヤクリ。呃字餩ニ作リテ、イツギヤクトモ訓ス。

(二)短氣ハ呼吸促進ナリ。

(三)上證ハノボセ性ノコト。

燒いて服す。【薑汁】久しく欬噫を患つて、一時に四五十も呃呃と連發するには、汁に蜜を和して煎じ、三回服すれば立ろに效がある。○同時に背を擦るがよい。【蘭香葉】欬噫には、一兩を生薑四兩と共に擣き、麪四兩を入れ、椒鹽で燒餅にし、よく煨いて食ふ。「果木」【橘皮】呃逆には、二兩を白い部分を棄て煎じて服す。或は丁香を加へる。【荔枝】呃噫には、七箇を燒いて末にし、湯で飲下せば立ろに止む。【胡椒】傷寒で欬逆が日夜間斷なきは、寒氣が胃を攻めるのである。麝を入れ酒で煎じて服す。【畢澄茄】(三)上證を治するには高良薑と共に末にして煎じ、醋少量を入れて服す。【吳茱萸】欬逆を止める。○腎氣が上つて咽喉を刺戟し、逆氣が連りに催してなほ出でず、或は數十回聲ばかり出し、苦んで吹き切れぬは、寒が胃脘を傷つて腎が虛し、氣が逆上して胃を壓迫するのであつて、氣と相伴ふものである。これには橘皮、附子と共に丸にして服す。【蜀椒】呃噫には、炒り研つて糊で丸にし、醋湯で飲下す。【梨木灰】二十年の長い結氣で欬逆し、氣が臍の邊から起つて上衝し、胸が滿ち、氣が胃に促欝するには、麻黃などの諸藥と共に丸にして服す。【石蓮子】胃虛の呃逆には、炒つて末にし水で服す。○一には丁香、茯苓を加へる。【欓子・丁香】傷

寒の呃逆、噦逆には、柿蒂と共に末にし、人參湯で服す。【沈香】胃冷で久しく呃するには、紫蘇、白豆蔻と共に末にして湯で服す。【乳香】陰證の呃逆には、硫黄と共に燒いてその烟で熏べ、或は酒で煎じて嗅ぐ。【桂心】「土石」【伏龍肝】産後の欬逆には、丁香、白豆蔻と共に末にし、桃仁、茱萸の煎湯で飲下す。【代赭石】心痞噫逆。【硫黄】「蟲」【黄蠟】陰病で呃するには、燒いてその烟で熏ずる。

濕熱　「草果」【大黄】傷寒の陽證で呃逆し便祕するを下す。或は蜜で(四)兌導する。【人參蘆】氣が昏瞀し呃噫するを吐かす。【人參】吐き下した後、胃虛し膈熱して欬逆するには、甘草、陳皮、竹茹と共に煎じて服す。【乾柿】産後の欬逆、心煩には、水で煮て呷ふ。【柿蒂】煮て服すれば欬逆噦氣を止める。【青橘皮】傷寒の呃逆には、末にして服す。「木石」【枳殼】傷寒の呃噫には、木香と共に末にし白湯で服す。【淡竹葉・竹茹・牡荊子】【滑石】病後の呃噫には、參、朮と共に煎じて服す。これを益元散といふ。

(一)霍亂

濕熱と寒濕とあり、いづれも七情の內傷、六氣の外感に因るものである。

(四)字書ニ兌ハ達ナリトアリ。

(一)霍亂ハ夏月ノ吐瀉病。

(二)轉筋ハ局發性痙攣、スヂツマリ。

(三)蓬蘽ハ蘆ノ花。

濕熱　「草部」【香薷】霍亂(二)轉筋で腹痛するには、煮汁を服す。【石香薷・朮】胃を健にし、脾を安じ、濕熱を除き、霍亂の吐、下を止める。【蓼子】霍亂の煩渴には、香薷と共に煎じて服す。【前胡・桔梗】いづれも氣を下し、霍亂轉筋を止める。【蘇子・紫蘇】水で煮て服すれば霍亂の脹滿を止める。【薄荷・雞蘇・扁竹】霍亂の吐、下には、豉を入れて羹に煮て食ふ。【蘆根莖葉】霍亂の煩悶には、水で煮て汁を服す。脹痛には薑、橘を加へる。(三)【蓬蘽】煮汁を服す。【蘡薁藤汁・通草・防已】白芷と共に末にして服す。【木通・澤瀉・芍藥】霍亂轉筋【乾苔】霍亂の止まぬには、煮汁を服す。【菫舌・女菀・水堇・海根】「菜」【黄倉米・粟米・丹黍米・蜀黍・黄白粱米】いづれも霍亂の大渇で危篤なるに主效がある。煮汁、或は水に研つて絞汁を飲む。【粟米泔・粳米】霍亂の煩渴には、水に研つた汁に竹瀝、薑汁を入れて飲む。【白扁豆】霍亂の吐痢の止まぬには、研末を醋で服す。○花、葉も皆絞汁に醋を入れて服す。○香薷、厚朴と共に煎じて服す。【豌豆】香薷と共に煎じて服す。【豇豆・大豆】霍亂の腹脹で痛むには、生で研つて水で服す。【綠豆葉】絞汁を醋で服す。【綠豆粉】新水で調へて服す。【水芹】小兒の吐瀉を止める。「果木」【木瓜】霍亂で甚しく吐下し轉筋して

止まぬには、水で煎じ或は酒で煎じて服す。○核皮び枝、葉、皮、根も皆用ゐ得る。【榠樝・樝子】同上。【梨葉】煮汁を服す。【棠梨枝葉】木瓜と共に煎じて服す。【梅葉】煮汁を服す。【烏梅】吐逆、霍亂を止め、氣を下し、痰を消し、渇を止める。【鹽梅】煎汁を呷ふ。【藕汁】薑汁を入れて飲む。【蓮薏】霍亂を止める。【巵子】霍亂轉筋には、焼いて研り湯で服す。【桑葉】煎じて飲む。【桑白皮】霍亂の吐瀉を止める。【荊葉】煎じて飲む。【柏木】轉筋を洗ふ。【槐葉】桑葉、甘草と共に煎じて飲む。【蘇方木】煎じて飲む。【楓皮】「黑醬」【廁籌】中惡、霍亂轉筋には、牀の下で烟に焼いて熏ずる。【廁戸簾】焼灰を酒で服めば、小兒の霍亂に主效がある【尿桶板】煎じて服す。【敗木梳】霍亂轉筋には、一枚を灰に焼いて酒で服す。【寡婦薦】二十一莖煮汁は小兒の霍亂疾を止める。【頭繒】霍亂の吐痢には、本人のものを泡汁して呷ふ。【故麻鞋底】霍亂轉筋には、焼いて酒に入れて飲む。【路旁草鞋】洗淨し煎じて飲む。【綿絮】霍亂轉筋には、酒で煮て痛みの箇所を裹む。【青皮】浸した汁に薑汁を和して服すれば霍亂を止める。「水十二」【東流水・井泉水】飲み且つ兩足を浸す。【山岩泉水】飽くほど多量に飲む　これを洗腸といふ。【醴水・熱湯】轉筋には、器に入れて痛

(四)乾霍亂ハ吐セントシテ吐セズ、瀉セントシテ瀉セズ、心腹絞痛脉沈伏シテ無キガ如キヲ云フ。

所を熨す。【生熟湯】飲下せば落付く。【酸漿水】乾薑屑を煎じて呷ふ。【地漿】(四)乾霍亂で瀕死なるは、これを飲めば癒える。【東壁土】煮汁を飲む。【釜臍墨】湯に泡けて一二口飲めば止る。【倒掛塵】湯に泡けて飲む。【土蜂窠】小兒の吐瀉には、炙き研つて服す。【蜣螂轉丸】燒き研つて酒で服す。「金石」【鉛丹】霍亂に主效がある。【黑鉛】水銀と共に結砂し、丸にして服す。【水銀】冷熱に拘らず、吐瀉霍亂には、硫黃と共に研末して服し、また丸にして服す。【古文錢】霍亂轉筋には、七枚を木瓜、烏梅と共に煎じて服す。【硃砂】霍亂轉筋で絶息し微に心下の溫い者には、二兩を蠟三兩に和して烟に燒き熏じて汗を出させれば甦る。【石膏】小兒の傷熱吐瀉で黃色になつたものには、寒水石、甘草と共に末にして服す。【滑石】伏暑の吐瀉には、藿香、丁香と共に末にして服す。【玄精石】冷熱の霍亂には、硫黃、半夏と共に丸にして服す。【消石】硫黃、滑石、礬石、白麪と共に丸にして服すれば、暑季の吐瀉諸病を治す。【白礬】沸湯で二錢を服す。「蟲獸」【蜜蠟】霍亂の吐痢には、一彈丸を酒で化して服す。【牛涎】小兒の霍亂には、鹽少量を入れて服す。【牛齝草】霍亂には、人參、生薑と共に漿水で煎じて服す。【烏牛屎・黃牛屎】絞汁を服す。【白狗屎】絞汁を服す。【人尿】小

兒の霍亂には、乳房の上へ抹して乳を飲ませる。

寒濕　「草部」【藿香】霍亂腹痛で瀕死なるには、橘皮と共に煎じて服す。○暑季には、丁香、滑石と共に末にして服す。【木香】霍亂轉筋には、末にして酒で服す。【香附子・附子】霍亂吐下には、末四錢に鹽半錢を入れ、水で煎じて服す。○小兒の吐瀉して小便の白きには、熟附子、白石脂、龍骨と丸にして服す。【南星】吐瀉、厥逆で人事不省なるには、末にして薑、棗と共に煎じて服し、醋で調へて足心に貼る。【半夏】霍亂の腹滿には、桂と共に末にして服す。【人參】霍亂吐痢を止めるには、煎汁に雞子白を入れて服す。或は丁香を加へ、或は桂心を加へる。【縮砂蜜・華茇・蒟醬・山薑・杜若・山柰・劉寄奴・藒車香】いづれも中を溫め、氣を下し、食物を消化し、霍亂を止める。【肉豆蔻】中を溫め、食物を消化する。霍亂の脹痛には、末にして薑湯で服す。【白豆蔻】冷滯を散じ、脾胃を整へる。【草豆蔻】中を溫め、食物を消化し、氣を下す。霍亂煩渴には、黃連、烏頭と共に煎じて飲む。【高良薑】中を溫め、食物を消化し、氣を下す。霍亂腹痛には、香しく炙いて煮、酒或は水で煎じて冷飲する。【蓬莪茂】霍亂の冷氣。【艾葉】霍亂轉筋には煎じて服す。【水蓼】霍亂轉筋には煎じて飲み、

且つ脚に擦る。「穀菜」【糯米】霍亂後吐逆の止まぬのを止めるには、水で研つて汁を服す。【糯米泔】霍亂煩渴を止める。【燒酒】新汲水に和して飲む。【醋】霍亂吐痢、或は吐痢し得ぬものには、煎じて服す。〇轉筋には、綿に蘸けて貼る。【葱白】霍亂轉筋には、棗と共に煎じて服す。【薤】霍亂(五)乾吐には、度度煮て食ふ。【小蒜】煮汁を飲み、且つ臍に貼り、七壯を灸する。【葫蒜】轉筋には、擣いて足の心に貼る。【芥子】擣き末にして臍に傅ける。【白芥子・蔓菁子】煮汁を服す。【乾薑】霍亂轉筋には茶で一錢を服す。【生薑】酒で煎じて服す。【蒔蘿・茴香】「果木」【橘皮】濕痰、霍亂を除く。一點胃氣があれば、之を服すれば囘生する。藿香と共に煎じて服す。尚ほ正氣付かぬときはこれを灌ぐ。【檳榔・大腹皮・榔子皮】煮汁を飲む。【桃葉】霍亂腹痛を止むるには、煮汁を服す。【胡椒】十四粒を吞み、或は綠豆と共に研つて服す。【畢澄茄・吳茱萸】煮て服す。或は乾薑を入れる。〇葉を用ゐても良し。【食茱萸・丁香】末にして服す。【丁皮・桂心・沈香・白檀香】磨汁。【乳香・安息香・蘇合香・樟腦・樟材・楠材・釣樟】磨汁。【烏藥】いづれも中惡、霍亂の心腹痛に主效がある。【烏木屑】酒で服す。【訶棃勒】風痰、霍亂には、末にして酒で服す。

(五) 乾吐ハ吐セントシテ吐セザルヲ云フ。

小兒は湯で服す。【皂莢】霍亂轉筋には鼻に吹込む。【厚朴】霍亂の脹滿、腹痛には、末にして服す。○或は桂心、枳實、生薑を加へて煎じて服す。【海桐皮】中惡、霍亂には煎じて服す。「金石」【硫黄】伏暑の傷冷吐瀉には、消石と共に炒つて砂にし、糯糊で丸にして服す。○或は水銀と共に研つて黑くし、薑汁で服す。○暑季の吐瀉には、滑石と共に末にし米飲で服す。【陽起石・不灰木】霍亂・厥逆には、陽起石、阿魏、巴豆と共に丸にして服す。【炒鹽】霍亂腹痛を熨す。○轉筋で極端に苦むには、臍に盛つて灸する。【銅器】霍亂轉筋の腹痛には、炙り熱して熨す。

積滯　「草部」【大黄】巴豆、鬱金と共に丸にして服すれば乾霍亂を治す。【陳倉米】吐泄には、麥芽、黄連と共に煎じて服す。【穬麥蘖・神麴】「木部」【巴豆】伏暑の傷冷には、黄丹と共に蠟で丸にして服す。【樟木】乾霍亂で吐かず瀉せぬには、煎じて服し、吐かす。「石部」【食鹽】乾霍亂に吐かす。「器部」【屠砧上垢】乾霍亂には酒で一塊を服して吐かす。「禽部」【雄雀糞】乾霍亂の脹悶で極端に苦むには、二十一箇を研つて酒で服す。「人部」【百齒霜】小兒の霍亂には、水で小量を服す。

(一)泄瀉　濕熱、寒濕、風暑、積滯、驚痰、虛陷である。

濕熱　「草部」【白朮】濕熱を除き、脾胃を健にする。○濕泄には、車前子と共に末にして服す。○虛泄には、肉豆蔻、白芍藥と共に丸にして服す。○久泄には、茯苓、糯米と共に丸にして服す。小兒の久泄には、半夏、丁香と共に丸にして服す。○老人の脾泄には、蒼朮、茯苓と共に丸にして服す。○老少の滑泄には、山藥と共に丸にして服す。【蒼朮】注ぐが如くに濕泄するには、芍藥、黃芩、桂心と共に煎じて服す。○暑季の暴泄には、神麴と共に丸にして服す【車前子】暑季の暴泄には、炒り研つて服す。【苧葉】俄に劇く水泄するには、陰乾したものを研つて服す。【秦艽】暴泄で(二)飲を引くには、甘草と共に煎じて用ゐる。【黃連】濕熱脾泄には、生薑と共に末にして服す。○食積脾泄には、大蒜と共に丸にして服す。【胡黃連】(三)疳瀉。【澤瀉・木通・地膚子・燈心】「穀菜」【粟米】いづれも濕熱を除き、小便を利し、煩渴を止め、脾胃を燥す。【青粱米・丹黍米・山藥】濕泄には、蒼朮と共に丸にして服す。【薏苡仁】「木石」【巵子】食物が直ぐそのまゝ出るには、十箇を微し炒り煎じて服す。【黃蘗】小兒の熱瀉には、焙

(一)泄瀉、クダリバラ。腸加多兒。

(二)飲ヲ引クトハ咽ノ渇クヲ云フ。

(三)疳瀉ハ疳ヨリ起ル下痢。

じ研つて米湯で服し、下焦の濕熱を去る。【茯苓・猪苓】【石膏】水泄で腹が雷鳴するには、煨いて研り、飯で丸にして二十丸づつ二服すれば癒える。【雄黃】暑毒泄痢には、丸にして服す。【滑石】「獸部」猪膽、(四)白通湯に入れて少陰下痢を止める。

虛寒　「草部」【甘草・人參・黃芪・白芍藥】肝を平にし、脾を補ふ、白朮と共に丸にして服す。【防風・藁本】風を治し、風を泄し、濕に勝つ。【火杴草】風氣が腸胃を行つて泄瀉するには、醋糊で丸にして服す。【蘼蕪】濕泄には煮汁を服す。【升麻・葛根・柴胡】いづれも虛泄、風泄、陽氣下陷で泄するに主效がある。【半夏】濕痰泄には棗と共に煎じて服す。【五味子】(五)五更腎泄には茱萸と共に丸にして服す。【補骨脂】久しき水泄には、粟殼と共に丸にして服す。○脾胃虛泄には、豆蔻と共に丸にして服す。【肉豆蔻】中を溫め、食物を消化し、腸を固め、泄を止める。○熱泄には、滑石と共に丸にして服す。○冷泄には、附子と共に丸にして服す。○滑泄には、粟殼と共に丸にして服す。○久泄には、木香と共に丸にして服す。○老人の虛泄には、乳香と共に丸にして服す。【木香】煨熱して用うれば大腸を實し、胃氣を和す。【縮砂】虛勞、冷泄、宿食。【草豆蔻】暑季の冷泄で傷めたもの。【益智子】腹脹し突然

(四) 白通湯ハ葱白、乾薑、附子右三味ノ合劑。

(五) 五更瀉一名腎瀉、腎脾虛シテ曉每ニ瀉スルモノナリ。

泄して日夜止まず、諸藥の效なきは元氣の脫であるから、二兩を濃煎して服す。【蓽茇】暴泄で身體が冷え、自汗して脉の微なるには、乾薑、肉桂、高良薑と共に丸にして服す。これを已寒丸と名ける。【附子】少陰下痢、厥逆には、乾薑、甘草と共に煎じて服す。○臟寒脾泄には、肉豆蔻と共に丸にして服す。○大棗と煮て丸にして服す。○暴泄の脫陽、久泄の亡陽には、人參、木香、茯苓と共に煎じて服す。○老人の虛泄には、赤石脂と共に丸にして服す。【草烏頭】水泄寒痢には、半生半炒にし丸にして服す。【艾葉】泄瀉には、吳茱萸と共に煎じて服す。○薑と共に煎じて服す。【莨菪子】久泄には大棗と共に燒いて服す。【菝葜】「穀菜」【陳廩米】腸胃を澀し、脾を暖める。【糯米粉】山藥、沙糖と共に食へば久痢泄を止める。【燒酒】寒濕泄。【黃米粉・乾麨・乾餻】いづれも老人の久泄を止める。【罌粟殼】水泄の止らぬは澀するがよし。烏梅、大棗と共に煎じて服す。【神麴・白扁豆・薏苡仁】【乾薑】中寒水泄には、炮し研つて飮で服す。【胡蒜・薤白・韭白】「果木二」【栗子】煨いて食へば注ぐやうな冷泄を止める。【烏梅】腸を澀し、渴を止める。【酸榴皮】十年二十年の久泄には、焙じて研り米飮で服すれば止る。【石蓮】寒濕、脾泄、腸滑を除く。炒り研つて米飮で服す。

【胡椒】夏季の冷泄には、丸にして服す。【蜀椒】老人の濕泄、小兒の水泄には、醋で煮て丸にして服す。○久泄、飧泄で穀物の消化せぬには、蒼朮と共に丸にして服す。【吳茱萸】老人の脾冷泄水には、煎じて鹽を入れて服す。【橡斗子・大棗・木瓜・榅桲・都桷・橘子】【訶黎勒】泄を止め腸を實す。○久泄には、煨いて研り粥に入れて食ふ。○肉豆蔻と共に末にして服す。○長く服する方としては、厚朴、橘皮と共に丸にする。【厚朴】泄を止め、腸を厚くし、胃を温め、腹中の鳴るを治す。【丁香】冷泄虛滑で水穀の消化せぬに效がある。【乳香】洩澼、腹痛。【桂心・沒石子・毘黎勒】「石蟲鱗介」【白堊土】水泄には乾薑、楮葉と共に丸にして服す。【石灰】水泄には茯苓と共に丸にして服す。【赤石脂】滑泄、疳泄には、煆き研つて米飮で服す。○大腸寒泄、遺精には、乾薑、胡椒と共に丸にして服す。【白石脂】滑泄には、乾薑と共に丸にして服す。○龍骨と共に丸にして服す。【白礬】滑泄、水泄を止めるには、醋糊で丸にして服す。老人には、訶子を加へる。【消石】伏暑の泄瀉には、硫黄と共に炒り丸にして服す。○硫黄、白礬、滑石、飛麪と共に水で丸にして服す。【硫黄】(六)元臟の冷泄には、黃蠟で丸にして服す。久泄には、青鹽を加へる。○脾虛で白い粘液を下すには、共に

(六)元臟ハ大小腸ヲ指ス、硫黄附方ヲ見ヨ。

（七）精滑ハ遺精。

炒り麪で丸にして服す。○氣虛暴泄には、枯礬と共に丸にして服す。○伏暑の傷冷には、滑石と共に末にして服す。或は胡椒と共に丸にして服す。【禹餘糧】冷勞で腸泄の止まぬには、烏頭と共に丸にして服す。【陽起石】虛寒の滑泄、厥逆、（七）精滑には、鍾乳、附子と共に丸にして服す。【鍾乳粉】大腸冷滑には、肉豆蔻と共に丸にして服す。【霹靂碪】驚泄を止める。【五倍子】久泄には丸にして服す。○水泄には枯礬を加へる。【龍骨】滑泄には赤石脂と共に丸にして服す。【龜甲】久泄。「禽獸」【烏雞骨】脾虛の久泄には、肉豆蔻、草果と共に煮て食ふ。【黃雌雞】【羖羊角灰】久泄には礬と共に丸にして服す。【鹿茸】酒を飲むと直ちに泄するには、蓯蓉と共に丸にして服す。【猪腎】冷痢久泄には、骨碎補末を摻り煨いて食ふ。【猪腸】臟寒久泄には、吳茱萸と共に蒸して丸にして服す。【猪肝】冷勞虛泄。【牛髓】溏痢。

積滯　「穀木石土」【神麴・麥糵・蕎麥粉】脾積泄には沙糖水で三錢を服す。【蕪荑】久しく止まぬ氣泄、小兒の疳泄には、豆蔻、訶子と共に丸にして服す。【楮葉】一切の泄痢を止める。巴豆皮と共に炒つて研り蠟で丸にして服す。【巴豆】積滯泄瀉。腸を通じ、泄を止める。○夏季の水泄及び小兒の吐瀉、下痢には燈火の上で燒き、蠟で

丸にして水で服す。【黄丹・百草霜】いづれも積泄を治す。

外治　【田螺】臍に傅ける。【木鼈子】丁香、麝香と共に臍上に貼り虚泄を治す。【蛇牀子】熟艾と各〻一兩、木鼈子四箇を研勻ぜ、綿に包み臍上に置いて熨斗で熨す。【萆麻仁】七箇を熟艾半兩、硫黄二錢と共に上記の如くする。【猪苓】地龍、針砂末と共に葱汁で和して臍に貼る【椒紅】小兒の泄には、酥で和して(八)顖に貼る。萆麻九箇を顖に貼るもよし。【巴豆紙】小兒の泄には、花形に剪つて(九)眉心に貼る。【大蒜】兩足心に貼る。臍に貼るもよし。【赤小豆】酒で調へて足心に貼る。

(一〇)痢

積滯、濕熱、暑毒、虛滑、冷積、蠱毒に因するものである。

積滯　「草木菜穀」【大黄】諸痢の初期には、酒に浸して服す。或は當歸と共に煎じて服す。【巴豆】積痢を治するには、杏仁と共に丸にして服す。小兒には、百草霜を化した蠟で丸にして服す。【巴豆皮】楮葉と共に燒き、丸にして服すれば一切の瀉痢を治す。【藜蘆】洩痢に主效がある。【紫莧・馬莧】蜜に和して食へば産後の痢に主效が

(八)顖ハ頂門。

(九)眉心ハ兩眉ノ中心。

(一〇)痢ハ傳染性腹クダリ。

(二)噤口痢ハ痢疾、嘔吐シテ食物ノ下ラザルモノ。

(三)休息痢ハ治シテ復起ルモノ。

ある。【萊菔】汁を蜜に和して服す。乾いたものは嚼む。(二)噤口痢を止める。【萊菔子】下痢後重。【青木香】下痢の腹痛、氣滯、裏急に用ゐ大腸を實する。【山査】煮て服すれば痢を止める。【麯】穀物を消化し、一日百回程の頻なる下痢を止める。馬藺子と共に散にして服す。【蒸餅・捻頭】湯で地楡末を調へて服すれば血痢を止める。【檳榔】食物を消化し、氣を下し、下痢後重を治する神效がある。【枳實・枳殼】痢を止め、氣を順にする。【蕎麥粉】積垢を消す。雞子白で丸にして服すれば噤口痢に主效がある。「土石」【百草霜】食積を消化する。黄連と共に末にして服すれば熱痢を止める。【膩粉】積滯を消す。定粉と共に丸にして服すれば血痢を止める。【定粉】久積痢を止める。雞子白で和して炙り研つて服す。【黄丹】積痢を消す。蒜と共に服す。又黄連と共に丸にして服す。【密陀僧】煅き研つて醋湯で服す。【硇砂】一切の積痢には、巴豆、硃砂と共に蠟で丸にして服す。【砒霜】積痢(三)休息には、黄丹末と蠟で丸にして服す。【紅礬】積痢を止める。「禽部」【雞内金】焙じて服すれば小兒の痢に主效がある。

濕熱　「草部」【黄連】熱毒赤痢には、水で煎じ一夜露して熱して服す。小兒には蜜を入れる。或は炒り焦して當歸末、麝香と共に米湯で服す。(一)下痢腹痛には、酒で煎

じて服す。○傷寒痢には、艾と共に水で煎じて服す。○暴痢には、黄芩と共に煎じて服す。氣痢後重には、乾薑と共に末にして服す。○赤白痢の久しく癒えぬには、鹽梅と共に焼き末にして服す。○雞子白で丸にして服す。○諸痢脾泄には、猪腸を入れ煮て丸にする。○濕痢には、吳茱萸と共に炒り丸にして服す。○香連丸に加減して諸痢を通治す。○四治黄連丸――(四)五痔、(五)八痢を治す。【胡黄連】熱痢には、飯で丸にして服す。○血痢には、烏梅、竈下土と共に末にし茶で服す。【白頭翁】一切の毒痢には、水で煎じて服す。○赤痢の咽腫には、黄連、木香と共に煎じて服す。○赤痢下重には、黄連、黄蘗、秦皮と共に煎じて服す。【柴胡】積熱痢には、黄芩と共に水、酒等分を煎じて服す。【大青】熱病下痢で衰弱し危篤なるには、甘草、膠、豉、赤石脂と共に煎じて服す。【龍牙草】熱痢には、陳茶と共に煎じ服す。○根を末にして米飲で服す。【青蒿】冷熱久痢には、艾葉、豆豉と共に餅にし煎じて服す。【白蒿】夏季突然の水痢には、末にして服す。【地楡】冷熱痢には、煮汁を熬して服す。久痢、痔痢を止める。【青黛】痔痢には、末にして服す。【益母草】米と共に粥に煮て用ゐれば痔痢を止め、鹽梅と共に焼いて服すれば雜痢を止める。【葈耳】熬膏して用ゐる。【荊芥】燒いて末に

(四)五痔ハ脾痔、鶩痔、風痔、氣痔、急痔。
(五)八痢ハ水穀痢、冷痢、熱痢、滯痢、積痢、痔痢、蠱痢、休息痢。

する。【蛇含】水で煎じて用うればいづれも産後の痢に主效がある。【山蘇】末にして服すれば休息痢を止める。【黃芩】久しき下痢腹痛には、芍藥、甘草と共に用ゐる。【地黃】下痢腹痛を止める。○汁は蠱痢に主效がある。【蘘荷汁】蠱痢。【葛穀】十年の赤白痢。【馬藺子】水痢には、麪と共に服す。【雞腸草】汁を蜜に和して服す。【車前汁】蜜に和して服す。【蒲根】粟米と共に煎じて服す。【鴨跖草】煎じる。【牛膝・龍膽・赤地利】煎じる。【女萎・王瓜子】炒つて服す。【風延母・甘藤・陟釐・水藻】已上十三味いづれも熱痢に主效がある。【菰手】小兒の水痢。【冬葵子】末茶と共に服す。【劉寄奴】烏梅、白薑と共に煎じる。【地膚子】地楡、黃芩と共に末にして服す。○苗、葉は汁を用ゐる。【千里及】小靑と共に煎じる。【山漆】米泔で服す。【旱蓮】末にして服す。【苦參】炒り焦して水で服す。【榼藤子】燒灰。【狼牙】水で煎じる。【貫衆】酒で煎じる。【地錦】末にして服す。【山豆根・忍冬】煎じる。【藍汁・紫參】甘草と共に煎じて服す。【桔梗・白及・蒲黃・胙葉荷草】「蕺菜」【綠豆】(六)火麻汁で煮る。○皮を蒸して食へば二三年の赤痢に效がある。【赤小豆】蠟に合せて煎じて服す。【黑豆】已上二十一味いづれも血痢に主效がある。【胡麻】蜜に和して食ふ。【麻子仁】炒り研る。【豆

(六) 火麻ハ黃麻ノ一名。

豉】炒り焦して酒で服す。口に入れば直ちに落付く。【小豆花】熱痢には、豉汁を入れ羹にして食ふ。○痢後氣滿で食餌を攝れぬには、煮て一食すれば直ちに癒える。【豇豆・豌豆・薺根莖】灰に燒いて水で服す。【白扁豆】いづれも赤白の痢に主效がある。【豆腐】休息痢には醋で煎じて服す。【葱白】下痢腹痛には、粥に煮て食ふ。又鯽魚鮓を煮て食ふ。【萊菜】夏季の毒痢には、粥に煮て食ふ。【黄瓜】小兒の熱痢には、蜜と共に食ふ。【冬瓜葉】積熱痢には、麪をくるんで食ふ。【絲瓜】酒痢で血便の出るには、灰に燒いて酒で服す。【茄根莖葉】榴皮と共に末にし沙糖水で服す。【胡荽】炒り末にして服す【木耳】血痢には、薑醋で煮て食ふ。或は灰に燒いて水で服す。○久痢には、炒つて研り酒で服す。○なほ久しきには、鹿角膠を加へる。【芸薹汁】蜜に和して服す。【苦蕒菜】「果木」【烏芋】火酒に浸し貯へて用ゐる。【胡桃】枳殼、皂莢と共に燒いて服す。○いづれも血痢を治す。【柿】小兒の秋痢、血痢を止める。【柿根・荷蒂・楊梅】燒いて服す。【刺蜜・無花果・甜瓜・烏藥】灰に燒き丸にして服す。【槐花】炒り研つて服す。【櫸皮】犀角と共に煎じて服す。【鹽麩子及び樹皮】煮て服す。○いづれも血痢を止める。【樗白皮】濕熱を除き、蟲を殺す。○血痢には、醋で調へ丸にして服す。

(七)水穀痢一名飱、タベモノガソノママクダル。
(八)餛飩ハ薄麵ニ肉ヲ包ミ或ハ蒸シ或ハ煮テ食フモノ。
(九)蠱痢ハ八痢ノ一ニシテ蠱毒痢トモ云フ、醫學入門ニ解アリ。

○臟毒下痢には、末にして服す。(七)○水穀痢、小兒の疳痢には、いづれも水に和し(八)餛飩にして煮て食ふ。○休息痢には、木香と共に丸にし、或は訶子、丁香を加へる。【栢葉】血痢には、芍藥と共に炒り水で煎じて服す。○血痢(九)蠱痢、疳痢には、黄連と共に煎じる。○小兒の洞痢には、煎じて茶代りに服す。【巵子】熱痢下重に主效がある。○連年の血痢には、鼠尾草、薔薇汁と共に熬り丸にして服す。【黄蘗】下焦の濕熱、及び血痢を除く。○黄連と共に醋で煎じて服す。姙婦の痢には、大蒜と共に丸にして服するが神驗がある。【天蓼】末にして服すれば氣痢を止める。【桑寄生】毒痢を治するには、川芎、防風、甘草と共に煎じて服す。【木槿花】噤口痢には、煎麪にして食ふ。○皮の煮汁は血痢の渴を止める。【茯苓】濕熱には滲する。【椶灰・敗船茹】いづれも血痢を止める。「水土石部」【新汲水・滑石】倶に熱痢を治す。【黄土】熱毒痢には、水で煮て澄まして服す。【雄黄】暑毒泄痢の徑過には、丸にして服す。【古文錢】酒で煮て用ゐれば痢を止める。【白鹽】血痢には燒いて服す。或は粥に入れて食ふ。【石緑】「鱗介蟲禽」【蝸蠃】熱痢。【水蛇】毒痢。【貝子・五靈脂】いづれも血痢。【白鴨血】小兒の白痢で魚凍の如きには、酒に泡けて服す。【白鴨通】「獸人」【犀角】いづれも熱毒痢。【猪

膽】黒豆を入れて呑む。○犬膽、牛膽も同じ。【熊膽】疳痢。【野猪黄】血痢には水で服す。【童子尿】休息痢には、杏仁、猪肝を煮て食ふ。

虚寒　「草部」【甘草】火を瀉し、痛を止める。○久痢には煎じて服す。○又漿水で炙り、生薑と共に煎じて服す。○肉豆蔲と共に煎じて服す。【芍藥】脾を補ひ、血を散じ、腹痛後重を止める。【人參】冷痢厥逆には、訶子、生薑と共に煎じて服す。○噤口痢には、蓮肉と共に煎じて呷ふ。○老人の虚痢には、鹿角と共に末にして服す【當歸】腹痛、裏急後重を止め、血を生じ血を養ふ。○久痢には、呉茱萸と炒つて蜜で丸にして服す。【白朮】胃虚及び多年の冷痢。【蒼朮】久痢には、川椒と共に丸にして服す。【熟艾葉】腹痛及び痢後の寒熱を止めるには、醋で煎じて服す。或は生薑を入れる。○久痢には、橘皮と共に酒糊で丸にして服す。【烏頭】久痢には、焼いて研り蠟で丸にして服す。【附子】休息痢には、雞子白で丸にして服す。【草烏頭】寒痢には、半は生半は焼き、醋糊で丸にして服す。【肉豆蔲】冷痢には、醋麪で包んで煨き研つて服す。○氣痢には、煨いて橡子、倉米と共に末にして服す。【薫草】傷寒下痢には、當歸、黄連と共に酒で煮て服す。○五色諸痢には、木香と共に末にして服す。【漏蘆】冷勞泄痢には、

(一〇)白凍へ白色痢。

艾葉と共に丸にして服す。【獨用將軍】酒で服すれば噤口痢を治す。【玄胡索】下痢腹痛には酒で二錢を服す。【縮砂仁】赤白痢、休息痢、腹中の虛痛。○乾薑と共に丸にして服めば冷痢を治す。【草豆蔻】洩痢寒痛。【蓽茇】虛痢嘔逆。○氣には牛、羊の乳汁で煎じて服す。【破故紙】久痢、胃虛。【黃芪】洩痢、腹痛【漏籃子】休息惡痢。【雲實・肉蓯蓉・艾納香】「穀菜」【秫米・丹黍米・粳米】いづれも洩痢、腸澼に主效がある。【火麻葉】冷痢、(一〇)白凍には、末にして冷水で服す。【小豆花】痢後氣滿で食餌を攝れぬには、煮て一時に食へば癒える。【白扁豆花】胡椒と共に餛飩にして煮て食ふ。【糯穀】花のやうに熬つて薑汁で服すれば噤口痢、虛寒痢を治す。【山藥】半生半炒にし、末にして服すれば噤口痢を治す。【大蒜】噤口痢及び小兒の痢には、冷水と共に服す。或は黃丹と丸にして服す。【薤白】疳痢、久痢には、粥に煮、餅にし、黃色に炒る、いづれでもよし。【韮白】酢で炒つて食ふ。【生薑】久痢には、乾薑と共に餛飩にして食ふ。【浮麥】麪に和し餅にして食ふ。【麥麪】炒り焦して服す。【小麥粉】「果木」【蜀椒・橿子】いづれも冷痢を止める。【胡椒】赤白痢には綠豆と共に丸にして服す。【呉茱萸】濕熱を燥し、瀉痢を止める。黃連と共に丸にして服す。○黑豆と共に搓熱して

呑む。【石蓮】噤口痢には、末にして服す。【沙糖】噤口痢には、烏梅と共に煎じて呷ふ。
【桃膠】產痢、疞痛後重には沈香、蒲黃と共に末にして服す。【桂心】久痢には、薑汁で紫に炙り、黃連と等分を末にして服す。【肥皂莢】風濕下痢には、鹽と共に燒き粥に入れて食す。【皂莢刺】風が大腸に入つて久しく膿血を痢するには、枳實、槐花と共に丸にして服す。○子は久痢を治す。焙じ研り米糊で丸にして服す。○裏急後重には、子を枳殼と共に丸にして服す。【厚朴】洩痢を止め、腸胃を厚くする。○水穀痢には、黃連と共に煎じて服す。【乳香】虛冷腹痛。【沈香】氣痢。【丁香】噤口痢には、蓮肉と共に末にし米飮で服す。「土石二」【白堊・赤壁土・代赭】いづれも洩痢を止める。
【蚯蚓泥】久痢には、一升を烟の盡きるまで炒り、水を沃いて半升を飮む。【墨】赤白痢には、乾薑と共に醋糊で丸にして服す。【鍾乳粉】冷滑して止まぬには、肉豆蔻、棗肉と共に丸にして服す。【石硫黃】虛冷久痢には、蛤粉と丸にして服す。「蟲鱗介部」【蜂蜜】赤白痢には、薑汁に和して服す。【黃蠟】腸胃を厚くす。阿膠、當歸、黃連、黃蘗、廩米と共に煮て服す。【蝮蛇骨】燒いて服す。【鱓頭】燒く。【鰻鱺頭】燒いて服す。いづれも痔痢を止める。【鯉魚】暴痢には、灰に燒いて飮む。【鯽魚】久痢には、五倍子を

醸し焼いて服す。〇血痢には、白礬を醸し焼いて服す。〇頭灰は痢を止める。【白鯗・金魚・鼈臛・龜臛・龜甲】「禽獸」【烏骨雞】いづれも虚痢を止める。【黄雌雞】煮汁は噤口痢を止める。【雞卵】久痢、產痢には、醋で煮て食ふ。〇小兒の痢には、蠟に和し煎じて食ふ。〇疳痢には、定粉と共に炒つて食ふ。【雞卵黄】白痢には、胡粉と共に煆き酒で服す。〇姙婦の痢には、黄丹と共に燒いて服す。【雉】虚痢、產痢には餛飩にして食ふ。【阿膠】赤白虚痢。黄連、茯苓と共に丸にして服す。【乳腐】赤白痢には、漿水で煮て食ふ。【牛乳】冷氣痢には、華茇と共に煎じて服す。【牛肝・牛脾】虚冷痢には、いづれも醋で煮て食ふ。【羊脂】痢痛には、阿膠と共に粥に煮て食ふ。〇孕痢には、酒で煮て服す。【羊腎】勞痢には、羹にして食ふ。【羊肝】冷滑久痢には、縮砂末を一片毎に摻つて焙り研り、乾薑末等分を入れ飯で丸にして服す。〇下痢の瀕死には白礬を摻り炙いて食ふ。【羊脊骨】(二)督脉を通じ、痢を止める。【羊骨灰】洞泄下痢には水で服す。【牛骨灰】水穀痢。【狗骨灰】休息痢には飲で服す。【狗頭骨灰】久痢、勞痢には、乾薑、莨菪灰と共に丸にして服す。【羚羊角】熱毒痢には、末にして服す。小兒の痢には、燒いて服す。【鹿角】小兒痢には、燒いて髮灰と共に服す。【鹿茸・狗

(二)督脉トハ經脉ノ名ニシテ、上唇ヨリ頭部ヲ過ギ背椎ニ沿ヒテ尾骶骨ニ至ル中央線ナリトイフ。

肝】粥に煮る。【猪腎】餛飩にして食ふ。【山羊肉】脯にして食ふ。いづれも虚冷久痢に主效がある。【獺肉】丹石毒痢。【猪肉】噤口痢には、脯にして炙いて食ふ。【猪腸】熱毒酒痢には、黄連と共に蒸し丸にして服す。【猪肝】休息痢には、杏仁と共に童尿で煮て食ふ。【猬皮灰】五色痢には酒で服す。【虎骨】休息痢には、炙き研つて服す。○小兒の(一二)洞注下痢には、燒いて服す。【諸朽骨】水痢には麪と共に服す。

止澀　〔草部〕【赤白花鼠尾草】赤白諸痢には、濃く煮て丸にし、或は末にし、或は煎じて服す。【狼把草】久痢、血痢、疳痢には、或は煎じ、或は末にして服す。【赤白雞冠花】酒で煎じる。【木賊】水で煎じる。【菝葜】蠟茶、白梅と共に丸にして服す。【營實根】疳痢には煎じて服す。【五味子】〔穀果〕【罌粟】殼と共に炙き、蜜で丸にして服す。【粟殼】醋で炙り、蜜で丸にして服す。○陳皮と共に末にして服す。○檳榔と共に末にして服す。○厚朴と共に末にして服す。【阿芙蓉・苦茶】熱毒痢には、末にして服す。或は醋、或は薑と共に煎じて服す。○白梅と共に丸にして服す。【烏梅】渇を止め、冷熱痢を除く。水で煎じて服す。○血痢には、茶、醋と共に服す。○黄連と共に丸にして服す。○休息痢には、建茶、乾薑と共に丸にして服す。【梅葉】煮汁は休息痢

(一二)洞注ハ洞泄又洞瀉トイフ、桶ナドヨリ水ヲアクル様ニ下ルナリ。

(一三)米粉、金陵本ニ光粉トアリ米ノ誤ナラン。

を止める。【林檎】痢を止めるには煮て食ふ。○小兒の痢には、楮實と共に杵いて汁を服す。【荔枝殼】橡斗、榴皮、甘草と共に煎じて服す。【酸榴】汁に擣き、或は燒いて服す。【酸榴皮及び根】或は煎じ、或は散にし、或は丸にし、或は燒いて服す。【大棗】疳痢には(一三)米粉に和して燒いて食ふ。【蛀棗】小兒痢を止める。【橡實】楮葉と共に末にして服す。【槲白皮】煮汁を煎膏して服す。【橡斗・阿月渾子・木瓜・海紅・棠梨】煨いて食ふ。【鹿梨】煨いて食ふ。【榠樝】煨いて食ふ。【胡頽子・毘黎勒・韶子・棎子】生で食ふ。【醋林子・李根白皮】煮る。【荷葉灰】「木部」【楮葉】炒つて研り、麪に和し餅にして食へば痢を斷つ。○小兒痢には、水に浸し木瓜を煮て服す。【沒石子】虛滑久痢、血痢には、飯で丸にして服す。○産後の痢には、燒いて研り酒で服す。【枸橘葉】萆薢と共に炒り研つて服す。【白楊皮】孕痢には煎じて服す。【赤松皮】三十年の長い痢には、研つて麪一斗と粥に和して食ふ。【松楊木皮】冷熱、水穀痢には煮て服す。【水楊枝葉】久痢には煮て服す。【金櫻子】久痢には、粟殼と共に丸にして服す。花、葉、子、根も用ゐる。【海桐皮】疳痢、久痢。【訶子】久痢を止め、大腸を實す。【楓皮】煎じて飲む。【山礬葉・城東腐木・桃花石・禹餘粮】「石服蟲部」【五石脂】いづ

れも洩痢を止める。【赤石脂】末にして服す。○冷痢には、乾薑を加へて丸にする。○傷寒下痢には、乾薑、粳米と共に煎じて服す。【白石脂】小腸澼の血便には米飲で服す。○久痢には、乾薑を加へ丸にして服す。【礬石】醋糊で丸にして服す。○冷勞痢には、羊肝を加へる。【石灰】十年の血痢には、黄に熬つて水で澄し、日に三回服す。○酒積下痢には、水で和した泥で裹んで煅き、研つて醋糊で丸にして服す。【雲母粉】米飲で服す。【故衣帛】産前の痢、小兒の痢に主效がある。【五倍子】久痢には、半生半燒にし丸にして服す。或は枯礬を加へる。赤痢には、烏梅を加へる。【百藥煎】酒痢には、五倍子、槐花と共に丸にして服す。【露蜂房・蝦蟇灰】いづれも小兒の痢を止める。【柳蠹糞・桑蠹糞】いづれも産後の痢に主效がある。【蟬蛻】燒いて服す。【蜣螂】燒く。「鱗介」【龍骨】虛痢を澀する。○傷寒痢、休息痢には、煮汁を服す。或は丸にして服す。【鯪鯉甲】久痢の裏急には、蛤粉と共に炒り研つて服す。【蚺蛇膽】疳痢、血痢を止める。䗪蟲を使とする。【蠶殼】産後の痢。【蚌粉・海蛤・魁蛤・爛蜆殼・牡蠣・甲香】「禽獸」【猪蹄甲・馬糞灰】水で一丸を服す。【獺糞灰】いづれも久痢を止める。【鵜鶘醬・牛屎汁・羊屎汁・兎頭灰・狸頭灰・豺皮灰】いづれも疳痢に

主效がある。【牛角鰓】冷痢、小兒の痢には飲で服す。

外治 【木鼈子】六箇を研つて熱麪で餅にし、穵孔して一半を安き、熱して臍の上へ貼り、少頃して再び換へれば止る。【芥子】生薑と共に擣いて膏にし臍を封ずる。【黄丹】蒜と共に擣いて臍を封じ、足心へも貼る。【水蠹】麝を入れて擣き臍へ貼る。【田螺】麝を入れて擣き臍へ貼る。【蓖麻】硫黄と共に擣いて臍へ貼る。【鐡砂】官桂、枯礬と共に水で調へて臍へ貼る。

瘧

その性質に風、寒、暑、熱、濕、食、瘴、邪の八種ある。○また五臟の瘧、六腑の瘧、勞瘧、(一)瘧母の別がある。

暑熱 「草部」【柴胡】少陽、本經の藥であつて、種種の瘧を通治するにこれを君とし、寒、熱、虚、實のそれぞれに隨つて(二)引經の佐使を入れるのである。【黄芩】寒熱の往來を去り、手の(三)少陰、陽明、手足の少陰、太陰の六經に入る。【甘草】五臟、六腑の寒熱。【黄耆】太陰の瘧の寒熱、自汗、虚勞に用ゐる。【牛膝】久瘧、勞瘧に

(一)瘧母ハ脾臓肥大ナ云フ。

(二)李東垣ノ説ニ、報使引經藥ナルモノアリ之ヲ指ス、原書ニ就テ見ルベシ。

(三)少陰ハ少陽ノ誤ニ非ザルカ、然ラザレバ六經ノ數ニ合ハズ。

は水で煎じて日毎に服す。○莖、葉は酒に浸して服す。【蒼耳子】久瘧の止まぬには、酒糊で丸にして服す。○葉は擣いて汁を服す。【馬鞭草】久瘧には汁に擣いて酒で服す。【馬蘭】諸瘧の寒熱には、汁に擣いて發作する日の早朝に服す。【香薷】青蒿と共に末にして酒で服す。○暑瘧には桂枝、麥芽を加へる。【青蒿】虛瘧の寒熱には、汁に擣いて服す。或は桂心と共に酒で煎じて服す。○溫瘧で熱するのみで寒せぬには、黃丹と共に末にして服す。○(四)瘧を截るには、常山、人參と共に末にして酒で服す。【人參】虛瘧で食少きには、必ず白朮と共に用ゐる。○孕瘧、產後の瘧、瘴瘧でまだ陰陽判然せぬには、一兩を煎じて冷服する。【白朮】蒼朮、柴胡と共に、瘧を治するに必ず用ゐねばならぬ藥である。【升麻】邪が陰分に入つたものには、紅花と共に柴胡を入れて(五)四物にて病を拔き取る。【葛根】汗なきものにこれを加へる。○久瘧には柴胡、白朮、蒼朮と共に用ゐ、一は補し、一は發する。【芎藭・知母・葳蕤・牛蒡子】いづれも勞瘧に主效がある。【當歸】水で煎じて日毎に服す。【地黃・菖蒲・玄參・紫參・白及・胡黃連・女靑・防巳・靑木香】「穀菜」【麥苗】汁。【胡麻】いづれも溫瘧に主效がある。【粳米】熱瘧、肺瘧には白虎湯にして用ゐる。【秫米】肺瘧に痰のあるには、恒山、甘草と

(四) 截瘧トハオコリヲ落スコト。

(五) 四物ハ當歸、川芎、地黃、芍藥ヲ云フ。

> (六) 牡瘧ハ陽瘧ノ一種、飢飽ニヤブラレ表裏共ニ虛シテ此症ヲナス、一日一發スルモノ。

共に煎じて服す。【豆豉】心瘧、腎瘧。【寒食麪】熱瘧には青蒿汁で丸にして二錢を服す。【翻白草】酒で煎じる。【冬瓜葉】瘧を斷つには、青蒿、馬鞭草、官桂と共に糊で丸にして服す。【蒐搖】「果木」【蜀椒】いづれも溫瘧。【甘蔗】勞瘧【竹葉】溫瘧、心瘧。【地骨皮】虛瘧、熱瘧。【猪苓・茯苓】「水石蟲部」【冬霜】熱瘧には酒で一錢を服す。【石膏】熱甚しく口渇き頭痛するものに之を加へる。【鼠負】七個を飴糖で包んで呑めば直に瘧を斷つ。○豆豉と共に丸にして服す。【蚯蚓】熱瘧で狂亂するには、薄荷、薑、蜜と共に服す。○泥は白麪と共に丸にして服す。【蟬化】「鱗介」【烏賊骨】いづれも溫瘧。【龜殼】瘧を斷つには、燒き研つて酒で服す。【鼈甲】久瘧で病の血分に在るに用ゐる。○勞瘧、老瘧には、醋で炙いて末にして服す。【牡蠣】虛瘧の寒熱、自汗。○(六)牡瘧には麻黃、蜀漆、甘草と共に煎じて服す

寒濕　「草部」【附子】五臟の氣虛、痰飲、結聚から發瘧したものには、紅棗、葱、薑と共に水で煎じて冷服する。○眩暈して仆れ、厥逆するものには、陳皮、甘草、訶子を加へる。○瘴瘧には生薑と共に煎じて服す。○斷瘧には人參、丹砂と共に丸にして服し、吐かす。【草烏頭】晩秋に久瘧が發り、病氣が腹に入つて腹が高く食少きには、蒼

（七）痎瘧ハ、オコリノ總名稱。

朮、杏仁と共に煎じて服す。【草豆蔻】虛瘧自汗には煨いて平胃散に入れる。○瘴瘧には熟附子と共に煎じて服す。○山嵐のための發瘧には、常山と共に酒に浸して飲む。○一切の瘧には常山と共に炒り焦し、糊で丸にして冷酒で服す。これを瞻仰丸といふ。【蒼朮・麻黃・羗活・高良薑】〔穀菜〕【火麻葉】炒り研つて服す。【生薑汁】露すこと一夜にして服す。孕瘧に尤も效がある。【乾薑】黑く炒り、發作した時に酒で服す。○脾虛には、良薑と共に炮いて研り、猪膽で丸にして服す。【獨蒜】燒き研つて酒で服す。【薤白・韮白】〔果木石部〕【烏梅】勞瘧には薑、豉、甘草、柳枝と共に童便で服す。【橘皮】痎瘧には、薑汁に浸し、煮焙して研り、棗と共に煎じて服す。【青橘皮】瘧を治し肝を疏するには、當然發汗させねばならぬにも拘らず、それが徹底せね場合には、再び發汗せしむる方法を講ぜねばならぬ。それには、これに紫蘇を佐とするのである。○瘧を止めるには、燒いて研り、發作の日の早朝に酒で一錢を服し、いよいよ發作した時にまた再服する。【桂心】寒多きものにこれを加へる。○青蒿と共に、寒熱の多少を計つて三分乃至七分を末にし薑酒で服す。【丁香】久瘧には常山、檳榔、烏梅と共に酒に浸して服す。【硫黃】硃砂と等分を糊で丸にして服す。○茶と共に末にし

て冷水で服す。【雲母石】(八)牝瘧でただ寒するのみで熱せぬには、龍骨、蜀漆と共に散にして服す。「鱗禽獸部」【龍骨】老瘧には煮て服し、汗を取る。【雞子白】久瘧。【鴟鴞】酒で煮て飲む。【猪脾】虛寒瘧には胡椒、高良薑、呉茱萸と共に末にし、餛飩にして食ふ。【牛肝】醋で煮て食ふ。【羊肉・黃狗肉】いづれも臛にして食ひ、汗を取る。【山羊肉】久瘧には脯にして食ふ。【果然肉】これを食へば瘴瘧を去る。○皮も亦瘧を辟ける。【驢脂】多年の瘧には、烏梅と和して丸にして服す。【鹿肉】小兒の瘧には生で研つて服す

痰食 「草部」【常山】瘧で(九)痰水飲食多きものは、この藥に依らねばその(一〇)癖を破り水を利することが不可能である。○醋煮にして乾し、それを水で煎じて服すれば吐せず瀉せぬ。○(一一)雞子清で丸にし煮熟して服す。○茯苓、甘草と共に酒に浸して服す。○草果、貝母、知母と共に酒で煎じて服す。○大黃、甘草と共に水で煎じて服す。○小麥、竹葉と共に水で煎じて服す。○黃丹と共に丸にして服す。○瘴瘧には知母、靑蒿、桃仁と共に煎じて服す。○孕瘧には烏梅、甘草、石膏と共に酒、水に浸して服す。【芫花】久瘧で結癖が脇に在るには、硃砂と共に丸にして服す。【酔魚花】鯽魚

(八)牝瘧ハ但寒ニシテ熱ナク陽氣不足スルモノ。
(九)痰水ハ腹中ノ遊水ヲ云フ。
(一〇)癖ハ腹中ノ痞塊ヲ云フ。
(一一)雞子清ハ蛋白。

を醸し慣いて服すれば久瘧の癖となるものを治す。また花を擣いて貼る。【大黄】瘧で敗血、痰水多きものは下さねばならぬ。下してなほ徹底せぬ場合は更に再び下す。それには必ずこれを常山の佐として用ゐる。【阿魏】痰癖、寒熱には、雄黄、硃砂と共に丸にして服す。【半夏】瘧の藥として必ず用ゐねばならぬもので、痰の多きときは隨つて倍加する。○白豆蔻、生薑、大棗、甘草と共に各二十五塊を皂子大にし、葱根と共に一椀に煎じ、一夜露して三回に分服する。熱瘧の重きものに極めて效がある。【三稜・莪蒁】「穀果」【神麹・麥蘖】いづれも食瘧を治し、瘧母を消す。【檳榔】食物を消化し、瘴を辟ける。○酒で蒸した常山と共に丸にして服す。これを勝金丸といふ。或は穿山甲を加へる。【桃仁】黄丹と共に丸にして服す。或は蒜を加へる。【桃花】末を服して利する。【杏仁】「木石」【巴豆・砒霜】痰を劫し、瘧を截るの神劑である。○硫黄、綠豆と共に丸にする。○雄黄、硃砂、白麪と共に丸にする。○綠豆、黑豆、硃砂と共に丸にする。○恒山、丹砂と共に餅にし、麻油で煠熱して研末する。いづれも冷水で服す。【黄丹】痰を墜し、積を消す。○諸瘧には蜜水で調へて一錢を服す。○青蒿と共に丸にする。○百草霜と共に丸にする。○獨蒜と共に丸にする。○桃仁

と共に丸にする。○建茶と共に丸にする。○恒山と共に丸にする。いづれも瘧を止める。【礬紅】食瘧には蒜と共に丸にして服す。【綠礬】陰瘧には乾薑、半夏と共に醋湯で服す。【礬石】醋糊で丸にして服す。【古石灰】五靈脂、頭垢と共に丸にして服す。【蜜陀僧】「蟲禽」【白殭蠶】痰瘧には丸にして服す。【鯪鯉甲】痎瘧、牡瘧、寒熱瘧には、乾棗と共に燒き研つて服す。○酒蒸の當歸、柴胡、知母と共に丸にして服す。【夜明砂】五瘧の止まぬもの、及び產前の瘧には、冷茶で二錢を服す。或は硃砂、麝香を加へ丸にして服す。【雞䏶胵黃皮】小兒の瘧には燒いて服す。【雄雞屎】

邪氣　「穀果服器」【端午糭尖】丸にする。瘧の藥である。【桃梟】水で丸にして服す。○五種の瘧には、巴豆、黑豆、硃砂と丸にして服す。【鍾馗】燒いて服す。【曆日】灰に燒き丸にして服す。【故鞋底】灰。【甑帶】「蟲介禽獸」【蜈蚣・勒魚骨】瘧を斷つ藥に入れる。【瘧龜】(一二)痞瘧には燒いて服す。或は浴し、或は佩びる。【鴟鴞】煠いて食ふ。【犬毛】燒いて服す。【白狗屎】燒いて服す。【白驢蹄】砒霜と共に丸にして服すれば鬼瘧を治す。【猴頭骨】燒いて水で服す。【黑牛尾】燒いて酒で服す。【烏猫屎】小兒の瘧には桃仁湯で服す。【狸屎灰】不定期に發る鬼瘧。【靈猫陰】「人部」【頭垢・天靈蓋・小兒臍

(一二)痞瘧ハ痎瘧ニ同ジ。

蒂】灰に燒き飲で服す。【人膽】糯米にくるみ、麝香を入れて熏じ乾す。青いものは連年の久瘧を治す。陳米湯で十五粒を飲み下すのである。

瘧を吐かす　【常山・蜀漆・藜蘆】煎じる。【地菘】汁。【豨薟】汁。【葎草】汁。【石胡荽】汁。【離鬲草】汁。【三白草】汁。【澤漆・蕘花・豉湯・瓜蒂】【相思子】水に擂る。【逆流水・人尿】蜜に和して吐かせる。

外治　【旱蓮・毛莨草・石龍芮・馬齒莧・小蒜】胡椒、百草霜と共に杵く　○阿魏、膽脂と共に用ゐる。○桃仁と共に罨法する。【蜘蛛・蝦蟇・燒人場上黑土】いづれも臂に結び付ける。【兕葵華】手で揉む。【魚腥草】汗の出るやうに身體へ擦り込む。【烏頭末】發作の時に酒で調へて背上に塗る。【鬼箭羽】鯪鯉甲と共に末にし、發作の時に鼻に嗃ふ。【燕屎】酒に泡けて鼻に熏ずる。【野狐糞】夜明砂と共に醋糊で丸にして嗅ぐ。【野狐肝】糊で丸にし、絆の帛に裹んで中指に繋ぐ。【虎睛・虎骨・虎爪皮・麝香・狸肝・野猪頭骨・驢皮骨・牛骨・天牛・馬陸・兩頭蛇】佩びる。【蛇蛻】耳を塞ぐ。【人牙・人膽】

(一)心下痞滿ハ心下ガツカヘテハルヲ云フ。消化不良。

(一)心下痞滿

痛むものは結胸、胸痺である。○痛まぬものは痞滿である。○下して結するものは虛、及び陽氣が下陷するに依る。○下さずして痞結するものは上虛、及び痰飲、食鬱、濕熱に依る。この要領に依つて治を施す。

濕熱氣鬱 「草部」【桔梗】胸脇の刺痛には枳殼と共に煎じて用ゐる。【黃連】濕熱痞滿。【黃芩】胸中の氣、脾經の濕熱を利す。【柴胡】傷寒で心下の諸痰熱が胸中に結實し、その邪氣が心下に痞へて胸脇の痛むものに用ゐる。【前胡】痰が胸に滿ちて胸中が痞へ、心腹に結氣するものに用ゐる。【貝母】胸脇逆氣に主效がある。心胸鬱結の氣を散ずる。薑汁で炒つて丸にする。【芎藭】一切の氣、一切の血を治し、濕を燥し、鬱を開き、肝氣を搜す。【木香】よく諸氣を升降し、專ら胸腹の滯塞を泄す。○腸裏氣脹の食慾不進には、訶子と共に糖で和して丸にして服す。【甘松】元氣を理し、鬱病を去る。【香附子】三焦を利し、六鬱を解し、飲食痰飲を消す。○一切の氣疾に

は砂仁、甘草と共に末にして服す。○烏藥末と共に點て服す。○茯神と共に丸にして服す。○一味だけを酒に浸して服す。【澤瀉】痞滿に主效があり、濕熱を滲する。白朮、生薑と共に煎じて服す。【芍藥】脾虛、中滿、心下の痞。【白豆蔲】肺中の滯氣を散ず。【射干】胸膈の熱滿、腹脹。【大黃】濕熱を泄す。心下痞滿に用ゐる。○傷寒を早く下して、心下が滿ちて痛まぬには、黃連と共に煎じて服す。【草豆蔲・吳茱萸】濕熱痞滿には、黃連と共に煎じて服す。【枳實】胸膈の痰澼を除き、停水を逐ひ、結實を破り、脹滿を消す。心下が急し、痞痛し、逆氣するに用ゐる。傷寒の結胸、胃中の濕熱を解す。○俄に胸の痺痛するには、末にして日每に服す。○胸痺、結胸には、厚朴、栝樓、薤白と共に煎じて服す。○白朮と共に丸にして服す。【枳殼・厚朴】いづれも肺を泄し、痰を消し、胸痞脇脹を除く。【皂莢】痰囊を破る。腹の脹滿を瘦するには煨いて丸にして效を取る。【巵子】火鬱を解し、結氣を行る。【蕤核】心下の結痰痞氣を破る。【茯苓】胸脇の氣逆、脹滿には、人參と共に煎じて服す。

痰食　「草部」【半夏】痰熱の滿結を消す。○小結胸痛がただ心下に在るには、黃連、栝樓と共に煎じて服す。【旋覆花】汗し下して後、心下痞滿し、噫氣の止まぬに用ゐ

る。【縮砂】痰氣膈脹には、蘿蔔汁に浸し、焙じ研つて湯で服す。【澤漆】心下の伏瘕が盃のやうなるには、大黄、葶藶と共に丸にして服す。【栝樓】胸痺痰結で痛みが心背に徹し、痞滿、喘欬するには、子を取つて丸にして服す。或は薤白と共に酒で煎じて服す。【三稜】胸滿に用ゐて積を破る【牽牛】胸脹食積には、末一兩を巴豆霜と共に水で丸にして服す「穀菜」【神麴】蒼朮と共に丸にして服すれば、痞滿食氣を除く。【麥糵】神麴、白朮、橘皮と共に丸にして服すれば、膈を利し食物を消化する【生薑】心下の堅痞には、半夏と共に煮て服す。【薑皮】痞を消す【白芥子】冷痰痞滿には、白朮と共に丸にして服す。「果木」【橘皮】痰熱痞滿には、白朮と共に丸にして服す。或は煎じて服す。【青橘皮】胸膈氣滯には、茴香、甘草と共に白鹽で制し、末にして點て服す。○(一)四制して末にし、煎じて飮む。これを快膈湯といふ。【瓜蒂】痰痞に吐かす。【檳榔】水穀を消化し、痰氣を下す。○傷寒痞滿で痛まぬには、枳實と共に研末し黄連湯で服す　○結胸で痛むには二兩を酒で煎じて服す　【大腹皮】痞滿醋心。【訶梨勒】胸膈結氣。【巴豆】陰證寒實の結胸、祕結には、臍に貼つて灸する。「金石」【密陀僧】胸中の痰結には、醋水で煎じて乾し、末にして酒、水で煎じて服し吐かす。【銀硃】痰

(一)按スルニ四制トハ橘皮ヲ湯ヲ以テ浸シテ瓤ヲ去リ切片シテ醋ヲ拌シテ瓦炒スルヲ云フ。

氣結胸には、明礬と共に丸にして服す。【芒消】胸中の痰を消し、食物を消化し、酸水を鼓じ、心、肺、脾、胃の火邪を瀉す。

脾虛　「草部」【人參】胸脇の逆滿に主效がある。○心下が結硬してその部位が一定せず、ただ痞滿を覺え、多食すれば吐き、氣が前後に引き噫呃して不快の去らぬは、思慮の鬱結に因するものである。それには白い部分を取去つた橘皮と共に丸にして服す。【朮】熱を除き、食物を消化し、痰水を消す。○胸膈の煩悶するには、白朮末を湯で服す。○痞を消し、胃を強くするには、枳實と共に丸にして服す。○心下が堅大して盤のやうになるは水を飲んで作るもので、腹滿腸鳴し、實すれば氣を失し、虛すれば遺尿する。これは氣分と名けるものである。枳實と共に水で煎じて服す。【蒼朮】心下の急滿を除き、鬱を解し、濕を燥す。【遠志】心下の膈氣を去る。【升麻・柴胡】淸氣を升し、濁氣を降す。【附子】「獸部」【羊肉】老人の膈痞で食物の落付かぬには、橘皮、薑、葱と共に臛にして食ふ。

〔一〕**脹滿**　濕熱、寒濕、氣積、食積、血積である。

〔一〕脹滿ハ腹大ニシテ鼓ノ如ク、面目四肢腫レザルモノヲ云フ。

濕熱　【朮】濕熱を除き、氣を益し、中を和す。○脾胃が和せず、それに冷氣が客し、ために脹滿するには、陳皮と共に丸にして服す。【黃連】心火、及び中焦の濕熱を去る。【黃芩】脾經の諸濕に用ゐる。胸中の熱を利す。【柴胡】氣血を宣暢し、淸氣を引いて上行する。【桔梗】腹滿腸鳴、傷寒の腹脹には、半夏、橘皮と共に煎じて服す【射干】胸膈の滿、腹脹氣喘に主效がある。【薄荷・防風・車前・澤瀉・木通・白芍藥】臟腑の壅氣を去り、小便を利し、土中に於て木を瀉し、脾を補ふ。【大黃】腸の結熱、心腹脹滿に主效がある。【半夏】心腹の痰熱滿結を消し、腹脹を除く。○小兒の腹脹には、酒で和して丸にし薑湯で服す。更に薑汁で調へて臍中に貼る。【牽牛】氣分、濕熱、三焦の壅結を除く。○濕氣中滿で足の脛が微腫し、尿が利せず、氣急し欬嗽するには、厚朴と共に末にして服す。○(二)水蠱脹滿には、白、黑牽牛を末にし、各二錢を大麥麪四兩で餠にして食ふ。○小兒の腹脹、水氣、流腫で尿が赤く少きには、生で一錢を研り、靑皮湯で服す。【忍冬】腹脹滿を治す。【澤瀉】濕熱を滲す。【赤小豆】熱を治し、尿を利し、腹脹滿を下し、氣を散ず。【豌豆】尿を利す。腹脹滿に用ゐる。【薺菜】子は腹脹を治す。○根は腹滿脹大、四肢の枯瘦、尿の澀るに主效がある。根を甜葶藶

(二) 水蠱ハ病源候論ニ解アリ。

と共に丸にして服す。【木瓜】腹脹で屢噫するを治す。【厚朴】痰を消し、氣を下し、脹滿を除き、宿血を破り、水、穀を消化し、積年の冷氣で雷鳴するを治す。○腹脹で脈の頻數なるには、枳實、大黃と共に煎じて服す。○腹痛脹滿には、甘草、桂、薑、棗を加へる。○男女の氣脹で冷熱相攻め、久しく癒えぬには、薑汁で炙り研つて米飮で日毎に服す。【皂莢】腹脹滿に主效がある。○胸腹脹滿には、煨いて研り丸にして服す。效果甚だ妙である。【枳實】食物を消化し、積を破り、胃中の濕熱を去る。【枳殼】水を逐ひ、脹滿を消し、氣を下し、結を破る。○老幼の氣脹、氣血凝滯には、四制し丸にして服す。【茯苓】心腹脹滿に主效があり、濕熱を滲す。【猪苓】【鸕鷀】大腹鼓脹で體寒するには、燒いて研り米飮で服す。【雞屎白】氣を下し、大小便を利し、心臟の鼓脹を治し、積を消す。○雞屎醴―鼓脹を治す。朝は食事を攝り夕は食事を攝り得ぬには、袋に半升を入れ、酒に漬けて日に三回飮む。或は末にして酒で服す。○下すには酒で煮て頓服する。【野雞】心腹脹滿には、茴香、馬芹の諸料と共に蒸餠に入れ餛飩にして食ふ。【豪猪肚及び屎】熱風鼓脹に主效がある。燒き研つて酒で服す。【猪血】中滿腹脹で朝は食事を攝り夕は攝れぬには、晒して酒で服し效を取る。

【牛溺】腹脹に主效があり、尿を利す。氣脹には空心に一升を溫服する。○癥癖鼓脹には、煎じて飴のやうにし、棗程の量を服して效を取る。【蝦蟇】鼓氣には煆き研つて酒で服す。○青蛙を猪肚の內に入れて煮て食ふ。

寒濕　【草豆蔻】寒を除き、濕を燥し、鬱を開き、氣を破る。【縮砂蔤】脾胃の結滯して散ぜぬを治し、肺を補ひ、脾を醒す。【益智子】客寒の胃を犯すに主效がある。○腹脹で突然瀉して晝夜止まぬには、二兩を湯に煎じて服すれば止る。【胡蘆巴】腎冷で腹脇脹滿し、顏色靑黑なるを治す。【胡椒】虛脹腹大には、全蠍と共に丸にして服す。【附子】胃寒で氣滿し、傳化が不能になり、饑えても食する能はぬには、人參、生薑と共に末にし、煎じて服す。【丁香】小兒の腹脹には、雞屎白と共に丸にして服す。【訶黎勒】冷氣の心腹脹滿に主效があり、氣を下す。【禹餘粮】

氣虛　【甘草】腹脹滿を除き、氣を下す。【人參】心腹の鼓痛を治し、心、肺、脾中の火邪を瀉す。【萎蕤】心腹の結氣に主效がある。【青木香】心腹一切の氣に主效がある。滯氣を散じ、諸氣を調へる。【香附子】諸氣の脹滿を治す。縮砂、甘草と共に末にして服す。【紫蘇】一切の冷氣、心腹脹滿を治す。【萊菔子】氣脹、氣蠱には、汁を取つて縮

砂を浸し、七回炒つて末にして服す。【生薑】氣を下し、痰喘脹滿を消す。また下部に納れて導く。【薑皮】脹痞を消す。性は涼である。【馬芹子】心腹脹滿に主效があり、胃を開き、氣を下す。【山藥】心腹虛脹し、手足厥逆し、或は苦寒の藥を服み過ぎたものには、半生半炒にして末にし、米飲で服す。【百合】浮腫、(三)臚脹、痞滿を除く。【敗瓢】酒で(四)三五百回炙いてから燒いて服すれば、中滿鼓脹を治す。【檳榔】腹脹を治するには、生で擣き末にして服す。【沈香】諸氣を升降する。【全蠍】轉下して後、腹が鼓のやうに脹るには、燒灰に麝を入れて米飲で服す。

積滯　【蓬莪蒁】積聚、諸氣脹を治す。【京三稜】氣脹を治し、積を破る。【劉寄奴穗】血氣脹滿には、末にして三錢を服す。血を破り、脹を下すの仙藥である。【馬鞭草】血を行し、血を活す。○鼓脹で煩渴し、身體が乾いて黑瘦するには、刻んで水に曬し煮て服す。【神麴】虛を補ひ、食物を消化する。○三焦の滯氣には、萊菔子と共に煎じて服す。○(五)少腹堅大で盤のやうになり、胸滿して食物の消化せぬには、湯で方寸匕を服す。【糵米】食物を消化し、氣を下し、心腹脹滿を去る。○產後の腹脹で氣を轉じ得ず、坐臥ともに不能なるには、酒で一合を服すれば氣が轉じて癒える。【胡蒜】氣

(三) 臚脹ノ解ハ素問六元正紀大論ニアリ。
(四) 金陵本ニ酒炙三五有次トアリ。
(五) 少腹ハ下腹。

(六)酒布袋、腹中ノ酒囊ヲ指スカ。

を下し、穀物、肉類を消化する。【山査】積を化し、食物を消化し、結氣を行る。【橘皮】氣を下し、癖を破り、痰水、滯氣を除く。【胡椒】腹中の虛脹には、蠍尾、萊菔子と共に丸にして服す。【車脂】小腹脹に主效がある。輪下土に和して服す。【胡粉】積を化し、脹を消す。○小兒の腹脹には、鹽で炒つて腹を摩す。【古文錢】心腹の煩滿、及び胸膈痛で極端に痛むには、水で煮て汁を服す。【鋼鐵】胸膈が氣塞して消化不能なるに主效がある。【水銀】積滯鼓脹を治す。【黑鹽】腹脹氣滿には、酒で六錢を服す。○酒肉の過度で脹滿し不快なるには、鹽を牙に擦り、溫水で含漱すること二三回でさつぱりする。【芒消】腹脹、大小便不通を治す。【綠礬】積滯を消し、脾濕を燥し、脹滿を除き、肝を平にする。蒼朮と共に丸にして服す。これを伐木丸と名ける。【猪頂肉】酒積で顏色が黃になり、腹脹するには、甘遂と共に搗いて丸にして服す、(六)酒布袋を取下すのである。

諸腫

風腫、熱腫、水腫、濕腫、氣腫、虛腫、積腫、血腫である。

鬼門を開く　「草部」【麻黄】風腫、水腫で全身、顔面に浮腫し、脈浮し、小便利せぬものに主效がある。甘草と共に煮た湯を服し、汗を取る。○水腫で脈の沈浮するものは風虛であつて、腫そのものは氣である、いづれも水ではない。これには麻黄、甘草、附子を煮た湯を服す。【羗活】風を療するには獨活を用ゐ、水を療するには羗活を用ゐる。○風、水の浮腫、及び姙娠の浮腫には、蘿蔔子で炒つて研末し、日に二回酒で二錢づつを服す。【防風】風が全身に行るもの、及び經絡中の留濕を治す。風を治し、濕を去るの仙藥である【柴胡】大腸の停積水脹に主效がある【浮萍】風濕を去り、水氣を下し、腫を治し、尿を利す。末にして酒で方寸匕を服す。【鼠粘子】膚風を除き、尿を利す。○風水身腫で裂けるほど腫れたるには、炒つて末にし、日に三回二錢づつを服す。○風熱浮腫には、半炒りにし研末して酒で服す。○水蠱腹大には、麪糊で丸にして服す。○根、莖も風腫に主效があり、水を逐ふ效がある【天仙藤】姙娠浮腫は子氣といふ。これは元來風氣があつた爲めである、水として治療をしてはならぬ。これには香附、陳皮、甘草、烏藥、紫蘇と共に煎じて服す。【忍冬】寒熱の身腫、風濕氣を去る【蒺藜】浮腫を洗ふ。【陸英】水氣虛腫を洗ふ。【狗脊】

(一)消渇變水、ハ腎臓炎ヨリ起ル水腫カ。
(二)癃ハ淋病ノ一名、癃閉ハ尿閉。
(三)水道ハ尿道。

「穀菜二【黍穰・葱白根】「果木二【杏葉】いづれも足腫を洗ふ。【楠材】腫が足から起るには、桐木と共に煎じて洗ふ。且つ少量を飲む。【桐葉】手足の浮腫には、小豆と共に煮てその汁に漬けて洗ふ。且つ少量を飲む。【柳枝及び根皮】風腫を洗ふ。

府を潔淨す 【澤瀉】三焦の停水を逐ひ、舊水を去り、新水を養ひ、腫脹を消し、濕熱を滲す。○水濕の腫脹には、白朮と共に末にして服す。【鴨跖草】小豆と煮て食ひ水を下す。【蒼耳子】大腹水腫には、燒灰を葶藶と共に末にして服す。【蘇子】(一)消渇變水には萊菔子と共に服すれば、水は尿と共に排出する。【木通】大小便水腫を利し、諸經の濕熱を除く。【通脫木】小便を利し、水腫を除く。【香薷】水腫を散じ、尿を利す。葉の大なるものの濃煎汁を熬り丸にして服すれば、水を治すること甚だ捷であつて、肺金が淸くなり、熱が自ら降るものである。○暴水、風水、氣水には、白朮末を加へて丸にして服す。至つて小便を利して效がある。【燈心草】水腫(二)癃閉を除く。【冬葵子】尿を利し水氣を消す。○姙娠水腫には、茯苓と共に末にして服す。尿が利すれば癒える。【蜀葵子】尿を利し水腫を消す。【葶藶】(三)水道を利し、膀胱の水と皮間の邪水とが上部へ上つた顏面浮腫を下し、大いに氣を降す。辛、酸の藥と共に用うれば腫

氣を導く。○全身の腫滿には、末を棗肉で丸にして服すれば神驗がある。○或は雄雞頭を用ゐ、擣いて丸にする。○陽水暴腫で喘渴し、尿の澀るには、防已末と共に綠頭鴨の血で和し、丸にして服すれば效がある。【馬鞭草】大腹水腫には、鼠尾草と共に煮た汁を熬調し、丸にして服すれば神效がある。【馬蘭】水腫で尿の澀るには、黑豆、小麥と共に酒、水で煎じて服す。【益母草】汁を服すれば浮腫の水を下すに主效がある。【旋覆花】水腫大腹を除き、氣を下す。【萱草根葉】全身の水腫には、晒し研り、二錢に席下塵を入れて米飲で服す。【蓼子】水氣の顏面浮腫を下す。【海金沙】脾胃の腫滿、腹脹で鼓のやうになつて喘ぎ、臥すことも出來ぬには、白朮、甘草、牽牛と共に末にして服す。【漢防已】大小便を利し、水腫に主效がある。十二經を通行し、下焦の濕腫を去り、膀胱の火を泄すには必ず用ゐねばならぬ藥である。○皮水胕腫が皮膚の中に在り、惡風せず、押しても指の跡の凹まぬには、黃耆、桂枝、茯苓、甘草と共に煎じて服す。【水蘋】暴熱に主效があり、氣を下し、尿を利す。【海藻】十二水腫を下し、尿を利す。【海帶・昆布】水道を利し、顏面の腫を去る。【越王餘算】水腫、浮氣を去る。【天蓼】水氣に主效がある。【茅根】虛病の後に水を多く飲

（三）臚ハ腹前ナ云フ。

み、充分尿が利せぬために腫となつたものには、赤小豆と共に煮て食へば水が尿に隨つて下る。【蒲公英】煮て服すれば水腫を消す。【薇】大小便を利し、浮腫を下す。（穀部）【薏苡仁】水腫喘急には、郁李仁の絞汁で粥を煮て食ふ【黑大豆】水を逐ひ、腫を去る。○桑柴灰で煮て食へば水鼓を下す。○范汪の方では、煮汁に酒を入れ、再び煮て服すれば水が尿と共に排出する。○肘後方では、煮て乾し、末にして服す。【赤小豆】水腫を下し、尿を利す。○桑灰汁で煮て飯の代りに食ふ。冬灰でもよし。○葫、蒜と共に煮て食ふ。○水蠱腹大で音があり、皮が黑くなるものには、白茅根と共に煮て食ふ。○足腫には煮汁で漬け洗ふ。【腐婢】水氣を下す。【綠豆】煮て食へば腫を消し、氣を下す。○十種の水氣には、附子と共に逐日煮て食ふ。（菜部）【胡蒜】蛤粉と共に丸にして服すれば水腫を消す。○田螺、車前と共に臍に貼れば尿を通ずる。【胡葱】浮腫には、小豆、消石と共に煮て食ふ。【羅勒】水氣を消す。【百合】浮腫、（三）臚脹を除く。【冬瓜】小腹水脹に用ゐれば尿を利す。赤小豆を釀して煨熟し丸にして服す。○中の子を包む柔い部分を淡く煮た汁を飮めば、水腫の煩渇を止める。【胡瓜】水病の肚脹で手足の浮腫するには、醋で煮て食へば須臾の間に水が下る。

「果部」【李核仁】水氣を下し、浮腫を除く【杏核仁】浮腫で喘急し尿の少きには、炒つて研り粥に入れて食ふ。○頭部、面部の風腫には、鷄子黃と共に帛に塗り、七八回貼れば癒える。【烏梅】水氣の滿急には、大棗と共に煮た汁に蜜を入れて嚥む【桃白皮】水腫には、秫米と共に酒に醸して飮む。【椒目】十二種の水氣脹滿を治し、水を行り、濕を滲す。○炒つて研り酒で方寸匕を服す【敗荷葉】陽水浮腫には、燒いて研り水で服す。足腫には、藁本と共に煎じて洗ふ。「木部」【木蘭皮】水腫に主效がある。【柳葉】水氣を下す。【欅皮】全身水腫には、煮汁を毎日飮む。【楡皮葉】水腫を消し、尿を利す。○皮を末にし、米と共に粥に煮て食ふ。【柯樹皮】大腹水病には、煮汁を熬り丸にして服すれば、病は尿と共に排出する。【桑白皮】肺中の水氣、水腫、腹滿、臚脹を去り、水道を利す。【桑椹】水氣を利し、腫を消す。○水腫脹滿には、桑白皮を煎じた水で椹を煮、糯米と共に酒に醸して飮む。【桑葉】煎じて茶の代りに飮めば、水腫を除き、大小腸を利す。【桑枝】同上。【桑柴灰】淋汁で小豆を煮て食へば水脹を利す。【楮實】水氣蠱脹にはこれで府を潔淨する。熬膏し、茯苓、白丁香と丸にして服すれば效がある。【楮葉】全身水腫には、汁を飴のやうに煎じて日毎に服す。○積年の水氣で顏面が水腫した

るには、煎じた汁で粥を煮て食ふ。【楮白皮】水腫氣滿を逐ひ、尿を利す。○煮汁を酒に釀して用ゐれば、水腫が腹に入つて短氣欬嗽するもの、及び婦人の分娩時に風が臟內に入り、腫脹し短氣するを治す。○(五)風水腫浮には、木通、猪苓、桑白皮、陳皮と共に煎じて服す。○膀胱の石水で四肢痩せ、小腹の脹るには、根皮と桑白皮、白朮とを、黑豆の煎汁に酒を入れたもので服すれば效がある。【楮汁】(六)天行病の後、臍下が水腫の如くなるには、日に一盃を服すれば尿を利し、水腫を消す。【巵子】熱水腫疾には、炒つて研り飲で服す。○婦人の胎腫は濕に屬する、これには丸にして服すれば效驗がある。【茯苓及び皮】水腫に主效があり、水道を利す。○皮を椒目と共に水で煎じて日每に飲む。【猪苓】水を利し、汗を發し、腫脹滿急に主效があり、胎腫を消す。【皂莢】身體顏面の俄に腫れたるには、炙つて酒に漬けて飲む。或は黑錫を加へる。【五加皮】風濕腫。【枳茹】水脹、暴風。「石部」【滑石】水を利し、濕を燥し、熱を除く。【白石英】(七)石水の腹堅、脹滿には、酒で煮て服す。【凝水石】胃中の熱水腫、小腹痺を除き、腎を瀉す。【礬石】水を却ける。○水腫には、青礬、白麪と共に丸にして服す。【青礬】水腫(八)黃病には、丸にして服す。「蟲部」【螻蛄】大小便を利し、腫を治するに甚だ效がある。

(五)風水腫浮ハ水皮膚ニ散溢シ又風濕ト相搏ツ、故ニ風水ト云、人ヲシテ身浮腫セシメ水ヲ包ムノ狀ノ如ク、頸脈動スルトキ欬ス、腫上ヲ按ズレバ、凹ニシテ起ラズ、骨節疼痛シテ風ヲ惡ムハ是ナリ。

(六)天行病ハ流行性感冒。

(七)石水ハ小腹ニ水氣停聚シ堅キコト石ノ如キヲ云フ。

(八)黃病ハ黃胖病、十二指腸虫病。

(九) 左右用ハ平常ヲ云フカ。

(一〇) 癥ハ字書ニ心病トアリ、水氣ヨリ起ル心臓病ナラン。

○十種の水病の腹滿、喘促には、五箇を焙り研つて湯で服す。○肘後方では、毎日炙いて十箇を食ふ。○普濟方では、(九)左右に用ゐ、大戟、芫花、甘遂と共に服す。○輕粉と共に鼻に嗜き水病を消す。【青蛙】水腫を消す。胡黃連と共に末にし、猪肚の內に入れて煮て食ふ。○水蠱腹大で音響があり、皮の黑くなるには、酥で炙り、螻蛄、苦瓠と共に末にして服す。「介鱗」【海蛤】十二種の水氣浮腫を治し、大小腸を利す。○(一〇)水癥腫病には、杏仁、防已、葶藶、棗肉と共に丸にして服す。○水腫發熱には、木通、猪苓、澤瀉、滑石、葵子、桑皮と共に煎じて服す。石水で肢瘦し、腹のみ大なるには、防已、葶藶、茯苓、桑皮、橘皮、郁李と共に丸にして服す。○氣腫には、昆布、鳧茈、海螵蛸、茘枝殼と共に煎じて飲服する。【蛤粉】熱を淸し、濕を利し、浮腫を消し、尿を利す。○氣虛の浮腫には、大蒜と共に丸にして服す。【貝子】水氣浮腫を下す。【田蠃】大小便を利し、手足の浮腫を消し、水氣を下す。○大蒜、車前と共に臍に貼れば水が尿から排出する。【鯉魚】煮て食へば水氣を下し、尿を利す。○醋で煮て食ふ。○赤小豆と煮て食ふ。○白礬を釀し、泥包して煨いて研り、粥にして食ふ。上下その用うべきに隨ふ。【白魚】胃を開き、氣を下し、水氣を去る。【鯽魚】小豆、商陸と

合せ煮て食へば、水腫を消す。【鱸魚】水氣を治す【鱧魚】小豆と合せ煮て食へば、大水の顔面浮腫、及び姙婦の水氣を下す。冬瓜、葱白を入るれば、十種の水の瀕死のものに主效がある。【鮧魚】水腫を療し、尿を利す。【黄顙魚】大蒜、商陸と合せ煮て食へば、水を消し、尿を利す。○綠豆と共に煮るもよし。「禽獸」【青頭鴨】瀕死の大腹水腫には、煮汁を服し汗を取る。また粥にして食ふ【雄鴨頭】水腫を治し、尿を利す。○搗いて漢防已末に和し、丸にして服す【鳬肉】熱毒水腫を治す【鸕鷀】水道を利す【雞子】身體面部の腫滿には、塗つて度度取換へる。【猪脂】水腫に主效がある。【猪腎】甘遂を包んで煨いて食へば水を下す。【羊肺】水腫、尿短、喘嗽には、葶藶子と共に醋蜜で丸にして服す。【豪猪肚及び屎】水病熱風で鼓脹するには、燒いて研り酒で服す。【牛溺】水腫腹脹の尿を利するには、空腹にして飲む。○喘促するには、訶子皮末を入れ、熬つて丸にして服すれば水を下す【水牛角鰓・人中白】水氣腫滿には、丸になる程に煎じ、毎に豆一粒ほどを服す。【秋石】鹽の代りに拌ぜて食ふ

陳莝を逐ふ　「草部」【三白草】水腫には汁を服して吐かす。【蒴藋根】全身水腫には、酒を汁に和して服し、吐き下す。【蓖麻子仁】（一）水藏腫滿には、水に研つて服し、吐き

（一）水藏ハ水氣結聚シテ兩脇ノ側ニアリ、轉動スレバ便チ痛ムナリ。

下す。【商陸】水腫脹滿に主效があり、五臟の水氣を疏し、十種の水病を瀉し、大小腸を利す。○根を切り、赤小豆、粳米と共に飯に煮て日毎に食へば甚だ效がある。○或は粟米と共に粥に煮て食ふ。○或は汁を取り酒に和して飲めば、水を利すること妙である。○或は羊肉と共に煮て食ふ。【大戟】十二種の水病で、腹が滿ち痛むものに主效がある。汗を發し、大小便を利す。○水腫の喘急、及び水蠱には、乾薑と共に末にして酒で服す。○或は當歸、橘皮と共に煎じて服す。○或は木香と共に末にして酒で服す。○或は木香、牽牛と共に末にし猪腎に傅けて煨いて食ふ。○或は棗と煮て食ふ。いづれも水を利する神效がある。【澤漆】大腹水氣、四肢、顏面の浮腫を去る。○十種の水氣には、汁を取り熬膏して酒で服す。【甘遂】面部の浮腫に主效があり、（一二）五水を下し、十二水疾を泄し、腎經、及び隧道の水濕痰飲を瀉し、直ちに水氣の結する處に達する。水を泄するの聖藥である。○水腫腹滿には、牽牛と共に煎じて呷ふ。○膜外水氣には、蕎麥麪と共に餅にして食ひ、通じを付ける。○身體面部の浮腫には、末二錢を猪腎に入れ煨いて食ひ、通じをつける。○正水脹急で大小便が通ぜず、極端に苦むには、半生半炒にして末にし、麪に和し棊子ほどにして煮て食ひ、通じをつける。○

（一二）五水十二水ノ解ハ病源候論卷ノ廿一ニアリ。

小兒の疳水には、青橘皮と共に末にして服す。○水蠱喘脹には、大戟と共に煎じて呷ふ。但し十服を過してはならぬ。○姙娠腫滿には、白蜜で丸にして服す【續隨子】肺中の水氣を治す。日に十粒を服すれば忽ち水を下すが、多く服してはならぬ。○一兩を油を去り、七服に分けて七人を治し得る。酒で服す。○陽水腫脹には、大黃と共に丸にして服す。【芫花】五水が五臟、皮膚に在るもの、及び飲澼に主效がある。○水蠱脹滿には、枳殼と共に醋で煮て丸にして服す。【蕘花】十二水の腸中留澼に主效がある。【葶藶子・狼毒】水癖を破る。【防葵】腫滿の甚だ大なるには、末にして酒で服す。【牽牛】大小便を利し、虛腫、水病、氣分、濕熱を除く。○陰水、陽水には、いづれも大黃と共に末にし、鍋で焦し飯で丸にして服す。○諸水飲病には、茴香と共に末にして服す。○水腫氣促で坐臥共に困難なるには、二兩を炒つて末にし、烏牛尿に一夜浸し、葱白一握を入れ、朝の內に煎じて二回に分服すれば、水は尿に從つて排出する。○小兒の腫病で兩便の通ぜぬには、白、黑牽牛と等分を水で丸にして服す。○水蠱脹滿には、大麥麪と共に餅にし燒いて食へば氣を降す【馬兜鈴】肺中の濕氣で水腫腹大し喘急するを去るには、湯に煎じて服す【羊桃根】五臟五水の大腹を去り、

尿を利す。浴湯にするがよし。○水氣鼓大で尿の濇るには、桑白皮、木通、大戟と共に煎じた汁を熬調して服し、利通する。【紫蘇】煎汁を熬つて服し、水癥病を下す。【大豆黃卷】胃中の熱を除き、水病脹滿を消す。○大黃と共に醋で炒り末にして服す。【蕎麥】水腫喘急には、大戟末と共に餅にして食ひ、通じをつける。【米醋】水氣を散ず。【葱白】水癥病には、煮汁を服すれば水を下す。○病のこぢれたものには、爛し搗いてそれに坐れば、氣を取り水自ら下る。【老絲瓜】巴豆と炒つた上、陳倉米を入れて炒り、米を取り豆を去つて丸にして服す。【巴豆】十種の水病。○水蠱大腹で音のするには、杏仁と共に丸にして服す。○煮汁で身體の腫を拭ふ。【郁李仁】大腹水腫で顏面まで皆浮れたるには、酒で四十九粒を服すればよく結氣を瀉し、尿を利す。○腫滿氣急には、麪に和し餅にして食へば、大便が通じて癒える。【烏桕木】暴水癥結に用ゐ、大小便を利す。○水氣虛腫で尿量少きには、木通、檳榔と共に末にして服す。【鼠李】水腫腹脹を下す。【接骨木根】水腫を下す。【楤木】煮て服し、水を下す。【鍼砂】積を消し、肝を平にする。○水腫尿短には、猪苓、地龍、葱涎と共に臍に貼る。【輕粉・粉霜】積を消し、水を下す。【銀硃】水病の大便利するものに主效があ

(一三)六欝ハ氣欝、濕欝、熱欝、痰欝、血欝、食欝、是ナリ。

(一四)丁香汁、金陵本ニ沈香汁トアリ。

る。硫黃と共に丸にして服す。

脾胃を調ふ　〔草部二〕【白朮】皮間の風水結腫、脾、胃の濕熱を逐ふ。○四肢の腫滿には、半兩づつ棗と共に煎じて服す。【蒼朮】濕を除き、汗を發し、痰飮を消し、水腫脹滿を治す。【黃連】濕熱水病には、蜜で丸にし四五丸づつ日毎に三回服す。【黃芪】風腫自汗【香附子】三焦を利し、(一三)六欝を解し、胕腫を消す。○酒腫、虛腫には、醋で煮て丸にして服す。○氣虛浮腫には、童尿に浸し焙じて丸にして服す。【藿香】風水毒腫。【砂仁】全身の腫滿、陰腫には、土狗一個と等分を研りまぜ、老酒で服す。【葳蕤】小兒の痢後、氣血が尙ほ虛し、熱が皮膚に在り、身體顏面俱に腫れたるには、葵子、龍膽、茯苓、前胡と共に煎じて服す。【使君子】小兒の虛腫で上下皆浮れたるには、蜜で炙り末にして服す。【附子】脾虛濕腫には、小豆と共に煮て焙じ丸にして服す。○男女の腫の積に原因するもので、積が去つてから再び發り、喘滿して尿が利せぬものは、醫者も此に到つて手を束ねるの外ないものであるが、これは中、下二焦の氣が升降せぬ爲である。生附子一個に生薑十片を入れ、水に(一四)丁香汁を入れて冷服する。數十個まで用うれば效がある。【烏頭】陰水腫滿には、桑白皮と共に煮た汁を

熬膏して服す。「菜果」【薑皮】浮腫腹脹を消す。【蘿蔔】酒腫、及び脾虛の足腫には、皂莢と共に煮熟して皂莢を去り、蒸餅に入れて搗き丸にして服す。【柑皮】產後の虛浮で四肢の腫れたるには、末にして酒で服す。【檳榔】水を逐ひ、脹を消す。【椰子漿】水を消す。【沙棠果】食へば水病を却ける。【吳茱萸】脾を燥し、水を行る。【蘇合香】水腫を下すには、水銀、白粉と共に服す。「禽獸」【白雄雞・黃雌雞】いづれも小豆と共に煮て食へば腫を消す【猪肝】肝虛浮腫には、葱、豉、蒜と共に醋で炙つて食ふ。○脊肉もよし。【狗肉】氣水鼓脹で尿少きには、蒸して食ふ【羊肉】身體顏面の浮腫には、商陸と共に臛に煮て食ふ。【水牛肉】水を消し、濕を除く。頭、尾皆よし。【牛膍】熱氣、水氣。【猯肉】水脹で瀕死なるには、羹にして食へば水を下すに大效がある。【獺肉】水脹熱毒には、汁に煮て服す。【鼠肉】水鼓、石鼓、身腫腹脹には、粥に煮て食ふ。

血腫　「草部」【紅藍花】搗汁を服す。三服を過してはならぬ。【劉寄奴】氣を下し、水脹を治す。【澤蘭】產後の血虛浮腫には防已と共に末にして醋湯で服す。【紫草】脹滿に用うれば水道を通ずる。

黄疸

瘀熱、脾虚、食積、瘀血、陰黄に因するもので、この五種はいづれも熱、濕の關係に屬するものである。

濕熱　「草部」【茵蔯】全身黄疸で尿の利せぬを治す。○陽黄には、大黄と共に用ゐる、陰黄には、附子と共に用ゐる。○濕熱黄疸には、五苓散に加へ、酒疸には、巵子、田螺と共に擂り爛して酒で服す。○癇黄で金のやうなるには、白鮮皮と共に煎じて服す。○生薑と共に諸種の黄病に塗擦する。【白鮮皮】黄疸、熱黄、急黄、穀黄、勞黄、酒黄に主效がある。【秦艽】牛乳で煎じて服すれば、大小便を利して酒黄、黄疸を瘵し、酒毒を解し、胃熱を治す。○一兩を酒に浸し、その汁を飲めば五疸を治す。【大黄】濕熱黄疸を治す。○傷寒瘀熱の發黄には、水に浸し煎じて服し、通じをつける。【栝樓根】腸胃の痼熱が疸に入り、身體顔面の黄なるを除く。○黒疸の重體なるものには、擣汁を服す。小兒には蜜を加へる。○酒疸、黄疸には、青栝樓を焙り研り煎じて服し、通じをつける。○(一)時疾の發黄には、黄栝樓の絞汁に芒

(一)時疾ハ時氣ノコトトスレバ疫癘ナリ。

消を入れて服す。【胡黄連】小兒の黄疸には、黄連末と共に黄瓜の内に入れ、麪で裹んで煨熱し、搗いて丸にして服す。【黄連】諸熱黄疸。【柴胡】濕熱黄疸には、甘草、茅根と共に水で煎じて服す。【苦參】黄疸に主效があり、濕熱を除く。【貝母】時行黄疸に主效がある。【山慈姑】蒼耳と共に擂り、酒で服すれば黄疸を治す。【茅根】尿を利し、酒毒を解し、黄疸を治す。○五種の疸疾には、汁を用ゐ、猪肉に合せて羹にして食ふ。【葛根】酒疸には、湯で煎じて服す。【紫草】火黄で身體に赤點が現れ、午前に發熱するには、吳藍、黄連、木香と共に煎じて服す。【惡實】急黄で身熱し、發狂するを治す。黄芩と共に煎じて服す。【蒼耳葉】揉んで舌の下へ置けば、涎が出て目黄を去る。【麥門冬】身重、目黄。【龍膽】胃中の伏熱、時疾、熱黄を除き、目中黄を去り、肝經の邪熱を退ける。○穀疸は食物に原因し、勞疸は勞に原因する。この藥一兩を用ゐ、苦參末二兩と共に牛膽汁で丸にして服するも效がある。【馬藺】酒疸を解す。【荊芥】濕疸を除く。【麗春草】時患から變じた(二)癃黄疸を療するには、花を採り末にして服し、根は杵いて汁を服し、通じをつける。【大靑】熱病から發した黄に主效がある。【麻黄】傷寒發黄の表熱には、酒で煎じて服し、汗を取る。【燈

(二)癃黄疸ハ熱性ナキ黄疸ヲ陰黄ト云フ説アリ、是ヲ云フカ。

心根】四兩を酒、水各半で煎じて服す。【萱草根】酒疸を治するには、擣汁を服す。【苦耽】熱結發黃、目黃で大小便の濇するを治するには、搗汁を服すれば效多く、濕熱を除く。【漆草】黃疸に主效がある。杵汁を酒に和して服す。【鬼臼】黑疸で食物を攝り得るには、擣汁を服す。【翹根】傷寒瘀熱の發黃を治す。【扁蓄】黃疸を治し、尿を利するには、搗汁一斤を頓服す。多年のものは一日に再服する。【紫花地丁】黃疸の內熱には、末三錢を酒で服す。【大戟】天行黃疸を泄す。【藜蘆】黃疸腫疾には、末にして水で服し、吐かす。【芫花】酒疸尿黃には、椒目と共に燒き末にして水で服す。【木鼈子】酒疸脾黃には、醋に磨つて一二盞を服し、通じをつける。【土瓜根】大小便を利し、酒黃病を治す。○黃疸が黑に變じたもの、及び小兒の發黃には、汁を取つて服すれば、病は尿から排出する。【百條根】糯米飯と共に搗いて臍の上へ罨法すれば、黃腫は尿と共に排出する。【雞子根】諸熱急黃、天行黃疸に主效がある。【山豆根】五種の急黃を治す。末二錢を水で服す。【茜根】黃疸に主效がある。【木通】脾疸で始終よく眠り、心煩するものに主效があり、尿を利す。【白英】寒熱八疸に主效がある。煮汁を飲む。【澤瀉】尿を利す。【菰筍】目黃を除き、大小便を利し、酒毒を解す。【蕁】熱疸

を治す。【地錦】脾勞黄疸に主效がある。皂、礬の諸藥と共に丸にして服す。【烏韭・垣衣】疸に主效がある。「穀部」【胡麻】五種の黄を殺し、三焦の熱毒の氣を下す。○傷寒發黄には、烏麻油を水に和し、雞子白を攪き拌ぜて服す。【麥苗】酒毒、酒疸、目黄を消す。擣汁を日毎に飮む。【穀潁】黄疸に主效がある。末にして酒で服す。【薏苡根】黄疸で金のやうなるに主效がある。擣汁を酒に和して服す。【麗春花】黄疸を治す。麻油で三錢を服す。【蔓菁子】尿を利するには、煮汁を服す。○黄疸で金の如きには、生で研つて水で服す。○急の便祕には、生で水で擣き、汁を絞つて服すれば、鼻から水を出し、且つ諸物を下して癒る。【萵苣子】腎黄で金の如きには、水で煎じて服す。【翹搖】杵汁を服すれば五種の黄疾に主效がある。【芹菜】煮て飮む。【苦瓠】鼻に齅げば黄水を去る。「果部」【桃根】黄疸の金の如きには、水で煎じて日毎に服す。【瓜蔕】鼻にかげば黄水を取る。或は牙に揉みつけて涎を追ふ。【烏芋】疸を消す。【鹽麩子】酒毒黄疸を解す。○根白皮を擣き、(三)米泔に一夜浸して一二升を溫服すれば酒疸を治す。「木部」【卮子】五種の黄病を解す。【黄蘗】胃中結熱の黄疸、【黄櫨】酒疸、目黄を解す。水で煮て服す。【柳花】黄疸で面部の黒くなれる

(三)金陵本ニ水泔トアレドモ米泔ノ誤ナルベシ。

（四）走精黄、聖濟總錄ニ解アリ。

に用ゐる。【柳根皮】黄疸の初期には、水で煎じて服す。【樺皮】諸疸には煮て服す。【柞木皮】黄疸には、燒いて末にし水で服す。【木蘭皮】酒疸に尿を利するには、黄蓍と共に末にして服す。「石部」【滑石】食毒を化し、熱黄疸を除く【方解石】熱結黄疸、【朴消】積熱黄疸。「介部」【蟹】濕熱黄疸には、燒いて研り丸にして服す。【田蠃】大小便を利し、目黄を去る。○生で搗り、酒で服すれば酒疸を治す。「獸部」【猪脂】五疸には、日毎に服して通じをつける。【牛脂】（四）走精黄で顏面まで黄に、舌紫になり、面の裂けるには、豉と共に熱く煎じ、綿に裹んで舌上に貼る。【牛乳】老人の黄疸には、粥に煮て食ふ。【牛膽】穀疸食黄には、苦參、龍膽に和して丸にして服す。【牛屎】黄疸には、汁を絞つて服す。○或は末にし丸にして服す。【豪猪屎】燒いて服すれば疸を治す。「人部」【髮髲】傷寒發黄には、燒き研つて水で服す。○女勞黄疸で發熱惡寒し、小腹が滿するには、一塊の猪膏で煎じ化して服すれば、病は尿と共に排出する。【女人月經衣】女勞黄疸には、燒灰を酒で服す。

脾胃　「草部」【黄蓍】酒疸で心下が懊痛し、脛が腫れて斑の出るものは、大醉で風に當り水に入つた爲に發るものである。これには木蘭皮と共に末にし酒で服す。【白

朮】疸に主效があり、濕熱を除き、食物を消化し、尿を利す。○血を瀉す。萎黄積年の者には、土で炒り、熟地黄に和して丸にして服す。蒼朮もよし。【遠志】顔面の黄、【當歸】白黄で顔色が枯れやつれ舌の縮むには、白朮と共に煎じて服す。「菜果」【老茄】婦人の血黄には、竹刀で切つて陰乾し、末にして二錢づつを酒で服す。【椒紅】疸を治す。「服石」【婦人内衣】房勞の黄病で瘕の如く塊起し、十死一生の重體なるには、燒灰を酒で服す。【白石英・五色石脂】「禽部」【黄雌雞】時行黄疾には、煮て食ひ汁を飲む。【雞子】三十六黄には、一箇を殼と共に燒いて研り、醋一合で溫服すれば、鼻から虫が出て效果がある。重いものでも三回を過ぎずして神效がある。○時行發黄には、雞子を酒、醋に一夜浸して白を數箇呑む。

食積　「穀部」【神麴・麥蘖・黄蒸】食黄、黄汗には、毎夜水に浸し、翌朝汁を絞つて溫服する。【米醋】黄疸、黄汗。「菜木」【絲瓜】(五)食黄には、子と共に燒いて研り、其の黄病の原因となつた食物と共に二錢を湯に煎じて服す。【皂莢】食氣黄腫には、醋で炙り巴豆と共に丸にして服す。「金石」【鍼砂】積を消し、肝を平にし、黄を治す。○脾勞黄病には、醋で七回炒り、乾漆、香附、平胃散と共に丸にして服す。○濕熱黄疸には、百草

(五)食黄トハ食物ニ由リ起ル黄疸ノ意ニテ、鼠糞又ハ生黄瓜ヲ食シ發スルモノトスルノ說ニ從ヒシモノナラン。

（六）血證黄腫ハ婦人ノ血信不調ニ因テ發スルモノヲ云フ。

霜、粳米と共に丸にして服す。【礬石】黄疸水腫には、青礬、白麪と共に丸にして服す。○女勞黄疸の變じて黑疸となり、腹が水のやうに脹るには、消石と共に丸にして服す。○婦人の黄疸は經水時の房事過度から發る、橘皮と共に蠟で化し丸にして服す。【綠礬】積を消し、濕を燥し、痰を化し、脹を除く。○脾病黄腫には、百草霜、當歸と共に丸にして服す。○百草霜、五倍子、木香と共に丸にして服す。○平胃散と共に丸にして服す。○酒黄には、平胃散、順氣散と共に丸にして服す。○食勞黄には、棗肉で丸にして服す。○（六）血證黄腫には、百草霜と共に炒り、麪で丸にして服し、或は小麥、棗肉と共に丸にして服す【百草霜】積滯を消し、黄疸を治す。「禽部」【白丁香】急黄の危篤なるには、湯で服すれば立ろに甦る。【五靈脂】酒積黄腫には、麝香を入れ丸にして服す。

脚氣

風濕、寒濕、濕熱、食積に因るものである。

風寒濕氣　「草部」【牛蒡】脚氣風毒には、酒に浸して飲む。【忍冬】脚氣で筋骨の引痛するには、末を熱酒で服す。【木鼈子】麩で炒つて油を去り、桂末と共に熱酒で服し、汗

を取る。【高涼薑】脚氣で夕刻以後は食物が消化せず、吐き氣を生ずるには、煎じて服すれば消化する。【蘇子】風濕脚氣には、高涼薑、橘皮と共に丸にして服す【丹參】風痺足軟には、酒に漬けて飲む。【胡盧巴】寒濕脚氣には、酒に浸して破故紙と共に末にし、木瓜を入れ蒸熟して丸にして服す。【麻黄・羗活・細辛・蒼朮・白朮・天麻・牡蒙・夏枯草・附子・側子・艾葉・秦艽・白蒿・菴䕡・薇銜・馬先蒿・水蘇・紫蘇・漏蘆・飛廉・青葙・蒼耳・茵蕷・馬藺子・茜根・菊花・旋覆・菖蒲・水萍・萆薢・青藤】酒。【石南藤】酒【菝葜】酒に浸して服す。【土茯苓】「穀菜」【蕓薹】いづれも風寒濕痺の脚氣に主效がある。【豉】脚を患ふ人は常に酒に漬けて飲み、滓を傅ける。【薏苡仁】乾濕脚氣には、粥に煮て食へば大に效驗がある【懷香】乾濕脚氣には、末にして酒で服す。【葱白】「果木」【杏仁・秦椒・蜀椒・蔓椒・大腹皮】いづれも風寒濕脚氣に主效がある。【檳榔】風濕脚氣の衝心で人事不省なるには、末にして童尿で服す。○沙牛尿を用うるもよし。老人、虚弱の人の脚氣脹滿には豉汁で服す。【呉茱萸】寒濕脚氣に大腸の壅氣を利す。衝心には、生薑と共に擂つて汁を服す。【烏藥】脚氣の掣痛には、酒に浸して服す。【五加皮】風濕の脚痛(一)五緩には、酒で煮て飲み、或は酒制丸にして

(一)五緩ハ五軟ト同

意無。五軟ハ頭項軟、手軟、脚軟、身軟、口軟是ナリ。此等ノ部分軟弱力ナキ病證ヲ云フ。
(二)風痺ハ身ニ於テ痛ナク四肢收ラザルモノ。
(三)血竭ハ藥物名。
(四)下注、金陵本ニ下室トアレドモ下注ノ誤字ナルコト疑ナシ。

服す。【扶移・白楊皮】毒風脚氣の緩弱には、酒に浸して飲む。【松節】風虛で脚の痺痛するには、酒に釀して飲む。【松葉】十二の(二)風痺脚氣には、酒に釀して用ゐる。一劑全部を服すれば相當遠路に堪へる。【櫸芽】蔬にして用うれば風毒脚氣を去る。【乳香】(三)血竭、木瓜と共に丸にして服すれば、久、新の脚氣に主效がある。【蘇合香・厚朴・皂莢子・官桂・欒荆・乾漆・石南葉・海桐皮】「金石」【石亭脂】川烏、無名異と共に葱汁で丸にして服す。【礜石】酒に浸す。【硫黃】牛乳で煎じる。【慈石・玄精石・白石英】「蟲鱗」【晩蠶沙】酒に浸す。【靑魚・鱧魚・鰻鱺・秦龜甲】「禽獸」【烏雄雞・牛酥・羊脂・麋脂・熊肉】いづれも風濕脚氣に主效がある。【猪肚】燒いて研り酒で服す。【羊乳・牛乳】硫黃末を調へて服し、汗を取る。【牛皮膠】炒つて研り酒で服すれば、寒濕脚氣の痛みが立ろに止む。

濕熱流注　「草部」【木通・防已・澤瀉・香薷・荊芥・豨薟・龍常草・車前子・海金沙・海藻・大黃】【商陸】小豆、綠豆と合せ飯に煮て食ふ。【甘遂】腎臟の風濕(四)下注、脚氣腫痛で瘡を生ぜるを瀉す。木鼈子と共に猪腎に入れて煨いて食ひ、通じを付ける。【牽牛】風毒脚氣の腸祕には、蜜で丸にして日毎に服し、また生で呑む。【威靈

仙】脚氣が腹に入つて脹悶し喘急するには、末にして酒で二錢を服し、或は丸にして服す。痛が減ずれば藥をも減ずる。【蕕草】濕痺脚氣で尿少きには、小豆と共に煮て食ふ。【三白草】脚氣風毒には、擂つて酒で服す。【巴戟天】酒を飲む人の脚氣には、炒つて大黄と共に更に炒り、研つて蜜で丸にして服す。【香附子】「穀菜」【胡麻】腰脚の痛痺には、炒つて末にし日毎に服す。一年繼續すれば永く瘥える【大麻仁】脚氣腹痺には、酒に浸して服す。○腫渇には、研つた汁で小豆を煮て食ふ。【赤小豆】鯉魚と共に煮て食へば濕熱脚氣を除く。【黑大豆】煮汁を飲めば、風毒脚氣の衝心で煩悶し人事不省のものに主效がある。【馬齒莧】脚氣で浮腫し尿の澀るには、煮て食ふ。【百合・竹筍】風熱脚氣。【紫菜】「果木」【木瓜】濕痺、脚氣衝心には、煎じて服す。枝、葉も皆よし【橘皮】脚氣衝心には、杏仁と共に丸にして服す。【桃仁】脚氣腰痛には、末にして酒で服すれば一夜にして消する。【枇杷葉】脚氣惡心。【楊梅核仁】濕熱脚氣。【枳殼】甘草と共に末にして服すれば脚氣を疏導する。【桑葉及び枝】脚氣水氣には、濃煎汁を服すれば大小腸を利す。【郁李仁】脚氣の腫喘、大小便不利には、薏苡と共に粥に煮て食ふ。【紫荊皮】酒で煎じて服す。【伏神木】脚氣痺痛には、末にして酒で服す。【赤茯苓・

猪苓】「石部」【滑石】「介部」【淡菜・蜆肉】「獸部」【猪肝腎肚】生で食へば老人の脚氣を治す。【烏特牛尿】熱して飲めば小便を利し、風毒脚氣の腫滿に主效があり、甚だ妙である。

洗潔 【水蓼・水葒・毛蓼・甘松・水英・陸英・曼陀羅花・螺黶草・大戟・猫兒眼睛草・苦參・落鴈木】【黍穰】椒目と共に用ゐる。【生葱・萊菔根】【荷心】藁本と共に用ゐる。【蘇木】忍冬と共に用ゐる。【杉材・楠材・樟材・釣樟・扶移】いづれも水で煎じて熏じ洗ふ。【白礬湯・鼈肉】蒼朮、蒼耳、尋風藤と共に煮汁で洗ふ。

敷貼 【附子】薑汁で調へる。【天雄・草烏頭】薑汁で調へ、或は大黄、木鼈子末を加へる。【白芥子】白芷と共に末にする。【皂莢】小豆と共に末にする。【蓖麻仁】蘇合香丸と共に足心に貼れば痛みが止る。【烏桕皮】脚氣で瘡を生じ蟲のあるには、末にして傅け、涎を追ふ。【人中白】脚氣で漏孔になつたものには、煆いて水で滴らす。【羊角】燒いて研り酒で調へて傅け、汗を取れば永く發らない。【田螺】脚氣(五)攻注には、鹽と共に杵いて股上に傅ければ落付く。【木瓜】袋に盛つて踏む。【蜀椒】袋に盛つて踏む。【樟腦・柳華・治鳥巢・蘿蔔花】いづれも鞋、靴に籍く。【木狗皮・豺

(五)攻注ハイタムコト。

皮・麂皮】いづれも足を裹む。

熨熏　【麥麩】醋で蒸して熱熨する。【蠶沙】蒸して熱熨する。【蒴藋根】酒醋で蒸して熱熨する。【蓖麻葉】蒸して裹み屢〻易へる。【荊葉】蒸熱し、その上に臥して汗を取る。○烟に燒いて涌泉穴を熏ずる。【鹽砂】川烏末と共に炒り包んで熨す。【食鹽】蒸熱して踏み、或は腿、膝に塗擦して後洗ふ。いづれも良好である。【火鍼】

(一)痿

濕熱、濕痰、瘀血に因するもので、血虚は肝、腎に屬し、氣虚は脾、肺に屬する。

濕熱　「草部」【黃芩】脾、肺の濕熱を去り、陰を養ひ、陽を退ける。【秦艽】陽明の濕熱に用ゐ、血を養ひ、筋を盛にする。【知母】陰火を瀉し、腎水を滋くする。【生地黃・黃連・連翹・澤瀉・威靈仙・防已・木通】いづれも濕熱を除く。【薇銜】痿躄を治し、風濕を去る。【卷栢】痿躄を治し、陰を強くする。【陸英】足膝の寒痛、陰痿、短氣。【升麻・柴胡】引經。「木部」【黃蘗】濕熱を除き、腎水を滋くし、氣を益す藥の中に之を加へる。膝中の氣力を涌出させて痿軟が去る。痿病の藥である。【茯苓・猪苓】

(一)痿ハ足ノ筋骨ガ麻痺シテ力ナキヲ云フ。

いづれも濕熱を瀉す。【五加皮】痿躄、賊風に傷はれて軟脚になつたものに主效がある。

痰濕　「草部」【蒼朮】濕を除き、痰を消し、脾を健にし、筋骨の軟弱を治す。治痿の要藥である。【白朮・神麴・香附子・半夏】いづれも濕を除き、痰を消す。【天南星】筋痿の拘緩。【白附子】諸風、冷氣で足弱く力無きもの。【附子・天雄】風痰、冷痺の軟脚、毒風に對する引經の藥である。【豨薟・類鼻】いづれも風濕痿痺。「果木」【橘皮】氣を利し、濕痰を除く。【松節】酒に釀したものは脚弱に主效があり、よく血中の濕を燥す。【桂】引經。○酒で調へて足躄筋急に塗る。

虚燥　「草部」【黄芪】元氣を益し、陰火を瀉し、惡血を逐ひ、自汗を止め、筋骨を壯にし、陰氣を利し、脾、肺を補ふ。【人參】元氣を益し、陰火を瀉し、肺、胃を益し、津液を生じ、痿痺を除き、痰を消し、血を生ずる。【麥門冬】心火を降し、肺氣を安定して痿躄に主效があり、陰を強くし、精を益す。【知母】陰火を瀉し、腎水を滋くし、心、肺を潤す。【甘草】火を瀉し、元を調へる。【山藥】虚羸を補し、筋骨を強くし、肺、胃を助ける。【石斛】脚膝の冷疼、痺弱には、皮肌の風を逐ひ、筋骨を

壯にし、氣力を益す。【牛膝】痿痺、腰膝の軟怯、冷弱で屈伸し得ぬものには、酒に釀して服するもよし。【兎絲子】精髓を益し、筋骨を堅くする。腰疼膝冷には、牛膝と共に丸にして服す。【何首烏】骨軟で歩行不能となり、腰膝が痛み、全身瘙痒するには、牛膝と共に丸にして服す。【萆薢】腰脚痺軟には、杜仲と共に丸にして服す。【菝葜】風毒脚弱には、煮汁で酒を釀して服す。【土茯苓】風濕を除き、關節を利し、拘攣を治し、歩行を健にする。【狗脊】男女の脚弱腰痛に用ゐて腎を補ふ。【骨碎補】痢病後、長途を歩行し、或は房事過度、或は外感で足が痿軟し、或は痛み、或は痺れるには、汁を酒に和して服す。【菖蒲】酒に釀して飲めば骨痿に主效がある。【芎藭・芍藥・當歸・地黃・天門冬・紫菀・紫葳】いづれも痿躄に主效があり、血を養ひ、燥を潤す。【肉蓯蓉・瑣陽・列當・五味子・覆盆子・巴戟天・淫羊藿】「木部」【山茱萸・枸杞子・杜仲】「獸部」【白膠・鹿茸・鹿角・麋角・膃肭臍】いづれも陰氣を强くし、精血を益し、肝、腎を補ひ、燥を潤し、筋を養ひ、痿弱を治す。

(一)**轉筋**　風寒の外束、血熱、濕熱、吐瀉に因する。

(一)轉筋ハ局發痙攣。俗ニ云フスヂツマリ。

内治　「草部」【木香】木瓜汁に酒を入れて調へて服す。【桔梗・前胡・艾葉・紫蘇・香薷・半夏・附子・五味子・菖蒲・縮砂・高良薑】「菜部」【葱白・薤白・生薑・乾薑】「果木」【木瓜】筋脈を利し、轉筋、筋攣の諸病に主效がある。○枝、葉、皮、根も同じ。【棠梨枝葉・櫨子・榠樝】【呉茱萸】炒つて酒で煎じて服し、通じがつけば安靜になる。○葉は艾、醋と共に罨法する。【松節】轉筋攣急には、乳香と共に炒り焦し、研末にして木瓜酒で服す。【桂】霍亂の轉筋。○足躄筋急には、酒と共に塗る。【沈香】轉筋を止める。【厚朴・巵子】「器水土禽」【厠籌】いづれも霍亂の轉筋。【故麻鞋底】赤く燒いて酒中に投じて飲む。【梳篦】灰に燒いて酒で服す。【敗蒲席】燒いて服す。【屠砧垢】酒で飲んで吐かす。【山岩泉水】飽くまで多く飲む。これを洗腸といふ。【釜底墨】酒で服す。【古文錢】木瓜、烏梅と共に煎じて服す。【雞矢白】轉筋の腹に入つたものには、末にして水で服す。【羊毛】醋で煮て脚を裹む。

外治　【蓼】洗ふ。【蒜】鹽で擣き、臍へ敷いて七壯灸する。○足心へ擦りつけ、且つ一蒜を食ふ。【柏葉】擣いて裹み、また汁に煎じて淋ぐ。○枝、葉もまたよし。【楠木】洗ふ。【竹葉】熨す。【皂莢末】鼻で搐く。【熱湯】熨す。【車轂中脂】足心に塗る。

【青布・綿絮】いづれも酢で煮て搨す。【銅器】炙つて腎堂を熨す。【硃砂】霍亂の轉筋で身冷え、心下の溫なるには、蠟で丸にして籠の中で燒き熏じ、汗を取る。【蜜蠟】脚上の轉筋には、銷化して貼る。

(一)喘逆

古は欬逆上氣と名けたもので、風寒、火鬱、痰氣、水濕、氣虛、陰虛、脚氣、(二)齁䶎である。

風寒　「草部」【麻黃】風寒の欬逆上氣。【羌活】諸風、濕冷が奔り、喘逆するもの。【蘇葉】風寒を散じ、氣を行らし、痰を消し、肺を利す。○寒に感じて上氣せるには、橘皮と共に煎じて服す。【款冬花】欬逆上氣で喘息し、呼吸困難なるに用ゐ、煩を除き痰を消す。【南藤】上氣欬嗽には、煮汁を服す。【細辛・藎草・破故紙】「果木」【蜀椒】いづれも虛寒喘嗽に主效がある。【松子仁】小兒の寒嗽で壅喘するには、麻黃、百部、杏仁と共に丸にして服す。【桂】欬逆上氣には、乾薑、皂莢と共に丸にして服す。【皂莢】欬逆上氣で臥し得ぬには、炙つて研り、蜜で丸にして一丸を服す。○風痰には、半夏と共に煎じて服す。○痰喘欬嗽には、三挺を分けて巴豆、杏仁、半夏を夾み、薑汁、

(一)喘逆ハ欬嗽シテ氣ノ急ナルモノヲ云フ。
(二)齁䶎ハ喘息ノ一種。

香油、蜜でそれぞれ分けて炙り、末にして舐める。【巴豆】寒痰氣喘には、青皮一片に一粒を夾み、燒き研つて薑汁酒で服す。口へ入れば直に止る。「鱗部」【鯉魚】燒いて末にして用ゐ、發汗すれば喘が鎭る。欬嗽には粥中に入れて食ふ。

痰氣　「草部」【半夏】痰喘には、皂莢と共に煎じて服す。○失血喘急には、薑汁で麪に和し、煨いて研り丸にして服す。【桔梗】痰喘には、末にし童尿で煎じて服す。【白前】胸脇の逆氣で呼吸が絶えんとするものを下す。○久欬上氣で臥し得ぬには、紫菀、半夏、大戟と共に水に漬けて飮む。○呼吸に咽ぶやうな聲が出て眠り得ぬには、焙じ末にして酒で服す。【蓬莪蒁】上氣喘急には、五錢を酒で煎じて服す。○氣短でつづかぬには、金鈴子と共に末にし、蓬砂を入れて酒で服す。【蘇子】痰を消し、氣を利し、喘を鎭める。橘皮と共に用うるが良好である。○上氣欬逆には、汁に研り粥に煮て食ふ。【縮砂仁】上氣欬逆には、生薑と共に酒に擂つて服す。【莨菪子】積年の上氣欬嗽には、羊肺に末を蘸けて服す。【葶藶】肺壅の上氣喘促。○肺濕の痰喘には、棗肉で丸にして服す。また酒に浸すもよし。【甘遂】水氣喘促には、大戟と共に末にして服す。○十棗丸。○控涎丹。【澤漆】肺欬上氣には、煮汁で半夏諸藥を煎じて服す。【大戟】水

(三)支滿ハ胸ニ支ヘテ滿ルコト。

喘には、蕎麪と共に餅にして食ひ、通じをつける。【栝樓】痰喘氣急には、白礬末と共に羅蔔に蘸けて食ふ。○小兒の痰喘膈熱には、子を去つて寒食麪に和し、餅にして炙り研つて水で服す。【貝母・荏子・射干・芫花・蕘花・黄環・前胡・蒟醬】【蕎麥粉】咳逆上氣には、茶末、生蜜と共に水で服す。氣下つて止まず卽ち癒える。【芥子】いづれも痰を消し、氣を下し、喘欬を鎭める。【白芥子】欬嗽で(三)支滿し、上氣して唾多きには、酒で七粒づつを呑む。○老人の痰喘には、萊菔子、蘇子と共に煎じて服す。【萊菔子】老人の氣喘には、蜜で丸にして服す。○痰氣の喘には、皂莢灰と共に蜜で丸にして服す。○久嗽痰喘には、杏仁と共に丸にして服す。【生薑】暴逆上氣には、嚼むが屢〻效がある。【藿香】腎氣上衝で脇痛し、喘息し、臥し得ぬには、擂汁を酒に和して服す。「果木」【橘皮・杏仁】欬逆上氣で喘促するには、炒つて研り蜜に和して含む。○上氣喘急には、桃仁と共に丸にして服し、通じをつける。○久しき喘急には、童尿に取換へつつ半月の間浸して焙じて研り、棗ほどづつを薄荷と共に蜜で煎じて服すれば甚だ效がある。○浮腫喘急には、粥に煮て食ふ。【桃仁】五氣の欬嗽喘滿には、研つた汁で粥を煮て食ふ。【檳榔】痰喘には、末にして服す。○四磨湯。

(四)金陵本ニ一錢トアリ。

(五)目竄ハ白眼ヲ出シ上ヲ見ルコト。

【椒目】諸喘の止まぬには、炒り研つて湯で(四)二錢を服し、病を劫してから他の藥を用ゐる。【崖椒】肺氣の喘欬には、野薑末と共に酒で一錢を服す。【茗茶】風痰喘嗽で臥し得ぬには、白殭蠶と共に末にして湯で服す。○子は百合と共に丸にして服す。【銀杏】痰を降し、喘を鎭め、肺を溫む。煨いて食ふ。【瓜蔕】痰を吐く。【柿蔕・都咸子・馬兜鈴】肺氣喘急には、酥で炒り甘草末と共に煎じて服す。【楸葉】上氣欬嗽し、腹滿瘦弱なるには、水で煎じ熬膏して下部に納れる。【訶黎勒・桑白皮・厚朴・枳實・茯苓・牡荊】「金石」【靑礞石】いづれも肺氣を瀉し、痰を消し、喘を鎭める。【雄黃】停痰が胃に在つて喘息し、絕息せんとするには、雄黃と共に大丸にし、夜半糯粥の中に投じて食ふ。【硫黃】冷澼が脇に在つて欬逆上氣するに用ゐる。【輕粉】小兒の涎喘には、雞子で蒸して食ひ、吐き下す。【金屑・玉屑・白石英・紫石英・石鹼】「介蟲」【海蛤・文蛤・蛤粉・白殭蠶】「禽獸」【蝙蝠】久欬上氣には、燒いて末にし飮で服す。【猪蹄甲】久嗽痰喘には、半夏、白礬を入れて煨き、研つて麝香を入れて服す。或は南星と共に煨き丸にして服す。【阿膠】肺風喘促で涎潮(五)目竄するには、紫蘇、烏梅と共に煎じて服す。【驢尿】卒喘には、酒に和して服す。

火欝　「草部」【知母】久嗽氣急には、杏仁と共に煎じて服し、次に杏仁、蘿蔔子を以て丸にして服す。【茅根】肺熱喘急には、水で煎じて服す。これを如神湯といふ。【藍葉】上氣欬嗽で呼吸に咽ぶやうな聲あるには、擣汁を服し、後に杏仁の粥を食ふ。【大黄】忽ち喘急悶絶して涎を出し吐逆し齒の動くは傷寒併熱と名ける。これには人參と共に煎じて服す。【天門冬・麥門冬・黄芩・沙參・前胡・藎草・薢草】「穀菜果服」【丹黍根】煮て服す。いづれも肺熱喘息に主效がある。【生山藥】痰喘氣急には、擣き爛して蔗汁を入れて熱服する【沙糖】上氣喘嗽には、薑汁と共に煎じて嚥む。【桃皮】肺熱喘急で極端に苦み、客熱の往來するには、芫花と共に湯に煎じて胸口に薄すれば數刻にして止る。【故錦】上氣喘急には、燒灰を茶で服するが神效がある。「石鱗」【石膏】痰熱喘急には、寒水石と共に末にし、人參湯に入れて服す。或は甘草末と共に服す。【龍骨】怒氣が伏して心下に在り、喘息するを得ずして欬逆上氣するもの。「人部」【人溺】久嗽上氣で聲を失するもの。

虛促　「草部」【人參】陽虛喘息で自汗し(六)頭運して絶息せんとするには、末にして湯で服す。甚しきには熟附子を加へ共に煎じて用ゐる。○產後發喘するは血が肺竅

(六)頭運ハ眩運。

に入つた危險症狀である。蘇木湯で調へて五錢を服す。【五味子】欬逆上氣には、阿膠を佐として耗散の氣を收める。○痰嗽急喘には、白礬末と共に猪肺に蘸けて食ふ。【馬兜鈴】肺熱喘促の間斷なきに用ゐ、肺を淸くし、肺を補ふ。○酥で炒り、甘草末と共に煎じて服す。【黄芪・紫菀・女菀・款冬花】「菜果木部」【韭汁】喘息で絶息せんとするには一升を飲む。【大棗】上氣欬嗽には、酥で煎じて含嚥する。【胡桃】虚寒、喘嗽に燥を潤し痰を化す。生薑と共に嚼んで嚥む。○老人の喘嗽には、杏仁、生薑と共に蜜で丸にして服す。○產後の氣喘には、人參と共に煎じて服す。【沈香】上熱下寒の喘急には、四磨湯を用ゐる。【蒲頹葉】肺虚喘欬の甚しきには、焙つて研り米飮で服す。三十年の久しきものも癒える。【烏藥】「金石」【石鍾乳】肺虚喘急には、蠟で丸にして服す。【太乙餘粮】「鱗介」【蛤蚧】虚喘の顏面浮腫には、人參と共に蠟で丸にし、糯粥に入れて啜ふ。【魚鱠】風や脚氣の人の上氣欬嗽。【鸐雉】五臟の氣喘で落付き得ぬには、臛にして食ふ。【雞卵白】「獸部」【阿膠】虚勞の喘急久嗽で年を經たるには、人參と共に末にして日毎に服す。【猪肉】上氣欬嗽の煩滿には、切つて餡子にし、猪脂で煎じて食ふ。【猪肪】煮熟して切つて食ふ。【猪胰】肺の乾脹で喘急するに

は、酒に浸して服す。【羊肺】【青羊角】吐血喘急には、桂と共に末にして服す。【猯骨】炙つて研り日毎に三回酒で服す。【獺肝】虛勞上氣

(七)齁齁「草部」【石胡荽】寒齁には、搐つて酒で服す。【醉魚草花】寒齁には、米粉と共に果にして炙いて食ふ。【半邊蓮】寒齁には、雄黃と共に煅き丸にして服す。【石莧】甘草と共に煎じて服し、吐かす。【芋根】痰齁には、煅いて研り豆腐に蘸けて食ふ。【蓖麻仁】炒つて甜い者を取つて食ふ。○葉を白礬、猪肉と共に裹んで煨いて食ふ。○年久しきには、桑葉、御米殼と共に丸にして服す。【馬蹄香】末。【藜蘆】いづれも吐かす。【木鼈子】小兒の鹹齁には、水に磨つて飲めば直に痰を吐き出す。重きものも三回服すれば效がある。「穀菜」【脂麻稭灰】小兒の鹽齁には、淡豆腐に蘸けて食ふ。【淡豉】齁喘痰積には、砒霜、枯礬と共に丸にして水で服すれば直ちに止る。【萊菔子】美食を過して發りたるには、蒸して研り、蒸餅で丸にして服す。「果木」【銀杏】麻黃、甘草と共に煎じて服す。○定喘湯に半夏、蘇子、杏仁、黃芩、桑白皮、款冬花を加へる。【茶子】米泔に磨つた汁を鼻に滴して涎を取る。○喘急欬嗽には、百合と共に蜜で丸にして服し、通じをつける。【苦丁香・皂莢】酥で炙り蜜で丸にして服す。【楡白皮】

(七)字書ニ齁ハ鼻息ナリトアリ。

陰乾して末にし、煎じて日に二回づつ服す。【柏樹皮汁】小兒の鹽齁には、麪に和して餅にし烙つて食ひ、吐き下す。【白瓷器】末にし燕けて食ふ。「鱗介禽獸」【鯽魚】人尿に浸して殺し、煨いて食へば小兒の齁に主效がある。【海螵蛸】小兒の痰齁には、飲で一錢を服す。【爛螺殼】小兒の齁には、末にして日沒時に服す。【雞子】尿に三日間浸して煮て食へば年深き齁に主效がある。【蝙蝠】十年二十年の上氣には、燒き研つて服す。【貓屎灰】痰齁には、沙糖水で服す。

欬嗽　風寒、痰濕、火熱、燥鬱である。

風寒　「草菜」【麻黃】風寒を發散し、肺經の火鬱を解す。【細辛】風濕を去り、肺を泄し、痰を破る。【白前】風寒上氣には、よく肺氣を保護し安定する。多くの場合溫藥を以て佐使とする。○久咳唾血には、桔梗、桑白皮、甘草と共に煎じて服す。【百部】暴嗽を止めるには、酒に浸して服す。○三十年の久嗽には、煎膏して服す。○小兒の寒嗽には、麻黃、杏仁と共に丸にして服す。【款冬花】肺を溫め嗽を治するの要藥である。【牛蒡根】風寒で肺を傷めた(一)壅欬。【飛廉】風邪の欬嗽。【佛耳草】寒嗽を除く。

(一)壅ハ字書ニ癰ナ

○款冬花、地黄と共に燒いて烟を吸ふ。久、近を問はず、欬嗽に用ゐる【縮砂・柴蘇・芥子】いづれも寒嗽に主效がある。【生薑】寒濕の嗽には、燒いて含む。○久嗽には、白餳或は蜜で煮て食ふ。○小兒の寒嗽には、湯に煎じて浴する。【乾薑】「果木」【蜀椒・桂心】いづれも寒嗽に主效がある。「土石」【釜月下土】(二)卒欬嗽には、豉と共に丸にして服す【車缸】姙娠欬嗽には、燒いて酒に入れて冷服する。【石灰】老幼の暴嗽には、蛤粉と共に丸にして服す。【鍾乳石】肺虚の寒嗽。「鱗魚」【蜂房】小兒の欬嗽には、灰に燒いて服す。【鯽魚】燒いて服すれば欬嗽を止める「禽獸」【白雞】卒嗽には、苦酒で煮て服す。【雞子白皮】久欬には、麻黄と共に末にして服す。【羊胰】長年月の欬嗽には、大棗と共に酒に浸して服す。

痰濕　「草部」【半夏】濕痰欬嗽には、南星、白朮と共に丸にして服す。○氣痰欬嗽には、南星、官桂と共に丸にして服す。○熱痰欬嗽には、南星、黄芩と共に丸にして服す。○肺熱欬嗽には、栝樓仁と共に丸にして服す。【天南星】氣痰欬嗽には、半夏、橘皮と共に丸にして服す。○風痰欬嗽には、炮して研り煎じて服す。【莨菪子】久嗽の止まぬには、煮て炒り研末して酥と共に棗を煮て食ふ。○三十年の(三)呼嗽には、木

リトアリ。欬ハ逆氣ナリ、重イ欬嗽。

(二)卒欬嗽ハニハカニ出ヅルセキ。

(三)呼嗽ハ欬嗽ニ同ジ。

香、熏黄と共に燒き烟を吸ふ。【葶藶】肺壅痰嗽には、知母、貝母、棗肉と共に丸にして服す。【芫花】卒の痰嗽には、煎じた水で棗を煮て食ふ。○痰あるには、白糖を入れて少量づつ數〻服す。【玄胡索】老幼の痰嗽には、枯礬と共に餳に和して食ふ。【旋覆花・白藥子・千金藤・黄環・蕘花・大戟・甘遂・草犀・蘇子・荏子】「菜蔬」【白芥子・蔓菁子】いづれも痰氣欬嗽に主效がある。【萊菔子】痰氣欬嗽には、炒つて研り糖に和して含む。○上氣痰嗽で膿血を唾するには、湯に煎じて服す。【萊菔】癆痩欬嗽には、煮て食ふ。【絲瓜】痰を化し、嗽を止める。燒いて研り棗肉で丸にして服す。【燒酒】寒痰欬嗽には、猪脂、茶末、香油と共に蜜に浸して服す。「果木」【白果・榧子・海棗・梹子・都念子・鹽麩子】いづれも痰喘に主效がある。【香櫞】酒で煮たものは痰嗽を止める。【橘皮】痰嗽には、甘草と共に丸にして服す。○年を經た氣嗽には、神麴、生薑と共に蒸餅で丸にして服す。【枳殼】欬嗽痰滯。【皂莢】欬嗽(四)囊結。○卒寒嗽には、燒いて研り豉湯で服す。○欬嗽上氣には、蜜で炙り丸にして服す。○また桂心、乾薑と共に丸にして服す【桂木】久嗽上氣。【楮白皮】水氣欬嗽。【桑白皮】肺中の水氣を去る。○欬血には、糯米と共に末にして服す。【厚朴】「金石」【礬石】

(四)囊結トハ欬嗽甚シク息ノデナクナル症ナラン。

痰を化し、嗽を止める。醋糊で丸にして服す。或は人參を加へ、或は建茶を加へる。○或は炒つた巵子と共に丸にして服す。【浮石】金を淸くし、老痰を化す　欬嗽の止まぬには、末にして服し、或は丸にする　【雄黃】久嗽には、煆いて丸にして服す。【雄黃】冷痰、勞嗽。【密陀僧・礞石・硇砂】「介蟲」【馬刀・蛤蜊粉】いづれも痰嗽に主効がある　【鱟魚殼】積年の欬嗽には、貝母、桔梗、牙皂と共に丸にして服す。【蚌粉】痰嗽で顏面の浮腫するには、紅く炒り、虀水に油を入れて服す。【鬼眼睛・白蜆殼】卒嗽の止まぬには、末にして酒で服す。【海蛤・白殭蠶】酒後の痰嗽には、焙じ研つて茶で服す。

痰火　「草部」【黃芩・桔梗・薺苨・前胡・百合・天門冬・山豆根・白鮮皮・馬兜鈴】いづれも肺熱を淸くし、痰欬を除く。【甘草】火が肺を傷めた欬を除く。○小兒の熱嗽には、猪膽汁に浸して炙り、蜜で丸にして服す。【沙參】肺氣を益し、肺火を淸くする。水で煎じて服す。【麥門冬】心肺虛熱の火嗽には、嚼んで食ふが甚だ妙である。寒多き人は服してはならぬ。【百部】熱欬上氣には、火で炙り、酒に浸して服す。○暴欬嗽には、薑汁と共に煎じて服す。○三十年の嗽には、汁を蜜に和し煉つて服す。○

小兒の寒嗽には、麻黄、杏仁と共に丸にして服す。【天花粉】虚熱欬嗽には、人參末と共に服す。【栝樓】肺を潤し、火を降し、痰を滌ふ。欬嗽の要藥である。○乾欬には、汁に蜜を和し煉つて含む。○痰嗽には、明礬と共に丸にして服す。○痰欬の止まぬには、五倍子と共に丸にして噙む。○熱欬の止まぬには、薑、蜜と共に蒸して含む。○肺熱痰嗽には、半夏と共に丸にして服す。○酒痰欬嗽には、靑黛と共に丸にして服す。○婦人の夜欬には、香附、靑黛と共に末にして服す。【燈籠草】肺熱欬嗽で喉の痛むには、末にして湯で服し、喉の外部に傅ける。【貝母】肺を淸くし、痰を消し、欬を止める。沙糖で丸にして食ふ。又姙婦の嗽を治す。○小兒の卒嗽には、甘草と共に丸にして服す。【知母】痰を消し、肺を潤し、陰を滋し、火を降す。久近を問はず痰嗽には、貝母と共に末にし薑片に醮けて食ふ。【石韋】氣熱嗽には、檳榔と共に薑湯で服す。【射干】老血が心、脾の間に在る(五)欬唾氣臭に用ゐ、胸中の熱氣を散ず。【馬勃】肺熱久嗽には、蜜で丸にして服す。【桑花】「穀葉」【丹黍米】いづれも熱欬を止める。【百合】肺熱欬嗽には、蜜で蒸して含む。【土芋】「果木」【枇杷葉】いづれも熱欬を止める。【杏仁】肺中風熱の欬嗽を除く。童尿に浸して研つた汁を酒で熬り、丸にして服す。【巴旦杏、梨

(五)欬唾ハセキトツバキ。

汁】痰を消し、火を降すには、食ふがよし。○卒欬には、一盌に椒四十粒を入れて煎沸し、黑餳一塊を入れて少しづつ服す。○又一箇に孔をあけ椒を詰め、煨いて食ふ。又切片して酥で煎じ冷して食ふ。○又汁を酥、蜜、地黃汁に和し熬調して含む。【乾柿】心肺を潤し、熱欬を止める。○嗽血には、蒸熟して靑黛を摻つて食ふ。【柿霜・餘甘子】丹石で肺を傷めた欬嗽。【甘蔗汁】虛熱欬嗽で涕唾の出るには、靑粱米を入れて粥に煮て食ふ。【大棗・石蜜・刺蜜・桑葉】いづれも熱欬に主效がある。「金石」【金屑】風熱欬嗽。【石膏】熱盛なる喘欬には、甘草と共に末にして服す。○熱嗽で泉のやうに痰の涌くには、煆いて醋糊で丸にして服す。【浮石】熱欬には、丸にして服す。(六)【不灰木】肺熱には、玄精石諸藥と共に末にして服す。【玄精石・朋砂】痰を消し、欬を止める。【五倍子】肺を斂め、火を降し、嗽を止める。【白藥煎】肺を淸くし、痰を化し、肺を斂め、嗽を却ける。訶子、荊芥と共に丸にして含む。○痰を化するには、黃芩、橘皮、甘草と共に丸にして含む。

虛勞　「草部」【黃芪】肺を補ひ、火を瀉し、痰嗽自汗、及び欬膿血を止める。【人參】肺氣を補ふ。○肺虛久嗽には、鹿角膠末と共に煎じて服す。○痰を化し、嗽を止める。

(六) 金陵本ニ石灰木トアリ、然レドモ不灰木ノ誤字ナルコト疑ナシ。

明礬と共に丸にして服す。○喘嗽に血あるには、雞子淸で五更に調へて服す。○小兒の喘嗽で發熱自汗し、血あるには、天花粉と共に服す。【五味子】肺氣を收め、欬嗽を止める。火熱には必用の藥である。○久欬で肺の脹るには、粟殼と共に丸にして服す。○久嗽の止まぬには、甘草、五倍子、風化硝と共に末にして噙む。○又甘草、細茶共に末にして噙む。【紫菀】欬膿血を止め、痰を消し、肺を益す。○脈傷欬嗽には、水で煎じて服す ○吐血欬嗽には、五味子と共に丸にして服す。○久嗽には、款冬花、百部と共に末にして服す。○小兒の欬嗽には、杏仁と共に丸にして服す。【款冬花】肺熱勞欬で、間斷なく涕唾が稠粘するに用ゐ、肺を溫め、嗽を治する藥としては最も有效なものである。○痰嗽帶血には、百合と共に丸にして服す。○三兩を燒いて烟を筒で吸ふ。【仙靈脾】勞氣の三焦欬嗽で腹が滿ち、食物を攝り得ぬには、五味子、覆盆子と共に丸にして服す。【地黃】欬嗽吐血には、末にして酒で服す。【柴胡】勞熱の胸脇痛を除き、痰を消し、嗽を止める。【牛蒡子】欬嗽で肺を傷めたるもの。【鬼臼】欬勞。「穀果」【罌粟殼】久欬で汗多きには、醋で炒り、烏梅と共に末にして服す。【阿芙蓉】久勞欬には、牛黃、烏梅諸藥と共に丸にして服す ○粟殼と共に末にして

(一)骨蒸トハ熱甚シクシテ骨ヲ蒸スト云フ意ナリ。勞瘵一名骨勞、卽チ肺結核ナド此ニ當ル。

服す。【寒具】痰を消し、脾を潤し、欬を止める。【桃仁】急勞欬嗽には、猪肝、童尿と共に煮て丸にして服す。【胡桃】燥を潤し、痰を化す。久欬の止まぬには、人參、杏仁と共に丸にして服す。【金果】虛を補ひ、痰嗽を除く。【仲思棗・烏梅】いづれも勞嗽に主效がある。【訶梨勒】肺を斂め、火を降し、氣を下し、痰を消す。「木石」【乾漆】○久欬には、含んで汁を嚥む。【鍾乳粉】虛勞欬嗽。【赤石脂】欬すれば遺屎するには、禹餘粮と共に煎じて服す。「諸蟲鱗介」【蜜蠟】虛欬で發熱し、聲がゼイゼイするには、潦水で煮て丸にして服す。【蛇含蛙】久勞欬嗽で臭痰を吐くには、蛇共に煨いて末にし、酒で服す。【鯽魚頭】燒き研つて服す。【鼈】(一)骨蒸欬嗽には、柴胡諸藥と共に煮て食ふ。【生龜】十年二十年の長き欬嗽には、煮汁で酒を釀して服す。【龜甲・蛤蚧】いづれも勞欬に主效がある。「禽獸」【鸜鵒・鸚鵡】いづれも勞欬に主效がある。【慈烏】骨蒸勞欬には、酒で煮て食ふ。【烏鴉】骨蒸勞欬嗽には、煨いて末にし酒で服す。○心を炙つて食ふ。【五靈脂】欬嗽肺脹には、胡桃仁と共に丸にして服す。これを斂肺丸といふ。【猪腎】椒と共に煮て食ふ。○卒嗽には、乾薑と共に煮て食ひ、汗を取る。【猪胰】二十年の嗽には、酒に浸して飲む。○膩粉と共に煨き研つて服す。【猪肺】肺虛欬嗽には、麻油で炒つ

(一)肺痿ハ肺臓困縮。
肺癰ハ肺臓膿瘍。

て食ふ。【猪膽】痩病欬嗽には、人尿、薑汁、橘皮、訶子と共に煮て汁を服す。【羊脂】久嗽に用ゐ、肺を温め、燥を潤す。大棗と共に酒に浸して服す。【羊肺・羊肉・猪骨・獺肝・阿膠】いづれも勞欬に主效がある。【黄明膠】久嗽には、人參と共に末にし、日毎に豉湯で服す。【人尿】虚勞欬嗽。

外治　【木鼈子】肺虚久嗽には、款冬花と共に焼き、烟を筒で吸ふ。【楡皮】久嗽で極端に苦むには、一尺程のものを喉中へ出入し、膿血を吐けば癒える。【熏黄】三十年の呷嗽には、木通、莨菪子と共に烟に焼き筒で熏ずる。【鍾乳粉】一切の勞嗽には、雄黄、款冬花、佛耳草と共に焼いて烟を吸ふ。【故茅屋上塵】老嗽の止まぬには、石黄諸藥と共に焼いて烟を吸ふ。

(一)肺痿肺癰

火鬱に因るもので、氣虚と血虚とに區別される。

排逐　【萆薢】【雞蘇】肺痿の吐血欬嗽には、研末を米飲で服す。【防已】肺痿の咯血には、葶藶末、糯米と共に湯で服す。(一)肺痿喘欬には、漿水で煎じて服す。【桔梗】肺癰に

(二)內漏ハ臟腑ニ發生スル潰瘍ノ類ナリ。

用ゐ、膿を排し、血を養ひ、(二)內漏を補ふ。○仲景は、胸滿し、振寒し、咽乾き、濁唾を吐き、永い間膿血を吐く患者を治するに、甘草と共に煎じて服ませ、膿血を吐き盡して癒したといふ。【葦莖】肺癰欬嗽で煩滿し、心胸甲錯するには、桃仁、瓜瓣、薏苡と共に煎じて服す。膿血を吐いて癒える。【蘆根】骨蒸肺痿で食事を攝り得ぬには、麥門冬、地骨皮、茯苓、橘皮、生薑と共に煎じて服す【甘草】肺痿の膿血を去る。○久欬肺痿で寒熱煩悶し唾多きには、童尿で一錢づつを調へて服す。○肺痿で涎沫を吐き、頭眩し、小便頻數となり、欬せぬは、肺中の冷である。これには乾薑と共に煎じて服す。【王瓜子】肺痿吐血には、炒り研つて服す。【升麻・紫菀・貝母・敗醤】いづれも肺癰に主效があり、膿を排し、血を破る。【知母・黃芩】いづれも肺痿の欬嗽、喉腥に主效がある。【薏苡仁】肺癰の欬膿血には、水で煎じ酒を入れて服す。○醋で煮て服すれば、血を吐出する。「果木」【橘葉】肺癰には擣汁一盞を服すれば、膿血を吐出して癒える。【柘黃】肺癰には、已成と未成とを問はず、一兩を百草霜二錢と共に糊で丸にし、米飮で三十丸を服すれば甚だ捷效がある。【夜合皮】肺癰で唾の濁るには、水で煎じて服す。【竹瀝】老幼の肺痿で欬に臭膿の出るには、日に三五囘づつ服

(二)芐ハ地黃。

(一)虛損ハ衰弱。

す。【淡竹茹・茯苓】「人部」【人尿】肺痿で寒熱氣急し顏面の赤きには、甘草を調へて服す。【人中白・天靈蓋】熱勞肺痿。

補益　「草部」【人參】痰を消し、肺痿を治す。雞子清で調へて服す。【天門冬】肺痿で欬涎し、渴せぬには、擣汁に飴、酒、紫菀末を入れ丸にして含む。【栝樓】肺痿欬血には烏梅、杏仁末と共に猪肺に蘸けて食ふ。【款冬花】勞欬肺痿には、百合と共に末にして服す。【麥門冬】肺痿肺癰の欬唾膿血。【蒺藜子】肺痿の唾膿。【五味子・女菀・沙參】「果石」【白柿】いづれも脾を潤し、欬を止める。【白石英】肺痿の唾膿。「鱗獸」【鯽魚】肺痿欬血には、羊肉、萊菔と共に煮て服す。【蛤蚧】久欬、肺痿、肺癰の咯血。【羊肺】久欬肺痿には、杏仁、柿霜、豆粉、眞酥、白蜜と共に炙いて食ふ。【羊脂髓】肺痿骨蒸には、生芐汁、薑汁、白蜜と共に煉つて服す。【猪肺】肺痿嗽血には、薏苡を蘸けて食ふ。【猪胰】棗に和し酒に浸して服す。【鹿血】酒で服す。【阿膠・醍醐・鹿角膠・黃明膠】肺痿の唾血には、花桑葉と共に末にして服す。

(一)虛損

氣虛、血虛、精虛、五臟の虛、虛熱、虛寒のたぐ

ひである。

氣虛 「草部」【甘草】五勞、七傷、一切の虛損に用ゐ、五臟を補益する。○大人の羸瘦には、童尿で煮て服す。○小兒の羸瘦には、炙り焦し蜜で丸にして服す。【人參】五勞、七傷で虛して夢多きものに之を加へ、中を補し、營を養ふ。○虛勞發熱には、柴胡と共に煎じて服す。房勞吐血には、獨參湯で煎じて服す。【黃耆】五勞の羸瘦、寒熱、自汗に用ゐ、氣を補ひ、表を實する。【黃精】五勞、七傷に用ゐ、脾、胃を益し、心、肺を潤す。九回蒸し九回晒して食ふ。【青蒿】勞熱が骨節の間に在つて寒熱を作すには、童尿で熬膏し、或は末にして服す。或は人參、麥門冬を入れて丸にして服す。【石斛】五臟虛勞の羸瘦に用ゐ、肌肉を生じ、筋骨を壯にし、涎を鎖し、男性の元氣を濇する。酒に浸し酥で蒸して一盞を服し盡せば永く骨痛を患はぬ。【骨碎補】(二)五勞、(三)六極で手足が收らず、上熱下寒の腎虛に用ゐる。【五味子】水を壯にし、陽を鎖し、耗散の氣を收める。【忍冬藤】久しく服すれば身體を輕快にし、壽命を長くする。煮汁で酒を釀して飲む。【補骨脂】五勞、七傷に用ゐ、命門を通じ、丹田を暖める。脂麻で炒り丸にして服す。茯苓、沒藥と共に丸にして服すれば、腎

(二) 五勞ハ五臟ノ勞傷。

(三) 六極ハ六腑ノ中氣極ナリ。

を補ひ、心を養ひ、血を養ふ。【附子】下焦の陽虚を補ふ。【天雄】上焦の陽虚を補ふ。【蛇牀子】男子の陽氣、女子の陰氣を暖める。【仙茅】丸にして服す。【淫羊藿・狗脊】いづれも冷風、虚勞に主效がある。【柴胡・秦艽・薄荷】いづれも五勞、七傷の虚熱を解す。【羌活】五勞、七傷の酸痛。【蘇子】虚勞を補ひ、肥り健にする。【青木香】氣劣不足には、補藥と共にすれば補し、瀉藥と共にすれば瀉す。【天門冬・沙參・葳蕤・白茅根・白英・地膚子・黄連・朮・薰草・石蕊・玉栢・千歲蘽】「菜穀」【五芝・石耳・韭白・薤白・山藥・甘藷】いづれも中を補ひ、氣を益す。【大麻子】虚勞內熱で大小便の利せぬには、水で煎じて服す。【胡麻】「果木」【柿霜・藕】いづれも中を補ひ、元氣を益し、腸を厚くする。【蓮實】虚損を補ひ、心、腎相互の關係を圓滑にし、精氣を固くし、耳目をはつきりさせ、腸、胃を厚くする。酒に浸し、猪肚を入れて煮て丸にして服す。或は蒸熟して蜜で丸にして服するが仙方である。【栢子仁】恍惚虚損でふらふらと落ちつかぬに用ゐる。【枸杞葉】五勞、七傷には、粥に煮て食ふ。【地骨皮】下焦、肝、腎の虚熱を去る。〇虚勞客熱には、末にして服す。〇熱勞燎くが如きには、柴胡と共に煎じて服す。〇虚勞寒熱で渴に苦むには、麥門冬と共に煎

じて服す。【五加皮】五勞、七傷には、莖、葉を採つて末にして服す。【冬青】風熱には、酒に浸して服す。【女貞實】虛損のあらゆる病には、旱蓮、桑椹と共に丸にして服す。【柘白皮】酒に釀す。虛損を補ふ。【厚朴】虛して尿白きものに之を加へる。【沈香】脾、胃、命門を補ふ。【桂】命門、營衞を補ふ。【松根白皮・茯苓・白朮・桑白皮】「石蟲」【雲母粉】いづれも五勞、七傷の虛損に主效がある。【五色石脂】五臟を補す。【白石英・紫石英】心氣、下焦を補す。【枸杞蟲】陽を起し、精を益す。地黃と共に丸にして服す。【蠶蛹】炒つて食へば勞瘦を治し、蟲を殺す【海蠶】虛勞冷氣。久しく服すれば壽命を延す。「鱗介禽獸」【鯽魚・鰣魚・嘉魚・石首魚・鱖魚・鼈肉・淡菜・海蛇・雞肉・白鷺】炙いて食ふ。【桑鳸・鳩・雀】いづれも虛羸を補ふ。【犬肉・牛肉・牛肚・狐肉】生を作つて食ふ。【猪肉・猯肉】いづれも虛勞に主效がある。【狗腎】産後の腎勞で瘧の如く體の冷えるに用ゐる。【猪肚】人參、粳米、薑、椒と共に煮て食へば虛を補す。【猴肉】風勞には、酒に釀して用ゐる。【山獺・紫河車】一切の男女の虛勞。

血虛　「草木」【地黃】男子の五勞、七傷。女子の傷中失血。○人參、茯苓と共に熬

つて瓊玉膏にする。○酒に釀し、粥に煮る、いづれも良し。○麪で炒つて研末し、酒で服すれば男女の諸虛、積冷を治す。○兎絲子と共に丸にして服す【麥門冬】五勞、七傷の客熱。○男女の血虛には、地黃と共に熬膏して服す。【澤蘭】婦人の多產で勞瘦せるもの、男子の顏面黃色になつたものには、丸にして服す。【黃蘗】下焦陰虛には、知母と共に丸にして服す。或は糯米と共に丸にして服す。【當歸・芎藭・白芍藥・丹參・玄參・續斷・牛膝・杜仲・牡丹皮】「介蟲」【龜版・綠毛龜・鼈甲・阿膠・醍醐・酥酪・駝脂・牛骨髓・牛乳・羊乳】いづれも一切の虛、一切の血を補す。【羊肉】產婦に力づける。【羊脂】產後の虛羸には、地黃汁、薑汁、白蜜と共に煎じて服す。【羊肝】枸杞根汁と共に羹にして食ふ。【羊胃】久病虛羸には、白朮と共に煮て飮む。

精虛　「草木」【肉蓯蓉】五勞、七傷、莖中の寒熱痛に用ゐ、陰を强くし、精髓を益す。○羊肉と共に煮て食ふ。【列當・瑣陽】同上。【兎絲子】五勞、七傷に用ゐ、精を益し、陽を補ふ。杜仲と共に丸にして服す。【覆盆子】精を益し、陰を强くし、肝を補ひ、目を明にする。○毎朝水で三錢を服すれば、男子は精を益し、婦人は姙娠する。【何首烏】精、血、氣を益す。久しく服すれば婦人は姙娠する。服食にはまた適

當の方がある【蘿摩子】精氣を益す。枸杞、五味、地黄諸藥と共に末にして服すれば、極めて房室を益す。【巴戟天・車前子・遠志・蓬蘽・百脉根・決明子・蒺蔾子・五味子・旋花根・萆薢・菝葜・土茯苓・杜仲皮】「石蟲」【石鐘乳・陽起石・石腦・石髓】いづれも精氣を補益する。五勞、七傷に用ゐる。【慈石】胃を養ひ、精を益し、五臟を補す。白石英と共に水に浸し、粥に煮て日毎に食ふ。【石硫黄・桑螵蛸・青蚨・九香蟲・牡蠣・羊脊髓・猪脊髓】いづれも虚勞を補し、精氣を益す。【羊腎】虚勞で精竭きたるには、羹にして食ふ。○五勞、七傷には、肉蓯蓉と共に羹に煮て食ふ。○虚損、勞傷には、白朮と共に粥に煮て食ふ。【鹿茸】虚勞でふらふらと力が脱け、瘧のやうに四肢が酸痛し、腰、脊が痛み、尿の頻數なるには、當歸と共に丸にして服す。○牛膝と共に丸にして服す。【白膠】茯苓と共に丸にして服す。【麋茸】研末して酒と共に熬膏して服す。【麋角・鹿髓・鹿血腎・麞肉骨】酒に釀す。【膃肭臍】いづれも精血を補ふ。

(二)瘵症　蟲積と尸氣である。

(二) 瘵症ハ傳染性肺病。

邪を除く 「草部」【青蒿】骨蒸鬼氣には、熬膏し、猪膽、甘草末を入れて丸にして服す。○子も效力は同一である。【王瓜子】(二)傳尸勞瘵には、焙じて研り、酒で一錢を服す【玄參】傳尸邪氣には、香にして燒く。【甘松】玄參と共に勞瘵を熏ずる【茅香】冷氣久病には、艾葉と共に燒いて丸にして服す。【苦耽】傳尸、伏連、鬼氣。【鬼臼】尸疰、(三)殗殜、傳尸、勞瘵に用ゐる【天麻・鳶尾・海根】いづれも飛鬼氣、殗殜、傳尸、勞瘵に主效がある。【知母・秦艽・胡黃連・蘆根・酸漿子・百部・紫菀・甘草・桔梗・人參・黃芪】「穀菜」【浮麥】いづれも傳尸骨蒸、勞熱自汗に主效がある。【阿芙蓉・鹿角菜】小兒の骨蒸熱勞【茄子】傳尸勞氣。「果木」【李】骨節間の勞熱を去る。【杏核仁】男女の五勞、七傷には、童尿で七回煮て蜜で蒸し食ふ。【烏梅】虛勞骨蒸。【冬桃】勞熱を解す【桃核仁】骨蒸で熱のおこるに主效がある。百二十顆を杵き、丸にして朝井水で飮下し、酒を醉ふまで飮んでから飮めるだけ水を飮み、同樣にして隔日に繰返す。○急勞欬嗽には、猪肝と共に童尿で煮て丸にして服す。○冷勞で食慾減退するには、茱萸と炒つて取出し、日毎に二十粒を食つて酒を飮む。重きものも五百粒まで服すれば癒える。○傳尸鬼氣の欬嗽、(四)痃癖には、煮汁で粥を作つて食ふ。○五尸鬼疰の丸

(二)傳尸勞瘵ハ肺結核又肺勞。

(三)殗殜ハ傳尸ノ初起半臥半起ノ狀ニアルヲ云フ。

(四)痃癖ハ上腹部ニ

カタマリガ出來テ痛ムモアリ、痛マヌモアリ、多クハ痛マズ。

(五) 飛尸ハ尸病ノ一種ニシテ、忽然トシテ至リ飛走ノ急疾ノ如シ。

十九種が他に傳染して急なるには、桃仁五十箇をどろどろに研り、水四升で煮て服し、吐かす。なほ吐き盡さぬときは更に試みる。【蜀椒】丸にして服す。【檳榔・安息香・蘇合香】いづれも傳尸勞瘵の蟲を殺す。【樟木節】風勞の蟲のあるには、天靈蓋諸藥と共に服す。【乾漆】傳尸勞瘵、五勞、七傷には、梔子仁、酸棗、山茱萸と共に丸にして服す。【皂莢】卒熱勞疾には、酥で炙り丸にして服す。○急勞煩熱には、刺(トゲ)及び木瓜と共に灰に燒き、度度水を注ぎつつ煎じて用ゐる。嗽あるには、麝香を入れて童尿に浸し、蒸餅で丸にして服す。【桑柴灰】尸注、鬼疰の三十六種が九十九種に纏動し、患者が死亡し更に他人に傳染するには、その灰汁を度度注ぎながら赤小豆を煮て羊肉と共に羹にして食ふ。【樗白皮】鬼疰傳尸には、童尿、豆豉で煎じて服す。【地骨皮】骨蒸煩熱には、防風、甘草と共に煎じて服す。【酸棗仁】骨蒸勞熱には、搗汁で粥を煮て食ふ。【阿魏】傳尸の冷氣。【無患子皮】[五]飛尸。【柳葉・阿勒勃・黃蘗】「金石」【金薄】いづれも骨蒸勞熱に主效がある。【石膏】骨蒸勞熱には、研つて粉にして服す。【雄黃】五尸勞病には、大蒜と共に丸にして服す○骨蒸發熱には、尿に研り燒石で熏ずる。【鵞管石】勞嗽を熏ずる。【白礬】冷勞洩痢には、羊肝と共に丸にし

て服す。【禹餘粮】冷勞腸洩には、烏頭と共に丸にして服す。【陽起石・慈石】いづれも五勞、七傷の虛乏に主效がある。【霹靂碪】「諸蟲鱗介」【蟲白蠟】いづれも餘蟲を殺す。【石決明】骨蒸の極端な衰弱者に用ゐる。【納鱉】傳尸勞。【鱉甲】冷痛、勞瘦に用ゐ、骨節間の勞熱、結實を除き、陰を補し、氣を補す。【鱉肉】氣を益し、不足を補し、血熱を去る。○骨蒸で潮熱し欬嗽するには、前胡、貝母等の藥と共に煮て食ひ、丸にして服す。【蛤蚧】肺勞、傳尸の欬嗽、咯血を治す。【蛇吞鼃】勞嗽で臭痰を吐くには、煆いて研り酒で服す。【鰻鱺魚】傳尸、疰氣の勞損、骨蒸、勞瘦には、煮て服す。「禽獸」【啄木鳥】蟲を取り煆いて研り酒で服す。【慈烏】勞を補し、瘦を治し、欬嗽、骨蒸を止める。五味で淹けて食ふ。【烏鴉】瘦病、欬嗽、骨蒸、勞瘵には、煆いて研り酒で服す。○五勞、七傷の吐血、欬嗽には、栝樓根を釀して日每に煮て食ふ。【鷹矢白】勞蟲を殺す【猪脊髓】骨蒸、勞傷には、猪膽、童尿、柴胡等を煎じて服す。【猪肝】急勞で瘦悴し寒熱するには、甘草と共に丸にして服す。【猪腎】傳尸、勞瘵には、童尿酒で煮て食ふ。【猪肚】骨蒸、熱勞には、四時共にこれを食ふがよし。【猪膽】骨蒸の極端な衰弱者に用ゐる。【羊肉】骨蒸の久冷には、山藥と共に粥にして食ふ。○骨蒸、傳尸に

は、皂莢と共に酒で煮て食ひ、蟲を吐出す。【白羊頭蹄】五勞、七傷には、胡椒、華茇、乾薑と共に煮て食ふ。【諸朽骨】骨蒸勞熱には、煮汁を淋して汗を取る。【猫肝】勞瘵の蟲を殺す。生で晒して研り、一日十五日毎に深夜五更に酒で服す。【獺肝】傳尸(六)伏連、殗殜、勞瘵の虚汗、欬嗽、發熱に用ゐて蟲を殺す。陰乾して末にし、一日三回水で服す。【鹿茸・膃肭臍】虚勞。【熊脂】酒で服すれば勞蟲を殺し、虚損を補ふ。【象牙】骨蒸。【獺肉・狸肉・虎牙・鼠肉】いづれも勞蟲を殺す。「人部」【人屎】骨蒸の極端な衰弱狀態を伏連傳尸といふ。これには尿と共に各一升に新粟米飯五升と麴半餅を入れ、二七日の間密封し、毎日朝と正午に一合づつ服すれば大抵の惡氣を去る。○人屎を水に浸して早朝に服し、夕刻に童尿を服す。【人尿】陰を滋し、火を降す。○男女の勞證には、一日二回づつ服す。○骨蒸發熱には、五升を一升に煎じ、蜜を三匙入れて一日二回一盌づつ服す。【人中白】傳尸熱勞の肺痿、消瘦に用ゐれば、火を降し、瘀血を消す。【秋石】虚勞冷疾に用ゐる。服するには特に方法がある。【人乳】五臟を補ひ、痩悴を治す。○虚損、勞瘵には、麝香、木香と共に服す。或は胞衣末と共に服す。【人牙】燒いて用ゆれば勞を治す。【天靈蓋】傳尸(七)尸疰、鬼疰の内伏。○肺

(六)伏連ハ骨蒸ノ一名。

(七)尸疰ハ五尸ノ中

瘵、骨蒸の盗汗に用ゐ、邪氣を退け、勞蟲を驅逐する。炙つて黄にし、水で煎じて服す。○麝香と共に丸にして服す。○小兒の骨蒸には、黄連末を加へて服す。○蟲を驅除する薬に天靈蓋散といふがある。【人胞】男女一切の虚損、勞極には、洗ひ煮て伏神を入れ丸にして服す。○河車大造丸。【人膽】尸疰の内伏に效がある。【人肉】瘵疾。

邪祟

邪氣の虚に乘ずるもので、痰血と火鬱である。

除辟　「草部」【升麻】百精老物の殃鬼を殺す。邪氣の中惡、腹痛、(一)鬼に附かれて泣くものなどに用ゐる。【徐長卿】鬼疰、精物の邪惡の氣、百精老魅の(二)注易、ふらふらと走り出すもの、啼哭するもの、恍惚狀態のものに用ゐる。【鬼督郵・馬目毒公・鬼臼】鬼疰の精物を殺し、惡氣不祥の尸疰、傳尸を除く。【忍冬】(三)飛尸、遁尸、風尸、沈尸、尸疰、鬼疰、いづれも煮汁を服す。或は煎膏し酒で化して服す。【丹參】中惡、百邪、鬼魅で腹痛し、發作的に聲を發し、泣き叫ぶものに用ゐ、精神を落ちつける。【防葵】狂邪、鬼魅、精怪に用ゐる。【白鮮皮】大熱で徒らに水を飲み、狂走し、大聲

ノ一種、鬼邪ヨリ起ル病、病源候論第二十三巻ニ解アリ。

(一)鬼ハ幽霊變化ノ類。

(二)注易ノ注ハ停住、易ハ移動ノ意ナラン。

(三)飛尸、遁尸、風尸、沈尸、尸注ノ類、病源候論巻二十三ニ見ユ。鬼注ノ事同書巻二十四ニ見ユ。何レモ神經痛、痙攣衝逆ノ狀態アル病。

(四)疰忤ハ惡忤、尸疰ノ略、此病疰痛ヲ發ス、劇カニ物ニ驚キ心痛スルモノ。
(五)鬼擊ハ幽靈妖怪等ニオソハルルコト。

を發する等のものに用ゐる。【白蒺藜】卒然五尸に中れるには、丸にして服す。【女靑・赤箭・天麻・野葛・海根・雷丸・藍實・敗芒箔・卷柏・桔梗・知母・小草・遠志・甘松・藁本・迷迭香・白微・人參・苦參・沙參・紫菀・狼毒・草犀・白茅香・茅香・白及・商陸・木香・縮砂・藿香・瓶香・藒車香・蘭草・山柰・山薑・蒟醬・蕙草・薑黃・莪蒁・鬱金香・雞蘇・菖蒲・艾葉・苦耽・雲實・蓖麻・蜀漆・艾納香・射罔・射干・鳶尾・芫花・蕘花・水堇・鉤吻・羊躑躅・海藻・蘼蕪・靑蒿・石長生・獨行根・白兎藿・續隨子・蜘蛛香・屋四角茅・赤車使者】「穀菜」【豌豆】煮汁。【白豆・大豆】いづれも鬼毒、邪氣、(四)疰忤に主效がある。【酒・醋・陳粟米】いづれも(五)鬼擊に主效がある【粳米】五種の尸病には、日毎に煮汁を服す。【芥子】邪惡、鬼疰の氣には、酒に浸して服す。【白芥子】惡氣、飛尸、遁尸、邪魅には熨する。【大蒜】鬼を殺し、痛を去る。香墨、醬汁と共に服す。○鬼毒風氣には、杏仁、雄黃と共に服す。【百合】百邪、鬼魅で啼泣して止まぬに用ゐる。【胡荽・羅勒・旱芹】「果木器服」【桃梟・桃花・桃白皮・桃膠・桃毛】いづれも邪惡、鬼疰、精氣に主效がある。【桃仁】鬼疰の寒熱、疼痛には、研つて服す。【陳棗核中仁】疰忤、惡氣に常に服すれば、すべての邪氣に犯されぬ。

【榧子・蜀椒・畢澄茄・吳茱萸・柏實・鬼箭・沈香・蜜香・丁香・檀香・烏藥・必栗香・竹葉・鬼齒】いづれも中惡、邪鬼、疰氣に主效がある。【降眞香】身に帶れば邪惡の氣、住宅の怪異を辟ける。【安息香】心腹の惡氣、(六)鬼疰、魍魎、(七)鬼胎、中惡、魘寐には、常にこれを燒けば鬼を去り神を來す。○婦人が夜間鬼に犯された夢を見る場合には、これを燒いて熏ずれば爾後惡夢を見ない。【蘇合香】惡を辟け、鬼精の物を殺す。【詹糖香・樟腦・乳香・阿魏・樺皮脂・樗白皮・乾漆・皂莢・桑柴灰・無患子・巴豆・琥珀】いづれも鬼精、尸疰を殺す。【巵子】五尸、(八)注病には、燒いて研り水で服す。【烏臼根皮】尸疰、中惡には、煎じて硃砂を入れて服す。【古廁木】鬼魅、傳尸、魍魎、神祟にはこれを燒く。【古櫬木】鬼氣、疰忤、中惡、心腹痛、夢悸で常に鬼神の祟るには、桃枝と和して酒で煎じて服し、吐き下す。【死人枕・桃橛・甑帶】煮汁。【銃楔・敗芒箔】「水土金石」【粮罌水】いづれも尸疰、鬼氣に主效がある。【半天河水】鬼疰、狂邪の氣で恍惚妄言するものに用う。【鑄鐘黃土・鼢鼠壤土・伏龍肝・釜臍墨・京墨・黑鉛・鉛丹】いづれも疰忤邪氣に主效がある。【古鏡・銅鏡鼻・鐵落・硃砂・水銀・硫黃・石膏・生銀・雄黃・代赭・金牙石・金剛石・礞石・蛇黃・食鹽・

(六)鬼疰ハ妖怪ニオソハレテ心腹痛ヲ發シ悶絶シ、治シテ又發スルモノ。

(七)鬼胎トハ異形異類ノモノヲ懷胎スルヲ云フ。

(八)注病トハ邪氣人身內ニ居住スルヨリ起ル病ニシテ、種類多シ、病源候論ニ解出ヅ。

霹靂礁】「諸蟲鱗介」【露蜂房・芫青・龍骨・龍齒・鼉甲】いづれも疰病、鬼邪に主效がある。【鯪鯉】五邪の驚啼悲傷、婦人の鬼魅哭泣。【蛤蚧・鰻鱺・鮫魚皮・海蝦・蟹爪・貝子・牡蠣】「禽獸」【丹雄雞・黑雌雞・烏骨雞・雞冠血・東門雞頭】いづれも邪氣、鬼物、疰忤に主效がある。【雞卵白】五遁尸氣の衝心、或は腰脊のつるには、七箇を呑む。【胡燕卵黃・烏鴉・鵲巢】燒いて服す。【白鴨血】いづれも鬼魅の邪氣に主效がある。【鷹肉】食へば野狐の邪魅を去る。○猪爪を灰に燒いて水で服す。○屎白の燒灰を酒で服す。【牛黃・野猪黃・羊脂・猪脂・白犬血・猪心血・尾血・猪乳・豚卵・羖羊角】燒いて用ゐる。【羚羊角及び鼻・犀角・鹿角及び茸・鹿頭・麂頭骨・猴頭骨・狐頭尾】及び屎の燒灰は邪惡を辟ける。○その五臟は狐魅、及び幽鬼を見る等の病に主效がある。羹にして食ふ。【兎頭及び皮・猫頭骨・猫肉・狸肉及び骨・豹骨及び鼻・虎肉及び骨】二十六種の魅を取る。○爪、牙、皮、屎も同じ。【象牙・狼牙・熊膽・麝香・靈猫陰・獺肝】鬼疰、邪魅には、燒いて末にして服す。【膃肭臍】鬼氣、尸注、狐魅。【六畜毛蹄甲・馬懸蹄・馬屎・獅屎・底野迦・鼠屎・彭侯】「人部」【亂髮】尸疰には、灰に燒いて服す。【頭垢・人尿】鬼氣、疰病には、日毎に服

す。【天靈蓋】尸疰、鬼氣。【人膽】

寒熱　外感、内傷、火鬱、虚勞、瘧、疸、瘰癧などである。

和解　「草部」【甘草】五臟、六腑の寒熱、邪氣、凡そ虚して熱多きに加へる。【知母】腎勞の憎寒煩熱。【丹參】虚勞寒熱。【白頭翁】狂陽寒熱。【胡黄連】小兒の寒熱。【黄芩】寒熱往來、及び骨蒸熱毒。【柴胡】寒熱邪氣には、陳き滯りを去り、新なる力を添へ、早朝の潮熱、寒熱往來、婦人の熱が血室に入るを去る。【前胡】傷寒寒熱に用ゐ、陳きを去り、新なる力を添へる。【白鮮皮】壯熱惡寒に主效がある。【茅根・大黄】いづれも血閉の寒熱に主效がある。【旋覆花】五臟間の寒熱。【茵蔯】寒熱で瘧の如き症狀のもの。【屋遊】浮熱が皮膚に在つて往來寒熱するもの。【烏韮・龍膽】骨間の寒熱。【白微】寒熱酸疼。【秦艽・當歸・芎藭・芍藥】いづれも虚勞寒熱に主效がある。【荊芥・積雪草・紫草・夏枯草・蠡實・蘆根・雲實・木通・蒲黄・呉藍・連翹・蛇含・鵲跖草・淩霄花・土瓜根】「菜果」【冬瓜】搗けて汁を飲む。【茄子・馬齒

莧・莧實・薤白・杏花】婦人の(一)傷中、寒熱痺。【桃毛】(二)血瘕寒熱。「木石」【厚朴】風寒、寒熱を解利す。【牡荊・蔓荊】いづれも骨間の寒熱を除く。【冷水】丹石を服した爲めに病を發し、惡寒するには、冬季(三)淋すること百斛にして汗を取れば癒える。【松蘿・枳實・竹茹・雄黃】肝病の寒熱。【石膏】中風の寒熱。【滑石】胃熱の寒熱。【曾青】肝膽を養ひ、寒熱を除く【石靑・石膽・食鹽・朴消・礬石】「蟲介禽人」【雀甕・鼈甲】背中の寒熱、或は肌體の寒熱で極端に苦むには、湯にして用ゐるが良し。【海蛤】胸痛寒熱。【蛤蜊】老癖で寒熱をなすもの。【貝子】溫瘧の寒熱に用ゐ、肌を解し、結熱を散ず。【龍齒】大人の骨間の寒熱。【鼉甲】(四)伏堅寒熱。【猪懸蹄甲】小兒の寒熱には、燒いて末にし乳で服す。【牛黃・人尿】

中を補ひ肺を淸くす　「草穀」【黃耆】瘧疾の寒熱。【沙參・黃精・葳蕤・朮】いづれも寒熱を除き、氣を益し、中を和す。【桔梗】寒熱を除き、肺を利す。【燈籠草・麥門冬・紫菀・旋花根・黃環・天門冬・白英・忍冬・豌豆・綠豆・赤小豆・秫・百合・山藥】「果木」【吳茱萸・椒紅・桂】肝肺の氣、心腹の寒熱を利す。【辛夷】五臟、身體の寒熱。【沈香】諸虛の寒熱、冷痰には、附子と共に煎じて服す。【烏藥】冷熱を解す。

(一)傷中ハ内傷ナリ。
(二)血瘕ハ惡血ノ塊ナリ。
(三)淋スルトハ水ヲ浴スルコト。
(四)伏堅ハ腹中ノ内部ニ堅キ物ノ伏在スルヲ云フ。

【桑葉】寒熱を除き、汗を出す。【茯苓・酸棗・山茱萸】「石部」【殷孽】瘀血寒熱【陽起石・禹餘粮】「禽獸」【鶩肪】風虚寒熱。【猳猪頭肉】寒熱。【熊脂・鹿角・麋脂】

吐血衄血

陽が陰に乘ずるものは血熱して妄行し、陰が陽に乘ずるものは血が經に歸せぬ。○血が淸道を行けば鼻から出る。血が濁道を行けば口から出る。○嘔血は肝から出る。○吐血は胃から出る。○衄血は肺から出る。○耳血を衈といふ。○眼血を衈といふ。○膚血を血汗といふ。○口と鼻とから同時に出るを腦衄といふ。○九竅のすべてから出るを大衄といふ。○張實之曰く、眼血を衈といふとしてあるが、ここは鼻血を衄といふとするが正しいやうである。

瘀を逐ひ滯を散す 「草部」【大黃】瘀血、血閉を下す。心氣不足の爲に吐血し、衄血

し、胸脇の刺脹するには、黄芩、黄連と共に煎じて服す。また單獨に大黄のみを散にし、水で煎じて服す。【甘遂・芫花・大戟】吐血痰涎で血の止らぬには、これを服して藥が下行すれば止る。【杜衡】吐血に瘀あるには、これを用ゐて吐かす。【紅藍花・鬱金】(一)血を破る。又末にして井水で服すれば、吐血を止める。【茜根】血を活し、血を行らす。末にして水で煎じて服すれば、吐、衄諸血を止める。或は黒豆、甘草を加へ丸にして服す。○艾葉、烏梅と共に丸にして服す。【剪草】一切の(二)失血には、末にして蜜を和し、九回蒸し九回晒して服す。【三七】吐、衄諸血には、米泔で二錢を服す。【蓖麻葉】油を塗つて炙り顖上に熨して衄を止める。【三稜】末にし醋で調へて(三)五椎の上に塗れば衄を止める。「穀菜」【麻油】衄血には、鼻に注げばよく血を散ずる。【醋】衄血には、胡粉を和して服し、更に土に和して陰嚢の上に敷く。【韭汁】吐血を止める。童尿に和して服すれば胃脘の瘀血を消す。【葱汁】血を散ず。鼻を塞げば衄を止める。【蔓菁汁】吐血を止める。【萊菔子】吐血、大衄を止める。鼻中に注ぐ。【桑耳】鼻を塞ぎ衄を止める。「果木」【栗楔】血を破る。燒いて服すれば吐衄を止める。殼もよし。【荷葉】惡血を破り、好血を留める。口、鼻諸血には、生で

(一) 血ヲ破ルトハ瘀血ヲ消スルコト。
(二) 失血ハ金創其他吐血、下血等ニテ血ヲ失フ場合。
(三) 五椎ハ背椎ノ五番目。

擂つて汁を服す。乾けるものは末にして服す。或は燒いて服し、或は蒲黃を加へる。【藕汁】瘀血を散じ、口、鼻の諸血を止める。鼻に注げば衄を止める。【桃仁】瘀血、血閉を破る。【桃梟】血を破り、吐血を止める。諸藥の效を奏せぬには燒いて服す。【榴花】血を散ず。末にして服すれば吐衄を止める。○黃葵花と共に煎じて服す。或は末にして服す。鼻を塞げば衄が止る。【乾柿】脾に作用する果物である。宿血を消し、吐血、咯血を治す。【椶灰】瘀血を消し、吐衄諸血を止める。水で服す。【血竭】鼻に吹込めば衄を止める。【山茶】吐、衄には、末にして酒に童尿を入れて服す。【胡頹子根】吐血には、水で煎じて服す。【蕤核】衄血。【楓香】吐血には、末にして水で服す。或は蛤粉を加へ、或は綿灰を加へる。【椰子皮】衄を止める。【蘇木】「服器」【紅綿灰】水で服す。【黃絲絹灰】水で服す。【白紙灰】水で服す。吐、衄を止める效力は殆ど說明し盡せぬ。【麻紙灰・藤紙灰】麝香を入れて酒で服すれば衄血を止める。【屏風故紙灰】酒で服すれば衄を止める。【敗舡茹】吐血を止める。「土石」【白堊土】衄血には、水で二錢を服すれば根を除く。【伏龍肝】水で淘つた汁に蜜を入れて服すれば吐血を止める。【金墨】吐、衄には、水に磨つて服す。【鐺墨】炒つて二錢を水で服

すれば吐、衄諸血を止める【百草霜】水で服し、また鼻に吹けば衄を止める。【白瓷器末】吐血には、皂角仁湯で二錢を服す。○衄血には鼻に吹く。【地龍糞】吐血には、水で二錢を服す。【花乳石】よく血を化して水にし、諸血に主效がある。凡そ幾升といふ程の夥しき出血には、煅いて研り、童尿に酒を入れて三錢乃至五錢を服す。【金星石】肺損の吐血、嗽血に主效がある。【石灰】瘀血を散ずる。凡そ突然の吐血には、刀頭上で燒いて研り、水で三錢を服す【白礬】鼻に吹けば衄を止める。【硇砂】衄血の止まぬには、水で二錢を服す。【食鹽】血を散ずる【戎鹽】吐血に主效がある。【芒消】瘀血を下す。【珊瑚】鼻に吹けば衄を止める「蠶蛻」【蠶退紙灰】吐血の止まぬには、蜜で丸にし含んで嚥む【蠐螬】吐血が胸腹に在つて出ぬものに主效がある。【蜘蛛網】突然の吐血には、米飲で一撮り程を呑む【露蜂房】吐、衄血に主效がある。【蝸牛】焙じて研り、烏賊骨と共に鼻に吹けば衄を止める。【䖟蟲・水蛭・五倍子末】水で服し、鼻に吹けば衄を止める。【壁錢窠】鼻を塞げば衄を止める【龍骨】服すれば吐血を止め、鼻に吹けば衄を止め、耳に吹けば衈を止める【鯉魚鱗灰】血を散ずる。衄の止まぬには、水で二錢を服す。【烏賊骨】末にして服すれば突然の吐血を治

す。鼻に吹けば衄を止める。【鰾膠】瘀血を散じ、衄血を止める。【鱓血】鼻に滴らせば衄を止める。【膽】耳に滴らせば衄を止める。（禽部）【五靈脂】吐血には、蘆薈と共に丸にして服す。○黄蓍末と共に水で服す。【雞屎白・老鴟骨・驢屎灰・騾屎灰・馬懸蹄灰・牛骨灰・猬皮灰】いづれも鼻に吹けば衄を止める。【白馬通】汁を服し、鼻を塞ぐ。いづれも吐、衄を止める。【牛耳垢】鼻を塞げば衄を止める。【黄明膠】(十)山根に貼れば衄を止める。○炙いて研り、新綿灰と共に飲で服すれば吐血を止める。「人部」【髮灰】瘀血を散じ、上下諸血を止める。いづれも一日三回水で方寸匕を服す。鼻に吹けば衄を止める。【人尿】吐、衄を止める。薑汁に和して服すれば、火を降し、瘀血を散ず。これを服すれば、十に一も爲に死亡するものはない。【吐出血】黒く炒つて研末し麥門冬湯で三分を服すれば、血を導いて正しき源に歸する。【衄血】出るところを器に取つて(十一)目角に點け、また燒灰にして水で一錢を服す。【人爪甲】刮つて末にし鼻に吹けば、衄を止めること妙である。

陰を滋くし陽を抑へる　「草部」【生地黃】血を涼にし、血を生じ、心、肺の傷みから生ずる吐血、衄血を治す。汁を取つて童尿に和し、煎じて白膠を入れて服す（

(十) 山根ハ鼻本ナリ。

(十一) 目角ハ目尻。

心熱の吐、衄には、汁を取つて大黃末と丸にして服す。地黃、薄荷末と共に服す。【紫參】唾血、(六)衂衄。○人參、阿膠と共に末にして服すれば吐血を止める。【丹參】宿血を破り、新血を生ずる。【地楡】吐、衄を止めるには、米醋で煎じて服す。【牡丹皮】血を和し、血を生じ、血を涼する。【當歸】頭を用うれば血を止め、身は血を和し、尾は血を破る。○衄血の止まぬには、末にして一錢を服す。【芎藭】宿血を破り、新血を養ひ、吐、衄諸血を治す。【芍藥】惡血を散じ、賊血を逐ひ、肝を平にし、脾を助ける。○太陽の衂衄の止まぬには、赤芍藥を末にして二錢を服し、喀血には、犀角汁を入れる。【黃芩】種種の出血、積熱の吐、衄には、末にして水で煎じて服す。【黃連】吐、衄の止まぬには、水で煎じて服す。【胡黃連】吐、衄には、生地黃、猪膽汁と共に丸にして服す。【黃藥子】血を涼し、火を降す。○吐血には、水で煎じて服す。○衄血には、磨つて汁を服し、或は末にして服す。【白藥子】燒いて服す。【蒲黃・青黛】水で服す。【藍汁・車前汁・大小薊】汁。【馬蘭・澤蘭・水蘇】煎じ、或は末にする。【紫蘇】熬膏する。【薄荷・靑蒿】汁。【青葙】汁。【馬藺子・陰地蕨・鱧腸】汁。【蘘荷根】汁。【生葛】汁。【浮萍】末。【桑花】末。【船底苔】煎じる。【土馬騣】いづれも吐血、衄血を止

(六) 衂ハ鼻窒。

める。【荊芥】吐血には、末にして服す。〇口、鼻の出血には、燒いて服す。〇九竅の出血には、酒で服す。【茅根】汁、或は末。【茅針・茅花・金絲草・白雞冠花】いづれも吐血、衄血に主效がある。【屋上敗茅】酒に浸す。【地菘】末。【龍葵】人參と共に末にする。【螺靨草】酒に擂る。いづれも吐血を止める。【蒼耳】汁。【貫衆】末。【黃葵子】末。【王不留行】煎じる。【萱根】汁。【決明】末。【龍鱗薜茘】末。【垣衣】汁。【屋遊】末にして服す。いづれも衄血を止める。【地膚】九竅出血には、巵子、甘草、生薑、大棗、燈草と共に水で煎じて服す。【麥門冬】吐、衄の止まぬには、杵汁に蜜を和して服し、或は地黃と共に煎じて服すれば止る。【馬勃】積熱の吐血には、沙餹で丸にして服す。姙婦の吐血には、米飲で和して服す。「穀菜」【小麥】唾血を止める。【淅泔】飲めば吐血を止める。【麥麪】水で服すれば吐、衄を止める。【粟米粉】絞汁は衄を止める。【翻白草】吐血には煎じて服す。「果木」【蓮花】酒で末を服すれば損血を止める。【栢葉】煎じ、丸にし、散にし、汁にし、吐、衄諸血を止める。【巵子】胃脘の血を清くし、衄を止める。【桑葉】末。【地骨皮】煎じて服す。いづれも吐血に主效がある。【柳絮】末にして服すれば、吐血、喀血を止める。【槐花】末にして服すれば、吐唾、

喀血に主效がある。烏賊骨と共に衄血に吹く。〔楮葉〕汁。〔黄蘗〕末。〔槲若〕末。〔竹葉・竹茹〕いづれも吐血、衄血に主效がある。〔荊葉〕九竅出血には杵汁に酒を入れて服す。「金石」〔朱砂〕蛤粉と共に酒で服すれば、諸種の吐血に主效がある。〔滑石〕水で服す。〔鉛霜〕水で服す。〔胡粉〕醋で炒る。〔黄丹〕水で服す。〔玄明粉〕水で服す。〔水銀〕いづれも熱衄に主效がある。「介鱗」〔螺螄〕汁を服すれば、黄疸の吐血に主效がある。〔蛤粉〕槐花と共に末にし水で服す。〔犬膽〕いづれも衄血を止める。〔犀角〕汁は積熱の吐、衄を止める。「人部」〔人中白〕麝を入れて酒で服すれば衄を止める。〔人中黄〕末にして服すれば嘔血に主效がある。燒灰を鼻衄に吹く。

氣を理し血を導く

「草木」〔香附〕童尿で末を調へて服す。或は烏藥、甘草と共に煎じて服す。〔桔梗〕末。〔箬葉〕灰。〔烏藥・沈香〕いづれも吐血、衄血を止める。〔防風〕上部に血を見るには、この藥を用ゐねばならぬ。〔白芷〕宿血を破り、新血を補ふ。山根に塗れば衄を止める。〔半夏〕瘀血を散ず。〔天南星〕血を散ず。末にして服す。〔貝母〕末。〔蘆荻皮〕灰。〔栝樓〕灰。〔榧子〕末にして服す。いづれも吐血に主效がある。〔石菖蒲〕肺損の吐血には、麪と共に水で服す。〔芎藭〕香附と共に末に

（七）暴驚ハ急驚風、小兒ノヒキツケ。

して服すれば、頭風の衄に主效がある。【燈心草・香薷】末。【穀精草】末。【枇杷葉】末。【玄胡索】耳を塞ぐ。いづれも衄を止める。【折弓弦】口、鼻の大衄には、灰に燒いて白礬と共に吹く。

中を調へ虚を補ふ 「草穀二」【人参】氣を補ひ、血を生ず。吐血の後に煎じて一兩を服す。（一）內傷で泉のやうに出血するには、荊芥灰、蒸栢葉、白薊と共に水で服す。【黃芪】五臟の惡血を逐ふ。紫萍末と共に服すれば吐血を止める。【甘草】血を養ひ、血を補ひ、唾膿血に主效がある。【白及】羊肺に蘸けて食へば肺損の吐血に主效がある。水で服すれば衄を止める。【百合】汁と蜜で蒸して食へば肺病の吐血に主效がある。【稻米】末にして服すれば吐、衄を止める。【萆薢葉】香油で炒つて食ふ。【飴餹・白扁豆・白朮】「石部二」【鍾乳粉・五色石脂・代赭石】いづれも虚勞の吐血に主效がある。【靈砂】（七）暴驚で九竅から出血するには、人参湯で三十粒を服す【鼈甲・蛤蚧・淡菜・阿膠・白狗血】熱して飲む。【鹿角膠】いづれも虚損の吐血に主效がある。【水牛腦】勞傷の吐血には、杏仁、胡桃、白蜜、麻油と共に熬乾し末にして服す。【羊血】熱飲すれば數月に亘る衄血に主效がある【酥酪・醍醐】鼻に灌ぎ込めば滯血を

止める。○張實之曰く、凡そ衂の字は皆衄と書くが正しい。血に从ひ丑に从ふ女鞠の切（デク）である。後はこれに倣ふ。

從治　【附子】陽虛吐血には、地黃、山藥と共に丸にして服す。【益智子】熱で心系を傷めて吐血するには、丹砂、青皮、麝香と共に末にして服す。【桂心】水で服す。【乾薑】童尿で服す。いづれも陰が陽に乘じた吐血、衄血に主效がある。【艾葉】汁を服すれば吐、衄を止める。【薑汁】汁を服し、鼻に滴らす。【芥子】顖に塗る。【胡蒜】足心に貼る。いづれも衄血に主效がある。又蒜汁を服すれば吐血を止める。

外迎　【冷水】耳、目、鼻の出血の止まぬには、水に足を浸し、顖に貼り、頂に貼り、顏に噀き、胸に薄ける、いづれもよし。

齒衄　陽明の風熱、濕熱、腎虛である。

熱を除く　【防風・羌活・生芐・黃連】

清補　【人參】（一）齒縫から條をなして出血するには、茯苓、麥門冬と共に煎じて服すれば奇效がある。○上盛下虛し、涼藥を服すればますます甚しきには、六味地黃丸、

（一）齒縫ハ齒ノ附ケ根。

(二)鉚ハ古文ノ鑛ノ字。

(三)金陵本ニ按トアリ、然レドモ揩ノ誤字ナルコト疑ナシ。

黒錫丹を用ゐる。

外治　【香附】薑汁で炒つて研り、或は青鹽、百草霜と共に用ゐる。【蒲黄】炒り焦す。【苦參】枯礬と共に用ゐる。【骨碎補】炒り焦す。【絲瓜藤】灰。【寒水石】硃砂、甘草、片腦と共に用ゐる。【五倍子】燒く。【地龍】礬、麝と共に用ゐる。(二)【紫鉚・枯礬・百草霜】いづれも揩み擦る。【麥門冬・屋遊・地骨皮・苦竹葉・鹽】いづれも水で煎じて含漱する。【童尿】熱して含漱する。【蜀椒・苦竹茹】いづれも醋で煎じて含漱する。【蟾酥】(三)按する。【鐵釘】燒いて烙する。

本草綱目主治第三卷上 終

本草綱目主治　第三巻　下

百病主治藥 上

血汗

卽ち肌衄である。また(一)脈溢ともいふ。毛孔から出血するをいふ。心は血を主り、又汗を主るもので、これは極めて虚して火があるためである。

内治 【人參】氣散じ血虚して衣服の汚れる程紅い汗の出るには、歸、芪諸藥と共に煎じて服す。又建中湯、辰砂妙香散、いづれもよし。○(二)血絡を抓傷して出血止まぬには、一兩を煎じて服す。【葎草】產婦が大に喜んで汗を出し、それが衣服を赤色に汚すことがある。それは喜びは氣を出すのだからである。それには擣き汁一升に醋一合を入れ、折折一盃づつ服す。【黃芩】灸瘡から出血して止まぬには、酒で炒り末にして服す。【生薑汁】毛竅が節次に出血し止まず、爲に皮が鼓のやうに脹り、須臾の間に口も目も皆脹れ塞がるものを脈溢といふ。これには水を汁に和して各〻半を服す。【郁李仁】鵞涎汁で末を調へて服すれば血汗を止める。【硃砂】血汗に

(一) 脈溢、金陵本ニ脈益トアリ、然レドモ脈溢ヲ正トス、現今ノ紫斑病モ之ニ屬ス。

(二) 血絡ハ脈管ノ枝。

は、麝を入れて水で服す。【人中白】血が膚腠から出るには、麝を入れて酒で二錢を服す【水銀】毛孔の出血には、硃砂、麝香と共に服す。【黄犢臍中屎】九竅や四肢の指の股から出血するのは、突然の激怒が原因である。これには焼いて末にし、日に五回水で方寸匕を服す。

外治【旱蓮】灸瘡の出血して止まぬに傅ける【蜣螂灰】同上【糞桶箍】焼いて搔痒出血の止まぬに傅ける。【五靈脂】痣を抓いた爲に血が出て止まぬには、擦り込む。【男子胎髮】毛孔出血を癒す。【煮酒瓶上紙】同上。

欬嗽血

欬血は肺から出る。嗽血は脾から出る。これは火鬱に因するものである。咯血は心から出る。唾血は腎から出る。これは虚勞に因するものである。

火鬱【麥門冬・片黄芩・桔梗・生地黄・金絲草・茅根・貝母・薑黄・牡丹皮・芎藭・白芍藥・大青・香附子・茜根・丹參・知母・荷葉】末。【藕汁・桃仁・柿霜・乾

(一)脘ハ胃ノ内腔ヲ云フ。

(一)血枯ハ貧血症。

柿】脾、肺に入つて宿血、咯血、痰涎血を消す【杏仁】肺熱の欬血には、青黛、黄蠟と共に餅にし、乾柿で夾んで煨き日毎に食ふ。【水蘇】研末して飲で服す。【紫菀】五味子と共に蜜で丸にして服す いづれも吐血後の欬を治す【白前】久欬唾血には、桔梗、甘草、桑白皮と共に煎じて服す。【荊芥穗】(一)喉脘の痰血には、甘、桔と共に煎じて服す。【蒲黄・桑白皮・伏神・柳絮】末。【韭】汁を童尿に和して用ゐる。【生薑】百草霜を蘸けて用ゐる。【黄蘗・槐花】末にして服す。【槲若】水で煎じる。【髮灰・童尿】いづれも欬、咯、唾血に主效がある、【梔子】炒り焦して用うれば、胃脘の血を清くする。【訶子】火鬱の嗽血。【烏鴉】勞嗽の吐血

虛勞【人參・地黄・百合・紫菀・白及・黄芪・五味子・阿膠・白膠・酥酪・黄明膠】肺損の嗽血には、炙いて研り湯で服す。【豬胰】一切の肺病の欬唾膿血。【豬肺】肺虛の欬血には、薏苡仁末を蘸けて食ふ。【豬心】心虛の咯血には、沈香、半夏末を包んで煨いて食ふ。【烏賊骨】女子の(一)血枯で肝を傷め唾血するに用ゐる。

諸汗

氣虛、血虛、風熱、濕熱に因るものである。

(一)怔忡ハ神經性心悸、ムナサワギ。

(二)亡陽ハ精力衰耗。

(三)心頭ハ百會ノ穴、頭ノ頂巓。

氣虛　【黄耆】邪火を泄し、元氣を益し、皮毛を實する。【人參】一切の虛汗。當歸、猪腎と共に煮て食へば、(一)怔忡の自汗を止める。【白朮】末にして服し、或は小麥と共に煎じて服すれば、自汗を止める。黄耆、石斛、牡蠣と共に末にして服すれば、脾虛の自汗に主效がある。【麻黄根】諸汗を止めるには必ずこれを用ゐる。或は末にし、或は煎じ、外部に撲つ。【葳蕤・知母・地楡】いづれも自汗を止める。【附子】(二)亡陽の自汗。【艾葉】盜汗には、伏神、烏梅と共に煎じて服す。【何首烏】臍に貼る。【欝金】乳に塗る。【粳米粉】外に撲つ。【麻勃】中風の汗。【糯米】麥麩と共に炒り末にして服す。【韮根】四十九箇の根を煎じて服すれば盜汗を止める。「果木」【酸棗仁】睡眠中に汗の出るには、參、苓と共に末にして服す。【伏神】虛汗、盜汗には、烏梅湯で服す。○血虛で(三)心頭から汗の出るには、艾湯で調へて服す。【柏實】心を養ひ汗を止める。【桂】表虛の自汗に主效がある。【杜仲】產後の虛汗には、牡蠣と共に服す。【吳茱萸】產後の盜汗、惡寒。【雷丸】胡粉と共に撲つ。「蟲獸」【五倍子】蕎麥粉と共に餅にし煨いて食ひ、唾で和して臍中へ詰める。【牡蠣粉】氣虛の盜汗には、杜仲と共に酒で服す。○虛勞の盜汗には、黄耆、麻黄根と共に煎じて服す。○產後の盜汗には、麩で炒つて

(四) 陰汗ハ陰部ニ冷汗出ヅルモノ。

研り、猪肉汁で服す。○(四)陰汗には、蛇牀子、乾薑、麻黄根と共に撲つ。【龍骨】夜間睡眠中驚いて汗するを止める。【黄雌雞】傷寒後の虚汗には、麻黄根と共に煮た汁に肉蓯蓉、牡蠣粉を入れ煎じて服す。【猪肝】脾虚で物を食すると直に汗の出るには、丸にして服す。【羊胃】羹にして食ふ。【牛羊脂】酒で服すれば卒汗を止める。

血虚 「草獣」【當歸・地黄・白芍藥・猪膏】産後の虚汗には、薑汁、蜜、酒と共に煎じて服す。【猪心】心虚の自汗には、人參、當歸と共に煮て食ふ。【猪腎】産後の汗、蓐勞には粥、臛に煮て食ふ。

風熱 「草部」【防風】盗汗を止めるには、人參、芎藭と共に末にして服す。○自汗には、末にして麥湯で服す。【白芷】盗汗には、硃砂と共に服す。【荊芥】冷風で汗の出るには、煮汁を服す。【龍膽】男女小兒、及び傷寒一切の盗汗には、末にして酒で服す。或は防風を加へる。【黄連】心火を降し、汗を止める。【胡黄連】小兒の自汗。【麥門冬】「穀菜」【小麥・浮麥。麥麪】盗汗には、丸にして煮て食ふ。【豉】盗汗には、熬つて末にし酒で服す。【蒸餅】毎夜一枚を食へば自汗、盗汗を止める。【黄蒸米醋】いづれも黄汗を止める。【胡瓜】小兒の出汗には、黄連、胡黄連、黄蘗、大黄の諸藥と共に丸にして服す。

「果木」【桃梟】盗汗を止めるには、霜梅、葱白、燈心等と共に煎じて服す。【椒目】盗汗には、炒つて研り猪唇湯で服す。【鹽麩子】汗を收める。【經霜桑葉】寒熱盗汗を除く。末にして服す。【竹瀝】産後の虚汗には、熱して服す。「服器」【敗蒲扇灰】水で服し、撲つ。【甑蔽灰】水で服す。【死人席灰】煮て浴す。【五色帛】盗汗を拭つて棄てる。

怔忡

血虚であつて、火と痰とある。

血を養ひ神を淸くす　「草木」【人參】當歸末、猪腎と共に煮て食ふ。【當歸・地黃・黃芪・遠志・黃芩・黃連】心火を瀉し、心竅の惡血を去る。【巴戟天】氣を益し、心痰を去る。【香附】憂愁の(一)心忪、(二)少氣の疲瘦。【牡丹皮】神不足に主效があり、(三)包絡の火を瀉す。【麥門冬・伏神・茯苓・酸棗・柏實】魂を安じ、魄を定め、智を益し、神を導くする。

(一)健忘

心虚であつて、痰を兼ね、火を兼ねる。

虚を補す　「草木」【甘草】魂魄を安じ、火を瀉し、血を養ひ、健忘に主效がある。

(一)心忪、ムナサワギ。
(二)少氣ハ氣力ノ減少シタルヲ云フ。
(三)包絡ハ心臟ノ外部。
(一)健忘、モノワスレ。

（一）心孔ヲ開クトハ心臟ヲ活潑ナラシムルコト。

（二）怔悸ハムナサワギ、煩鬱ハ心配。

【人參】心を開き、智を益し、妄症を去る。豬肪と共に煉つて酒で服す。【遠志】心、腎の氣を定め、智慧を益し、忘れなくなる。末にして酒で服す　【石菖蒲】（一）心孔を開き、九竅を通ずる。久しく服すれば、忘れ惑はなくなる。末にして酒で服す。【仙茅】久しく服すれば、神に通じ、强記聰明になる。【淫羊藿】氣を益し、志を强くする。老人の昏耄、中年の健忘に效がある。【丹參・當歸・地黃】いづれも血を養ひ、神を安じ、志を定める。【預知子】心氣不足で恍惚として物を錯り忘れ、（二）怔悸、煩鬱するには、人參、菖蒲、山藥、黃精等と共に丸にして服す。「穀菜果木」【麻勃】健忘に主效がある。七夕の日に一升を取り、人參二兩と共に末にし、蒸熟して就寢時毎に一刀圭を服すれば、世間的智能を增進する。【山藥】心神を鎭め、魂魄を安んじ、健忘に主效があり、心孔を開達して記憶力を强くする。【龍眼】志を安んじ、魂を强くし、過慮で脾を傷めた健忘、怔忡、白汗、驚悸に主效がある　歸脾湯で服す。【蓮實】心を淸くし、神を寧くする。末にして服す。【乳香】心神不足し、水火順調ならず、健忘、驚悸するには、沈香、伏神と共に丸にして服す　【伏神・茯苓・柏實・酸棗】「鑑[illegible]」【白龍骨】健忘には、遠志と共に末にして湯で服す。【虎骨】龍骨、遠志と共に末

にして服す。【六畜心】心昏多忘には、研末して酒で服す。

痰熱　「草果」【黃連】心火を降し、忘れなくなる。【玄參】腎を補ひ、忘れを止める。【麥門冬・牡丹皮・柴胡・木通】諸經の脈壅、寒熱の氣を通利し、忘れなくなる。【商陸花】精神昏塞し、忘れ易く、誤り易きには、末にして夜服す。夢中のことさへ明かに辨別し記憶するやうになる。【桃枝】枕にし、または人形に刻んで身に佩べば健忘に主效がある。「金石部」【舊鐵鏵】心虛の恍惚、健忘には、火に燒いて酒に淬し、水に浸して日毎に服す。【鐵鏵粉・金薄・銀薄・銀膏・硃砂・空青・白石英】心臟の風熱で驚悸し、忘れ易きには、痰を化し、神を安んずる。硃砂と共に末にして服す。【牛黃】痰熱の健忘を除く。

(一)驚悸

火あり、痰あり、虛を兼ねる。

清鎭　「草部」【黃連】心、肝の火を瀉し、心竅の惡血を去り、驚悸を止める。【麥門冬・遠志・丹參・牡丹皮・玄參・知母】いづれも心を定め、魂魄を安んじ、驚悸を止める。【甘草】驚悸煩悶に用ゐ、魂魄を安んずる。○傷寒の心悸、(二)脈代には、煎じて

(一)驚悸ハ物ニオビエルコト。

(二)脈代ハ結代ニシテ脈搏ノ時時途絕スルヲ云フ。

(三)悸忪ハムナサワギ。

服す。【半夏】心下の(三)悸忪には、麻黄と共に丸にして服す。【天南星】心、膽が驚かされて精神が所を失し、恍惚、健忘、妄言、妄見するには、硃砂、琥珀と共に丸にして服す。【柴胡】煩を除き、驚を止め、肝、膽、包絡の相火を平にする。【龍膽】肝、膽の邪熱を退け、驚悸を止める。【芍藥】肝を瀉し、煩熱、驚狂を除く。【人參・黄芪・白及・胡麻・山藥・淡竹瀝・黄蘗・柏實・伏神・茯苓・乳香・沒藥・血竭・酸棗仁・厚朴・震燒木】火驚、失志には、煮汁を服す。「金石」【霹靂碪】非常な驚きの爲に失神し、恍惚たるに用ゐ、神を安んじ、志を定める。【天子籍田犂下土】驚悸、顚邪には、水で服す。【金屑・銀屑・生銀・硃砂銀・硃砂銀膏・自然銅・鉛霜・黄丹・鐵精・鐵粉・紫石英】煮汁。【雄黄・玻瓈・白石英・五色石脂】「鱗介禽獸」【龍骨・龍齒・夜明砂・鼉甲・牛黄・羚羊角・虎睛骨膽・羖羊角・象牙・麝臍香・犀角・醍醐】いづれも心を鎮め、肝を平にし、驚悸を除く。【猪心】驚を除き、血を補ふ。産後の驚悸には、煮て食ふ。【猪心血】青黛、硃砂と共に丸にして服すれば心病の邪熱を治す。【猪腎】心腎の虚損には、人參、當歸と共に煮て食ふ。【六畜心】心虚痛、驚悸、恐惑。【震肉】驚いて失心したるには、脯にして食はす。【人魄】水に磨つて服すれば驚悸、

狂走を定める。

狂惑　火に因るもの、痰及び(一)蓄血に因るものである。

清鎭　「草部」【黃連・藍汁・麥門冬・薺苨・茵蔯・海金砂】いづれも傷寒の發狂に主效がある。【葳蕤・紫參・白頭翁】いづれも狂痓に主效がある。【白微】暴中風熱でうつらうつらと意識不明瞭な狂惑邪氣に效がある。【白鮮皮】腹中の大熱で妄に水を飲み、走り出でんとし、發狂するに效がある。【龍膽】傷寒發狂には、末に雞子淸、生蜜を入れ涼水で服す。【撒法郎】即ち番紅花である。水に浸して服すれば傷寒發狂に主效がある。【葛根・栝樓根】【大黃】熱病で狂ひ、譫語するには、散にして服す。【攀倒甑汁】主として風熱狂燥に服す。【苦參】熱病の發狂で水火をも避けぬには、蜜で丸にして服す。【麥門冬・芍藥・景天・鴨跖草】いづれも熱狂に主效がある。【葶藶】突然の發狂には、白犬血で丸にして服す　【鬱金】失心顚狂には、明礬と共に丸にして服す。【莨菪子・防葵】いづれも顚狂に主效がある。多く服すれば狂走させる。「穀菜」【麥苗】汁は時疾の狂熱に主效がある。【麥奴】(二)陽毒の熱狂、大渴。【葱白】天行熱

(一)蓄血ハ瘀血積血ヲ云フ。

(二)陽毒トハ傷寒其他熱病ノ後ニ發スル腫物ヲモ云フ。

狂。【百合】顚邪の狂叫、涕泣。【淡竹笋】熱狂の痰あるもの。「果木二【瓜蒂】熱水で服し、吐かす。【甘蔗】天行熱狂には、冬十二月糞坑の中に瓶に封して入れて置き、汁を絞つて服す。【苦棗・桃花・楝實・淡竹葉】いづれも熱狂に主效がある。【竹瀝】痰が胸膈に在るための顚狂。○小兒の狂語で深夜に發作するには、二合づつ服す。【巵子】畜熱狂躁には、豉と共に煎じて服し、吐かす。【桐木皮】吐き下す。【雷丸】顚癇狂走。【欒花】諸風の狂痙。【經死繩灰】突然の發狂には水で服す。「水土金石」【半天河】鬼狂。【臘雪】熱狂。【伏龍肝】狂顚風邪には水で服す。【釜墨・百草霜】いづれも陽毒發狂に效がある。【車脂】中風發狂には、醋で一塊程を服す。【硃砂】顚癇の狂亂には、猪心で煮て伏神と共に丸にして服す。○産後、敗血が心に入つて狂顚し、祟の物を見る如きには、末にして地龍で滾らせ酒で服す。【寒水石】傷寒發狂で垣を踰えて屋根に上る如きには、黄連と共に末にして服す。【玄明粉】傷寒發狂には、硃砂と共に服す。【粉霜】傷寒の積熱、及び風熱で驚き狂ふ如きには、鉛霜、輕粉、白麪と共に丸にして服す。【玄精石・菩薩石・雄黄】いづれも熱狂に效がある。【鐵落】肝を平にし、怯を去り、怒り易く、狂を發するには、飲にして服し、痰氣を下す。【鐵甲】

憂結で怒り易く、狂し易きもの。【鐵漿】發熱狂走。【銀屑・銀膏・金屑】「鱗介」【龍齒】いづれも精神を鎭め、狂熱を鎭める　【文鰩】これを食へば狂がやむ。【貝子・玳瑁】いづれも傷寒熱狂に主效がある「蟲禽」【蠶退紙灰】顚狂、邪祟、狂走、悲泣、自ら高ぶるには、酒で一匕を服す。【白雄雞】顚邪で自ら賢者聖者と妄想するには、羹、粥にして食ふ。○驚愕、憤怒の邪僻で亢奮し激越するには、眞珠、薤白を入れて煮て食ふ。【雞子】天行熱疾の狂走には、生で一箇を呑む。【鷗】躁渴、狂邪には、五味と鹽で漬けて食ふ。【鵲巢灰】これを服すれば顚狂に主效がある。【鳳凰臺】水に磨つて服すれば熱狂に主效がある。「獸人」【羚羊角】驚夢、狂越、僻謬に用ゐれば、肝を平にし、魂を安んずる。【犀角】時疾の熱毒が心に入つて狂言、妄語するに用ゐ、肝を鎭め、熱を退け、痰を消し、毒を解す。【牛黃・犛牛黃】いづれも驚に效がある。【驢脂】狂顚には、烏梅に和し丸にして服す　【驢肉】風狂で憂愁し樂まざるに用ゐ、心を安んじ、煩を止める。煮て食ひ或は粥にして食ふ。【六畜毛蹄甲】顚狂妄走。【猳猪肉】狂病の久しく癒えぬに用ゐる。【白犬血】熱病で發狂し、鬼怪の物を見、瀕死の狀に陷つたものには、熱して胸上に貼る。【狗肝】心風の發狂には、消石、黃丹

に擦つて煮て嚼む。【靈猫陰】狂邪鬼神に用ゐ、心を鎭め、神を安んずる。【人中黄】熱病の發狂で鬼怪の物を見る如く、久しきに亘つて汗なく、事物の見境なきには、煆いて研り水で服す。【人屎】時行大熱の狂走には水で服す。【人尿】血悶、熱狂、【人魄】水に磨つて服すれば、驚悸、顚狂を落付かす。【胞衣水】諸熱毒で狂語するもの。【紫河車】煮て食へば(三)失心風に主效がある。【耳塞】顚狂鬼神。

(一)煩躁

肺は煩を主り、腎は躁を主る。痰、火、蟲厥に因るものである。

淸鎭「草部」【黄連・黄芩・麥門冬・知母・貝母・車前子・丹參・玄參・甘草・柴胡・甘蕉根・白前・葳蕤・龍膽草・防風・蠡實・芍藥・地黄・五味子・酸漿・靑黛・栝樓子・葛根・菖蒲・菰筍・萱根・土瓜根・王不留行】いづれも熱煩に主效がある。【海苔】研つて飮めば煩悶を止める。【胡黄連】心の煩熱に主效がある。米飮で末を服す。【牛蒡根】汁を服すれば、熱攻心煩を止める。【款冬花】心、肺を潤し、煩を除く。【白朮】煩悶には煎じて服す。【苧麻・蒲黄】いづれも產後の心煩に主效

(三)失心風ハ精神病。

(一)煩ハ心中不安ノ證、躁ハ四肢不安ノ貌。

がある。「穀菜」【小麥・糯米泔・淅二泔・赤小豆・豉・麨・蘗米・醬汁・米醋・芋・菫・水芹菜・白菘菜・淡竹筍・壺蘆・冬瓜・越瓜】「果木」【西瓜・甜瓜・烏梅及び核仁・李根白皮・杏仁・大棗・榅桲・椑柿・荔枝・巴旦杏・橄欖・波羅蜜・梨汁・枳椇・葡萄・甘蔗・刺蜜・都咸子・都桷子・藕・荷葉・芡莖・猴桃・竹瀝・竹葉・淡竹葉・楝實・厚朴・黃櫨・盧薈・卮子・荊瀝・猪苓・酸棗仁・胡桐淚・伏神・茯苓】【槐子】大熱心煩には、焼いて研り酒で服す。【黃蘗】「金石」【鉛霜・不灰木・眞玉・禹餘粮・滑石】煎汁で粥を煮る。【五色石脂・硃砂・理石・凝水石・石膏・玄明粉・石鹼・甜消】「鱗介」【龍骨・文蛤】【眞珠】知母に合せて服す。【蟶肉】「禽獸」【抱出雞子殼】小兒の煩滿で極端に苦むには、焼いて末にし酒で服す。【雞子白・諸畜血・驢肉・羚羊角】いづれも熱煩に主效がある。【犀角】汁に磨つて服すれば、心を鎮め、大熱風毒が心を攻めて甚しく熱悶するを解す。【水羊角灰】氣逆煩滿には水で服す。【白犬骨灰】産後の煩懣には水で服す。

不眠

心虚、膽虚に火を兼ねるものである。

熱を清くす　「草部」【燈心草】終夜不眠には、湯に煎じて茶の代りに飲む。【半夏】陽盛陰虚の不眠には、秫米と共に流域の長い河の水と葦火で煎じて飲めば眠に就ける。【地黃】心、膽の氣を助ける。【麥門冬】心、肺の熱を降し、魂魄を安んずる。「穀菜」【秫米】【大豆】晝夜眠り得ぬには、新布を用ゐ火で炙つて目を熨し、且つ豆は蒸して枕にする。【乾薑】虚勞の不眠には、研末二錢を湯で服し、汗を取る。【苦竹筍・睡菜・蕨菜・馬蘄子】「果木」【烏梅・榔楡】いづれも眠らせる。【楡莢仁】糜羹にして食へばよく眠る。【蕤核】熟して用ゐる。【酸棗】膽虚、煩心で眠り得ぬには、炒熟して末にし、竹葉湯で服す。或は人參、茯苓、白朮、甘草を加へて煎じて服す。○或は人參、辰砂、乳香を加へて丸にして服す。【大棗】煩悶不眠には、葱白と共に煎じて服す。【木槿葉】炒り煎じて飲服すれば眠り得る。【郁李仁】動悸の爲めの不眠には、末にして酒で服す。【松蘿】痰熱を去り、安眠を得る。【乳香】不眠を治し、心に入つて血を活す　【伏神・知母・牡丹皮】「金石」【生銀・紫石英・硃砂】「蟲獸」【蜂蜜・白鵰】煮汁　【馬頭骨灰】膽虚の不眠には、乳香、酸棗と共に末にして服す。

多眠　脾虛に濕熱、風熱を兼ねるものである。

脾濕　「草木」【木通】脾病の多眠。【朮・葳蕤・黃耆・人參・沙參・土茯苓・茯苓・荊瀝・南燭】いづれも好眠に主效がある。【蕤核】生で用うれば眠多きを治す。【花構葉】睡眠に耽るには、晒して研り、一日二回湯で服す。「鱗禽」【龍骨】多寐洩精に主效がある。【尸鳩】神を安んじ、志を定め、睡眠を少くする。

風熱　「草部」【苦參・鬱實】いづれも熱あつて眠を好むを除く。【甘藍及び子】久しく食すれば、心氣を益し、多睡を治す。【龍葵・酸棗】いづれも睡眠を少くする。【當歸・地黃】いづれも脾氣、痿躄、嗜眠に主效がある。【蒼耳・白微】風溫の灼熱、多眠。【白苣・苦苣】「果木」【茶】風熱の昏憒で多睡して醒めぬを治す。【皐盧】煩を除き、痰を消し、睡を少くする。【酸棗】膽熱で眠を好むには、生で研つて湯で服す。【棗葉】生で煎じて飲む。「獸部」【馬頭骨灰】膽熱の多眠には、灰に燒いて水で日中三回、夜間一回服す。また枕にする。○又硃砂、鐵粉、龍膽と共に丸にして服す。

(一)消渇ハ無味尿崩及糖尿病等ノ汎稱。

(一)消渇

上消は食少く、中消は食多く、下消は尿が膏油のやうになる。

津を生じ燥を潤す　「草部」【栝樓根】消渇の要藥である。湯に煎じ、粉にし、熬膏する。いづれもよし。【黄栝樓】酒で洗つて熬膏し、白礬で丸にして服す。【王瓜子】食後に二三兩を嚼む。【王瓜根・生葛根】煮て服す。【白芍藥】甘草と共に煎じて日に三回服すれば、十年の渇も癒える。【蘭葉】津を生じ、渇を止め、陳氣を除く。【芭蕉根汁】日毎に飲む。【牛蒡子・葵根】消渇で尿の利せぬには煎じて服す。○消中尿多きにも煎じて服す。【甘藤汁・大瓠藤汁】「穀部」【菰米】煮汁【青粱米・粟米・麻子仁】煮汁。【溫麻汁・波稜根】雞内金の末と共に米飲で日毎に服すれば、水を一日一石飲む程の渇をも治する。【出了子蘿蔔】杵汁を飲み、或は日毎に末を服すれば、渇を止め、燥を潤す。【蔓菁根・竹筍・生薑】鯽魚膽と和して丸にして服す。「果木」【烏梅】渇を止め、津を生ず。微に研つて水で煎じ、豉を入れて再び煎じて服す。【椑柿】煩渇を止める。【君遷子・李根白皮・山礬】「石蟲」【礬石・五倍子】津を生じ、渇を止め

る。末にして一日三回水で服す。【白薬煎・海蛤・魁蛤・蛤蜊・眞珠・牡蠣】煆いて研り、鯽魚湯で二三服すれば止む。「禽獸」【燖雞湯】澄して飮む。三隻を過ぎてはならぬ。【燖猪湯】澄して日毎に飮む。【酥酪・牛羊乳・驢馬乳】

火を降し金を淸くす　「草部」【麥門冬】心、肺に熱あるには、黄連と共に丸にして服す。【天門冬・黄連】三消には、或は酒で煮、或は猪肚で蒸し、或は冬瓜汁に浸し丸にして服す。油のやうな尿の出るには、栝樓根と共に丸にして服す。【浮萍】搗汁を服す。栝樓根と共に丸にして服す。【葎草】虛熱で渴するには、杵汁を服す。【紫葛】産後の煩渴には、水で煎じて服す。【凌霄花】水で煎じる。【澤瀉・白薬・貝母・白英・沙參・薺苨・茅根】水で煎じる。【茅針・蘆根・菰根・鳬葵・水藻・水蘋・水蓴・陟釐・萹草・燈心草・苧根・苦杖・紫菀・紅草・白芷】風邪の久渴。【款冬花】消渴の喘息。【蘇子】消渴が水に變じたるには、蘿蔔子末と共に桑白皮湯で一日三回づつ服すれば、水は尿に從つて排出する。【燕蓐草】灰に燒き牡蠣、羊肺と共に末にして服す。「穀菜」【小麥】粥、飯にして食ふ。【麥麨】煩渴を止める。【薏苡仁】煮汁。【烏豆】牛膽に入れて日毎に呑む。【大豆苗】酥で炙り、末にして服す。【赤小豆】煮汁。

【腐婢・綠豆】煮汁。【豌豆】淡く煮る。【冬瓜】尿を利し、消渴を止める。杵汁を飮む。○乾瓤を汁に煎じる。○黃葉子も良し。「果木」【梨汁・菴羅果】煎じて飮む。【林檎・芰實・西瓜・甘蔗・烏芋・黃蘗】消渴で尿多く、能く多食するを止める。煮汁を服す。【桑白皮】煮汁。【地骨皮〃荊瀝・竹瀝】日毎に飮む。【竹葉・茯苓】上盛下虛し、火炎し、水涸れて消渴するには、黃連と等分を天花粉糊で丸にして服す

【猪苓】「衣服」【故麻鞋底】煮汁を服す。【井索頭灰】水で服す。【黃絹】煮汁。「水石」【新汲水・臘雪水・夏冰・甘露・醴泉・烏古瓦】煮汁。【黑鉛】水銀と共に結して泥のやうにし、豆粒大を含んで汁を嚥む。【鉛白霜】枯礬と共に丸にして噙む。【黃丹】新水で一錢を服す。【密陀僧】黃連と共に丸にして服す。【錫恡脂】三焦の消渴に主效がある。【滑石・石膏・長石・無名異】黃連と共に丸にして服す。【硃砂】煩渴に主效がある。【凝水石・鹵鹼・湯瓶鹼】粟米で和して丸にし、人參湯で二十丸づつ服す。○葛根、水萍と共に煎じて服す 菝葜、烏梅と共に末にし煎じて服す。【浮石】煮汁を服す。○靑黛、麝香と共に服す。○蛤粉、蟬蛻末と共に鯽魚膽で調へて服す。「蟲獸」【石燕】煮汁を服すれば久しき消渴を治す。【蠶繭】煮汁を飮む。【蠶蛹】酒

で煎じて服す。【晩蠶沙】焙じて研り、冷水で二錢を服す。六七服を過ぎてはならぬ。【繅絲湯・雪蠶・蝸牛】水に浸して飲む。また生の研汁を用ゐる。【田螺】水に浸して飲む。【蝸蠃・蜆】水に浸して飲む。【海月・猪脬】燒いて研り酒で服す。【雄猪膽】定粉と共に丸にして服す。【牛膽】心、腹の熱渴を除く。

虚を補し陰を滋くす　「草部」【地黄・知母・葳蕤】煩渴を止める。汁に煎じて飲む。【人參】津液を生じ、消渴を止める。末にして雞子淸で調へて服す。○栝樓根と共に丸にして服す。○粉草と共に猪膽汁で丸にして服す。○葛粉と共に蜜で熬膏して服す。【黄芪】諸虚で渴を發し、癰を生じ、或は癰後渴となれるには、粉草と共に半生半炙にし末にして服す。【香附】累年の消渴には、茯苓と共に末にして日毎に服す。【牛膝】下虚消渴には、地黄汁に浸して曝し、丸にして服す。【五味子】津を生じ、腎を補ふ。【兎絲子】煎じて飲む。【薔薇根】水で煎じる。【菝葜】烏梅と共に煎じて服す。【覆盆子・懸鉤子】「穀菜果木」【糯米粉】糜一斗を作つて食ふ。或は汁を絞り蜜に和して服す。【糯穀】花のやうに炒り、桑白皮と共に煎じて飲めば三消を治す。【稻穰心灰】汁に浸して服す。【白扁豆】栝樓根汁で和し丸にして服す。【韮菜】淡煮して食ふ。十斤まで食へ

ば效がある。【藕汁・椰子漿・栗殼】煮汁を服す。【枸杞・桑椹】單食する。【松脂】「石鱗禽獸」【礜石・石鍾乳・蛤蚧・鯉魚・嘉魚・鰣魚】茶で釀し煨いて食ふ。數箇に過ぎてはならぬ。【鵞】煮汁。【白雄雞・黃雌雞】煮汁。【野雞】煮汁。【白鴿】切片し土蘇と共に煎じて汁を噉む。【雄鵲肉・白鷗肉】躁渴狂邪に主效がある。【雄猪肚】煮汁を飲む ○仲景方では、黃連、知母、麥門冬、栝樓根、粱米を共に蒸し丸にして服す。【猪脊骨】甘草、木香、石蓮、大棗と共に煎じて服す。【猪腎・羊腎】下虛消渴。【羊肚】胃虛消渴。【羊肺・羊肉】瓠子、薑汁、白麪と共に煮て食ふ。【牛胃・牛髓】【牛脂】栝樓汁と共に熬膏して服す。【牛腦・水牛肉・牛鼻】石燕と共に煮て汁を服す。【兎及び頭骨】煮汁を服す。【鹿頭】煮汁を服す。

蟲を殺す 「木石」【苦楝根皮】消渴で蟲あるには、水で煎じ麝香を入れて服す。一般人の知らぬ所である。○研末を茴香末と共に服す。【烟膠】生薑と共に水に浸して日毎に飲む。【水銀】消渴煩熱に主效がある。鉛と共に結砂し、酥で炙いた皂角と麝香末を入れて服す。【雄黃】腎消で尿の數〻出るには、鹽で炒つた乾薑と共に丸にして服す。「鱗禽」【(二)鱓魚・鰌魚】燒いて研り、薄荷葉と共に新水で二錢を服す。【鯽魚

(二)鱓魚、金陵本ニ鱓頭トアレドモ誤ナラン。

膽・雞腸・雞内金】膈消で水を飲むには、栝樓根と共に炒つて末にし、糊で丸にして服す。【五靈脂】黒豆と共に末にして三錢づつを服し、冬瓜皮湯で飲下す。「獸人」【犬膽】渇を止め、蟲を殺す。【牛糞】汁を絞つて服す。【麝香】飲酒や果物を食つて渇となつた者には、研末して酒で丸にし、枳椇子湯で服す。【牛鼻拳】煮汁を飲み、或は灰に燒いて酒で服す。【衆人溺坑水】これを服す。

(一)遺精夢洩

心虚、腎虚、濕熱、脱精である。

心虚　「草木果石」【遠志・小草・益智・石菖蒲・柏子仁・人參】【兎絲子】過慮で心を傷め、遺瀝夢遺するには、茯苓、石蓮と共に丸にして服す。又莖寒で精が自ら出で、尿の餘瀝するに主效がある。【茯苓】陽虚で餘瀝、夢遺するには、黄蠟で丸にして服す。心、腎の調和せぬには、赤茯苓と共に熬膏し丸にして服す。【蓮鬚】心を淸くし、腎を通じ、精を固くする。【蓮子心】遺精を止めるには、辰砂を入れ末にして服す。【石蓮肉】龍骨、益智と等分を末にして服す。酒で猪肚を浸して丸にするを水芝丹といふ。【厚朴】心、脾の調和せぬ爲めに遺瀝するには、茯苓と共に酒、水で煎じて服

(一)遺精、和名マウザウ。夢洩、和名夢中ノマウザウ。

す。【硃砂】心虛の遺精には、猪心に入れて煮て食ふ。【紫石英】

腎虛　「草菜」【巴戟天】夜間鬼怪のものと性交する夢を見て精を洩すものに效がある。【肉蓯蓉】莖中の寒熱痛、洩精、遺瀝。【山藥】腎氣を益し、洩精を止める。末にして酒で服す。【補骨脂】骨髓の傷敗で腎が冷え精の流れるに主效がある。靑鹽と共に末にして服す。【五味子】腎虛遺精には、熬膏して日每に服す。【石龍芮】陰氣不足を補ひ、失精、莖冷に效がある。【菝葜・蒺藜・狗脊】精を固くし、骨を强くし、男性を益す。遠志、伏神、當歸と共に丸にして服す。【益智仁】夢洩には、烏藥、山藥と共に丸にして服す。【木蓮】驚悸遺精には、白牽牛と共に末にして服す。【覆盆子・韭子】腎に宜く、陽を壯にし、洩精を止める。末にして酒で服す。虛勞夢洩を止めるには、醋で煮て丸にして服す。【茖葱子・葱實】「果木」【胡桃】房勞で腎を傷め、口渴き、精自ら溢出し、大便燥き、小便赤く、或は利するには、附子、茯苓と共に丸にして服す。【芡實】腎を益し、精を固くする。茯苓、石蓮、秋石と共に丸にして服す。【櫻桃・金櫻子】精を固くするには熬膏して服す。或は芡實を加へて丸にし、或は縮砂を加へて丸にして服す。【柘白皮】勞損の夢交洩精には、桑白皮と共に酒で煮て服

す。【乳香】就寝時に棗ほどを含み嚼んで嚥めば夢遺を止める。【棘刺】陰萎で精が出るに用ゐ、腎を補ひ、精を益す。【沈香】男子の精冷遺失に用ゐ、命門を補ふ。【安息香】男子が夜間夢に鬼怪と交り遺失するに效がある。【杜仲・枸杞子・山茱萸】「金石」【石硫黄・五石脂・赤石脂】尿に精が交り、大便の寒滑するには、乾薑、胡椒と丸にして服す。【石鍾乳】精を止め、陽を壯にする。酒に浸して日毎に飲む。【陽起石】精滑止まず、大便が(一)溏泄するには、鍾乳、附子と共に丸にして服す。「蟲部」【桑螵蛸】男子の虚損で晝寝て洩精するには、龍骨と共に末にして服す。【晩蠶蛾】遺精白濁を止める。焙じて研り丸にして服す。【九肋鼈甲】陰虚夢泄には、燒いて末にし酒で服す。【龍骨】多寢洩精、小便洩精には、遠志と共に丸にして服す。また韭子と共に末にして服す。【紫稍花】「禽獸」【雞䏶胵・黄雌雞・烏骨雞】遺精白濁には、白果、蓮肉、胡椒と共に煮て食ふ。【鹿茸】男子腰腎虚冷で夜夢に鬼と交り精溢るには、(二)空心に酒で方寸匕を服す。また酒で煮て飲む。【鹿角】水に磨つて服すれば脱精夢遺を止める。酒で服すれば婦人の夢に鬼と交つて鬼精自ら出るに主效がある。【白膠】虚遺には酒で服す。【阿膠】腎虚失精には酒で服す。【猪腎】胃虚の遺精には附子末を入れて

(一)溏ハ不結ヲ云フ。溏泄ハ大便ガ形ヲ成サズシテ下痢スルヲ云フ。

(二)空心、スキハラ。

煨いて食ふ。【狗頭骨灰】夢遺には酒で服す。【獐肉・秋石】

濕熱「草木」、【半夏】腎氣が閉ぢて精に締なく妄遺するは、下虚とは同一でない。それには猪苓を炒り牡蠣と共に丸にして服す。【薫草】夢遺には、人參、蒼朮等の藥と共に煮て服す。【車前草】汁を服す。【續斷・漏蘆・澤瀉・蘇子】夢中失精には、炒り研つて服す。【黄蘗】積熱心忪の夢遺には、片腦を入れて丸にして服す。【龍腦・五加皮】「金介」【鐵鏽】內熱遺精には、冷水で一錢を服す。【牡蠣粉】夢精便溏には、醋糊で丸にして服す。【蛤蜊粉・爛蜆殼・田螺殼・眞珠】いづれも遺精を止める。

(一)赤白濁

赤は血に屬し、白は氣に屬する。濕熱に因るものと虚損に因るものとある。

濕熱「草穀菜」【猪苓】濕熱を行るには、半夏と共に末にし、酒で煮た羊卵で丸にして服す。【半夏】猪苓で炒り牡蠣と共に丸にして服す。【黄連】男女相思の窮りなき惱みから發る(二)白淫には、茯苓と共に丸にして服す。【知母】赤白濁、及び夢遺には、黄柏、蛤粉、山藥、牡蠣と共に丸にして服す【茶茗葉】尿口が注ぐやうに出て小

(一)赤濁ハ腎及膀胱出血。白濁ハ膀胱加多兒。

(二)白淫ハ失精ノコトナラン。淫慾ヲ儘ス事ナクシテ精液ノ漏出スルヲイフ。

腹氣痛するには、燒いて麝香を入れて服す。【生地黄】心の虛熱で赤濁するには、木通、甘草と共に煎じて服す。【大黄】赤白濁には、末を雞子の内に入れて蒸して食ふ。【蒼朮】脾濕下流の濁瀝。【蕎麥粉】炒り焦し、雞子白で丸にして服す。【稻草】煎じた濃汁を一夜露して服す。【神麯・蘿蔔】茱萸を釀して蒸し、丸にして服す。【冬瓜仁】末にして米飮で服す。【松蕈】「果木」【銀杏】十箇を水に擂つて日毎に服すれば白濁を止める。【榧子・椿白皮】滑石と等分を飯で丸にして服す。或は黄蘗、乾薑、白芍藥、蛤粉を加へる。【楡白皮】水で煎じる。【楮葉】蒸餠で丸にして服す。【柳葉】淸明の日に採つて煎じ、茶の代りに飮む。【牡荊子】酒で二錢を飮む。【厚朴】心、脾の調節を失つて腎氣の渾濁するには、薑汁で炒り、茯苓と共に服す。

虛損　「草果木獸」【黄芪】氣虛の白濁には、鹽で炒り、茯苓と共に丸にして服す。【五味子】腎虛の白濁で脊の痛むには、醋糊で丸にして服す。【肉蓯蓉】鹿茸、山藥、茯苓と共に丸にして服す。【兔絲子】過慮で心、腎を傷め、白濁、遺精するには、茯苓、石蓮と共に丸にして服す。また麥門冬と共に丸にして服す。【絡石】胃氣を養ふ。土邪が水を犯して尿の白濁するには、人參、茯苓、龍骨と共に末にして服す。【木香】尿が濁つ

(三)淋ノ如クトハ快通セザルヲ云フ。

(四)膏淋ハ尿ガ膏濁頻數ニシテ白油ノ如クナルモノヲ云フ。五淋ノ一ナリ。

て精のやうなるには、當歸、沒藥と共に丸にして服す。【萆薢】下焦虛寒で白濁莖痛するには、菖蒲、益智、烏藥と共に煎じて服す。【附子】白濁で尿が頻數になり、下寒するには、炮いて末にし、水で煎じて服す。【益智】白濁には、厚朴と共に煎じて服し、赤濁には、伏神、遠志、甘草と共に丸にして服す。【遠志】心虛赤濁には、益智、伏神と共に丸にして服す。【石蓮】心虛赤濁には、研末六錢、甘草一錢を煎じて服す。白濁には、茯苓と共に煎じて服す。【芡實】白濁には、茯苓と共に黃蠟で丸にして服す。【土瓜根】腎虛で尿が(三)淋の如くなるもの【石菖蒲】心虛白濁【茱萸・巴戟天・山藥・茯苓】心、腎の氣虛で夢遺し、白濁し、赤白各〻半するには、地黃汁、及び酒で熬膏して丸にして服す。陽虛甚しきには、黃蠟で丸にして服す。【羊骨】虛勞白濁には、末にして酒で服す。尿の(四)膏淋には、橘皮湯で服す。【羊脛骨】脾虛白濁には、厚朴、茯苓と共に丸にして服す。【鹿茸】

癃淋

熱が上焦に在つて口の渴するものと、熱が下焦に在つて渴せぬものと、濕が中焦に在つて肺を生す

こと能はぬものとある。(一)前後關格するは下焦の氣閉である。(二)轉胞するは(三)系が了戻するのである。淋には熱淋、氣淋、虛淋、(四)膏淋、(五)沙石淋の五種がある。

滯を通じ竅を利す　「草部」【瞿麥】五淋で尿の通ぜぬに用ゐる。沙石を下す。【龍葵根】木通、胡荽と共に煎じて服し、尿を利す。【蜀葵花】大小便の關格で脹悶し、極端に苦むものは、若し治療を加へねば死亡する。これには一兩を擣き、麝香五分を入れて煎じて服す。根もまたよし。【子】末にして服すれば尿を通ずる。【赤藤】五淋には、茯苓、苧根と共に末にし、一錢づつ服す。【車前汁】蜜に和して服す。【子】煎じて服し、或は末にする。【杜衡】痰を吐き、水道を利す。【澤瀉・燈心草・木通・扁竹】煎じて服す。【石韋】末にして服す。【通草・防已・羊桃】汁。【蒲黃・敗蒲席】煮汁。【蘆根・石龍芻・葵根】煎じる。【葵子・地膚・旋花・黃藤】煮汁。【黃環根】汁。【酸漿・烏歛苺・黃葵子】末にして服す。【王不留行・含水藤】「菜穀」【苦瓠】

(一)前後關格ハ食物下ラズ、大小便不通。
(二)轉胞ハ產後ノ尿閉。
(三)系ハ經路ノ義。
(四)膏淋ハ膀胱粘膜漏泄。
(五)沙石淋一名石淋、尿石病ノコト。

尿の不通で脹急するには、螻蛄と共に末にし、冷水で服す。また煮汁に陰を漬ける。【蘩縷・水芹・莧・馬齒莧・萵苣・菠稜・蕨萁・麥苗・蜀黍根】煮汁。【黍莖】汁。【粟奴・粟米・粱米・倉米・米泔・米粥】「果木」【葡萄根・猪苓・茯苓・楡葉】煮汁。【楡皮】煮汁。【木槿・桑枝・桑葉・桑白皮・楮皮】「水石」【井水・漿水。東流水・長石】【滑石】濕を燥し、水道を分ち、心火を降し、石淋を下すの要薬である。湯にして服す。

上を清くし火を洩す　「草部」【桔梗】尿の不通には、焙り研つて熱酒で頻に服す。【萑草】膏淋には、汁を取り醋に和して服すれば、尿が豆汁のやうに下る。【黃芩】煮汁。【卷柏・船底苔】煎じて服す。【麥門冬・天門冬・苦杖】いづれも肺を清くし、尿を利す。【雞腸草】氣淋脹痛には、石葦と共に煎じて服す。【土馬騣・水荇菜・水蘋・海藻・石蓴】「菜穀」【菰筍・越瓜・壺盧・冬瓜】【小麥】五淋には、通草と共に煎じて服す。【大麥】卒淋には、煎汁に薑汁を和して飲む。【烏麻】熱淋には、蔓菁子と共に水に浸して服す。【赤小豆・黑豆・綠豆・麻仁・捻頭】「果木」【甘蔗・沙糖・乾柿】熱淋には、燈心と共に煎じて服す。【苦茗・皁盧・枳椇・淡竹葉】煎じて食む。【琥珀】肺を清く

(六)宿垢ハ停滯セル汚物。

(七)轉脬ハ產後ノ尿閉。

(八)引トハ佐使藥ヲ云フ。

し、小腸を利し、五淋に主效がある。麝香と共に服す。轉脬には、葱白湯で服す。【卮子】五淋を利し、尿を通じ、火を降して尿から排出する。【枸杞葉・溲疏・柳葉】「石土」【戎鹽】尿を通ずるには、茯苓、白朮と共に煎じて服す。【白鹽】醋に和して服し、且つ燒いて孔中へ吹き入れる。【蚯蚓泥】尿の不通には、朴消と共に服す。「蟲介獸」【蚯蚓】水に擂つて服すれば尿を通ずる。老人には茴香を加へ、小兒には蜜を入れる。莖、卵の上に傅ける。【田螺】煮て食へば大小便を利す。鹽と共に臍に傅ける。【甲香】淋を下す。【鴨肉・豚卵・猳猪頭】寒熱五癃。【猪脂】水で煎じて服すれば尿を通ずる。【猪膽】酒で服す。【猪乳】小兒の五淋。

結を解す　「草木」【大黃・大戟・郁李仁・烏桕根・桃仁】いづれも大小腸の(六)宿垢を利す。【古文錢】氣淋には煮汁を服す。【黑鉛】尿を通ずるには、生薑、燈心と共に煎じて服す。【寒水石】男女の(七)轉脬には、葵子、滑石と共に煮て服す。【芒消】尿の不通には、茴香酒で二錢を服す。石淋をも破る。【消石】尿の不通、及び熱、氣、勞、血、石の五淋には、生で研つて服す。病證に隨つて(八)引を換へる。【石燕】傷寒で尿の澀るには葱湯で服す。【白石英】煮汁。【雲母粉】水で服す。【白瓷器】淋痛には、煆いて研り、地

黄と共に服す。【石槽灰下土】井水で服すれば尿を通ずる。「諸蟲禽獸」【白魚】尿の淋閟するには、滑石、髮灰と共に服し、且つ莖中へ納れる。小兒には、これで臍腹を摩する。【蜣螂】大小便を利し、轉脬を治す。二箇を燒いて水で服す。【鼠負】氣癃で通ぜぬには、末にして酒で服す。また産婦の尿閉を治す。【蠶蛻】灰に燒いて用ゐれば、熱淋で血の如くなるを治す。【蛇蛻】尿を通ずるには、燒いて末にし酒で服す。【伏翼】水道の五淋を治す。【雞屎白】大小便を利す。【孔雀屎・胡燕屎・敗筆頭・牛屎】【象牙】煎じて服すれば尿を通じ、燒いて服すれば尿を止める。【人爪甲灰】水で服すれば尿を利し、轉脬に效がある。【頭垢】淋閟を通ずる。

濕熱 「草穀」【葳蕤】卒淋には、一兩を芭蕉四兩と共に煎じ、滑石末を調へて服す。【苧根】煮汁を服すれば尿を利す。また蛤粉と共に水で服し、臍に傅ける。【蕕草】小豆と合せ煮て食ふ。【海金沙】尿の不通には、蠟茶と共に末にして日毎に服す。○熱淋急痛には、甘草湯で調へて服す。○膏淋で油の如き尿の出るには、甘草、滑石と共に服す。【三白草・葶藶・馬先蒿・章柳・茵蔯蒿・白朮・秦艽・水萍・葛根・薏苡子根葉】いづれも熱淋に主效がある。【黄麻皮】熱淋には、甘草と共に煎じて服す。【燒

酒】「果木」【椒目・樗根白皮】いづれも濕熱を除き、尿を利す。「土部」【梁上塵】水で服す。【松墨】水で服す。

沙石　「草部」【人參】(九)沙淋、石淋には、黄芪と等分を末にし、蜜で炙いた蘿蔔片に蘸けて食鹽湯で服す。【馬藺花】敗筆灰、粟米と共に末にし、酒で服すれば沙石を下す。【菝葜】飲で二錢を服してから、地楡湯で腰、腹を浴すれば通ずる。【地錢】酸棗汁、地龍と共に飲む。【瞿麥】末にして服す。【車前子】煮て服す。【黄葵花】末にして服す。【兎葵】汁。【葵根】煎じる。【萱根】煎じる。【牛膝】煎じる。【虎杖】煎じる。【石帆】煎じる。【瓦松】水で煎じて熏洗する。「穀菜」【薏苡根】煎じる。【黒豆】粉草、滑石と共に服す。【玉蜀黍・苜蓿根】煎じる。【黄麻根】汁。【壺盧・蘿蔔】蜜で炙き嚼んで食ふ。「果部」【胡桃】粥に煮る。【桃膠・桃花・烏芋】煮て食ふ。【胡椒】朴消と共に一日二回づつ服す。【獼猴桃】「器石」【故甑蔽】燒いて服す。【越砥】燒いて酒に淬して服す。【滑石】石淋を下す要藥である。【河沙】炒つて熱酒を沃いで服す。【霹靂碪】汁に磨る。【石膽・浮石】酢で煮て服す。【消石・硇砂】「蟲鱗介部」【螻蛄】焙じて末にし酒で服す。【葛上亭長腹中子】水で呑む。【地膽・斑蝥・鯉魚齒】古方に多

(九) 沙淋、石淋ハ尿石病。

（一〇）兩脈ハ寸尺ノ脉ト咽喉ノ兩脉。

く用ゐてある。燒いて服す。【石首魚頭中石】研つて水で服す。【鼈甲】末にして酒で服す。【蜥蜴・蛤蚧・馬刀】「禽獸」【雞屎白】炒つて末にして服す。【雄雞膽】屎白と共に酒で服す。【伏翼・雄鵲肉】【胡燕屎】冷水で服す。【牛角】燒いて服す。【牛耳毛・陰毛】燒いて服す。【淋石】水に磨つて服す。○張寶之曰く、書中硇砂を多くは磠の字にしてあるが、今は硇に寫し改める。

氣を調ふ 「草部」【甘草梢】莖中の痛むには、酒で煮た玄胡索、苦楝子を加へるが妙である。【玄胡索】小兒の尿の通ぜぬには、苦楝子と共に末にして服す。【木香・黃芪】尿の通ぜぬには、二錢を煎じて服す。【芍藥】膀胱、大小腸を利す。檳榔末と共に煎じて服すれば五淋を治す。【馬蘭花】茴香、葶藶と共に末にして酒で服すれば尿を通ずる。【白芷】氣淋には、醋に浸して焙り、末にして服す。【附子】轉脬、虛閉で（一〇）兩脈の沈伏するには、鹽水に浸して炮き、澤瀉と共に煎じて服す。【箬葉】燒いて滑石と共に服すれば轉脬をも治す。【徐長卿】尿の關格には、冬葵根諸藥と共に煎じて服す。【酸草】汁を酒に合せて服す。或は車前汁と共に服す。【桔梗・半夏】「菜部」【胡荽】心氣を通じ、尿の不通を利す。葵根と共に水で煎じ、滑石を入れて服す。【葱白】初生

兒の尿閉には、煎乳汁で服す。大人には、炒熱して臍を熨し、或は艾を加へて炙き、或は蜜を加へ、陰囊の外面に膏藥のやうに附ける。【大蒜】煨熟して一夜露し、嚼んで新水で飲下せば淋瀝を治す。○小兒の氣淋には、豆豉と共に蒸餅で丸にして服す。【蘿蔔】末にして服すれば五淋を治す【多年木梳】灰に燒いて水で服す。【甑帶】燒いて汁にし、葵根を煮て服す【連枷關】轉脬には、灰に燒いて水で服す。【好綿】燒いて麝を入れて酒で服すれば氣結の淋病を治す。「果木」【陳橘皮】尿の五淋を利す。○產後の尿閉には、白き部分を去つて二錢を酒で服すれば直ちに通ずる。【杏仁】卒に尿のつまるには、十四箇を燒き研つて服す。【檳榔】大小便の氣閉を利す。蜜湯で服す。或は尿童で煎じて服しても淋病を治す。【茱萸】寒濕の淋に效がある。【桝若】冷淋莖痛には、葱白と共に煎じて服す。孩子の淋疾には、三片を煮て飲めば下る。【苦楝子】水道を利し、小腸を通じ、膏淋に主效がある。茴香と共に末にして服す。【椶毛】燒いて末にし、水、酒で二錢を服すれば通ずる。【沈香】房事を強ひて忍んだ爲に尿の通ぜぬには、木香と共に末にして服す。【紫檀・皂莢刺】燒いて研り、破故紙末と共に酒で服すれば淋を通ずる。【大腹皮・枳殼】「禽獸」【雞子殼】尿の不通には、海蛤、滑石と共

に末にして服す。

陰を滋くす 「草部」【知母】熱が下焦の血分に在つて尿が通ぜず渇せぬは、陰なきために陽が作用を發揮し得ぬのである。それには黄蘗と共に酒で洗ひ、各〻一兩に桂一錢を入れて丸にして服す。【牛膝】惡血を破る。尿が利せず、莖中が極端に痛むには、根及び葉を酒で煮て服す。或は熱淋、沙石淋には、一兩を水で煎じて日毎に飲むともいふ。【牛蒡葉】汁を地黄汁、蜜と共に煎じ、滑石末を調へて服すれば、尿不利の急痛を治す。【薊根】熱淋には汁を服す。【續斷】汁を服す。【兎絲子】煎じて服す。【惡實】炒つて研り煎じて服す。【紫菀】婦人の卒に尿の出ぬには、井水で末を(一)三撮服すれば通ずる。血あるには五撮を服する。【益母草・生地黄】「果木」【生藕汁】地黄、蒲桃汁と共に用うれば熱淋に主效がある。【紫荊皮】宿血を破り、五淋を下すには水で煮て服す。○産後の諸淋には、水、酒で煎じて服す。「石蟲」【白石英】煮汁。【雲母粉】水で服す。【桑螵蛸】尿不通、及び婦人の轉脬には、黄芩と共に煎じて服す。「鱗介」【牡蠣】尿が淋閉し、血藥を服しても效なきには、黄蘗と等分を末にして服す。【貝子】五癃で尿の通ぜぬを利す。燒いて研り酒で服す。【石決明】水で服すれば

(一)撮ハ指ヲ以テ物ヲ取ルヲ云フ。三撮ハ三ツマミ。

五淋を通ずる。【蜆・石蜐・鯉魚・鰱魚・黄顙魚】「禽獸」【白雄雞】いづれも尿を利す。【雞子黄】尿の不通には、生で數個を呑む。【阿膠】尿不通、及び轉脬には、水で煮て服す。【牛耳毛尾毛・陰毛】いづれも諸淋に主效がある。燒いて服す。「人部」【髮灰】五癃の關格不通に用ゐ、水道を利し、石淋を下す。

外治　【萆麻仁】研つて紙撚に入れて孔中に挿む。【瓦松】沙石淋を熏洗する。【苦瓠汁】陰を漬ける。【萵苣】臍に貼る。【茴香】白蚯蚓と共に臍に貼る。【大蒜】鹽と共に臍に貼る。○蒜鹽、巵子共にと臍に貼る。○甘遂と共に臍に貼り、艾で(一二)二七壯を灸する。あらゆる藥の效なきにも、この方法を用ゐれば極めて效がある。【葱管】三寸まで挿入して吹けば直に通ずる。【葱白】鹽と共に炒つて臍を熨す。○葱鹽、薑豉を臍に貼る。○葱鹽、巴豆、黄連を臍上に貼り、七壯を灸して利す。【高良薑】蘇葉、葱白と共に煎じた湯で洗ひ、後に藥を服す。【苧根】臍に貼る。【炒鹽】孔内に吹入れる。【滑石】車前汁で和し、臍を中心に四寸の廣さに塗り、熱すれば換へる。【白礬】麝香と共に臍に貼る。【螻蛄】焙じて末にし孔中に吹入れる。【白魚】數個を孔中に入れる。【田螺】麝と共に臍に貼る。【猪膽】汁のまま陰頭を籠む。少頃して汁が

(一二)灸一炷ヲ一壯ト云フ。

滲入すれば病に作用し、極めて效がある。【猪脬】(一二)吹炁法。

(一)炁ハ氣ト同ジ。

(一)溲數遺尿

虛熱と虛寒とある。○肺が盛なれば尿は數〻出で、欠虛なれば(二)欠欬して遺尿する。○心が虛すれば氣力が減じて遺尿する。○肝が實すれば癃閉し、虛すれば遺尿する○(三)脬が熱を膀胱に遺すときは遺尿する。○膀胱の約力が鈍れば遺尿し、蓄藏能力を缺けば泉のやうに流れるままとなる。○脬が損ずれば尿が滴瀝して止らない。

(一)溲數ハ尿ヲ出ス度數多キモノ。遺尿ハネシヤウベン。

(二)欠ハアクビ、欬ハセキ。

(三)脬ハ膀胱。

虛熱 「草菜」【香附】尿の數〻なるには、末にして酒で服す。【白微】婦人の遺尿には、白芍と共に末にして酒で服す 【敗船茹】婦人の遺尿には、末にして酒で服す。【菰根汁・麥門冬・土瓜根】いづれも尿の止らぬを止める。【牡丹皮】厥陰の熱を除き、尿を止める。【生地黃】濕熱を除く。【續斷・漏盧】いづれも尿を縮める。【桑耳】遺尿には、水で煮、或は末にして酒で服す。【松蕈】食へば尿の濁つて止らぬを治す。「木石」【茯苓】

尿の數〻なるには、礬で煮た山藥と共に散にして服す。○小便の禁ぜぬには、茯苓と共に熬膏し丸にして服す。○小兒の床尿には、伏神、益智と共に末にして服す。【黃蘗】尿が頻數で遺精し、白濁し、諸虛不足なるには、糯米と共に童尿に九回浸し九回晒し、酒糊で丸にして服す。【溲疏】遺尿を止める。【椿白皮・石膏】尿が卒に頻數になり、淋ではなくて瘦せるには、煮汁を服す。【雌黃】腎消で尿が頻數となり收止せぬには、鹽炒の乾薑と共に丸にして服す。【烏古瓦】煮汁を服すれば尿を止める。【胡粉・黃丹】「獸部」【象牙・象肉】水で煮て服すれば尿を通じ、燒いて服すれば尿多きを止める。

虛寒　「草部」【仙茅】男子の虛勞、老人の失尿には、丸にして服す。【補骨脂】腎氣の虛寒で尿の度なきには、茴香と共に丸にして服す。○小兒の遺尿には、末にして夜服す。【益智子】夜間尿多きには、二十四箇に鹽を入れて煎じて服す。○心虛には、茯苓、白朮と共に末にして服す。或は烏梅と共に丸にして服す。【覆盆子】腎臟を益し、尿を縮める。酒で焙じ末にして服す。【草烏頭】老人の遺尿には、童尿に七日浸して炒り、鹽、酒糊で丸にし二三丸を服す。【萆薢】尿數、遺尿には、末にして鹽湯で服す。

（四）水臟ハ腎臟ノコト。

或は丸にして服す。【菝葜】尿が滑して數〻なるには、末にして酒で服す。【狗脊】節度なく失尿するに主效がある。老人を利し、壯者を益す【葳蕤】莖中寒で尿の頻數なるに效がある。【人參・黃芪】氣虛の遺精。【牛膝】陰消。老人の失尿。【薔薇根】尿の收止せぬもの、及び床尿を止める。搗汁、叉は散藥、叉は煎藥、いづれも良好である。【甘草頭】夜間煎じて服すれば小兒の遺尿を止める。【雞腸草】尿の數〻遺するには、羹に煮て食ふ。【兎絲子・五味子・肉蓯蓉・蒺藜・菖蒲】いづれも（四）水臟を暖め、尿多きを止める。【附子】丹田を暖め、尿を縮める。「菜穀」【山藥】礬水で煮て茯苓末と共に服す。【茴香】便數を止める。鹽と共に糯糕に蘸けて食ふ。【韭子】命門に入つて小便の數を減し、遺尿を治す。稻米と共に粥に煮て食ふ。【山韭】腎に宜し。大小便の頻數なるに主效がある。【乾薑】夜間尿多きを止める。【小豆葉】煮て食へば尿の頻數を止める。○杵汁は遺尿を止める。【豇豆】尿を止める。【糯米】肺を暖め、尿を縮める。【粢糕】「果木」【芡實】尿の收止せぬには、茯苓、蓮肉、秋石と共に丸にして服す。【蓮實】尿の頻數なるには、猪肚に入れて煮、醋糊で丸にして服す【銀杏】尿の頻數には、生で七箇、煨いて七箇を食ふ。肺を溫め、氣を益す。【胡桃】夜間

尿多きには、就寢時に煨いて食ひ酒で飲下す。【蜀椒】腎を通じ、尿を縮む。【桂】小兒の遺尿には、龍骨、雄雞肝と共に丸にして服す。【烏藥】尿を縮める。葉を煎じて茶の代りに飲む。【山茱萸】「石蟲」【硇砂】冷病で夜間尿多きに用ゐる。【桑螵蛸】精を益し、遺尿を止める。炮いて食ひ、末にして酒で服す。【紫稍花・青蚨・露蜂房・海月】「禽獸」【雀肉卵】いづれも尿を縮める。【雞子】酒にして用うれば、水臟を暖め、尿を縮める。【黄雌雞・雄雞肝腸嗉膍胵翮翎】いづれも尿が遺失して收止せぬを止める。【雞屎白】産後の遺尿には、灰に燒いて酒で服す。【鹿茸】尿數には、末にして服す。【鹿角】炙き末にして酒で服す。【鹿角霜】上熱下寒で尿の收止せぬには、丸にして服す。頻數なるには、茯苓を加へる。【麝香】尿を止め水を利するには一錢を服す。【羊肺・羊肚】羹にして食へば尿を止める。【羊脬】下虛の遺尿には、炙熱して食ふ【猪脬】夢中遺尿には、炙いて食ひ、猪肚と共に糯米を盛つて煮て食ふ。【猪腸・秋石】いづれも夢中遺尿、尿數に主效がある。

止塞　「果木」【酸石榴】尿の收止せぬには、燒いて研り、榴白皮の煎湯で、二錢を服す。枝もよし。一日二回服す【荷葉・金櫻子・訶黎勒】「服器」【麻鞋帶鼻】水で煮

て服すれば尿床を治す。又尖頭を燒いて水で服す。【本人薦草】燒いて水で服す。【白紙】その上に尿して晒し乾し、燒いて末にして酒で服す。「禽介」【鵲巣中草】尿の收止せぬには、燒き研つて薔薇根湯で服す。【燕蓐草】遺尿には、燒いて研り水で服す【雞窠草】燒いて研り酒で服す。【牡蠣】渇せずして尿が甚だ多量に排出し、危險狀態に陷れるには、童尿で二兩を煎じて服す。「鱗石」【龍骨】桑螵蛸と共に末にして服す。【白礬】男女の遺尿には、牡蠣と共に服す。【赤石脂】牡蠣、食鹽と共に末にし丸にして服す。

（二）小便血ハ腎臓出血ノ和名。小便ニ血ノ交リテ出ヅル病。

（二）小便血

痛まぬものは尿血であつて、虛が主である。
痛むものは血淋であつて、熱が主である。

尿血　「草部」【生地黃】汁を薑汁、蜜に和して服す。【蒲黃】地黃汁で調へて服す。或は髮灰を加へる。【益母草】汁。【車前草】汁。【旱蓮】車前と共に汁を取つて服す。【芭蕉根】旱蓮と等分を煎じて服す。【白芷】當歸と共に末にして服す。【鏡面草】汁。【五葉藤】汁。【茅根】煎じて飮む。勞には乾薑を加へる。【玄胡索】朴消と共に煎じて服す【升麻】小兒の尿血には煎じて服す【劉寄奴】末にして服す。【龍膽草】煎じて

(一)金陵本ニ日汁トアリ、日服或ハ用汁ノ誤ナラン。

服す。【荊芥】縮砂と共に末にして服す。【甘草】小兒の尿血には煎じて服す。【人參】陰虚には黄芩と共に蜜で炙り、蘿蔔に蘸けて食ふ。【鬱金】惡血、血淋、尿血を破る。葱白と共に煎じる。【當歸】酒で煎じる。【香附】酒で煎じて服し、後に地楡湯を服す。【狼牙草】蚌粉、槐花、百藥煎と共に末にして服す。【葵莖】灰に燒いて酒で服す。【敗醬】膿血を化す。【苧根】煎じて服す。【牛膝】煎じて服す。【地楡・兎絲子・肉蓯蓉・蒺藜・續斷・漏蘆・澤瀉】「菜穀」【苦蕒】酒、水各々半で煎じて服す。【水芹汁】(一)日汁。【韭汁】童尿に和して服す。【韭子・葱汁・葱白】水で煎じる。【萵苣】臍に貼る。【淡豉】小便血條には煎じて飲む。【黍根灰】酒で服す。【胡麻】水に浸して汁を絞る。【火麻】水で煎じる。【麥麩】香しく炒り、猪脂に蘸けて食ふ。【胡燕窠中草灰】婦人の尿血には酒で服す。「果木」【荷葉】水で煎じる。【烏梅】燒き末にして醋糊で丸にして服す。【棕櫚】半燒半炒にして水で服す。【地骨皮】新しいものを濃く煎じ、酒を入れて服す。【柏葉】黄連末と共に酒で服す。【竹茹】水で煎じる。【琥珀】燈心湯で調へて服す。【槐花】鬱金と共に末にして淡豉湯で服す。【巵子】水で煎じる。【棘刺】水で煎じる。【荊葉】汁を酒に和して服す。【乳香】末にして飲で服す。「器用」【墨】大小便血

には、阿膠湯で化して二錢を服す。【敗船茹】婦人の尿血には、水で煎じて用ゐる。「蟲獸」【白魚】婦人の尿血には、二十四を納れる。【五倍子】鹽梅で丸にして服す。【蠶繭】大小便血には、蠶連、蠶沙、殭蠶と共に末にし、麝香を入れて服す。【龍骨】酒で服す。【雞肶胵・鹿角】末にして服す。【白膠】水で煮て服す。【鹿茸・丈夫爪甲】燒灰を酒で服す。【髮灰】酒で服す。

血淋 「草部」【牛膝】煎じる。【車前子】末にして服す。【海金沙】沙糖水で一錢を服す。【生地黃】車前汁と共に溫服する。又生薑汁と共に服す。【地錦】汁を服す。【小薊・葵根】車前子と共に煎じて服す。【茅根】乾薑と共に煎じて服す。【黑牽牛】半生半炒にして薑湯で服す。【香附】陳皮、赤茯苓と共に煎じて服す。【酢漿草】汁を五苓散に入れて服す。【山箬葉】燒いて麝香を入れて服す。【山慈姑花】地蘗花と共に煎じて服す。【白薇】芍藥と共に酒で服す。【地楡・雞蘇・葵子】「菜穀」【水芹根】汁。【茄葉】末にし、鹽酒で二錢を服す。【赤小豆】炒り末にして葱湯で服す。【大豆葉】煎じて服す。【青粱米】車前子と共に粥に煮て用うれば、老人の血淋を治す。【大麻根】水で煎じる。「果木」【桃膠】木通、石膏と共に水で煎じて服す。【蓮房】燒いて麝香を入れ水

で服す。【檳榔】磨つて麥門冬湯で服す【乾柿】三個を燒いて服す。【槲白皮】桑黄と共に煎じて服す。【琥珀】末にして服す【山梔子】滑石と共に末にして葱湯で服す。【藕節】汁。【竹茹】水で煎じる。「石蠶」【浮石】甘草湯で服す。【石燕】赤小豆、商陸、紅花と共に末にして服す。【白藥煎】黄連、車前、滑石、木香と共に末にして服す。【晩蠶蛾】末にして熱酒で二錢を服す。【蜣螂】研つて水で服す。【海螵蛸】生地黄汁で調へて服す。また地黄、赤茯苓と共に末にして服す。【鱘魚】煮汁。【鯉魚齒】「禽獸」【雞屎白】小兒の血淋には、糊で丸にして服す。【阿膠・黄明膠・髮灰】米湯に醋を入れて服す。大小便血、血淋には麝香を入れる。

（一）陰痿

濕熱に因るものは肝、脾の關係に屬し、虛に因るものは肺、腎の關係に屬する。

濕熱　「草菜」【天門冬・麥門冬・知母・石斛】いづれも陰を強くし、精を益す。【車前子】男子の傷中に用ゐれば、肺を養ひ、陰を強くし、精を益し、生殖を完からしめる。【葛根】陰を起す。【牡丹皮・地膚子・升麻・柴胡・澤瀉・龍膽・菴䕡】いづれも

（一）陰痿ハ勃起缺乏。

精を益し、氣を補ひ、陰痿を治す。【絲瓜汁】陰莖の挺長するは肝經の濕熱である。これには五倍子末を汁で調へて傅け、內用として小柴胡に黃連を加へて服す。「果木」【枳實】陰痿で氣あるものにこれを加へる。【茯苓・五加皮・黃蘗】「水石」【菊花上水】色を益し、陽を壯にする。【丹砂】茯苓と共に丸にして服す。

虛弱　「草部」【人參】肺、腎の元氣を益す。熬膏して用ゐる【黃耆】氣を益し、陰を利す。【甘草】腎氣內傷に益し、陰を痿せざらしめる。【熟地黃】腎水を滋くし、眞陰を益す。【肉蓯蓉】莖中の寒熱疼痒に用ゐ、陰を強くし、精氣を益し、生殖を完うする。男子の絕陽で興起せぬもの、女子の絕陰で不姙症のものに用ゐて、陽を壯にし、日に御すること倍過せしめる。羊肉と共に粥に煮て食ふ。【鎖陽】精血を益し、大いに陰氣を補ひ、燥を潤し、痿を治す。功用は蓯蓉と同一である。【列當】陽を興す。酒に浸して服す【何首烏】筋骨を長じ、精髓を益し、陽道を堅くし、生殖力を盛にする。【牛膝】陰痿を治し、腎を補ひ、筋を強くし、髓を充す【遠志】精を益し、志を強くし、陽道を堅くし、男性の生殖力を盛にする。【巴戟天】同上【百脈根】勞を除き、不足を補ふ。酒に浸して服す【狗脊】腰脊を堅くし、身體の屈伸を快くする。

老人に宜し。【仙茅】男性の虛勞、老人の性力減退に用ゐ、陽道を益し、房事に倦怠を感ぜぬ。【附子・天麻】氣を益し、陰を長じ、陽を助け、筋を強くする。【牡蒙・淫羊藿】陰痿の莖中痛、男子の絕陽で生殖不能のもの、女性の絕陰で不姙のもの、老人の昏耄には、酒で煮て飲む。【蓬虆】精を益し、陰を長じ、生殖力を健強にする。【覆盆子】陰を強くし、陽を健にする。男子の精虛、陰痿には、酒に浸し末にし、日に三錢づつ服すれば堅長ならしめる。【兎絲子】陰を強くし、筋骨を堅くする。莖寒で精出るに用ゐる。【蛇牀子】陰痿に主效がある。久しく服すれば性力を盛にし、女子の陰氣を益す。五味、兎絲と共に丸にして服す。【五味子】陰を強くし、男子の精を益し、水を壯にし、陽を鎭める。末にして酒で服す。一斤用ゐ盡せば十女を御し得る。【補骨脂】骨髓の傷敗で腎の冷えるに主效があり、命門を通じ、丹田を暖め、陽事を興す。胡桃諸藥と共に丸にして服す。【艾子】陽を壯にし、水臟を助け、子宮を暖める。【蘿摩子】精氣を益し、陰道を強くする。葉も同じ。【木蓮】陽を壯にする。【木香】「菜果」【山藥】氣を益し、陰を強くする。【韭・薤】腎に歸して陽を壯にする。【葫】溫補する。【胡桃】陽の痿するには、補骨脂と共に蜜で丸にして服す。【阿月渾子】腎虛

痿弱には、山茱萸と共に用うるが良し。【吳茱萸】(一)女子の陰冷には、細嚼して納るれば少時して火のやうになる。「木石」【山茱萸】腎氣を補ひ、精髓を添へ、陽道を興し、陰莖を堅くする。【枸杞】腎を補ひ、陰を強くする。【石南】腎氣內傷で陰衰へ、脚弱なるに用ゐる。筋骨皮毛を利す。【白棘】男子の虛損陰痿で精出るもの。【女貞實】陰を強くする。【沒石子】灰に燒いて用うれば(二)陰毒痿を治す。【石鍾乳】下焦の傷竭に用ゐ、陰を強くし、陽を益す。牛乳で煮、或は酒で服す。【陽起石】男子の陰痿で莖頭が寒し、腰が酸痛し、膝が冷え、命門の不足なるには、末にして酒で服し、また地膚子と共に服す。【慈石】酒に浸して服す。【硇砂】冷病を除き、水臟を暖め、大いに陽事を益し、尿を止める。【白石英】陰痿、肺痿。【石硫黃】陽の虛寒。陰道を壯にする「蟲魚」【雄蠶蛾】精氣を益し、陰道を強くし、性力を旺にする。炒つて蜜で丸にして服す。【枸杞蟲】地黃に和して丸にして服すれば、大いに陰を起し、精を益す。【蜂窠】陰痿には、燒いて研り酒で服し、且つ傅ける。【紫稍花】陽を益し、精を祕し、陰痿を治す。龍骨、麝香と共に丸にして服す。【鯉魚膽】雄雞肝と共に丸にして服す。【鰕米】腎を補ひ、陰を起す。蛤蚧、茴香と鹽で調理すが良し。【九

(一)女子、金陵本ニハ男子トアレドモ誤字ナルコト必セリ。

(二)陰毒ハ瘡腫ノ一種。

香蟲】脾、胃を補ひ、元氣を壯にする。【蜻蛉・青蚨・樗雞・桑螵蛸・海馬・泥鰌】食ふ【海蛤・魁蛤】「介部」【雀卵】陰痿無力を强くし、熱せしめ、精を多くし、生殖力を盛にする。天雄、兎絲と和し丸にして服す。【雀肉】冬季これを食へば陽道を興し、精髓を祕する。【雀肝・英雞・蒿雀・石燕】【雄雞肝】陰を起す。兎絲子、雀卵と共に丸にして服す。【鹿茸・鹿角・鹿髓及び精・鹿腎・白膠・麋角・麝香】【豶豬腎】枸杞葉、豆豉汁と共に羹に煮て食ふ。【牡狗陰莖】傷中陰痿に用ゐ、强くし熱し、生殖力を盛にする。【狗肉・羊肉・羊腎・靈貓陰・膃肭臍・白馬陰莖】蓯蓉と和して丸にして服す。百日にして效が現れる。【山獺陰莖】陰虛、陰痿で精の寒清なるには、酒で磨つて服す。【敗筆頭】男子交婚の夕莖痿するには、灰に燒いて酒で二錢を服す。「人部」【秋石・紫河車】

(一)强中

肝火の盛强なるに因るものと(二)金石の性發に因るものとである。その證狀は、莖盛にして衰へず、精出でて止らず、多くは消渴、癰疽を誘發する。

(一)强中ハ男子淫慾亢進、和名エテモノタチツヾケ。
(二)金石ノ性發トハ丹石藥ヲ服シタル結果ノコト。

火を伏し毒を解す 【知母・地黄・麦門冬・黄芩・玄参・青黛・黄連・括楼根・大豆・黄蘗・地骨皮・冷石・石膏・猪腎・白鶏通】

虚を補ふ 【補骨脂】陰莖が長硬で痿せず、これを捏すれば脆痒を感じ、針で刺すやうな痛みを感ずるは腎漏と名ける病である。これには韮子と各々一兩を末にし、三錢づつ水で煎じて一日に三回服す。【山薬・肉蓯蓉・人参・伏神・遠志・鹿茸】

(一)嚢痒

陰汗、(二)陰臊、陰瘙、いづれも濕熱の關係である。○また肝、腎の風虚に因るものがある。○厥陰が實すれば挺長する。○虚すれば暴に痒い、

内治 【白芷・羌活・防風・柴胡・白朮・麻黄根・車前子・白蒺藜・白附子・黄芩・木通・遠志・藁本香・黒牽牛・石菖蒲・生地黄・當歸・細辛・山薬・荊芥穂・補骨脂】男子陰嚢の濕痒。【黄耆】陰汗には、酒で炒つて末にし、猪心に蘸けて食ふ。【畢勃沒】陰汗を止める。【蒼朮・龍膽草・川大黄・天雄・大蒜】陰汗で痒きには、淡

(一)嚢痒ハ陰嚢ノカユキヤマヒ。
(二)臊ハ腥臭ノ氣、陰臊ハ陰臭ノ症。

豉と共に丸にして服す。【卮子仁・茯苓・黄蘗・五加皮】男女の陰痒。【杜仲・滑石・白殭蠶】男子の陰痒痛。【猪脬】腎氣の陰痒には、多く食ひ鹽酒で飲下す。

熏洗 【蛇牀子・甘草・水蘇・車前子・狼牙草・莨菪子・墻頭爛草】婦人の陰痒には、荊芥、牙皂と共に煎じて洗ふ。【荷葉】陰腫痛、及び陰囊痒には、浮萍、蛇牀と共に煎じて洗ふ。【阿月渾子・木皮・茱萸・槐花・松毛・牡荊葉・木蘭皮・白礬・紫稍花】

傅撲 【五味子】陰冷。【蒲黄・蛇牀子・生大黄】嚼んで傅ける。【麻黄根】牡蠣、乾薑と共に撲つ。○また硫黄と共に末にして撲つ。【沒石子・菖蒲】蛇牀子と共に傅ける。【乾薑】陰冷。【胡麻】嚼んで塗る。【大豆黄】嚼んで塗る。【吳茱萸・蜀椒】杏仁と共に傅ける。また婦人の陰冷に主效がある。【杏仁】炒つて婦人の陰痒を塞ぐ。【銀杏】陰上に虱を生じて痒きには嚼んで塗る。【桃仁】粉にして塗る。【茶末・松香】花椒と共に香油に浸し、灰に燒いてつける。【皂角】糯米と共に烟に燒いて日毎に熏ずる。【肥皂】燒いて搽る。【麩炭】紫蘇葉、香油と共に調へて塗る。【鑄鏵鋤孔中黄土・爐甘石】蚌粉と共に撲つ。【密陀僧】【滑石】石膏と共に少量の麩を入れて傅ける。【陽

起石】濕痒、臭汗に塗る。【雄黄】陰痒で蟲あるには、枯礬、羊蹄汁と共に搽る。【五倍子】茶と共に末にして塗る。【龍骨・牡蠣・烏賊骨・雞肝・羊肝・猪肝】いづれも婦人の陰痒を塞ぐ。【牛屎】焼いてつける。

（一）大便燥結

熱あり、風あり、氣あり、血あり、濕あり、虚あり、陰あり、（二）脾約、三焦約、前後關格等がある。

通利　「草部」【大黄】【牽牛】大小便を利し、三焦の壅結、氣閉、氣滞を除く。半生半炒にして服す。或は大黄と共に末にして服す。或は皂莢と共に丸にして服す。【芫花・澤瀉・蕘花】いづれも大小便を利す。【射干】汁を服すれば大小便を利す。【獨行根】大腸を利す。【甘遂】（三）水飲を下し、二便關格を治す。蜜水で服し、また臍に傅ける。【續隨子】大小腸を利し、惡滯物を下す。「果木」【桃花】水で服すれば大便を通ず。【桃葉】汁を服すれば大小便を通ず。【郁李仁】大小腸を利し、結氣血燥を破る。或は末にし、或は丸にし、麵にして食ふ。【烏桕皮】煎じて服すれば大小便を利

（一）大便燥結ハ大便不通。
（二）脾約ハ胃腸ノ秘結、三焦ハ胸部、中腹、下腹ノ三部。前後關格ハ食物下ラズ小便不利ナルヲ云フ。
（三）水飲ハ遊水ヲ云フ。

す。末にして服すれば三焦約、前後大小便の閉格不通を治す。【巴豆・樗根白皮・雄楝根皮】「石部」【膩粉】大腸の壅結を通ずるには、黄丹と共に服す。【白礬】大小腸、二便關格を利す。臍中を圍んで冷水を滴らす。【蜣螂】二便不通には、焙じ末にして水で服す。【螻蛄】二便不通で極端に苦むには、蜣螂と共に末にして服す。

血を養ひ燥を潤す　「草部」【當歸】白芷と共に末にして服す。【地黄・冬葵子・吳葵華・羊蹄根・紫草】大腸を利す。○癰疽、痘疹の閉結には煎じて服す。【土瓜根汁】灌腸。「穀菜」【胡麻・胡麻油・麻子仁】老人、虛弱の人、產後の閉結には、粥に煮て食ふ。【粟米・秫・蕎麥・大小麥・麥醬汁・馬齒莧・莧菜・芋・百合・葫・苦耽・波稜菜・苦蕒菜・白苣・菘・苜蓿・薇・落葵・筍】「果木」【甘蔗・桃仁】血燥には、陳皮と共に服す。○產後の閉結には、藕節と共に煎じて服す。【杏仁】(四)氣閉には、陳皮と共に服す。【苦棗・梨・菱・柿子・柏子仁】老人の(五)虛閟には、松子仁、麻仁と共に丸にして服す。「石蟲」【食鹽】燥を潤し、大小便を通ず。臍に傅け、肛内に灌ぎ、また飲む。【鍊鹽黑丸】諸病を通治する。【蜂蜜・蜂子・螺螄・海蛤】いづれも大小便を利す。【田螺】臍に傅ける。「禽獸」【雞屎白・牛乳・驢乳・乳腐・酥酪・猪脂・諸血・羊膽】下導す

(四)氣閉ハ氣力ノ衰弱ヨリ起ル祕結。
(五)虛閟ハ氣閉ノ類。閟ハ閉ニ同ジ。

(六)風閉ハ風邪ニカカリシ後ノ祕結。

る、【猪膽】下導する【猪肉】冷利。【兎・水獺・阿膠】大小腸を利す、大腸を調へる聖藥である。老人の虚閉には、葱白湯で服す。○産後の虚閉には、枳殼、滑石と共に丸にして服す【黄明膠】「人部」【髮灰】二便不通には水で服す。【人溺】大腸を利す。**氣を導く**「草部」【白芷】風閉には末にして服す。【蒺藜】風閉には皂莢と共に末にして服す【爛茅節】大便不通に藥を服しても利せぬものには、滄鹽と共に肛内一寸まで吹入れる。【生葛・威靈仙・旋覆花・地蜈蚣汁】いづれも冷利。【草烏頭】二便不通には葱に蘸けて肛内へ挿入する、これを霹靂箭と名ける。【羗活】大腸を利す。「菜穀」【石蓴】風閉には煮て飲む。【羅蔔子】大小腸の(六)風閉、氣閉を利す。炒つて擂り水で服す。○皂莢と末にして服す。【蔓菁子油】二便閉には一合を服す。【葱白】大腸の虚閉には、鹽と共に搗いて臍に貼る。○二便閉には、酢に和して小腹に傅け、七壯を灸する。○小兒の虚閉には、湯に煎じ阿膠末を調へて服し、蜜を蘸けて肛内に挿む。【生薑】鹽を蘸けて肛内に挿む。【茴香】大小便閉には、麻仁、葱白と共に湯に煎じ、五苓散を調へて服す。【大麥蘖】産後の閉塞には末にして服す。「果木」【枳殼】大小腸を利す。甘草と共に煎じて服すれば小兒の閉塞を治す。【枳實】氣を下し、結を破る。

皂莢と共に丸にして服すれば風氣閉を治す。【陳橘皮】大便氣閉には、白のまま酒で煮て焙じ研り、酒で二錢を服す。老人には、杏仁を加へて丸にして服す。【檳榔】大小便の氣閉には、末にし、童尿葱白煎で服す。【烏梅】大便不通で(七)氣奔し、極端に苦むには、十箇を肛内へ納れる。【瓜蔕】末にして肛内を塞ぐ。【厚朴】大腸の乾結するには、猪臓の煮汁で丸にして服す。【茶末】産後の閉結には、葱涎で和して丸にし、茶で百丸を服す。【皂莢】風、虚の人が脚氣が大腸に入り、或は閉し或は利するには、酥で炒つて蜜で丸にして服す。○便閉には、蒜と共に搗いて臍内に傅ける。【白膠香】鼠屎と共に下部に納れる。「器歌」【甑帶】大小便閉には、煮汁で蒲黄を和して服す。【雄鼠屎】二便不通には、水で調へて臍内へ傅ける。

虚寒　「草部」【黄芪】老人の虚閉には、陳皮と共に末にし、麻仁、漿、蜜の煎で匀和して服す。【人參】産後の閉には、枳殼、麻仁と共に丸にして服す。【甘草】初生兒の大便不通には、枳殼一錢と共に煎じて服す。【肉蓯蓉】老人の虚閉には、沈香、麻仁と共に丸にして服す。【鎖陽】虚閉には煮て食ふ。【半夏】辛はよく燥を潤し、冷閉に主效がある。硫黄と共に丸にして服す。【附子】冷閉には、末にして蜜水で服す。「果石」【胡椒】

(七) 氣奔ハ衝逆スルコト。

大小便關格して脹悶するは死に至ることがある。それには二十一粒を煎じ、芒消半兩を調へて服す。【呉茱萸枝】二便の卒に關格するには、一寸を含めば自ら通ずる。【硫黃】性は熱であつて、老人の冷閉を利す。

脫肛　瀉痢、痔漏に因るものである。肛門腫痛を附す。

これは大腸の氣虛である。

内服　「草部」【防風】雞冠花と共に丸にして服す。【茜根】榴皮を煎じた酒で服す。【蛇牀子】甘草と共に末にして服す。【黃栝樓】汁を服し、或は礬を入れ、煅いて丸にする。【防巳實】焙じ煎じて茶に代へて飲む。【榼藤子】燒いて服す。【卷柏】末にして服す。【雞冠花】棕灰、羗活と共に末にして服す。【益奶草】酒に浸して服す。【紫菫花】慈石毛と共に服し、竝に傅ける。【阿芙蓉】「果木」【荷錢】酒で服し、竝に傅ける。【蜀椒】毎朝一錢を嚼み涼水で飲下せば數日で效がある。【槐角】槐花と共に炒つて末にし、猪腎を蘸けて食ふ。【花構葉】末にして服し、竝に塗る。【訶黎勒・桑黃】いづれも下痢の肛門急疼を治す。【甑帶】煮汁。「石蟲」【慈石】火で煅き醋に淬して末にして

服し、顖上に塗る。【百藥煎】烏梅、木瓜と共に煎じて服す。「介獸」【鼈頭】燒いて服し、竝に塗る。【虎脛骨】蜜で炙り丸にして服す。【猬皮灰】慈石、桂心と共に服す。

外治　「草部」【木賊・紫萍・莨菪子・蒲黃・蕙草根中湖】いづれも塗る。【苧根】煎じて洗ふ。【苦參】五倍子、陳壁土と共に煎じて洗ひ、木賊末を傅ける。【香附子】荊芥と共に煎じて洗ふ。【女萎】燒いて熏ずる【曼陀羅子】橡斗、朴消と共に煎じて洗ふ。【酢漿草】煎じて洗ふ。「菜穀」【生蘿蔔】搗いて臍中に貼つて束ねる。【胡荽】燒いて熏ずる。【胡荽子】痔漏脫肛には、粟糠、乳香と共に烟に燒いて熏ずる。【蕺菜】搗いて塗る。【粟糠】燒いて熏ずる。【榴皮】洗ふ。【枳實】炙り蜜で熨す。【橡斗】洗ふもよし、傅けるもよし。【巴豆殼】巴蕉汁と共に洗つて後、麻油、龍骨、白礬を傅ける。【皂莢】燒いて熏じ、炙つて熨す。【黃皮桑樹葉】洗ふ。【龍腦】傅ける。【槿皮】洗ふ【故麻鞋底】鼈頭と共に灰に燒いて傅ける「土金石部」【東壁土】傅ける。【孩兒茶】熊膽、片腦と共に傅ける。【梁上塵】鼠屎と共に燒いて熏ずる。【石灰】炒熱して上に坐る。【食鹽】炒つて坐る【赤石脂・鐵精・鐵華粉】いづれも傅ける。【生鐵汁】熱して洗ふ。【朴消】地龍と共に塗る。【白礬】「蟲介鱗獸」【蝸蝓・緣桑螺】

（二）痔漏ハ肛門ノ周圍ニ膿孔ヲ作ル病。

灰に燒く。【蝸牛】灰に燒く。【蜣蜋】灰に燒く。【蜘蛛】灰に燒く。いづれも塗る。【蛺蝶】研末して手心に塗る。【蝦蟇皮】燒いて熏ずる。【五倍子】傅けるもよし、洗ふもよし【田螺】搗いて坐し、水に化して洗ふ。【爛螺殼・龜血・鼈血・鯽魚頭灰・白龍骨・狗涎・羊脂・敗筆頭灰】いづれも塗る。【熊膽】肛邊の腫痛に貼れば極めて效がある。

（二）痔漏

初期には痔であり、久しくして漏となるのである。

痔は酒色、欝氣、血熱に因るもので、或は蟲あるものもある。〇漏は虛と濕熱とに因る。

內治　「草部」【黃連】酒で煮て丸にして服す。大便結するには枳殼を加へる。【黃芩・秦艽・白芷・牡丹・當歸・木香・苦參・益母草】汁を飲む。【茜根・海苔・木賊】下血には枳殼、乾薑、大黃と共に炒り焦して服す。【蘘荷根】下血には搗いて汁を服す。【蒼耳莖葉】下血には末にして服す。【扁蓄】汁を服す。【苦杖】焙じて研り、蜜で丸にして服す。【酢漿草】煮て服す。【連翹・旱蓮】搗いて酒で服す。【蒲黃】酒で服

す。【羊蹄】煮て用ゐ、炙いて用ゐる。㈡【忍冬】酒で煮て丸にして服す。【萆薢】貫衆と共に末にして酒で服す。【何首烏・榼藤子】燒いて研り飲で服す。【牽牛】痔漏の蟲あるには末にして、猪肉に蘸けて食ふ。「穀菜」【神麴】食痔に主效がある。【赤小豆】腸痔の血あるには、苦酒で煮て晒し末にして服す。【腐婢】積熱痔漏の下血。【粟糠・粟漿】五痔にはこれを飲む。【糯米】駱駝で餅にして食ふ。【胡麻】茯苓と共に蜜を入れて炒り日毎に食ふ。【胡荽子】炒つて研り酒で服す。【芸薹子】血痔に主效がある。【莙薘子】漏を治するには、諸藥、鯽魚と共に燒き研つて服す。【萵苣子】痔瘻下血。【桑耳】羹にして食ふ。【雞㙞・槐耳】燒いて服す。「果木」【胡桃】五痔に主效がある。【橡子】痔血には、糯米粉と共に黄に炒つて和し、蒸して頻に食ふ。【杏仁汁】粥に煮て食へば㈢五痔の下血を治す。【蓮花蕊】牽牛、當歸と共に末にして用うれば久年の痔漏を治す。【黄蘗】腸痔、臓毒下血の止まぬには、四制し丸にして服す。【棉芽】腸痔下血には、蔬にし、及び煎汁にして服す。【梧桐白皮】腸痔に主效がある。【苦楝子】蟲痔に主效がある。【槐實】五痔瘡瘻には、苦參と共に丸にして服し、或は膏に煎じて竅中に納れる。【槐花】外痔の長さ寸許に達するには、日毎に服し並に洗ふ。【槐葉】

㈡忍冬、金陵本心冬ニ作ル。然レドモ忍ノ誤字ナルコト論ナシ。

㈢五痔ハ牡痔、腸痔、血痔、牝痔、脉痔是ナリ。

(四)腸風ハ腸出血。

(五)血痔ハ出血痔。俗ニハシリヂ。

(四)腸風痔疾には、蒸し晒して茶の代りに飲む。【枳實】蜜で丸にして服すれば五痔を治す。【冬青子】痔に主效がある。九蒸九晒して呑む。【紫荊皮】煎じて服すれば痔腫に主效がある。【伏牛花】五痔の下血。【赤白茯苓】沒藥、破故紙と共に酒に浸して蒸餅にし、研つて丸にして服す。痔漏を治するに效がある。【槲若】(五)血痔には槐花と共に末にして服す。【椒目】痔漏の腫痛には水で服す。【都桷子・枳椇木皮・醋林子】痔漏下血。【蔓椒根】痔に主效がある。燒いて末にして服す。幷に煮汁で浸す。【檳榔】蟲痔には研末を服す。「服石」【鐵線袋】灰に燒いて水で服す。【新綿灰】酒で二錢を服す。【石灰】蟲痔には、川烏頭と共に丸にして服す。【赤石脂・白石脂・白礬】痔漏には、生鹽と共に末にし、白湯で五錢を服す。【石燕】腸風痔瘻の年久しきものを治す。【禹餘粮】痔漏に主效がある。「蟲鱗」【蠶絲灰】酒で服すれば血を止める。【蟾蜍】燒いて研り、猪臟を煮て蘸けて食ふ。【蝛蜃】食ふ。【蚌】食へば痔に主效がある。【鱟魚】蟲痔を殺す。【鮹魚】五痔の下血、瘀血の腹に在るに主效がある。【鮧魚】五痔下血の肛痛には、葱と共に煮て食ふ。【鯽魚】白礬を釀し、燒き研つて服すれば血痔に主效がある。【鼉皮骨】燒いて服すれば痔蟲を殺す。【鯪鯉甲】燒いて服すれば痔蟲を殺す。「禽獸」

【鷹嘴爪】燒いて服すれば五痔蟲に主效がある。【鷹頭】痔瘻には、灰に燒き麝香を入れて酒で服す。【鷓鴣】五痔に用ゐ、血を止める。炙り或は末にして服す。【竹雞】炙いて食へば蟲痔を殺す。【鴛鴦】炙いて食へば血痔に主效がある。【猬皮】痔漏多年のものには、炙いて研り飲で服す。幷に灰に燒いて塗る。【鼹鼠】食へば痔瘻に主效がある。【獺肝】燒いて研り水で服すれば蟲痔を殺す。【土撥鼠】痔瘻には煮て食ふ。【狐四足】痔瘻下血には、諸藥と共に服す。【野狸】腸風痔瘻には、羹、臛にして食ふ。【野猪肉】久痔の下血には炙いて食ふ。【猳猪頭】煮て食へば五痔に主效がある。【犬肉】煮て食へば痔蟲を引く。【牛脾】痔瘻には、臘月に淡く煮て日に一度づつ食ふ。【牛角䚡】灰に燒いて酒で服す。【虎脛骨】痔瘻脱肛には、蜜で炒り丸にして服す

洗漬　【苦參・飛廉・苦芺・白雞冠・白芷・連翹・酢漿草・木鼈子】洗ひ、幷に塗る。【稻藁灰】汁。【胡麻・丁香・槐枝・柳枝】痔の瓜のやうなるを洗ひ、後に艾で灸する。【蕪荑・楝根・木槿根】煎じて洗ふ。花を末にして傅ける。【仙人杖・桃根・獼猴桃・無花果・冬瓜・苦瓠・苦蕒菜・魚腥草】煎じて洗ふ。いづれも枯礬、片腦を入れて傅ける。【馬齒莧】洗ひ、幷に食ふ。【葱白・韭菜・五倍子・童尿】

（六）反花痔、瘡面ガ開裂シテ花ノ如クニナル者。

（七）氷片ハ龍腦ノ一名。

塗點　【胡黃連】鵝膽で調へる。【草烏頭】反内痔に用ゐる。【白頭翁】搗き爛す。【白及・白斂・黃連】汁。【旱蓮】汁。【山豆根】汁。【土瓜根・通草花粉・蘩蔞】積年の痔に傅ける。【蕎麥稭灰】痔に點ける。【蘆薈・耳環草・龍腦】葱汁で化して搽る【木瓜】鱓涎で調へて（六）反花痔に貼る【桃葉】杵いて坐る【血竭】血痔。【沒藥・楮葉】杵く。【孩兒茶】麝香と共に唾で調へて貼る。【無名異】火で煆いて醋に淬し、研つて漏孔を塞ぐ【密陀僧】銅青と共に塗る。【黃丹】滑石と共に塗る。【石灰】點ける。【硇砂】點ける【石膽】煆いて點ける。【孔公孽・殷孽・硫黃・黃礬・綠礬・水銀】棗と共に研り、漏孔を塞ぐ。【鐵華粉・白蜜】葱と共に搗いて塗る。○肛門に蟲の生ぜるには、猪膽と共に熬膏して導く。【烏爛死蠶・露蜂房・蛞蝓】研つて龍腦を入れて傅ける。【蜈蚣】痔漏の痛むには、焙じ研り片腦を入れて傅ける。○或は香油で煎じ、五倍子末を入れて搽る。【蜣蜋】焙じ末にして搽る。○末にして（七）氷片を入れ、紙撚に蘸けて孔内に入るれば、漸次に肉が生じて退出する。【蠐螬】研末して傅ける。【田螺】片腦を入れ、水を取つて搽る。白礬もよし。【甲香】五痔。【魚鮓・魚鱠・海豚魚・鱓魚・鱧魚】炙いて貼り、蟲を引く。【鯉魚腸・鯉魚鱗】綿で裹んで坐れば蟲を

引く。【蝮蛇屎】痔瘻の蟲を殺す。【蚺蛇膽・蛇蛻・啄木】痔瘻には、燒き研つて納れる。【胡燕屎】痔蟲を殺す。【雞膽】搽る。【鴨膽・鵞膽・牛膽・鼠膏・猬膽・熊膽】片腦を入れて搽る。【麝香】鹽と共に塗る。【猯肉及び皮・男子爪甲灰】塗る。

熏灸　【馬兜鈴・粟糠烟・酒】痔蟨には、土坑を掘つて赤く燒いてこれを沃ぎ、茱萸を撒き、その中へ坐る。【艾葉】腫核の上に灸する。【枳殼】炙いて痔痛を熨し、水で煎じて熏洗する。【乾橙烟】【茱萸】腸痔を蒸して蟲を殺す。【燈火】痔腫を焠く、その效甚だ妙である。【氈襪】烘いて熨す。【鰻鱺】痔瘻を燒熏して蟲を殺す。【羊糞】痔瘻を燒熏する。【猪懸蹄】烟に燒く。

下血

血の清めるものは腸風であつて、虛熱で風を生じ、或は濕氣を兼ぬるに因る。○血の濁るものは臟毒であつて、積熱、食毒に兼ねて濕熱あるに因る。○血の大に下るものは結陰であつて、虛寒に屬する。便前に出るは近き血であり、便後に出るは遠い血

である。○また蠱毒、蟲痔もある。

風濕 「草菜」【羌活・白芷】腸風下血には、末にして米飲で服す。【秦艽】腸風瀉血【赤箭】血を止める。【升麻・天名精】血を止め(一)瘀を破る。【木賊】腸風下血には、水で煎じて服す。○腸痔下血には、枳殼、乾薑、大黄と共に炒り、研末して服す。【胡荽子】腸風下血には、生菜に和して食ひ、或は末にして服す。【皂角蕈】瀉血には、酒で一錢を服す。【葱鬚】便血、(二)腸澼を治す。「木部」【皂角】羊肉と和し丸にして服す。○槐實と共に散にして服す。○裏急後重には、枳殼と共に丸にして服す。【皂角刺皮】槐花、胡桃、破故紙と共に末にして服す。【肥皂莢】燒いて研り丸にして服す。【槐實】大腸の風熱を去る。【槐花】炒つて研り酒で服す。或は柏葉を加へ、或は梔子を加へ、或は荊芥を加へ、或は枳殼を加へ、或は猪臟を煮て丸にして服す。「蟲獸」【乾鱉】腸風下血には、白礬と共に末にし、飲で半錢を服す。【野猪肉】炙いて食ふ。(三)十頓を過ぎてはならぬ。○外腎を燒き研つて飲で服す。

濕熱 「草部」【白朮】瀉血、萎黄には、地黄と共に丸にして服す。【蒼朮】脾濕下血に

(一)瘀ハ積血。
(二)腸澼ハ痢病。
(三)頓ハ食一次ヲ云フ。十頓ハ十度ナリ。

は、地楡と共に煎じて服す。○腸風下血には、皂莢汁で煮て焙じ、丸にして服す。【貫衆】腸風、酒痢、痔漏諸種の下血には、焙じ研つて米飲で服す。或は醋糊で丸にして服す。【地楡】下部に血を見るには必ずこれを用ゐる。○結陰下血には、甘草と共に煎じて服す。二十年の下血には、鼠尾草と共に煎じて服す。虚寒の人に用ゐてはならぬ。【黄連】中部に血を見るには必ずこれを用ゐる。○積熱下血には、四制して丸にして服す。○臓毒下血には、蒜と共に丸にして服す。○酒痔下血には、酒で煮て丸にして服す。○腸風下血には、茱萸で炒過して丸にして服す。【黄芩】水で煎じて服す。【苦參】腸風瀉血。【木香】黄連と共に猪腸に入れ、煮て搗き丸にして服す。【鬱金】腸毒が胃に入つて下血し、頻に痛むには、牛黄と共に漿水で服す。【香附子】諸種の下血には、童尿に浸し、米醋で炒つて二錢を服す。或は醋糊で丸にして服す。○或は百草霜、麝香を入れるが尤も效がある。【水蘇】煎じて服す。【青蒿】酒痔下血には、末にして服す。【益母草】痔疾下血には、搗いて汁を飲む。【劉寄奴】大小便下血には、末にして茶で服す。【雞冠】腸風瀉血を止める。白花幷に子を炒り煎じて服す。○結陰下血には椿根白皮と共に丸にして服す。【大小薊】卒に鮮血を瀉するは火熱に

屬する。これには搗汁を服す。【馬藺子】何首烏、雌、雄黃と共に丸にして服す。【蒼耳葉】五痔下血には末にして服す。【箬葉】灰に燒いて湯で服す。【蘆花】諸種の失血病には、紅花、槐花、雞冠花と共に煎じて服す。【桔梗】中蠱下血。【蘘荷根】痔血には搗汁を服す。【萱根】大小便血には、生薑、香油に和して炒熱し、酒を沃いで服す。【地黃】血を涼し、惡血を破る。汁を取り牛皮膠を化して服す。○腸風下血には、生、熟地黃、五味子を丸にして服す ○初生兒の便血には、汁に蜜、酒を和し、數匙を與へて服ます【紫菀】產後の下血には水で服す【地膚葉】瀉血には、湯にして粥を煮て食ふ。【王不留行】蓐後血には末を服す。【金盞草】腸痔下血【虎杖】腸痔下血には、焙じ研つて蜜で丸にして服す。【車前草】搗汁を服す【馬鞭草】酒積下血には、白芷と共に灰に燒き、蒸餅で丸にして服す【旱蓮】焙じ末にして飲で服す。【凌霄花】蓐後血には、酒に浸して服す。【薔薇根】下血を止める。【栝樓實】灰に燒き赤小豆と共に末にして服す。【王瓜子】燒いて研り、地黃、黃連と共に丸にして服す。【生葛汁】熱毒下血には、藕汁に和して服す。【白蘞】下血を止める。【威靈仙】腸風下血には、雞冠花と共に米醋で煮て研つて服す。【茜根】血を活し、血を行らし、血を止める。【木蓮】風が臟に入

つたもの、或は食毒積熱で鮮血を下すもの、或は酒痢には、焼いて研り、棕灰、烏梅、甘草と等分を末にして服す。大便濇るには、枳殼と共に末にして服す。【羊蹄根】腸風下血には、老薑と共に赤く炒り、酒を沃いで飲む。【蒲黄】瀉血を止めるには水で服す。【金星草】熱毒下血には、乾薑と共に末にして水で服す。【石韋】便前下血には、末にして茄枝湯で下す。【金瘡小草】腸痔下血には、甘草と共に酒に浸して飲む。「菜部」【絲瓜】灰に焼いて酒で服す。或は酒で煎じて服す　【經霜老茄】灰に焼いて酒で服す。○蔕及び根、莖、葉倶に腸風下血を治す。【蕨花】腸風、熱毒には、焙じ末にして飲で服す。【敗瓢】灰に焼き、黄連と共に末にして服す。【翻白草】下血を止める。【蘿蔔】下血には、蜜で炙いて任意に食ふ。酒毒には、水で煮て醋少量を入れて食ふ。或は皮を薄荷葉と共に灰に焼き、生蒲黄を入れて末にして服す。【芸薹】甘草と共に末にして服すれば、腸風、臟毒を治す。【獨蒜】腸毒下血には、黄連を和して丸にして服す。○暴の下血には、豆豉と共に丸にして服す。「果木」【銀杏】生で百藥煎に和し、丸にして服す。また煨いて食ふ。【烏芋】汁を酒に和して服す。【藕節汁】下血を止める。末をも服す。【茗葉】熱毒下血には、百藥煎と共に末にして服す。【黄蘗】腸風下

血、裏急後重、熱腫痛に主效がある。○小兒の下血には、赤芍藥と共に丸にして服す。【椿根白皮】腸風瀉血には、醋糊で丸にして服す。或は酒糊で丸にし、或は蒼朮を加へ、或は寒食麪を加へ、年を經たるには、人參を加へ酒で煎じて服す。【椿莢】半生半燒にして米飮で服す。【木槿】腸風瀉血には、飮にして用ゐる。【山茶】末を童尿酒で服す。【巵子】鮮血を下すには、灰に燒いて水で服す。【枳殼】黑燒にして羊脛炭と共に末にして服す。○根、皮の末をも服す。【枳實】黃芪と共に末にして服す。【橘核】腸風下血には、樗根皮と共に末にして服す。【楮白皮】散にして服す。【柏葉】燒いて服す。或は九蒸九晒して槐花と共に丸にして服す。【柏子】酒で煎じて服す。【松木皮】焙じ末にして服す。「土石」【黃土】水で煮て汁を服す。【車螯】小兒の下血には、赤く燒き水に淬して服す。【血師】腸風下血には、七回火で煅き醋に淬して末にし、一錢づつ白湯で服す。「蟲獸」【白殭蠶】腸風瀉血には、烏梅と共に丸にして服す。【蠶繭】大小便血には、蠶退紙、晩蠶沙、白殭蠶と共に炒り研つて服す。【桑蠹屎】燒いて研り酒で服す。【柳蠹屎】腸風下血を止める。【海螵蛸】一切の下血には、炙いて研り木賊湯で服す。【田鸁】酒毒下血には、燒き焦して末にして服す。殼も下血を止める。

【鱟魚尾】瀉血を止める。【烏龜肉】炙いて食へば瀉血を止める。【猪血】卒に下血して止まぬには、酒で炒つて食ふ。【猪臟】黄蓮を煮て丸にして服す。○槐花を煮て丸にして服す。○胡荽を煮て食ふ。【白馬通・犀角】汁に磨つて服す。○地楡、生地黄と共に丸にして服す。

虚寒　「草菜」【人參】酒色過度の下血には、柏葉、荊芥、飛麪と共に末にして水で服す。【黄芪】瀉血には、黄連と共に丸にして服す。【艾葉】下血、及び産後の瀉血を止めるには、老薑と共に煎じて服す。【附子】下血日久しく虚寒するには、枯礬と共に丸にして服す。或は生黒豆と共に煎じて服す。【草烏頭】結陰下血には茴香、鹽と共に(四)煎露して服す。【天南星】下血の止まぬには、石灰で黄に炒り、糊で丸にして服す。【莨菪子】腸風下血には、薑汁酒と共に熬つて丸にして服す。【雲實】腸澼に主效がある。【骨碎補】燒いて末にし酒で服す。【乾薑】腸澼下血に主效がある。「木石」【桂心】結陰下血には、水で方寸匕を服す。【天竺桂・烏藥】焙じ研つて飯で丸にして服す。【雄黄】結陰便血には、棗肉に入れ、汁と共に一日煮て(五)棗肉で丸にして服す。「鱗獸」【鯽魚】五倍子を釀し、煆き研つて酒で服す。【鱖魚】瀉血を止める。【鹿角膠】

(四)煎露トハ煎汁ヲ夜露ニアテルコト。

(五)棗肉ハ大棗實ノ果肉。

積滯 「果木」【山査】下血で寒熱脾胃の薬の效なきには、末にして艾湯で服すれば止る。【巴豆】煨いて雞子と食ふ【蕪荑】猪膽汁で丸にして服すれば結陰下血を治す。【苦楝實】蜜で丸にして服す。「蟲獸」【水蛭】瀉血の止まぬには、炒り末にして酒で服す。【雞䏶胵黄皮】瀉血を止める。【猬皮】炙き末にして飲で服す。【猬脂】瀉血を止める。【獺肝】腸痔下血には煮て食ふ。

止澀 「草部」【金絲草・三七】白酒で二錢を服す。或は四物湯に入れる。【卷栢】大腸下血には、側柏、棕櫚と共に灰に燒いて酒で服す。生で用ゐれば血を破り、炙いて用ゐれば血を止める。○年久しき下血には、地楡と共に煎じて服す。【昨葉何草】灰に燒き水で一錢を服す。【血見愁】薑汁で和し搗いて米飮で服す。「果木」【荷葉・蓮房灰】【橡斗殼】白梅と共に煎じて服す。【酸榴皮】末にして服す。また煎じて服す。【烏梅】燒いて研り、醋糊で丸にして服す。【橄欖】燒き研つて米飮で服す。【乾柿】脾に入つて宿血を消す。久しき下血には燒いて服す。また丸にして服す【黄柿】小兒の下血には、米粉に和して蒸して食ふ。【柿木皮】末にして服す。【棕櫚皮】栝樓と共に灰に燒いて米飮で服す【訶黎勒】瀉血を止める。【鼠李】下血を止める。【金櫻東行

(六)臟毒ハ腸ヨリ濁血ヲ下スモノ。

根】炒つて用ゐ、瀉血を止める。「服器」【黄絲絹灰】水で服す。【敗皮巾灰・皮鞋底灰・甑帶灰】乳の上に塗れば小兒の下血を止める。【百草霜】米湯で調へ一夜露して服す。「石蟲」【綠礬】鯽魚を釀し、灰に燒いて服すれば腸風瀉血を止める。○煆いて青鹽、硫黄を入れ、再び煆いて熟附子末を入れ、粟糊で丸にして服すれば積年の下血を治す。一服で效が現れる。【石燕】年久しき腸風には、水に磨つて日毎に服す。【蛇黄】醋で七回煆き、末にして服す。【五倍子】半生半燒にして丸にして服す。腸風には白礬を加へる。【百藥煎】半生半炒にし、飯で丸にして服す。腸風には荊芥灰を加へる。(六)臟毒には、白芷、烏梅を加へて燒き、酒毒には槐花を加へる。「獸人」【牛骨灰】水で服す。【牛角䚡】煆いて末にし、豉汁で服す。【人爪甲】積年の瀉血であらゆる藥の效なきには、麝香、乾薑、白礬、敗皮巾灰と等分を飲で服すれば極めて效がある。【髮灰】飲で方寸匕を服す。

瘀血

鬱怒に因るもの、勞力に因るもの、損傷に因るものである。

血を破り血を散す「草部」【生甘草】厥陰、陽明二經の汚濁の血を行る。【黃芪】五臟の間の惡血を逐ふ。【白朮】腰、臍の間の血を利す。【黃芩】熱が(一)血室に入つたものに用ゐる。【黃連】赤目、瘀血、上部に血を見るものに用ゐる。【敗醬】多年の凝血を破る。【射干】瘀血、老血の心、脾の間に在るを消す。【草薢】關節の老血。【桔梗】打撲の瘀血が久しく腸内に在つて時に發動するには、末にして米飲で服す。【大黃】酒で煎じて服す。婦人の血瘕、男女の傷損瘀血を去る。〇醋で丸にして用ゐ、(二)乾血氣、産後の血塊を治す。【蓬莪蒁】撲損内傷の瘀血を消し、肝經の聚血、婦人の月經、血氣を通ず。【三稜】肝經の積血、婦人の月水、産後の惡血を通ず。【牡丹皮】瘀血が腸、胃に滯留するもの、婦人一切の血氣に效がある。【芍藥】瘀血を逐ふ。婦人の血閉、産前産後一切の血病に用ゐる。【紅藍花】多く用うれば血を破り、少く用うれば血を養ひ、酒で煮て用うれば産後の血を下す。【常春藤】腹内の種種の冷血、風血には、酒で煮て服す。【當歸・丹參・芎藭・白芷・澤蘭・馬蘭・大小薊・芒箔・芒莖】いづれも宿血を破り、新血を養ふ。【玄參】(三)血瘕を治し、寒血を下す。【貫衆・紫參・玄胡索・茅根・杜衡・紫金牛・土當歸・芭蕉根・天名精・牛蒡

(一)血室ハ子宮。
(二)乾血氣ハ未詳。
(三)血瘕ハ子宮癥瘕、子宮血塊等ヲ指ス。

根・苧麻葉・飛廉・續斷・鏨菜・茺蔚・藺蒿・紫蘇・荊芥・爵牀・野菊・番紅花・劉寄奴・菴䕡・薰草・苦杖・馬鞭草・車前・牛膝・蒺藜・獨用將軍・地黃・紫金藤・葎草・茜草・剪草・通草・赤雹兒】いづれも瘀血、血閉を破る。【半夏・天南星・天雄・續隨子・山漆】「菜穀」【赤小豆・米醋・黃麻根・麻子仁】いづれも瘀血を消散する。【黑大豆・大豆黃卷・紅麴・飴餳・芸薹子】いづれも瘀血を破る。【韭汁】胃脘の惡血を淸くする。【葱汁・萊菔・生薑・乾薑・堇菜・蘩蔞・木耳・楊櫨耳・苦竹肉】「果木」【桃仁・桃膠・桃毛・李仁・杏枝】いづれも瘀血、老血を破る。【紅柿・桄榔子・櫧子・山査・荷葉・藕・蜀椒・秦椒・柳葉・桑葉・琥珀】いづれも瘀血を消す。【巵子】胃脘の血を淸くする。【茯苓】腰、臍の血を利す。【乳香・沒藥・騏驎竭・質汗】いづれも血を活し、血を散じ、血を止める。【松楊】惡血を破り、新血を養ふ。【扶移】(四)踠趺瘀血。【白楊皮】折傷の宿血が骨肉の間に在つて疼くを去る。【乾漆】年久しき積滯老血を消す。【蘇方木・櫚木・紫荊皮・衞矛・奴柘】「石蟲」【朴消】いづれも瘀、惡血を破る。【雄黃・花乳石・金星石・硇砂・菩薩石】いづれも腹內の瘀血を化す。【自然銅・生鐵・石灰・殷孽・越砥・礪石・水蛭・䖟蟲】「鱗介」

(四)踠趺ハ體ノ屈マルコト。

【鱖魚・鯖魚・鰾膠・龜甲・鼈甲】「鱗部」【白雄雞翮】いづれも腹内の瘀血を破る。【黒雌雞】心中の宿血を破り、心血を補ふ。【五靈脂】生は血を行らし、熟は血を止める。【鴉翅・牛角䚡・白馬蹄・犛牛酥・獅屎・犀角・羚羊角・鹿角】「人部」【人屎・人中白】いづれも瘀血を破る。

(一)積聚癥瘕

左は血である。右は食である。中は痰氣である。○積は臟に關係し、聚は腑に關係し、癥は氣と食とに關係し、瘕は血と蟲とに關係し、痃は氣鬱に關係し、癖は痰飲に關係する。○心に發るものは伏梁であり、肺は息賁であり、脾は痞氣であり、肝は肥氣であり、腎は奔豚である。

血氣　「草部」【三稜】(二)老癖、癥瘕、積聚、(三)結塊に用ゐ、血中の氣を破る。○小兒の氣血には、煮汁で羹を作つて乳母に食はせる。【蓬莪茂】(四)痃癖、冷氣、血氣、積塊を破り、氣中の血を破る。酒に磨つて服す。【鬱金】血積の血分に傳入せるを破る

(一)積聚、飲食物ノ障害ニ因リテ、上腹卽チ胃ノ部分ニ發スルヲ積ト云ヒ、下腹卽チ腸ノ部分ニ起ルヲ聚ト云フ。

(二)癖ト癥トハ腹裏ノ塊物ヲ云フ。

(三)結塊ハ子宮血塊歟。

(四)痃癖卒痛ト云フ

ハ俗ニハヤウチカタノコトナレドモ、普通痃癖ト呼ブモノハ上腹部ニ生ズル堅キ高低アル塊物ヲ指ス。癖ハ疼痛ノ證ヲ云フモノナレバ痃癖モ亦痛ヲ兼ルモノナリ。
(五)鼈瘕ハ腹内ニ生ズル鼈形カタマリ。
(六)髪瘕ハ飲食中ニ頭髪アツテ食ニ隨ツテ入リ瘕トナルモノ。
(七)米瘕ハ米癥歟、米癥ハ生米ヲ嚙ム病。
(八)鴨癥、詳ナラズ。
(九)蛟龍癥、詳ナラズ。蛟龍病ノコト歟、病源候論ニ三月八月

【薑黄】癥瘕、血塊の脾に入りたるに用ゐ、兼て血中の氣を治す。【香附子】醋で炒つて用うれば、積聚、癥瘕を消す。【蒴藋根】(五)鼈瘕の堅硬なる腫起には、搗汁を服す。○突然の激しき癥塊で石のやうになり、極端に苦むには、酒で煎じて服す。【大黄】癥瘕、積聚の留飲、老血の留結を破る。○醋で丸にし、或は熬膏して服す。産後の血塊に最もよし。○石灰、桂心と共に醋で熬つて積塊に貼る。○男子の積を敗り、女子の血を敗る。蕎麪と共に酒で服すれば眞氣を動ぜぬ。【牡丹・芍藥・當歸・芎藭・丹參・玄參・紫參・白頭翁・玄胡索・澤蘭・赤車使者・劉寄奴・續斷・鳳仙子・蕳茹・大戟・蒺藜・虎杖・水葒・馬鞭草・土瓜根・麻黄・薇銜】「穀菜」【米醋】いづれも積癥瘕の惡血、癖塊を除く。○醋で生大黄を煎じて用うれば痃癖を治す。【胡麻油】(六)髪瘕を吐く。【白米】(七)米瘕を吐く。【秫米】(八)鴨癥を吐く。【丹黍米泔】鼈瘕を治す。【寒食餳】(九)蛟龍癥を吐く。【芸薹子】癥瘕結血を破る。【山蒜】積塊、婦人の血瘕には、醋に磨つて貼る。【陳醬茄】燒いて研り、麝と共に鼈瘕に貼る。【生芋】酒に浸して服すれば癖氣を破る。【桑耳】「果木」【桃仁】いづれも血閉、癥瘕を破る。【桃梟】伏梁結氣を破る。末にして酒で服す。【甜瓜子仁】腹内結聚。腸、胃内壅の要

蛟龍ノ子生レテ芹菜ノ上ニアリ、人芹菜ヲ食シ不幸ニシテ人ノ腹ニ入リ變ジテ蛟龍トナル、其病ノ狀發ルトキ癇ノ如シト云フ。
（一〇）酒鼈、氣鼈、共ニ鼈形ノ塊ヲ云フ。

藥である。【橄欖・觀音柳】腹中の痞積には、湯に煎じ一夜露して數回服すれば消す。【蕪荑】酒を嗜んで（一〇）酒鼈となつたもの、憤怒が過ぎて氣鼈となつたものには、炒り煎じて日毎に服す。【橉木灰】淋汁で酒を釀して服すれば、癥瘕、痃癖を消す。【琥珀・瑿・木麻・沒藥】「土石」【土墼】鼈瘕。【白堊・自然銅・銅鏡鼻】いづれも婦人の癥瘕、積聚に主效がある。【石灰】大黃、桂心と共に熬膏して腹脇の積塊に貼る。【石炭】積聚には、自然銅、大黃、當歸と共に丸にして服す。【陽起石】子臟の中血、結氣、冷癥、寒瘕を破る。【凝水石】腹中の積聚、邪氣で皮中が火の燒くやうに覺ゆるもの。【食鹽】五臟の癥結、積聚。【禹餘粮・太一餘粮・空靑・曾靑・石膽】「蟲部」【水蛭・葛上亭長】「鱗介」【龍骨・鼉甲】いづれも血積、癥瘕に主效がある【守宮】血塊には、麪で煨いて數箇を食へば直に下る。【鼈肉】婦人の血瘕、男子の痃癖、積塊には、桑灰、蠶沙の淋汁で煮爛し、搗いて丸にして服す。【鼈甲】癥塊、痃癖の堅積、寒熱、冷瘕、勞瘦には、醋で炙つて牛乳で服す。○血瘕には、琥珀、大黃と共に末にし酒で服すれば直に下る。【魁蛤】冷癥、血塊には、燒いて醋に淬し丸にして服す【龜甲・秦龜甲・玳瑁・牡蠣・蛤蜊・車鰲殼・鯷魚】いづれも積瘕に主效がある。【海馬】年久し

き積聚、癥塊には、大黃諸藥と共に丸にして服す。【鰕】鼈瘕で痛むには、久しく食すれば自ら消す。【夜明砂】「獸部」【熊脂】いづれも積聚の寒熱に主效がある。【猯頭灰】鼈瘕には酒で服す。【鼠灰】婦人の(二)狐瘕には、桂と共に末にして服す【麝香】「人部」【人尿】癥積の腹滿には、一升を服すれば血片を下し、二十日で悉く出る【癖石】堅積を消す。

食氣　「草部」【青木香】積年の冷氣、痃癖、癥塊の脹疼に用ゐる。【白蒿】伏瘕、婦人の癥瘕を去る。【蓍葉】獨蒜、穿山甲と共に鹽醋で調へて貼れば、痞塊は化して膿血になる。【海苔】茶積を消する。【木鼈子】疳積痞塊。【番木鼈・預知子・蘇子】「穀菜」【米粃】いづれも癥結を破り、氣を下し、食物を消化する。【麥麪】米食の積には、酒麪と共に丸にして服す。【蕎麥麪】五臟の滓穢の物を煉出し、積滯を磨消する。【神麴・麥蘖・蘗米・蔓菁】いづれも食物を消化し、氣を下し、癥瘕、積聚を化す。【蘿蔔】麪積、痃癖を化し、食を消し、氣を下す。【水蕨】腹中の痞積には、二个月間淡食すれば惡物を下す。【薑葉】鱠を食つて癥となつたものには、搗汁を服す。【皂角蕈】積垢で疼くには、湯に泡して飲み、泄する。【馬齒莧】「果木」【山楂】飲食物を消化

(二)狐瘕ハ婦人八瘕ノ一ナリ、證狀病源候論ニ出ヅ。

し、肉積癥瘕を消す。子もまた積を磨す。【檳榔・桑灰霜】積塊を破る。【阿魏】癥積、肉積を破る。【枳殻】(一二)五積、六聚には、巴豆と共に煮て丸にして服す。【枳實】「土石」【百草霜・梁上塵】いづれも食積を消す。【砂鍋】食塊を消するには丸にして服す。【鍛竈灰・胡粉・黄丹・密陀僧・鐵華粉・蓬砂・玄精石】いづれも癥瘕、食積に主效がある【鍼砂】食積の黄腫。【硃砂】心、腹の癥癖には、飼雞の屎を取つて炒り、末にして服す。【雄黄】脇下の痃癖、及び酒水の傷食には、巴豆、白麪と共に丸にして服す。○竹筒で七回蒸し、丸にして服すれば癥瘕、積聚を治す。○白礬と共に痞塊に貼る。【青礞石】積年の食癥で(一三)攻刺するには、巴豆、大黄、三稜と共に丸にして服す。一切の積病には、消石で煆き、赤石脂と共に丸にして服す。【緑礬】食積を消し、痰を化し、濕を燥す。【硇砂】冷氣の痃癖、癥瘕には、桑柴灰に(一四)淋過し、火に煆いて丸にして服す。○積年の氣塊には、醋煮の木瓜で釀し、附子を入れて丸にして服す。【石鹼】痰を消し、積を磨し、食滯、宿垢を去る。山査、阿魏、半夏と共に丸にして服す。【石髓】「鱗禽」【魚鱠】冷氣、痃癖、横關、(一五)伏梁を去る。【魚脂】癥塊を熨す。【五靈脂】食を化し、氣を消す。巴豆、木香と和して丸にして服す。○酒積黄腫には、麝と

(一二)五積ハ五臓ノ病。六聚ハ大腸、小腸、膽、胃、膀胱、三焦ノ六腑ノ病。

(一三)攻刺ハ刺痛。

(一四)淋過トハ水ニ溶解スルコト、桑柴灰汁ニ硇砂ヲ一度浸シ火ニ煆クコトナラン。

(一五)伏梁ハ心ニ屬スル腹裏ノ拘急。

(二六)奶癖ハ小兒ノ脇下硬クシテ物アルガ如キチ云フ。

(二七)酒布袋積、酒癖ト同症ナランカ。

共に丸にして服す。【雞屎白】米を食つて癥となれるには、米と合せ炒つて研り、酒で服して吐く。○鼈瘕及び宿癥には、炒つて研り酒で服す。【鶯屎白】小兒の(二六)奶癖で脇下の硬きには、密陀僧、硫黄、丁香と共に末にして服す。【雀糞】癥瘕、久痼を消するには、蜜で丸にして服す。○薑、桂、艾葉に和して丸にし服し、痃癖、伏梁の諸塊を爛す。【鵲糞】痞塊。【猪項肉】甘遂と合せ丸にして服し(二七)酒布袋積を下す。【猪脾】朴消で煮て水紅花子と末にし服し、痞塊を消す。【猪腎】葛粉と共に炙いて食へば、酒積の面黄を治す。【猪肪】髮を食つて瘕となり、油物を嗜み食ふには、酒で煮沸して一日三回づつ服す。【猪肚】積聚癥瘕を消す。【牛肉】恒山と共に煮て食へば癖疾を治す。○石灰と共に蒸して食へば痞積を治す。【牛腦】脾積の痞氣には、朴消と共に蒸餅で丸にして服す。○又木香、雞肫等と共に末にして服す。【鼠肉】煮汁で粥を煮て食へば、小兒の癥瘕を治す。【狗膽】痞塊には、五靈脂、阿魏と共に丸にして服す。【狗屎】酒に浸して服すれば、魚肉で癥となれるを治す。【驢屎】癥癖の諸疼。【驢尿】積蟲を殺す。【白馬尿】肉癥で肉を欲がるには、これを飲めば蟲があつて出るものである。○男子の伏梁、女子の瘕疾には、毎朝これを服す。○髮を食つて瘕となつたものはこ

(一八)息賁ハ心下腹筋ノ拘攣。

れを飲む。○痞塊で心の疼くには、殭蠶に和し末にして傅ける。【膃肭臍】男子の宿癥、氣塊、積冷、勞瘦。

痰飲　「草部」【威靈仙】冷滯、痰水、久積、癥瘕、痃癖、氣塊、宿膿、惡水を去る。○停痰宿飲で大腸の冷積するには、末にして皂角と熬膏し、丸にして服す。或は半夏を加へる。【牽牛】痃癖、氣塊を去る。○男女の五積には、末にし蜜で丸にして服す。○食積には、巴豆霜を加へる。【芎藭】酒癖の脇脹で嘔吐し、腹に水の音のするには、三稜と共に末にし、葱湯で二錢づつ服す【續隨子】一切の痃癖。○膩粉、青黛と共に丸にして服し、涎積を下す。【狼毒】飲食の積聚、痰飲の癥瘕、胸中の積癖。【紫菀】肺積の(一八)息賁。【商陸】腹中の暴癥で石のやうになり刺痛するもの。【黃連・天南星】いづれも伏梁に主效がある。【柴胡・桔梗・苦參】いづれも寒熱積聚。【白朮・蒼朮・黃芪・人參・高良薑・防葵・旋覆花・葶藶・鳶尾・獨行根・三白草・常山・蜀漆・甘遂・豬魁・昆布・海藻】いづれも痃癖、痰水に主效がある。【莨菪子】積冷痃癖には、棗を煮て食ふ。【附子・天雄・草烏頭】「穀菜」【燒酒】いづれも冷毒、氣塊、痃癖に主效がある。【蒜】痃癖を爛す。日に三顆を呑む。○又蛇瘕を吐く。【韭菜】煮て食へば心、

(一九)乳癖ハ乳房炎、乳房腫硬ノ類歟。

(二〇)癖ハ小兒腹中ノ塊物ヲ云フ。閃癖ハニハカニ塊物ヲ生ジ疼痛スルモノノコト歟。

(二一)往來痛ハイタミノサシヒキアルヲ云フ。

腹の痼冷痃癖を除く。【生芋】酒に浸して飲めば痃癖を破る。【白芥子】小兒の(一九)乳癖に貼る。【仙人杖】「果木」【大棗】いづれも痃癖に主效がある。【栗子】日に七箇づつを食へば冷癖氣を破る。【橘皮】胸中の瘕熱、濕痰、痃癖。【青皮】積結の堅癖を破る。【林檎】研末して小兒の(二〇)閃癖に傅ける。【桃花】末にして服すれば、痰飲、積滯を下す。【榧子】茶を食つて癖となれるには、日毎に之を食ふ。【苦茗】茶で癖となれるもの。【蜀椒】癥癖を破る。○茶を食ひ顏色の黄になれるには、丸にして服す。【胡椒】虚寒積癖の兩脇に在つて喘急するものは、久しく經てば疽となる。これには蠍尾、木香と共に丸にして服す。【呉茱萸】酒で煮て癥塊を熨す。【巴豆】癥瘕、結聚、留飲、痰澼を破る。○一切の積滯には、黄蘗、蛤粉と共に丸にして服す。【桂心・沈香・丁香・草豆蔻・蒟醤】いづれも冷癥、痃癖を破る。【郁李仁】癖氣を破り、冷膿を利す。【烏桕根皮】水癥、結聚。【奴柘】痃癖には煎じて飲む。【白楊皮】痰癖には酒に浸して飲む。【枳實・枳殼・婆羅得・木天蓼】「金石」【浮石】いづれも痰癖を化す。【赤白玉】痃癖、氣塊の(二一)往來痛には、糊で丸にして服す。【理石】積聚を破る。酒に漬けて服すれば癖を治す。【石硫黃】冷癖の脇に在る積聚。【消石】積を破り、堅を散ず。【砒

石・礜石・特生礜石】いづれも痼冷、堅癖、積氣。【玄明粉】宿滯癥結、【朴消】留癖、癥結。○大蒜、大黄と共に痞塊に貼る。【黑錫灰・水銀粉・粉霜・銀硃】「介禽」【海蛤・蛤蜊粉】いづれも積聚の痰涎に主效がある。【蚌粉】痰涎積聚で心腹が痛み、噦食するには、巴豆で炒過して丸にして服す。【蝤蛑】小兒の痞氣には煮て飲み食ふ。【淡菜】冷氣痃癖には燒いて食ふ。【鸛脛骨及び觜・雀脛骨及び觜】いづれも小兒に主たる效がある。汁に煮、灰に燒いて服す。「獸部」【牛乳】冷氣痃癖。【駝脂】勞風冷積には燒酒で服す。

諸蟲

蛕、白、蟯、伏、肉、肺、胃、弱、赤の九種ある。また尸蟲、勞蟲、疳蟲、瘕蟲がある。

殺蟲　「草部」【朮】生米を嗜んで蟲の生ぜるには、蒸餅で丸にして服す。【藍葉】蟲蚑を殺す。○(一)應聲蟲、及び鼈瘕、いづれも汁を服す。【馬蓼】腸中の蛭蟲を去る。【鶴虱】蛕、蟯、及び五臟の蟲を殺す。肉汁で末を服す。○心痛には醋で服す。【狼毒・狼牙・藜蘆】いづれも腹臟一切の蟲を殺す。【葎草】九蟲を殺す。【龍膽】腸中の小蟲、及び蛕

(一)應聲蟲ハ病者ノ語ル毎ニ喉中ニ物アリテ聲ヲナシ相應フモノノ如キ證ヲ云フ。

痛を去る。煎じて服す。【白芷】身を浴す。【黄精】いづれも(二)三尸を去る。【杜衡・貫衆・蘼蕪・紫河車・雲實・白昌・百部・天門冬・赭魁・石長生】いづれも蚘蟯、(三)寸白の二蟲を殺す。【連翹・山豆根】日蟲を下す。【黄連・苦參・蒼耳・飛廉・天名精・蜀羊泉・蒺藜・乾苔・酸草・骨碎補・羊蹄根・赤藤・牽牛・蛇含・營實根】いづれも小蟲、疳蟲を殺す。【艾葉】蚘痛には搗汁を服す。或は水で煎じて服しても蟲を吐下する。○蟲が肛を食ふには、燒いて熏ずる。【扁蓄】小兒の蚘痛には、煮汁、又は醋で煎じ、膏に熬る。いづれも效がある。【使君子】小兒の蚘を殺す。生で食ひ、煎じて飲み、或は丸、散にする。いづれも效がある。【石龍芻・漏蘆・肉豆蔻・蒟醬・馬鞭草】熬膏。【瞿麥・燈籠草・地黃・白及】「穀菜」【小麥】炒り末にして服す。○いづれも蚘蟲を殺す。【薏苡根】(四)三蟲を下し、蚘痛を止める。一升を煎じて服すれば、蟲が盡く死ぬ。【大麻子】茱萸根と共に酒に浸して服すれば、蟲は盡く下る。○汁に搗いても服す。【白米】米癥で米を嗜むには、雞屎白と共に炒つて服し、吐く。【秫米】鴨を食つて癥瘕となれるには、水に研つて服し、鴨雛を吐出す。【丹黍米泔】これを服すれば鼈瘕を治す。【寒食餳】蛟龍癥を吐く。【生薑】長蟲を殺す。【槐耳】燒いて末

(二)三尸ハ病源候論二十三ニ三尸諸蟲ノ解アリ。

(三)寸白蟲ハサナダムシ。其形寸寸節アリ、色白シ故ニ名ク。

(四)三蟲ハ赤蟲、長蟲、蟯蟲是ナリ。

にして水で服す。蚘は立ろに出る。【雚菌】二蟲を去る。末にし羅に入れて食ふ【天花蕈・藜・灰藋・馬齒莧・苦瓠・敗瓢】「果部」【柿】いづれも蟲を殺す。【橘皮】寸白を去る。【桃華】赤蟲を去る。【桃仁・桃葉】尸蟲を殺す。【檳榔】三蟲、伏尸を殺す。末にして大腹皮湯で下す。【榧子】三蟲を去る。七日食へば蟲が化して水となる。【阿勃勒・酸榴東行根・櫻桃東行根・林檎東行根】いづれも三蟲を殺す。水で煎じて服す。【吳茱萸東行根】三蟲を殺す。酒水で煎じて服す。○肝勞で蟲の生ずるには、粳米、雞子白と共に丸にして服す。○肝勞で發熱し、蟲あつて嘔きたがるには、橘皮、大黃子と共に酒に浸して服す。【醋林子】寸白、蚘痛、小兒の疳蚘には、いづれも末にして酒で服す。【藕】蜜と共に食へば腹臟が肥え、諸蟲を生ぜぬ。【杏仁】小蟲を殺す。【蜀椒】蚘痛には、炒り酒に淋して服す。【烏梅】煎じて服すれば蚘痛を安らかにする。【鹽麩樹皮】「木部」【烏藥】いづれも蚘を殺す。【栢葉】五臟の蟲を殺し、健康を益し、諸蟲を生ぜぬ。【相思子】腹臟、皮膚一切の蟲を殺す。【桑白皮・金櫻根・郁李根・蔓荊】いづれも寸白蟲を殺す。【阿魏・蘆薈・黃蘗・樗白皮・合歡皮・皂角及び刺木皮・大楓子・苦竹葉・石南】いづれも小蟲、疳蟲を殺す。【乾漆】三蟲を殺す。○

小兒の蟲痛には、燒いて蕪荑と共に末にして服す。葉も亦末にして服す。【楝白皮】蚘蟲を殺す。水で煎じて服す。或は末にし、或は麝香を入れ、或は雞子を煮て食ふ。○實は三蟲を殺す。醋に浸して(五)穀道の中を塞げば長蟲を殺す。○花は(六)蠶虱を殺す。【蕪荑】三蟲、惡蟲を去る。末にして飲で服す。○或は檳榔と共に丸にして服す、○炒り煎じて日毎に服すれば、氣鼈、酒鼈を治す。【大空】三蟲を去る。○髮に塗れば蟣虱を殺す。【莢蒾】粥に煮て食へば三蟲を殺す。【雷丸・厚朴・樟白皮・楸白皮・桐木皮・山茱萸・丁香・檀香・蘇合香・安息香・龍腦香・樟腦香】いづれも三蟲を殺す。(水石)【神水】獺肝に和し丸にして用ゐ、蟲積を殺す。【浸藍水】蟲を殺し、水蛭を下す。【黑錫灰】沙餹で服すれば寸白を下す。【黃丹・密陀僧・曾青】いづれも寸白を下す。【胡粉】葱汁で丸にして服すれば、婦人の蟲の心疼を治し、寸白を下す。【硫黃】腹臟の蟲、諸瘡蟲を殺す。○氣鼈、酒鼈には酒で常に服す。【雌黃・雄黃】蟲疼で水を吐くには、煎じて酢で服す。又諸瘡蟲を殺す。【食鹽】一切の蟲を殺す。【霹靂碪】勞蟲を殺す。【石灰】蟯蟲を殺す。【砒石・理石・長石・白靑】いづれも三蟲を殺す。【梳篦】虱蟣を去る。【死人枕席】(七)尸疰・石蚘を殺す。(蟲部)【蜂子】小兒の五蟲で口

(五)穀道ハ腸中ヲ云フ。

(六)蠶虱、詳ナラズ。蠶兒ノ害蟲ヲ云フ歟。

(七)尸注ニ五種アリ、

皆鬼神ノ氣ヲ挾ミ人ノ身體中ニ入リ、寒熱ヲ起シ精神ヲ混亂セシム。

（八）石蚘ハ醫方考五門傳屍門ニ解アリ。

から吐出すもの。【蜂窠灰】酒で服すれば寸白、蚘蟲皆死んで出る。【蠶繭及び蛹】蚘を除く。【白蠟　白殭蠶・蚺蛇膽及び肉　蝮蛇】いづれも三蟲を殺す。【鼉甲・鱖魚・鱘魚】いづれも小蟲を殺す。【鰻鱺魚】淡煮して食へば諸蟲、勞蟲を殺す【鰕】䘌𧏾には食ふがよし。【海鰕鮓】蟲を殺す【河豚・海豚・海螵蛸】「禽獸」【鶴頭・竹雞・百舌・烏鴉】いづれも蟲を殺す。【鳧】三蟲、及び腹臟一切の蟲を殺す【五靈脂】心、脾の蟲痛には、檳榔と共に末にして服す。○小兒の蟲痛には、靈礬と共に丸にして服し、吐く。【雞子白】蚘痛には、打ち割つて醋に合せて服す。○好漆を內に入れて吞めば蟲が出る。【雞屎白】䘌𧏾、米癥。【鴿屎】蚘を殺す。燒いて服す。【蜀水花】蚘を殺す。【啄木鳥・鷹屎白・熊脂・獺肝・猫肝・虎牙】いづれも勞蟲を殺す。【猪肚】勞蟲を殺す。○黃米と釀して蒸し、丸にして服すれば疳蚘の瘦病を治す。【猪血】嘈雜に蟲あるには、油で炒つて食ふ。【猪肋】髮瘕には煮て食ふ。【猫頭灰】酒で服すれば䘌𧏾を治す。【獾肉・鼠肉・兎屎】いづれも疳勞、蚘蟲を殺す。【羊脂・牛膽・熊膽・麝香　猬皮及び脂】いづれも小蟲を殺す。【鼬鼠心肝】蟲痛には、乳、沒と共に丸にして服す。【六畜心】硃砂、雄黃を包んで煮て食へば蟲を殺す。【白馬溺・

驢溺】「人部」【人尿】いづれも癥瘕の蟲を殺す。【胞衣水・天靈蓋】勞蟲を殺す。

腸鳴　虛氣、水飲、蟲積である。

「草部」【丹參・桔梗・海藻】いづれも心、腹の邪氣で上下が雷鳴し、ぐづぐづと水が走る如きもの。【昆布・女菀・女萎】いづれも腸鳴で(一)遊氣が上下一定せぬもの。【半夏・石香薷・華茇・紅豆蔻・越王餘算】いづれも虛冷腸鳴に主效がある。【大戟】痰飲の腹中雷鳴。【黃芩】水火が擊搏して聲あるに主效がある。【穬麥蘖・飴餹】「果木」【橘皮・杏仁】いづれも腸鳴に主效がある。【厚朴】積年冷氣の腹內雷鳴。【卮子】熱鳴。「石部」【硇砂】血氣不調の腸鳴、宿食。【石髓】「蟲介」【原蠶沙】腸鳴、熱中。【鱓魚】冷氣の腸鳴。【淡菜】「獸部」【羚羊屎】久利の腸鳴。

(二)心腹痛　寒氣、熱氣、火鬱、食積、死血、痰澼、蟲物、虛勞、中惡、陰毒である。

中を溫め鬱を散ず　「草部」【木香】心、腹一切の冷痛、氣痛、(三)九種の心痛、婦人

(一)遊氣ハ瓦斯。

(二)心腹痛、胃腸ノ疼痛。

(三)九種ノ心痛ハ蟲

痛、痓痛、風痛、悸痛、食痛、飲痛、寒痛、熱痛、氣痛是ナリ。

(三)胎寒ハ、乳母孕ムトキ寒ヲ受ケテ生下シ、再ビ外邪ニ感ジ兒ヲシテ面色青白—

の血氣刺痛、いづれも酒に磨つて服す。○心氣刺痛には、皂角末と共に丸にして服す。○内釣腹痛には、乳、沒と共に丸にして服す。【香附子】一切の氣の心、腹痛。三焦を利し、六鬱を解す。縮砂仁、甘草末と共に點て服す。○心、脾の氣痛には、高良薑と共に末にして服す。○血氣痛には、茘枝と共に燒いて研り酒で服す。【艾葉】心、腹一切の冷氣、鬼氣には搗汁を飲む。或は末にして服す。○香附と共に醋で煮て丸にして服し、心、腹、小腹の諸痛を治す。【芎藭】鬱を開き、氣を行らす。諸冷痛、中惡には、末にして燒酒で服す。【藁本】大實心痛で已に利藥を用ゐたものには、蒼朮と共に煎じて服し、毒を徹去さす。【蒼朮】心、腹の脹痛に用ゐ、鬱を解し、中を寬にする【甘草】腹中の冷痛を去る。【高良薑】腹内の暴冷、久冷痛には、煮て飲む。○心、脾痛には、乾薑と共に丸にして服す ○また四制して丸にして服す。【蘇子】一切の冷氣痛には、高良薑、橘皮と等分を丸にして服す。【薑黄】冷氣痛には、桂と共に末にして醋で服す。○小兒の(三)胎寒腹痛で乳を吐くには、乳香、沒藥、木香と共に丸にして服す。【附子】心腹の冷痛、胃寒で蚘動くもの。○炒巵子と共に酒糊で丸にして服す。○(四)寒厥の心痛には、鬱金、橘紅と共に醋糊で丸にして服す。【香

[illegible]季の腹痛【[illegible]・[illegible]・甘松香・山奈・[illegible]薑・白荳蔻・草豆蔻・縮砂・蒟醤・白茅香・蕙草・益智子・蓽茇】「穀部」【胡椒粥・茱萸粥・葱豉酒・薑酒・茴香】いづれも一切の冷氣の心痛、腹痛、少腹痛に主效がある。【燒酒】冷痛には、鹽を入れて服す。○陰毒腹痛に尤もよし。【黑大豆】腸が打つやうに痛むには、炒り焦して酒に投じて飮む。【神麴】食積の心腹痛には、紅く燒いて酒に淬して服す。「菜部」【葱白】心腹の冷氣痛、蟲痛、疝痛、大人の陰毒、小兒の(五)盤腸、內釣痛に主效がある。○卒心痛、(六)牙關緊急で極端に苦むには、搗いて膏にし、麻油と迭に服すれば、蟲は悉く黃水になつて出る。○陰毒痛には、炒つて臍下を熨し、幷に酒に擂つて灌ぐ。○盤腸痛には、炒つて臍上に貼り、幷に腹を熨すれば、少時して尿が出て癒える。【葱花】心、脾が刀で刺すやうに覺えるには、茱萸と共に一升を煎じて服す。【小蒜】十年、五年の心痛には、醋煮にして飽くまで食へば癒える。【葫】冷痛には、乳香と共に丸にして服す。○醋に浸して食ふ。○(七)鬼注の心腹痛には、墨及び醬汁と共に服す。○吐血心痛には汁を服す。【韭】腹中の冷痛には煮て食ふ。○胸が錐で刺すやうに痺痛するには、汁を服して惡血を吐き去る。【薤白】胸痺刺痛が心背に徹

[illegible]シ、大便青黒、口ヒエ腹イタミ、身ニ寒慄ヲ起スモノナリ。

(四)寒厥ハ傷寒ノ一種ニシテ發熱セザルモノ。

(五)盤腸ハ小兒ノ小腸ニ寒氣鬱結シテ痛ムモノ、內釣痛ト相似テ額ニ汗ノ出ヅルヲ異トス。

(六)牙關緊急ハ齒ヲクヒシバルコト。

(七)鬼注ハ瓦斯中毒ノ類。

(八)陰毒、金陵本ニ陽毒トアリ。

(九)九種ノ心痛ハ蟲、疰、風、悸、食、飲、冷、熱、氣ノ九種ヲ云フ。

(一〇)寒疝ハ胃腸ノ障

し、喘息、欬唾するには、栝樓實と共に白酒で煮て服す。【生薑】心下急痛には、半夏と共に煎じて服す。或は杏仁と共に煎じる。【乾薑】卒心痛には、研末して服す。○心痺冷痛には、高良薑と共に丸にして服す。【芥子】酒で服すれば心腹の冷痛を止める。○(八)陰毒には臍に貼る。【馬芹子】卒心痛には、炒り末にして酒で服す。【蘹香・蔊菜・菥蓂子・秦荻藜・蔓菁子】「果部」【杏仁】いづれも心腹冷痛に主效がある。【烏梅】脹痛で極端に苦むには煮て服す。【大棗】急心疼には、杏仁、烏梅と共に丸にして服す。○陳棗核仁は腹痛を止める。【胡桃】急心痛には、棗と共に煨いて嚼み、薑湯で服す。【荔枝核】心痛、脾痛には、燒いて研り酒で服す。【椰子皮】卒心痛には、燒いて研り水で服す。【橘皮】歩行中に發つた心痛には、煎じて服するが甚だよし。【木瓜・枸櫞】いづれも心氣痛。【胡椒】心腹冷痛には、酒で二十一粒を呑む。【茱萸】心腹冷痛、及び中惡の心腹痛には、酒に擂つて服す。○葉もよし。【欓子】同上。「木部」【桂】秋、冬季の冷氣腹痛は、これ以外では除けぬ。○(九)九種の心痛、及び(一〇)寒疝の心痛には、末にして酒で服す。○心腹脹痛には、水で煎じて服す。○產後の心痛には、狗膽で丸にして服す。【烏藥】冷痛には、水に磨り、橘皮、蘇葉を入れて煎じて服す。【松節】陰

害ニシテ疼痛臍ヲ繞ッテ發スルモノ」

(二)疰、金陵本ニ疼トアレドモ疰ノ誤ナラン。

毒腹痛には、炒り焦して酒に入れて服す。【乳香】冷心痛には、胡椒と共に薑酒で服す。(一)茶末と共に鹿血で丸にして服す。【丁香】暴心痛には酒で服す。【安息香】心痛の頻發には沸湯に泡けて服す。【天竺桂・沈香・檀香・蘇合香・必栗香・龍腦香・樟腦香・樟材・杉材・楠材・阿魏・皂莢・白棘・枸杞子・厚朴】「金石」【鐵華粉】いづれも冷氣心腹痛に主效がある。【銅器】炙いて冷痛を熨す。【靈砂】心腹冷痛には、五靈脂と共に醋糊で丸にして服す。【硫黄】一切の冷氣痛には、黄蠟で丸にして服す。○消石、靑皮、陳皮と共に丸にして服す。【消石】雄黄と共に末にして目眥へ點ずれば、種種の心腹痛を止める。【砒石】積氣冷痛には、黄蠟で丸にして服す。【硇砂】冷氣、血氣、積氣の心腹痛諸(二)疰に用ゐる。【神鍼火】「鱗獸」【鮑魚灰】妊娠で寒に感じた腹痛には酒で服す。【猪心】急心痛の年を經たものには、胡椒十粒を入れて煮て食ふ。○心血には、蜀椒と丸にして服す。

血を活し氣を流す　「草部」【當歸】血を和し、氣を行らし、疼きを止める。○心下の刺疼には、酒で方寸匕を服す。○婦人の血氣には、乾漆と共に丸にして服す。○產後痛には、白蜜と共に煎じて服す。【芍藥】痛を止め、血分上中の腹痛を散ず。○腹中虛痛

(一二)熱厥心痛ハ心臟内膜炎ノ類。

には、二錢を甘草一錢と共に煎じて服す。惡寒には桂を加へ、惡熱には黄芩を加へる。【玄胡索】血を活し、氣を利す。○心腹、少腹諸痛には、酒で二錢を服すれば神效がある。○(一二)熱厥心痛には、川楝末二錢と共に服す。○血氣諸痛には、當歸、橘紅と共に丸にして服す。【蓬莪蒁】氣を破る。心腹痛、婦人の血氣、男子の奔豚に效がある。○一切の冷氣、及び小腸の氣が發して極端に苦むには、酒、醋に水を和して煎じて服す。あるひは木香末を加へ醋湯で服す。○婦人の血氣には、乾漆と共に末にして服す。○小兒の盤腸には、阿魏と共に研末して服す。【鬱金】血氣、冷氣痛で瀕死なるには、燒いて研り醋で服すれば甦る。【薑黄】産後の血痛には、桂末と共に酒で服すれば血が下つて癒える。【劉寄奴】血氣には、末にして酒で服す。【紅藍花】血氣には、酒に擂つて服す。【大黄】乾血氣には、醋で熬膏して服す。○冷熱不調には、高良薑で丸にして服す。【蒲黄】血氣の心腹諸疼には、五靈脂と共に醋或は酒で煎じて服す。【紫背天盤】婦人の血氣には酒で服す。【丹參・牡丹・三稜・敗醤】「穀菜」【米醋】いづれも血氣、冷氣、心腹諸痛に主效がある。【青粱米】心氣冷痛には、桃仁汁で粥に煮て食ふ。【紅麴】婦人の血氣には、香附、乳香と共に末にして酒で服す。【絲瓜】婦人の乾血氣には、炒

つて研り酒で服す。【桑耳】婦人の心腹痛には、燒いて研り酒で服す。【杉菌】「果木」【桃仁】卒心痛、疰心痛には、研末して水で服す。○桃枝は酒で煎じる。【桃梟】血氣、中惡痛には、酒で磨つて服す。【沒藥】血氣心痛には、酒水で煎じて服す。【乳香・騏驎竭・降眞香・紫荆皮】「金石」【銅青・赤銅屑】いづれも血氣心痛に主效がある。【自然銅】血氣痛には、火で煆き醋に淬し、末にして服す。【諸鐵器】婦人の心痛には、火に燒き酒に淬して飲む。【石炭】同上。【白石英・紫石英】いづれも婦人の心腹痛に主效がある。「鱗部」【烏賊魚血】血刺心痛には、醋に磨つて服す。【青魚鮓】血氣心腹痛には、水に磨つて服す。「禽獸」【五靈脂】心腹、脇肋、少腹諸痛、疝痛、血氣には、蒲黃と共に醋で煎じて服す。或は丸にし、或は一味を炒焦して酒で服す。○蟲痛には檳榔を加へる。【狗膽】血氣の撮痛には、丸にして服す。

痰飮　【半夏】濕痰の心痛には、油で炒り丸にして服す。【狼毒】九種の心痛には、吳茱萸、巴豆、人參、附子、乾薑と共に丸にして服す。○心腹冷痰の脹痛には、附子、旋覆花と共に丸にして服す。【草烏頭】冷痰で包を成し心腹の癘痛するもの。【百合・椒目】留飮腹痛には、巴豆と共に丸にして服す。【牡荆子】炒り研つて服す。【枳實】胸

痺痰水痛には末にして服す。【枳殼】心腹の結氣、痰水。【礬石】諸種心痛には、醋で(一三)一皂子を煎じて服す。〔半夏と共に丸にして服す。○硃砂、金箔と共に丸にして服す。【五倍子】心腹痛には、炒り焦して酒で服すれば立ろに止る。【牡蠣粉】煩滿心脾痛には、煆いて研り酒で服す。【蛤粉】心氣痛には、炒つて研り香附と共に末にして服す。【白螺殼】濕痰の心痛、及び膈氣痛には、燒いて研り酒で服す。

火鬱 「草部」【黃連】卒熱心腹煩痛には、水で煎じて服す。【苦參】大熱の腹中痛、及び小腹熱痛で顏色の青、赤になるには、醋で煎じて服す。【黃芩】小腹絞痛、小兒の腹痛には、厚朴、黃連と併用すれば腹痛を止める。【山豆根】卒腹痛には、水で研つて服す。口に入れば落付く。【靑黛】心口の熱痛には、薑汁で一錢を服す。【馬兜鈴】燒いて研り酒で服す。【馬蘭汁】絞腸(一四)沙痛。【沙參・玄參】「穀果」【生麻油】卒熱心痛には一合を飮む。【麻子仁】妊娠心痛には、研つて水で煎じて服す。【蕎麥粉】絞腸沙痛には、炒り熱して水で烹て服す。【黍米】十年の心痛には、淘り汁を溫服する。【粳米・高粱米】いづれも煮汁を服すれば心痛を止める。【綠豆】心痛には、二十一粒を胡椒十四粒と共に研つて服す。【茶】十年、五年の心痛には、醋に和して服す。「木部」【川楝

(一三)一皂子ハ一箇ノ皂莢子ノ大サノモノヲ云フ。

(一四)沙痛ノ沙ハ、字書ニ小ニシテ多數ノ意トアリ。

子】心及び小腸に入つて上下腹痛に主效がある。熱厥心痛はこの藥以外では除き得ぬ。○玄胡索と共に末にし酒で服す。【槐枝】九種の心痛には、水で煎じて服す。【槐花・烏桕根・石瓜】いづれも熱心痛に主效がある。【巵子】熱厥心痛には、炒り焦して煎じて服す。○冷熱腹痛には、附子と共に丸にして服す。【郁李仁】卒心痛には、七粒を嚼み溫水で飮下せば止る。【茯苓・琥珀】「石獸」【戎鹽・食鹽】心腹脹痛を吐かす。【玄明粉】熱厥心腹痛には、童尿で三錢を服す。【丹砂】男女の心腹痛には、白礬と共に末にして服す。【蜂蜜】卒心痛。【黃蠟】急心痛には、燒いて化し丸にして涼水で服す。【晩蠶沙】男女の心痛には、湯に泡けて服す。【驢乳】卒心痛が腰から臍に連るには、二升を熱飮する。【羚羊角】腹痛熱滿には、燒いて末にし水で服す。【犀角】熱毒痛。【阿膠】男子の小腹痛。【兎血】卒心痛には、茶末、乳香に和し丸にして服す。【敗筆頭】心痛の止まぬには、灰に燒いて(一五)無根水で服す。【狗屎】心痛で極端に苦むには、研末して酒で服す。【山羊屎】心痛には、油髮と共に灰に燒き、酒で服すれば根治する。【狐屎】肝氣心痛で顏色蒼白に、死灰の如く喘息するには、燒いて薑黃に和して服す。【驢屎汁・馬屎汁】「人部」【人屎】蜜水に和して用ゐる。【人溺】いづれも絞腸沙痛で極

(一五)無根水ハ潦水ノ別名。

端に苦むものに主效がある。

蟲痛　諸蟲の條下を見よ。

中惡　「草部」【艾葉】突然鬼擊中惡に襲はれ、心腹が刀で刺すやうに切痛し、吐血、下血するには、水で煎じて服す。○實するにも用うるがよし。【桔梗・升麻・木香】磨汁。【藿香・鬱金香・茅香・蘭草・蕙草・山柰・山薑・縮砂・蘼蕪・蜘蛛香・蒟醬・丹參】【苦參】酒で煎じる。【薑黃・鬱金・莪茂・肉豆蔻・菖蒲・雞蘇・甘松・忍冬】水で煎じる。【卷栢・女靑】末にして服す。【芒硝】煮て服す。【鬼督郵・草犀・狼毒・海根・藁本・射干・鳶尾・鬼臼・續隨子】「穀菜」【醇酒・豌豆・白豆・大豆・胡荽・羅勒】【芥子】酒に浸す。【白芥子・大蒜】「果木」【榧子】【桃梟】末にして服す。【桃膠・桃符】【桃花】末にして服す。【桃仁】研つて服す【桃白皮・三歲棗中仁】常に服す。【蜀椒・茱萸・蜜香・沈香・檀香】【安息香】酒に化す【乳香・丁香・阿魏・樟材・鬼箭・鬼齒】水で煎じる。【琥珀・蘇合香】酒に化す。【城東腐木】酒で煎じる。【古櫬板】酒で煎じる。「服器」【桃橛】煮汁。【車脂】酒に化す。【刀鞘灰】水で服す。【砧垢】吐く。【鐵椎柄灰】丸にして服す。【履屧鼻繩灰】酒で服す。【氈襪跟灰】酒で服す。

【網巾灰】酒で服す。「水土」【糧罌中水・黄土】地上を(一六)五宅に分けて盛り、中の部分を取つて水で服す。【陳壁土】蒜と共に丸にして服す。【鑄鐘土】酒で服す【柱下土】水で服す。【伏龍肝】水で服す。【仰天皮】人垢と和して丸にして服す。【釜墨】湯で服す。【墨】「石介」【古錢】薏苡根と煎じて服す。【鉛丹】蜜で服す。【食鹽】燒いて服し、吐かす。【雄黄・靈砂・硫黄・金牙・蛇黄】【田螺殼】燒いて服す。【鼈頭灰】「禽獸」【烏骨雞】心上に搨す。【白雄雞】煮汁に醋、麝、眞珠を入れて服す。○肝も同じ。【雞子白】生で七箇を呑む。【鸛骨・犀角・鹿茸及び角・麋角・麝香・靈猫陰・猫肉及び頭骨・狸肉及び骨・膃肭臍・熊膽】いづれも中惡の心腹絞痛に主效がある。

(一)**脇痛**　肝、膽の火、肺氣、欝、死血、痰澼、食積、氣虛である。

(二)**木實**　「草部」【黄連】猪膽で炒つて用うれば、大いに肝、膽の火を泄す。○肝火の脇痛には、薑汁で炒つて丸にする。○(三)左金丸——茱萸と共に炒り丸にして服す。【柴胡】脇痛の主藥である。【黄芩・龍膽・青黛・蘆薈】いづれも肝、膽の火を瀉す。【芎

(一六)宅ニ墳墓ノ義アリ、五堆トナスナ云フ。

(一)脇痛ハ脇腹ノ痛ムコト。

(二)木實ノ木ハ肝臓ノコトナルベシ。

(三)左金丸ハ製藥名、黄連呉茱萸ノ二藥ヲ以テ作ル。

藥・撫芎】いづれも肝氣を捜る。【生甘草】火を緩にする。【木香】肝經の滯氣を散じ、諸氣を升降する。【香附子】總て諸欝を解する藥であつて、膀胱から脇下に連つて氣の妨げるを治す。【地膚子】脇下の痛みには、末にして酒で服す。「果木」【青橘皮】肝、膽の積氣を瀉するに必用の藥である。【巵子・蘆薈・桂枝】

痰氣 「草部」【芫花】心下が痞滿して痛み、兩脇に引いて乾嘔し、汗の出るには、甘遂、大戟と共に散にし、棗湯で服す。【大戟・甘遂】痰飲の脇痛。○控涎丸。【狼毒】兩脇が氣結、痞滿し、心下に停痰が鳴轉するには、附子、旋覆花と共に丸にして服す。【香薷】心煩脇痛が胸に連つて極端に苦むには、搗汁を飲む。【防風】肺實の煩滿、脇痛を瀉す。【半夏・天南星・桔梗・蘇梗・細辛・杜若・白前・貝母】「穀菜」【生薑】いづれも胸脇の逆氣に主效がある。【白芥子】痰が胸脇に在つて支滿するには、酒で七粒づつを呑む。○又白朮と共に丸にして服す。【薏苡根】胸脇の卒痛には、煮て服すれば落付く。「果木」【橘皮・檳榔・枳殼】心腹の結氣、痰水で兩脇の脹痛するもの。○驚に因つて肝を傷め、脇骨の痛むには、桂と共に末にして服す。【枳實】胸脇の痰澼氣痛。【茯苓】「蟲介」【白殭蠶・牡蠣粉・文蛤】いづれも胸脇の逆氣滿痛に主效がある。「獸

石」【羚羊角】胸脇の痛滿には、燒いて末にして水で服す。【麝香・古錢】心腹煩滿、胸脇痛で極端に苦むには、煮汁を服す。

血積　「草部」【大黄】腹脇の老血痛。【鳳仙花】腰脇の引痛忍び難きには、晒して研り酒で三錢を服すれば、血を活し、積を消す。【當歸・芎藭・薑黄・玄胡索・牡丹皮・紅藍花】「穀菜」【神麴・紅麴】いづれも死血、食積で痛むものに主效がある【韭菜】瘀血で兩脇の刺痛するに用ゐる。「果木」【吳茱萸】食積。【桃仁・蘇木・白棘刺】腹脇の刺痛には、檳榔と共に酒で煎じて服す。【巴豆】積滯。【五靈脂】脇痛には、蒲黄と共に醋で煎じて服す。

虛陷　「草穀菜部」【黄芪・人參・蒼朮・柴胡・升麻】いづれも氣虛下陷の兩脇支痛に主效がある。【黑大豆】腰脇の卒痛には、炒り焦し酒で煎じて服す。【茴香】脇下の刺痛には、枳殼と共に末にして鹽酒で服す。【馬芹子】腹冷脇痛。

外治　【食鹽・生薑・葱白・韭菜・艾葉】いづれも炒つて熨す。【冬灰】醋で炒つて熨す。【芥子・茱萸】いづれも醋で研つて傅ける。【大黄】石灰、桂心と共に醋で熬つて貼る。○大蒜、朴消と共に搗いて貼る。

腰痛

腎虛、濕熱、痰氣、瘀血、(一)閃肭、風寒に因るものである。

虛損 「草部」【補骨脂】骨髓の傷敗で腰膝の冷ゆるものに用ゐる。○腎虛腰痛には、末にして酒で服す。或は杜仲、胡桃と共に丸にして服す。○姙娠腰痛には、末にして胡桃酒で服す。【菊花】腰痛が驅け回るやうに去來するものに效がある。【艾葉】帶脈が病となり、腰が(二)溶溶として水中に坐るやうに覺えるものに用ゐる。【附子】下焦の陽虛を補ふ。【蒺藜】腎を補ひ、腰痛及び奔豚、腎氣を治す。蜜で丸にして服す。【萆薢】腰脊の強痛、男子の臂腰痛、久冷で痺軟なるには、杜仲と共に末にして酒で服す。【狗脊・菝葜・牛膝・肉蓯蓉・天麻・蛇牀子・石斛】「穀菜」【山藥】いづれも男子の腰膝強痛に主效があり、腎を補ひ、精を益す。【韮子】安息香と共に丸にして服す。【茴香】腎虛腰痛には、猪腎と煨いて食ふ。○腰痛刺すが如きには、角茴末と鹽酒で服す。或は杜仲、木香を加へ、糯米を炒つて外部を熨す。【乾薑・菥蓂子・胡麻】「果木」【胡桃】腎虛腰痛には、補骨脂と共に丸にして服す。【栗子】腎虛の腰脚不遂には、風乾

(一)閃肭ハ脂肪過多。

(二)溶溶ハ水盛ナル貌。

して日毎に食ふ。【山査】老人の腰痛には、鹿茸と共に丸にして服す。【阿月渾子・蓮實・芡實・沈香・乳香】いづれも腰、膝、命門を補ふ。【杜仲】腎虚冷の腎痛には、煎汁で羊腎を羹に煮て食ふ。○酒に浸して服す。○末にして酒で服す。○青娥丸。【枸杞根】杜仲、萆薢と共に酒に浸して服す。【五加皮】賊風に傷んで軟脚、腎腰となつたものに用ゐ、多年の瘀血を去る。【柏實】腰中が重痛し、腎中が寒するもの、膀胱の冷膿、宿水に用ゐる。【山茱萸・桂】「介獸」【龜甲】いづれも腰腎の冷痛に主效がある。【鼈甲】卒の腰痛で俛し仰ぎ得ぬには、炙り研つて酒で服す。【猪腎】腰の虚痛には、杜仲末を包んで煨いて食ふ。【羊腎】末にして酒で服す。○老人の腎硬には、杜仲と共に炙いて食ふ。【羊頭蹄脊骨】蒜、薤に和して煮て食ふ。○肉蓯蓉、草果と共に煮て食ふ。【鹿茸】兎絲子、茴香と共に丸にして服す。○山藥と共に酒で煮て飲む。【鹿角】炒つて研り酒で服す。或は酒に浸す。【麋角及び茸】酒で服す。【虎脛骨】酥で炙り酒に浸して飲む。

濕熱　「草部」【知母】腰痛には、腎火を瀉す。【蕨萁】濕毒の腰痛。【威靈仙】宿膿、惡水の腰膝冷疼には、酒で一錢を服して通じを付ける。或は丸にして服す。【青木香】

氣滯腰痛には、乳香と共に酒で服す。【地膚子】積年の腰痛で時時發するには、末にして一日五六回づつ酒で服す。【蝦蟇草】濕氣の腰痛には、葱、棗と共に酒で煮て常に服す。【牽牛子】濕熱氣滯で腰痛し冷膿を下す病を除く。半生半炒にして硫黃と共に末にし、白麪で丸にして煮て食ふ。【木鼈子・薫草】「果木」【桃花】濕氣腰痛には、酒で一錢を服すれば一夜にして消す。或は酒に釀して服す。【檳榔】腰重く痛むには、末にして酒で服す。【甜瓜子】腰腿痛には、酒に浸し末にして服す。【皂莢子】腰脚風痛には、酥で炒つて丸にして服す。【郁李仁】腰胯の冷膿を宣する。【茯苓】腰臍間の血を利す。【海桐皮】風毒の腰膝痛。【桑寄生】「介獸」【淡菜】腰痛、脇急。【海蛤・牛黃】妊娠腰痛には、燒いて末にし酒で服す。

風寒 【羌活・麻黃】太陽の病、腰脊痛。【藁本】十種の惡風、鬼疰が流入して腰の痛むものに用ゐる。

血滯 「草穀」【玄胡索】暴の腰痛を止め、血を活し、氣を利す。當歸、桂心と共に末にして酒で服す。【蘘荷根】婦人の腰痛には、搗汁を服す。【甘草・細辛・當歸・白芷・芍藥・牡丹・澤蘭・鹿藿】いづれも婦人の(三)血瀝腰痛に主效がある。【朮】腰臍

(三)血瀝 子宮出血ナルベシ。

間の血を利し、腰膝を補ふ。【菴䕡子】(四)閃挫痛には、酒に擂つて服す。【甘遂】閃挫痛には、猪腎に入れて煨いて食ふ。【續斷】折跌、惡血の腰痛。【神麴】閃挫には、紅く煅き酒に淬して服す。【蒔蘿】閃挫には、酒で二錢を服す。【萵苣子】閃挫には、粟米、烏梅、乳、沒と共に丸にして服す。【絲瓜根】閃挫には、燒いて研り酒で服す。○子もまた良し、渣は傅ける。【冬瓜皮】(五)折傷には、燒いて研り酒で服す。「果木」【西瓜子】閃挫には、乾して研り酒で服す。【橙核】閃挫には、炒り末にして酒で服す。【橘核】(六)腎疰。【青橘皮】氣滯。【桃梟・乾漆】「蟲介」【紅娘子】いづれも血を行らす。【鼈肉】婦人の血瘕腰痛。【鼉甲】腰中の重痛。

外治　【桂】反腰血痛には、醋で調へて塗る。【白檀香】腎氣腰痛には、水に磨つて塗る。【芥子】(七)痰注、及び撲損痛には、酒と共に塗る。【貓屎】燒き末にして唾に和して塗る。【天麻】半夏、細辛と共に煮て熨す。【大豆・糯米】いづれも炒つて寒濕痛を熨す。【蒴藋】寒濕痛には、炒熱して身に着ける。【黄狗皮】腰痛を裹む。【爵牀・葡萄根】いづれも腰脊痛を浴する。

(四)閃挫ハ關節捻挫。
(五)折傷ハ骨折傷。
(六)腎疰ハ腎ノ急痛。
(七)痰注ハ胸脇ノ痛。

(一)疝癪　腹に發る病を疝といひ、睾丸の病を癪といふ。○寒氣、濕熱、痰積、血滯、虛冷、男子は奔豚、婦人は(二)育腸、小兒は(三)木腎である。

寒氣　「草部」【附子・烏頭】寒疝で厥逆し、脈の弦緊するには、水で煎じ蜜を入れて服す。或は蜜で煮て丸にする。○寒疝の滑泄には、玄胡索、木香と共に煎じて服す【草烏頭】寒氣(四)心疝で二十年の永きには、茱萸と共に丸にして服す。【胡盧巴】附子、硫黃と共に丸にして服すれば、腎虛冷痛を治す。茴香、桃仁と併用すれば、膀胱の氣を治す。○炒り末にして茴香酒で服せば、小腸の氣を治す。○茴香と共に麪で丸にして服すれば、冷氣の疝瘕を治す。○沈香、木香、茴香と共に丸にして服すれば、陰癪腫痛を治す。【馬藺子】小腹の疝痛冷積には、末にして酒で服す。或は麪に拌ぜて煮て食ふ。【木香】小腸疝氣には、酒で煮て日毎に飲む。○小兒の(五)陰腫には、枳殼、甘草と共に煎じて服す。【玄胡索】氣を散じ、血を和し、經絡を通じ、小腹痛を止める。○全蠍と等分を鹽酒で服す　【艾葉】一切の冷氣、小腹痛には、香附と共に醋で煮て丸

(一)疝癪ハ和名センキ。

(二)育腸ハ小腹痛。

(三)木腎ハ脫腸ノコト。

(四)心疝ノ解、病源候論卷二十ニ見ユ。陰氣內ニ積ミ寒氣散セズシテ上心ヲ衝ク故ニ心疝ト云フ。其痛ヤ或ハ錐刀ニテ刺サルルガ如ク、或ハ陰陰トシテ疼ミ、或ハ四支逆冷シ、或ハ脣口變青ス、皆其候ナリ。

(五)陰腫ハ陰部腫脹。

にして服するが奇效がある。【牡蒿】陰腫には酒に擂つて服す。【紫金藤】男子の腎氣。「菜果」【蘹香】疝氣、膀胱育腸の氣には、酒で煎じ、粥に煮るも良し。〇杏仁、葱白と共に末にして酒で服す。〇又蠶沙と共に丸にして服す。〇荔枝と共に末にして服す。〇川椒と共に末にして服す。〇炒つて臍下を熨す。【薤白汁・木瓜】いづれも奔豚に主效がある。【橘核】膀胱、小腸の氣の陰㿉、腎冷には、炒つて研り酒で服す。或は丸にして服す。【荔枝核】小腸疝氣には、燒酒で服す。或は茴香、青皮を加へる。〇(六)陰㿉には、硫黃と共に丸にして服す。【胡桃】心腹疝痛には、燒いて研り酒で服す。【檳榔】奔豚、膀胱の諸氣には、半生半熟にして酒で服す。【吳茱萸】寒疝の往來するには、酒で煎じて服す。〇四制し、丸にして服すれば疝氣、新舊の偏墜諸氣を治す。【胡椒】疝氣に用ゐ、氣を散じ、欝を開く。玄胡索末と等分を茴香酒で服す。【蜀椒・橄欖核】陰㿉には、荔核、山査核と共に燒いて服す。【栗根】偏氣には、酒で煎じて服す。【茨根】偏墜氣塊には、切つて煮て食ふ。【桃仁】男子の陰腫、小兒の卵㿉には、炒り研つて酒で服し、外部にも傅ける。【山査核】「木石」【楝實】(七)癩疝腫痛には、五制し、丸にして服す。〇葉は疝が囊に入つて痛むに主效がある。酒で煎じて

(六) 陰㿉ハ脫腸。

(七) 癩疝ハ腸ガ鼠蹊部及陰囊部ニ偏ヘスル病。

(八)敗精ハ精液古キモノ。

(九)卵腫ハ外腎ノ腫脹。

(一〇)狐疝ハ陰癀ノ別名、積疝ニ同ジ。

(一一)差頹ハ陰核ニ大小アルモノ。

飲む。【蘇方木】偏墜腫痛には、酒で煮て服す。【楮葉】疝氣が嚢に入りたるには、末にして酒で服す。○木腎には、雄黃と共に丸にして服す。【阿魏】癩疝痛、(八)敗精、惡血が結して陰嚢に在るには、硇砂諸藥と共に丸にして服す。【牡荊子】小腸疝氣には、炒つて酒に擂つて服す。【杉子】一年の疝氣には、一粒を燒いて研り酒で服す。【鼠李子】疝瘕積冷には、九回蒸して酒に漬けて服す。【鐵秤錘】疝腫には、燒いて酒に淬して服す。【古鏡】小兒の疝硬には、煮汁を服す。【硇砂】疝氣(九)卵腫には、乳香と共に黃蠟で丸にして服す。「蟲類」【櫰香蟲】疝氣。【蜘蛛】大人、小兒の癀。○(一〇)狐疝で偏に大小のあるには、炒り焦して桂と共に末にして服す。【蜥蜴】小兒の陰癀には、灰に燒いて酒で服す。【杜父魚】小兒の(一一)差頹で核に大小あるには、魚を七回咬んで服すれば直に消す【淡菜】腰痛疝瘕。「禽獸」【烏雞】寒疝絞痛には、生地黃と共に蒸し汁を取つて服すれば寒癖を下し出す。【雞子黃】小腸疝氣には、溫水で攪ぜて服す。【雄雞翅】陰腫斗の如きには、その左右に隨ひ、翅の左右を灰に燒いて飲で服す。【雀】腎冷の偏墜疝氣には、茴香、縮砂、椒、桂と共に煨いて食ひ、酒で飲下す。○小腸疝には、金絲礬と共に研つて酒で服す。【雀卵・雀屎】いづれも疝瘕に效がある。【烏鴉】

偏墜疝氣には、煆いて研り、胡桃、蒼耳子と共に末にして酒で服す。【狐陰莖・貍陰莖】男子の卵癀には、灰に燒いて水で服す。

濕熱　「草部」【黄芩】小腹絞痛し、小便淋の如きには、木通、甘草と共に煎じて服す。【柴胡】肝、膽、三焦の火、疝氣の寒熱を平にする。【龍膽】厥陰の病で臍下から足まで腫痛するに用ゐる。【丹參】心の包絡を通ずる。【沙參・玄參】いづれも卒に疝氣を發して小腹、陰中が引痛し、極端に苦むものに主效がある。各〻酒で二錢を服す。【地膚子】膀胱の疝瘕。○疝で危急なるには、炒つて研り酒で服す。○狐疝、陰卵の癀疾には、白朮、桂心と共に末にして服す。【馬鞭草】婦人の疝氣には、酒で煎じて熱服し、湯で浴して汗を取る。【羌活】男子の奔豚、婦人の疝瘕。【海藻】疝氣の下墜、卵腫。【藁本・蛇牀子・白鮮皮】いづれも婦人の疝瘕に主效がある。【澤瀉・屋遊】「穀菜」【赤小豆】いづれも小腸、膀胱の奔豚の氣。【萵苣子】陰癀腫痛には、末にして煎じて服す。【絲瓜】小腸の氣痛が心に連るには、燒いて研り酒で服す。「果木」【梨葉】小兒の疝痛には煎じて服す。【巵子】濕熱が寒氣の爲に欝抑して藥を受付けぬには、巵子で濕熱を下し、烏頭で寒欝を去り、下焦に引入して胃中に留めぬ效力がある。

（一二）育腸氣痛ハ婦人ノ小腹痛。

【杏仁】・甘李根皮・桐木皮・訶梨勒】（水石）【甘爛水】いづれも奔豚の氣に主效がある。【代赭石】小腸疝氣には、火で煅き醋に淬し、末にして服す。【禹餘糧】（一二）育腸氣痛には、末にして飲で服す。【甘鍋】偏墜疝には、熱酒で服す。

痰積　（草木）【牽牛】腎氣痛には、川椒、茴香と共に猪腎に入れ、煨いて食へば惡物を下す。【射干】積痰、瘀血、疝毒を下す。○陰疝の刺痛には、搗汁を服して下す。また丸にして服す。【大黄】小腹の痛み、老血の留結。【甘遂】疝瘕。○偏氣には、茴香と共に末にし酒で服す。【狼毒】陰疝で極端に苦むには、防風、附子と共に丸にして服す。【荊芥】結聚の氣を破り、瘀血を下す。○陰癩腫痛には、焙じ末にして酒で服す。【蒲黄】五靈脂と共に用ゐ、諸疝痛を治す。【三稜】積を破る。【蓬莪茂】痃癖、婦人の血氣、男子の奔豚を破る。○一切の氣痛、疝痛には、煨いて研り葱酒で服す。【香附子】食積、痰氣の疝痛を治す。海石と共に末にし薑汁で服す。【商陸・天南星・貝母・芫花・防葵・巴豆・乾漆・五加皮・鼠李・山査】核も同じ。【枳實】末にして服す。【青橘皮】いづれも疝瘕、積氣に主效がある。【胡盧巴】小腸疝には、茴香、蒿蘮と共に丸にして服す、白膿を下して病根を去る。（蟲獸）【斑蝥】小腸の氣には、棗で

包んで煨いて食ふ。【芫青・地膽・桑螵蛸・雀糞・五靈脂】いづれも疝瘕に主效がある。【猬皮】疝積には、灰に燒いて酒で服す。

虛を挾むもの　【甘草】火を緩うし、痛を止める。【蒼朮】疝には濕熱が多く、虛を挾むものがある。それには先づ疏滌して後、參、朮を用ゐ、疏導の藥を佐とする。○虛損偏墜には、四制蒼朮丸を用ゐる。【赤箭・當歸・芎藭・芍藥】いづれも疝瘕に主效があり、肝を捜り、痛を止める。【山茱萸・巴戟・遠志・牡丹皮】いづれも奔豚、冷氣に主效がある。【熟地黃】臍下の急痛。【猪脬】疝氣の墜痛には、諸藥を入れて煮て食ふ。

陰㿗　「外治」【地膚子・野蘇・槐白皮】いづれも湯に煎じて洗ふ。【馬鞭草・大黃】醋に和す。【白堊土】いづれも塗り、傅ける。【蒺藜】粉にして摩する。【莧根】陰上の冷痛が腹に入つて危險なるに塗る。【熱灰】上記の病症には、醋で調へて塗る。【釜月下土】同上。【白頭翁】搗いて塗れば一夜のうちに瘡が出來、二十日にして癒える。【木芙蓉】黃蘗と共に末にし、木鼈子を醋に磨つたものと和して塗る。【雄雞翅灰】蛇牀子と共に末にして傅ける。【石灰】巵子、五倍子と共に末にし、醋で和して傅ける。

(一三)水㿗ハ陰嚢水腫。

【牡蠣粉】(一三)水㿗には、乾薑と共に末にして傅ける。【鐵精粉・蓬砂】水に研る。【地龍糞・馬齒莧】いづれも小兒の陰腫に塗る。【茱萸】冷氣の內外腎釣痛には、鹽と共に研つて罨ふ。【蜀椒】陰冷が漸次に嚢に入り、極端に苦むには、袋にこれを入れて包む。

本草綱目第三卷下終

本草綱目主治　第四卷　上

本草綱目主治目錄第四卷 上

百病主治藥 下

痛風 頭痛 眩運 眼目 耳
面 鼻 唇 口舌 咽喉
音聲 牙齒 鬚髮 胡臭 丹毒
風瘙疹痱 癧瘍癜風 瘿瘤疣痣 瘰癧 九漏
癰疽 諸瘡 上下
外傷諸瘡 漆瘡 凍瘡 皴裂 灸瘡湯火
金鏃竹木傷 跌仆折傷 腸出 杖瘡
五絕 縊死 溺死 壓死 凍死 驚死
諸蟲傷 蛇虺 蜈蚣 蜂蠆 蜘蛛 蠼螋 蠶蚝 蚯蚓 蝸牛 射工 沙虱 蛭 螻蛄 蟯 蠅
蚰蜒 辟除諸蟲

諸獸傷 虎狼 熊羆猪猫 犬猘 驢馬 鼠咬 人咬

諸毒 金石 草木 果菜 蟲魚 禽獸 蠱毒 諸物哽咽

婦人經水 帶下 崩中漏下 經水不止 五十行經

胎前 子煩 胎啼 產難 死胎 生胎 產後 下乳 回乳 斷產

陰病 陰寒 陰吹 陰腫痛 陰痒陰蝕 陰脫 產門不合 產門生合 脬損

小兒初生諸病

沐浴 解毒 便閉 不啼 不乳 吐乳 無皮 目閉 血眼 腎縮 解顱 顖陷 顖腫 項輭 龜背

語遲 行遲 流涎 夜啼 臍腫 臍風

驚癇 諸疳 痘瘡

百病主治藥　下

(一)痛風

風寒、濕熱に痰を挾むもの、及び血虛、汚血に屬する。

風寒風濕　「草木」【麻黃】風寒、風濕、風熱、痺痛に用ゐ、發汗する。【羌活】風濕が相搏つて全身盡く痛むものは、この藥以外では除けぬ。○松節と共に酒で煮て日毎に飲む。【防風】全身の骨節が盡く痛むに主效がある。乃ち風を治し、濕を去るの仙藥である。【蒼朮】風を散じ、濕を除き、痰を燥し、鬱を解し、汗を發し、上、中、下の濕氣を通治する。○濕氣で身體の痛むには、汁を熬膏し、點て服す。【桔梗】寒熱、(二)風痺、滯氣で痛みの上部にあるには、これを加へるがよし。【茜根】骨節痛を治し、濕を燥し、血を行らす。【紫葳】風熱、血滯痛を除く。【蒼耳子】風濕で(三)周痺し、四肢の拘痛するには、末にし煎じて服す。【牽牛子】氣分の濕熱、氣壅の腰脚痛を除く。【羊躑躅】風濕、痺痛の(四)走注するには、糯米、黑豆と共に酒水で煎じて服し、

(一)痛風ハ關節及筋肉僂麻質斯。

(二)風痺ハ氣血凝滯シテ手足拘攣スルモノ。

(三)周痺ハ其痺血脈ニ隨ツテ上下スルモノ。

(四)走注ハ擊痛遊走

スルモノ。
(五)風痰ハ眩運、頭風、眼目瞤動昏澁、脇肋脹痛、左癱右瘓、麻木、蹇跛スルヲ云フ。
(六)日晡ハ夕景。
(七)歴節風ハ關節ノ遊走痛ヲ云フ。
(八)陰痺ハ臓ノ中風ニテ熱ナキモノ。

吐き下す。○(五)風痰注痛には、生南星と共に餅に搗き、四五回蒸して貯へ、用ゐる時に焙じて丸にし、温酒で三丸を服して風を避けて靜臥する。【芫花】風濕痰注で痛むに用ゐる。【草烏頭】風濕痰涎で痛みが節節を順次に走つて止まぬには、豆腐の中に入れて煮て晒し、研つて五分づつを服し、外部の痛處にも傅ける。【烏頭・附子】いづれも濕痰を燥す。引經の藥である。【百靈藤】酒。【石南藤】酒。【青藤】酒。いづれも風濕の骨痛、頑痺に主效がある。【薏苡仁】久風、濕痺で筋急し、屈伸し得ぬに效がある。○風濕身痛が(六)日晡に甚しきには、麻黄、杏仁、甘草と共に煎じて服す。【豆豉・松節】筋骨痛を去り、能く血中の濕を燥す。○(七)歴節風痛で四肢が脱ける程痛むには、酒に浸して日毎に服す。【桂枝】諸藥を引いて手臂に横行する。椒、薑と共に酒に浸し、綿絮に潤して(八)陰痺を熨する。【海桐皮】腰膝の注痛、血脉の頑痺には、諸藥と共に酒に浸して服す。【五加皮】風濕の骨節攣痛には酒に浸して服す。【枸杞根及び苗】皮膚、骨節の間の風を去る。○子は腎を補ふ。「蟲獸」【蠶沙】酒に浸す。【蠍梢】肝風。【蚯蚓】脚氣に用ゐて良し。【穿山甲】風痺疼痛に用ゐ、經に引き、竅を通ずる。【守宮】經絡を通じて血分に入る。○歴節風痛には、地龍、草烏頭諸

（九）版ハ龜版、カメノカフ。
（一〇）白虎風痛ハ急性關節僂麻質斯ニシテ、痛ノ猛烈ナルヲ云フ。
（一一）經隧ハ經水ノ徑路。

藥と共に丸にして服す。【白花蛇】骨節の風痛。【烏蛇】同上。【水龜】風濕の拘攣し、筋骨の疼痛するには、天花粉、枸杞子、雄黃、麝香、槐花と共に煎じて服す。○（九）版もまた陰虛骨痛の方に入れる。【五靈脂】血を散じ、血を活し、諸痛を止める。引經に有效である。【虎骨】筋骨毒風の走注疼痛には、脛骨が尤も良し。○（一〇）白虎風痛の膝腫には、通草と共に煮て服し、汗を取る。○沒藥と共に末にして服す。○風濕痛には、附子と共に末にして服す。○頭骨は酒に浸して用ゐる。

風痰濕熱　「草部」【半夏・天南星】いづれも風痰、濕痰、熱痰が凝滯して歷節走注するを治す。右臂の濕痰痛には、南星、蒼朮を煎じて服す。【大戟・甘遂】いづれも濕氣が化して痰飲となつて胸膈經絡に流注し、發して上下走注し、疼痛麻痺するを治し、能く臟腑（一一）經隧の濕を泄す。【大黃】脾胃血分の濕熱を泄す。○酥で炒り煎じて服すれば、腰脚の風痛を治し、冷膿、惡物を下して痛みが止る。【威靈仙】風濕痰飲を治す、痛風の要藥である。上下いづれにもよし。○積年の腰膝、冷病諸痛には、末にして酒で飲み、或は丸にして服し、微し利して效がある。【黃芩】三焦の濕熱、風熱の歷節腫痛。【秦艽】陽明の風濕、濕熱を除き、血を養ひ、筋を盛にする。

【龍膽草・木通】煎じて服す。【防已・木鼈子】いづれも濕熱腫痛に主效がある。下部に在るものにこれを加へる。【薑黄】風痺臂痛を治す。よく手臂に入つて血中の滯氣を破るものである。【紅藍花】血滯を活し、痛を止める。瘦せた人によし。「菜果」【桃仁】血滯風痺の攣痛。【橘皮】滯氣を下し、濕痰を化す。○風痰の(一二)麻木。或は手が木し、或は十指が麻木するは、いづれも濕痰の死血である。これには橘皮一斤の白き部分を取去り、逆流水五盌で煮爛し、滓を去り一盌に熬つて頓服し、(一三)吐かす。吐痰の聖藥である。【檳榔】一切の風氣に用ゐ、能く下行する。「木石」【枳殼】風痺(一四)淋痺に用ゐ、痰を散じ、滯を流す。【黄蘗】下焦の濕熱痛腫を除く。下身に甚しきものにこれを加へる。【茯苓】濕熱を滲する。【竹瀝】熱痰を化す。【蘇方木】血を活し、痛を止める。【滑石】濕熱を滲する。「獸禽」【羚羊角】肝に入り、風を平げ、筋を舒べ、熱を止める。毒風の歷節掣痛に效がある。【羊脛骨】濕熱を除き、腰脚の筋骨痛を止める。酒に浸して服す。

補虛　「草部」【當歸・芎藭・芍藥・地黄・丹參】いづれも新血を養ひ、宿血を破り、

(一二)麻木ハ麻痺シテ感覺ヲ失フコト。手木ハ手ノ麻痺スルコト。
(一三)吐字、金陵本ニ工ニ作ル、吐ノ誤ナルコト必セリ。
(一四)淋ハ麻字ノ誤、金陵本亦淋ニ作ル。

(一五)不仁ハ感覺ノ亡失。

痛を止める。【牛膝】肝腎を補ひ、惡血を逐ひ、風寒、濕痺の膝痛で屈伸し得ぬを治し、能く諸藥を下行する。痛みの下部に在るにこれを加へる。【石斛】脚膝の冷痛、痺弱には、酒に浸し酥で蒸して服す。一錢まで服すれば永く骨痛を患はぬ。【天麻】諸風濕痺の(一五)不仁に用ゐ、肝虚を補ひ、腰膝を利す。○腰脚痛には、半夏、細辛と共に袋に盛り、蒸熱して熨す。汗を出して癒える。【萆薢・狗脊】寒濕で膝が痛み、腰背の強ばるに用ゐ、肝腎を補ふ。【土茯苓】瘡毒の筋骨痛を治し、風濕を去り、關節を利す。【鎖陽】燥を潤し、筋を養ふ。「穀木」【罌粟殼】收歛して氣を固くし、能く腎に入る骨痛を治するに尤もよし。【松脂】歴節風の酸痛には、錬淨して酥に和し煎じて服す。【乳香】腎を補ひ、血を活し、諸經の痛みを鎮定する。【沒藥】經絡の滯血を逐ひ、痛みを鎮める。○歴節諸風痛の止まぬには、虎脛骨と共に末にして酒で服す。

外治　【白花菜】風濕痛に傅ける。【芥子】走注風毒痛には醋と共に塗る。【蓖麻油】膏に入れて用ゐ、風邪を拔いて外に出す。【鵝鸛油】膏に入れて用ゐ、藥氣を引いて內に入れる。【羊脂】膏に入れて用ゐ、藥氣を引いて內に入れ、邪を拔いて外に

出す。【野駝脂】風痛を摩す。【牛皮膠】薑汁と共に化して骨節痛に貼る。【驢骨】歴節風を治する。【蠶沙】蒸して熨す。

頭痛

外感、氣虚、血虚、風熱、濕熱、寒濕、(一)痰厥、(二)腎厥眞痛、偏痛である。○右の痛むは風虚に屬し、左の痛むは痰熱に屬する。

引經 【太陽】麻黄、藁本、羌活、蔓荊。【陽明】白芷、葛根、升麻、石膏。【少陽】柴胡、芎藭。【太陰】蒼朮、半夏。【少陰】細辛。【厥陰】吳茱萸、芎藭。

濕熱痰濕 〔草部〕【黄芩】ただ一味を酒に浸して炒り、研つて茶で服すれば、風濕、濕熱、相火偏正等諸般の頭痛を治す。【荊芥】風熱を散じ、頭目を淸くする。○枕に作つて用うれば、頭項の風を去る。○石膏と共に末にして服すれば、風熱頭痛を去る。【薄荷】風熱を除き、頭目を淸くする。蜜で丸にして服す。【菊花】頭目の風熱腫痛には、石膏、芎藭と共に末にして服す。【蔓荊實】頭痛で腦が鳴るやうに覺え、目から涙の出るものに用ゐる。○太陽の頭痛には、末にして酒に浸して服す。【水蘇】風熱痛には、皂

(一)痰厥ハ胃腸病ノ為ニ氣絶スルヲ云フ。
(二)腎厥頭痛ハ頭痛シテ臥ヲ嗜マザルヲ云フ。

莢、芫花と共に丸にして服す。【半夏】痰厥頭痛はこれ以外では除けぬ。蒼朮と共に用ゐる。【栝樓】熱病の頭痛には、瓤を洗つて温服する。【香附子】氣鬱頭痛には、川芎と共に末にして常に服す。○偏頭風には、烏頭、甘草と共に丸にして服す。【大黄】熱厥頭痛には、酒で三回炒つて末にし茶で服す。【釣藤】肝風、心熱を平にする。【茺蔚子】(三)血逆大熱の頭痛。【木通・青黛・大青・白鮮皮・茵陳・白蒿・澤蘭・沙參・丹參・知母・呉藍・景天】いづれも天行頭痛に主效がある。【前胡・旋覆花】「菜果」【竹筍】いづれも痰熱頭痛に主效がある。【東風菜・鹿藿・苦茗】いづれも風熱頭痛を治す。○上を清くし、痛を止める、葱白と共に煎じて服す。○巴豆で烟薫して服すれば、氣虚の頭痛を止める。【楊梅】頭痛には、末にして茶で服す。【橘皮】「木石」【枳殼】いづれも痰氣頭痛に主效がある。【欅皮】時行頭痛で熱結が腸に在るものに用ゐる。【枸杞】寒熱頭痛。【竹茹】飲酒家の頭痛には、煎じて服す。【竹葉・竹瀝・白瀝】いづれも痰熱頭痛。【黄蘗・梔子・茯苓・白堊土】いづれも濕熱頭痛。○王瓜と合せ末にして服すれば疼きを止める。【石膏】陽明の頭痛で裂けるやうに痛み、壯熱火の如くなるに用ゐる。○風熱には、竹葉と共に煎じる。○風寒には、葱、茶と共

(三) 血逆ハ墜墮閃挫ノ後、瘀血胃心下ニ集リ、食スレバ吐スルモノ。

(四) 腦戶ノ穴ハ後頭部風府ノ上ニアリ。

(五) 頭面風ハ陸運ノ別名。

に煎じる。○風痰には、川芎、甘草と共に煎じる。【鐵粉】頭痛で鼻の塞がるには、龍腦と共に水で服す。【光明鹽】〔獸人〕【犀角】傷寒の頭痛、寒熱、諸毒の氣痛【童尿】寒熱頭痛の激甚なるものには、一盞に葱、豉を入れて煎じて服す。陶隱居は盛にこれを推稱した。

風寒濕厥　〔草穀菜果〕【芎藭】風が(四)腦戶に入つて頭痛するに用ゐ、氣を行し、欝を開く。必用の藥である。○風熱、及び氣虛には、末にして茶で服す。○偏頭風には、酒に浸して服す。○卒厥には、烏藥と共に末にして服す。【防風】(五)頭面風の去來するに用ゐる。○偏正頭風には、白芷と共に蜜で丸にして服す。【天南星】風痰の頭痛には、荊芥と共に丸にして服す。○痰氣には、茴香と共に丸にして服す。○婦人の頭風には、末にして酒で服す。【烏頭・附子】酒に浸して服す。豆を煮て食へば頭風を治す。○白芷と共に末にして服すれば風毒痛を治す。○川芎と共に、或は高良薑と共に服すれば風寒痛を治す。○葱汁と共に丸にし、或は鍾乳、全蠍と共に丸にして用うれば氣虛痛を治す。○全蠍、韮根と共に丸にすれば腎厥痛を治す。○釜墨と共にすれば痰厥痛を止める。【天雄】頭面風の去來痛。【草烏頭】偏正頭風には、蒼朮、葱汁と共

に丸にして服す。【白附子】偏正頭風には、牙皂と共に末にして服す。〇痰厥痛には、半夏、南星と共に丸にして服す。【地膚子】(六)雷頭風腫には、生薑と共に擂つて酒で服し、汗を取る。【杜衡】風寒頭痛の初起には、末にして服し、發汗する。【蒴藋】酒で煎じて汗を取る。【蓖麻子】川芎と共に燒いて服し、汗を取る。【萆薢】虎骨、旋覆花と共に末にして服し、汗を取る。【南藤】酒に釀して服す。いづれも頭風を治す。【通草】燒いて研り酒で服すれば(七)洗頭風を治す。【菖蒲】頭風で涙の出るものに用ゐる。【杜若】風が腦戸に入つて痛腫し、涙の出るものに用ゐる。【胡盧巴】(八)氣攻痛には、三稜、乾薑と共に末にして酒で服す。【牛膝】腦中の痛み。【當歸】酒で煮る。【地黃・芍藥】いづれも血虛痛。【葳蕤・天麻・人參・黃耆】いづれも氣虛痛。【蒼耳・大豆黃卷】いづれも頭風痺。【胡麻】(九)頭面の遊風。【百合】頭風目眩。【胡荽・葱白・生薑】いづれも風寒頭痛。【杏仁】時行頭痛に用ゐて肌を解す。〇(一〇)風虛痛で破れるやうに痛むには、研汁を粥に入れて食へば、大いに汗を出して解す【茱萸】厥陰の頭痛、嘔涎には、薑、棗、人參と共に煎じて服す。【蜀椒・枳椇】「木石蟲獸」【柏實】いづれも頭風に主效がある【桂枝】傷風頭痛の自汗。【烏藥】氣厥、頭痛及び產後の頭痛には、川芎

(六)雷頭風腫ハ頭部丹毒、俗ニナベカブリ、又耳ナリトモ云フ。

(七)洗頭風ハ頭痛シテ頭部ノミ汗出ヅルモノ。

(八)氣攻痛ハ氣痛ノ別名歟、氣痛ハ痛ムトキハ熱シ、痛去レバ熱氣去リ、其痛移動スルモノヲ云フ。

(九)頭面遊風ハ頭面ニ發スル腫脹。

(一〇)風虛痛、杏仁附方ニハ風虛頭痛トアリ、風邪ノ爲ニ發スル頭痛ナラン。

と共に末にして茶で服す。【皂莢】時氣頭痛には、燒き研つて薑と共に蜜水で服し、汗を取る。【山茱萸】腦骨痛。【辛夷・伏牛花・空青・曾青】いづれも風眩頭痛。【石硫黄】腎厥頭痛、頭風には、消石と共に丸にして服す。○胡粉と共に丸にして服す。○食鹽と共に丸にして服す。○烏藥と共に丸にして服す。【蜂子・全蠍・白殭蠶】葱湯で服す。或は高良薑を入れ、或は蒜で制し、末にして服すれば、痰厥、腎厥痛を治す。【白花蛇】(一)腦風頭痛及び偏頭風には、南星、荊芥諸藥と共に末にして服す。【魚鰾】(二)八種の頭風には、芎、芷と共に末にし(三)衙酒で熱して飲む。醉が醒めると同時に癒える。【羊肉】頭腦の大風で汗の出る虛勞に用ゐる。【羊屎】雷頭風病には、焙じ研つて酒で服す。

吐痰　風、及び痰飲の條を見よ。

外治　【穀精草】末にして鼻に入れ、糊に調へて腦に貼り、烟に燒いて鼻を熏ずる。【玄胡索】牙皂、青黛と共に丸にする。【瓜蒂・藜蘆・細辛・蒼耳子・大黄・遠志・蓽茇・高良薑・牽牛】砂仁、楊梅と共に末にする。【蕓薹子・皂莢・白棘鍼】丁香、麝香と共に用ゐる。【雄黄】細辛と共に用ゐる。【玄精石・消石・人中白】地龍と共に

(一)腦風ハ大寒腦ヲ犯シ、人ヲシテ腦齒連痛セシムルヲ云フ。
(二)八種ノ頭風トハ、耳、目、鼻、口、眉稜、頭項、腦、頭皮ノ八ヲ云フ。頭風ハ頭痛ノ一名、又常ニ發スル頭痛ヲ頭風ト云フ。
(三)衙酒、金陵木衙酒ニ作ル、産地名ヲ云フカ。

（一四）太陽ノ穴ハ目尻ニアル經穴。

末にし、羊膽で丸にする。【旱蓮汁・蘿蔔汁・大蒜汁・苦瓠汁】いづれも鼻に嗜く。【艾葉】揉んで丸めて嗅げば黄色の水を出す。【蓖麻仁】棗肉と共に紙に卷いて鼻へ挿入する。【半夏烟・木槿子烟・龍腦烟】いづれも鼻に熏ずる【燈火】焠く。【蕎麥麪】大きな餅にして更互に頭を包み、汗を出す。○或は小さき餅にして眼の四角へ貼り、それに灸する。【黄蠟】鹽に和して兜鍪に作り、頭を包めば止る。【麝香】皂莢と共に末にして頂上に置き、炒鹽でそれを熨す。【茱萸葉】蒸熱して枕すれば、大寒の腦を犯した痛みを治す。また頭を浴す。【桐木皮・冬青葉・石南葉・牡荊根・槵子皮・莽草・葶藶・豉汁・驢頭汁】いづれも頭風を治す。【全蠍】地龍、土狗、五倍子と共に末にする。【柚葉】葱白と共に用ゐる。【山豆根・南星】川烏と共に用ゐる。【烏頭・草烏頭】巵子、葱汁と共に用ゐる。【乳香】蓖麻仁と共に用ゐる。【決明子】いづれも（一四）太陽の穴に貼る【露水】八月一日の朝に取り、墨を磨つて太陽に點すれば頭疼を止める。【桂木】曇り雨の日毎に痛むには、酒で調へて頂と額とに塗る。【井底泥】消、黄と共に傅ける。【朴消】熱痛には、頂上に塗る。【訶子】芒消と共に醋で摩す。【牛蒡根】酒と共に煎じ膏にして摩す。【綠豆】枕にして用られば頭風を去

る　○決明、菊花いづれもよし。【麥麪】頭皮の虚腫で薄く水を裹んだやうなるには、水で嚼んで傅けるが良し。【卮子】蜜に和して舌上に傅ければ、涎を追ひ、風を去るに甚だ妙である。

眩運

眩は目がくらむことであり、運は頭がぐらぐらすることである。いづれも氣虚に痰を挾み、火を挾み、風を挾み、或は血虚を挾み、或は四氣の外感を兼ねるものである。

風虚　「草菜」【天麻】目がくらみ、頭がぐらぐらするは、風虚が内に發作するのである、この藥でなければ除き得ない。風を治するの神藥であつて、定風草と名ける。○首風の旋運に用ゐ、痰を消し、風を定める。川芎と共に蜜で丸にして服す。【朮】頭が突然眩運し、(一)痩削し、土を食ふには、麪と共に丸にして服す。○産後の(二)血運で危險なるには、童尿で調へて服す。【白芷】頭風、(三)血風の眩運には、蜜で丸にして服す。【蒼耳子】諸風の頭運には、蜜で丸にして服す。○婦人の血風の

(一)痩削ハヤセルコト。
(二)血運ハ血風ニ同ジ。
(三)血風ハ女人經水

逆上シテ眩運ヲ發スルモノ。
(四)頭顱ノ正中ヲ百會ト云フ、是レ頂門ナリ。

頭旋で悶絶し、人事不省となるには、末にして酒で服す。能く(四)頂門を通ずる。【菊苗】男女の頭風で眩運し、髮が落ち、痰があつて、發作すれば昏倒するには、四月に採つて陰乾し、末にして酒で二錢づつ服す。秋季には花を採つて酒に浸し、或は酒に釀して服す。【蒴藋根】頭風旋運には、獨活、石膏と共に酒で煎じて服す ○產後の血運には煎じて服す。【貝母】惡風寒の目眩項直を洗ふ。【杜若】風が腦戶に入つて眩倒し、亂視するもの。【釣藤】肝風、心火の頭旋目眩を平にする。【排風子】目赤く、頭の旋運するには、甘草、菊花と共に末にして用ゐる。【當歸】失血眩運には、芎藭と共に煎じて服す。【芎藭】首風の旋運。【紅藥子】產後の血運。【附子・烏頭・薄荷・細辛・木香・紫蘇・水蘇・白蒿・飛廉・卷柏・蘼蕪・羗活・藁本・地黃・人參・黃芪・升麻・柴胡・山藥】いづれも風虛の眩運を治す。【生薑】「木蟲鱗獸」【松花】頭旋腦腫には、酒に浸して飲む。【槐實】風眩で倒れんとし、涎を吐き、醉へるが如くふらふらとして舟か車に在る如きもの。【辛夷】眩冒で身が舟車に在る如きもの。【蔓荊實】腦鳴、昏悶【伏牛花・丁香・伏神・茯苓・山茱萸・地骨皮・全蠍・白花蛇・烏蛇】いづれも頭風眩運。【鹿茸】眩運で一物が二物に見ゆる如きには、半兩を酒で煎じ麝を

入れて服す。【驢頭】中風で頭眩し、身顫ひ、心、肝の浮熱するには、豉と共に煮て食ふ。【兎頭骨及び肝・羚羊角・羊頭蹄及び頭骨・羊肉・牛胃・猪脳・猪血・熊脳】いづれも風眩、痩弱に主效がある。

痰熱　「草菜」【天南星】風痰の眩運、吐逆には、半夏、天麻、白麪と共に煮て丸にする。【半夏】痰厥の昏運には、甘草、防風と共に煎じて服す。○風痰眩運には、研末して水で沈澱させた粉を硃砂を入れて丸にして服す。○金花丸——南星、寒水石、天麻、雄黄、白麪と共に煮て丸にして服す。【白附子】風痰には、石膏、硃砂、龍脳と共に丸にして服す【大黄】濕熱眩運には、炒つて末にし茶で服す。【旋覆花・天花粉・前胡・桔梗・黄芩・黄連・澤瀉・白芥子】熱痰煩運には、黒芥子、大戟、甘遂、芒消、硃砂と共に丸にして服す。「果木」【橘皮・荊瀝・竹瀝】頭風の旋運、目眩で心頭がむかむかして吐かんとするものに用ゐる。【枳殼・黄蘗・卮子】「金石」【石膽】婦人の頭運で天地轉動する如きを心眩と名ける。血風ではない。これには胡餅で剤和し、小塊に切つて焙乾し、一塊づつ竹茹湯で服す。【雲母】中風寒熱で船に在る如きには、恒山と共に服し、痰飲を吐く。【石膏】風熱。【鉛汞】結砂して用ゐる。【硫黄・消石】

(五) 痰門ハ痰ヲ治スル薬門トイフ意。

(一) 赤目傳變ハ眼ニ赤色ノ異狀ヲ呈スルヲ云フ。

(二) 內障昏盲ハソコヒ。

(三) 外障瞖膜ハウハヒ、角膜病其他ノ外障。

(四) 眯ハ字書ニ物目中ニ入ルナリトアリ。

(五) 消末ハ消抹ノ誤ナラン。

(六) 羞明ハ腺病性結膜炎。

(七) 爛弦風ハ羞明ニ同ジ。

いづれも上盛下虛の痰涎、眩運を除く。【硃砂・雄黃】「蟲禽」【白殭蠶】いづれも風痰。【鶻嘲】頭風の目眩には、一箇を炙いて食ふ。【鷹頭】頭、目の虛運には、川芎と共に末にして服す。【鴟頭】頭風旋運。○藺茹、白朮と共に丸にして服す。

外治 【甘蕉油】痰を吐す。【瓜蒂】痰を吐す。○(五)痰門吐法に用うべきものである。【茶子】頭中の鳴響するには、末にして鼻に嗃く。

眼目

(一)赤目傳變、(二)內障昏盲、(三)外障瞖膜、物に傷され目を(四)眯するものなどである。

赤腫 「草部」【黃連】赤腫を(五)消末し、肝、膽、心の火を瀉す。久しく服してはならぬ。○赤目痛痒で涙が出て(六)羞明するには、雞子白に浸して點ける。○人乳で蒸して點ける。○冬青と共に煎じて點ける。○乾薑、杏仁と共に煎じて點ける。○水で調へて足心に貼る。○(七)爛弦風赤には、人乳、槐花、輕粉と共に蒸して熨す。風熱の盲瞖には、羊肝で丸にして服す。【胡黃連】人乳に浸して赤目に點ける。○小兒には足心に塗る。【黃芩】腫赤瘀血を消す。【芍藥】目赤濇痛に用ゐ、肝を補ひ、目

（八）目中黄、眼中ノ黄暋ナ云ノ。
（九）目濇ハ結膜炎ノ類。

を明にする。【桔梗】赤目腫痛。○肝風盛にして黒睛の痛むには、牽牛と共に丸にして服す。【白牽牛】風熱赤目には、葱白と共に煮て丸にする。【龍膽】赤腫で瘀肉が隆起し、痛み忍び難きに用ゐ、肝、膽の邪熱を除き、（八）目中黄を去る。柴胡を佐として用ゐる。眼疾に必用の藥である。○暑季の（九）目濇には、黄連汁と共に點ける。○漏膿には、當歸と共に末にして服す。【葳蕤】目痛で眥が爛れ、涙の出るに用ゐる。○赤目濇痛には、芍藥、當歸、黄連と共に煎じて洗ふ。【白芷】赤目胬肉。頭風が目を侵し、痒く涙の出るに用ゐる。○一切の目疾には、雄黄と共に丸にして服す。【薄荷】風熱を去る。○爛弦には、薑汁で浸して研り、湯に泡けて洗ふ。【荊芥】頭、目一切の風熱疾には、末にして酒で服す。【藍葉】赤目熱痛には、車前、淡竹葉と共に煎じて服す。【山茵陳】赤腫には、車前子と共に末にして洗ふ。【王瓜子】赤目痛濇には、槐花、芍藥と共に丸にして服す。【香附子】肝虚で睛痛し羞明するには、夏枯草と共に末にして沙糖水で服す。○頭風睛痛には、川芎と共に末にして茶で服す。【防已】目睛の暴痛には、酒で三回洗つて末にして服す。【夏枯草】厥陰の血脈を補養する。故に目痛を治すること神の如きものである。【菖蒲】諸種の赤目には、搗汁を熬膏して點ける。

○鱧と共に傅けて(一〇)挑鍼する。【地黄】血熱で睡りから起きたとき目が赤くなるには、粥に煮て食ふ。○暴の赤痛、小兒の(一一)蓐内目赤、いづれもこれを貼る。【地膚子】風熱目赤には、地黄と共に餅にし、晒し研つて服す。【苦參・細辛】いづれも目を明にし、肝、膽を益し、(一二)風眼の下涙を止める。【黄芪・連翹】又爛弦を洗ふ。【大黄】いづれも熱毒赤目に主效がある。【赤芍藥・白及・防風・羌活・白蘚皮・柴胡・澤蘭・麻黄】いづれも風熱の赤目腫痛に主效がある。【野狐漿草汁・積雪草汁・瞿麥汁・車前草汁】いづれも赤目に點ける。○葉もまた貼る。【千里及汁】爛弦風眼に點ける。【五味子】蔓荊子と共に煎じる。【覆盆草汁】風爛眼に滴せば蟲を去る。【五味子】蔓荊子と共に煎じて爛弦を洗ふ。【艾葉】黄連と共に水で煎じて赤目を洗ふ。【附子】暴の赤腫痛には、粟粒ほどを目に入れる。【高涼薑】鼻に吹けば赤を退ける【狗尾草】赤目をはつきりさせ、惡血を去る【石斛】川芎と共に鼻に嗃けば(一三)倒睫を起す。【木鼈子】鼻を塞げば倒睫を起す。(蔬菜)【豊泔澱】地黄と共に赤目に貼り、熨す。【豆腐】蒸して貼る。【黒豆】袋に盛つて泡け、熱して互に數十回熨す。【燒酒】(一四)火眼を洗ふ。【生薑】目の暴に赤腫せるには、汁を取つて點ける。【乾薑】目睛が久しく赤きもの、及び

(一〇)挑鍼ハ手術ノ針。
(一一)蓐内目赤ハ嬰兒膿性結膜炎。
(一二)風眼ハ結膜化膿性炎。
(一三)倒睫、サカマツゲ。
(一四)火眼ハ結膜炎。

（一五）胎赤眼ハ嬰兒膿性結膜炎。

冷涙が出て痒きには湯に泡けて洗ひ、粉を取つて點けるが尤も妙である。○末にして足心に貼る。【東風菜】肝熱目赤には、羹にして食ふ。【薺菜・枸杞菜】「果部」【西瓜】日で乾し、末にして服す。【石蓮子】眼赤く痛むには、粳米と共に粥にして食ふ。【梨汁】胬肉に點ける。○赤目には、膩粉、黄連末を入れる。【甘蔗汁】黄連と合せ煎じて暴赤腫に點ける。【杏仁】古錢と共に埋め、水に化して目中赤脈に點ける。○膩粉と共に小兒の血眼に點ける。○油で燒烟して（一五）胎赤眼に點ける。【酸榴皮】目涙に點ける。【鹽麩子】「木部」【海桐皮・山礬葉】薑と共に熱水に浸す。【黄櫨】いづれも風赤眼を洗ふ。【桐油】風眼を烙く。【秦皮】赤目腫を洗ふ。暴腫には、黄連、苦竹葉と共に煎じて服す。【黄蘗】目熱赤痛には、陰火を瀉す。時行赤目には、水に浸し蒸して洗ふ。嬰兒の赤目には、人乳に浸して點ける。【巵子】目赤熱痛に用ゐ、目を明にする。【枸杞根皮】天行赤目を洗ふ。【楮枝灰】湯に泡けて赤目を洗ふ。【欅皮】飛血赤目を洗ふ。【欒華】目痛で眥が爛れ、赤く腫れたるには、黄連と合せ煎じて點ける。【槐花】目赤を退ける。○胎赤には、枝を銅器で磨つて汁を塗る。【冬青葉】黄連と共に熬膏して諸赤眼に點ける。子の汁もよし。朴消と共に點ける。【木芙蓉葉】赤目痛には、水に

（一六）目胞、マブタ。

和して太陽穴の上に貼る。【丁香】諸種の病の目に在るには、黄連と共に乳で煎じて點ける。【蕤核仁】胡粉、龍腦に和して爛赤眼に點ける。【郁李仁】龍腦に和して赤目に點ける。【淡竹瀝】赤目に點ける。【荊瀝】赤目に點ける。【訶梨勒】蜜に磨つて風眼に點ける。【桑葉】赤目淸疼には、末を紙に卷き込み、燒烟して鼻中を熏ずる。【白棘鈎】倒睫に點ける。【靑布】目痛滲淸、及び病後目赤で瞖あるには、炙熱して就寢時に熨す。「水土」【熱湯】赤目に沃ぐ。【白堊】赤爛眼、倒睫には銅靑と共に湯に泡けて洗ふ。【古磚】厠中に浸して取り出し、それに生じた霜を赤目に點ける。「金石」【金環・銅匙】いづれも風赤、風熱眼を烙く。【瑪瑙】赤爛を熨す。【水精・玻璨】熱腫を熨す。【琉璃】水に浸して目赤を熨す。【膽礬】風赤爛眼に點ける。【爐甘石】火に煆いて童尿に淬し、研つて風濕の爛眼に點ける。○朴消と共に泡けて風眼を洗ふ。【芒消】風赤眼を洗ふ。【白礬】銅靑と共に風赤眼を洗ふ。○甘草水で調へて（一六）目胞に貼れば赤腫を去る。【靑鹽】赤爛眼、及び倒睫、及び暴赤眼を洗ふ。【石膽】風赤眼を洗へば疼きを止める。【緑鹽】蜜と共に胎赤眼に點ける【光明鹽・牙硝・消石】赤目疼に點ける。【鹵鹼】靑礬、古錢と共に湯に浸して風熱赤目に點ける ○一切の目疾には、紙に

包んで風の吹く處へ置き、日毎に取つて點ける。○石灰と共に醋で倒睫に傅ける。【古錢】薑汁に磨つて赤目腫痛に點ける。蜜に磨り、艾で烟熏して赤目に生じた瘡にに點ける。【銅靑】水に和して盌の中へ塗り、艾で烟熏して乾し、爛眼の涙の出るに貼る。【無名異】燈に點けて倒睫毛を熏ずる。【石燕】水に磨つて倒睫に點ける。【鉛丹】烏賊骨、木蜜と共に調へて赤目に點ける。○太陽に貼れば腫痛を止める。【土朱】石灰と共に赤目腫閉に貼る。【玄精石】目に赤脈を生ぜるには、甘草と共に末にして服す。○目赤く濇痛するには、黃蘗と共に點ける。【井泉石】風腫赤目には、穀精草、井中苔、豆豉と共に末にして服す。○眼瞼赤腫には大黃、巵子と共に服す。【石膏】

「蟲部」【五倍子】風赤爛眼に主效がある。研つて傅け、或は燒いて黃丹に入れる。○白堊土、銅靑と共に泡けて洗ふ。○蔓荊子と共に煎じて洗ふ。○その中の蟲を爐甘石と共に點ける。【泥中蛆】洗ひ晒し研つてり赤目に貼る。【蠅】倒睫には鼻に嗃く。【人虱】倒睫に用ゐ、毛を拔く。○血を取つて點ける。「介鱗」【穿山甲】倒睫には、羊腎脂で炙いて鼻に嗃く。火眼には、燒烟して熏ずる。【守宮糞】赤爛眼に塗る。【田嬴】鹽に入れ汁に化して肝熱目赤に點ける。○黃連、眞珠を入れて用ゐれば目痛を止める。○

銅綠を入れて爛眼に點ける。【海蠃】同じ。【蚌】赤目で見えぬには、黃連を入れ汁を取つて點ける。【海螵蛸】銅綠と共に湯に泡けて婦人の血風眼を洗ふ。【鯉魚膽・青魚】「禽獸」【烏雞膽・鴨膽・雞子白】いづれも赤目に點ける。【雞卵白皮】風眼腫痛には、枸杞白皮と共に鼻に嗃く。【雞冠血】目涙の止らぬに點ける。【驢乳】黃連を浸して風熱赤目に點ける。【驢尿】鹽と共に胬肉に點ける。【豬膽・犬膽・羊膽】蜜で九回蒸して用ゐる。【熊膽】いづれも赤目に點ける。【猬膽】「人部」【小兒臍帶血】いづれも(一七)痘風眼に點ける。【人乳汁】赤目の涙多きに點ける。○雀糞に和して胬肉に點ける。【人尿】赤目を洗ふ。【耳塞】一切の目疾に點ける。【頭垢】赤目に點ける。

昏盲　「草部」【人參】氣を益し、目を明にする。○酒毒の目盲には、蘇木湯で末を調へて服す。○小兒の驚後に瞳の不正なるには、阿膠と共に煎じて服す。【黃精】肝を補ひ、目を明にする。蔓荊子と共に九蒸九晒し、末にし日每に服す。【蒼朮】肝を補ひ、目を明にする。熟地黃と共に丸にして服す。○茯苓と共に丸にして服す。○(一八)青盲、雀目には、猪肝、或は羊肝と共に粟米湯で煮て食ふ。(一九)目昏濇には、木賊と共に末にして服す。○小兒の目濇で開かぬには、豬膽と共に煮て丸にして服す。【玄

(一七)痘ヨリ起ル風眼。
(一八)青盲ハ綠內障、アキツコヒ。雀目ハトリメ。
(一九)目昏濇ハ結膜炎。

參】腎を補ひ、目を明にする。○赤脈が瞳を貫くには、豬肝に末を蘸けて服す。【當歸】(一〇)內虛目暗には、附子と共に丸にして服す。【青蒿子】目濇には、末にして日每に服す。久しうすれば目が明になる。【蒼耳子】末を粥に入れて食へば目を明にする。【地黃】陰を補ひ、目の䀮䀮として見えぬに主效がある。○腎を補ひ、目を明にする。椒、紅と共に丸にして服す。【麥門冬】目を明にし、身を輕くする。地黃、車前と共に丸にして服す。【決明子】肝、膽の風熱(一一)淫膚の(一二)赤白膜、青盲を除く。○腎を益し、目を明にする。每朝一匙づつ吞めば、百日の後には夜間物の光を見得る。○肝を補ひ、目を明にする。蔓菁と共に酒で煮て末にし、日每に服す。○積年の失明、青盲、雀目には、末にして米飲で服し、或は地膚子を加へて丸にして服す。【地膚子】虛を補ひ、目を明にする。地黃と共に末にして服す。葉で雀目を洗ふ。熱暗、淸痜を去る。○汁を物で傷めた(一三)睛陷に點ける。【車前子】目を明にし、肝中風の熱毒が衝眼して赤痛し、障瞖し、腦痛し、淚の出るを去る。○風熱目暗には、黃連と共に末にして服す。○目昏障瞖には肝腎を補ふ。地黃、菟絲子と共に丸にして服す。これを駐景丸と名ける。【蒺藜】三十年の失明には、末にして日每に服す。

(一〇)內虛目暗ハ弱視ヲ云フ。
(一一)淫膚ハ角膜ヲ侵スコト。
(一二)赤白膜ハ星瞖、メボシ。
(一三)睛陷ハ瞳子ノ外障ノコトナラン。

【兎絲子】肝を補ひ、目を明にする。酒に浸して丸にして服す。【營實】目熱暗には、枸杞子、地膚子と共に丸にして服す。【千里及】熱を退け、目を明にする。甘草と共に煮て服す。【地衣草】雀目を治す。末にして服す。【葳蕤】眼に黒花を見る昏暗痛赤には、毎日煎じて服す。【淫羊藿】病後の青盲には、淡豉と共に煎じて服す。○小兒の雀目には、蠶蛾、甘草、射干と共に末にし、羊肝に入れて煮て食ふ。【天麻・芎藭・萆薢】いづれも肝を補ひ、目を明にする。【白朮】目涙の出るに用ゐる。【菊花】風熱目疼で脱けるやうに覺え涙の出るに用ゐ、目を養ひ、盲を去る。枕にして用うれば目を明にする。○葉も同じ。【五味子】腎を補ひ、目を明にする。瞳子の散じたるを收める。【覆盆子】肝を補ひ、目を明にする。【茺蔚子】精を益し、目を明にする。瞳子の散大したものは用ゐてはならぬ。【木鼈子】痘後の目盲には、胡黄連と共に丸にして服す。【龍腦・薄荷】暑季の目昏には、汁を取つて點ける。【箬葉灰】淋汁で一切の目疾を洗ふ。【柴胡】目暗には、決明子と共に末にし、人乳に和して目の上に傅ける。久しくして目に五色を視得る。【薺苨・地楡・蓍實・艾實・牛蒡子・蓼子・款冬花・瞿麥・通草・柴胡・細辛・鱧腸・酸漿子・萱草・槌胡根・紅草根】

「穀菜」【赤小豆・腐婢・白扁豆】

いづれも目を明にする【大豆】肝虚の目暗には、牛膽に盛つて夜間三七粒を呑む。【苦蕎皮】黒豆、緑豆皮、決明子、菊花と共に枕にして用ゐれば、老年に達して視力が衰へぬ。【葱白】目に歸し、精を益し、肝中の邪氣を除く。【葱實】粥に煮て食へば目を明にする。【蔓菁子】目を明にし、氣を益し、物を洞視し得る。水で三回煮て苦味を去り、日に乾し末にして水で服す。〇あるひは醋で煮、或は醋で三回蒸し、末にして服すれば、青盲を十中の九まで治癒する。〇或は決明子を加へて酒で煮、或は黄精を加へて九蒸九晒する。〇花を末にして服すれば、虚勞目暗を治す。【芥子】雀目には、炒つて末にし、羊肝と煮て食ふ。〇揉んで目の中に入るれば翳を去る。【白芥子】足心に塗れば、熱を下に引下げ、痘疹が目に入らぬ。【薺菜・菥蓂・莧實・苦苣・萵苣・翹搖・冬瓜仁・木耳】「果部」【梅核仁・胡桃】いづれも目を明にする。【石蜜】目を明にし、目中の熱膜を去る。巨勝子と共に丸にして服す。【桑皮灰】桑皮灰と共に湯で煎じて洗へば目が明になる。【椒目】眼に黒花を生じて年久しきには、蒼朮と共に丸にして服す。【蜀椒・秦椒】「木部」【桂・辛夷・枳實・山茱萸】いづれも目を明にする。【沈香】腎虚で目の黒きには、蜀椒と共に丸にして服す。【桐花】眼に鳥や蟲の飛び走るや

(二四)目僻、目瞤ハ共ニスガメ、卽チ眼瞼攣筋麻痺。

うに見えるには、酸棗、羌活、玄明粉と共に煎じて服す。【槐子】久しく服すれば、熱を除き、目を明にし、涙を除く。煮て飲み、或は牛膽に入れ、風乾して呑む。或は黃連と共に末にし、丸にして服す。【五加皮】目を明にする。○酒に浸して用うれば(二四)目僻、目瞤を治す。【牡荊莖】靑盲には、烏雞と共に丸にして服す。【黃蘗】目暗には、毎朝含んで洗ふ。終身目を疾はぬ。【松脂】肝虛目涙には、酒に釀して飲む。【椿莢灰】毎月頭を洗へば目を明にする。【槵子皮】頭を洗へば目を明にする。【桑葉及び柴灰・柘木灰】いづれも月を逐ひ日を按じて、水で煎じて目を洗ふ。目を明にし、靑盲を治す。【蔓荊子】目を明にし、昏を除き、睛痛を止める。【蕤核】龍腦と共に一切の風熱昏暗、黑花に點ける。【梓白皮】目中の疾に主效がある。【石南】小兒の驚で瞳の正を失ひ、東を見んとして西を見るを通睛と名ける。これには瓜丁、藜蘆と共に鼻に吹く。【秦皮・逐折・欒荊・木槿皮・桑寄生】洗ふ。【苦竹葉及び瀝・天竹黃・盧薈・蜜蒙花】「金石」【銀屑・銀膏・赤銅屑・玉屑・鐵精・鉛灰】牙に摺り、目を洗ふ。【爐甘石】目昏暗花には、黃丹と共に蜜で錬つて丸にする。【鍾乳石・赤石脂・靑石脂・長石・理石】いづれも目を明にする。【石膏】風熱を去る。○雀目夜昏には、

（二五）神水ハ瞳孔ノコト歟。

猪肝と共に煮て食ふ。○風寒が腦系に入り、血が凝滯し、眼寒するには、川芎、甘草と共に末にして服す。【丹砂】目昏內障で（二五）神水の散大するには、慈石、神麴と共に丸にして服す。【芒消】月を逐ひ目を按じて眼を洗へば目を明にする。【黃土】目が卒に見えぬには、水に浸して洗ふ。【食鹽】目を洗へば目を明にし、淚を止める。【戎鹽・慈石・石青・白青・石流青】「水部」【臘雪・明水・甘露・菖蒲及び柏葉上露】「蟲介鱗部」【螢火】いづれも目を明にする。【蜂蜜】目膚赤脹。○肝虛雀目には、蛤粉、猪肝と共に煮て食ふ。【蚌粉】雀目、夜盲には、猪肝、米泔と共に煮て食ふ。夜明砂と同一功力である。【蛤粉】雀目には、炒つて研り油蠟に和して丸にし、猪肝と共に煮て食ふ。【玳瑁】淚液過多は肝、腎の虛熱である。羚羊角、石燕子と共に末にして服す。【眞珠】鯉魚膽、白蜜と合せて肝虛雀目に點ける。【鯽魚】熱病目雀には、臛にして食ふ。○胬肉に貼る。【鯉魚腦】膽と和して青盲に點ける。【青魚睛汁】「禽獸」【烏目汁】いづれも目に注げば夜間物を見得る【鸜鵒睛汁・鷹睛汁】いづれも目能く青空を見るの主效がある。【鶴腦】天雄、葱實と和して服すれば、夜間字を書いて疲れぬ。【雀頭血】雀目に點ける。【伏翼】目の痒疼に主效があり、夜間物を見るに精光が

ある。○血、及び膽を目中に點ければ夜物を見得る。【雄雞膽】物で目を傷めたるには、羊膽、鯉魚膽と共に點ける。【烏雞肝】風熱目暗には羹にして食ふ。【鳩】腎を補ひ、氣を益し、目を明にする。【豬肝】腎を補ひ、目を明にする。○雀目には、海螵蛸、黃蠟と共に煮て食ふ。○石決明、蒼朮末と共に煮て食ふ。【青羊肝】肝風虛熱に補す。目暗、赤痛、及び熱病後の失明には、生で食ひ、并に水に浸して貼る。○青盲には、黃連、地黃と共に丸にして服す。○小兒の雀目には、白牽牛末と共に煮て食ふ。又穀精草と共に煮て食ふ。○赤目失明には、決明子、蓼子と共に末にして服す。○風熱昏暗で瞖を生ずるには、生で擣いて末にし、黃連と丸にして服す。○遠視し得ぬには、葱子末と共に粥に煮て食ふ。○目病で䀮䀮たるには、煮熟して熏ずる。【牛肝】肝を補ひ、目を明にする。【兎肝】風熱が上攻して目暗となり、物を見得ぬには、粥に煮て食ふ。【犬膽】肝虛目暗には、螢火と共に末にして點ける。○目中膿水には、夏の上伏日に酒で服す。【牛膽】目を明にする。槐子を釀して呑む。○黑豆を釀して呑む。○柏葉、夜明砂と和して丸にして服す。【鼠膽】青盲、雀目に點ける。○目を魚膏に和して點ければ目を明にする。○屎は目を明にする。【白犬乳】十年の青盲に點ける。【醍醐】瘡に傅

(二六)翳膜ハ、メボシ。
(二七)瘢痘ハ痘瘡ノコトナラン。
(二八)瘀肉ハ目ノ中ヘ肉ノハミデルヤマヒ。

ければ目を明にする。【牛涎】目を損じ、目を破れるに點ける。【鹿茸】虚を補ひ、目を明にする。【羖羊角】これも目を明にする。【羚羊角】これも目を明にする。【天靈蓋】青盲を治す。

(二六)**翳膜**　「草部」【白菊花】病後翳を生ずるには、蟬花と共に末にして服す。○(二七)瘢痘で翳の生ずるには、綠豆皮、穀精草末と共に乾柿を煮て食ふ。【淫羊藿】目昏で翳の生ずるには、王瓜と共に末にして服す。【苘實】目翳、(二八)瘀肉、倒睫、拳毛には、猪肝と共に丸にして服す。【穀精草】翳を去るには、防風と共に末にして服す。痘後の翳には、猪肝と共に丸にして服す。【天花粉】痘後の目障には、蛇蛻、羊肝と共に煮て食ふ。【羊肝・覆盆子根】粉にして痘後の翳に點ける。【白藥子】疳眼で翳の生ずるには甘草、猪肝と共に煮て食ふ。【黃芩】肝熱で翳の生ずるには、淡豉と共に末にし、猪肝を煮て食ふ。【水萍】瘢瘡が目に入るには、羊肝の煮汁で末を調へて服すれば、十服で效が現れる。【番木鼈】瘢瘡の目に入るには、腦、麝と共に耳に吹く。【馬勃】瘢瘡の目に入るには、蛇皮、魚子と共に煨き研つて服す。【貝母】研末して翳に點ける。○胡椒と共に用うればよく淚を止める。○眞丹と共に弩肉に點ける。或は丁香

と共に用ゐる。【麻黄根】內外障瞖には、當歸、麝香と共に鼻に嗃く。【鱧腸】藍葉と共に油に浸して頂に摩す。髮を生じ、瞖を去る。【牛膝葉】汁を目に點ければ(二九)珠管を(三〇)生ずる。【青葙子】肝熱の赤障、瞖腫、青盲。【敗醬】赤目、瞖障、胬肉。【白豆蔻】(三一)白睛瞖膜に用ゐ、肺氣を利す。【木賊】瞖を退ける。【蓍根】諸藥と共に瞖に點ける。【景天花汁】瞖を去るの神藥である。【鵞不食草】鼻に嗃き、耳を塞ぎ、目に貼る。

「菜穀」【仙人草汁・苦瓠汁】いづれも瞖に點ける。〇小壺盧を以て瞖を吸はしむ。〇【薺根】目を明にし、瞖を去る。就寢時に背の內へ入るれば、久しくして自ら落ちる。〇薺實は目痛、青盲に主效があり、瞖を去る。久しく服すれば物が鮮明に見える。【菥蓂子】目痛で淚の出るに用ゐ、精光を益し、胬肉を去る。末にして就寢時に點ける。【莧實】青盲、目瞖、黑花、肝の疾患の客熱。【馬齒莧】目中の息肉、淫膚、青盲、白瞖には子を取つて末にし、蒸して熨す。【蘭香子】目の中に置けば瞖を磨す。また煎じて服す。【黑豆皮】痘後の瞖。【綠豆皮】痘後の瞖には、穀精、白菊花末、柿餅と共に粟米泔で煮て食ふが極めて有效である。

「果木」【杏仁】油を去り銅綠を入れて瞖に點ける。〇膩粉を入れて胬肉に點ける。【李膠】瞖を治し、腫を消し、痛みを鎭める。【蘡薁藤

(二九)珠管、メダマノトビデルヤマヒ。
(三〇)生ハ去ルノ誤ナラン。
(三一)白睛瞖膜ハ目星(メボシ)即チ角膜白班。

(一二)膚翳ハ星翳ノ一名、即メボシ。
(一三)金陵本ニ脉中トアレドモ、目中ノ誤ナルベシ。

汁】熱翳に點ければ白障を去る。【龍腦香】目を明にし、(一二)膚翳、內外障を去る。日毎に數回點眼し、或は蓬砂を加へて鼻に嗜く。【蜜蒙花】靑盲、膚翳、赤腫でめやに多く、(一三)脈中赤脈、及び疳氣が眼を攻むるに用ゐ、肝の燥を潤す。○黃蘗と共に丸にして服すれば障翳を去る。【楮實】肝熱で生じた翳には、研末して日毎に服す。○荊芥と共に丸にして服すれば目昏を治す。○葉末、及び白皮灰に麝を入れて一切の翳に點ける。【楸葉】煨いて汁を取り、熬つて小兒の翳に點ける。【枸杞汁】風障赤膜の昏疼に點ける。搾つた油を燈火に點すれば目を明にする。【蕤核】心腹邪熱の目赤腫疼で淚が出で眥の爛れるもの。○黃連と共に風眼の翳膜に點ける。○蓬砂と共に、或は靑鹽、猪胆と共に膜翳に點ける。【沒藥】目翳、暈疼、膚赤、肝血不足。【乳香・琥珀】翳を磨す。【[illegible]】「水土」【井華水】膚翳を洗ふ。○目睛突出を淩す。【白瓷器・東壁土】「金石」【錫悋脂・珊瑚・瑪瑙・寶石・玻瓈】煨いて研る。【菩薩石】いづれも翳に點ける【古文錢】磨汁を盲に點け、翳を去る。また目の卒に見えぬに點ける。【丹砂】瞖に擦り、息肉に點ける。○貝母と共に珠管に點ける。【輕粉】翳に點ける。○黃丹と共に鼻に吹けば痘後の翳を去る。【粉霜】痘疹が目に入つて生じた翳には、

(三四)浮瞖ハ內障ノ一種。

硃砂と共に水で調へて耳中に傾け入れる。【爐甘石】目を明にし、瞖を去り、赤を退け、濕を收める。赤く煆いて童尿に七回淬し、龍腦を入れて一切の眼疾に點ける。或は黃連と共に水で煮るも良し。○蓬砂、海螵蛸、硃砂と共に目瞖、昏暗、爛赤に點ける。【空靑】漿を靑盲、內障、瞖膜、瞳の破れたるに點ければ、再び視力を回復する。○一切の目疾には、黃連、槐芽、片腦と共に鼻に吹く。○膚瞖には、蕤仁と共に點ける。○黑瞖には、礬石、貝子と共に點ける。【曾靑】一切の風熱目病には、白薑、蔓荊子、防風と共に末にして鼻に嗃く。○塵落の目に入りたるには、丹砂、蠐螬と共に點ける。【密陀僧】(三四)浮瞖で涙多きもの。【花乳石】多年の瞖障には、川芎、防風諸藥と共に點ける。【井泉石】小兒の熱疳雀目、靑盲で生じた翳には、石決明と共に服す。【玄精石】赤目失明、障瞖には、石決明、蕤仁、黃連、羊肝と共に丸にして服す。【越砥】磨汁を瞖に點ければ、盲を去り、痛を止める。【鉛丹】一切の目疾には、蜜と共に熬つて點ける。○烏賊骨と共に赤目で生じた瞖に點ける。○白礬と共に瞖に點ける。○鯉魚膽と共に目に生じた珠管に點ける　○輕粉と共に耳に吹けば、痘疹で生じた瞖を去る。【石燕】磨つて障瞖、拳毛、倒睫に點ける。【石蟹】

磨つて靑盲、淫膚(三五)丁瞖に點ける。【礬石】瞖膜、努肉に點ける。【硇砂】膜瞖、努肉を去る。或は杏仁を入れる。【蓬砂】目瞖、努肉の(三六)瘀突に點ける。片腦と共に用ゐる。【綠鹽】瞖に點ければ、赤を去り、痛を止める。【芒消】障瞖、赤腫の澀痛に點ける。○或は黃丹、腦、麝を入れる。【消石】黃丹、片腦と共に瞖に點ける。【浮石】

「蟲鱗介部」【蠶蛻】いづれも障瞖を去る。【蟬蛻】目昏、障瞖には、水で煎じて服す。○產後の瞖には、末にして羊肝湯で服す。【芫靑】頑瞖を去る。樗雞、斑蝥、蓬砂、蕤仁と共に點ける。【樗雞・蠐螬汁】靑瞖、白膜に滴らす。【蛇蛻】卒に瞖膜を生ぜるには、麪に和して炙き、研つて湯で服す。○痘後の瞖には、天花粉、羊肝と共に煮て食ふ。【蚺蛇膽】瞖に點ける。【烏蛇膽】風毒氣眼の生瞖。【鯉魚膽・靑魚膽】いづれも瞖障に點ける。○或は黃連、海螵蛸を加へる。○或は鯉魚、牛、羊、熊の膽、麝香を加へ、決明と合せて丸にして服す。【海螵蛸】一切の浮瞖、及び熱淚に點ける。傷寒熱毒が目を攻めて生じた瞖には、片腦を入れる。○赤瞖が睛にかかり、瞳を貫くには、辰砂を加へ、黃蠟で丸にして納れる。○小兒の疳眼で膿が流れるには、牡蠣、豬肝を加へ煮て食ふ。【鰻鱺血・鱓血】いづれも痘疹が目に入つて生じた瞖に

(三五)丁瞖ハ星翳ノ一名。

(三六)字書ニ瘀ハ積血ナリトアリ、隆起スルコトナラン。

(三七)麩痘ハ麻疹、痘ハ瘡ノ誤ナルベシ。

(三八)癖疹ハモノモラヒノ類カ。

點ける。【鮫魚皮】瞖を去る功は木賊と同じ。【魚子】瞖障、弩肉の薬に入れる。【石決明】目を明にし、瞖を磨す。○甘草、菊花と共に煎じて服すれば羞明を治す。○海蚌、木賊と共に水で煎じて服すれば、肝虚で生じた瞖を治す。○穀精草と共に末にし、猪肝に蘸けて食へば痘後の瞖を治す。【眞珠】目に點ければ瞖を去る。○左纒根に合せて用ゐ、(三七)麩痘の目に入りたるを治す。○地楡と共に煮て醋に浸し、研末し頑瞖に點ける。【紫貝】生で研り猪肝と共に煮て食へば、痘疹で生じた瞖を治す。【白貝】燒いて研り、目花、瞖痛に點ける。【珂】瞖に點ける。或は片腦、枯礬を入れる。【螺螄】常食すれば痘後の瞖を去る。【牡蠣】「禽獸」【抱出雞卵殼】障瞖、及び(三八)癖疹の目に入りたるに點ける。【雀】内外障瞖の丸藥に入れる。【雀屎】瞳を貫いた弩肉、赤脈に點ければ消える。また目痛、赤白膜を去る。【五靈脂】血が瞳を貫けるを治す。○海螵蛸と共に末にし、猪肝に蘸けて食へば浮瞖を治す。【夜明砂】目盲、障瞖には、猪肝を入れて煮て食ふ。【胡燕屎・猪脂】いづれも瞖に點ける。【猪膽皮灰】瞖に點ける。三五回を過ぎてはならぬ。【猪血】痘の目に入りたるに點ける。【猪胰】蕤仁と共に瞖に點ける。【猪鼻灰】目中風瞖には水で服す。【猪懸蹄】炒つて蟬蛻、羚羊角

(一九)白珠ハ眞珠ヲ指スナラン。

と共に末にして服すれば、斑瘡で瞖を生ぜるを治す。○燒灰を湯に浸して洗ふ。【羊膽】青盲、赤障、白瞖、風疾病後の失明に點ける。【羊睛】瞖膜、目赤に點ける。○(一九)白珠を汁に磨つて點ける。【白羊髓】赤瞖に點ける。【熊膽】目を明にし、瞖を除き、心を淸くし、肝を平にする。○水に化して點ける。【象膽】功力は熊膽と同じ。○睛を人乳に和して滴らす。【獺膽】目瞖で黑花し、蠅が飛ぶやうに上下に物が見え、明ならぬには、點藥中に入れて用ゐる。【兎屎】浮瞖、瘡後の瞖を去る。目に乾し、茶で一錢を服す。或は穀精末を加へる。【羚羊角・犀角】肝を淸くし、目を明にする。【麝香・虎骨】〔人部〕【人唾津】いづれも瞖を退ける。【爪甲】刮つて末にし、瞖及び瘡後瞖を生ぜるに點ける。或は硃砂を加へる。○目に珠管を生ぜるには、灰に燒いて貝子灰、龍齒末と共に調へて用ゐる【胞衣】燒いて赤目の瞖を生ぜるに點ける。

諸物眯目　【地膚子・猪脂・牛酥・鮑魚頭】煮汁。【雞肝血】いづれも諸物の目に入りたるに點ける。【蠶沙】諸物の目に入りたるには、水で十箇を呑む。【甑帶】沙石の目に入りたるには、水で一錢を服す【眞珠・珊瑚・寶石・貂皮】いづれも塵沙の目に入りたるを拭ふ。【烏雞膽】塵沙の目に入りたるに點ける。【食鹽】塵物の目に入りたる

を洗ふ。【羊筋・鹿筋・新桑白皮】塵物の目に入りたるには、嚼んで納れて粘し取る。【蘭香子】塵物の目に入りたるには、これを納れて粘し取る。【墨汁】飛絲、塵物、芒屑の目に入りたるに點ける。【蘘荷根汁・粟米】嚼汁。【豉】水に浸す。【大麥】煮汁。いづれも麥、稻、芒屑の目に入りたるを洗ふ。【白菘汁・蔓菁汁・馬齒莧灰・藕汁・柘漿・雞巣草灰】淋汁。【人爪甲】いづれも飛絲の目に入りたるに點ける【菖蒲】鼻を塞げば飛絲の目に入りたるを去る。【瞿麥】目に物が入つて瞖を生じ、その物の出でざるには、乾薑と共に末にして日毎に服す。

耳

耳鳴、耳聾は、腎虛に因り、氣虛に因り、鬱火に因り、風熱に因るものである。○耳痛は風熱であり、(一)聤耳は濕熱である。

虛を補す　「草穀」【熟地黄・當歸・肉蓯蓉・兎絲子・枸杞子】腎虛の耳聾には、諸種の補陽の藥が皆適用される【黄耆・白朮・人參】氣虛の聾鳴には、諸種の補中の藥が皆適用される。【骨碎補】耳鳴には、末にして猪腎と煨いて食ふ。【百合】末にして日毎

(一) 聤耳ハミミダレ。

に服す。【社日酒】「果木」【乾柿】粳米、豆豉と共に粥を煮て日毎に食へば聾を治す。【柘白皮】酒に醸したものは、風虚耳聾に主效がある。【牡荊子】酒に浸して用ゐれば聾を治す。【茯苓】卒に聾せるには、黄蠟に和して嚼む。【山茱萸・黄蘗】「石禽獸」【慈石】腎氣を養ひ、聾を治す。○老人は汁を取つて猪腎羹を作つて食ふ。【雞子】酒にして用ゐれば耳鳴を止める。○蠟に和し炒つて食へば聾を治す。【猪腎】粥に煮て食へば聾を治す。【羊腎】腎を補ひ、聾を治す。○脊骨を慈石、白朮諸藥と共に煎じて服す。【鹿腎・鹿茸角】いづれも虚を補ひ、聾を治す。

欝を解す　「草部」【柴胡】少陰の欝火の耳鳴、耳聾を去る。【連翹】耳がキーキー、ジンジンと鳴るに用ゐ、少陽、三焦の火を除く。【香附】卒聾には、炒つて研り萊菔子湯で服す。【牽牛】疳氣耳聾には、猪腎を入れて煨いて食ふ。【栝樓根】煮汁で酒を醸して服すれば聾を治す。【黄芩・黄連・龍膽・蘆薈・撫芎・芍藥・木通・半夏・石菖蒲・薄荷・防風】風熱欝火の耳鳴に對する諸種の流氣、解欝、消風、降火の藥はいづれも用ゐべきである。「金石」【生鐵】甚熱の耳鳴には、赤く焼いて酒に淬して飲み、慈石で耳を塞ぐ。【空青・白青】「蟲禽」【蠮螉】いづれも聾を治す。【全蝎】耳聾には、酒

で一錢を服し、水聲を聞くやうになれば效がある。【烏雞屎】卒聾には、烏豆と共に炒つて酒に入れて飲み、汗を取れば癒える。

外治　「草木」【木香】麻油に浸して煎じ、日に四五回聾に滴らす。【預知子】卒聾には、石榴を入れ酒に釀して滴らす。【凌霄葉】汁を滴らす【地黄・骨碎補】いづれも煨いて聾を塞ぐ。【菖蒲】巴豆と共に塞ぐ。【附子】卒聾には、醋に浸して耳に挿む。○灰に燒き、石菖蒲と共に耳を塞げば鳴を止める。【草烏頭】鳴痒聾を塞ぐ。【甘遂】耳口に挿み、甘草を含む。【蓖麻子】大棗と共に(一)梃にして挿む。【土瓜根】耳の久しく聾するを塞ぐ。【經霜靑箬葉】椒を入れて燒いて吹く。【栝樓根】猪脂で煎じて耳鳴を塞ぐ。【雞酥】生で搽む。【巴豆】蠟に和す。【細辛・狼毒・龍腦・槐膠・松脂】巴豆と共に用ゐる。○いづれも耳聾を塞ぐ。【椒目】腎虛で耳が風水鐘磬の如く鳴るには、巴豆、菖蒲、松脂と共に塞ぎ、一日一回づつ易へれば神效がある。【胡桃】煨いて研り熱して塞げば、食頃にして通じる。【芥子】人乳に和して聾鳴を塞ぐ。【葱莖】耳鳴に挿む。○蜜水と共に聾鳴に滴らす。【杏仁】油を蒸して滴らす。【石榴】醋を入れて煨熟し、黑李子、仙棗子を入れて卒聾に滴らす。【生麻油】日毎に滴らして(二)耵聹を取

(一) 梃ハ圓柱狀トスルコト。

(二) 耵聹、ミミアカ、ミミクソ。

る。【燒酒】耳中に核があり、痛んで動けぬには、滴入して半時すれば挾んで取出し得る「石蟲」【慈石】少量の麝香と淘鵞油を入れて和して塞ぐ ○穿山甲と共に耳目を塞ぎ、生鐵を含む。【消石・芫菁】巴豆、蓖麻と共に用ゐる【斑蝥】巴豆と共に用ゐる【眞珠】いづれも塞ぐ。【地龍水】「鱗介」【龜尿・蟹膏・弔脂・苟印膏】いづれも聾に滴らす。【蚺蛇膏・花蛇膏・蝮蛇膏】いづれも聾を塞ぐ。【海螵蛸】麝香と共に吹く。【穿山甲】蠍尾、麝香と共に蠟に和して鳴聾を塞ぐ。【鯉魚膽腦・鯽魚膽腦・烏賊魚血】「禽獸」【白鵞膏膵・雁肪・烏雞肪・鵜鶘油・鸊鷉膏・鼠膽・猬脂・驢脂・猫尿・人尿】いづれも聾に滴らす。【雀腦・兎腦・熊腦・鼠腦】いづれも聾を塞ぐ【蚯蚓】青藍、鼠脂と共に塞ぐ。【蠶蛻紙】麝香を卷いて聾を熏ずる。

耳痛 「草木」【連翹・柴胡・黄芩・龍膽・鼠粘子・商陸】塞ぐ。【楝實・牛蒡根】熬汁。【蓖麻子】いづれも塗る。【木鼈子】耳の卒に熱腫するには、小豆、大黄と共に油で調へて塗る。【木香】葱黄、染鵞脂に末を蘸けて內に入れる。【菖蒲】末にして炒り、罨するが甚だ效がある。【欝金】水に浸して滴らす。【茱萸】大黄、烏頭末と共に足心に貼れば、熱を引いて下行し、耳鳴、耳痛を止める。「水石」【礬石】水に化す。【芒消】

(一)乾痛、潑チ出サズシテ痛ムコト。

水。【磨刀水】いづれも滴らす。【蚯蚓屎】塗る。【炒鹽】枕にする。「蟲獸」【蛇蛻】耳が忽ち大いに痛み、内部を蟲が走るやうに覺え、或は血水を流し、或は(一)乾痛するには、灰に燒いて吹けば痛みが立ろに止る。【桑螵蛸】灰にして摻る。【鱓血】滴らす。【穿山甲】土狗と共に吹く。【鳩屎】末にして吹く。【麝香】竅を通ずる。

聤耳 「草木」【白附子】羌活、猪、羊腎と共に煨いて食ふ。【附子・紅藍花】礬と共に末にする 【青黛】香附、黄蘗と共に末にする。【敗醤・狼牙・蒲黄・桃仁】炒る 【杏仁】炒る 【橘皮灰】麝を入れる。【青皮灰・楠材灰・檳榔・故綿】灰。【麻楷】灰。【苦瓠】灰。【車脂】いづれも耳に吹く。【胡桃】狗膽と共に研つて塞ぐ。【柳根】擣いて封ずる。【薄荷】汁 【青蒿】汁。【茺蔚】汁。【燕脂】汁。【虎耳草】汁。【麻子】汁。【韭】汁。【柑葉汁】いづれも耳に滴らす。「土石」【伏龍肝・蚯蚓泥・黄礬・白礬】黄丹と共に用ゐる。【雄黄】雌黄、硫黄と共に用ゐる。【爐甘石】礬、麝香と共に用ゐる。【浮石】沒藥、麝香と共に用ゐる。【密陀僧・輕粉】いづれも耳に吹く 【硫黄】蠟に和し挺にして塞ぐ。「蟲獸」【五倍子・桑螵蛸・蟬蛻灰・蜘蛛・全蠍・龍骨・穿山甲・海螵蛸・鳩屎】いづれも麝香と共に耳に吹く。【羊屎】燕脂と共に末にして吹く。【鯉魚腸腦・鰻鱺

魚骨・魚鮓・鼠肝】いづれも聤耳を塞ぎ、蟲を引く。【石首魚魫・夜明砂】いづれも摻つて耳に入れる。【犬膽】礬と共に塞ぐ。【髮灰】杏仁と共に塞ぐ。【人牙灰】(五)五種の聤耳に吹く。

蟲物の耳に入りたるもの　【半夏】麻油と共に用ゐる。【百部】油に浸す。【蒼耳汁・葱汁・韮汁・桃葉汁・薑汁・醤汁・蜀椒・石膽・水銀】【古錢】猪脂で煎じる。【人乳汁・人尿・猫尿・雞冠血】いづれも耳に滴らす。【鱓頭灰】塞ぐ。【石斛】耳に挿み、燒いて熏ず。【鐵刀聲】いづれもすべての蟲類の耳に入りたるに主效がある。【胡麻油】米粉を揚げ物にして枕する。【車脂】塗る。【綠礬・硇砂】石膽と共に用ゐる。【龍腦】いづれも耳に吹く。【羊乳・牛乳・牛酪・驢乳・猫尿】いづれも蚰蜒の耳に入りたるに滴らす　【雞肝】枕する。【猪肪】枕する。いづれも蜈蚣、蟲螘の耳に入りたるに主效がある。【穿山甲灰】吹く。【杏仁油】滴らす。いづれも螘の耳に入りたるに主效がある。【燈心】油に浸して小蟲螘の耳に入りたるを釣り出す。【鱓血】皂角子汁と共に蠅の耳に入りたるに滴らす。【菖蒲】蚤虱の耳に入りたるを塞ぐ。【稻稈灰】煎汁を虱の耳に入りたるに滴らす。【皂礬】蛆が耳に入りたるに吹く。【田泥】馬蟥の耳に

(五) 五種ノ聤耳、一ハ黄膿、一ハ紅膿、一ハ白膿、一ハ耳脊、一ハ清膿。

入りたるとき枕にする。【生金】水銀が耳に入りたるとき枕にして引き出す。【薄荷汁】水の耳に入りたるに滴らす。

面

面腫は風熱である。紫赤は血熱である。(一)皰は風熱で、卽ち穀觜のことである。(二)皶は血熱で、卽ち酒皶のことである。(三)皯黯は風邪が皮膚に客とし、痰飲が腑臟に漬ゆるもので、卽ち雀卵斑のことである。婦人の顏に生ずるを粉滓斑といふ。

風熱【白芷香・白附子・薄荷葉・荊芥穗・零陵香・黃芩・藁本香・升麻・羗活・葛根・麻黃・海藻・防風・遠志・白朮・蒼朮】いづれも陽明の風熱に主效がある。【兎絲子】酒に浸して服す。【葱根】發散を主とする。【牛蒡根】汗の出る中風面腫で、或は頭頂に及び、或は手足に及ぶものには、研り爛して酒で煎じ、膏にして貼り、幷に三匙を服す。【黑豆】風濕面腫には、麻黃湯の中に加へて少し汗を取る。【大黃】頭面が腫大し疼痛するには、二兩を殭蠶一兩と共に末にし、薑汁で和して彈子

(一) 穀觜皰、ニキビ。
(二) 酒皶、ニキビバナ。
(三) 皯黯、ソバカス。雀卵斑、粉滓斑、並ニ皯黯ニ同ジ。

大の丸にして服す。【辛夷・黄蘗・楮葉】粥に煮て食ふ【石膏】いづれも風熱を去る。【蟹膏】面腫に塗る。【炊帛】甑の蒸氣に吹かれて浮腫せるには、灰に燒いて傅ければ消える。

皺皰䵟黯　「内治」【葳蕤】久しく服すれば、面上の黑䵟を去り顏色を好くする。【升麻・白芷・防風・葛根・黄耆・人參・蒼朮・藁本】いづれも陽明の陽氣を達し、面黑を去る。【女菀】面黑を治す。鉛丹と共に末にして酒で服す　男女共二十日間服すれば、黑は大便と共に排出する。【冬葵子】栢仁、茯苓と共に末にして服す。【桑耳】末にして服す。【蒼耳葉】末にして服す。いづれも面上の黑斑を去る。【天門冬】蜜と共に擣いて丸にし、日毎にそれを用ゐて洗面すれば黑を去る。【甘松香】香附、牽牛と共に末にして日毎に服す　【益母草】煆いて研り、日毎に洗ふ。【夏枯草】灰に燒き紅豆を入れて洗ふ。【續隨子莖汁】䵟黯を洗へば皮が剝げ易る。【蒺藜・苦參・白及・零陵香・茅香】いづれも面黑を洗へば䵟黯を去る。【蓖麻仁】硫黄、密陀僧、羊髓と共に和して塗れば雀斑を去る。○白棗、大棗、瓦松、肥皂と共に丸にして洗ふ。【山柰】鷹屎、密陀僧、蓖麻仁と共に夜塗つて朝洗へば雀斑を去る。【白附子】面上の諸風の

あらゆる病を去る。〇(一)疵皯には、酒で和して貼れば自ら落ちる。【白牽牛】酒に浸し末にして面に塗れば、(二)風刺粉滓を去る。【栝樓實】手、顔の皺を去り、顔を艶やかにする。〇杏仁、猪脂と共に研つて塗れば顔の色を白くする。【羊蹄根】顔の紫泡には、薑汁、椒末、穿山甲灰と共に泡けて塗擦する。【土瓜根】面黒、面瘡には、末にして夜毎に塗れば、百日にして顔の光柔が人を射るやうになる。【白蘞】杏仁と共に研つて塗れば、粉滓、酒皶を去る。【半夏】顔の黒氣には、焙じ研つて醋で調へて塗る。【朮】酒に漬けて皯皰を拭ふ。【艾灰】淋鹼して(六)皯黶に點ける。【山藥・山慈姑・白及・蜀葵花及び子・馬藺花】杵いて皶皰に塗る。【兎絲子汁】塗る。【旋花・水萍・卷柏・紫參・紫草・凌霄花・細辛・藿香・烏頭・白頭翁・白微・商陸】【穀菜】【胡麻油】いづれも面の皯黶、皶皰、粉刺、遊風の顔に入りたるに塗る。【胡豆・畢豆・綠豆・大豆】いづれも(七)澡豆にして用ゐれば皯黶を去る。【馬齒莧】面皰、及び瘢痕を洗ふ【若蓬子】醋に浸して面に揩れば、粉滓を去り艶やかにする。【菰筍灰】酒皶面赤【藋灰】面皯に點ける【胡荽】果子を洗ふ。【冬瓜仁葉瓤】いづれも皯黶を去り、色白く艶やかにする〇仁を丸にして服すれば、玉の如く色を白くし、汁を服すれば面熱を去る。

(一)疵皯ハ疵黶ノコトナラン。皮膚ノ上ニ赤色或ハ黒色ノ點大小不等滓粒ノ狀ヲナスヲ云ノ。
(五)風刺、ニキビ。粉滓、ソバカス。
(六)皯黶、ソバカス。
(七)澡豆ハ洗粉。

【蔓青子・落葵子】「果木」【李花・梨花・木瓜花・杏花・櫻桃花】いづれも(八)面脂に入れば、黒䵟、皺皮を去り、顔色を好くする。【桃花】雀斑を去る　冬瓜仁と共に研つて蜜で塗る。○米の如き粉刺には、丹砂と共に末にして服すれば、櫻色の艶になる。○雞血と共に全身、及び顔に塗れば皮膚が美しくなる。【白柿】多く食へば面䵟を去る。【杏仁】頭面の諸風で出た皶皰には、雞子白と共に塗る。○兩頰が赤く痒きには、頻に揉みつける。【李仁】雞子白と共に夜塗れば、䵟を去り、色を好くする。【銀杏】酒糟と共に嚼んで塗れば、䵟黯、皶皰を去る。【烏梅】末にして唾で調へて塗る【櫻桃枝】紫萍、牙皂、白梅と共に雀斑を洗ふ。【栗荴】面に塗れば皺を去る。【橙核】夜塗れば粉刺、(九)面皯を去る。【柑核・蜀椒・海紅豆・無患子】いづれも面藥に入れて皯を去る。【白楊皮】桃花、白冬瓜子と共に服すれば、面黒を去つて白くする。【木蘭皮】面熱の赤皰、䵟黯には　酒に百日浸し末にして服す。また(一〇)澡藥にも入れる。【菌桂】精神を養ふ。久しく服すれば面に光華を生じ、未成年者の如き艶になる。【枸杞子】酒で服すれば皯皰を去る。【山茱萸】面皰。【巵子】面赤、皶皰に用ゐ、塗藥にも入れる。【柳花】面熱で黒きもの【桂枝】鹽、蜜と和して塗る。【龍腦香】酒に和して酒皶、赤鼻に

(八)面脂ハ面ニ塗ル化粧藥。製造法ハ紅花ノ條ニアリ。

(九)面皯、ソバカス。

(一〇)澡藥ハ洗粉。

塗る。【白檀香】磨汁を塗る。【簇蓐香】附子、冬爪子、白及、石榴皮と共に酒に浸して塗る。【沒石子】磨汁。【槲若】皶皰を洗ふ。【桐油】黄丹、雄黄に和して酒皶赤鼻に塗る。【白茯苓】蜜に和して塗る。【皂莢子】杏仁と共に塗る。【皂莢・肥皂莢・蔓荊子・楸木皮・辛夷・樟腦】いづれも面脂に入れる。【楡葉】「水石」【漿水】洗ふ【冬霜】服すれば酒後の面赤を解す。【密陀僧】瘢䵟を去る。乳で煎じて面に塗れば艶やかになる。○白附子、白雞屎と共に末にし、人乳で塗る。【鉛粉】面皮を抓き傷りたるには、油で調へて塗る。【輕粉】面脂に入れる。○面皮を抓き傷りたるには、薑汁で調へて塗る【雲母粉】杏仁、牛乳と共に蒸して塗る。【硃砂】水で二匕を服すれば、色が玉のやうに白くなる。○雞子抱雛に入れ、取り出して面に塗れば䵟黯を去り、色が玉のやうに白くなる。【白石脂】白斂、雞子白と共に塗る。【石硫黄】酒皶には、杏仁、輕粉と共に搽る。○檳榔、片腦と共に擦る。○黄丹、枯礬と共に塗擦する。【禹餘糧】半夏、雞子と共に塗る。【水銀】胡粉、猪脂と共に少年の面皰に塗る。【杓上砂】面上の風粟で隱暗に瘙痛するには、撥挑し去つて癒える。【白鹽】赤鼻に塗擦する。【珊瑚】馬珂、鷹屎白、附子と共に漿水で塗る。【石膏】「蟲介」【白殭蠶】蜜に和して面に塗擦すれば、黑點

を無くし、顔色を好くする。或は白牽牛を加へる。【石蜜】常に服すれば花のやうな紅顔になる。【蜂子】炒つて食ひ、並に酒に浸して面に塗る。雀斑面皰を去り、色を白くする。【蜂房】酒で服すれば皷瘤で膿血の出るを治す。【牡蠣】丸にして服すれば色を白くする。【眞珠】乳に和して面に傅ければ、皯を去つて艶やかにする。【蛟髓】、「鮫獸」【白殭蠶】いづれも顔に塗れば色を白くする。【雞子白】酒或は酢に浸して疵皯、面皰に傅ける。【啄木血】これを服すれば面色朱の如くなる。【鸕鷀骨】燒いて白芷末と共に雀斑に塗る。【蜀水花】猪脂に和して鼻面の酒皶、皯黷に塗り、面脂に入れる。【鷹屎白】胡粉と共に塗る。【白丁香】蜜で塗る。【蝙蝠腦・夜明砂・麝香】いづれも皯黷に塗る。【猪胰】面の粗醜、皯黷には、杏仁、土瓜根、蔓青子と共に酒に浸し、夜塗つて朝洗ふ。【猪蹄】膠に煎じて老人の面に塗る。【羊膽】牛膽と共に酒で皯皰に塗る。【羊脛骨】皯黷で顔の皮膚醜く、身體の皮膚粗く厚きには、雞子白と共に塗る。【羚羊膽】煮沸して雀斑に塗る。【鹿角尖】磨汁を皯皰に塗れば神效がある。【鹿角】磨汁を面に塗れば玉の如き艶になる。○骨を酒に釀して飲めば肥えて白くなる。【麋脂】少年の面皰に塗る。【羊胰及び乳】甘草末と共に塗る。【猪鬐膏・馬鬐膏・驢鬐膏・犬胰並

に脂・羊脂腦・牛脂腦及び髓・熊脂・鹿脂腦・麋髓腦】いづれも面脂に入れる。皯黯を去り、瘢をなくし、色を美しくする。【鼠頭灰】鼻、面の皶。「人部」【人精】鷹屎と和して面に塗れば、黒子、及び瘢を去る。【人胞】婦人の勞損で面皯となり、皮色の黒きには、五味と和して漸漸に食ふ。【人口津】物言はぬ時に渣皰に塗る。

瘢痕 【蒺藜】洗ふ。【葵子】塗る。【馬齒莧】洗ふ。【大麥麨】酥に和して傅ける。秋、冬は小麥麨を用ゐる。【寒食飯】塗る。【冬青子及び木皮灰】面脂に入れる。【眞玉】面を摩す。【馬藺根】洗ふ。【禹餘糧】身、面の瘢痕には、半夏、雞子黄と共に一个月間塗れば癒える。【白瓷器】水で摩す。【凍凌】頻に摩す。【熱瓦】頻に摩す。【白殭蠶】白魚、鷹屎と共に塗る。【鷹屎白】瘢を滅する。人精に和して摩す。○殭蠶、蜜と共に摩す。○白附子と共に摩す。○白魚、蜜と共に摩す。【蜀水花】面脂に入れて摩す。【雞子黄】黒く炒つて拭ふ。【雞屎白】炒る。【羊髓・獺髓・牛髓・牛酥】いづれも瘢痕を滅する。【鼠】猪脂で煎じて摩す。【猪脂】三斤で烏雞を飼つて屎白を取り、白芷、當歸とを入れて煎じ、滓を去り鷹屎白を入れて傅ける。

面瘡 「草部」【薺苨】酒で服す。【紫草・紫參・艾葉】醋で煎じて搽る。○婦人の面

瘡には、烟に焼いて熏じ、定粉を搽る。【蓖麻子】肺風の面瘡には、大棗、瓦松、白果、肥皂と共に丸にして日毎に洗ふ。【土瓜根】面上の痦癗には、夜塗つて朝洗ふ。【凌霄花】面瘡が兩頰に浸淫して兩耳まで連及せるには、湯に煎じて日毎に洗ふ。【何首烏】洗ふ。【牽牛】塗る。【甘松】面上の(一一)風瘡には、香附、牽牛と共に末にして日毎に洗ふ。【蛇牀子】輕粉と共に用ゐる。【曼陀羅花】「蔬菜果木」【胡麻】嚼む。【白米】いづれも小兒の面上の(一二)甜瘡に塗る。【黄粱米】小兒の面瘡で火の如く覺えるには、焼いて研り蜜に和して塗る。【絲瓜】牙皂と共に焼いて面瘡に擦り込む。【枇杷葉】茶で服すれば面上の風瘡を治す。【桃花】面上の(一三)黄水瘡には、末にして服す。【杏仁】雞子白に和して塗る。【銀杏】糟に和して嚼んで塗る。【柳絮】面上膿瘡には、膩粉と共に塗る。【柳葉】面上の惡瘡を洗ふ。【木槿子】焼く。「土石」【胡燕窠土】麝を入れる。○いづれも黄水肥瘡に搽る。【密陀僧】面瘡に塗る。【黄礬】婦人の頰瘡の頻發するには、胡粉、水銀と共に泥にして塗る。【綠礬】小兒の甜瘡には、棗に包んで焼いて塗る。【鹽湯】面上の惡瘡に搨る。「蟲鱗」【斑蝥】面上の(一四)痦癗に塗る。【蚯蚓】焼く。【烏蛇】焼く。いづれも面瘡に塗る。【鯽魚頭】焼いて醬汁に和し、面上の黄水瘡に塗る。「禽獸」【雞內金】

(一一)風瘡ハ一名風疹。カザホロシ、フキデモノ。

(一二)甜瘡ハ顔面及ビ耳廓ニ細小ノ濕瘡ヲ發シ痛痒ナク汁出デテ其ノ附着スル所瘡ヲナスモノ。

(一三)黄水瘡ハ和名ミヅガサ、甜瘡ニ同ジ。

(一四)痦癗一名痦瘤。厚痂疹。

(一五)金腮瘡は、初生は米豆の如くであるが、久しくすれば穿蝕するものである。これには鬱金と共に傅ける。【羖羊鬚】(一六)香瓣瘡の面、頤、耳下に生じて浸淫し水を出すには、荊芥、乾薑と共に焼き、輕粉を入れて搽る。【熊脂・鹿角】

鼻

(一)鼻淵は濁涕を流す、これは腦が風熱を受けたのである。(二)○鼻鼽は清涕を流す、これは腦が風寒を受け、熱を包んで内に在るからである。○(三)腦崩臭穢は下虚である。○(四)鼻窒は陽明の濕熱で、瘜肉を生ずるものである。○(五)鼻皶は陽明の熱、及び血熱であつて、或は臟中に蟲のあることもある。○鼻痛は陽明の風熱である。

(六)淵鼽 【内治】「草菜」【蒼耳子】末にして日毎に二錢を服すれば、よく(七)頂門に通ずる。○白芷、辛夷、薄荷と共に末にし、葱茶で服す。【防風】黄芩、川芎、麥門冬、人參、甘草と共に末にして服す。【川芎】石膏、香附、龍腦と共に末にして服す。【草

(一五)金腮瘡ハ頬ニ發スル腫物。
(一六)香瓣瘡ハ顔面膿泡疹。和名カニクサ。

(一)鼻淵ハ畜膿。
(二)鼻鼽ハ鼻加多兒。
(三)腦崩ハ鼻中時時臭黄水ヲ流シ疼痛アルヲ云フ。
(四)鼻窒ハ一名寒鼻。ハナタケ。
(五)鼻皶、ニキビバナ。一名ザクロバナ。
(六)淵鼽ハ鼻淵ト鼻鼽トヲ兼ネ云フ。
(七)頂門ハ頭顱ノ最高部、即チ百會。

烏頭】腦洩臭穢には、蒼朮、川芎と共に丸にして服す。【羌活・藁本・白芷・雞蘇・荊芥・甘草・甘松・黃芩・半夏・南星・菊花・菖蒲・苦參・蒺藜・細辛・升麻・芍藥】いづれも風熱、痰濕を去る【絲瓜根】腦崩腥臭には蟲がある。それには燒き研つて服す。「果木」【藕節】鼻淵には、芎藭と共に末にして服す。【蜀椒・辛夷】辛は氣を走らせて能く淸陽を助け、上行して天に通じ、鼻病を治し、九竅を利す。○頭風淸涕には、枇杷花と共に末にし酒で服す。【卮子・龍腦香・百草霜】鼻から臭涕を出すには、水で三錢を服す。「石蟲」【石膏・全蠍・貝子】鼻淵の膿血には、燒いて研り酒で服す。【爛螺殼】

外治　【蓽茇】吹く。【白芷】涕に臭水を流すには、硫黃、黃丹と共に吹く。【烏疊泥】吹く。【石綠】鼻齆に吹く。【皂莢】汁を熬膏して嗃く。【大蒜】蓽茇と共に擣いて顖上に置き、熨斗で熨す。【艾葉】細辛、蒼朮、川芎と共に末にし、帕の上から頂門へ置いて熨す。【破瓢灰】白螺殼灰、白雞冠灰、血竭、麝香と共に末にし、酒醋で艾上で餅にし、頂門に置いて熨す。【車轄脂】水で調へ、頂門に置いて熨す。【附子】葱涎に和して足心に貼る。○また大蒜もよし。

室瘜

内治　「草菜」【白微】肺實で鼻が塞り、香臭の判らぬには、貝母、款冬、

百部と共に末にして服す。【天南星】風邪が腦に入り、鼻塞結硬して濁涕を流すには、二錢づつを甘草、薑、棗と共に煎じて服す。【小薊】煎じて服す。【麻黄・白芷・羌活・防風・升麻・葛根・辛夷・川芎・菊花・地黄・白朮・薄荷・荊芥・前胡・黄芩・甘草・桔梗・木通・水芹・乾薑】「異本」【乾柿】粳米と共に粥に煮て食ふ。【畢澄茄】薄荷、荊芥と共に丸にして服す。【槐葉】葱、豉と共に煎じて服す。【山茱萸・釜墨】水で服す。【石膏】鼻衄に【蛇肉】腦風鼻塞。【羊肺】(八)鼻息には、白朮、肉蓯蓉、乾薑、芎藭と共に末にして日毎に服す。【人中白】

〔外治〕【細辛】(九)鼻齆で香臭の判らぬには、時時に吹く。【瓜蒂】吹く。或は白礬を加へ、或は細辛、麝香と共に、或は狗頭灰と共に用ゐる。【皂莢・麻鞋灰・礜石・麝香】いづれも吹く。【蒺藜】黄連と共に煎じた汁を鼻中に灌げば、嚏して蛹のやうな息肉が出る。【苦瓠汁・馬屎汁・地膽汁・狗膽】いづれも滴らす。【狗頭骨灰】硇を入れて日毎に嗜けば、肉が化して水になる。【青蒿灰・龍腦香・硇砂】いづれも滴らす。【桂心・丁香・蕤核・藜蘆・石胡荽・薫草】いづれも塞ぐ。【菖蒲】皂莢と共に末にして塞ぐ。【蓖麻子】棗と共に一个月間塞げば香臭を聞くやうになる。【白礬】猪脂と共に塞ぐ。○硇砂と共に點けるが尤も妙

(八)鼻息ハ鼻瘜ニ同ジ。和名ハナタケ。
(九)鼻齆、鼻窒ニ同ジ。和名ハナタケ。

である（蓖麻、鹽梅、麝香と共に塞ぐ。【雄黄】一塊で塞げば、十日以内に自ら落ちる。【鐵鏽】猪脂と和して塞げば、日を經て肉が出る。【蠐螬・狗腦・雄雞腎】いづれも鼻を塞いで蟲を引く。【猬皮】炙き研つて塞ぐ。【醍醐】小兒の鼻塞には、木香、零陵香と共に煎膏して頂門に塗り、竝に塞ぐ。

鼻乾　【黄米粉】小兒の鼻乾で涕なきは腦熱である。それには礬と共に末にして顖門に貼る。

鼻痛　【石硫黄】搽る。【石流赤】冷水で調へて搽れば一个月で癒える。【酥・羊脂】いづれも塗る。

鼻傷　【猫頭上毛】（一〇）破鼻に搽る。剪碎して唾に和して傅ける。【髮灰】（一一）落耳鼻に搽り、熱に乘じ急に灰を蘸けて綴定し、動かぬやうに縛る。

鼻毛　【硇砂】鼻中に毛が生え、一晝夜にして長さ一二尺になり、漸漸圓く繩のやうになつて耐へ難く痛むには、乳香と共に丸にして十粒を服すれば自ら落ちる。

赤皶　[内治]　【凌霄花】鼻上の酒皶には、梔子と共に末にして日毎に服す。〇硫黄、胡桃、膩粉と共に揉んで搽る。【使君子】酒皶、面瘡には、香油で浸潤し、就寢

（一〇）破鼻ハ鼻ノ破傷ナラン。
（一一）落耳鼻ハ小鼻ヲ損シタル傷ナラン。

(一二)査瘤ハ齄瘤ノ訛ニシテ、ニキビノカタマリナラン。

時に三五個を嚼めば久しくして自ら落ちる。【蒼耳葉】酒で蒸し、焙じ研つて服す。【巵子】鼻皶、面皰には、炒つて研り、黄蠟で丸にして服す。〇枇杷葉と共に末にして酒で服す。【橘核】鼻赤酒皶には、炒つて研り、三錢を胡桃一個と共に酒に擂つて服す。【木蘭皮】酒皶赤皰には、醋に浸して晒し、研つて日毎に服す。【百草霜】日毎に二錢を服す。【蜂房】炙いて末にし酒で服す。【大黃・紫參・桔梗・生地黃・薄荷・防風・苦參・地骨皮・樺皮・石膏・蟬蛻・烏蛇】

[外治]【黃連】鼻皶には、天仙藤灰と共に油で調へて搽る。【馬藺子】杵いて傅ける。【蜀葵花】夜塗つて朝洗ふ。【蓖麻仁】瓦松、大棗、白果、肥皂と共に丸にして洗ふ。【牽牛】雞子白で調へ、夜塗つて朝洗ふ。【銀杏】酒糟と共に嚼んで傅ける。【槲若】(一二)査瘤膿血には、灰に燒いて瓮中に納れる。その前に泔で楡葉を煮た汁で洗ふ。【硫黃】枯礬と共に末にし、茄汁で調へて塗る。或は黃丹を加へ、或は輕粉を加へる。【輕粉】硫黃、杏仁と共に塗る。【檳榔】硫黃、龍腦と共に塗つてから蓖麻、酥油を研つて搽る。【大楓子】硫黃、輕粉、木鼈子と共に塗る。【雄黃】硫黃、水粉、乳汁と共に調へて傅ける。三五回を過ぎてはならぬ。〇或は黃丹と共に用ゐる。【鸕鷀屎】鼻赤には、猪脂と共に塗る

【雄雀屎】蜜と共に塗る【没石子】水で調へる。【密陀僧】乳で調へる。【鹿角】磨汁。【石膽】いづれも塗擦する

鼻瘡　【黄連】大黄、麝香と共に鼻中に搽る。○末にして鼻下の赤䵟に傅ける【玄參・大黄】杏仁と共に用ゐる【杏仁】乳汁に和す。【桃葉】研る。【盆邊零飯】燒く。【辛夷】麝と共に用ゐる。【黄蘗】檳榔と共に用ゐる。【盧會・紫荊花】貼る。【密陀僧】白芷と共に用ゐる。【犬骨灰・牛骨灰】いづれも鼻中瘡に主效がある。【海螵蛸】輕粉と共に用ゐる。【馬絆繩灰・牛拳灰】いづれも小兒の鼻下赤瘡に傅ける。

唇

脾熱の場合は唇赤く、或は腫れる。○寒の場合は唇青く、或は(一)噤する。○燥の場合は唇が乾き、或は裂ける。○風の場合は唇が動き、或は(二)喎する。○虚の場合は唇白く、色がなくなる。○濕熱の場合は、唇が(三)瀋し、濕爛する。○風熱の場合は唇に核が生ずる。○(四)狐の場合は唇上に瘡

(一)噤ハ閉ヅルコト。
(二)喎ハ歪。
(三)瀋ハ汁。
(四)狐ハ狐祟。

(五)惑ハ蟲惑。

(六)唇瀋、一名緊唇。和名カラスノキウ。

があるものである。○(五)惑の場合は下唇に瘡があるものである。

(六)**唇瀋** 「草薬」【葵根】緊唇濕爛で癒えては發り、幾月、幾年に亘るものを唇瀋と名ける。これには燒灰を脂に和して塗る。【馬芥子】傅ける。【縮砂】燒いて塗る。「果木」【甜瓜】嚙む。【西瓜皮】燒いて嚙む。【桃仁・青橘皮】燒く。【橄欖】燒く【黃蘗】薔薇根汁で調へる。【松脂】化す。「土石」【東壁土】いづれも塗る。【杓上砂】挑げ去れば瘡が癒える。【胡粉】「蟲鱗」【蠐螬】燒く。【鼈甲】燒く。【烏蛇皮】燒く。【鱓魚】燒く。【五倍子】訶子と共に用ゐる。「禽人」【雞屎白・白鵞脂・人屎灰・頭垢・膝垢】いづれも脂に和して塗る。

唇裂 「草穀」【昨葉何草】唇裂け瘡の生ずるには、薑、鹽と共に搗いて擦る。【黃連】火を瀉す【生地黃】血を涼す。【麥門冬】熱を淸す。【人參】津を生ずる。【當歸】血を生ずる。【芍藥】燥を潤す。【麻油】「果服」【桃仁・橄欖仁・青布灰・屠几垢】「蟲獸」【蜂蜜・猪脂・猪脏・酥】

唇腫　「草木」【大黃・黃連・連翹・防風・薄荷・荊芥・蓖麻仁・桑汁】「水石」【石膏・芒消】いづれも塗る。【井華水】下唇が腫れて痛み、或は瘡を生ずるを驢觜風と名ける。水で常に潤し、藥を擦るがよし。上唇が腫れて痛み、瘡を生ずるを魚口風と名ける。「人獸」【猪脂】唇が腫れ黑み、耐難く痛み痒きには、瓷刀で血を去り、古錢を脂で磨つて塗る。

唇核　【猪屎汁】溫服する。

唇動　【薏苡仁】風濕が脾に入つて口唇が釣るやうに動き、むくれあがるには、防已、赤小豆、甘草と共に煎じて服す。

唇青　【青葙子・決明】いづれも唇口の青きに主效がある。

唇噤　「草穀」【天南星】牙に擦り、煎じて服す。【葛蔓】灰を小兒の口噤に點ける。【艾葉】舌に傅ける。【荊芥・防風・秦艽・羌活・芥子】醋で煎じて舌に傅ける。【大豆】黑く炒つて酒で牙に擦る。「木土」【蘇方木・靑布】灰を酒で服し、仍ほ(七)刀上で燒いて汁を取つて搽る。【白棘鉤】水で服す。【竹瀝・荊瀝・皂莢・乳香・伏龍肝】水に澄して服す。「蟲獸」【白殭蠶】發汗。【雀屎】水で丸にして服す。【雞屎白】酒で服

(七)刀上ノ刀ハ貨幣ノ刀布ノコトナラン。

す。【白牛屎・牛涎・牛黃・猪乳・驢乳】いづれも小兒の口噤に用ゐる。

吻瘡 「草菜」【藍汁】洗ふ。【葵根】燒く。【瓦松】燒く。【縮砂殼】燒く。【越瓜】燒く。「果木」【檳榔】燒く。【靑皮・竹瀝】黃連、黃丹、黃蘗に和して塗る。【白楊枝】燒く。【雞舌香・梓白皮】「服器」【靑布】燒いて塗る。【木履尾】煨いて二七回兩吻を拄へる。【筯頭】燒く。【几屑】燒いて塗る。【東壁土】胡粉に和して用ゐる。【胡燕窠土・新瓦末・胡粉】黃連と共に搽る。【蜂蜜・龜甲】燒く。【甲煎・甲香】いづれも塗る。【髮灰】小兒の(八)燕口瘡には、飲で服し、並に塗る。

口舌

舌の苦きは膽熱である。甘きは脾熱である。酸きは濕熱である。澁きは風熱である。辛きは燥熱である。鹹きは脾濕である。淡きは胃虛である。麻痺するは血虛である。(一)胎を生ずるは脾の熱閉である。出血は心の火欝である。腫脹するは心、脾の火毒である。○瘡裂は上焦の熱である。木強は

(八) 燕口瘡ハ口吻瘡。和名カラスノキウ

(一) 舌胎、シタノアレ。

風痰濕熱である。短縮するは風熱である。○舌が數寸も出るは傷寒、産後の中毒、大驚等の數種である。○口の糜れるは膀胱が熱を小腸に移すに因る。○口臭は胃火の食鬱である。○喉の腥きは肺火の痰滯である。

〔一〕舌脹　「草穀」【甘草】木強、腫脹で口の塞るは、治療せねば死に至ることがある。これには濃く煎じて噙み漱ぐ。【芍藥】甘草と共に煎じる。【半夏・羊蹄・絡石】いづれも含漱。【蓖麻油】燃して熏ずる。【附子尖】巴豆と共に用ゐる。【黄葵花】黄丹と共に用ゐる。【蒲黄】乾薑と共に用ゐる。【青黛】朴消、片腦と共に用ゐる。【赤小豆】醋と共に用ゐる。【醋】釜墨と和す。【粟米】「木器」【桑根汁】いづれも塗る。【龍腦香】傷寒で舌が數寸出たるには、これを揉みつければ隨つて消す。【冬青葉】舌が脹つて口から出るには、濃く煎じて浸す。【巴豆】傷寒後舌が出て收らぬには、一粒を紙に卷いて鼻中に插入すれば自ら收る。【黄蘗】竹瀝に浸す。【木蘭皮】汁。【皂莢刺灰】煎汁。いづ

〔一〕舌脹、シタノハレ。

(三)重舌ハ舌下軟瘤。和名コシタ、一名ヤヘシタ。

(四)紫雪ハ製薬名。

(五)重齶ハ重舌ノ類ニシテ、顎ノ裏皮上齶ニ着イテ生ズルモノヲ云フ。

れも(三)重舌を漱ぐ。『桂・氈帶灰・箕舌灰』「土石」『伏龍肝』醋に和し、或は牛蒡汁を加へる。『釜墨・黄丹』いづれも重舌に塗る。『鐵鎖鑰・鐵落』いづれも末にして嚼み、服す。『鐵秤錘』舌脹で咽に息肉を生ずるには、赤く燒き醋に淬して服す。『蓬砂』薑片に蘸けて木舌に擦る。『玄精石』牛黄、硃砂等と共に摻る。『白礬』朴消と共に摻る。○桂心と共に舌下に置く。『消石』竹瀝と共に含む。『芒消』蒲黄と共に摻る。○仙茅の毒に中り、舌が脹れて口から出るには、消黄でこれを飲下す。○小兒の舌脹で口の塞るには、(四)紫雪、竹瀝を多く服す。『硃砂』婦人の出産で舌が出て收らぬには、これを傅けて驚かせば入るものである『石膽・皂礬』「蟲鱗禽獸」『五倍子』いづれも摻る『白殭蠶』或は黄連を加へる。『蜂房』炙く『鼠婦』杵く。『海螵蛸』雞子黄と共に用ゐる。『鯽魚頭』燒く『蛇蛻灰』重舌、(五)重齶には、いづれも醋で和して摻る。『雞冠血』蜈蚣の毒に中り、舌が脹つて口から出るには、之に浸し、嚥下す。『五靈脂』重舌には、醋で煎じて含嗽する『三家屠肉』小兒の重舌で聲の出ぬには、切片で磨すれば啼き出すものである。『鹿角』炙いて熨し、また磨つて塗る。『羊乳・牛乳』飲む。『髮灰』傅ける。「草木」『玄參・連翹・黄連・薄荷・升麻・防風・桔梗・赤芍藥・

大青・生地黄・黄芩・牛蒡子・牡丹皮・黄蘗・木通・半夏・茯苓】「石部」【芒消・石膏】

舌胎　【薄荷】舌胎で言葉の澀るには、汁を取つて薑、蜜と共に擦る。【生薑】諸種の病で舌上に胎を生ずるには、青布を井水に蘸けて抹し、後に時時に薑を以て擦る。【白礬】初生兒が白膜で舌を裹まれて居る場合には、刮つて血を出し、少量を傅ける。然らざれば驚を發するものである。

舌衄　「草穀」【生地黄】阿膠と共に末にして米飲で服す。○汁を童尿に和して酒で服す。【黄藥子】青黛と共に水で服す。【蒲黄】青黛と共に水で服し、幷に傅ける。○烏賊骨と共に傅ける。【香薷】煎汁を日に三升服す。【大小薊】汁を酒に和して服す。【蓖麻油】燈に點けて鼻を薫ずれば自ら止む。【茜根・黄芩・大黄・升麻・玄參・麥門冬・艾葉・飛羅麪】水で服す。【豆豉】水で煎じて服す。【赤小豆】絞汁を服す。「木石」【黄蘗】蜜で炙り、米飲で服す。【槐花】炒つて服し、幷に摻る。【龍腦】引經。【卮子・百草霜】蚌粉と共に服す。○醋で調へて塗る。【石膏】「蟲人」【五倍子】牡蠣、白膠香と共に摻る。(六)【紫金沙】蜂房の頂である。貝母、盧薈と共に蜜で丸にして水で服

(六)金陵本ニ、紫金沙ハ蜂房頂也トアリ。

（七）口糜ハ加多兒性口内炎。

す。【髮灰】水で一錢を服し、或は巴豆を加へて共に灰に燒く。

强痺 【雄黃】中風の舌强には、荊芥と共に末にし、豆淋酒で服す。【醋】小兒の舌の强腫には、飴に和して含む。【烏藥】固氣舌痲。【皂莢・礬石】いづれも痰壅舌痲に擦る。【人參】氣虛の舌短に主效がある。【黃連・石膏】心熱の舌短に主效がある。

舌苦 【柴胡・黃芩・苦參・黃連・龍膽】膽を瀉す。【麥門冬】心を淸くす。【枳椇】酒毒を解す。

舌甘 【生地黃・芍藥・黃連】

舌酸 【黃連・龍膽】肝を瀉す。【神麴・蘿蔔】食欝を消す。

舌辛 【黃芩・梔子】肺を瀉す。【芍藥】脾を瀉す。【麥門冬】心を淸くす。

舌淡 【白朮】脾を燥す。【半夏・生薑】水を行らす。【茯苓】濕を滲す。

舌鹹 【知母】腎を瀉す。【烏賊骨】胃を淡くす。

舌濇 【黃芩】火を瀉す。【葛根】津を生ず。【防風・薄荷】風熱を去る。【半夏・茯苓】痰熱を去る

（七）**口糜** 〔内治〕 一草部ニ【桔梗】甘草と共に煎じて服す。【麥門冬・玄參・赤芍藥・

連翹・秦艽・薄荷・升麻・黄連・黄芩・生地黄・知母・牡丹・木通・甘草・石斛・射干・附子】口瘡で久しく涼藥を服しても癒えぬには、理中に附子を加へて反治し、官桂を含ます。「果木」【栗子】小兒の口瘡には、日毎に煮て食ふ。【蜀椒】口瘡の久患には、水で洗つて麪に拌ぜ、煮熟して空腹のときに呑み、飯で壓下す。再服以上はよくない。【龍腦】經絡の火邪で夢遺し、口瘡を生ずるには、黄蜜と共に丸にして服す。【地骨皮】口舌の糜爛には、柴胡と共に煎じて服す。【黄蘗・茯苓・猪苓】「金石」【朴消・蓬砂・石膏・滑石・靑錢】口內の熱瘡には、燒いて酒に淬して飮む。【猪膏】口瘡で咽の塞るには、黄連と共に煎じて服す。

噙漱

【細辛】口舌に瘡を生じて糜爛するには、黄連、或は黄蘗と共に末にして摻る。これを赴筵散と名ける。外には醋で調へて臍に貼る。【黄連】酒で煎じて呷ひ含む。○乾薑と共に末にして摻る。これを水火散と名ける。【升麻】黄連と共に末にして噙む。【甘草】白礬と共に用ゐる。【天門冬】連年の口瘡には、麥門冬、玄參と共に丸にして噙む。【薔薇根】日久しく延いて胸中に入り、三年已上を經過したものには、濃煎して含漱する。夏季には枝葉を用ゐる。【大靑葉】蜜に浸す。【蘘荷根】汁。【蛇苺】汁。【牛膝・忍冬】いづれも口瘡

(八)鵞口瘡、和名シロシタ、一名シタシトキ。

を漱ぐ。【蒲黄・黄葵花】焼く。【赤葵莖・縮沙沒灰・角蒿灰】いづれも口瘡に塗る。【貝母】小兒の口に白瘡を生じ、(八)鵞口瘡の如きには、末にし蜜を入れて日毎に五六回抹す【白及】乳で調へる、【燕脂】乳で調へる【黍米】嚼む【赤小豆】醋で調へる○いづれも小兒の鵞口に塗る【豉】口舌瘡には、炒り焦して一夜含めば癒える。【米醋】黄蘗を浸す。【蘿蔔汁・薑汁】いづれも滿口爛瘡を漱ぐ。【狐】焼いて口鼻中の肉の爛れ痛むに塗る。【茄科】焼いて鹽と共に口中に生じた蕈に傅ける【茄蒂灰・桃枝】煎じて漱ぐ。【杏仁】少量の膩粉を入れ、就寢時に細嚼して涎を吐く。【檳榔】焼いて輕粉を入れて摻る。【甜瓜】含む【西瓜】含む。【細茶】甘草と共に用ゐる【鳧茈灰・梧桐子灰・沒石子】甘草と共に用ゐる○いづれも口瘡に摻る【黄蘗】口舌瘡には、蜜に浸して含む。○青黛と共に摻る。○銅綠と共に摻る。○滑石、五倍子と共に摻る。蓽茇と共に醋で煎じて漱ぐ。【乳香】白口瘡には、沒藥、雄黄、輕粉と共に塗る。○赤口瘡には沒藥、銅綠、枯礬と共に塗る【楝根】口中瀰瘡には煎じて服す。【冬青葉汁・黄竹瀝・小蘗汁】いづれも含漱。【桂】薑汁と共に下虛の口瘡、及び鵞口に塗る。【桑汁・柘漿・甑帶灰】いづれも鵞口に塗る。【甑垢】口舌に生じた瘡には、刮り取つ

て塗れば癒える【烏疊泥】或は蓬砂を加へる。【釜墨・胡粉】猪髓に和す。【黄丹】蜜で蒸す【密陀僧】煆いて研る。【鐵銹】水で調へる。【黑石脂】いづれも口瘡に塗る。【銅綠】白芷と共に摻り、醋で漱ぐ。【水銀】口瘡には、黄連と共に煮熱して含む。【寒水石】口瘡、膈熱には、煆いて硃砂、片腦に和して摻る。【朴消】口舌の瘡には含む また小兒の鵞口に擦る 或は青黛を加へる。○或は寒水石を入れ、少量の硃砂を入れる【白礬】鵞口を漱ぐ○硃砂と共に小兒の鵞口に傅ける○黄丹と共に摻る。【蓬砂】消石と共に含む【膽礬】煆く【蜂蜜・竹蜂蜜】いづれも口瘡に塗る【五倍子】これを摻れば立ろに物を飲食し得る ○黄蘗、滑石と共に用ゐる。○或は密陀僧を加へる。○或は青黛、銅綠と共に用ゐ、大人、小兒の木耳の狀に似たる白口瘡を治す。急なるには、咽喉に吹入れる【蠶繭】蓬砂を包んで焙じ、研つて摻る【白殭蠶】炒り研つて蜜に和す【晩蠶蛾・蠶紙灰・鯽魚頭】燒く。いづれも摻る【蛇皮】拭ふ。【雞內金】燒いて一切の口瘡に傅ける。【白鵞屎】鵞口に傅ける【羊脛髓】胡粉と共に塗る【牛羊乳】含む【酥】含む【鹿角】磨汁を鵞口に塗る。【人中白】枯礬と共に口瘡、鵞口に塗る。

【上治】【天南星】密陀僧と共に末にし、醋で調へて(九)眉心

(九)眉心ハ兩眉間ノ中心。

（一〇）顖會ハ兩眉中心ヨリ四寸五分ノ上方ノ穴。

に塗り、二時して洗ひ去る。【巴豆油紙】眉心に貼る。○或は（一〇）顖門に貼り、起泡して菖蒲水で洗ひ去る。

【下治】【細辛】醋で調へて臍に貼る【生南星】或は草烏を加へ、或は黄蘗を加へる。【生半夏・生附子・呉茱萸】或は地龍を加へる。【密陀僧・湯瓶鹸】いづれも醋で調へて足心に貼る【生硫黄・生礬・消石】倶に水に少量の麪を入れて調へ、足心に貼る。【黄連】黄芩、黄蘗と共に水で調へ、足心に貼る。【白礬】湯に溶化して足を濯ふ。

口臭　「草菜」【大黄】焼いて研り牙に揩る。【細辛】白豆蔻と共に含む。【香薷・雞蘇・藿香・益智・縮砂・草果・山薑・高涼薑・山柰・甘松・杜若・香附】牙に摻る。【黄連・白芷・薄荷・荊芥・芎藭・蒲黄・茴香・蒔蘿・胡荽・邪蒿・萵苣・生薑・梅脯・橄欖・橘皮・橙皮・盧橘・蜀椒・茗・沙糖・甜瓜子・木樨花・乳香・龍腦皮子・無患子仁・丁香・檀香】「水石」【井華水】早朝に含んで厠中に吐く【密陀僧】醋で調へて漱ぐ。【明礬】麝香を入れて牙に擦る。【蓬砂・食鹽・石膏・象膽】

喉腥　【知母・黄芩】いづれも肺熱の喉中腥氣を瀉す。【桔梗・桑白皮・地骨皮・貝母・麥門冬】

咽喉

咽痛は君火であつて、寒が熱を包むものである(一)喉痺は相火であつて、嗌疸である。俗に(二)走馬喉痺と名け、人を殺すこと最も急なるものであるが、ただ火と(三)鍼焠とだけが速な效を擧げる。これに次ぐ方法は髮を拔き、指を咬み、痰を吐し、鼻に嗃ぐことである。

火を降す　「草部」【甘草】火を緩にし、咽痛を去る。蜜で炙つて煎じて服す。○肺熱には桔梗と共に煎じる。【桔梗】肺熱を去る。○咽嗌、喉痺の毒氣を利するには、煎じて服す。【知母・黄芩】いづれも肺火を瀉す。【薄荷・荊芥・防風】いづれも風熱を散ず。【玄參】無根の火を去る。○急喉痺には、鼠粘子と共に末にして服す。○發斑咽痛には、升麻、甘草と共に煎じて服す。【蠡實】升麻と共に煎じて服す。○根、葉も同じ。【惡實】風熱を除き(四)咽膈を利す。○喉腫には、馬藺子と共に末にして服す。(五)○懸癰腫痛には、甘草と共に煎じて嚥む。これを開關散と名ける。【牛蒡根】擣汁を服す。

(一)喉痺ハ扁桃腺炎。
(二)走馬喉痺ハ喉痺ノ急性ノモノ。馬痺風即チヂプテリヤナドニ當ツベキカ。
(三)鍼焠ハ將針。
(四)咽膈ハ食道痙攣、食道狭窄ノ類。
(五)懸癰腫痛ハ和名

ノドマメノハレルヤマヒ。

(六)尸咽ハ咽喉瘡ノ一種。

(七)馬喉痺、ヂフテリヤ。

(八)火硝ハ硝石。

また煎じる。【射干】喉痺咽痛で消息し得ぬに用ゐ、肺熱を利す。擣汁を服して通じをつける。【燈籠草】熱欬咽痛には、末にして服し、醋で調へて外に塗る。【白頭翁】下痢咽痛には、黄連、木香と共に煎じて服す。【麥門冬】虚熱上攻の咽痛には、黄連と共に丸にして服す。【縮砂】熱欬咽痛には、末にして水で服す【懸鉤子莖】喉の塞るには、焼いて研り水で服す。【薔薇根】(六)尸咽、乃ち尸蟲が上蝕して痛痒し、語聲の出ぬには、甘草、射干と共に煎じて服す。【栝樓皮】咽喉腫痛で語聲の出ぬには、殭蠶、甘草と共に末にして服す【烏蘞莓】車前、馬藺と共に杵いて汁を嚥む。【絡石】喉痺で死ぬほど苦むには、水で煎じて呷ふ。【馬勃】蜜水で揉んで呷ふ。〇(七)馬喉痺には(八)火硝で吹く。【龍膽・大青・紅花・鴨跖草・紫葳】いづれも擣汁を服す。【榼藤子】焼く。【鵝抱・忍冬】いづれも酒で煎じて服す。【通草】含嚥すれば諸結の喉痺を散ず。【燈心草】灰に焼き、鹽と共に喉痺に吹く、甚だ捷效がある。〇蓬砂と共に用ゐる。〇箬葉灰と共に用ゐる、いづれもよし。〇紅花灰と共に酒で一錢を服すれば消す。【葛蔓】卒の喉痺には、灰に焼いて用ゐる。【木通】咽痛喉痺には、水で煎じて呷ふ。【商陸】熨し、炙り、及び酒で煎じて頂に塗る。【白芷】雄黄と共に水で和して頂

に塗る。【都管草・百兩金・釵子股・辟虺雷・蒺蔾・穀精草・蛇含・番木鼈・九仙子・山豆根・硃砂根・黄藥子・白藥子・苦藥子】いづれも噙むがよし。また煎じて服し、末にして服し、喉の外部に塗る。「穀菜」【豆豉】咽に生じた息肉には、刺し破つて血を出し、鹽と共に塗れば神效がある。【白麪】醋で和して喉外に塗る。【水苦蕒】磨つて服す。【糟醬茄・絲瓜汁】「果木」【西瓜汁・橄欖・無花果・苦茗】いづれも嚼み噙む。【吳茱萸】醋で調へて足心に塗る。【李根皮】水に磨つて頂に塗り、先に皂末を鼻に吹く。【黄蘗】酒で煮て含む。○喉腫には醋で傅ける。【龍腦香】黄蘗、燈心、白礬と共に燒いて吹く。【梧桐淚】磨汁を掃く。【槐花・槐白皮・訶黎勒・鹽麪子・皁盧・朴消】いづれも含んで噙み、煎じて服し、末にして服す。【不灰木】玄精石、眞珠と共に丸にして服す。【石蟹】磨汁。及び喉外に塗る。【黑石脂】口瘡、咽痛。【食鹽】喉風、喉痺、咽痛に點けて甚だ效がある。【戎鹽・鹽蟹汁】「獸人」【牛涎】いづれも含噙する。【牛齧】喉痺。【猪膚】咽痛。【沙牛角】喉痺で死ぬほどに苦むには、燒いて研り酒で服す。【牛鼻拳】灰に燒いて纏喉風に用ゐる。【猪膽】臘月に黄連、朴消を盛つて風乾し、吹く。【臘猪尾】燒灰を水で服す。【敗筆頭】二錢を飲で服す。【鼫鼠肚・

人尿】いづれも含嗽する。或は鹽を入れる。

風痰　「草部」【羌活】喉閉、口噤には、牛蒡子と共に煎じて灌ぐ。【升麻】風熱咽痛には、煎じて服す。或は吐かす。【半夏】咽痛には、醋で煎じて呷ふ。〇喉痺で通ぜぬには、鼻に吹く。〇巴豆と共に醋で熬膏し、化して服し吐かす。【天南星】白殭蠶と共に末にして服す。【菖蒲汁】鐵錘酒に和して服す。【貝母・細辛・遠志】いづれも吹く。【蛇牀子】冬季の喉痺には、烟に燒いて薰ず。痰は自ら出る。【蓖麻油】燒燃して熏淬すれば、毒は自ら破れる。〇仁を朴消と共に研り、水で服して吐かす。【麻黃】尸咽痛痒には、燒いて熏ずる。【蒼耳根】纏喉風には、老薑と共に酒に研つて服す。【木賊】燒いて一錢を服すれば血が出る。【高涼薑】皂莢と共に鼻に吹く。【馬藺根・艾葉・地松・馬蹄香・箭頭草・益母草・蝦蟇衣】霜梅と共に用ゐる。【萱草根・瑞香花根・紫菀根・牛膝】いづれも杵汁に酢を入れて灌ぎ、吐かす。甚しきには鼻に灌ぐ。【藜蘆・恒山・鉤吻・莽草・蕘花】いづれも末にし、痰を吐かす。【白附子】礬と共に舌に塗る　【草烏頭】石膽と共に吹く　【天雄・附子】蜜で炙いて含む。【蘭茹・雲實根汁】「穀菜」【飴糖・大豆汁】いづれも含嗽する。【粳穀奴】走馬喉痺には、研つて服すれば立

ろに效がある。【稻穰】燒煤を醋に和して鼻に灌ぎ、痰を追ふ。【麻子】戸咽には、燒いて服す。【青蘘】飛絲が咽に入りたるには、嚼んで嚥む。【韭根・薤根・芥子】いづれも喉外に傅ける。【葱白・獨蒜】いづれも鼻を塞ぐ。【百合・桑耳】いづれも蜜に浸して含む。【生薑汁】蜜に和して服す。諸禽を食つた中毒の咽腫痺を治す【蘿蔔子】「果木」【秦椒・瓜蔕】いづれも風痰を吐かす。【桃皮・茘枝根】いづれも煮て含む。【榧子】戸咽に用ゐ、蟲を殺す。【杏仁】炒つて桂末に和して服す。【白梅】生礬と共に含む。【山柑皮・桂皮・荊瀝】いづれも含嚥する。【乾漆】喉痺で死ぬほど苦むには、燒烟を吸ふ。【巴豆】燒烟で熏淬する。○紙に卷いて鼻を塞ぐ。【皂莢】急喉痺には、生で研つて點ければ破れる。外には醋で調へて塗り、水で揉んで灌ぐ。【烏藥】醋で煎じる。【桐油・無患子】研つて灌ぐ。いづれも風痰を吐く。【楮實】水で一箇を服す。【棘鍼】燒いて服す。【枸橘葉】咽喉の瀰には煎じて服す。【胡頽根】喉痺には、酒で煎じて用ゐる。【紫荊皮・箽竹葉・百草霜】いづれも煎じて服す。「土器」【梁上塵】枯礬、鹽皂と共に吹く。【土蜂窠】舌根に擦る。【漆筯】燒烟で熏淬する。【故甑蔽】燒いて服す。【履鼻繩】戸咽には、燒いて服す。【牛鼻拳灰】「金石」【綠礬】いづれも喉に吹く。【白

(九)噎痛ハ飲痛ニ同ジ、胃痛ナラン、

礬】生で含めば急喉閉を治す。○鹽と共に一切の喉病に點ける。○巴豆と共に枯過して用うれば、喉痺を治すること甚だ捷である。○猪膽に盛つて吹く。○新磚で浸し霜を取つて吹く。【蓬砂】含嚥する。或は白梅と共に丸にする。○或は牙消と共に含む。【硇砂】懸癰卒腫には、綿で裹んで含む。○喉痺、口噤には、馬牙消と共に點ける。【代赭石・馬銜】いづれも煎汁を服す。【車轄】燒いて酒に淬して飲む。【鐵秤錘】燒いて菖蒲汁に淬して飲む。【鉛白霜】甘草と共に含む。或は靑黛と共に丸にして噙む。【銀硃】海螵蛸と共に吹く。【雄黄】水に磨つて服す。巴豆と共に研つて服し、吐き下す。或は瓶に入れて燒烟し、鼻に熏じ涎を追ふ。【石膽】喉痺に吹くは神方である。或は牙皂末を入れる。【馬牙消】殭蠶末、蓬砂と共に吹く。【消石】「蟲部」【天漿子】いづれも含嚥する【白殭蠶】喉痺で死ぬほど苦むには、薑汁で調へて灌ぐ。○或は南星を加へ、石膽を加へ、白礬を加へ、甘草を加へ、蜂房を加へる。○乳香と共に燒烟して熏ずる。【蠶退紙灰】蜜で丸にして含む。【桑螵蛸】燒いて馬勃と共に丸にして服す【壁錢】白礬と共に燒いて吹く。【蜘蛛】焙じ研つて吹く。【五倍子】殭蠶、甘草、白梅と共に丸にして含めば自ら破れる。【土蜂子】(九)噎痛。【蜂房灰】「鱗介」【海螵蛸】

いづれも吹く。【黃顙魚頰骨】灰に燒き、茶で三錢を服す。【鯉魚】竈底土と共に喉外に塗る。【鱧魚膽】水で化して灌ぐ。【青魚膽】含嚥する。○或は鼻に吹いて吐かす。○或は石膽を盛り、陰乾して吹く。【鮫魚膽】白礬に和して喉に掃き、吐かす。【黿膽】薄荷汁と灌いで吐かす。【蛇蛻】燒烟を吸ふ。○白梅を裹んで含む。○當歸末と共に酒で服し、吐かす。【牡蠣】「禽獸」【雞內金】燒いて吹く。【雞屎白】含嚥する。【雄雀】水で服し、沙糖で丸にして含む。【猪腦】喉痺の已に破れたるには、蒸熟して薑を入れて食ふ。○張賓之曰く、書中莽草をいづれも莽草と書いてあるが、ここに莽に書き改めて。犬に从ひ草に从ふ。

音聲

音の病には、肺熱があり、肺痿があり、風毒が肺に入るものがあり、蟲が肺を食ふものがある。○瘂は寒が熱を包むものである。○狐惑に因るものもある。○物を言へず、音の出ないものがある。○舌の強ばるがある。○或は(一)痰迷に因るがある。

(一)痰迷ハ痰暈ト同

ジキカ、然レバ眩暈ノ一種。
(二)瘖俳ノ俳ハ痱ノ誤ナラン。

(三)卒暗風、メマヒ。

○腎虛の(二)瘖俳がある。

邪熱 「草部」【桔梗・沙參・知母・麥門冬】いづれも肺熱を除く。【木通・菖蒲】いづれも音聲を出す。○小兒の卒瘖には、麻油を湯に泡けて服す。【黃芩】熱病の聲瘖には、麥門冬と共に丸にして服す。【人參】肺熱の聲瘂には、訶子と共に末にして噙む。○產後の不語には、菖蒲と共に服す。【牛蒡子】熱時聲瘂には、桔梗、甘草と共に煎じて服す。【青黛】薄荷と共に蜜で丸にして含む。【馬勃】失聲不出には、馬牙消、沙糖と共に丸にして服す。【燕覆子】五臟斷絕の氣を續け、語聲の氣を充分ならしめる。【燈籠草・栝樓・甘草・貝母】「穀菜」【赤小豆】小兒の不語には、酒で和して舌に傅ける【蘿蔔】咳嗽失音には、皂莢と共に煎じて服す。【胡麻油】「果木」【梨汁】客熱中風の不語、(三)卒暗風の不語には、竹瀝、荊瀝、生地汁と共に熬膏して服す。【柹】聲喉を潤す。【槐花】炒つて嚼めば風熱の失音を去る。【巵子】煩悶瘖瘂を去る。【訶黎勒】尿で煎じた汁を含嚥する。○感寒失音には、桔梗、甘草と共に童尿弁に水で煎じて服す。○久咳嗽の失音には、木通を加へる。【杉木灰】水で淋して飲めば肺痿失音

を治す。【乳香】中風の口噤不語。【荊瀝・竹瀝・竹葉】煎汁。【天竹黃】いづれも痰熱の失音、中風の不語を治す。【地骨皮・桑白皮】「蟲獸」【蟬蛻】瘂病には、末にして水で服す。【蝦蟆膽】小兒の失音不語には、舌尖上に點ければ立ろに效がある。【雞子】喉聲を開く。【犀角】風熱の失音。【豬脂】肺傷の失音には、生薑と共に煮て白皮末を蘸けて食ふ。【豬油】肺熱の暴瘖には、一斤を煉り、白蜜を入れて折折一匙を服す。【酥・人乳】失音には、竹瀝に和して服す。○卒に言語不能になりたるには、酒に和して服す。○中風不語で舌の強ばるには、醬汁に和して服す。【人尿】久咳の失聲に用ゐる。

風痰　「草穀」【羌活】賊風の失音。○中風の口噤不語には、酒で煎じて飲む。或は大豆を炒つて入れる。○小兒には、殭蠶と共に麝香、薑汁を入れて服す。【蘘荷根】風冷失音には、汁を酒に和して服す。【天南星】諸風の口噤不語には、蘇葉、生薑と共に煎じて服す。○小兒癇後の失音には、煨いて研り、豬膽汁で服す。【荊芥】諸風の口噤不語には、末にして童尿酒で服す。【黃芪】風瘖不語には、防風と共に湯に煎じて熏ず。【紅花】男女中風の口噤不語には、乳香と共に服す。【遠志】婦人の血噤失音。【白朮】風濕の

舌木强。【防已】毒風不語。【附子】口の卒に噤瘖するに吹く。【黒大豆】卒然の失音には、(四)青竹算子と共に煮て服す。○卒風不語には、煮汁、或は酒で含む。【豉汁】卒に言語不能なるには、美酒を入れて服す。【酒】咽を傷め聲の破れたるには、酥と共に乾薑末を調へて服す。【乾薑】卒風不語には、舌下に置く。【生薑汁】「果木」【橘皮】卒の失音には、煎じて呷ふ。【杏仁】聲氣を潤す。○卒瘂には、桂と共に含む。○蜜酥で煮て丸にして噙む。○生で含めば偏風の失音不語に主效がある。【梔子】尸咽痛痒で語音の出ぬは、蟲があつて咽を食ふのである。蕪荑、杏仁、桂と共に丸にして噙む。【桂】風僻失音には、舌下に置き汁を嚥む。○菖蒲と共に煎じて服す。【楮枝葉】卒風不語には、酒で煮て服す。【東家雞棲木】失音不語には、灰に燒いて水で服す。一升飲み盡せば效がある。「石器」【密陀僧】驚氣が心に入つて瘖し、言語不能なるには、茶で一匙を服す。肝を平にし、怯を去る。【雄黄】中風舌强には、荊芥と共に末にして豆淋酒で服す。【礬石】中風失音、産後不語には、湯で一錢を服す。痰の盛なるときは多く服して吐かす。【孔公孼】喉聲を圓ならしめる。【履鼻繩】尸咽で語聲の出ぬは蟲があるためである。燒灰を水で服す。【梭頭】失音不語

(四)青竹算子ハ算籌ノコトナルベシ。

には、痛いほど手心を刺せば發語する。「蟲介」【白殭蠶】中風失音には、酒で服す。【五倍子・百藥煎・龜尿】中風の舌瘖不語、小兒の驚風不語には、舌下へ點ける。【眞珠】卒忤不語には、雞冠血で丸にして口中に納れる。「禽人」【雞屎白】中風の失音、痰迷には、水で煮て服す。【亂髮灰】中風失音であらゆる藥の效なきには、桂末と共に酒で服す。○張貢之曰く、篇中尸咽を半は尸烟と書いてあるが、ここにはすべて咽に一定した。

牙齒

牙痛には、風熱に因るもの、濕熱に因るもの、胃火に因るもの、腎虛に因るもの、(一)蟲齲に因るものがある。

風熱濕熱　「草部」【秦艽】陽明の濕熱。【黃芩】中焦の濕熱。【白芷】陽明の風熱。○細辛と共に擦る。○硃砂を入れて擦る。【黃連】胃火、濕熱。○牙痛の惡熱には、これを揩れば立ろに止る。【升麻】陽明本經の藥であつて、牙根の浮爛、(二)疳䘌に主效がある。○胃火には、煎じて漱ぐ。【羌活】風熱には、酒で煮て漱ぐ　○地黃末と共に煎

(一) 蟲齲、ムシクヒバ。

(二) 疳䘌ハ疳ヨリ起ルムシクヒバ。

じて服す。【當歸・牡丹・白頭翁・薄荷】風熱。【荊芥】風熱には、葱根、烏桕根と共に煎じて服す。【細辛】石灰に和して摻る。【縮砂仁】嚼む。【蓽茇】いづれも口齒の浮熱を去る。○木鼈子と鼻に嗃げば神效がある。【附子尖】天雄尖、蠍梢と共に末にして點ければ止る。【大黃】胃火の牙痛。○燒き研つて牙に揩る。地黃と共に貼る。【生地黃】牙痛、牙長には、いづれもこれを含んで吐き出す。○蟹を食つて齦の腫れたるには、皀角に汁を醮けて炙き、研つて摻る。【蒼朮】鹽水に浸して燒き、牙に揩つて風熱、濕熱を去る。【香附】青鹽、生薑と共に日毎に擦れば齒を固くする。○艾葉と共に煎じて漱ぐ。【牛蒡根】熱毒風腫には、汁を取り、鹽を入れ熬膏して齦上に塗る【積雪草】耳を塞ぐ。【紅豆蔻・酸草・鵞不食草】いづれも鼻に嗃く。【山柰】麝を入れて牙に擦り、鼻に吹く。【芎藭・山豆根・大戟】いづれも咬んで含む。【木鼈子】醋に磨る。【高良薑】蠍と共に用ゐる。【靑木香】いづれも牙に擦る。【薰草】升麻、細辛と共に用ゐる。【屋遊】鹽と共に用ゐる。【栝樓皮】蜂房と共に用ゐる。【鶴虱・地菘・紅燈籠枝・芭蕉汁・蒼耳子・惡實・靑蒿・猫兒眼睛草・瓦松】礬と共に用ゐる。【薔薇根】「穀菜」【薏苡根・胡麻・黑豆】いづれも煎じて漱ぐ。【蘿蔔子・蒔蘿】いづれも鼻に嗃

（二）風牙痛ハ齒神經痛。

く。【水芹】口齒を利す。【赤小豆・老薑】礬と共に用ゐる。【乾薑】椒と共に用ゐる。【雞腸草】旱蓮、細辛と共に用ゐる。【莧根】燒く。【灰藋】燒く。【茄科】燒く。【絲瓜】燒く。いづれも鹽と共に擦る。【大蒜】煨いて擦る。【蕓薹子】白芥子、角茴と共に鼻に嗃く。【馬齒莧】汁。【木耳】荊芥と共に用ゐる。【壺蘆子】「果木」【桃白皮】柳、槐皮と共に用ゐる。【李根白皮】いづれも煎じて漱ぐ。【胡椒】齒根の浮熱を去る。○風、蟲、寒の三痛には、綠豆と共に咬む。○蓽茇と共に孔を塞ぐ。【荔枝】（二）風牙痛には、殼のまま鹽を入れて燒いて揩る。【瓜蒂】風熱痛には、麝香と共に咬む。【蜀椒】齒を固くする。○風、蟲、寒の三痛には、牙皂と共に醋で煎じて漱ぐ。【吳茱萸】酒で煎じる。【荷蒂】醋と共に用ゐる。【秦椒・杉葉】風、蟲には、芎藭、細辛と共に酒で煎じて漱ぐ。【松葉・松節】いづれも水で煎じ、鹽或は酒を入れて漱ぐ。【松脂】揩る。【桂花】風、蟲の牙痛。【辛夷】面腫の引痛。【乳香】風、蟲には、嚼んで噙む。【地骨皮】虛熱の上攻するには、柴胡、薄荷と共に水で煎じて漱ぐ。【槐枝・柳白皮・白楊皮・枳殼・臭橘皮・郁李根・竹瀝・竹葉】當歸尾と共に煎じる。【荊莖】荊芥、蓽茇と共に煎じる。【郁李根】いづれも煎じて漱ぐ。【沒石子・皂莢】鹽、礬と共に燒く。肥皂莢、

(四)遠近牙痛ハ時時ニ發作スル齒痛。

(五)宣露ハ牙齗ノ肉脫スルモノヲ云フ。

鹽と共に燒く。【無患子】大黃、香附と共に鹽で煆く【丁香】(四)遠近牙痛には、胡椒、蓽茇、全蠍と共に末にして點ければ立ろに止る。【楓香】年久しき齒痛。【龍腦】硃砂と共に用ゐる。「土石」【蚯蚓泥】燒く。いづれも牙に揩る。【壁上塵土】鹽と共に燒いて鼻に嗜く。【金釵】燒いて烙する【白銀】風牙には、赤く燒き火酒に焠して漱げば止る【石膏】胃火を瀉す。○荊芥、防風、細辛、白芷と共に末にして日每に揩る。【白礬】煎じて漱げば血を止め、齒碎を止める。【黃礬】風熱の牙疼を漱ぐ。【食鹽】牙に揩り、目を洗へば、牙を堅くし、目を明にし、(五)宣露を止める。○就寢時に齦を封ずれば、牙痛で血の出るを止める。○槐枝を煎過したものは風熱を去る。○皂角と共に燒いたものは風熱を去る。【青鹽】同上。○川椒を煎じ乾して牙に揩れば、永く齒疾を患にぬ。【朴消】皂莢を煎じて風熱、及び蟹を食つて齦の腫れたるに擦る。【雄黃】乾薑と共に鼻に嗜く。【鉛灰】「蟲禽獸部」【白殭蠶】薑と共に炒る。【蠶退紙灰】いづれも揩擦する。【露蜂房】鹽と共に燒いて擦る。○全蠍と共に擦る。○細辛と共に漱ぐ。酒で煎じて漱ぐ。【百藥煎】風熱には、湯に泡けて含む。○玄胡索末、雄黃末と共に擦る。【白馬頭蛆】牙を取る。【全蠍・五靈脂】惡血齒痛には、醋で煎じて漱ぐ。

【雄雞屎】燒いて咬む。【羊脛骨灰】濕熱には、當歸、白芷と共に擦る。【諸朽骨】風熱には、煨いて咬む。

腎虛　「草菜」【旱蓮草】青鹽と共に炒焦して牙に揩れば、髮を黑くし、齒を固くする。【補骨脂】青鹽と共に日毎に揩る。○風、蟲には、乳香と共に用ゐる。【蒺藜】打動牙痛には、擦り漱ぐ。【骨碎補】乳香と共に塞ぐ。【獨蒜】熨す。【甘松】硫黃と共に煎じて漱ぐ。【牛膝】含漱。【地黃】「石獸」【石燕子】牙に揩れば堅固にし、痛みを止め、齒疎を治す。【硫黃】腎虛の人は、猪臟で煮て丸にして服す。【羊脛骨灰】骨を補ふ。

蟲䘌　「草部」【桔梗】薏苡根と共に水で煎じて服す。【大黃】地黃と共に貼る。【鏡面草・蜀羊泉・紫藍】いづれも點ける。【雀麥】苦瓠葉と共に醋で煎じ、炮じて口中に納れて蟲を引く。【覆盆子】牙に點けて蟲を取る。【蓽茇】木鼈子と共に鼻に嗃く。○胡椒と共に孔を塞ぐ。【細辛・莽草・苦參・惡實】いづれも煎じて漱ぐ。【附子】孔を塞ぎ、又耳を塞ぐ。【羊躑躅】蠟で丸にする。【藤黃・烏頭・草烏頭・天南星・芫花】いづれも孔を塞ぐ。【山柰・莨菪子・艾葉】「菜穀」【韭子】いづれも燒烟で熏ず。【韭根】

(六)骨槽風ハ下顎骨潰瘍。
(七)䘌黒ハ齲齒ノコトカ。
(八)露黒臭ハ齒疳蠹ノ形容詞ナラン乎。
(九)字書ニ、揾烏因切、音温、手捺物貌。

泥と共に貼つて蟲を引く。【茄根】汁を塗る。○灰に燒いて貼る。【燒酒】花椒を浸して漱ぐ。「果木」【銀杏】食後に生で一二個を嚼む。【地椒】川芎と共に揩る。【楊梅根皮・酸榴根皮・吳茱萸根】いづれも煎じて漱ぐ。【杏仁】煎じて漱ぎ、或は燒いて烙する。【桃橛】煎じて汁を滴らす。【桃仁・柏枝】いづれも燒いて烙する。【皂莢子】醋で煮て烙する。【胡桐淚】口齒の要藥である。○熱濕牙疼、及び風疳の蠹齒、(六)骨槽風には、末にし麝香を入れて夜毎に貼る。○宣露臭氣には、枸杞根と共に漱ぐ。○(七)䘌黒には、丹砂、麝香と共に摻る。【巴豆】風蟲には、綿に裹んで咬む。○燒烟して熏ずる。○蒜と共に耳を塞ぐ。【阿魏】雄黃と共に耳を塞ぐ。【丁香】齒疳蠹(八)露黒臭には、汁に煮て食ふ。○射干、麝香と共に揩る。【海桐皮】煮汁。いづれも漱ぐ。【槐白皮・枸橘刺・鼠李皮・地骨皮】醋で用ゐる。【楓柳皮・白楊皮・白棘刺】いづれも煎じて漱ぐ。【樟腦】硃砂と共に揩る。○黃丹、肥皂と共に孔を塞ぐ。【楤白皮】孔牙白爛を塞ぐ。【乳香】椒、或は巴豆、或は礬と共に孔を塞ぐ。【松脂・盧薈・蕪荑・天蓼根】「金石」【花鹹・石鹹】いづれも孔を塞ぐ。【鐵鏵頭】積年の齒蠹には、赤く燒き、硫黃、猪脂を入れて熬沸し、柳の枝にその藥を(九)揾して烙する。【砒霜】黃丹と

共に蠟で丸にして耳を塞ぐ。【石灰】風、蟲には、蜜に和し煆いて擦る。○沙糖で和して孔を塞ぐ。【雄黄】棗に和して塞ぐ。【硇砂】孔を塞ぐ。【輕粉】黄連と共に摻る。【土硃】荊芥と共に摻る。【綠礬】「蟲鱗」【五倍子】いづれも摻る。【蟾酥】胡椒と共に丸にして咬む。【蜘蛛】焙じて研り、麝を入れて摻る。【地龍】水に化し麪に和して孔を塞ぎ、その上へ皂莢末を傅ける。○玄胡索、蓽茇末と共に耳を塞ぐ。【錢窠】乳香を包んで燒き、孔中へ納れる。○胡椒を包んで耳を塞ぐ。【石蜜・竹蜂・蚺蛇膽】枯礬、杏仁と共に摻る。【鱗蛇膽・海鰕鮓】「禽獸」【雀屎・燕屎】いづれも孔を塞ぐ。【夜明砂】蟾酥と共に丸にして咬む【啄木鳥】燒いて孔中に納れる。○舌を巴豆と共に咬む。【猪肚】咬んで蟲を引く。【熊膽】猪膽、片腦と共に搽る。【麝香】二回これを咬めば根を斷つ。【豺皮灰】傅ける

齒疎　【溼青】細辛を入れて摻る。【寒水石】煆いて生爐甘石と共に摻る。

齒長　【白朮】牙齒が日に長じて漸次に食事の困難なるを髓溢と名ける。水で煎じて漱ぐ。【生地黄】嚙む。

齒缺　【銀膏】補ふ。

生齒　【雄鼠脊骨】研つて揩れば生える。【雄鼠屎】日に一箇を用ゐて拭へば三七日で生える。【黒豆】牛屎に納れて性を存する程度に燒き、麝を入れて摻り、風に當らぬやうにすれば、大人、小兒の牙齒の生ぜぬを治す。牛屎中の豆ならば尤も妙である。【路旁稻粒】牙の落ちた箇處へ黏ければ一七日にして自ら生える。【烏雞屎】雌、雄各半に舊麻鞋灰、麝香少量を入れて擦る。

齒齼　【胡桃】酸きものを食つて(二〇)齒齼となりたるには、これを嚼めば解す。

妬齒　【地骨皮】(二一)妬齒が已に去つても物を食し得ぬには、水で煎じて漱ぐ。

鬚髮

內服　「草部」【菊花】巨勝、茯苓と和し、蜜で丸にして服すれば(二二)風眩を去り、白を變じ、不老ならしめる。【旱蓮】內には煎膏して服し、外には燒いて牙に揩る。髭髮を黒くし、腎陰を益す。○汁を塗れば眉髮が速に生える。○膏にして鼻中に黏ければ、腦を添へる【常春藤・扶芳藤・絡石・木通・石松】いづれも風血に主效があり、顏色を好くし、白を變じ、不老ならしめる。酒に浸して飲む。【白蒿・靑蒿・香附】

(二〇)齼ハ字書ニ齒酸ニ傷ムナリトアリ。
(二一)妬齒、ヤヘバ。
(二二)風眩ハ心氣不安ノ爲メ發熱逆上シテ眩暈ヲ起スヲ云フ。

いづれも毛髪を長くする。【茜草】汁を地黄と共に熬膏して服す。【地黄】九蒸九晒して日毎に嚼む。【牛膝・麥門冬・肉蓯蓉・何首烏・龍珠・旱藕・瞿麥】「穀菜」【青精飯・黒大豆・白扁豆・大麥・胡麻】九蒸九晒する。【馬歯莧・繁縷・韭・薑・蔓青子】「果木」【胡桃・蜀椒】いづれも入れて服すれば、白を變じ、毛髪を生ずる。【乾柿】枸杞子と共に丸にして服すれば、婦人の蒜髪を治す。【榴花】鐵丹に和して服すれば、白を變じて墨の如くする。【松子・槐實・秦皮・桑寄生・放杖木・女貞實・不彫木・雞桑葉・南燭】いづれも久しく服すれば、鬚髪の白を變じて黒くする。【桑椹】蜜で丸にして服すれば、白を變ずる。「介石」【鼈肉】鬚髪を長くする。【自己髪灰】椒と共に煨いて酒で服すれば、髪が白くならぬ。これを還精丹と名ける。【石灰】髪が落ちて止まぬには、赤く炒つて酒に浸して服す。

髪落

「草部」【半夏】眉髪の堕落するには、これを塗れば生える。【骨碎補】病後の髪落には、野薔薇枝と共に煎じて刷く。【香薷】小兒の髪の生長が遅きには、猪脂と共に塗る。【茉莉花】蒸して油にする。【蓬藁子】搾汁。【芭蕉油・蓖麻子・金星子・蘭草・蕙草・昨葉何草】いづれも油に浸して頭を梳れば、髪を長くし、黒くする。【土馬騣】灰。

【烏韭】灰。【水萍・水蘇・蜀羊泉・含水藤】「穀菜」【胡麻油及び葉・大麻子及び葉】いづれも沐して日每に梳れば髮を長くする。【公英・旱蓮】いづれも牙に揩れば髮を黑くする。【生薑】擦る。【萵苣子・白菘子油・蕓薹子油】「果木」【甜瓜葉汁】いづれも髮に塗れば長く黑くする。【榧子】胡桃、側柏葉と共に水に浸して梳れば髮が落ちぬ。【棗根】蒸汁。【榠樝・木瓜】いづれも油に浸す。【蜀椒】酒に浸す。【柏子油・辛夷・松葉】いづれも油、水に浸して頭に塗れば毛髮を生ずる。【側柏葉】油に浸して用ゐれば髮を生ずる。○燒汁は髮を黑くする。○猪脂に和して沐すれば髮が長く黑くなる。○根皮は髮を生ずる。【皂莢】地黄、薑汁で炙り、研つて牙に揩れば鬚を黑くする。【樗葉】椿根、楸葉と共に汁を禿に塗れば髮を生ずる。【楸葉汁・蔓荊子】猪脂と共に用ゐる。【桑椹】水に浸す。○いづれも頭に塗れば毛髮を生ずる。【桐葉】麻子と共に米泔で煮て沐すれば髮が長くなる。○子と共に蒸して汁を取り、髮を沐すれば黑くなる。【桑白皮】柏葉と共に沐すれば髮が落ちない。【山茶子】髮に摻れば（二）膩を解す。【合歡木皮灰・槐枝灰・石荊】「禽獸」【雁骨灰】いづれも頭を沐すれば髮を長くする。【雞子白・猪膽】頭を沐すれば膩を解す。【雁肪・鵝脂・雞肪・猪

（二）髮澤ノ附着敗シテ結スルヲ膩ト云フ。

鬐膏・熊脂及び腦】いづれも頭を沐すれば髮を生ずる。【豹脂】朝塗れば暮に生える。【犬乳】赤髮に塗る。【羖羊角】灰を牛角灰、猪脂と共に禿髮に塗る。【羊屎灰】淋汁で頭を沐すれば髮を生ずる。○猪脂に和して用うれば髮の黄赤を變ずる。【猪屎】灰を髮落に塗る。【髮灰】油で煎じ枯して塗れば、髮を黒く長くする。

髮白　「草菜穀部」【栝樓】青鹽、杏仁と共に煆き末にし用うれば、白を拔いて黒に易へる。また牙に揩る。【百合・薑皮】いづれも白を拔いて黒に易へる。【狼把草・黒豆】醋で煎じて髮を染める。【大麥】鐵砂、沒石子と共に用ゐる。【蕎麥】鐵砂と共に用ゐる。「果木」【酸石榴】いづれも鬚髮を染める。【胡桃】胡粉に和して用うれば、白を拔き黒を生ずる。○燒いて貝母と共に牙に揩れば、鬚を黒くする。○青皮、皮肉、及び樹皮、根いづれも鬚髮を染める。【餘甘子】鐵粉と合せて頭に塗れば、鬚髮を生ずる。【橡斗・毗黎勒漿・椰子漿・鹽麩子・菱殼・茭花・蓮鬚・紅白蓮花】いづれも鬚髮に塗る。【雞舌香】薑汁と共に用うれば、白を拔き黒を生ずる。【詹糖香】胡桃皮と共に髮に塗れば、漆のやうに黒くなる。【梧桐子汁】孔に點ければ黒を生ずる。○木皮を乳汁に和して鬚に塗る。【櫨皮】側柏を包んで燒熏し、香油でその烟を鬚髮に抹すれば黒くなる。【烏桕

子油・烏桕皮・訶黎勒・沒石子・婆羅得】「金石」【黑鉛】白髮を梳る。○燒灰で髮を染める。【胡粉】石灰と共に鬚を染める。【鉛霜】鬚髮を梳る。【鉛丹】染める。【銅錢鏽】油で磨つて赤髮、禿落に塗る。【鐵爇】染める。【生鐵】水に浸す。【鐵砂】沒石子に和して染める。【石灰】染める。【綠礬】薄荷、烏頭、鐵漿水と共に染める。【赤銅屑】「蟲獸」【五倍子】炒つて赤銅屑諸藥と共に用ゐる。鬚を染めるの神方である。【百藥煎・水蛭】雞尿と共に鬚を撚れば、自ら黑くなる。【蝸牛】金墨と共に馬屎の中に埋め水に化して用ゐる。鬚を染めるに妙である。【蜜・蠟・鼈脂・猪膽・狗膽・犬乳】いづれも白に點ければ黑を生ずる。

生眉　「草穀」【白鮮皮】眉髮の脆脱に用ゐる。【香附】鬚眉を長くする。【苦參・仙茅】大風の眉髮脫落に用ゐる。【昨葉何草】膏にする。眉髮を生ずるの要藥である。【半夏】眉髮の脫落に塗れば生ずる。○薑涎も同じ。【鱧腸汁】眉髮に塗れば速に生ずる。【烏麻花】油に浸す。「菜木」【芥子】半夏、薑汁と共に用ゐる。【蔓菁子】醋に和す。いづれも塗る。【生薑】擦る。【柳葉】薑汁と共に眉の落ちたるに擦る。【白礬】眉髮の脫落には、蒸餅で丸にして服す。【雄黃】醋に和して塗る。【雁肪】塗る。

【狗脳】火瘡で眉髮の生えぬには、蒲黄に和して日毎に三回づつ傅ける。【蒜汁】眉毛が動搖して目が瞬きし得ず、これを喚べども應ぜぬには、酒に和して服すれば癒える。

(一)胡臭

體臭、腋臭、漏臭である。

内治　【花蜘蛛】二個を擣き爛して酒で服すれば胡臭を治す。【鮮魚】膾にして空腹に飽くまで食ひ、蒲團を厚く被て汗を取る。腰脚から汗が白膠の如く出て後五苓湯で浴し、その日一日間風に當らぬやうにし、五日毎に一回試みる。【水烏雞】水中に棲む家雞に似た形の鳥である。香油に薑汁を入れて四兩を炒熟し、酒醋三四盌を用ゐて共に食ひ、生葱を嚼んで飲下し、蒲團を厚く被て汗を出す。數回試みれば根を斷つものである。(二)口を忌まない。

外治　「草殼」【蘇子】擣いて塗る。【青木香】切片して醋に一夜浸し、それを夾めば數回で癒える。【鬱金】鴉、鶻等の一切の臭に用ゐる。【木饅頭】煎じて洗ひ、後に爐底末を傅ける。【甘遂】二兩を末にして、屠殺したばかりの牙猪肉に摻りかけ、熱に乘

(一)胡臭、ワキガ。

(二)金陵本亦不忌口ニ作ル、意義通ゼズ。

（三）七人ノ別姓ノ婦人。

じてこれを夾み、熱い甘草湯を内服すれば、必ず近づき得ぬほど大いに氣を泄す。【百草灰】水に和して熏洗し、酥と餅に和して夾み、乾く毎に取易へれば瘡が出て癒える。【馬齒莧】杵いて團くして袋に入れ、泥を盛り裹んで火で燒き、蜜を入れ熱して夾む。【生薑】頻に擦る。【炊飯】熱して腋下を拭ひ、犬に與へて食はせる。七日毎に一回試みて癒えれば止める。【三年醋】石灰に和して腋下に傅ける。「果木」【小龍眼核】六箇と胡椒十四粒とを汁に研つて擦れば三回で癒える。【辛夷】木香、細辛、芎藭と共に粉にして塗る。【槲若】洗つて後苦瓠烟で熏ずる。【桔枸樹汁】木香、東の桃、西の柳の枝と共に（三）七姓の婦人の乳で煎じ、熱して五月五日に洗ひ、その滓を十字街に棄てる。後を顧みてはならぬ。【雞舌香】「金石」【伏龍肝】摻る。【銅屑】熱醋で和して摻る。或は炒熱し袋に盛つて熨す。【鏡鏽】密陀僧と共に醋で調へて摻る。【銅綠】密陀僧、白及灰と共に醋で調へて摻る。【古文錢】赤く燒いて醋に淬し、研つて麝を入れ水で調へて塗る。【銅鑛石】汁に磨つて塗る。【密陀僧】油で和して塗り、蒸餅の切片末を摻つて塗る。【黃丹】少量の輕粉を入れ、唾で和して塗る。○東壁土、銅綠末と共に古錢を磨り瀉いだ燈油で調へて摻る。【胡粉】水銀、面脂と研つて塗る。○牛脂

煎で塗る。三回を過してはならぬ。【水銀】胡粉と共に上に摻る。【粉霜】水銀、面脂と共に研つて塗る。【石綠】輕粉と共に醋で調へて塗る。【石灰】汗あるには乾して摻り、汗なきには醋で和して用ゐる。【膽礬】少量の輕粉を入れ、薑汁で調へて搽れば、熱痛して止む。【白礬】粉にして常に撲つ。○密陀僧、輕粉と共に擦る。○黄丹、輕粉と共に擦る。○蛤粉、樟腦と共に擦る。「蟲介」【蜣螂】一夜塗擦する。【田螺】巴豆一粒を中へ入れ、水に化するを待つて腋下へ搽れば根絶する。○麝香を入れ、七七日間露地に埋めて患部へ點ければ妙效がある。○巴豆、麝香、膽礬を入れ、水になるのを待つて、夜五更に至るまで手を住めずに腋下へ擦る。大便を催せば效力が發生したのである。もしなほ完全に效果を擧げぬときは、再び試みて後枯礬、蛤粉、樟腦を傅ければ根絶する。【蜘蛛】一箇を黄泥に赤石脂を入れて包んで煨き、研つて輕粉少量を入れ、就寢時に醋で一字を調へて腋下に傅ける。次の日瀉下する黑汁を埋める。【蝙蝠】煨いて研り、田螺の水で調へて腋に塗り、下劑を服む。「禽人」【雞子】煮熟して殼を去り、熱して腋に夾み、それを露地口へ棄てる。振返つて見てはならぬ。【夜明砂】豉汁で和して塗る。【自己小便】熱して日毎に數回洗ふ。【自己

口唾】頻に擦る。

丹毒

火盛にして風を生ずるに因る。また脾、胃の氣欝を兼ねるもある。

內解　「草部」【連翹・防風・薄荷・荊芥・大青・黃連・升麻・甘草・知母・防已・牛蒡子・赤芍藥・金銀花・生地黃・牡丹皮・麻黃・射干・大黃・漏蘆・紅內消・扁蓄】汁を服す。【積雪草】擣いて汁を服す。【水甘草】甘草と共に煎じて服す。【攀倒甑】甘草と共に煎じて服す。【旋花根】汁を服す。【丹參】「菜木」【馬齒莧】汁を服す。【蕓薹汁】服し、並に傅ける。【靑布汁・梔子・黃蘗・靑木香・雞舌香・桂心・枳殼・茯苓・竹瀝】「金石」【生鐵】燒いて水に淬して服す。【生銀】水に磨つて服す。【土硃】蜜で調へて服す。○靑黛、滑石、荊芥と共に末にし、並に傅ける「介禽獸」【牡蠣肉・鶩肉・白雄雞】いづれも食ふ。【犀角・羚羊角・猪屎汁・黃龍湯】五色丹毒には、二合を飲み、並に塗る。

外塗　「草部」【黃芩・苦芙・馬蘭・白芷】葱汁で調へ、また煎じて浴す。【水蓄・水

蘋・浮萍」いづれも服す。「景天・蒴藋・蛇銜・生苄・水藻・牛膝」甘草、伏龍肝と共に用ゐる。「萞麻子・大黃」水に磨る。「藍葉・澱汁・芭蕉根」汁。「蓼葉灰・栝樓」醋で調へる。「老鴉眼睛草」醋と共に擣く。「仙人草・五葉藤・赤薜荔・排風藤・木鼈仁」醋に磨る。「羅摩草・虎刺根葉」汁。「青黛」土硃と共に用ゐる。「五味子・荏子・紅花苗」いづれも塗り、傅ける。「苧根・赤地利・白芨・白蘞」「穀菜」「赤小豆」洗浴し、また傅ける。「綠豆」大黃と共に用ゐる。「豆葉・大麻子・大豆」煮汁。「麻油・蕎麪」醋に和す。「黃米粉」雞子に和す。「豉」炒り焦す。「糯米粉」鹽に和す。「菘菜・蕓薹・大蒜・胡荽・乾薑」蜜に和す。「雞腸草・葱白」汁。「馬齒莧」「果木」「李根」油に研り、田中の流水で調へる。「桃仁・慈姑葉」塗る。「檳榔」醋で調へる。「桑根」洗ふ。「栗樹皮及び梂」浴す。「荷葉」塗る。「巵子末」水に和す。「楡白皮」雞子白に和して塗り、煎じて沐す。「棘根」洗ふ。「五加皮」洗つて鐵槽水に和して塗る。「柳木」洗ひ、傅ける。「柳葉」洗ふ。「乳香」羊脂で調へる。「桐樹皮・楸木皮」「服器」「草鞋灰」人乳、髮灰に和し調へる。「蒲扇灰・甑帶灰」「水土」「磨刀水・白堊土」寒水石と共に塗る。「燕窠土・蜂窠土・蚯蚓泥・猪槽下泥・簷溜下泥・釜下土」屋漏水に和す。「伏

龍肝・白瓷末」猪脂に和す。「屋塵」猪脂で和す。「瓷甌中白灰」醋に磨る。「金石」「鍛鐵精」猪脂に和して塗る。「鐵鏽」水に磨る。「胡粉」唾に和す。「銀硃」雞子白に和す。「無名異」葱汁で調へる。「石灰」醋で調へる。「陽起石」煆いて研り、水で調へる。「土硃」青黛、滑石と共に用ゐる。「寒水石」白土と共に傅ける。「芒消」水に和す。「白礬」油に和す。「蟲部」「蜜」乾薑末を和す。「蚯蚓」生薑と共に擣いて塗る。「露蜂房」煎汁で芒消を調へる。「白殭蠶」慎火草と和して傅ける。「爛死蠶」傅ける。「蠐螬」末にして傅ける。「水蛭」咂はす。「黄蜂子・鯽魚」小豆と合せ擣いて塗る。「鯉魚血・海蛇・鱓魚・螺螄・鰕」「獸部」「雞血・雉尾灰・猪肉」貼る。「青羊脂」頻に摩すれば消す。「綿羊腦」朴消と共に塗る。「酪」鹽を入れる。「羚羊角灰」雞子白で調へる。「鹿角末」猪脂で調へる。「牛屎」塗り、乾けばまた易へる。「猪屎」燒いて塗る。「髮灰」伏龍肝を猪膏で和したものに和す。

風瘙疹疿(一)

内治　丹毒に同じ　「蒼耳花葉子」各等分を末にし、黒豆を炒り焦して浸した酒で

(一)風瘙疹疿ハ猩紅熱、假性麻疹、蕁麻疹ノ類。

二錢を服す。風熱の(二)瘾疹で搔痒の止まぬを治す。【苦參】肺風で皮膚が瘙痒し、或は瘾疹疥癬を生ずるには、末にし、皂角汁の熬膏で丸にして服す。【枸橘核】末にして酒で服すれば風瘙痒を治す。【赤土】風瘙痒の甚しきには、酒で一錢を服す。【雲母粉】水で二錢を服す。【蜜】酒で服す。【黄蜂子・蜂房】蟬蛻と共に末にして服す。【白殭蠶】酒で服す。【全蠍】

外治　【白芷・浮萍・槐枝・鹽湯・吳茱萸】酒で煎じる。【楮枝葉・蠶沙】いづれも洗浴する。【景天汁・石南汁・枳實汁・芒消湯・礬湯】いづれも拭ひ摩す。【枳殼】風疹で肌の麻豆の如くなるを炙熨す。【燕窠土】塗る。【鐵鏽】水に磨つて摩す。【石灰】醋に和して塗れば手に隨つて消える【爛死蠶】(三)赤白遊疹に塗る。【弔脂】塗る。【鰕】搗いて塗る。【海鰕鮓】貼る。【鱓血】赤遊風に塗る。【鯉魚皮】貼る。

痱疹　【升麻】洗ふ。【兎絲汁】抹す。【綠豆粉】滑石と共に撲つ。【棗葉】蛤粉に和して撲つ。【慈姑葉汁】蚌粉を調へて摻る。【楝花】末にして撲つ。【冬霜】蚌粉を加へて摻る。【臘雪】抹す。【屋上舊赤白堊】摻る。【壁土・不灰木・滑石・井泉石】寒水石と共に用ゐる。【石灰】蛤粉、甘草と共に塗る。【蚌粉】

(二) 瘾疹ハ風瘙ニ同ジ。

(三) 赤白遊疹ハ未詳。

(一)癧瘍、和名アセナマヅ。
(二)癜風、和名ナマヅ。
(三)赤疵、アカナマヅ。

癧瘍癜風

(一)癧瘍は汗斑である。(二)○癜風は白斑片である。○赤きを(三)赤疵と名ける。

內治 「草穀」【蒺藜】白癜風には、酒で二三錢づつ服す。【女萎・何首烏】白癜には、蒼朮、荊芥と等分を皂角汁の煎膏で丸にして服す【胡麻油】酒に和して服す。「木部」【桑枝】益母草と共に熬膏して服す。【枳殼】紫癜風に用ゐる。【牙皂】白癜風には、灰に燒いて酒で服す。【白花蛇】白癜、癧瘍の斑點あるには、酒に浸し、蠍梢、防風末と共に服す。【烏蛇】天麻、諸藥と共に酒に浸して服す。「禽獸」【白鴿】炒り熱して酒で服す。【猪胰】酒に浸し蒸して食ふ。十頭分を過ぎてはならぬ。【猪肚】白煮にして食ふ。

外治 「草穀」【附子】紫白癜風には、硫黃と共に薑汁で調へ、茄蔕に蘸けて擦る。【白附子】同上。【貝母】紫白癜斑には、南星 薑汁と共に擦る。○白部、薑汁と共に擦る。○浴後乾薑と共にこれを擦つて汗を取る。【知母】醋に磨つて塗る。【茵蔯】癧瘍を洗ふ。【防巳】浮萍と共に煎じて浴し、擦る。【羊蹄根】獨頭、枯礬、輕粉、生薑と共に

擦つて汗を取る。【蒼耳草・酸草】水萍と共に用ゐる。【紫背萍】いづれも洗ひ、擦る。【菰筍・木蓮藤汁】いづれも擦る。【蓖麻汁・續隨子汁・灰藋灰】いづれも白癜風、癧瘍を剎す。【蒺藜・小麥】燒いて油で塗る。【醬醋】「果木」【胡桃青皮】いづれも硫黄と共に擦る。○或は硇砂、醬汁少量を入れる。【杏仁】夜每に擦る。【薫陸香】白蘞と共に揩る。【桑柴灰】蒸汁を熱して洗ふ。【猫兒刺葉】燒いて淋汁を取り、熬膏して白癜に塗る。「服器」【故帛灰・麻鞋底灰・甑帶・蒸籠片・弊帚・炊帚】「水石」【半天河水・樹孔中蚛汁・韭上露・車轍牛蹄涔中水・水銀】いづれも癧瘍癜風を拭ふ。【輕粉】水銀、薑汁と共に擦る。【雄黄】身體、面部の白駁。【密陀僧】雄黄と共に汗斑に擦る。○或は雌黄、白礬、硫黄を加へる。【膽礬】牡蠣、醋と共に赤白癜に擦る。【人言】茄中に入れ、煨いて擦る。或は薑上に塗つて擦る。【硫黄】附子、醋と共に癧瘍風に擦る。○密陀僧と共に用ゐる。○輕粉、杏仁と共に用ゐる。○雞子白と共に用ゐる。【自然灰】淋汁を塗る。【石灰・砒石・銀】身體、面部の赤疵には、久しきに亘つて日每に揩り熱せしむれば自ら消える。「蟲鱗」【蜣蜋】擣いて(四)白駁に塗れば一夜にして瘥える。【鯽魚】蒜汁、薑汁と共に頻に赤疵に塗る。○小兒の赤疵には、父の

(四)白駁ハ白癜風ニ同ジ。

(二)癭瘤、コブ。疣痣、イボトホクロ。

足心の血を刺して貼れば落ちる。【蛇皮】熱して數百回摩して棄てる。【鰻鱺魚骨】白駁風に塗れば直に色が變り、五七回すれば癒える。【梟魚鮓】白駁を拭ひ、熱擦して汗を出す。【烏賊魚骨】醋に磨つて塗る。○硫黄、薑汁と共に擦る。「禽獸」【丹雞冠血翅下血】塗る。【驢尿】薑汁に和して洗ふ。【諸朽骨】醋に磨つて塗る。【馬尿】日に四五回赤疵を洗ふ。【白馬汗】雕青には、水蛭末に調へて塗る。

(二)癭瘤疣痣

内治 「草部」【杜衡】留血、痰飲を破り、項下の癭瘤を消す。【貝母】連翹と共に服すれば、項下の癭瘤に主效がある【黄藥子】癭氣を消す。酒で煮て服す 傳信方には、甚だ神效あるものとしてある【海藻】癭瘤結氣を消し、項下の硬核痛を散ず。○發生の初期には、日毎に飲み、滓を塗る。【海帶・昆布】蜜で丸にする。【海苔・白頭翁】酒に浸す【牛蒡根】蜜で丸にする。【連翹・丹參・桔梗・夏枯草・木通・玄參・當歸・常山】吐く【蘿蔔草】吐く。【天門冬・瞿麥・三稜・射干・土瓜根・香附・漏蘆】「菜穀」【紫菜・龍鬚菜・舵菜】いづれも癭瘤結氣に主效がある。【小麥】癭を消するには、醋に

浸し、海藻末と共に酒で服す。【山藥】蓖麻と共に生で項核に塗る。【敗壺盧】燒いて腋瘤に搽る。【赤小豆】「果木」【橙・荔枝】いづれも癭を消す。【瓜蒂・松蘿】いづれも吐かす。【柳根】煮汁を酒に醸して用ゐれば癭氣を消す。【白楊皮】同上。【問荊】結氣瘤痛。「土石」【螲蟷】蝕瘤には、熬燒して末にし、猪脂で和して傅ける。【蜣蜋丸】燒酒で服すれば癭を治す。【土黃】枯瘤、贅痔には、乳で傅ける。【鹹沙・自然銅】いづれも水に浸して日毎に飲めば癭を消す。【鉛・浮石】「介鱗」【牡蠣・馬刀・海蛤・蛤蜊・淡菜・海螵蛸】「獸人」【鹿靨】いづれも(二)癭氣結核を消す。【羊靨・牛靨】いづれも酒に浸し、香しく炙いて含嚥する。【猪靨】焙つて末にし、酒で服す。或は酒に浸して炙いて食ふ。【旄牛靨】燒いて服すれば癭を消す。【獐肉】炙熱して瘤に搨し、頻に易へれば膿血を出して癒える。【猪屎】(三)血瘤の出血に塗る。【人精】粉瘤には、竹筒内に入れて燒瀝し、頻に塗る。

疣痣　「草穀」【地膚子】礬と共に疣目を洗ふ。【艾葉】桑灰の淋汁と共に(四)疣、痣、瘤、靨に點ける。○痣に三壯を灸すれば去る。【狗尾草】疣を穿つ。【升麻】水で煎じ、蜜を入れて拭ふ。【芫花】大戟、甘遂と共に末にして瘤癭を焦すれば自然に亡くなる。○根を

(二)癭、コブ。結核、グリグリ。
(三)血瘤、チコブ。血液ノ潴溜スルコブ。
(四)疣、イボ。痣、ホクロ。靨、ホクロ。

煮て線で瘤痣に繋ぐ。【蒴藋子】塗る。【續隨子】塗る。【天南星】醋で塗る。【剪刀草】塗る。【博洛廻】塗る。【藜蘆灰・靑蒿灰・麻稭灰・麥稈灰・蕎麥稭灰・豆稭灰・茄梗灰・藜灰・灰藋灰・冬瓜藤灰】いづれも淋汁を疣痣に點ければ、癰瘤を腐らし、黶印を去る。【大豆・米醋】いづれも厭穰して疣を去る。【白粱米】炒熱して研り、人唾で和して塗る。【馬齒莧灰】瘤に塗る。【苦苣汁】「果木」【白梅】いづれも疣痣に點ける。【杏仁・李仁】いづれも雞子白と共に研つて疣に塗る。【柏脂】松脂と共に疣に塗る。【死人枕席】疣を拭へば自ら爛れる。【禿帚】毎月十五日の子の刻にこれで帚ふ。【櫟木灰・桑柴灰】「水石」【冬灰・石灰】いづれも黑子、疣贅、瘤痣を蝕する。【屋漏水】疣に塗る。【硫黃】紙に卷いて疣を焠く。【砒石】巴豆、糯米と共に疣に點ける。【鹽】疣に塗つて頻に砥ぐ。【白礬・銅綠・硇砂】いづれも痣黶、疣贅に塗る。「蟲鱗」【斑蝥】疣痣に點ける。人言、糯米と共に黃に炒つて米を取去り、大蒜と共に擣いて塗る。【蟷螂】疣を食ふ。【蜘蛛網】瘤疣に纏へる。【鯆魚】これを食へば疣がやむ。「禽人」【雞內金】疣に擦る。【雞子白】醋に浸して軟に疣に塗る。【猪脂・牛涎・人瘡膿・人唾】いづれも疣に塗る。【髮】疣に纏ふ。

瘰癧　(一)結核を附す。

內治　「菜草」【夏枯草】煎じて服し、或は熬膏して服し、また貼る。厥陰の血分に入るもので、瘰癧の聖藥である。【連翹】少陽に入るもので、瘰癧に必用の藥である。○脂麻と共に末にして隨時に食ふ。○(二)馬刀挾癭には、瞿麥、大黃、甘草と共に煎じて服す。【海藻】瘰癧を消するには、酒に浸して日每に飲み、滓を末にして服す。○(三)蛇盤癧には、殭蠶と共に丸にして服す。【昆布】末にし酒に浸して時時に含嚥する。或は海藻と共に用ゐる。【玄參】瘰癧結核を散ず。○久しきものには、生で擣いて傅ける。【何首烏】日每に生で服す。また葉を嚼んで塗る。【土茯苓】久しくして潰れたるには、水で煎じて服す。【白蘞】酒で調へて多く服し、また生で擣いて塗る。【苦參】牛膝汁で丸にして服す。【野菊根】酒に擂つて服し、滓を塗るが甚だ效がある。【薄荷】汁を取り、皂莢汁と共に熬膏して丸藥にして服す。【木鼈子】雞子白と蒸して食ふ。【白鮮皮】煮て食ふ。【水葒子】末にして服す。【大黃】乳中に發生した瘰癧には、黃連と共に煎じて服し、通じをつける。【蚤休】瘰癧を吐瀉する。【蓖麻子】每夜二三箇を呑む。○

(一)結核、グリグリ。瘰癧ノ小ナルモノ。
(二)馬刀挾癭ハ瘰癧ノ一種、長形ノモノ。
(三)蛇盤癧ハ瘰癧ノ一種、形ニ因テ名ク。

白膠香と共に熬膏して服す。○松脂と共に研つて貼る。【芫花根】發生の初期には搗つて水で服し、吐き下す。【月季花】芫花と共に鯽魚を釀して煮て食ふ。【荊芥】洗ふ。【牛蒡子・防風・蒼耳子・續斷・積雪草・白芷・芎藭・當歸・白頭翁・黄芪・淫羊藿・柴胡・桔梗・黄芩・海藻・海帶・胡麻】【水苦蕒】項上の風癧には、酒に磨つて服す。【橙】瘰癧を發する。【槲皮】瘰癧を吐かす。また洗ふ。【皂莢子】醋、硇で煮て癧を照して數〻呑む。○連翹、玄參と煮て嚼む。【胡桐淚】瘰癧はこれ以外では除けぬ。【桑椹汁】熬膏して内服する。【巴豆】小兒の瘰癧には、鯽魚内に入れて草で包み、煨いて研り、粥で丸にして服し、通じを付ける。【黄蘗】「鮮魚」【甑帶灰】酒で服し、瘰癧を吐かす。【黄蠟】白礬と共に丸にして服す。【全蠍・白殭蠶】日毎に水で五分づつを服すれば、一个月にして癒える。【蜘蛛】五箇を晒して末にし、酥で調へて塗る。【斑蝥】粟米と炒り、研つて雞子淸で丸にして服す。○雞子内に入れて蒸熟し、斑蝥を去つて雞子を食ふ。藥に入れることが甚だ多い。【紅娘子・芫靑・葛上亭長・地膽】「鮮介」【白花蛇】犀角、牽牛、靑皮、膩粉と共に服す。【壁虎】發生の初期には、焙じ研つて毎日酒で服す。【黿甲】酒に浸して炙き、研つて服す。【牡蠣粉】玄參と共に丸

にして服す。○甘草と共に末にして服す。【蝸牛殼】小兒の瘰癧には、牛乳で炒り、研つて大黄末を入れて服し、通じをつける【鼈甲】「禽獸」【左蟠龍】飯で丸にして服す。【夜明砂】炒つて服す。【狸頭】炙き研つて服す【猫狸】(四)鼠癧には、普通の羹のやうにして食ふ

外治 「草菜」【山慈姑】酒に磨つて塗る【莽草】雞子白で調へて塗る【地菘】生で塗る【半夏】南星、雞子白と共に塗る【草烏頭】木鼈子と共に塗る【猫兒眼草】熬膏して塗る【商陸】切片にして艾で灸する。【車前草】烏雞屎と共に塗る【紫花地丁】蒺藜と共に塗る【青黛】馬齒莧と共に塗る【毛蓼】納入して膿血を引く【葶藶】已に潰れたるには、餅にして灸する。【白及】貝母、輕粉と共に傅ける【白蘞・土瓜根・半夏・水堇・藜蘆・通草花上粉】「穀菜」【大麻】艾と共に灸する【蒜】茱萸と共に悪核腫結に塗る【芥子】醋で和して塗る【乾薑】挺にして納れ、膿を蝕する【山藥】少陽經分の(五)疙瘩には淺深を問はず蓖麻子と共に擣いて貼る【堇菜】寒熱の瘰癧、結核、(六)鼠瀨には、末にし煎膏して日毎に摩する【桑菰】百草霜と共に塗る【馬齒莧・鹿藿】「果木」【胡桃】松脂で和して塗る。【桃白皮】貼る【杏仁】炒つて油を搾

(四) 鼠癧ハ瘰癧ニ同ジ、癧ハ瘻ノ誤。

(五) 疙瘩、ツブツブノコブ。

(六) 鼠瀨ハ瘰癧ノ別名。

つて塗る。【鼠李】寒熱瘰癧には、擣いて傅ける。【楓香】蓖麻子と共に貼る。【楸葉】煎膏する。【柏葉・櫟木皮】「器土」【油䩞・䩞底灰・多年茅廁中土】輕粉と共に年久しきものに傅ける。「金石」【黑鉛灰】醋で和して瘰癧結核に塗ればよく(七)內消して水となる。【鐵爇】塗る。【砒霜】瘰癧敗肉を蝕するには、丸にして用ゐる。【磨刀泥】瘰癧結核に塗る。【食鹽】麪に和して燒く。【消石・芒消】いづれも下す。【雄黃】水銀、黃蠟、龍腦と共に膏にして貼る。【輕粉・鹽藥】「蟲石」【蜈蚣】炙いて茶末と共に塗る。【螻蛄】丁香と共に燒いて貼る。【礬石・硇砂・紅娘子】瘰癧、結核。【蚯蚓】乳、沒諸藥と共に塗る。【蝸牛】燒いて輕粉と共に塗る。【蝦蟆】燒いて塗る。【蜂房】燒いて猪脂で和して(八)瘰癧漏に塗る。【蜘蛛】晒して研り、酥で調へて塗る。「鱗介」【黃顙魚】潰爛せるには、蓖麻子と共に煆いて塗る。【穿山甲】潰爛せるには、燒いて傅ける。○あるひは斑蝥、芰を加へる。【田螺】燒いて塗る。【鬼眼睛】已に破れたるものには、研つて塗る。【馬刀】肌中の竄鼷に主效がある。「禽獸」【伏翼】年久しきには、猫頭、黑豆と共に燒いて塗る。【鴉脂】半夏と共に傅ける。【雞䏶胵】燒いて傅ける。【雄雞屎】燒いて傅ける。【羊屎】杏仁と共に燒いて傅ける。【狼屎】燒いて塗る。【猫頭骨及び

(七)內消、チルコト。

(八)瘰癧漏ハ已ニ潰エテ漏ノ狀ヲナスモノ。

皮毛】燒いて傅ける。〇舌を生で研つて塗る。〇涎を塗る。〇屎を燒いて傅ける。【狸頭骨・狐頭骨】狸頭と共に燒いて傅ける。【羊脾脛・猬心肝】いづれも燒いて傅ける。【猪脊】生地黃を漬け、煎沸して瘰癧瘻に塗る【虎脛・羚羊角・女人精汁】頻に塗る。【亂髮灰】鼠瘻には、鼠骨と共に蠟、猪脂に入れて煎じ、消半酒半にして塗れば、鼠は瘡中から出る。

結核　「草菜」【天南星】(九)痰瘤結核の拳ほどの大なるもの、栗ほどの小なるものを治す　生で研つて塗る【甘遂】大戟、白芥子と共に丸にして用うれば痰核を治す。【金星草】末にして服す【桔梗・玄參・大黃】酒で蒸す。【白頭翁・連翹・射干・三稜・莪蒁・黃芩・海藻・昆布・海帶・蒲公英】いづれも頸下の結核を散ず。【蒜】茱萸と共に擣いて惡核腫結に塗る。【菫菜】結核聚氣には、末にして油で煎じ、日毎に摩す。【百合】蓖麻と共に研つて塗る。【詹糖香】「土石」【土墼】痰核紅腫には、菜子油に和して塗れば消える。【浮石】枕後に生じた(一〇)腦痺、痰核には、燒いて研り、輕粉を入れ油で調へて塗る。【石灰】結核紅腫の瘰癧の如き狀なるには、煆いて研り、白果と共に擣いて貼る。【慈石】鼠瘻、項核の喉痛。【白殭蠶・蜘蛛】項下の結核には、

(九)痰瘤ハ一種ノ結核ニシテ、無痛無膿能クウゴカスベキモノ。

(一〇)腦痺ハ頭部ノ結核。

酒に浸して研り爛し、滓を去つて服す。【鯽魚】生で搗いて悪核に塗る。【牡蠣】茶でこれを引けば項下結核を消す。柴胡でこれを引けば脇下の堅きを去る。○張賓之日く、篇中硇砂を多くは硇砂と書いてあるが、今改めて硇に从つた。

本草綱目主治第四卷上終

本草綱目主治

第四卷　中

(一)象トハ漏ノ形象ニ由ツテ名クルナ云フ。

(二)雙治ノ義解シ難シ、或ハ對症ノ義乎。

百病主治薬　下

九漏

九漏　九の名目はあるが、それは皆(一)象を取るだけのもので、ただその病の部位に依つて分ければよいのである。

(二)**雙治**　「草部」【苦参】酒に浸して服す。【忍冬】浸す。【牽牛】猪腎を煨く。【黄耆・何首烏・土茯苓・萆薢・栝樓根・白及・牛蒡葉・地楡・虎薊根・積雪草・白蘞・土瓜根・通草・黄藥子・剪草・茜根灰・漏藍子・側子・馬兜鈴・半夏・荊芥穗・薺薴・香白芷・蛇含草・麋銜・萞麻子・狼毒・芫花根・附子・天南星・諸蒿灰・藜灰】「穀菜」【麥麪】鹽に和し炒つて塗る。【苦瓠・蕎麥灰】「果木」【桃花・大腹皮・楸葉】熬膏するが神方である。【柳枝】燒いて熏する。【柳根鬚】煎じて洗ふ。【乳香・楡白皮・蘆薈・石南葉・柞木枝】「火土」【燭燼・土蜂窠】「金石」【胡粉・鐵華粉・硃砂・爐甘石・孔公孽・殷孽・古塚灰・石灰・赤石脂・水銀・水銀粉・特生礜・礜石・北亭砂・砒

石・代赭石・石膽・禹餘糧・慈石毛・黄礬・白礬石・消石・密陀僧・食鹽・石硫黄・石硫赤・戎鹽・雄雌黄】「蟲」【斑蝥】芫青、地膽、葛上亭長と共に用ゐる。【蜘蛛・胡蜣蜋・蟾蜍頭・蜈蚣・露蜂房・樗雞・鯪鯉甲・蜥蜴・白花蛇・白死蛇】幷に骨。【蛇蛻・蝮蛇膽】幷に屎。【烏蛇・蛇呑蛙・鼈甲・蚺蛇膽・鯉腸鱗・鯗鮓・鱧肝腸・鱗魚・幷に血。【鰻鱺魚・鰾膠・海豚魚・海鰻鱺・黿甲・秦龜甲・文蛤・牡蠣粉・甲香・大田螺】「禽」【啄木鳥・鴛鴦・烏鴉頭・青鵻・子規肉・鸛腦・鷹頭】燒いて痔漏に塗る、【鵬鳥】鼠漏には、炙いて食ふ。【猪膏・猳猪屎・羊屎・牡狗莖・狗肉】蟲を引く。【狗骨】幷に頭骨。【馬通汁・牛膽】幷に脾。【烏牛耳垢】脇漏に用ゐ、水を出す。【野猪皮・牛屎・猫頭骨】幷に腦及び眼睛、肉、舌、皮、毛。【鹿皮】幷に齒。【狸頭骨】幷に肉。【狐屎】幷に足。【兎皮毛・鼴鼠・牡鼠屎・土撥鼠・猬心肝】

(一)癰疽

深きは疽であり、淺きは癰である。大なるは癰であり、小なるは癤である。

腫瘍　「草部」【甘草】汚濁の血を行り、(二)五發の疽を消し、腫を消し、毒を導く。

(一) 癰疽ハ腫物。和名デキモノノ總稱。

(二) 五發トハ發背、

發腦、發鬢、發眉、發頤是ナリ。

(三)原本ニ水トアレドモ火字ノ誤ナラン。

(四)惡候ハ惡疾ノ誤ナランカ。一本ニ惡喉トアリ。

○一切の發背癰疽には、甘草末を大麥粉に和し、湯で和し熱して傅ける。未だ成らぬものは内消し、已に成つたものは潰れる。そこで(三)水で炙いて一兩を一夜水に浸して服す。○或は黒鉛汁を淬した酒で服す。○或は汁を取り熬膏する。○陰嚢癰には、火で炙り煎じて服すれば二十日で消える。【忍冬】癰疽には、背に發すると、頤に發すると、眉に發すると、腦に發すると、乳に發すると、その他諸處に發することを問はず、葉を擣き、少量の酒を入れて四圍に塗る。内用としては、五兩を甘草節一兩と共に水で煎じ、酒を入れて再び煎じ、三回に分服する。重きものも一二服で大腸が通利し、直に效がある。その功力は紅内消に勝る。その滓も丸にして服するがよい。○或は擣汁を酒と共に煎じて服す。【遠志】一切の癰疽發背、癤毒、(四)惡候、死血、陰毒が中に在つて痛まぬものは、これを用うれば直に痛む。或に憂怒等の氣が中に在つて痛み忍び難きものは直に止る。熱するものは直に涼し、潰れたものは直に斂る。末にして三錢づつを溫酒に浸し、澄まして服し、その滓を塗る。【紅内消】癰疽毒瘡には、水で熬り酒を入れて時時に飲み、滓を丸にして服す。【連翹】腫を消し、痛みを止める。十二經の瘡藥として欠くべからざるものである。○癰腫の初起には、煮て

(五) 丁腫ハ陰腫。

服し、汗を取る【木蓮】一切の癰疽の初起には、四十九箇を研細し、汁を絞つて服す。功力は忍冬と同じ。(一)背癰には、末にして服し、下せば直に癒える。【常春藤】一切の腫痛には、汁に研り酒を入れて服す 惡物を下してその根本を去る。【絡石】同上。【秦艽】發背の初起には、牛乳と共に煎じて服し、通じをつける。【山慈姑】蒼耳と共に酒に擂つて服し、汗を取る。【豨薟】乳香と共に研つて枯礬酒で服し、汗を取る 熬膏して一切の癰疽發背、惡瘡(五)丁腫、喉痺に貼る。【地菘】擣汁を日毎に服す。【蒼耳】酒に擂つて用ゐ、汗を取る。【紫花地丁】蒼耳と共に酒に擂り、汗を取る。渣を麪と共に塗る。【烏蘞苺】酒に擂つて熱服し、汗を取る。渣を塗る。【迎春花】酒で末を服し、汗を取る。【馬蘭花葉】松毛、牛膝と共に煎じて服す。【曲節草】甘草と共に煎じて服す。【香附子】已潰、未潰共に、薑汁で炒り研つて日毎に服す。【草烏頭】陰疽の不起には、南星、桂心、薑汁と共に熱服すれば、未だ破れぬものは內消し、潰れて久しきものは能く黑爛を去る。【牽牛】諸毒の初起で氣壯なるには、醋で煎じて服す。膿血を利すること妙である。【決明】甘草と共に煮て服し、幷に塗る。【石韋】發背には冷酒で服す。【石胡荽】穿山甲、當歸尾と共に酒に擂つて服し、幷に塗る。【地錦草】乳、

(六) 石癰ハ癰疽ノ腫鞕シテ石ノ如ク久シク膿ヲナサザルモノヲ云フ。

沒等と共に酒に擂つて服し、幷に塗る。【積雪草・野菊・栝樓・天門冬】いづれも酒に擂つて服し、滓を塗る。【升麻】風腫を除き、瘀血を行る。瘡家の聖藥である。○卒に起つた腫毒には、醋に磨つて塗る。【羌活】癰腫敗血の太陽經に入れるを散ず。【地楡】諸瘡痛にはこれを加へる。【黄芩】痒きにはこれを加へる。【黄連】諸瘡の痛痒はみな心火に屬する。【龍膽】癰腫の口乾。【紫草】血を活し、腸を利す。【當歸・芍藥・芎藭】血を和し、痛を止める【三稜】堅硬を消す。【黄葵花】腫痛、及び惡瘡膿水。瘡家の聖藥である。鹽で貯藏し年を經て用うるが尤も妙である。【胡黄連】穿山甲と共に貼る。【芭蕉】生薑と共に貼る。【生地黄】杵いて塗り、木香で蓋ふ。【龍葵】擣いて塗る。或は麝を入れ、或は蝦蟆と共に用ゐる。【大黄】醋で調へて貼る。○五倍子、黄蘗と共に貼る。【烏頭】黄蘗と共に貼る。【商陸】(六)石癰に擦る。○鹽で擣いて一切の毒に傅ける。【莨宕子】石癰の堅硬に貼る。【天麻・都管草】醋で貼る。【箬葉・紅藍花・苧根・益母草・金絲草・大戟・水仙根・蜚廉・馬鞭草・漏蘆・蘘荷根・鴨跖草・續斷・大薊根・薇銜・火炭母・澤蘭・地楊梅・地蜈蚣・薑黄・蒲公英・蓼實・紫河車・半夏・天南星・王不留行】洗ふ。【白芍・栝樓根】醋で調へ

る。【三七・蒺藜苗】熬膏する。【苦參・土瓜根・獨用將軍・石蒜・牡丹皮・大靑・草烏頭・小靑・鬼臼根・蘿摩葉・射干】醋で磨る。【羊蹄根】醋で磨る。【蒟蒻・石菖蒲・芫花】膠で和す。【金星草・半夏】雞子白で調へる。【莽草・螺靨草・水堇・水莕草・毛茛・水蓴菜・海芋根・蒲黃・海藻葉・海根・水蘋草・防已】「蔬菜」【黑大豆】生で研る。【豌豆】いづれも一應の癰腫初起に主效がある。【綠豆粉】一應の癰疽初起に惡心するには、乳香、甘草と共に服して心を護る。【胡麻油】大毒發背には、一斤を煎沸して醋二盌を入れ、五回に分服すれば毒が內攻せぬ。○葱を入れて黑く煎じ、熱して塗れば自ら消える。【翻白草】酒に擂つて服す。【茄子】消石で貯藏して膏にし、酒で服すれば發背惡瘡を治す。○醋に磨つて腫毒に塗る。○生で(七)熱毒を合す。【豆豉】餅にして灸る。【大蒜】一切の腫毒、陰毒に灸する。【苦瓠】切片で(八)囊癰に灸する。【葱白】米粉と黑く炒つて醋で調へて塗る。【赤小豆】雞子白と共に一切の癰疽に塗る。【粢米粉】黑く炒つて雞子白で塗る。【麥粉】一切の癰疽發背で熱痛するには、黑く炒つて醋で調へて貼れば痛みが止り、久しく用うれば腫を消す。【蕎麥粉】癰疽發背には、硫黃末と共に傅ける。○疽頭凹黑には、煮て食へば高くなる。【山

(七) 熱毒ヲ合ストハ貼布スルコト。
(八) 囊癰ハ睾丸炎。

薬】生で塗る。或は蓖麻、糯米と共に用ゐる。【蔓菁】鹽と共に塗る。或は蕓薹と共に用ゐる。【紫芥子】柏葉と共に塗れば癒えぬものなし。【麥麪・米醋・冬瓜】かぶせる。【苦茄】醋に磨る。【叢草・百合】生。【乾薑】醋で調へる。【生薑】猪膽で調へる。【白芥子】醋で調へる。【萊菔子】醋。【馬歯莧・秦荻藜】醋で杵く。【旱蓮・皂角蕈】醋で磨る。【桑黄】「果木」【野蒲桃根】晒して研り、水で調へる【茱萸】醋で和す。いづれも一切の癰疽に塗る。【橡子】醋で磨つて石癰に塗る。【胡桃】背癰骨疽の未だ成らぬには、槐花と共に末にして熱酒で服す。○油を諸腫に塗る。【烏藥】氣を行らし、痛を止める。○姙娠中の癰には、牛皮膠と共に煎じて服す。【槐花】癰疽發背の初起には、炒つて衝酒で服し、汗を取れば癒える。【黄蘗】諸瘡で痛み忍び難きものに加へる。雞子白で和して塗る。○川烏頭と共に末にして傅ける。【柞木葉】荷蒂、甘草節、萱草、地楡と共に煎じて服すれば、癰疽が消え、膿血が乾く。【紫荊皮】血を活し、氣を行らし、腫を消し、毒を解す。獨活、白芷、芍藥、木蠟と共に末にし、葱湯で調へて塗る。○發背癰疽の初起には、酒で調へて塗り、内用には白芷と共に酒で服す。【皂子】六月六日に七箇を呑めば瘡癤を免れるといふ。【木芙蓉花葉】熱を散じ、毒を

解す。○一切の癰疽發背、惡瘡には、蜜で調へて塗る。已に成つたものは潰れ、已に潰れたものは排膿する。○或は蒼耳葉と共に燒く。○或は菊花葉と共に煎じて洗ふ。【扶桑花葉】芙蓉、牛蒡葉と共に蜜で擣いて塗る。【巴豆樹根】一切の癰疽發背の大患には、末にして塗る。言ふべからざる妙效がある。【松脂】一切の癰疽には、銅青、蓖麻と共に擣いて貼る。○膏藥に入れて用ゐる。【楓木皮】癰疽の已に成つたものには、酒に擂つて服し、並に傅ける。【蘹香】頭疽腫毒には、麻木で調へて塗れば七日にして肉を腐らす。【黄楊】擣いて獅子に塗る。【楮實・桑白皮】いづれも石癰に塗る。【桑葉】穿掌毒に塗れば直に癒える。【紫檀】醋に磨る。【皂莢】煎膏。【楡白皮】醋で調へて癰腫に塗る。【水楊柳湯・熱湯】いづれも腫毒を沃洗すれば消える。【新汲水】腫毒を射散する。【桑柴火】腫瘍の破れぬもの、潰瘍の腐らず斂らぬものを灸する。毒を抜き、痛みを止め、肌を生ずる。「器土」【紙錢】筒中で燒いて腫毒に吸ふ。【火鍼・墨】醋に磨る。【倒掛塵】葱と共に用ゐる。【伏龍肝】蒜と共に用ゐる。【釜下土】椒と共に用ゐる。【鼠壤土】醋と共に用ゐる。【土蜂窠】醋と共に用ゐる。【蚯蚓泥】鹽と共に用ゐる。【糞坑土・井底泥・簷溜下泥・無名異】醋に磨る。いづれも癰腫に塗る。

「金石」【黒鉛】癰腫發背、諸瘡を消す。甘草を煮た酒に溶した鉛を九回投入し、これを飲んで酔ふ。【鐵漿】發背の初起には、二升を飲んで通じをつける。【菩薩石】金石毒で起つた癰疽に主效がある。【胡粉・黄丹・密陀僧】いづれも膏に入れて用ゐる。【硝石】發背の初起には、湯に泡けて數回掃すれば散る。【水中白石】背腫の盤のやうなるには、赤く燒いて淬した水で數回洗へば消える。【紫石英】煆いて研り醋で調へる。【慈石・石青・石蟹】醋に磨る。(九)【地黄・鹽藥】「蟲」【土蜂子】醋で調へる。【赤翅蜂・獨脚蜂】いづれも癰腫に塗る。【露蜂房】惡疽、附骨疽の病根が臟腑に在るものに用ゐる。○灰に燒き巴豆を煎じた油と共に軟癤に塗る。【五倍子】紫に炒つて蜜と共に塗る。○或は黄藥、大黄を加へる。【水蛭】血を咂はす。【蜜蠟】「介鱗」【玳瑁・牡蠣】雞子白で調へる。【蛤粉】いづれも癰腫を消す。【車螯殼】腫を消するには、赤く燒いて醋に淬し、甘草酒と共に服し、竝に塗る。○大小、淺深を問はず、病根を利し去り(一〇)傳變を免れる。生を煆いて研り、輕粉少量を入れ、栝樓、甘草節を煎じた酒に蜜を入れて調へて服す。【龜板】初起には、燒いて研り酒で服す。【穿山甲】炮いて研り酒で服す。【蛇蛻】燒いて醋で和して塗る。○石癰に貼れば一夜で

(九)金陵本ニ蚫黄トアリ、之ヲ正トス。

(一〇)傳變ハ傳染ヲ云フカ。

癒える。【蛇頭灰】醋で調へる。【蛇角・蚌粉・鯽魚】「禽獸」【白鵞膏・雁肪・天鵞油・鶩肪】いづれも塗る。【鵜鶘油】よく病所に透入する。【雞冠血】絶えず頻に滴せば散ずる。【雞内金】發背の初起には、潤濕して貼る。三五箇を過ぎずして消する。【毈雞子】癰疽發背であらゆる藥の效なきには、狗屎と共に熬つて貼る。【白鴨通・牛膽・猪膽・猪腦】いづれも塗る。【猪腎】飛麪と共に擣いて貼る。【臘羊脂】一切の腫毒の初起に抹し擦すれば消する神驗がある。【猪膏・牛脂】いづれも冷水に浸して貼り、頻に易へる。【黃明膠】一切の癰疽に用ゐ、血を活し、痛を止める。水に浸して貼り、酒に化して飲めば、內攻せず、惡證を傳へない。○穿山甲と共に燒いて研り、酒で服するが極めて妙である。○已に破れたるには、化して黃丹を調へる。【犬屎】汁を絞つて服し、竝に塗る。【狗寶】癰疽諸毒には、蟾酥諸藥と共に丸にする。【狗齒】燒いて研り、醋で發背及び(一)馬鞍瘡に塗る。【鹿角】癰腫の留血が陰中に在るもの。○發背の初起には、灰に燒いて日每に五六回づつ醋で塗る【鹿脂・麋脂・鹿膽・羚羊角】水に磨る。【貘膏・阿膠】「人部」【人唾】いづれも腫に塗る。【人屎】一切の癰腫の未だ潰れぬには、研末し麝を入れて調へ頭上に貼る。○背發で死ぬほ

(一)馬鞍瘡、クラクヅレ。

ど苦むには、燒いて醋に和して塗る。【人乳】癰膿の出ぬには、麪に和して傅ければその日に出る。【人牙】陰疽の頭凹し沉黯して痛まず熱せず、內補の藥を服しても發せぬには、必ず人牙を煅き、穿山甲を炙き、各二錢半を二服に分けて、當歸、麻黃の煎湯で服し、外には薑汁で麪を和して塗る　○また人牙を煅き、川烏頭、硫黃末を等分を酒で服する方もある。【人髭鬚】燒いて傅ける。【月經衣】洗つた水で藥を調へる。

代鍼　【茅鍼】酒で煮て服す　一鍼を服すれば一孔を穿つ。【冬葵子】水で百粒を呑む。【蜀葵子・惡實・瞿麥】いづれも傅ける　【茼實・薏苡仁】いづれも一箇を呑む。【苦蕒汁】滴らす。【百合】鹽と共に擣いて塗る　【皂角刺】灰に燒いて酒で三錢を服す。○發背の潰れぬには、甘草、黃蓍と共に末にして服す　【白棘刺】灰に燒いて一錢を水で服す　【巴豆】腫頭に點ける　【箔經繩】燒いて傅ける。【白瓷器】末にして傅ける。【石膽】雀屎と共に點ける。【硇砂】點ける。【雀屎】點ける。【白雞翅下第一毛】灰に燒いて水で服す。【人齒垽】點ける。

潰瘍　「草部」【黃蓍】癰疽の久しく敗れたるには、膿を排し、痛を止め、肌を生じ內

（一三）附骨疽ハ腐骨疽。

補する。瘡家の聖薬である。【人參】熬膏する。【朮・蒼朮・遠志・當歸・黄芩・藁本・芎藭】いづれも膿を排し、痛を止め、肌を生ずる。【白芷】膿を蝕する。【牛膝】瘡口に挿めば悪血を去る。【地黄】熬膏して癰瘡の悪血に貼る。【地楡・蘆葉灰・蒴藋灰・蒿灰・蕳茹】いづれも悪血死肌を蝕する。【木香】癰疽で臭敗の斂らぬには、黄連・檳榔と共に傅ける。【芭蕉油】瘡口の合はぬに抹する。【附子】癰疽弩肉には、濃き醋で煎じて洗ふ。（）瘡口の久冷で合はぬには、餅にして灸すれば数日にして肉が生ずる。蒜を隔てて灸するもよし。【薔薇根・白蘞・白及・丹參・紫參・木通・毛蓼・赤地利・石斛・何首烏】。穀菜【胡麻】黒く炒る。【青大麥】炒る。【絲瓜汁】抹する。いづれも瘡口を斂める。【爛茄】酒で服す。果木【烏梅】悪瘡弩肉を蝕する。焼いて點けるが甚だ良し。【荷蒂】洗ふ。【槲白皮】敗瘡を洗ふ。（）焼いて服すれば（一三）附骨疽を治す。【櫟木灰】淋汁を熬膏して用うれば癰腫を蝕する。【巴豆】炒り焦して腫瘍に塗れば毒を解し、瘀肉に塗れば自ら化す。撚にして腫を導く。【松脂・楓香・蘇方木】膿を排し、痛を止め、肌を生ずる。【沒藥・血竭・乳香】いづれも腫を消し、痛を止め、肌を生ずる。（）癰疽頭顫には、熟水に研つて服す。【番降眞】楓、乳香と共に

癰疽惡氣を熏ずる。【丁香】惡肉に傅ける。【地骨皮】爛癰を洗ふ。【合歡皮】煎膏する。【柳皮】煎膏する。○實は膿血を逐ふ。【槐白皮】煎膏して用ゐれば、痛を止め、肉を長ずる。【楸葉】膿血を蝕する。○白皮を煎膏して貼る。【桐葉】醋で蒸して疽に貼る。熱を退け、痛を止むるの祕方である。【梧桐葉】炙いて研り、發背に貼る。【桐子油】傅ける。○燈に燃して腫毒の初起を熏ずる。【白楊皮】骨疽に傅ける。【山白竹灰】肉を蝕する。【故甑蔽】燒いて骨疽に傅ける。【黃蘗・桑柴・蒲蓆灰】いづれも瘡口を斂める【松木皮】燒いて傅ける。【木蘭皮】（金石）【礬石】惡肉を蝕し、好肉を生ずる。（一）凡そ癰疽發背の人は、黃蠟で丸にして服す。毒を防ぎ膜を護り、裏に托して膿を化し、痛を止め、肌を生ずる。【麥飯石】一切の癰疽發背には、火で煅いて醋に淬し、燒いた鹿角末、白蘞末と共に醋で熬膏して周圍に貼る。未だ成らぬものは消し、已に成つたものは潰れ、膿を排し、肌を生ずる。【硫黃】諸瘡で弩肉が數寸出たものは、之を塗れば消える。（一）瘡口の合はぬには、粉にして傅ければ合ふ。【慈石】忍冬、黃丹と共に熬膏して潰瘍に貼る。【銀硃】（二）癰疽發背には、礬と共に湯にして洗ひ、桑柴火で炙る。【食鹽】潰瘍の痒きには、その四圍を摩る【密陀僧】熬膏して用ゐる。○

（二）金陵本、疽瘡ニ作ル。

骨疽で骨の出たるには、桐油と共に調へて貼る。【砒石】敗肉を蝕する。【石灰】蕎麥稭灰と共に(一四)煎霜し、腐肉及び潰腫瘍に點ける。【寒水石】黄丹と共に用ゐれば瘡口を斂める【五色石脂】「蟲」【蜜蠟・蟲白蠟・紫鉚】いづれも肌を生じ、痛を止め、口を斂める。【桑螵蛸】燒いて軟癤に塗る。【全蠍】諸腫には、巵子と共に油で煎じ、蠟を入れて貼る【原蠶蛾】(一五)玉枕に癰を生じ、破れて後(一六)筋頭の如くなるには、石葦末と共に貼る。【斑猫】癰疽の破れぬもの、或は破れて膿無きには、蒜と共に擣いて豆ほどを貼り、少時して膿が出たならば藥を取り去る。【地膽】惡肉を蝕する。【蜂蟷】燒いて惡肉に傅ける。【壁錢窠】貼る。【五倍子】「鱗介」【龍骨】いづれも瘡口を斂める。【守宮】癰疽の大いに痛むには、焙じ研つて油で調へて塗る。【水蛇灰】骨疽に傅ける。【鯉魚】一切の腫毒の已潰、未潰共に燒いて塗る。○積年の骨疽には、切片にして搨すれば蟲を引く。【鯽魚】諸毒には、柏葉に包んで燒き、輕粉を入れて油で搽る。○骨疽の膿の出るには、鹽を包んで炙き焦して搽る。【鼈甲】惡肉を蝕し、口を斂める。燒いて摻る。【白螺殼灰】倒掛塵と共に軟癤に傅ける。【蟹骨・石蟹】いづれも久疽に塗る「獸禽」【黑雌雞】膿を排し、新血を生ずる。【雞屎】艾と共に骨疽を熏ずる。

(一四)金陵本、霜字字劃鮮明ナラズ、霖字ノ誤ナルコト必セリ。
(一五)玉枕ハ腦後骨ノ隆起スル所。
(一六)筋頭ハ火箸ノ頭。

(一七)乳癰ハ乳房炎及ビ乳房膿瘍。(一八)妬乳ハ乳房腫脹シテ痛ムモノ。

【夜明砂】膿を排するには、乳香、桂心と共に塗る。【猪蹄】煮汁で癰疽を洗へば、熱毒を潰し、惡肉を去る。○癰疽の乳に發せるには、通草と共に羹に煮て食ふ。【狗頭骨】癰疽癤毒には、蕓薹子と共に末にして傅ける。【兎頭】發背、發腦には、擣いて貼れば熱痛が水の如く冷える。【鹿角膠・鹿茸・麝香】一切の癰疽の膿水を蝕する。【豶猪屎】惡肉を蝕するには、雄黄、檳榔と共に傅ける。【黄鼠】毒を解し、痛を止めるには、油で煎じ、黄丹、黄蠟を入れて熬膏する。【鼠】潰癰の合はぬには燒いて塗る。○皮を生で附骨疽を封ずれば膿を追出す。○燒いて瘡口に傅ける。【猫頭】瘡口を斂めるには、煆いて雞子白に和して塗る。○頸毛、鼠屎と燒いて髮癤に傅ける。【象皮】瘡口を斂める。【鼹鼠・猪懸蹄・馬牙灰・猪屎灰・髮灰】いづれも瘡口を斂める。○又蜂房、蛇蛻灰と共に酒で服す。

(一七)**乳癰**　「草部」【天花粉】輕きものを(一八)妬乳といひ、重きものを乳癰といふ。酒で末二錢を服す。【白芷】貝母と共に末にして酒で服す。【半夏】煨いて研り酒で服す。また鼻に吹く。【紫蘇・栝樓・忍冬】いづれも酒で煎じて服す。【玉簪根・萱根・馬鞭】草と共に用ゐる。【木蓮】いづれも酒に擂つて服し、滓を塗る。【何首烏】酒で煮る。

【香蒲】擣汁。【鼠粘子・冬葵子・稷箬灰・莨菪子・葛蔓灰】いづれも研末して酒で服す。【貝母・丹參】白芷、芍藥、猪脂と共に醋で熬膏して塗る。【大黃】甘草と共に熬膏して貼り、また末にして傅ける。【射干】萱根と共に塗る。【龍舌草】忍冬と共に塗る。【燕脂】乳頭裂には、蛤粉と共に塗る。【水萍】苧根と共に塗る。【蓴・水萍・黃芩・山慈姑・益母草・大薊・芥草】醋に和す。【木鼈子】醋に磨る。【蒲黃】「穀菜」【百合】いづれも乳妬に塗り、吹く。【麥麪】水で煮た糊を酒に入れて熱飲し、更に黃に炒り、醋で糊に煮て塗れば散じる。【赤小豆】酒で服し、幷に塗る。【米醋】燒き石を入れて溫め漬す。【蔓菁】鹽と共に塗る。【老茄】燒いて乳裂に傅ける。【蒲公英】「果」【橘葉】酒で服すれば未成のものは消し、已成のものは潰れる。【銀杏】乳癰の潰爛には、研つて服し、幷に塗る。【白梅・水楊・柳根】いづれも擣いて貼る。【桂心】甘草、烏頭と共に末にして酒で塗れば、膿が化して水となる。【楓香】小兒の瘑疽に貼る。【丁香】妳頭花裂に傅ける。○妬乳の乳痛には、水で服す。【牙皂莢】蜜で炙いて研り酒で服す。或は燒いて研り蛤粉と共に服す。【皂莢刺】燒いて蚌粉に和して酒で服す。【柳根皮】擣き炙いて熨すれば、一夜で消える。【樺皮】燒いて研り、酒で一服を下せば消える。腐爛

せるにも服してよし。【蔓荊子】炒り末にして酒で服し、并に塗る。【楡白皮】醋で擣く。【木芙蓉】「器石」【車脂】熱酒で服す。【燈盞油】炒脂麻を調へて塗る。【研硃石鎚】煮熱して熨す。【石膏】煆いて研り、酒で三錢を服し、汗を取る。【杓上砂】(一九)吹乳には、酒で七箇を服す。【薑石・蚯蚓泥】「蟲介」【露蜂房】灰に燒いて服し、并に塗る。【白藥煎】酒で煎じる。【蜘蛛・龜版】いづれも燒いて研り酒で服す。【穿山甲】乳癰、乳岩には、炮いて研り酒で服す。○吹乳には、炙いて木通、自然銅末と共に酒で服す。【白死蛇】燒いて塗る。【蛇皮灰・鱓頭灰】「禽獸」【雞屎白灰】いづれも酒で服す。【白丁香】吹乳には、酒で一錢を服す。【母猪蹄】通草と共に羹に煮て食ふ。○破れたるをば煎じて洗ふ。【水膠】臘酒で煮て塗る。【鹿角】磨つて塗る。【鼠屎】(二〇)吹奶には、紅棗と共に燒き、麝を入れて酒で服す。○乳癰初起には、酒で七箇を服し汗を取る。○已成は、黄連、大黄末と共に黍米粥で四邊に塗れば消す。【貓皮毛】乳癰潰爛には、煆いて輕粉を入れて油で塗る。【猪脂】冷水に浸して貼る。【白狗骨灰・牛屎・馬屎・人屎灰・人牙灰】いづれも塗る。

(二一)便毒　「草部」【貝母】初起には、白芷と共に酒で煎じて服し、渣を傅ける　【栝樓】黄

(一九)吹乳ハ乳癰ノ一名。

(二〇)吹奶、一名吹乳。

(二一)便毒、和名ヨコネ。梅毒ノ一種。

連と共に煎じて服す。【鼠粘子】炒つて末にし、朴消と共に酒で服す。【忍冬】酒で煎じる。(二二)【水蓮】酒に擂る。【芫花根】水に擂つて服し、滓を傅ける。【黃葵子】皂莢、石灰と共に醋で塗る。【山慈姑】塗る。【芭蕉葉】燒いて輕粉に和して塗る。【石龍芮】揉む。【草烏頭】水で磨つて塗る。【菖蒲】生で塗る。【山藥】沙糖と共に塗る。【冬葵子・貫衆】「果木」【胡桃】燒く。いづれも酒で服す。【皂莢】煨いて研り酒で服す。○醋で和して塗る。【子】水に研つて服す。【肥皂】擣いて塗る。【楓香】麝を入れる。【紡車絃】燒く。【千步峰】醋に磨る。薑といづれも塗る。【銅錢】胡桃と共に嚼んで食ふ。【鐵秤錘】初起には、一夜壓す。【枯礬】寒食麪と共に糊で塗る。【蜘蛛】初起には、酒に研つて熱服し、通じをつける。【斑蝥】滑石と共に服すれば、毒は小便から出て直に消す。【紅娘子】雞子內に入れて煨いて食へば、小便から膿血を排出する。【五倍子】黃に炒つて醋で塗れば一晝夜で消する。【穿山甲】猪苓と共に醋で炙き、研つて酒で服す。外には輕粉、麻油と共に塗る。【鯽魚】山藥と共に擣いて貼る。【鰾膠】軟に煮て研つて貼る。また燒いて末にし酒で服す。【水膠】化して塗れば直に消す。

解毒　「草部」【敗醬】癰腫を除き、多年の凝血を破り、膿を化して水にする。○腹癰

(二二)水蓮、一本ニ木蓮ニ作ル。

の膿のあるには、薏苡仁、附子と末にして水で服すれば、小便毎に排出して癒える。【大薊葉】腸癰の瘀血。【人參】酒毒で胸に疽瘡を生じたるには、酒で炒つた大黄の末と共に薑湯で服し、汗を出せば癒える。【黄芪】腸、胃間の惡血を除く。【薏苡仁・冬瓜仁・甜瓜仁】腸癰が已に成つて小腹が腫痛し、小便が淋の如く、或は大便に膿を下すには、當歸、蛇蛻と共に水で煎じて服し、惡物を利下す。【大棗】腸癰には、核共に燒き、百藥煎と共に末にして服す。【烏藥】孕中に癰あるには、牛皮膠と共に煎じて服す。【皂角刺】腹内に瘡を生じ、腸臟に在つて藥で治し難きには、酒で煎じて服すれば膿が悉く尿と共に排出し、極めて效がある。【惣擔尖】腸癰の已に成れるには、灰に燒いて酒で少量を服す。孔が出來て膿を出すものである。「十鱗」【死人塚上土】外用。【龍骨】腸癰の内疽。【鯽魚】猪脂で煎じて服す【雄雞頂毛】并に屎を燒いて腹のすいた時に酒で服す。【犬膽】腸中の膿血を去る。【馬牙】腸癰の未だ成らざるには、灰に燒いて雞子白で和して塗る。【懸蹄】腸癰に用ゐ、瘀血を下す。【猪懸蹄甲】伏熱の腹腸に在る癰内蝕に用ゐる。

諸瘡（上）

(一)丁瘡。悪瘡。(二)楊梅瘡。(三)風癘。疥癬。熱瘡。(四)瘑瘡。手瘡。足瘡。(五)胻瘡。

疔瘡　「草部」【蒼耳根】汁に童尿を和して服す。或は葱酒で服し、汗を取る（灰を醋と共に塗れば根を抜く）【山慈姑】蒼耳と共に酒に擂つて服し、汗を取る。【石蒜】煎じて服し、汗を取る。【豨薟】酒で服し、汗を取る。極めて效がある。【大薊】乳香、枯礬と共に末にして酒で服し、汗を取る。【白芷】薑と共に酒に擂つて服し、汗を取る。【王不留行】蟾酥と共に服し、汗を取る。【草烏頭】葱白と共に丸にして服し、汗を取る。○巴豆と共に貼れば根を抜く。○川烏頭、杏仁、白麪と共に塗る。【菊花葉】丁腫で死に垂たるには、擣汁を服し、口に入れば活きる。神驗の方である。冬は根を用ゐる。【蕁】酒に擂つて服す。【常春藤】蜜に和して服す。【薺苨汁】服す。【金沸草・益母草】擣汁を服し。渣を塗る。○焼灰は(六)紉入して根を抜く。【荊芥】煮て服し、及び醋で擣いて塗る。【紫花地丁】水に擂つて服す。葱、蜜と共に塗る。【艾灰汁】石灰に和して三回點ければ根を抜く。【地菘】糟に和す。【附子】醋に和す。【蒺藜】醋に和

(一)丁瘡ハ疔ノ別名。
(二)楊梅瘡ハタウガサ。
(三)風癘ハ癩ノ別名。
(四)瘑瘡ハ小水泡疹。
(五)胻瘡ハ一名臁瘡。和名ハギガサ、一名ガンガサ。
(六)綿撤絲ニ加ヘテ挿入スルコト。

す。【馬兜鈴】蛛網と共に擣く。【龍葵・地黄・旱蓮・水楊梅・木鼈子】「蔬菜二」【麥麪】猪脂に和す。【胡麻灰】針砂に和す。【小豆花・寒食餳】いづれも丁に塗る。【白米粉】熬黑して蜜で塗る。【米醋】麪で圍み、熱して淋す。【翻白草】酒で煎じて服し、汗を取る。【蒲公英】酒で擂つて服し、汗を取る。【絲瓜葉】葱白、韮菜と共に研り、汁を酒に和して服し、滓を傅ける。【獨蒜】門臼灰を蘸けて擦れば散る。○また小薊、豨薟、五葉草と共に酒に擂つて服す。【馬齒莧】梳垢に和して封ずる。○焼いて醋に和して封ずる。○石灰に和して封ずる。【白苣汁】孔中に滴らす。【土菌】豨薟と共に塗る。【蕪菁】鐵衣と共に塗る。【蕺菜・灰藋灰・山丹・百合・生薑】「果木」【野葡萄根】先づ丁上を刺して蟾酥を塗り、これを擂つた汁を酒に入れ、綠豆粉を調へて飲み、醉へば癒える。【銀杏】油に浸して研り、水疔を掩ふ。【荔枝】白梅と共に用ゐる。【胡桃】嚼んで掩ふ。【榴皮】疔に灸する。【槐花】四兩を酒で煎じて服す。○葉、皮、莖も同じ。【柳葉】煮汁を服す。【枸杞】(七)十三種の疔を治す。四時に根莖を採つて諸藥と共に服す。【橡鈎】橙橘皮と共に煎じて服す。○丁香と共に焼いて傅ける。【烏桕葉】六畜牛馬の肉を食つて疔を生じ、死ぬ程に苦むには、擣汁一二盌で下痢さす。○根

(七)十三種疔ノ名目、醫林集要ニ具載ス。

もよし。また(八)暗疔の昏狂に主效がある。【皂莢】炙いて研り麝と共に塗る。○子は傅ける。【巴豆】點ける。【木芙蓉】塗る。【緋帛】蜂房諸藥と共に燒いて服し、また膏に入れて貼る。【舊油紙繖灰】古石灰と共に服して汗を取る。【箭笴茹】(九)炷にして疔に灸する。【涼水】挑け破つて血を去り、水を噙んで頻に咂ふ。【燭燼】胡麻、針砂と共に塗る。【土蜂窠】蛇皮と共に煆いて酒で一錢を服す。【鐵漿】日毎に一升を飮む。【鏽釘】虀水で調へて冷服する。○煆いて人乳と共に傅ける。【浮石】沒藥と共に醋糊で丸にして服す。【銀硃】水で和し丸にして服す。【礬石】煨いて葱を擣いて丸にし、酒で二錢を服す。○寒食麪と共に塗る。【鼠壤土】童尿で調へて塗る。【糞下土】全蠍、蟬蛻と共に塗る。【鐵粉】蔓菁根と共に擣いて塗る。【鐵精】輕粉、麝香と共に點傅する。【雄黃】蟾酥、葱、蜜と共に擦る。【石灰】半夏と共に傅ける。【硇砂】雄黃と共に貼る。【薑石】雞子白で和して塗る。【慈石】醋で和す。【銅鑛石】「蟲部」【斑蝥】いづれも塗る。【蟾酥】雄黃乳香と共に丸にして三丸を服し、外には白麪、雄黃を和して一粒を納るれば立ろに效がある。【露蜂房】洗ふ。【人虱】十箇を瘡中に着け、箔繩で灸する。【蟬蛻】疔瘡が破れず、毒が腸、胃に入りたるには、蜜水で和して服し、

(八)暗疔ハ兩腕下ニ生ジテ頭ナキモノ。

(九)金陵本ニ爲柱灸トアレドモ、爲炷灸ノ誤字ナルコト必セリ。

また塗る　○殭蠶と共に醋で四圍に塗れば根を拔く。【蜜】葱に和す。【獨脚蜂】燒く。【赤翅蜂】燒く。【獨脚蟻・蜘蛛】醋に和す。【草蜘蛛・蟷螂】「鱗介」【蝮蛇皮灰】いづれも傅ける。【蛇蛻】疔腫(一〇)魚臍には、水で煎じて服す。○燒いて雞子に和して塗る。【鮑魚頭】髮灰と共に燒く【穿山甲】燒いて研り、貝母末と共に(一一)馬丁に傅ける。【海馬】雄黄諸藥と共に塗る。【田螺】片腦を入れ、水を取つて點ける。【蜆汁】洗ふ。【海螵蛸】「獸人」【臘猪頭灰】いづれも摻る。【狗寶】蟾酥諸藥と共に服すれば(一二)赤疔を治す。【牝猪屎】疔毒の腹に入りたるには汁を絞つて服す。【牡狗屎】汁を絞つて服し、並に塗る。【靑羊屎】煮て服す。【馬屎・驢屎】いづれも炒つて疔瘡中風を熨す。【獺屎】水に和して封ずれば、膿が出て痛が止る。【鼠屎】頭髮灰に燒いて納れる。【猪膽】葱に和して塗る。【白犬血・馬齒】燒く。【黑牛耳垢・人耳塞】鹽、蒲公英と共に貼る。【髮灰】

惡瘡　「草部」【牛膝】卒に惡瘡を生じ、種類の判然せぬものには、これを擣いて塗る。【貝母】灰に燒き油で調へて人畜の惡瘡に傅け、口を斂める。【藿香】冷瘡敗爛には、茶と共に燒いて傅ける。【黃芩】惡瘡を蝕する。【秦艽】諸瘡口の合はざるに摻

(一〇)魚臍ハ魚腮風ノ誤乎、魚腮風ハ兩腮浮腫シテ痛ムヲ云フ。
(一一)馬丁ハ驢馬疔ノ略ナラン、其形三角ニシテ頂上ニ黑點アルヲ云フ。
(一二)赤疔ハ舌根ノ下或ハ頭面或ハ手足骨節ノ間ニ生ズ、其證最モ急ナルモノナリ。

る。【蒼耳】惡瘡には、擣汁を服し、幷に傅ける。【芎藭】輕粉と共に塗る。【香蒲】(一三)全身の濕瘡には、末にしてまぶす。【忍冬】雄黃と共に惡瘡を熏ずる。【無心草】多年の惡瘡に傅ける。【草烏頭・地楡・沙參・黃芩花】いづれも惡瘡膿水に塗る。【何首烏・燕蓐草・瞿麥・扁竹】いづれも浸淫惡瘡に傅ける。【藜蘆・鼠尾草】いづれも(一四)反花惡瘡に傅ける【靑蒿灰・馬矢蒿・藺茹・角蒿・骨碎補】いづれも惡瘡爛肉を蝕する。【莽草・藿菌・靑葙子・苦參・鶴虱・鉤吻】いづれも惡瘡の蟲を殺す。【蛇牀子・藎草・漏籃子・杜衡・牛蒡根・狼牙】洗ふ。【大薊根・野菊根・蛇銜・積雪草・商陸・狼跋子・及已・香附子・馬鞭草・狼毒・艾納香・漏盧・藁本香・黃連・虎杖根・地膚子】洗ふ。【白蘞・石長生・紫草・芫花根・紫參・赤芍藥・山慈姑・白及・石蒜・牡丹皮・蜀羊泉・天麻・紫花地丁・紫金藤・天蓼・薔薇根・當歸・赤薜荔・丹參・兎葵葉・紫葛藤・羊桃】洗ふ。【冬葵根・馬勃・蘄艾葉・剪草・昨荷葉・通草及び花上粉・羊蹄草・昆布・胡麻油・扁豆・大麻仁】炒る。【陳倉米】醋に和す。【豆豉・寒食飯】いづれも一切の惡瘡に傅ける。【蕓薹菜】煨いて擣き、異疽を熨す。○油で(一五)風瘡に塗る【蘩縷汁】惡瘡に塗れば神效の功がある。【雞腸草】灰を鹽に和して用

(一三)金陵本ニハ濕瘡遍身爲末臥之トアリ。

(一四)反花トハ瘡面ノ反展スルヲ云フ。

(一五)風瘡、一名風癮疹。カザホロシ、三日ハシカノ類。

うれば、一切の惡瘡、反花瘡に主效がある。【馬齒莧】積年の瘡を封ずる。〇燒いて反花瘡に傅ける。【蒲公英・冬瓜葉】いづれも多年の惡瘡に傅ける。【苦苣】對口惡瘡には、韮と共に擂つて酒で服し、竝に傅ける。【絲瓜根】諸瘡の久潰には、水で煮つて掃へば大に涼する。【蕺菜】竹筒で煨き、擣いて惡瘡を封ずる【醬瓣】人尿と共に浸淫瘡癬に塗る。【苦瓠汁・灰藋・邪蒿】「果木」【慈姑葉】いづれも惡瘡に塗る。【桃白皮】惡瘡を紉ふ。【杏仁】輕粉を入れて諸瘡の腫痛に塗る。【馬檳榔】惡瘡腫痛には、內には一箇を食ひ、外には嚼んで塗る。【柏瀝】惡瘡の蟲あるに塗る。【巴豆】油で煎じ、硫黃、輕粉を調へて一切の惡瘡に搽る。【苦竹葉】燒いて雞子白に和して一切の惡瘡に塗る【柳華及び枝葉】煎膏して反花惡瘡に塗る。【桑葉】肺風毒瘡で癩の如きには、一夜蒸して晒して研り、水で二錢を服す【楓香・松脂・騏驎竭・乳香・沒藥・詹糖香】いづれも惡瘡膏に入れる。【槐皮・楊櫨葉・胡頹子根】いづれも洗ふ。【冬靑葉】醋で煮る。【楸葉・桐葉及び木皮・欅葉】鹽と共に用ゐる。【皂莢刺】燒く【楮葉・古斯・大楓子・木槵子油・桐子油・靑布灰】いづれも多年の惡瘡に傅ける【敗蒲席灰】〔二六〕筋溢惡瘡【三家洗盌水】鹽を入れる【半天河水】いづれも惡瘡を洗ふ。【東壁土】種種

〔二六〕筋溢ハ脈溢ノ別名トスレバ紫斑病ニ當ル。

の惡瘡には、大黃末と共に傅ける。【蚯蚓泥】(一七)燕窩瘡及び時行腮腫に傅ける。【白鱔泥】(一八)火帶瘡に傅ける。【鬼屎】人馬の惡瘡に傅ける。【鹽車脂角土・胡燕窠土・屋內壖下蟲塵土・白蟻泥】黃丹と共に用ゐる。【糞坑泥】「金石」【雲母粉】いづれも一切の浸淫惡瘡に塗る。【胡粉】反花惡瘡には、臙脂と共に塗る。〇(一九)蜂窠惡瘡には、硃砂、蜜と共に塗る。【水銀】一切の惡瘡には、黃連、胡粉と共に傅ける。〇惡肉毒瘡で狀態が痘の如く、半裏に在るには、包んで擦る。或は大楓子と共に用ゐる。【鐵漿】(二〇)蛇皮惡瘡には頻に塗る。【雄黃】(二一)蛇纏及び一切の瘡には、醋で調へて塗る。【浮石】種種の惡瘡には、沒藥と共に丸にして服す。【蓬砂】一切の惡瘡には、甘草と共に麻油に浸し、(二二)一小合づつを飲む。【石硫黃】一切の惡瘡には、蕎麪と共に餅にして貼る。【銀硃】頑瘡の口久しきには、古石灰、松香油と共に熬つて貼る。【石灰】多年の惡瘡には、雞子白と共に塗る。【硇砂・石膽】いづれも惡瘡敗肉を去る。【雌黃・熏黃・孔公孼・黃礬・綠礬・白礬・銅青・錫・鉛・鐵落・鐵鏽・鐵爇】「蟲部」【烏爛死蠶】一切の惡瘡に塗る。【地膽】惡瘡に傅ける。(二三)〇嵒瘡が舌の如くなり、昏迷するには、速に此を用ゐ、桑白皮、滑石、木通の諸藥と共に服してその毒を宣する。【青腰蟲】惡瘡臭肉を

(一七)燕窩瘡ハ腋下ニ發スルモノ。時行腮腫ハ、オタフクカゼ。
(一八)火帶瘡ハ帶狀匐行疹。和名ツヅラゴ。
(一九)蜂窠瘡ハ瘡ニ小キ孔アリテ蜂ノ窠ニ似タルモノ。
(二〇)蛇皮ハ糖粃疹。和名ハタケ。
(二一)蛇纏赤白ノ別アリ、遊風トモ云フ。脚腿又ハ臂腕腫脹シテ疼痛ヲナシ、遊走定ラザルモノヲ云フ。
(二二)小合ハ今ノ六勺六撮強、大合ハ此ノ三倍。
(二三)嵒瘡ハ色紫黑、堅硬ニシテ、已ニ潰エ深ク陷ツテ岩ノ如クナルヲ云フ。

(二四)猫睛瘡、一名寒瘡。

(二五)金陵本、[illegible]ニ作ル。

蝕し、肌皮を剝す。【蜘蛛】晒し研つて一切の惡瘡に傅ける。○膜を積年の諸瘡及び反花瘡に貼る。【蜂房】洗ひ、傅ける。【斑蝥】「介鱗」【文蛤】いづれも惡瘡漏爛に傅ける。【黿脂】摩す。【黿甲】惡瘡には、酒に浸し、炙き研つて服す。【鼉甲】同じ。【鼉脂】摩す。【穿山甲・蛇蛻・自死蛇・蝮蛇皮】いづれも燒いて傅ける。【蚺蛇・鱗蛇・白花蛇・烏蛇】いづれも酒に釀し、丸にして用ゐ惡瘡を治す。【蛇婆】炙いて食ふ。【鯽魚】灰に燒き、醬汁と共に十年癒えぬ諸瘡に塗る。○浸淫毒瘡には、生で切り鹽に和して搗いて塗る。【海螵蛸】瘡多く膿水の燥かぬを止める。【黃顙魚】燒く。【鰻鱺膏・海豚魚肪・魚脂】「禽獸」【孔雀屎】いづれも惡瘡に傅ける。【雀屎】浸淫惡瘡に傅ける。【雞冠血】浸淫瘡は治せねば人を殺す。日に四五回づつこれを塗る。【雞肉】(二四)猫睛瘡で光があり、膿血がなく、痛痒常ならず、食欲の減退するを寒瘡と名ける ただ雞血と葱韮とを食へば自ら癒える。【白鴿肉】惡瘡の毒を解す。【鴿屎】反花瘡の初期に米粒の如き惡肉が生じ、破れば血が出て惡肉が反つて外に出るには、炒り研つて傅ける。(二五)【青鵻・鸏鶅屎・猪脂・猪髓】いづれも惡瘡に主效がある。【羊屎】反花惡瘡には、鯽魚を釀して燒いて傅ける。【猪頰骨】油で炙いて惡瘡に塗る。

〇懸蹄を焼いて十年の悪瘡に傅ける。【驢懸蹄】(二六)天柱毒瘡が大椎の上に生じて水の出るには、胡粉、麝香と共に傅ける。【馬屎】多年の悪瘡の疼痒に塗る。數回を過ぎてはならぬ。【犬膽】痂瘍悪瘡に傅ける。【燖猪湯】洗ふ。【驢脂・野駝脂・麋脂・猿膏・猬脂】及び心、肝。【隱鼠膏・黄鼠】煎膏。【象膽・熊脂・鹿角・羚羊角】及び肉。【狗頭骨】灰。【虎骨】及び屎。【猫頭骨】灰【鼠頭】灰。【象皮灰・鼬鼠灰】及び骨。【馬騣灰・野猪皮灰・牛屎・雙頭鹿胎中屎】「人部」【人中白】焼く。【人唾】いづれも一切の悪瘡に主效がある。【人牙】悪瘡には、雞内金等と共に焼いて傅ける。【髪灰】(二七)瘭嵒悪瘡には、米湯で二錢を服し、外には白及、皂莢刺灰と共に傅ける。【小兒胎屎】悪瘡の瘜肉を蝕す。

楊梅瘡　「草部」【土茯苓】楊梅瘡及び(二八)楊梅風を治す。また輕粉を服して起つた筋骨疼、(二九)癱瘓癰疽には、必ず用ゐねばならぬ藥である。その場合には、この藥四兩に皂莢子七粒を入れ、水で煎じて茶の代りにする。〇或は牽牛を加へる。〇或は苦參、五加皮を加へ、或は防風、薏苡仁、木通、木瓜、白鮮皮、金銀花、皂莢子を加へて煎じて服す。〇虛弱者の筋骨疼には、人參と共に丸にして服す。【天花粉】川芎、槐花

(二六)天柱ハ項後髪際ノ穴名。大椎ハ首筋ニアル脊椎骨。
(二七)瘭嵒ハ瘭疽ト癌瘡ノ併稱。
(二八)楊梅風ハ楊梅瘡ノ別名。
(二九)癱瘓ハ半身不遂。

と共に丸にして服す。【栝樓皮】まづ敗毒散を服してから、末にして酒で服す。【薔薇根】年久しき筋骨痛には、酒で煮て飲む。或は木瓜、五加皮、茯苓、當歸を加へる。【大黄】初起には、皂莢刺、欝金、白牽牛と共に末にして酒で服す。○又白殭蠶、全蠍と共に末にし、蜜湯で服する方もある。いづれも惡物を下すを目的とする。○皂角刺、輕粉と共に末にして服し、惡物を下し、また齒から毒血を出して癒える。【線香】烟に燒いて熏ずる。【浮萍】洗ふ。【野菊】棗根と共に煎じて洗ふ。【金銀花・苦參・龍膽・木通・澤瀉・柴胡・荊芥・防風・薄荷・威靈仙・蓖麻子・黄芩・黄連・白鮮皮・連翹・胡麻】「果木」【胡桃】槐花、紅棗、輕粉と共に丸にして服す。【椰子殻】筋骨痛には、研末して熱酒で服し、汗を取る。【烏梅】炒り焦し油で調へて搽る。【葡萄汁】藥を調へる。【杏仁・細茶・木瓜・槐花】四兩を炒り、酒で煎じて熱服する【黄蘗】濕熱を去る。乳香末、槐花と共に水で和して塗る。【大楓子】輕粉と和して塗る。【五加皮・槐角・皂莢子・卮子・血竭・乳香・沒藥・盧薈】「金石」【銅青】醋で煮て酒で調へて塗れば、極めて痛み、水を出して癒える。○或は輕粉、冰片少量を入れる。【綠礬】煆いて研り、香油で搽る。【汞粉】或は服し、或は瘡を熏ずる。效最も速であるが、

用法を誤れば筋骨攣疽を惹起する虞がある。○猪腎に摻り油で煎じて食ふ。○雞子に入れて蒸熟して食ふ　○丹砂、雄黄と共に末にし酒で服す、或は黄丹、孩兒茶を加へ、或は槐花、龜板を加へ、或は槐花、天花粉、孩兒茶を加へて丸にして服す○ある方では、甘草、百草霜と共に丸にして服す。○楊梅癬には、大楓子と共に末にして塗る。○杏仁と共に塗る。【水銀】鉛と共に結砂し、乳、沒、黄丹を入れ、神燈にして照し熏ずる　【黑鉛】錫と共に結砂し、蜈蚣を入れて末にし、撚にして照す○酒で煮て服すれば輕粉の毒を解す。【銀硃】年久しき頑瘡には、硃砂、枯礬、全蠍と共に丸にして服す。○宮香と共に撚にし、夜具の中で鼻を熏ずる　或は孩兒茶、皂角子を加へる。○或は雄黄、枯礬と共に丸にして熏ずる。○鉛汞、白花蛇と共に撚して照す。○輕粉と共に黄蠟、麻油を入れて膏にして貼る。○筋骨痛には、枯礬と共に撚にして臍を熏じ汗を取る。【粉霜】塗る。【雄黄】猪髓で調へて搽る。○杏仁、輕粉、猪膽と共に搽る。○輕粉、黄丹、孩兒茶、硃砂と丸にして服す。【白砒】雄黄、牛黄と共に蠟で化して丸にして服す。○石黄と共に點ける。○輕粉、銀硃と共に搽る。【丹砂】雄黄、百草霜と共に丸にし、燃にして夜具の中で熏ずる。【石膏】煅いて搽る。

（三〇）大風ハ癩病ノ別名。

（三一）風瘡、カザホロシ。

○酒で服して發汗すれば輕粉の毒を解す。【鐵漿・鹽水】いづれも輕粉の毒を漱ぐ。【孩兒茶・百草霜・蓬砂・胡粉・枯礬・黄丹】「蟲鱗」【蟬蛻・全蝎・白殭蠶・露蜂房・蜈蚣】全蝎、香油、水粉、桕油と共に熬膏して貼る。【白花蛇】穿山甲諸藥と共に丸にして服す。○熏照の藥にも入れる。【穿山甲】頑瘡の風には、陳菜子油で膏にして貼る。【龜甲・鬼眼睛】辰砂、片腦と共に塗る。【猬皮】楊梅瘡瀉には、鼈甲、象牙と共に丸にして服す。【麝香】

風癩　「草部」【苦參】熱毒風、（三〇）大風、肺風、腎風で瘡を生じ、全身瘙痒するには、皂角膏で丸にして服す。○荊芥と共に丸にする。○酒に浸して飲む。○猪肚を煮て食へば蟲數萬を取り下す。【何首烏】大風には、胡麻と共に九蒸九晒して服す。【長松】甘草と共に煎じて服すれば、旬日で癒える。【黄精】蒸して食ふ。【草烏頭】油鹽で炒つて丸にして服す。【馬矢蒿】末にして服す。【馬鞭草】末にして服す。【浮萍】煎じて服し、末にして服し、並に洗ふ。【凌霄花】地龍、全蝎末と共に服す。【栝樓】酒に浸す。【白蒿】酒に釀す。【艾汁】酒に釀す。【狼毒】秦艽と共に服す。【大黄】皂角刺と共に服す。【牛膝】骨疽、癩病には、酒で服す。【白鮮皮】一切の熱毒（三一）風瘡の赤爛、

眉髪脱落、脆皮の急なるに用ゐる。【羌活・防風・巴戟天・黄芪・牡丹・天雄】いづれも癩風に主效がある。【蓖麻子】黄連と水に浸して呑む。【莨菪子】惡瘡の癩に似たるには、燒いて傅ける。【地黄葉】惡瘡の癩に似て十年を經たるには、擣いて傅ける。【白蘞藤】汁で浴し、並に熬膏して酒で服す。【青藤】酒。【葎草・陸英・蒴藋・苦瓠藤】いづれも癩を浴す。○十年瘥えぬには、汁を塗る。「穀果」【胡麻油】浸す。【大麻仁】酒に浸す。【亞麻・荷葉】石灰と共に汁にして浸す。「木器」【大腹子】傅ける。【松脂】錬つて服す。【松葉】酒に浸す【天蓼】酒に釀す。【預知子】雄黄と共に熬膏して服す。【皂莢】煎膏し丸にして服す。刺を灰に燒いて服するが最も效驗がある。○根皮は肺風惡瘡に主效がある。【樺皮】肺風毒瘡の癩の如くなるには、枳殼、荊芥諸藥と共に服す。【桑葉】肺風の癩の如くなるには、蒸して一夜晒し、研つて水で服す。【乳香】牛乳、甘草と共に蒸して服す。【楊花】花蛇等と共に丸にして服す。【大楓子油】苦參と共に丸にして服す。輕粉を調へて搽る。【桑柴灰】洗ふ。【梔子】赤癩、白癩。【皮巾子・皮腰袋】灰に燒いて癩藥に入れる。「水石」【碧海水・古塚中水・石灰】いづれも洗ふ。【禹餘糧】癩風の髪落には、白礬、青鹽と共に煆いて丸にして服す。

【金星石】大風蟲瘡には、諸石と共に末にし丸にして服す。【石硫黄】癘風の蟲あるには、酒で少量を服し、同時に大楓子油で和して塗る。【玄精石・雄黄・雌黄・握雪礬石・石油】「蟲鱗」【葛上亭長】いづれも塗薬に入れる。【蜂蜜】薑汁と共に煉つて服す。【蜜蜂子】諸蛇と共に丸にして服す。【五倍子・蛇蛻】悪瘡の癩に似て十年瘥えぬには、灰に焼いて酒で服し、猪脂で和して塗る。【白花蛇・烏蛇・蚺蛇・蝮蛇】いづれも酒に釀して服す。【烏蛇膽】冬瓜を入れ水に化して服す。【蚺蛇膽及び膏】塗る。【自死蛇】悪瘡の癩に似たるには、汁に漬けて塗る。【鱧魚】頭瘡、疥癩には、蒼耳を釀して煮て食ふ。【鯽魚】悪瘡の癩に似て十年瘥えぬには、灰に焼き醬に和して塗る【鱟魚膽】諸礬と共に末にして服すれば蟲を殺す。【蠍虎】蠶沙、小麥麪と共に末にして服す。【鯪鯉甲・蚖】「禽獸」【五靈脂】油で調へて塗る。【驢蹄灰・頭髮】大豆と共に竹筒内に入れて焼き、汁を塗る。

疥癬　「草部」【苦參・菖蒲・剪草・百部】いづれも酒に浸して服す。【芥葉】烟に焼いて熏じ、醋で煎じて塗り、灰に焼いて搽る。【淫羊藿・青蒿・山茵蔯・烏頭・馬鞭草】いづれも洗ふ。【杜衡・白鮮皮・蒼耳子・黃連・大薊汁・白及・青葙葉・紫參・

（三二）坐板瘡ハ疥癬ノ類。

積雪草・蛇牀子・丹参・天南星・紫草・木藜蘆・地楡・莨菪根・狼牙草・沙參・穀精草・薄荷・三白草・線香・狼把草・狗舌草・薑黄・冬葵子・芍藥・酢漿草・芎藭・石長生・白菖蒲・鉤吻・羊蹄根・酸模・木蓮藤・莽草・山豆根・何首烏・藜蘆・天門冬・藺茹・狼跋子】酒で磨る。【狼毒・薔薇根・白蒺藜・藎草・地錦草・敗醬・防已・葎草・猫兒眼睛草】「穀菜」【大豆瀝・黄豆油・秫米】黒く炒る。【小麥】燒く。【胡麻油・蕓薹子油】已上或は塗り、或は洗ひ、或は服す。【胡麻】生で嚼み、（三二）坐板瘡に塗る。【絲瓜皮】焙じて研り、燒酒で坐板瘡に塗る。【粟米泔・灰藋・藜葉・冬瓜藤】いづれも疥癬を洗ふ。【韮根】黒く炒る。【薤葉】煮る。【蒜・馬齒莧・絲瓜葉】擦る。【土蘭灰・杏仁・桃葉・桃仁・鹿梨根・枏榜木皮・銀杏】嚼む。いづれも疥癬に塗る。【胡桃】雄黄、熟艾と共に擣いて陰囊を裹む。【山査・楊梅樹皮・樟材・釣樟・柳華及び葉】いづれも疥癬を洗ふ。【楓香】黄蘗、輕粉と共に塗る。【松脂】輕粉と共に擦る。【乳香・沒藥・血竭・皂莢】猪肚を煮て食ふ。【樟腦・盧薈・黄蘗・樗根白皮】及び葉。【楸樹皮葉・海桐皮・楝實及び根・蕪荑・大楓子】いづれも疥癬の蟲を殺す。【楡白】擣涎を疥癬蟲瘡に塗る。【桕油】小兒衣に塗つて瘡蟲を引く。○また水

（二三三）牛皮癬、和名コセヅナミ。一名魚鱗狀癬。

（二三四）窩疥ハ瘑瘡ノ別名ナラン。瘑瘡ハ膿窠瘡ノ劇シキモノ。

（二三五）蟲癬、タムシノ一種。

（二三六）下身癬ハ股間ノタムシ。

銀と共に擦る。【槿皮】醋で調へて癬に搽る。或は汁に浸して雄黃を磨る。【巴豆】癬に擦る。○膩粉と共に疥に點ける。【楮葉】癬に擦る。【烏藥・椶木・槐葉・檀皮・桑瀝・荊瀝・松詣・桕油・胡頽根・欒荊・鼠李子・木槵子油】いづれも疥癬に塗る。「水土」【秋露】藥を調へる。【半天河水・梅雨水・溫泉・碧海水・鹽膽水】いづれも疥癬頭瘡を洗ふ。【燕窠土・烟膠】牛皮風癬に搽る。「金石」【輕粉】（二三三）牛皮癬には、酒で半錢を服す。○小兒の癬には、豬脂と共に塗る【雄黃】輕粉、豬脂と共に牛皮頑癬に塗る。【明礬】榴皮に蘸け牛皮癬に摻る。【胡粉】疥癬に摻る。○黃膿瘡には、松香、黃丹、飛礬と共に熬膏して貼る。【水銀】胡粉と共に（二三四）窩疥、（二三五）蟲癬に塗る。○蕪荑と共に塗る。○大楓子と共に塗る。【銀硃】牛髓、桐油と共に疥癬蟲を殺す。【棯舵灰】牛屎と共に（二三六）下身癬を熏ずる。【礬紅】螺螄、槿皮と共に癬に塗る。【硫黃】雞子油で疥癬に搽る。○煆いて頭瘡に摻る。【鐵落・鐵鏽・青琅玕・硃砂・雄黃・熏黃・石油・黃礬・綠礬・砒霜・鹽藥・戎鹽】いづれも塗摻藥に入れる。【石灰・蘭鹵汁】いづれも疥癬を洗ひ、蟲を殺す。【斑蝥】蜜と共に和し、醋に浸して塗る。【五倍子】一切の癬瘡には、枯礬と共に塗る。【青腰蟲】蟲を殺す。「介鱗」【蚌粉】いづ

れも疥癬、濕瘡に塗る。[鱧魚]蒼耳を釀し、淡煮して食ふ。[鱣魚肝]炙いて食ふ。[河豚子肝]蜈蚣と共に燒いて疥癬に摻る。[鼉甲]疥癬死肌には、炙いて酒に浸して服す。[魚鮓]蟲瘡に塗る [海鰕・鯽魚・鰻鱺]いづれも塗る [白花蛇]丸、散藥に入れる [烏蛇]丸、散藥に入れる。[蚺蛇]食ふ [白死蛇] 燒く [蝮蛇]燒く。[鯪鯉甲・黿甲・蟹膏・田螺・螺螄]「禽獸」[雞冠血・抱出雞子殼灰]いづれも疥癬に塗る [鴛鴦]炙いて貼る [鴿・猪肚]皂莢と共に煮て食ふ。[狐肉及び五臟]臛にして食ふ。[鼹鼠]煮て食ふ。[猪脂]芫花を煎じて用ふれば疥蟲を殺す。[牛蹄甲]驢屎と共に燒いて牛皮風癬に傅ける [驢屎] 燒いて濕癬に傅ける。[驢脂・羊脂・牛脂・野猪脂・猬脂・狨脂]いづれも塗る。[羚羊角・虎骨・兎骨・諸朽骨] いづれも洗ひ塗る。[鼬鼠]煎膏する。[狒肉] 炙いて貼る。いづれも疥癬に主效がある。[舊靴鞋底灰]輕粉、皂礬と共に癬に搽る。

熱瘡

「草部」[敗醬](三七)暴熱火瘡の赤氣。[葛根]小兒の熱瘡に傅ける。[葵花]小兒の蓐瘡。[剪春羅]火帶瘡に傅ける [積雪草]惡瘡、(三八)赤瘭。[仙人草・產死婦人塚上草]いづれも小兒の(三九)酢瘡の頭小さく面硬きを治す。[青黛・藍葉・酸漿子・龍

(三七)火瘡ハ湯火ノ爲ニ傷ラレ生ズル瘡。
(三八)赤熛瘡ハ熱毒ノ爲ニ發スル瘡。
(三九)酢瘡、詳ナラズ。

葵・野菊根・天花粉】滑石と共に用ゐる。【黄藥子】「菜穀」【絲瓜汁】辰砂を調へる。【生百合】いづれも天泡熱瘡に塗る。○花も同じ。【麥麩】熱瘡に塗る。【芋莔灰】黄水瘡に塗る。【赤小豆】洗ふ。【羅勒灰】「果木」【桃仁】いづれも黄爛瘡に傅ける。【茱萸】酒で煎じて(四〇)火爛瘡を拭ふ。【蓮房灰】井泥に和す。【荷花】いづれも(四一)天泡瘡に貼る。【枸杞葉】(四二)火赫毒瘡に塗る。【梓白皮】小兒の熱瘡。○葉は手足の火爛瘡に傅ける。【荊莖】(四三)灼瘡、發熱㷔瘡に效がある。【黄蘗】礬を入れる。【蕪荑】「金石」【滑石】いづれも熱瘡に塗る。【鐵漿】時氣で瘡を生じ、内熱するには之を飮む。【生鐵】小兒の標瘡には、燒いて水に淬して浴する。【蚯蚓泥】炒る。【無名異】いづれも天泡濕瘡に塗る。【銀硃】鹽梅に和して塗る。「鱗介」【靑魚膽・田螺】いづれも熱瘡黄水に塗る。【蜆肉】種種の小熱瘡の年久しく癒えぬには、多く之を食ふ。「禽獸」【鴨糞】雞子白と共に熱瘡に塗る。【羚羊角灰】身體、顔面に卒に赤斑或は(四四)標子の生ぜるは、治療せねば死に至る。これには雞子白で和して塗る。【羊膽】時行の熱標瘡には、酢に和して服す。【酪】身體、面部の熱瘡、肌瘡に塗る。【牛屎】燒いて小兒の爛瘡に傅ける。【亂髮】孩兒の熱瘡には、雞子黄と共に熬り乾し、液の出るを待つて取

(四〇)火爛瘡ハ小兒標瘡ノ一名。
(四一)天泡瘡ハ一名楊梅瘡。
(四二)火赫毒瘡ハ發熱ノ旺ナルモノヲ云フカ。此患急性ニシテ毒氣心腹ニ入ルノ恐アリト云フ。
(四三)火灼瘡ハ火爛瘡ニ同ジ。
(四四)標子ハ小兒風熱、毒氣ニ傷ハレ皮膚ニ標漿ヲ生ジ潰エテ瘡トナルモノ。

つて瘡に塗り、苦參をまぶす。

瘑瘡　【桃花】(四五)瘑瘡が手足の間に相對して茱萸子のやうに生じ、瘙痒し浸淫するものは、久しきに亘れば蟲を生じ、乾濕の二種があつて、狀態が蝸牛の如くになる。これには鹽と共に擣いて傅ける。【桃葉】醋と共に用ゐる。【臘餳・鯽魚】生で擣く。【蠶蛹・海豚魚・白犬血・猪髓・牛屎・荊瀝・雄黃・硫黃・水銀】胡粉と共に用ゐる。【燕窠土】いづれも瘑瘡及び癬に塗る。

手瘡　【熱湯】(四六)代指が指甲の旁に生じ、化膿して爪の脫けるには、初期には湯中に刺して浸す。或は熱湯に七回刺し冷湯で七回刺す。或は熱飯中に二七度刺す。いづれも良好である。【甘草・地楡・蜀椒・葱・鹽・芒消】いづれも湯に煎じて代指を漬ける。【硇砂】唾と麪とで和して用ゐる。【蜜蠟・梅核仁】醋に和す。【人尿】醋に和す。【魚酢】烏梅に和して杵く。【猪膏】白堊土に和す。【羊膽】いづれも代指に塗る。【藍汁】これを服すれば、よく十指に著く瘭疽で、その狀代指の如く、根深くして肌に至り、腫痛が中心に應へて、よく筋骨を爛すものに主效がある。もし毒が散じて臓に入れば死に至ることがある。それには百壯を灸し、或は烙して焦すことが肝

(四五)瘑瘡、一名蝸瘡。膿窠瘡ノ劇シキモノ。

(四六)代指、ユビヘウソ。

要だ。俗に天蛇毒と名ける。南方の人にこれを病むものが多い。【葵根】汁。【升麻】汁。【蕓薹】汁。【竹瀝・犀角】汁。【青黛】いづれも温服すれば瘭疽に主效がある。【鹽湯・醋湯・臘餳】いづれも瘭疽を浸す。【大麻仁】炒る。【麻油滓・黒大豆】生で用ゐる、【蔓菁子・酸模・無心草・車脂】梁上塵と共に用ゐる。【竈突土】梁上塵と共に用ゐる。【土蜂窠】乳香、醋と共に用ゐる【燕窠土】胎兒屎と共に用ゐる。【白狗屎】灰。【虎屎】灰【馬骨】灰【猪膽・牛耳垢・蜈蚣】焙じ研り、猪膽で調へる。【皂莢】灰。【田螺・鯽魚】亂髮、猪脂と共に熬膏する ○いづれも瘭疽に傅ける。【水蛇皮】天蛇毒を數日間裹めば、蛇のやうな形の蟲が出るものである。【海苔・麥醋糟】炒つて末にする いづれも手背腫痛に傅ける。【生薤】苦酒で煮て、手指が月の滿つる時と晦き時とに依つて赤色になるものに塗る。【羊脂】(四七)脾横爪赤に塗る。【猪胰・青琅玕・眞珠】いづれも手足の(四八)逆臚に塗る。【艾葉・牛屎】いづれも(四九)鵞掌風を熏ずる。【椒根・燒酒・灰湯】いづれも鵞掌風を洗ふ。【油胡桃】鵞掌瘡を擦る。【鼈甲】燒き、人に指を咬まれて爛れたるに傅ける。

足瘡 【綠礬】(五〇)甲疽が甲に從つて長大し、肉を侵し、或は甲を割り、湯水に傷み

(四七)脾横爪赤、詳ナラズ。
(四八)逆臚、一名臚脹。胸腹滿チ氣逆シテ以テ手足ニ及ビ皮膚皆腫レルヲ云フ。
(四九)鵞掌風ハ和名ミヅムシ。
(五〇)甲疽、和名ツマ

腫潰して水を出し、甚しきは趾趺に浸淫し、年を經るも癒えぬには、鹽湯で洗淨し、煆き研つて厚く傅ければ卽日汁が止り、十日にして痂が落ちる。〇婦人の甲疽肉突には、湯に煎じて洗ひ、同時に雄黃、硫黃、乳香、沒藥と共に摻る。【石膽】煆く。硇砂、礬と共に用ゐる。【乳香】石膽と共に用ゐる。【血竭・熏黃】蛇皮灰と共に用ゐる。【牡蠣】生で研つて服し、同時に傅ける。【虎骨】橘皮湯で洗つて後油で和して傅ける。【蛇皮】燒いて雄黃と共に傅ける。【黃芪】䕡茹、猪脂、苦酒と共に熬膏して塗る。【知母・麋銜・烏頭・鬼針・胡桃樹皮】灰。【馬齒莧】いづれも甲疽に傅ける。【黑木耳】肉刺に貼つて自ら腐らす。【萱草子根】汁。【血見愁・紅花】地骨皮と共に用ゐる。【沒石子】皂莢灰と共に醋で和す。【皂礬】煆く。【白礬】黃丹、朴消と共に用ゐる、【羊腦】新酒糟と共に用ゐる。【人虱】黑白各一箇を用ゐる。〇いづれも肉刺に塗る。【燖雞湯】雞眼を洗ふ。【茶末・荊芥葉】擣き或は燒灰にする。【蚌粉・滑石】石膏、礬と共に用ゐる。【花乳石】黃丹、水粉と共に用ゐる。【白礬】黃丹と共に用ゐる。【鵞掌皮灰】いづれも足趾指の股の濕爛瘡に傅ける。【糞桶箍灰】(五一)脚縫瘡で出血の止まぬに傅ける。【生麫・半夏】いづれも(五二)遠行足趼に塗れば一夜で平ぐ。【草烏

ハラメ、一名ツメキリトガメ。

(五一)脚縫瘡、知レズ。

(五二)遠行足趼ハ遠行ノ爲ニ足ノ傷ムコト。

頭】遠行足腫には、細辛、防風と共に鞋の内に摻る。【茄根】夏季に趾腫で歩行不能なるを洗ふ。【草鞋】遠行足腫には、尿に浸して濕し、燒き熱した甎の上へ置いて踏めば樂になる。【黃牛屎】足跟腫痛には、鹽を入れ炒つて覆ふ。【牛皮膠】足底木硬には、薑汁、南星末と共に調へて塗り烘る。【朴消】婦人の(五三)紮足には、杏仁、桑白皮、乳香と共に湯に煎じて浸せば耎になる。【黃蘗】猪膽に浸し晒して研末する。【白附子】末。【烟膠】油で調へる。【輕粉】いづれも傅ける。【銀硃】黃蠟と共に(五四)隔紙膏に作る。【蚯蚓糞】芒消と共に傅ける。【皂莢・烏桕根】末にして傅ける。○いづれも足上の風瘡濕痒に主效がある。【男子頭垢】婦人足上の(五五)裙風瘡には、桐油に和し隔紙膏にして貼る。【木鼈子】濕瘡足腫には、甘遂と共に猪腎に入れ、煮て食つて下す。【食鹽】手足心毒には、椒と共に末にし醋で塗る。

䯒瘡　即ち臁瘡である。【艾葉】烟に燒いて熏じ、惡水を出す。或は雄黃布と共に燒く。○或は荊葉、雞屎と共に坑中で烟に燒き、蟲を引いて出す。【翻白草】煎じて洗ふ。【蘿藦葉】椒、鹽で火煮して貼る。【野園荽】輕粉、桐油と共に貼る。【金星草】(五六)星を刮る。【覆盆葉】漿水で洗つて傅ける。【馬勃】葱湯で洗つて傅ける。【烏頭】黃蘗

(五三)紮足ハ纏足ノコトナラン。

(五四)隔紙膏ハ即功紙ノ如キモノカ。

(五五)裙風瘡、一名臁瘡。即ガンガサ。

(五六)星ヲ刮ルトハ、眼目翳ヲ取ルコト。

末と共に服す。【懸鉤子葉】地藨葉、食鹽と共に杵いて貼る。【桑耳】楮耳、牛屎、菰髮灰と共に傅ける。【橘葉】一日三回貼る。【冬靑葉】醋で煮て貼る。【黄蘗】輕粉、猪膽と共に貼る。【柿霜】柿蒂灰と共に傅ける。【桐油】日毎に塗る。○或は輕粉を入れ、或は髮を入れて熬化する。○(五七)脚肚風瘡の類の如きには、人乳と共に掃く。【地骨皮】甘草節、白蠟、黄丹、香油と共に熬膏して貼る。【左脚草鞋】灰に燒いて輕粉と共に傅ける。【陳棗核】燒く。【老杉節】燒く。【白楝葉】末。【白膠・血竭・白堊土】煆く。【蚯蚓泥】輕粉と共に用ゐる。【伏龍肝】黄蘗、黄丹、輕粉、赤石脂と共に貼る。【胡粉】炒つて桐油と共に用ゐる。【黄丹】黄蠟、香油と共に熬膏する。【密陀僧】香油と共に用ゐる。【銀硃】黄蠟と共に攤膏する。○古石灰、松香、麻油と共に化膏して貼る。【古石灰】雞子油で和して煆き、桐油で調へて夾紙膏にして貼る。【無名異】黄丹と共に用ゐる。【鹽中黑泥】煆く。【銅綠】黄蠟で化し紙を隔てて掩く。【艌船灰】煆いて輕粉と共に末にする。【蜜蠟】五枝湯で洗つて後千層に攤貼する。【生龜殼】灰に燒き、輕粉、麝香を入れて塗る。【雞子黄】黄蠟と共に煎じる。【雞內金】十日貼れば癒える。【羊屎】燒いて輕粉と共に末にする。【牛包衣】燒く。【虎骨】

(五七)脚肚瘡、一名肪瘡。

（五八）冷臁、詳ナラズ。

末にして傅ける。豫め韲汁で洗ふ。［馬頬骨］燒く。［鹿角］燒く。［人骨］燒く。［人頂骨］龍骨、硫黄と共に用ゐる。［頭垢］餠にして貼る。或は輕粉を入れる。○又枯礬、猪膽と共に塗る。［亂髮］桐油で炙き乾し、水龍骨と共に煆いて桐油で和す。［牛蹄甲灰］（五八）冷臁の口深きには、髮灰、輕粉、黃蠟、京墨と共に膏にして貼る。［百草霜］熱臁の口厚きには、輕粉、麻油と共に隔紙膏にして貼る。［豭猪屎］臁瘡が深く敗れ、あらゆる方の效なきに用ゐ、惡肉を蝕し去る。燒いて末にし瘡を塡めて效を取る。［白薗茹］雄、硫、礬と共に末にして傅け、惡肉を蝕し盡してから上記の諸方を用ゐる。［酸榴皮］煎じて洗ふ。［白藥煎］脚肚の細瘡が久しきに亘り脚を包むやうになり、水の出るには、唾で四圍に塗る。［馬齒莧］臁瘡の蟲の生ずるには、蜜で調へて傅ければ一夜で蟲が出る。○葱白、石灰と共に擣いて團にし、陰乾して研つて傅ける［泥鰍］牛羊肚と共に傅ける［生鯉魚・鱧魚腸・鯽魚］皂莢、穿山甲と共に末にする［鱓魚・鰕］糯飯と共に用ゐる［蝦蟇］亂髮、猪脂と共に煎じ化し、鹽を入れて塗る ○いづれも蟲を引出す［烏雞骨］三家の箒木、三家の甑單と共に燒く。瘡中の碎骨を導いて自ら出す［牛膝］久しうして漏瘡となつたるには酒で服す。

諸瘡（下）

頭瘡、（一）軟癤、（二）禿瘡、（三）鍊眉、（四）月蝕、（五）疳瘡、（六）䘌瘡、（七）陰疳、（八）陰瘡。

頭瘡　【菖蒲】生で塗る。【艾灰・蓼子】雞子白、蜜と共に用ゐる。【鏡面草】輕粉、麻油と共に用ゐる。【雞腸草】灰に燒き鹽と共に用ゐる。【蒺藜・苦參・木耳】蜜に和す。【小麥】燒いて傅ける。【紅麴】嚼んで塗る。【胡麻】嚼んで塗る。【糯飯】輕粉を入れる。【豆油・豆豉】薄汁で和泥し、包んで燒き研つて塗る。【烏梅】燒く。【杏仁】燒く。【桃梟】燒いて輕粉を入れる。【檳榔】粉に磨る。【黃蘗・枳實】燒いて研り醋と共に用ゐる【肥皂】燒いて輕粉、麻油と共に用ゐる。【木芙蓉】油で和す。【烏桕根】雄黃と共に用ゐる。【鬼齒】燒いて輕粉と共に用ゐる。【百草霜】輕粉と共に用ゐる。【竈下土】十字道上の土と等分を用ゐる。【燕窠土】麝香と共に用ゐる。【輕粉】葱汁で調へる。【白礬】半生半枯にし酒で調へる。【雄黃・皮鞋底】煮爛して塗る。或は灰に燒いて輕粉を入れる。【草鞋鼻灰・尿桶上垢】炒る。【蜂房灰】脂で和す。【蠶退紙灰】輕粉を入れる。【蛇退灰】同上。【象肉】灰。【牛屎】灰。【五倍子】白芷と共に

（一）軟癤ハ膿泡疹、和名ナツブシ、一名クサ。
（二）禿瘡ハ臺灣坊主。
（三）鍊眉、一名鍊銀瘡。一名面湮瘡。小兒病ノ一ニシテ母胎ヲ受クル時酸辣ノ邪物ヲ食シテ致ス所ナリト云フ。
（四）月蝕、下條ニ解出ヅ。
（五）疳瘡ハ潰瘍ノ一種。
（六）䘌瘡ハ膝膿瘡。
（七）陰疳ハ陰具ニ發スル潰瘍。
（八）陰瘡ハ陰具ニ發スル瘡。

用ゐる。【桑蛀屑】輕粉、麻油と共に用ゐる。【地龍】輕粉と共に用ゐる。【蜜蜂】研つて塗る。【鯽魚】附子を釀して炙り蒜に和して研る。或は髮灰を釀す。【鹹魚】油で煎じ滓を取る。【海螵蛸】輕粉、白膠香と共に用ゐる。【鼈甲】燒く。【甲香・甲煎・猪腎】輕粉、五倍子を摻つて燒き研る。【猪筋髓】輕粉を入れる。【熊脂】いづれも肥瘡、爛瘡に塗る。【古松薄皮】小兒の胎風頭瘡には、豉少量を入れ燒いて塗る。輕粉油で塗る。【楡白皮】晒し研り醋で和し綿に塗つて頭面瘡に貼け蟲を引く。【兎絲苗・何首烏・馬齒】いづれも煎湯で洗ふ。【桃花】頭上の肥瘡には、末を水で服す。

軟癤　【蒼耳葉】生薑と共に杵く。【胡麻】燒き焦して熱きまま嚼む。【蕓薹子】狗頭骨灰と共に醋で和す。【白梅】燒いて輕粉と共に用ゐる。【松香】蓖麻、銅青と共に用ゐる。【白膠香】蓖麻と共に少量の油を入れて熬膏する。【石灰】雞子白で服す。【茄】半個で覆合する。【五倍子】香油で熬める。【蜂房】燒いて巴豆と共に香油で熬る。【桑螵蛸】炙いて研り油で和す。【雞子殼】燒いて輕粉を入れる。【猪鬉】猫頭毛と共に燒き、鼠屎一粒を入れて研る。【線香・益母草】末。【葛蔓】灰。【大芋】研る。【鼠粘葉】貼る。【天仙蓮葉】杵く。【赤小豆】末。【糯飯】燒く。【桃奴】燒く。【肥皂】研

る。【山黄楊子】研る。【枯礬】油で和す。【木芙蓉】末。【白瓷】末。【水龍骨】燒く。【蚯蚓泥】油で和す。【蝦蟇】灰にする。【鯽魚尾】貼る。【雀屎】水で和す。【男子屎】臘猪脂で和す。

禿瘡　【皂莢・藍・苦瓠藤・鹽】いづれも煎湯で洗ふ。【火炭】水に淬す。【酸泔・馬肉】汁に煎じる。【馬屎】汁を絞る。【馬尿】いづれも頭を洗ふ。【羊屎】水で煎じて洗ひ、末にして塗る。【羊蹄根】擦る。【蒜】擦る。【桃灰汁】日毎に服し、幷に塗る。【桑椹汁】日毎に服すれば赤禿を治す。先づ桑灰汁で洗ふ。【香薷】汁で胡粉を和す。【貫衆】燒いて研る。或は白芷を入れる。【黄葵花】黄芩、大黄と共に末にする。【雞窠草】白頭翁花、猪脂と共に和す。【麥麪】豆豉、醋と共に用ゐる。【豆豉】屋塵と共に煨いて輕粉を入れる。【桃花】末。或は椹と共にする。【桃奴】黑豆と共に末にする。【杏仁】七箇を靑錢一箇と擣き爛し、燈油で調へて塗る。【甘蔗】燒いて桕油と共に用ゐる。【茱萸】炒り焦して輕粉と共に用ゐる。【楸葉】擣く。或は椿、桃葉を入れる。【樟腦】花椒、脂麻と共に塗る。豫め退猪湯で洗ふ。【松脂】黄蠟、麻油、石綠と共に熬膏して貼る。【燕窠土】蠮螉窠と共に用ゐる。【百草霜】輕粉を入れる。【烟膠】

礬と共に用ゐる。【膽礬】硃砂、猪脂と共に用ゐ、硇砂少量を入れる。【輕粉】黄蠟、鵞油と共に塗る。○烟膠油と共に調へる。○葱汁と共に用ゐる。【綠礬】苦楝子と共に燒いて傅ける。○輕粉、淡豉と共に傅ける。【慈竹蟲】水泉と共に研つて塗る。【鯽魚灰】醬汁で和す。或は雄黃末を入れる。【雄雞屎】醬汁、醋で和す。【羊髓】輕粉を入れる。【人髑髏】大豆と共に炒つて研る。【人屎】灰。【赤馬皮】灰。【馬蹄】灰。【馬骨】灰。【牛角】灰。【牛屎】灰。【猪屎】灰。【猪懸蹄】灰。【鼠屎】灰。【虎骨】末。【葶藶】末。【藜蘆】末。【莽草・芫花】末。【葦灰・大豆】炒り焦す。【大麻子】炒り焦す。【蕪菁葉】灰。【皂莢灰・慈竹節】灰。【苦竹葉】灰。【苦參】末。【蛇銜】末。【藎草】末。【蜀羊泉・銀硃・雄黃・雌黃・鵞掌皮】灰。【鴿屎】いづれも猪脂を用ゐ或は香油で調へて塗る。【胡荽子・土細辛・梁上塵】いづれも香油で調へて塗る。【山豆根】水で調へる。【馬齒莧】灰にし、或は熬膏する。【瓜蔕】熬膏する。【葱蜜・紫草】煎汁。【陳油滓・雞子黃】熬油する。【楡白皮】醋で和し蟲を引く。【蒴藋】竹筒で煨いて搗く。【木鱉子】油燒する。【猪膽】筒に香油を盛つて煨沸し、膽を入れて塗る。【猪肚・猪脬・羊脬・羊脯・熊腦・猬脂・牛脂・羊脂・白馬脂・小兒胎屎】いづれも

禿に搨して蟲を引く。【猫屎】灰に焼いて(九)鬼舐頭に傅ける。【絲瓜葉】汁を頭瘡の蛆を生ずるに塗る。

鍊眉　卽ち鍊銀癬である。【黃連】研末して油で調へ、盌の内に塗つて艾烟で燻じ、皂礬一粒、輕粉少量を入れて塗る。【兎絲子】炒つて研る。【小麥】黑焼にする。【巵子】炒つて研る。【百藥煎】生礬と共に末にする。【穿山甲】炙き焦して研り輕粉を入れる。【猪骨髓】輕粉、白膠香を入れる。【黑驢屎】灰。【坩鍋末】輕粉と共に用ゐる。○いづれも油で調へて塗る。【麥麩】黑く炒つて酒で調へる。

月蝕　耳、鼻、面部、及び下部の竅の側に月の滿ち缺けに隨つて發生し、久しうすれば瘡となるものである。小兒は多く兩耳に生ずる。【黃連】末にする。或は輕粉、蛇牀子を加へる。【靑黛】末にする。或は黃蘗を加へる。【薔薇根】地楡、輕粉と共に用ゐる。【土馬騣】井苔と共に用ゐる。【馬齒莧】黃蘗と共に用ゐる。【肥皂莢】灰にし、枯礬と共に用ゐる。【苦竹葉】灰にし猪脂と共に用ゐる。【綠豆粉】枯礬、黃丹と共に用ゐる。【東壁土】胡粉と共に用ゐる。【輕粉】棗で包んで煆く。【白礬】黃丹と共に用ゐる。【曾靑】雄黃、黃芩と共に用ゐる。【硫黃】斑蝥、藺茹と共に用ゐる。【蝦

(九)鬼舐頭ハ臺灣坊主。

蟇】灰にして猪膏と共に用ゐる。○硫黄、枯礬と共に用ゐる。【兎屎】蝦蟇の腹中に入れ、煨いて研る。【虎骨】生で研つて猪脂と共に用ゐる。【蛇蛻】灰。【鰾膠】灰。【龜甲】灰。【甲煎・雞屎白】炒る。【馬骨】灰。【敗鼓皮】灰。【角蒿】灰。【救月杖】灰。【救月鼓椎】灰。【月桂子・寡婦牀頭土・蚯蚓泥・胡粉・屠几垢・寒食泔】淀ます。【生白米】嚼む。【薤】醋で煮る。【雞子黄】油に炒る。【天鵞油】草烏、龍腦を調へる。【醍醐・羊脂・熊膽・猪膽・雞膽】いづれも耳面の月蝕、疳瘡に塗る。【醋】油と共に煎沸して傅け、二日に一回取換へる。【羚羊鬚】小兒の耳面の香瓣瘡には、白礬、荊芥、小棗と共に輕粉を入れて傅ける。【茱萸根】薔薇根、地楡と共に水で煎じて洗ふ。【地骨皮】洗ふ。並に摻る。【蠟燭】照して熱氣を及ばしめる。

疳瘡　【黄連】盧薈、蟾灰と共に用ゐる。○款冬花と共に用ゐる。【桔梗】茴香と共に灰に燒く。【黄礬】白礬、青黛と共に燒く。【馬懸蹄】灰にし、麝香を入れる。【藍澱】いづれも口鼻の急疳に塗る。【甘松】輕粉、盧薈と共に猪脂に摻つて急疳に貼る。【雄黄】銅綠と共に用ゐる。○葶藶と共に用ゐる。○天南星と共に用ゐる。○棗と共に燒く　○いづれも(二二)走馬急疳に塗る。【銅青】人中白と共に走馬疳に傅ける。○枯

礬と共に用ゐる。○蜘蛛、麝香と共にいづれも牙疳に傅ける。【砒霜】石綠と共に用ゐる。【綠礬】煆いて麝香を入れる。【五倍子】燒いて研る。○枯礬、青黛と共に用ゐる。【白藥煎】五倍、青黛と共に煆き銅青を入れる。【人中白】煆いて麝を入れる。○銅青、枯礬と共に用ゐる。○壁錢と共に燒く。○いづれも走馬疳に塗る。【鯽魚】砒を釀し、燒いて急疳に傅ける。○當歸を釀し、燒いて牙疳に摻る。○膽を小兒の鼻に滴らせば腦疳を治す。【雞內金】燒く。【魁蛤】灰。【貝子・海螺螄・猪衡髓・海桐皮・熊膽・牛骨】灰。【牛耳垢・輕粉・白礬・石鹼】いづれも口鼻の疳瘡に主效がある。【人屎】疳の口鼻を蝕するには、綿で末を裹んで貼り蟲を引く。【羅勒】輕粉、銅青と共に(一一)鼻䘌赤爛に塗る。○輕粉、密陀僧と共に用ゐれば牙疳に主效がある。【黃蘗】銅青と共に用ゐる。○大棗と共に煆いて研る。【柳華】燒いて麝を入れる。【橄欖】燒いて麝を入れる。【橡斗】鹽を入れて燒く。【大麻仁】嚼む。【蒲公英・雞腸草・蘩蔞・薔薇根・胡桐淚・樗根皮・青黛・杏仁油】いづれも口鼻の疳䘌に塗る。【飛廉】燒いて(一二)口疳、(一三)下疳に傅ける。【角蒿】灰を口齒疳に塗る。甚だ良好である。【鼠李根皮】薔薇根と共に熬膏して日每に含めば口疳を治す。萬に一も失なし。○疳が口

(一一)鼻䘌ハ鼻腔內膿瘡。

(一二)口疳ハ口疽ノ別名。一名口中粘膜壞疽。

(一三)下疳ハ疳瘡ニ同ジ。

（一四）風疳、一名脾疳。即チ腸及ビ腸間膜ノ瘰癧及ビ結核。

鼻及び脊骨を蝕するには、煮汁を灌ぐ。【烏畳泥】雄黄、貝母と共に用ゐる。○蓬砂と共に用ゐる。【鉛白霜】銅青と共に用ゐ、少量の礬を入れる【蓬砂・蠶繭】白礬と共に用ゐる。○礬、雞内金、鍋蓋垢と共に用ゐる。【蚺蛇膽】麝を入れる。【鼉甲】灰。いづれも口齒疳に塗る【蠶退紙】灰。麝香と共に牙疳に傅ける。○乳香、輕粉と共に一切の疳瘡に傅ける。【紫荊皮】鼻疳に塗る。【鹽】麪と共に煆く。【蘆薈】いづれも鼻疳に吹く【丁香】鼻に吹けば腦疳を殺す。汁を含めば齒疳を治す。【馬屎】汁。【驢屎】汁【馬尿・驢尿】いづれも口鼻疳蝕を漱ぐ。【銀屑・生地黄】いづれも水で煎じ、鹽を入れて口鼻疳蝕を洗ふ。【胡粉・葵根】灰。【蒸糯米氣水】いづれも身面疳瘡に塗る。【白殭蠶】炒り研つて蜜で和す。【晩蠶蛾】麝を入れる。いづれも（一四）風疳に傅ける。【地骨皮】撚にして年久しき疳瘻を絍すれば自然に肉が生ずる。【羊羔骨】灰にし、雄黄、麝香と共に疳瘡で漏となつた箇所を塡める。【羖羊脂】莨菪子と共に燒煙して疳孔を熏ずる。【馬夜眼】末にして孔中に納るれば永く病根を斷つ。また燒き研つて塞ぐ【羊膽】小兒の疳瘡には、醬汁に和して肛内へ灌ぎ入る。【沒食子】末にして肛内に吹く。口鼻疳に主效がある。【猪肝】牙疳の危急なるには、煮て赤芍藥を蘸して任意

に食ひ、後に平胃薬を服す。【羯羊肝】赤石脂と共に煮て食ふ。【猫頭灰】酒で服す。【升麻】煎汁。【艾葉】煎汁。【浮石】火で煆いて醋に淬し、金銀花末と共に服す。【鰻鱺】煮て食ふ。いづれも疳䘌に主效がある。

䘌瘡　【蕙草】狐惑で肛を食ひ、默臥して汗出るには、黄連、酸漿と共に煎じて服す。【赤小豆】生芽を末にする。【萹蓄】煮汁。【蛇莓】汁。【烏梅】炒つて丸にする　【桃仁】鹽醋で煎じて服す。【升麻・雲實】末。【馬鞭草】汁。【蒜】いづれも下部の䘌瘡に主效がある。【牡丹】下部に瘡を生じ、已に洞決せるには、研末して湯で服す。【生漆】一合に雞子を白ともに入れて呑めば蟲を吐下して出す。【猪膽】醋で熬つて飲めば、三口位で蟲が死んで癒える。また肛内へ灌入すれば、蟲などの不良物を利出する。○蜜と共に熬調し、挺にして納れる。【茱萸】下部の痔䘌には、坑を掘つた内で赤く燒き、それに酒を沃ぎ、萸を納れて坐り熏ずる。三回を過ぎてはならぬ。【桃葉】梅葉と共に蒸して熏ずる。【艾葉】燒煙して熏ずる。【食鹽】炒つて熨す。【槲皮】櫸皮と共に熬膏する。【桃白皮】煎膏する。【木鼈子】水に磨る。【大棗】水銀に和して研る。【荇葉】杵く。【楝皮・苦參・豨薟・青葙葉・樗白皮・牡荊子・皂莢】灰。【飛廉】灰。

【角蒿】灰。【青蛙】雞骨と共に灰に燒く。【蝮蛇】灰。【馬懸蹄】灰。【猪脂・犬脂・犬心】いづれも下部に納れて導く。【蜣蜋】牛屎、羊肉と共に杵いて納れ、蟲を引く。【雞內金・鯽魚骨・雄黃・雌黃・硫黃】いづれも傅ける。

陰疳 【甘草】槐枝、赤皮、葱、大豆と共に煎汁して一日三回づつ洗ふ。【槐皮】煎汁。【漿水・肥猪腸・溝中惡水】いづれも洗つてから藥を傅ける。【黃連】黃蘗と共に陰疳で斷れんとするに傅ける。【黃蘗】猪膽汁で炙いて研り輕粉を入れる。【苦參】蠟茶、蛤粉、密陀僧、猪脂と共に塗る。【蒲黃】水銀と共に用ゐる。【燈草】灰。輕粉、麝香と共に用ゐる。【胡黃連】孩兒茶と共に用ゐる。【綠豆粉】蟾灰、臙脂と共に用ゐる。【棗核】髮と共に燒く。【橄欖】燒く。【銀杏】嚼む。【胡麻】嚼む。【杏仁】油。【訶子】麝と共に用ゐる。【故網巾】灰。孩兒茶と共に用ゐる。【黃薔薇】葉を焙る。【飛廉】末。【地骨皮】末。【桃油繖紙】灰。【蚯蚓泥】豉と共に餠にする。○繁縷灰と共に餠にして貼る。【烏壘泥】輕粉、片腦と共に用ゐる。○或は眞珠を加へる。【輕粉】末。【爐甘石】煆いて孩兒茶と共に用ゐる。○黃丹、輕粉と共に用ゐる。【礬石】麻仁と共に末にする。【黃丹】枯礬と共に用ゐる。【密陀僧】靑黛、海粉、黃連と共に用

ゐる【五倍子】枯礬と共に用ゐる。○花椒茶と共に用ゐる。○鏡鏽と共に用ゐる【田螺】燒いて輕粉、腦、麝と共に用ゐる。【雞內金】燒く。○或は蠶繭、白礬、鍋蓋垢と共に燒く。【抱出雞子殼】燒く。或は輕粉を入れる。○外腎癰瘡には、黃連、輕粉と共に用ゐる。【蝦蟇】灰。兎屎と共に用ゐる。【駝絨】灰。黃丹と共に用ゐる。【人中白】枯礬、銅青と共に煆いて研り、蜜で炙いた黃蘗と冰片を入れる。【天靈蓋】煆く。○或は紅棗、紅褐を入れ共に燒く【頭垢】蠶繭の中へ納れて燒く。【鬼眼睛】燒く。【爛蜆殼】燒く。【貝子】燒く。【海螵蛸・龍骨・百藥煎・鯽魚膽・象皮】灰【猫骨】灰【虎牙】生【猬皮】灰【鼬鼠】灰。【髮灰・硫黃・赤石脂・銅青】いづれも下疳陰瘡に塗る。【鼠李根皮】薔薇根と共に煮汁し、膏にして塗る。【母猪屎】燒いて男女の下疳に傅ける。【室女血布】燒いて男子の陰瘡潰爛に傅ける。

陰瘡　【甘草】蜜で煎じて陰頭粟瘡に塗れば奇效がある。【青黛】地骨湯で洗ひ、款冬、麝と共に末にして塗る。【胡粉】杏仁或は白果と炒り研つて塗る。○陰瘡の浸淫には、枯礬と共に用ゐる。【白礬】麻仁、猪脂と共に用ゐる【黃礬】麝と共に用ゐる。【沒石子】燒く。【荷葉】灰。茶と共に用ゐる。【田螺】灰。輕粉と共に用ゐる。【鼈甲】

(一五)妬精瘡ハ疳瘡ノ一種。

(一六)玉莖瘡、下疳ニ同ジ。

(一)漆瘡、ウルシマケ。凍瘡、シモヤケ。

灰。【油髮】灰にして塗る。また米湯で服するもよし。【爛蜆殼】燒く。【蚌粉】燒く【鯉魚骨】燒く。【鰾膠】燒く。【海螵蛸・鯉膽・鯽膽】いづれも(一五)陰頭妬精瘡に塗る【蚯蚓泥】豉と共に用ゐる。○外腎に瘡を生ぜるには、綠豆粉と共に塗る。【蜂蜜】先づ黃蘗と水で洗つて塗る【猪脬】烟いて黃丹を入れる。【牛蹄甲】灰【馬骨】灰 いづれも(一六)玉莖瘡に傅ける。【木香】黃連、密陀僧と共に塗る【雞腸草】燒いて蚯蚓泥と共に用ゐる。○いづれも陰瘡壞爛に塗る。【黃蘗】黃連と共に水で煎じて洗ひ、研末して猪膽と共に搽る【松香】椒と共に油に燒く【五倍子】蠟茶、輕粉と共に用ゐる【紫梢花・孔公蘗・蒲黃】いづれも陰囊瘡の濕痒に塗る【黃連】胡粉と共に用ゐる。【大豆皮・狗骨】灰。【狗屎】灰【人屎】灰 ○いづれも小兒の陰瘡に傅ける【靑紙】貼る。【皂莢】燒いて熏ずる【麥麩】小兒の岐股に瘡を生じ、囊に連つて濕痒するに用ゐる。【蛇牀子】浮萍、荷葉と共に汁に煎じて洗ふ【狼牙草・越瓜・蜀椒・茱萸・五加皮・槐枝】いづれも水で煎じて洗ふ。

外傷諸瘡　(一)漆瘡。凍瘡。皴瘡。灸瘡。湯火瘡。

皸瘡、ヒビ、アカギレ。灸瘡、キウノイホセ。湯火瘡、ヤケド。

漆瘡　【蜀椒】洗ふ。○鼻孔に塗れば漆に近づいても瘡を生じない。【芥・莧・薄荷・山査・茱萸・荷葉・杉材・黄櫨・柳葉・鐵漿・新汲水】いづれも洗ふ。【韮】汁。【白菘】汁。【雞腸草】汁。【蜀羊泉】汁。【井中苔萍藍】汁。【貫衆】末。【苦芙】末。【秫米】末。【無名異】末。【白礬】湯で化す。【石蟹】磨汁。【芒消】化す。【蟹黄】化す。【猪脂・羊乳】いづれも塗る。【猪肉】内用としては肉を食ひ、外用としては嚼んで擦り、末にして塗る。

凍瘡　【甘草】水で煎じて洗ひ、三黄の末を塗る。【麥苗】煮汁。【茄根莖葉】煮汁。【馬屎】煮汁。【酒糟】水に浸す。【米醋・熱湯】いづれも浸して洗ふ。【薑汁】熬膏する。【桐油】髪を熬る。【鼠】猪脂で熬る。【附子】麪で調へる。【大黄】水で調へる。【黄蘗】乳で調へる。或は白蘞を加へる。【藕】蒸して杵く。【柏葉】炙いて研る。【松葉】炙いて研る。【橄欖】燒く。【老絲瓜】灰。【蟹殼】灰。【鵞掌黄皮】灰。【原蠶蛾・蜜蠟】化す。【鴨腦・雞腦・雀腦・蒿雀腦・豚腦】いづれも皸裂に塗抹する。【臘酒糟】猪脂、薑汁、鹽と共に炒り熱して摻る。【五倍子】牛髓と共に塗る。或は牛鼻繩灰と共に瘡を塡める。【銀杏】嚼む。【白及】嚼む。【鐵熱・獺足】灰。【白鵞膏・猪

(二)尸脚ハ脚踝(クロブシ)ノ拆裂スル病。

膏・牛髓・馬鬐膏・狼膏・鷓鴣膏】いづれも塗る。【牛皮膠】(二)尸脚裂に塗る。【雞屎】煮汁で尸脚裂を浸す。【蜀椒】煮て洗ふ。【含水藤】汁で洗ふ。【酒】猪膵を化し、或は膏にして洗ふ。

灸瘡 【黄芩】灸瘡の出血止まぬには、酒で二錢を服すれば止る。【白魚】灸瘡の發せぬには、膾にして食ふ。【青布】灰。【鱧腸】いづれも灸瘡に貼る。【薤白】猪脂で煎じて塗る。【蒸菜・茅花・瓦松・木芙蓉・楸根皮葉・車脂・海螵蛸・牛屎】灰。【兎皮及び毛】いづれも灸瘡の痩えぬに塗る。【鷹屎白】灸瘡の腫痛には、人精に和して塗る。【竈中黄土】煮汁で淋洗する。

湯火傷瘡 【柳葉】湯火の毒が腹に入つて熱悶するには、煎じて服し、皮を燒いて傅ける。【人尿】火燒で人事不省になり、發熱するには、一時に一二升を飲む。【生蘿蔔】烟熏の爲に死ぬ程苦むには、嚼んで汁を飲み、また嚼んで火瘡に塗る。【當歸】麻油、黄蠟で煎じる。【丹參】羊脂と共に用ゐる。【地黄】油蠟と共に熬膏する 【甘草】蜜で煎じる。【大黄】蜜で調へる。【蓖麻仁】蛤粉と共に用ゐる。【苦參】油で調へる 【白及】油で調へる。【黄葵花】油に浸す 【赤地利】痕を滅する。【蛇苺】痛を止める。【大麥】

黒く炒る　【小麥】黒く炒る。【麥麪】巵子と共に研る。【蕎麥】炒つて研る。【胡麻】生で研る　【綠豆粉・黍米】炒る。【粟米】炒る。【蒸餅】燒く。【白餳】燒く。【胡桃】燒く。【楊梅樹皮】燒いて油に和す。【烏柿木皮】灰。【楡白皮】嚼む。【黃櫨木・杉皮】燒く。【松皮】燒く。【柏根白皮】猪脂で煎じる。【柏葉】痛を止め、痕をなくす。【巵子】雞子白で調へる　【木芙蓉】油で調へる　【山茶花】油で調へる　【經霜桑葉】燒く　【木炭】磨汁　【甘鍋】輕粉を入れる。【餅鑪灰】油で調へる。【鐵鏽】桐油で調へる。【銀硃】菜油で調へる。【赤石脂】寒水石、大黃と共に水で調へる。【雲母石】羊髓と共に用ゐる　【金剛石】水に磨る。【赤土】水に磨る。【蚯蚓泥】菜油で調へる。【井底泥・烏古瓦・胡粉・靑琅玕・寒水石】燒く。【石膏・古石灰】炒る　甘蕉油・劉寄奴・蜀葵花・葵菜・白蘞・浮萍・景天・龍舌草・佛甲草・垣衣】灰。【石苔】灰。【井中苔藍・菰根・稻草】灰。【生薑・敗瓢】灰　【黃瓜】水に化す。【茄花・絲瓜葉】汁　【欅葉・槐實・荊莖】灰。【桐油・雞子黃】熬油する　【鰣魚】油で蒸して土中に七日間埋め、取出して用ゐる。【蜂蜜】薤白と共に杵く。【猪膽】黃蘗を調へる。【牡鼠】油で煎じる。【虎骨】炙いて研る。○屎中の骨も同じ。【猪毛】尾も共に灰に燒いて膠で和す。【鹿角

膠】化す【黄明膠・牛屎】濕し塗る。【烏氈】灰。【蜀水花・蠶蛾・海螵蛸・鯉魚・爛螺殻】燒く【蛤粉・人精】鷹屎白で和し、或は女人精を塗る。【人中白】いづれも塗る【食鹽】湯火傷のみは、先づ鹽を摻つて肉を護り、それから塗藥を用ゐる【海蛇】貼る。【梨】これを貼れば爛を免れる。【皂礬】水に化して洗へば疼きが止る。【醬汁・米醋】いづれも洗ひ、滓を傅ける。【薄荷】汁。【黄蘗】末。並に冬季火に向つて兩股に瘡を生じ、濕痒するに塗る。

金鏃竹木傷

內治【大黄】金瘡で煩痛するには、黄芩と共に丸にして服す【甘草・三七・當歸・芎藭・藁本・白芍藥・羌活・紅藍花・牛膝・欝金】いづれも酒で服すれば、血を活し、痛みを止める。【木通】煮汁を酒に釀す。【烏韭・垣衣】いづれも酒に漬けて服す。【紫葛・毎始王木・桑寄生・故綿・黑大豆】いづれも水で煎じて服す。【赤小豆】醋に浸し炒つて研る【炒鹽】酒で服すれば出血の多きに主效がある。【童尿】熱服すれば血を止める、【所出血】水に和して服す。【沒藥】末にし、膜を透したるには、乳香、

童尿と共に酒で煎じて服す。「牡丹皮」末にして服すれば立どころに(一)尿出血が止む。「葱汁」麻子と共に煮て服すれば敗血を吐す。「薤白」肌を生ずる。「蕉子」生で食へば口を合す。「五子實」食ふがよし。「檳榔」金瘡の惡心には、橘皮と共に末にして服す。「薔薇根」末にして日毎に服すれば肌を生じ、痛みを止める「金瘡小草」擣いて服すれば血を破り、肌を生ずる。「楊白皮」水で服し、並に塗れば痛みを止める。「棘刺花」金瘡(二)内漏。「雄黃」金瘡内漏には、童尿と共に五錢を服す。血が化して水となる。「花蕊石」童尿酒で服し、並に摻る。血が化して水となり、化膿せぬ。「杏仁」金瘡中風には、蒸して汁を絞つて服し、並に塗る。「大蒜」金瘡中風には、酒で煮て服し汗を取る。「米醋」金瘡の昏運。「琥珀」金瘡で悶絶するには、尿で一錢を服す。「蝙蝠」燒いて末にし、水で服すれば血水を下すものである。「女人中衣帶」金瘡が内を犯し出血止まぬには、五寸を燒灰して水で服す。「人勢」(三)蠶室に下る人の瘡口合はざるには、本勢を取つて性を存する程度に燒いて研末し、水で服す。「玳瑁」甲の煎汁を服す。或は血を刺して熱飲する。「龜筒」煎汁。「貝子」燒いて研り水で服す。「白鴨通」汁。「人屎」汁。「月經衣」燒灰して酒で服す。「褌襠汁」いづれも藥箭の

(一)金陵本、末服立尿出血トアレドモ、立ハ止ノ誤トセザレバ通ゼズ。

(二)内漏ハ内捷ニ通ズ、瘡ノ内部ニ膿ヲ生ズルヲ云フ。

(三)蠶室ハ宮刑ノ獄名。其ノ構造蠶室ノ如シ、故ニ名ク。地下ノ暗室ニシテ暖房ノ設アリ。

毒を解す。【牡鼠肉】箭鏃の肉に入れるには、焙じて研り酒で服すれば、瘡が痒くなり鏃が出る。【生地黄】毒箭の肉に入れるには、丸にして服すれば百日にして自ら出る。【猪腰子】毒箭傷には、酒に磨つて服し、竝に塗る。【半夏】金刄、箭鏃の骨肉に入れるには、白蘞と共に末にして服す。【王不留行・瞿麥】いづれも竹木の肉に入れるには、研末して水で服し、竝に傅ける。【酸棗仁】刺の肉中に入れるには、燒いて末にし水で服すれば立ろに出る。

外治　【石灰】金瘡の吐血に傅けるが痛みを鎮める神品である。○或は大黄と共に末にし、或は槐花と共に末にし、或は苧麻葉と共に擣いて貯へ、或は麻葉、青蒿と共に擣いて貯へ、或は韮汁と共に貯へ、或は晩蠶蛾と共に擣いて貯へ、或は牡鼠と共に擣いて貯へる。【松煙墨・釜底墨・百草霜・石灰・門臼灰・寒水石】瀝青と共に用ゐる。【雲母粉・香爐灰・無名異・石蠶・蜜栗子・烏疊泥・黄丹】或は白礬を入れる。【銅屑】或は松脂を入れる。【銅青・石青・石膽・慈石・硇砂・白礬・皂礬・蜜蠟・壁錢窠】貼る。【五倍子・紫鉚・白殭蠶・牡蠣】粉。【蜘蛛】網。【雞血】生雞を引裂いてそれを搨す。【牛血】傷重きには、牛腹を破つて傷所を納れる、良久しくして甦

るものである。【象皮】灰、創口を合す。【犬膽・狗頭骨・白馬通・馬屎中粟・天鵞絨】灰【人精・人屎灰】金瘡腸出に傅ける。【三七】内服し、外に傅ける。【白及】石膏と共に用ゐる。【苧葉・金星草】腫を消す。【紫參・白頭翁・地楡・白芷・白微・劉寄奴・馬蘭子・馬蘭・貫衆・夏枯草・澤蘭・大小薊・苦芙・狼牙草・艾葉・續斷・天南星・地菘・馬鞭草・漏盧・車前草・青黛・天雄・鹿蹄草・鉤吻・野葛葉・蛇銜・蜀葵花・白蘞・石韋・白藥子・地錦・蘿藦子・冬葵・王不留行・金瘡小草・葱白】炒つて封ずる。或は蜜梅と共に封じ、或は煎汁で洗ふ。【糯米】七七日浸し炒つて研る。【稗根・生麪・胡麻・乾梅】燒く【檳榔】黄連と共に末にする。【獨栗】嚼む。【烏柿・荷葉・藕節・乳香・沒藥・血竭・元慈勒・降眞香】或は五倍子を入れる。【檉乳・質汗・琥珀・紫檀香・地骨皮】血を止めるに神妙であるといふ。【刺桐花・桑白皮】灰に馬屎を和して塗る。また煮汁を服す。○金瘡出腸を縫ふ。【桑葉】苧葉、金櫻葉と共に用ゐ、軍中では一捻金と稱へる。【桑皮汁・桑柴】灰。【杉皮】灰。【椶皮】灰。【柳花・楮實・釣樟・緋帛】灰。【綿紙】灰。【撥火杖】灰。【敗船茹】灰。【甑帶】灰。【燈花】いづれも血を止め、痛みを鎭める。【楓香】金瘡筋斷に傅け

る【旋花根】金瘡筋斷には、杵汁を滴入し、幷に貼り、日に三回づつ取換へれば半月にして癒える。【蘇方木】刀斧で指を傷め、或は斷ちたる者には、末を傅けて裹めば數日にして故の通りになる。【雞子白皮】誤つて舌を割り斷ちたるには、先づこれで養する。【牛蒡根葉】これを傅ければ永く風を畏れない。【鐵漿】金瘡に塗れば風、水が入らない。【朱鼈】これを佩びれば刄劍の傷を受けない。【女人褌襠】炙いて熨すれば血が止る。【熱湯】故帛を湍して搨す。【冷水】之に浸せば血が止る【人氣】吹きかければ血を斷つ。【栝樓根】箭鏃、針、刺が肉に入りたるには、搗いて塗り一日三回易へる【莨菪根】箭頭の出でぬには、丸にして臍に貼る　惡刺傷の人には、煮汁を滴らす【巴豆】箭鏃が肉に入るには、蜣蜋と共に塗つて拔き出す。【雄黄・鹽藥・山獺屎】いづれも藥箭毒に傅ける【薔薇根・蓖麻子・雙杏仁・獨栗子・黑豆】いづれも嚼んで鏃、刄、針、刺の肉に入つて出でざるに塗る。【桑灰汁・鱔蛇膽・羊屎】猪脂と共に用ゐる【車脂・石油】いづれも針、箭、竹刺の肉に入りたるに塗る【松脂】針の肉中に入りたるに傅け、五日間裹む。根が出て痛痒がない。【鼠腦】針刺、竹木の肉に入りたるには、搗いて塗れば出る。箭鏑、針刄の咽喉、胸

膈諸處に在るには、肝と共に擣いて塗る。【象牙】諸鐵、及び雜骨、魚刺の肉に入りたるには、刮つて末にし厚く傅ければ、その刺は自ら軟になり、箭入したものが自ら出る【人爪】針の折れ、及び竹木刺の肉に入りたるには、刮つて末にし、酸棗仁と共に塗れば次の日に出る。【齒垢】竹木の肉に入りたるに塗れば爛れない。或は黑虱一箇を加へる。【牛膝・白茅根・白梅】いづれも嚼む。【鐵華粉・晩蠶蛾・蠮螉・馬肉蛆・魚鰾】いづれも擣く。【鴉】炙いて研り醋で調へる。【雞毛】灰。【烏雄雞肉】擣く。【陳熏肉】切片にする。【鹿角・鹿腦・狐唇・狐屎】いづれも竹木刺の肉に入りたるに塗る。【人尿】刺の肉に入りたるには、温めて漬ける。

跌仆折傷(一)　(二)腸出。杖瘡。

內治、血を活す【大黃】當歸と共に煎じて服す。或は桃仁と共に用ゐる。【玄胡索】豆淋酒で服す。【劉寄奴】玄胡索、骨碎補と共に水で煎じて服す。【土當歸】酒で煎じて服す。或は葱白、荊芥と共に水で煎じて服す。【三七】酒に磨る。【虎杖】酒で煎じる。【蒲黃】酒で服す。【黃葵子】酒で服す。【五爪龍】汁を童尿酒に和して服す。

(一)跌ハ蹶ニ同ジ。ツマヅクコト。
(二)腸出ハ金瘡ニテ腸ノ露出スルコト。杖瘡ハ杖デ打タレタル瘡傷。

【婆婆鍼袋兒】水に擂つて服し、幷に傅ける。卽ち羅摩の別名である。【何首烏】黒豆、皂角等と共に丸にして服すれば損を治し、筋を寬にする。【黒大豆】煮汁を頻に飲む。【豆豉】水で煎じる。【寒食蒸餅】酒で服す。【紅麴】酒で服す。【生薑】汁を香油と共に酒に入れる。【補骨脂】茴香、辣桂末と共に酒で服す。【乾藕】茴香と共に末にして日毎に服す。【荷葉】燒いて研り、童尿で服すれば血を利するに甚だ效がある。【白萵苣子】乳香、烏梅、白朮と共に服すれば痛みを止める。【胡桃】酒に擂る。【杏枝・松節・白楊皮】いづれも酒で煎じて服す【甜瓜葉・琥珀・沒藥・桂】いづれも酒で調へて服す。【茯苓木皮】酒に浸す。【夜合樹皮】酒に擂つて服し、幷に封ずれば、血を和し腫を消す。【松楊】惡血を破り、好血を養ふ。【當歸・蓬莪茂・三稜・赤芍藥・牡丹皮・蘇方木・馬蘭・澤蘭・敗蒲】灰。【童尿】酒で服す。瘀血の有無に拘らず、陳きを推し新しさを致すこと他藥に勝る。【白馬蹄】燒いて研り酒で服すれば、血を化して水にする。【羊角】沙糖水で炒り焦して酒で服すれば痛みを止める【鹿角】惡血骨痛には、一日三回づつ酒で服す。【黃明膠】冬瓜皮と共に炒り焦して酒で服し汗を取る。また多年の損痛を治す【雄雞血】酒に和して熱飲し、醉ふ程度に達すれば痛が立ろに止

る【鴉右翅】瘀血が心を攻めて顔色青く呼吸の短きには、七箇を燒いて研り酒で服す　血を吐いて癒えるものである【鮑魚】煎じて服す　損傷の瘀血が四肢に在つて收らぬものに主效がある【水蛭】酒で服すれば血を行らす　或は大黃、牽牛を加へて通じを付ける【麻油】酒に入れて服し、燒き熱した地上に臥す　覺むれば瘀、腫倶に消するものである【黃茄種】青腫を消するには、焙じ末にして酒で二錢を服すれば一夜にして平ぐ。○重陽に採收して水に化して服すれば惡血を散ずる【猪肉】傷損の血が胸膈に在るために食物を欲せぬには、生で切つて一錢を温水で吞下せば食欲が付く。

内治、骨を接ぐ【骨碎補】研汁を酒に和して服し、滓を傅ける。或は研つて黃米粥に入れて裹む【地黃】臂を折つて筋を斷ち骨を損じたるには、研汁を酒に和して服すれば一个月にして連續する。而る後は炒熱して貼る【白及】酒で二錢を服す　效力は自然銅に劣らぬ。【黃麻灰】髮灰、乳香と共に酒で服す。【接骨木】煎じて服す。【賣子木】血中の留飲を去り、絶てるを續ぎ、髓を補ふ。【自然銅】血を散じ、痛みを止める。乃ち接骨の要藥である。【銅屑】酒で服す。【古文錢】眞珠、甜瓜子と共に末にし

（一）閃肭ハ脂肪過多。此處ハ閃挫、即チ關節捻挫ノ誤ナルコト疑ナシ。脱臼、ホネガヌケルコト。

て酒で服す。【銅鈷鏴】水飛して酒で二錢を服す。再服以上用ゐてはならぬ。【生鐵】酒で煎じて服すれば血を散ず。【鐵漿粉】（一）閃肭脱臼には、黍米、葱白と共に炒り焦して酒で服し、水、醋で調へて傅ける。【無名異】酒で服すれば血を散ず。乳、沒を入るれば骨を接ぐ【烏古瓦】煆いて研り酒で服す。接骨の神方である。【胡粉】當歸、接茂と共に末にして蘇木湯で服す【䗪蟲】接骨の神藥である酒で擂つて服す或は焙じて性を存し酒で三錢を服す。或は自然銅末を入れる○一には乳、沒、龍骨、自然銅各等分に麝香少量を入れ、毎服三分に乾䗪末一箇を入れて酒で服するも杖祕方の代用になる。○また土鼈を炒り乾し、巴豆霜、半夏と各等分を研末し、一二分づつ黄酒で服すれば接骨の效神の如くである。【龜血】酒で服し、肉を擣いて封ずる。【蟹】酒に擂つて續けざまに數盌を飲み、滓で封ずれば半日にして骨内に聲があつて接がる。乾けるものは燒いて研り酒で服す。【鴉骨】燒いて研り、煆いた古錢と等分を一錢づつ酒で服すれば接骨に極めて效がある【鵰骨】燒いて末にし酒で二錢を服す病の上下に隨つて用ゐる【鷹骨】同上。【人骨】乳香、紅絹灰と共に酒で服す。【少婦髮】一團に乳香一塊を包んで燒き、酒で一字を服するも妙である。

(四)寒食ハ清明前二日ニアリ、清明ハ陽曆四月上旬、小滿ハ陽曆五月下旬。
(五)五木ハ桑、槐、桃、楮、柳。
(六)閃出骨竅ハ脫臼。

外治 瘀を散し骨を接く 【大黄】薑汁で調へて塗れば一夜に色を變ず。【鳳仙花葉】擣いて頻に塗れば一夜にして平ぐ。【半夏】水で調へて塗れば一夜にして消する。【附子】猪脂で煎じ醋で塗る。【糯米】(四)寒食の日から小滿の日まで浸し晒して研る。もしくは水で調へて塗る。【白楊皮】血瀝が骨肉の間に在つて痛み忍び難きには、(五)五木煎湯に雜へて服す。【黄土】瘀血の凝痛で死ぬ程苦むには、蒸熱し布に裹んで更互に熨す。死せるものもまた活きる。【白礬】湯に泡けて熨すれば痛みが止る。○(六)閃出骨竅には、綠豆、蠶沙と共に炒つて傅ける。【烏雞】一切の折傷、獸が胸腹に觸れたるには、毛のまま擣爛し、醋で和し布を隔てて搨す。寒けがして吐かんとするを待つて取除き、更に再びする。【牛馬血】折傷で垂死なるには、牛或は馬の腹を破つてその中に納れ、熱血の中に浸せば甦る。【苧葉】石灰に和し擣いて貯へる。【地黄】炒熱してどろどろに杵く。【燈心】嚼む。【牛膝・旋花根・紫蘇・三七・莨菪子・蛇牀・栝樓根・白蘞・土瓜根・茜根・地錦・骨碎補・水萍・威靈仙・何首烏・稻穰・黍米】燒く。【麥麩】醋で炒る。【麥麪】水で和す。いづれも服す。【稗草・綠豆粉】紫に炒る。【豆黄・豆腐】貼つて頻に取換へる。【酒糟・葱白】煨く。【蘿蔔・生薑】葱白、麪と共

（七）罯ハ罨ニ同ジ。

に炒る。○汁と酒で麪を調へる。【桃仁・李核仁・肥皂】醋で調へる。【鹽楊梅】核と共に研る。【桑白皮】煎膏する。【降眞香・騏驎竭・水桐皮・乳香・沒藥・落雁木・質汗・桑葉・巵子】麪と共に擣く。【蜜栗子・石靑・故緋・炊單布・蛤蚧・弔脂・海螵蛸・鰾膠】水で煮る。【鼈肉】生で擣く。【龜肉・攝龜】いづれも生で擣く。【熊肉】貼る。【羊脂・野駝脂・犛牛酥・牛髓・猪髓】いづれも摩す。【黄牛屎】炒つて(七)罯す。【白馬屎】炒つて罯す。【諸朽骨】唾で磨つて塗る【猪肉】炙いて貼る【牛肉】炙いて貼る。【烏氈】鹽醋で煮熱して裹む。いづれも瘀血靑腫を消す。【紫荆皮】跟を傷め靑腫せるには、童尿に浸して研り、薑、芐汁に和して塗る。【釜底墨】手搔瘡腫に塗る。【母猪蹄】煮て傷撻諸敗瘡を洗ふ。【栗子】筋骨が斷碎し、瘀血で腫痛するには、生で嚼んで塗れば效がある。【蟹肉】筋骨折傷で斷絶せるには、黄と共に擣泥し微に納れて罯すれば筋が連る。【五靈脂】骨折腫痛には、白及、乳、沒と共に油で調へて塗る。○接骨には、茴香と共に用ゐ、先づ乳香を傅け、次に小米粥を塗つてから以上の藥を附け、三五日間帛で裹み木で夾む。【狗頭骨】接骨には、燒いて研り熱醋で調へて塗る。【牛蹄甲】接骨には、乳、沒と共に燒いて研り、黄米糊で和して傅ける。

【芸薹子】黄米、龍骨と共に用ゐて骨を接ぐ。【鞋底灰】麪と共に和す。

腸出　【熱雞血】金瘡腸出には、乾人屎末を抹し、桑白皮で縫合し、この血を塗る。【慈石】金瘡腸出には、納入して滑石末と共に米飲で一日に二錢づつ服す。【人參】脇腹腸出には、急に油を抹して内に入れ、人參、枸杞汁を淋ぎ、羊腎粥を喫すれば十日にして癒える。【小麥】金瘡腸出には、煮汁を面に噀く。【大麥】煮汁で洗ひ、貼つて推入れ、但だ米糜のみを飲む【冷水】墜損腸出には、その身體、面部へ噴けば入る。

杖瘡　内治　【童尿】杖し畢ると直に酒に和して服すれば、血の攻心を免れる。【三七】酒で三錢を服すれば血が心に沖しない。それから嚼んで塗る。【紅麴】擂つて酒で服す。【大黄】酒で煎じて服し、下せば瘀血を去る。外は薑汁或は童尿で調へて塗れば一夜にして黒さは紫になり、二夜にして紫が白くなる。【無名異】時折服用すれば、杖に遭つても甚しく傷まぬ。【䗪蟲】方は折傷の條下にある。【白蠟】酒で一兩を服す。【人骨】燒いて末にし酒で服す。いづれも杖せられても痛まぬ。外治　【半夏】未だ破れぬには、水で調へて塗れば一夜にして血が散ずる。【鳳仙花葉】已

に破れたるには、頻に塗れば一夜にして血が散ずる。冬は乾けるものを用ゐる。【葱白】炒つて署す。【酒糟】紙を隔てて署す。【豆腐】熱して貼る。色淡くなるを程度とする。【蘿蔔】擣いて貼る。【羊肉】熱して貼る。【猪肉】熱して貼る。【芙蓉】皂角、雞子白と共に用ゐる。【綠豆粉】雞子白と共に用ゐる。【黃土】雞子、童尿と共に住めずに試みる。【石灰】油で調へ、或は猪血に和して三回焼いて研る。【滑石】大黃、赤石脂と共に用ゐる。【水粉】水銀、赤石脂と共に用ゐる。【雄黃】密陀僧と共に、或は無名異と共に用ゐる。【乳香】油で煎じる。或は沒藥、米粉を入れる。【牛蒡根葉】これを塗れば永く風を畏れない。【大豆黃】末。【黍米】炒り焦す。【馬齒莧】杵く。【赤龍皮】燒く。【五倍子】醋で炒る。【血竭・密陀僧】香油で熬膏する。【松香・黃蠟】いづれも熬膏する。【雞子黃】油に熬る。【猪膽】汁で掃ふ。【未毛鼠】桑椹と共に油に浸して掃ふ。【黃瓜】六月六日に餅に収め、水に浸して掃ふ。【猪蹄湯】洗ふ。【羊皮】これに臥せば青腫を消す。

本草綱目第四卷中 終

本草綱目主治　第四卷　下

五絶　縊死。溺死。壓死。凍死。驚死。

縊死　【半夏】五絶死は心頭さへ温なるものならば、末を鼻に吹けば皆活きる。【皂莢末】五絶死者の耳鼻に吹く。【梁上塵】五絶死には耳鼻に吹く。【葱心】五絶死にはその耳鼻を刺す。血が出れば癒える。【藍汁】縊死には之を灌ぐ。【雞冠血】縊死せる者は、徐徐に抱き下して繩を解く。切り斷つてはならぬ。脚を安にして臥さしめ、強くその髮を挽き、一人はその胸脇を摩し、一人はその臂及び足脛を屈し、その氣の回るを待ち、血を刺して口中に滴入すれば活きる。或は桂湯もまたよし。【雞屎白】縊死で心下の猶ほ温なる者には、酒で棗ほどの量を服ませる。

溺死　【皂莢】耳、鼻に吹き、また綿で包んで下部に納入すれば水を出して活きる。○梁上塵もまたよし。【食鹽】溺死者を大倚子に仰臥させて後脚を高くし、鹽を臍中に擦つて水の流れ出るを待つ。心頭さへ温なるものならば皆活きる。【石灰】裹んで下部に入れ水を出す。【竈灰】これに埋めて〻七孔だけ露出して置く。白沙でもよし。【老薑】溺死人を横に牛の背上に載せ、傍から扶けながら牛を牽いて徐行し、水を

〻七孔は兩眼、兩耳孔、兩鼻孔、口孔。

出して後薑を牙に擦る。

壓死　【麻油】墻壁などで壓死し、心頭のなほ溫なる者は、抱へて坐らせ、強くその髮を提き上げ、半夏を鼻に吹いて嚔をさせ、油を薑汁に和して灌ぐ。その他は折傷と同樣である。【豆豉】跌死には煎じて服ませる。【童尿】熱して灌ぐ。

凍死　【竈灰】冬季の凍死者で多少氣息ある者には、炒つた灰を包んで心上を熨し、冷えれば易へ、氣息の囘復を待つて少量の酒粥を與へる。火に近けると卽死するから近けてはならぬ。

驚死　【醇酒】驚怖の爲に死んだものを俗に嚇死といふ。それには之れを灌ぐ。

諸蟲傷

（一）蛇虺、蜈蚣、（二）蜂蠆、蜘蛛、（三）蠷螋、（四）蠶戴、蚯蚓、蝸牛、（五）射工、沙虱、蛭、螻、蟻、蠅、（六）辟諸蟲。

蛇虺の傷　【内治】【貝母】酒で服す。醉ふに至れば毒水が自ら出る。【絲瓜根】生で酒に擂つて飲む。醉へば立ろに癒える【白芷】水で半兩を服し、傷所の兩邊を括れ

（一）虺ハ毒蛇。
（二）蜂蠆、ハチトサソリ。
（三）蠷螋、ハサミムシ。
（四）蠶戴、イモムシ、ケムシノ總稱。
（五）射工ハ支那江南山澗水中ニ住ム毒蟲。沙蝨ハ惡蟲ノ類。
（六）辟諸蟲ハ諸蟲ヲ辟除スル方法。

ば水が出て消える。或は雄黄、麝香、細辛と共に酒で服す。【甘草】毒蛇に傷けられて目が昏み、口噤し、毒氣の腹に入りたるには、白礬と共に末にして冷水で二錢を服す。【蒜】一升を乳二升で煮て食ひ、童尿を煮熱して漬ける。【麻油・米醋】いづれも急に二盌を飲めば毒が散ずる。【兎葵・薺苨・長松・惡實・辟虺雷・草犀・白兎藿・黄藥子・蘘荷・地楡・鬼臼・決明葉・蛇苺・冬葵根葉・海根・莧菜】いづれも蛇蟲、虺蝮の傷に主效がある。擣汁、或は末にして服す。【五葉藤・茴香・半邊蓮・櫻桃葉・小青・大青・水蘋】いづれも擣汁を服し、滓を傅ける。【絡石】汁を服し、幷に洗ふ【紫荊皮】煎じて服し、幷に洗ふ。【木香・青黛】雄黄と共に用ゐる。【鬼針・茱萸】いづれも水で服し、外部に塗る。【水蘇・小薊・苧根葉・金鳳花葉・蒼耳】いづれも酒で服し、外部に塗る。【重臺】酒で服し、外部には續隨子と共に塗る。【磨刀水・鐵漿・雄黄・犀角】いづれも服すれば毒が内攻せぬ。【五靈脂】雄黄と共に酒で鼻に灌ぎ、外傷に塗る。

外治

【艾葉】蒜を隔てて灸する。【蜀椒】塗る。○蛇が人の口に入りたるには、尾を破つて椒末を入るれば自ら出る。【母猪尾血】蛇が人の七孔に入りたるには、割いて血を滴らす。【蛇含草・蛇繭草・馬蘭草・天名精・續

隨子・蜈蚣草・鹿蹄草・益母草・菩薩草・天南星・預知子・魚腥草・扁豆葉・慈姑葉・山慈姑・山豆根・獨行根・赤薜荔・千里及・灰藋葉・烏桕皮・楮木皮・旱菫汁・水芹・馬蘭・狼牙・蕁麻・山漆・薄荷・紫蘇・葛根・通草・葎草・蚤休・地菘・豨薟・海芋・荏葉・水蓍】極效がある。【酸漿・醋草・芋葉・藜葉・甜藤・蕨根・白苣・萵苣・菰根・乾薑・薑汁・韮根】汁。【獨蒜・薤白・酒糟・巴豆・榧子・桑汁・楮汁・楮葉】麻葉と共に用ゐる。【桂心】栝樓と共に末にする。【白礬】或は雄黃を入れる。【丹砂・胡粉・食鹽・鹽藥・鐵精粉・蚯蚓泥・簷溜下泥・蜜・蜘蛛・甲煎・牛酥】鹽を入れる。【生蠶蛾】擣く。【蝦蟇】擣く。【五靈脂・猪齒灰・猪耳垢・牛耳垢・耳塞】頭垢、井泥、蚯蚓泥と共に用ゐる。【人齒垢・梳垢・鼠屎・鼬鼠屎・食蛇鼠屎・雙頭鹿腹中屎】いづれも一切の蛇傷に塗る。【秦皮】洗ひ、并に傅ける。【人屎】これで洗つて口津を抹する。○蛇が足に卷付きたるには、それに屎し、或は溫湯を沃ぐ。【男子陰毛】蛇傷には、口に含み汁を咽む。【雞子】蛇傷を合す。【鴆喙】刮り末にして傅ける。○佩ぶれば蛇虺を辟ける。【麝香】傅ける。【蜈蚣】燒いて傅ける。【雄黃】乾薑と共に傅ける。いづれも佩ぶれば蛇虺を辟ける。

蜈蚣の傷【蝸牛・蚰蜒・烏雞屎・五靈脂・獨蒜・蕓薹子】油【蛇含・香附】嚼む。【莧菜・馬齒莧・菩薩草・人參・蚯蚓泥・胡椒・茱萸・楝葉】汁【生薑】汁で蚌粉を調へる。【桑根汁・雄黃・井底泥・食鹽・生鐵】醋で磨る。【耳塞・頭垢】苦參と共に用ゐる【地上土・尿坑泥・城東腐木】汁に漬ける。○いづれも塗る。【雞冠血】塗る ○蜈蚣の中毒で舌が脹り口から出るには、口一ぱいに含んで汁を咽む。【雞子】之を合す。【蜘蛛】咬まれた個所を咂はす。【麻鞋底】炙いて熨す。【亂髮】燒いて熏ずる。【燈火】照熏する。【牛血・豬血】いづれも誤つて蜈蚣を呑みたるに主效がある。これを飽くまで飲めば吐き出すものである。

蜂蠆の傷 内治 【貝母】酒で服す 外治 【雄黃】醋で磨る。【菩薩石・梳垢・麝香・牛酥・牛角】灰【牛屎】灰。【蟹殼】燒く。【甲煎・楮汁・莧汁・茱萸・蛇含・葵花・灰藋・人參】嚼む。【白兎藿・五葉藤・尿坑泥・簷溜下泥】いづれも蜂傷に塗る。【小薊・惡實・葵葉・鬼針】いづれも蠍傷に塗り、汁を取つて服す。【芋葉・苦苣・冬瓜葉・馬齒莧・胡麻油・韭汁・乾薑・薄荷・青蒿・大麻葉・苦李仁・楝葉汁・藍汁・酒糟・藜葉・蜀椒・食茱萸・木槿葉・齒中殘】飯【半夏・附子】醋で磨

る。【黄丹・硇砂・土檳榔・地上土・白礬】南星と共に用ゐる。【丹砂・食鹽・蝸牛・蛞蝓・五靈脂・海螵蛸・驢耳垢・守宮】蠍傷に塗る。【蜘蛛】蝙蝠傷。【熱酒】洗ふ。【赤龍浴水・冷水・溫湯】いづれも浸して洗ふ。【葱白】隔てて灸する。【槐枝】炮いて熨す。【皂莢】炙いて熨す。【油梳】炙いて熨す。【雞子・木盌】いづれも之を合せる。【撥火杖】蠍傷には、井戸の上に橫に置けば自ら安になる。

蜘蛛の傷　内治　【醇酒】山中の草蜘蛛の毒で全身に絲の生じたるには、醉ふまで飲み、また洗ふ。【貝母】酒で服す。【蒼耳葉】酒で煎じる。【小薊】糖に煎じて飲み、幷に傅ける。【秦皮】煎じて服す。【鬼針】汁。【藍青】汁。【羊乳・牛乳】いづれも飲み、また傅ける。　外治　【芋葉・葱・胡麻油・山豆根・通草・豨薟・蘞葉・灰藋・合歡皮・舊簟灰・蔓菁汁・桑汁・雄黃・鼠負・蚯蚓・土蜂窠・赤翅蜂・驢尿泥・雞冠血・麝香・猴屎・頭垢】いづれも塗る。【驢屎】汁。【人屎】汁。いづれも浸して洗ふ。【白礬】壁鏡毒に傅ける。

蠼螋の傷　内治　【醇酒】形狀の小さい蜈蚣か蚰蜒のやうで八足あり、嘴に二本の鬚のある蠼螋は、よく人を夾めば瘡となり、またよく人影に尿すれば櫐櫐たる

瘡となる。人を螯せば爲に惡寒、發熱することもある。これには酒を飲んで醉へばよい。【外治】【米醋】豆豉・茶葉・梨葉・雞腸草・魚腥草・馬鞭草・大黄・豨薟・蒺藜・巴豆・敗醬草・故蓑衣】灰。【舊簟灰・鹿角】汁。【犀角】汁。【羊鬚】灰。【麝香・烏雞翅】灰。【燕窠土・地上土・食鹽・胡粉・雄黄・丹砂】いづれも塗る。【槐白皮】醋に浸して洗ふ。【雞子】合はす。

蠶䖧傷 【苦苣・萵苣・赤薜荔・苧根・預知子・椰桐皮・百部・灰藋・田父・麝香】いづれも蠶咬に塗る。【紫荊皮】蠶咬を洗ふ。【蠶繭草】諸蟲の蠶咬の如く毒の腹に入りたるには煮て飲む。【草犀】汁を服すれば惡䖧の毒を解す。【豉・茖葱・馬齒莧・食茱萸・松脂・青黛・韮汁・燕窠土・雄黄・牛耳垢・狐屎】いづれも惡䖧蟲傷に傅ける。【丁香】桑蝎傷に傅ける。【麻油燈】蝎蟲傷を熏ずる。【蛇退】惡蟲傷を洗ふ。【蒜】麪と共に用ゐる。【胡瓜根・灰藋葉・馬鞭草・乾薑・葱汁・韮汁・茶葉・杏仁・巴豆・桑灰・雄黄・丹砂・蟻垤・蜜蠟・頭垢】いづれも(七)狐尿䖧瘡に傅ける。【烏雞】狐尿瘡を搨す。【莨烟】狐尿瘡を熏ずる。【人尿・驢尿・白馬尿】いづれも狐尿刺瘡を浸す。

(七)狐尿ハ狐尿刺瘡。狐ノ尿ニ刺サレテ生ズル瘡ナリト云フ。

蚯蚓、蝸牛の傷　【石灰・鹽湯】蚯蚓の咬毒に中り、大風の如き狀態のものに主效がある。湯に泡けて浸せばよし。【葱・蜀羊泉】黄丹と共に用ゐる。【百舌巢中土】醋と共に用ゐる。【鵝通】いづれも蚯蚓咬に傅ける。【吹火筒】(八)蚓呵で小兒の陰の腫れたるには、これを吹けば消える。【蓼子】蝸牛を浸して吹く。

射工、沙虱の傷　内治　【山慈姑】吐かす。【蒼耳葉】酒で煎じる。【雄黄】酒で磨る。【牛膝】水で煎じる。【草犀】汁。【莧】汁。【馬齒莧】汁。【梅葉】汁【蘘荷】汁。【狼毒】汁。【鬼臼】汁。【懸鉤子】汁。【浮萍】末。【知母】末。【射干】末。【白礬】末を甘草と共に用ゐる。【丹砂】末。【斑蝥】燒く。【溪狗蟲】燒く。【鸂鶒】炙いて食ふ。【鵞血・鴨血】いづれも射工、沙虱、溪毒に中つて寒熱し、瘡を生ぜるに主效がある。

外治　【萵苣・蒜・白芥子・芥子・葱・茖葱・茱萸】蒜、葱と共に汁に煮る。【雞腸草・梨葉・皂莢】末にして醋で和す。【白雞屎】餳に和す。【鸜鵒毛屎・芫青・鼠負・熊膽・麝香・白礬】いづれも射工、沙虱、溪毒瘡に塗る。【鼓母蟲】之を含めば射工の毒を除く。【溪鬼蟲喙・鵞毛】いづれも佩べば射工の毒を辟ける。

蛭、蟆、蟻、蠅の傷　【黄泥水・浸藍水・牛血・羊血】猪脂と共に用ゐる。【雞血・

(八) 蚓呵ハ蚯蚓ニカブレルコト。

狗涎】蒸餅につけて食ふ。○いづれも誤つて水蛭を呑みたるには、これを服すれば下つて出る。【朱沙】水蛭の傷瘡に傳ける。【灰藋・槲葉・藜葉・鹽藥・石灰】いづれも螻蛄咬に塗る。【土檳榔・穿山甲・山豆根・簷溜下泥・地上土】いづれも蟻咬に塗る。【百部】蠅、蟻の咬毒を殺す。【鹽】黄蠅の毒に擦る。「蚰蜒」【白礬・胡麻】いづれも蚰蜒咬に塗る。

諸蟲の辟除

「辟蚊蚋」【社酒】壁に洒ぐ。【蝙蝠血】帳に塗る。【臘水】燈心を浸す。【蕣枝】燈柢にする。【天仙藤】木屑と共に用ゐる。【木鼈】川芎、雄黄と共に用ゐる。【浮萍】燒熏する。或は羌活を加へる。【茅香】木鼈、雄黄と共に用ゐる。【菖蒲】楝花、柏子と共に用ゐる。【夜明砂】これのみを燒く。或は浮萍、苦楝花と共にする。【鼈甲】夜明砂と共に用ゐる。いづれも燒熏する。

壁虱、蚤蝨を辟く

【樟腦・菖蒲・白菖・木瓜・藭藋・龍葵・茯苓】末。【辣蓼・蕎麥稭】いづれも席下に鋪く。【白膠香・百部・牛角・騾蹄・白馬蹄・蟹殼】いづれも燒烟して熏ずる【蟹黄】安息香、松鼠と共に燒く「辟蟣虱」【虱建草・大空・藜蘆・百部・白礬・水銀・銀硃・輕粉・銅青】「辟蠅蛾」【緑礬水・臘雪水】「辟蚰蜒」【春牛泥】

「辟蠹蟲」【萵苣】端午の日に采收する。【芸香・角蒿葉】いづれも箱中に置く。【莽草】燒いて熏ずる。

諸獸傷　虎狼、熊羆、猪猫、(一)犬猘、驢馬、鼠咬、人咬。

虎、狼の傷　［内治］【醇酒】飲んで醉ふ。【芭蕉】汁に擣き、或は葛根と共に汁に煎じる。【葛根】汁、或は研末。【兎葵】汁。【地楡】汁。【草犀】汁。【胡麻油・生薑】汁。【沙糖・鐵漿】いづれも內用として飲み、外用として塗れば毒が腹に入らぬ。【婦人月經】燒いて服すれば虎狼傷に主效がある。［外治］【山漆・豨薟・粟米・乾薑・薤白・獨栗・白礬・蠐螬・猬脂・菩薩石】いづれも虎咬爪傷に塗る。【青布】燒いて虎狼の咬傷瘡を熏ずる。

熊、羆、猪、猫の傷　［内治］【蒴藋】汁を服す。【菾菜】汁を服す。いづれも熊羆傷に主效がある。同時に外部へ塗る。［外治］【獨栗】燒く。【粟米】嚼む。いづれも熊獸傷に塗る。【松脂】餅にする。【龜版】灰。【鼠屎】灰。【薄荷・簷溜泥】いづれも

(一) 犬猘ハ狂犬。

(二)風狗ハ狂犬。
(三)肉狗、詳ナラズ。

猫咬に塗る。【射罔】禽獸の毒を殺す。

犬猘傷 [内治] 【雄黄】麝香と共に酒で服す。○青黛と共に水で服す。【蒼耳葉】酒で煎じる。【桃白皮】水で煎じる。【紫荊皮】汁。【地黄】汁。【白兎藿】汁。【蔓菁根】汁。【生薑】汁。【韭根】汁。いづれも内用として飲み、外用として百回塗る。【故梳】韮根と共に煎じる。【百家筯】煎汁。【頭垢】猬皮灰と共に水で服す。【猬頭】燒いて髮灰と共に水で服す。【驢尿・狼牙草灰】水で服す【芫青】米で炒り、酒で服す。○いづれも猘犬、惡犬傷に主效がある。【莨菪子】狂犬傷には、日每に七粒を吞み、また根を擣いて塗る。【鐵漿】狂犬傷には、之を飲めば毒が内へ入らぬ。【斑蝥】(二)風狗傷には、三箇を研細して酒で煎じて服すれば、(三)肉狗四十個を下して止む。未だ盡きぬには再服する。○七箇と糯米一撮を黄に炒つて米を取去り、百草霜一錢を入れて米飲で服し、肉狗を下す。【糯米】一勺と斑蝥三七箇を三回に分けて炒り、蝥を取去つて研末し、三服に分け、冷水に油を滴らして飲下し、惡物を下し取る。【蝦蟇膾・蝘蛇脯】いづれも狂犬傷に主效がある。食へば病が發せぬ。[外治] 【艾葉】猘犬傷には、七壯を灸する。或は牀下の土を隔てて灸する。【瓦松】雄黄と共に風狗咬に貼れば永く發

しない。【巵子】燒いて硫黄末を入れる。【欒荊皮】沙糖と共に用ゐる。【雄黄】麝香を入れる【山慈姑・蘇葉】嚼む。【蓼葉・莽草・蓖麻子・韭汁・薤白・葱白・膽礬・蚯蚓泥・紅娘子・死蛇灰・犬屎・虎骨】牙脂も同じ。【人血】いづれも狂犬、惡犬傷に塗る。【人參】狗咬破傷風には、桑柴で性の存する程度に燒いて摻る。【屋遊・地楡・鹿蹄草・黄藥子・秫米・乾薑・烏桕・赤薜荔・杏仁・馬藺根】杏仁と共に用ゐる。【白果・白礬・菩薩石・竹籃耳】灰。【冬灰・黄蠟・猪耳垢・鼠屎】灰。【牛屎・人屎】いづれも犬傷に塗る。【人尿・冷水・屋漏水】いづれも犬傷を洗ふ。

驢、馬の傷　内治　【馬齒莧】馬咬の毒が心に入りたるには、煎じて服す【人屎】馬汗、馬血が瘡に入つて危篤なるには、汁を服す。【馬屎中粟】驢馬の皮を剝ぐ際に中毒したるには、汁を絞つて服す。幷に塗り、尿で洗ふ。【檉柳】驢馬の皮を剝いで毒血が肉に入りたるには、汁に浸して服し、幷に木片を取つて之を炙る。【葶藶】馬汗の毒氣が腹に入りたるには、湯に浸して飮み、惡血を下す。【醇酒】馬の毒氣が腹に入れば死ぬ。これには多く飮んで醉はす。外治　【益母草】醋に和す。【鼠屎】いづれも馬咬に塗る。【獨栗】燒く【白馬通・雞冠血】いづれも馬咬瘡、馬汗の瘡に入り

たるもの、驢、馬を剝き、骨刺で傷めて死せんとするものに塗る。【月經水】馬血の瘡に入りたるもの、馬を剝いで骨で傷めたるに塗れば神效がある。【馬頭・馬鞭】灰。【雞毛】灰。【烏梅】醋で和す。【雄黄・白礬・石灰】いづれも馬汗、或は毛が瘡に入つて腫痛し、腹に入つて死する虞あるものに傅ける。【水菫】汁。【冷水・熱湯】いづれも馬汗、馬毛の瘡に入りたるを洗ふ。

鼠咬 【狸肉】食ふ。【狸肝・猫頭及び毛】灰。【猫屎・麝香】いづれも塗る。

人咬 【龜版】灰。【攝龜甲】灰。いづれも塗る。【人屎】浸す。

諸毒　金石。草木。果菜。蟲魚。禽獸。

金石の毒 【甘草】七十二種の石、一千二百種の草を安和し、あらゆる藥毒を解す。○すべての藥毒には、麻油に甘草節を浸し、嚼んで汁を咽めば良好である。【大靑・麥門冬・人參湯・薺苨汁・蓴心・冬葵子・瞿麥・藍汁・金星草・葳蕤汁・苧根汁・萱根・蕉根汁・綠豆・胡豆・白扁豆・黑大豆・餘甘子・冬瓜練・烏芋・水芹汁・寒水石・黑鉛】溶化して酒に淬す。【魁蛤肉・牡蠣肉・蜆子肉・蚌肉・蟶腸・石蟹汁・鰻

鱧魚・田螺・雁肪肉・鴨肉・白鴨通・烏肉・犀角汁・猪膏・猪肉・猪骨・猪血・羊血・兎血・諸血・牛膍・兎肉】いづれも一切の丹石毒を解す。

砒石の毒　【米醋】吐かす。【烏桕根】下す。【白芷・鬱金】いづれも井水で服す。【胡粉】地漿で服す。【白扁豆】水で服す。【蚤休】汁に磨る。【黒鉛・鯗魚魫】いづれも汁に磨る。【藍汁・薺苨汁・醬汁・綠豆汁・豆粉・大豆汁・楊梅樹皮汁・冬瓜藤汁・旱稻稈灰汁・地漿・井泉水・白鴨通汁・猳猪屎汁・人屎汁・鴨血・羊血・雄雞血・胡麻油】

礜石の毒　【黒大豆・白鵞膏】

硇砂の毒　【綠豆汁・浮萍】硇砂で陰を損じたるには、猪蹄と汁に煎じ漬けて洗ふ。

硫黄の毒　【金星草・胡麻油・米醋・飛廉・細辛・餘甘子】水で煎じる。【烏梅】煎じる。【黒鉛】煎じる。【鐵漿・朴消・猪血・羊血・冷猪肉・鴨肉・猪脂】

雄黄の毒　【防巳】汁に煎じる。

丹砂の毒　【藍青汁・鹹水】

水銀の毒　【黒鉛・炭末】汁に煎じる。【金器】口を破りたるには煮汁を服す。○耳

に入りたるには熨す。之を枕すれば蟲を引く。

輕粉の毒　【黃蓮・貫衆・醬汁・黑鉛壺】酒に浸す。【斑蝥・猪肉】

石英の毒　【麻鞋】煮汁。【石燕】煮汁。【醇酒】紫石英を服したために乍ち寒し乍ち熱するには、これを飲むが良し。【雞子・猪肉】

鍾乳の毒　【雞子淸・猪肉】

石炭の毒　【冷水】石炭の中毒で昏瞀するには、これを飲めば解する。

生金の毒　【白藥子・餘甘子・翡翠石・鷓鴣肉・鴨血・白鴨通】汁。【雞屎】淋汁。【金蛇】煮汁。

生銀の毒　【葱汁・雞子】汁。【鴨血・鴨通】汁。【銀蛇】煮汁。【水銀】之を服すれば出る。

錫の毒　【杏仁】

銅の毒　【慈姑・胡桃・鴨通汁】

鐵の毒　【慈石・皂莢・猪犬脂・乳香・貘屎】

土坑の毒氣　【猪肉】

草木の毒　【防風】諸藥の毒で已に死し、ただ心頭の温なるものには、水に擂つて灌がせる【葛根】諸藥毒で吐き下し死せんとするには、煮汁を服す。【甘草・薺苨・藍】汁。【藍實・承露仙・榼藤子・淡竹葉】甘草、黒豆と共に煎じて服す。【粟米】絞汁。【土芋】吐かす【綠豆】汁。【黒豆】汁。【白扁豆】汁。【生薑・葱】汁。【芽茶】白礬と共に用ゐる。【地漿・黄土】煮汁。【蠶故紙灰】水で服す。【黿甲・玳瑁・車渠・龜筒・白鷴・白鴿血・鷓鴣・孔雀脯・牛膍・犀角】汁。【猪屎】汁。【人屎汁】いづれもあらゆる藥毒を解す。

鉤吻の毒　【薺苨汁・蕹菜汁・葛根汁・葱汁・桂汁・白鴨血・白鵞血・羊血】いづれも熱飲する。【雞子淸・雞毈雛】麻油と共に研り爛して灌ぎ、吐かす。【犀角汁・猪膏・人屎汁】

射罔の毒　【藍汁・葛根・大麻子汁・大小豆汁・飴糖・藕汁・芰汁・竹瀝・冷水・蚯蚓糞・貝齒・六畜血・人屎汁】

烏頭、附子、天雄の毒　【防風汁・遠志汁・甘草汁・人參汁・黄芪・烏韭・綠豆・黒豆・寒食餳・大棗肌・井華水】【陳壁土】湯に泡けて服す。

蒙汗の毒【冷水】

鼠莽の毒【蚤休】水で磨る。【鏡面草・豇豆汁・黒豆汁・烏桕根】【明礬】少量の茶を入れて水で服す。【雞血・鴨血・羊血】いづれも熱飲する。

羊躑躅の毒【卮子汁】

狼毒の毒【藍汁・鹽汁・白蘞・杏仁・木占斯】

防葵の毒【葵根汁】

莨菪の毒【薺苨・甘草・升麻】汁。【蟹】汁。【犀角】汁。

山芋の毒【地漿・人屎】汁。

苦瓠の毒【稷米】汁。【黍穰】汁。

大戟の毒【菖蒲】汁。

甘遂の毒【黒豆汁】

芫花の毒【防風】汁。【防已・甘草・桂汁】

仙茅の毒【大黄】

藜蘆の毒【葱汁・雄黄・温湯】

瓜蔕の毒【麝香】
半夏、南星の毒【生薑汁・乾薑】煮汁。【防風】
桔梗の毒【白粥】
巴豆の毒【黄連汁・菖蒲汁・甘草汁・葛根汁・白藥子・黒豆汁・生藿汁・蘆薈・冷水・寒水石】
桂の毒【葱汁】
漆の毒【貫衆・紫蘇・蟹】
桐油の毒【熱酒・甘草・乾柿】
果菜の毒【麝香・豬骨灰】水で服す。【米醋・頭垢・童尿】いづれも諸果菜毒を解す。【山鵲肉】諸果の毒を解す。【甘草・醬汁・酒糟・葛汁・白兎藿・白花藤・雞屎灰】いづれも諸菜の毒を解す。貝齒、胡粉と共に末にして酒で服す。【杏根】煎汁。
蜀椒の毒【葵子汁・豉汁・桂汁・蒜汁・大棗・冷水・地漿・黄土・雄雞毛灰】水で服す。【童尿】
燒酒の毒【冷水・綠豆粉・蠶豆苗】

麪の毒【蘿蔔・枸杞苗・貝子】燒く。【胡桐淚】

豆粉の毒【杏仁・豆腐・蘿蔔】

萵苣の毒【薑汁】

水芹の毒【硬糖・杏仁】乳餅、粳米と共に粥に煮て食ふ。

水莨菪の毒【甘草汁】

野芋の毒【地漿・人屎汁】

野菌の毒【甘草】麻油で煎じて服す。【防風】汁。【忍冬】汁。【蠡實・醬汁・生薑・胡椒・綠豆】汁。【梨葉】汁。【荷葉】煎じる。【阿魏・地漿・黃土】煮る。【鷓鴣・石首魚枕・童尿・人屎汁】

蟲魚の毒【紫蘇・花葉・水蘇・蘆根・蘆花・菩薩草】酒で服す。【大黃汁・馬鞭草】汁。【苦參】醋で煎じる。【縮砂仁・草豆蔻・醬汁・米醋・胡麻油・黑豆汁・冬瓜汁・橘皮】煎じる。【烏梅・橄欖・蜀椒・胡椒・蒔蘿・茴香・胡葱・大蒜・朴消・蓬砂】甘草と共に香油に浸す。【魚皮】燒く。【魚鱗】燒く。【鮫魚皮】燒く。【獺皮】煮汁。

いづれも一切の魚肉、蝦、蟹の毒を解す。

河豚の毒【荻芽・蘆花・蔞蒿・胡麻油・白扁豆・大豆汁・橄欖・五倍子】白礬と共に水で服す。【槐花】水で服す。【橘皮】煮る。【黒豆汁・紫蘇汁・青黛汁・藍汁・蜈蚣】蟲、魚の毒を解す。【羊蹄葉】擣汁。或は煎じる。胡夷魚、檀胡魚、鮭魚の毒を解す。

黄鱨魚の毒【地漿】黄鱨及び無鱗諸魚が荆芥と反したるには、これを服すれば解す。

鱓魚の毒【蟹】これを食へば解す。

蟹の毒【蘇汁・藕汁・冬瓜汁・乾蒜汁・蘆根汁】蟹と柿と相反すれば吐血することがある。これを服すれば解す。【橙皮・丁香】

鼈の毒【橄欖・胡椒】

馬刀の毒【新汲水】

鰕の毒【鵁鶄】炙いて食ふ。

斑蝥、芫青、地膽、樗雞の毒【藍汁・玉簪根・桂汁・黒豆汁・糯米・猪肉・猪脂】

䗪蟲の毒 【巵子】

藍蛇頭の毒 【藍蛇尾】これを食へば解す。

水蟲の毒 【禿鶖毛】

禽獸の毒 【白兎藿】諸肉、菜の大毒で物の口に入らぬには、汁を飲めば解す。【白花藤・黄藤・黒豆汁・醬汁・米醋・山査・阿魏・草豆蔻・犀角汁】いづれも一切の肉食、魚菜、果蕈の諸毒を解す。

諸鳥肉の毒 【生薑・白扁豆・狸頭骨灰】水で服す。

雉の毒 【薑汁・犀角汁】

雞子の毒 【米醋】

鳩の毒 【葛粉】水で服す。【綠豆粉】

六畜肉の毒 【烏桕葉汁】牛馬六畜の肉を食つて疔を生じ、死せんとするには、三盌を頓服して利す。【白扁豆・小豆汁・豉汁・葱子】煮汁。【猪屎灰】水で服す。いづれも六畜肉の毒を解す。【甘草汁・蘭草汁・阿魏・綠豆汁・黄蘗汁・麻鞋底】煮汁。【黄土】煮汁。【東壁土】水で服す。【地漿・頭垢】いづれも六畜牛馬諸肉の毒を解す。

牛肉の毒　【狼牙】燒く。【聖虀】

獨肝牛の毒　【牛肚】蛇を噉ふ牛は獨肝にして毛髮後に向ふもので、毒が有る。牛肚を煮て汁を飲むがよし。【人乳汁】豉汁に和して服す

馬肝の毒　【猪骨灰】水で服す。【鼠屎】末にして服す。【頭垢】

猪肉の毒　【猪屎灰】水で服す。

狗の毒　【杏仁・蘆根】

猪肝の毒　【猪脂】五升を頓服する。【垢頭巾】湯に泡けて服す。

肉脯の毒　【韭汁・黃土】煮て服す。【地漿・貝子】燒いて水で服す。【猪骨灰】水で服す。【犬屎灰】酒で服す。【人屎灰】酒で服す。【頭垢】含んで嚥む。

蠱毒[一]

解毒　「草部」【薺苨】蠱毒、百藥の毒を解す。その汁を飲む。【蘘荷】汁を服すれば蠱が立ろに出る。その葉の上に臥せば自ら蠱主の姓名を呼ぶ。【山慈姑】大戟、五倍子と共に紫金丹にして服す。【徐長卿・天麻・釵子股・甘草】吐かす。【辟虺雷・升

(一)病源候論ニ云ク、蠱毒ニ數種アリ、皆變惑ノ氣ナリ。人故アリテ之ヲ造作ス、多クハ蟲蛇ノ類ヲ取リ、器皿ヲ以テ盛リ、貯ヘテ其ノ自ラ相噉ムニ任セ、唯一物獨

リ在ル者卽チ蠱ナリ。便チ能ク蠱惑シ、酒食ニ隨逐シテ人ノ患禍ヲ爲ス。他ニ患禍アレバ蠱主吉利ナリ、云云。

麻】吐かす。【錦地羅・吉利草・蘘荷・紫金牛・木香・龍膽草・草犀・格注草】吐かす。【獨行根・紫菀・馬兜鈴・鬱金】下す。【鬱金香・鉤吻・金絲草・合子草・芫花】下す。【預知子・蕘花】下す。【牽牛子】下す。【鳶尾】下す。【土瓜根】吐き下す。【山豆根・桔梗】下す。【解毒子・鬼臼・白兎藿・連翹・千里及】吐き下す。【羊蹄根・澤漆】吐かす。【愼火草・常山】吐かす。【藜蘆・蓴・赤車使者・茜根汁・胡麻油】吐かす。【糯穀頴】煎汁【麥苗】汁【小麥麪】水で服す。【豆豉・葫荽根】酒に擂る。【馬齒莧】汁。【大蒜・苦瓠汁】吐かす。【鹿藿・百合根・檳榔・大腹皮・桃白皮】下す。【蓖子・桑木心】吐かす。【龍眼・食茱萸・蜀椒・鹽麩子・甜瓜蔕】吐かす。【地椒・榴根皮・烏茈・槲樹皮・巴豆・樗根皮・蘇合香・生漆・相思子・雷丸・桃寄生・猪苓・石南實・桑木心・鬼箭羽・琥珀・半天河・車脂・猪槽水・故錦汁・釜墨・伏龍肝・古鏡・硃砂銀・鐵精・菩薩石・金牙石・雄黃・方解石・長石・代赭石・石膽・黃礬石・白礬石・石蟹・諸鹽水・石鹸・霹靂礁・斑蝥・蠶退紙・五倍子・芫靑・露蜂房・蜂子・鯪鯉甲・龍齒・蚺蛇膽】及び肉。【白死蛇・蝮蛇・蛇蛻皮・蛇婆・鯇魚膽・魚枕・靑魚枕・鯊魚枕・龜筒・鮫魚皮・玳瑁・貝齒子・鸛骨・鶴腕中砂子】水に磨つ

て服す。【鶬雞・白雞血・鳩血・鶡雞子・雞頭・雞屎白・白鴿血・鷓鴣・白鴨血・鳧血・孔雀血・白鷴・胡燕屎・鵲腦髓・猪肝・猪屎汁・豚卵・羊肝肺・羊膽・羖羊角・羖羊皮・犀角・鹿角・靈猫陰・麝香・猫頭骨】及び屎。【狐五臟・獺肝・敗鼓皮・猬皮・貒膏腦・六畜毛蹄甲・人牙・頭垢・人屎】

(一)諸物哽咽

諸骨哽　【縮砂蔤】諸骨哽には、濃く煎じて嚥む。【艾葉】酒で煎じる。【地菘】白礬、馬鞭草、白梅と共に丸にして噙む。【鳳仙子】水に研つて嚥む。根、葉は醋で煎じる。【半夏】白芷と共に水で服し吐かす。【雲實根】研汁を嚥む。【瞿麥】水で服す。【薔薇根】水で服す。【白蘞】白芷と共に水で服す。【白藥】醋で煎じる。【威靈仙】醋に浸し丸にして噙む。砂仁と共に煎じて服す。【雞蘇】朴消と共に丸にして噙む。【絲瓜根】燒いて服す。【栗荴】燒いて吹く。【乳香】水に研る。【桑椹】嚼んで嚥む。【金櫻根】醋で煎じる。【漿水脚】慈石、橘紅と共に丸にして嚥む。【蚯蚓泥】喉の外部を擦る。【蓬砂】含んで嚥む。【桑螵蛸】醋で煎じる。【蜂蜜】噙む。【鯇魚膽】酒で化して用

(一)哽咽、ノドニ物ノ刺サルコト。

ゐ、吐かす。【鱖魚膽】吐かす。【鯽魚膽】咽に點ける。【鮎魚肝】栗子皮、乳香と共に丸にして線綿に包み、呑んで釣り出す。【烏賊骨】橘紅、寒食麪と共に丸にして呑む。【鴨肫衣】炙いて研り水で服す。【鵰糞】諸鳥獸の骨哽には、灰に燒いて酒で服す。【猪膏】含嚥する。【羊骨脛灰】飲で服す。【狗涎】頻に滴す。【虎骨】諸獸骨哽には、末にして水で服す。【虎屎】燒酒で服す。【狼屎】獸骨哽には燒いて服す。【鹿角】末にして嚥み、筋を呑んで釣出す。

雞骨哽 【貫衆】縮砂、甘草と共に末にし、包んで含む。【白芷】半夏と共に末にして服し嘔出す。【縮砂・苧根】擣いて丸にし、雞湯で化して下す。【鳳仙根】酒で煎じる。【水仙根・玉簪花根】汁。【蓖麻子】白藥煎と共に研つて服す。【鹽麩子根】醋で煎じ、吐く。【乳香】水で研る。【金櫻根】醋で煎じる。【茯苓】楮實末と共に乳香湯で飲下す。【五倍子】末にして摻れば下る。【雞内金】燒いて吹く。【雞足距】燒いて水で服す。翮翎も同じ。

魚骨哽 【貫衆】前に同じ。【縮砂】濃く煎じる。【苧根】どろどろに擂つて魚湯で飲下す。【蓖麻子】白藥煎と共に研つて嚥む。【水仙根・玉簪根】いづれも擂汁を服す。

【醉魚草】吐かす。【白芍藥】嚼む。【馬勃】蜜で丸にして噙む。【飴糖】含嚥する。【百合】項外に塗る。【橘皮】噙む。【橄欖】嚼んで嚥む。【茱萸】魚骨の腹に入りたるには水で煎じて服すれば軟になつて出る。【白膠香・木蘭皮・皂莢】鼻に吹く。【椿子】酒に擂つて服し吐く。【楮葉汁】啜る。嫩皮は擣いて丸にし、水で二三十丸を飲下す。【桑椹】嚼む。【金櫻根】醋で煎じる。【琥珀珠】これを推す。【仙人杖】煮汁。【鬼齒】煮汁、或は丸にして含む。【青魚膽】吐かす。【鯇魚膽】吐かす。【烏賊骨・諸魚鱗灰】水で服す。【魚笱鬚】燒いて服す。【魚網】燒いて服す。或は煮汁を服す。【鸕鷀頭及び骨嗉喙翅屎】いづれも燒いて服す。【魚狗】燒いて服し、煮て服す。【禿鶖喙】燒いて服す。【獺肝及び骨爪】燒いて服す。【獺爪】頸の下を爬く。【海獺皮】煮汁。

金銀銅鐵哽　【縮砂蔤】濃く煎じて服す。或は甘草を加へる。【鳳仙子及び根】擂汁。銅鐵等の物の哽を下す。【王不留行】誤つて鐵石を呑みたるには、黃蘗と共に丸にして服す。【艾葉】酒で煎じる。【百部】酒に浸す。【木賊】末。いづれも誤つて銅鐵を呑みたるに主效がある。【葵汁・薤白】いづれも誤つて錢、釵、鐶を呑みたるに主效がある。頻に食つて下す。【飴糖・慈姑汁・鳧茈・胡桃】いづれも誤つて銅錢を呑

みたるに主效がある。多く食ふ。【南燭根】水で服す。【白炭】紅く燒き、研末し水で服す。【石灰】硫黃少量と共に酒で服す。【胡粉】猪脂と共に一兩を服す。いづれも誤つて金銀銅錢を呑んで腹に在るに主效がある。【水銀】誤つて金銀を呑みたるには、半兩を服すれば出る。【銅弩牙】誤つて珠、錢を呑みたるには、燒いて水に淬して飮む。【慈石】誤つて鐵物を呑みたるには、線を付けてこれを挽く。【古文錢】誤つて鐵物を呑みたるには、白梅に漬け爛して擣き、一丸を服すれば吐き出す。【蜂蜜】銅錢を呑みたるには、之を服すれば出る。【鵞羽】誤つて金銀を呑みたるには、燒いて服す。【猪羊脂】誤つて銅錢諸物を呑みたるには、多く食つて下し出す。【駝鳥屎・獺屎】誤つて銅鐵、砂石を呑んで腹に在るには、水に化して服すれば消える。

竹木哽 【半夏】服して吐かす。【蓖麻子】凝水石と共に嚙めば自然になくなる。【秤錘・鐵鋸】いづれも燒いて酒に淬して飮む。【鯇魚膽】酒で服して吐かす。【鱖魚膽】一切の骨哽。竹木の咽に入つて日久しく出でず、痛刺して黃瘦するには、一皂子の量を酒で煎して服し吐かす。【鯽魚膽】點ける。【象牙】末にして水で服す。

芒刺穀賊 【舂杵頭細糠】含んで嚥む。【胡麻】誤つて穀麥の芒刺を呑んだものを穀

賊と名ける。これには炒つて研り白湯で服す。【飴糖】含んで嚥む。【鵞涎】殺賊を下す。【象牙】諸物の咽を刺したるには、水に磨つて服し吐かす。【甑帶灰】水で服すれば草哽に主效がある。

桃李哽　【狗骨】煮汁で頭上を摩する。【麝香】酒で服す。

髪哽　【木梳】灰に燒いて酒で服す。【自己髪灰】水で一錢を服す。

食哽　【鷹屎】燒いて水で服す。

婦人經水

經閉には血滯と血枯とがある。○不調には血虛の者と、期を過ぎて血熱するものと、期に先つて血氣の滯るものとあり、痛みを感ずる。

血を活し氣を流す　【香附】血中の氣の藥である。生を用うれば上行し、熟せるを用うれば下行する。黑く炒つて用うれば血を止め、童尿で製して用うれば血分に入つて虛を補ふ。鹽水で製すれば血分に入つて燥を潤す。酒で炒れば經絡を行らし、醋で炒れば積聚を消す。薑で炒れば痰飮を化す。適度の參、朮と共に用ゐれば氣を

（一）月經逆行ハ婦人ノ血常ニ下行セズシテ反テ上行シ、或ハ吐血或ハ他ノ證候ヲナスモノヲ云フ。
（二）血崩、一名崩漏、子宮出血。
帯下ハ子宮及ビ陰道粘膜炎、和名シラチ、ナガチ。

補ひ、歸、芐と共にすれば血を補ひ、蒼朮、芎藭と共にすれば欝を解し、巵子、黄連と共にすれば火を降し、厚朴、半夏と共にすれば脹を消し、神麴、枳實と共にすれば食物を消化し、紫蘇、葱白と共にすれば表邪を解し、三稜、莪茂と共にすれば積を消し塊を磨し、茴香、破故紙と共にすれば氣を引いて元に歸し、艾葉と共にすれば血氣を治し子宮を暖める。かやうに氣病の全體に效力がある婦人科の聖藥である。【當歸】一切の氣、一切の勞に用ゐ、惡血を破り、新血を養ひ、種種の不足を補ふ。當歸の頭は血を止め、身は血を養ひ、尾は血を破る。○婦人のあらゆる病には、地黄と共に丸にして服す。○（一）月經逆行には、紅花と共に煎じて服す。血氣脹痛には、乾漆と共に丸にして服す。○處女の經閉には、沒藥末、紅花と共に酒で調へて服す。【丹參】宿血を破り、新血を生じ、生胎を安にし、死胎を落し、（二）血崩、帯下を止め、經脈が或は前み或は後れ、或は多く或は少きを調整し、兼て冷熱勞の腰脊痛、骨節煩疼を治す。晒して研り二錢づつを溫酒で服す。【芎藭】一切の氣、一切の血に用ゐ、宿血を破り、新血を養ひ、肝氣を搜り、肝血を補ひ、肝燥を潤す。婦人の血閉で不姙のものに效がある。血中の氣の藥である。【芍藥】婦人の寒血閉脹

の小腹痛、諸種の老血の留結、月經潮候期の不調。【生地黃】血を涼し、血を生じ、眞陰を補ひ、月水を通じる。【蘭草】血を生じ、氣を和し、營を養ひ、經を調へる。【澤蘭】營氣を養ひ、宿血を破り、婦人の勞瘦に主效がある。婦人科の要藥である。【茺蔚子】經を調へて妊娠せしめ、血を活し、氣を行らして補陰の功がある。【菴䕡子】桃仁と共に酒に浸して用ゐれば月經を通ずる。【玄胡索】月經不調(三)結塊、(四)淋露に用ゐて、氣を利し、痛みを止め、血を破る。當歸、橘紅と共に丸にして服す。【柴胡】婦人の熱が(五)血室に入つて寒熱し、月經不調なるに用ゐる。【黃芩】婦人の血閉、淋漏を下す。【茅根】月水が不同で淋瀝するに用ゐ、惡血を除く。【莙薘根】經脈を通ずる。婦人によき藥である。【醍醐菜】酒に搗つて用ゐれば經を通ずる。【茶湯】沙糖少量を入れ、一夜露して服すれば經を通ずる。輕視すべからざるものである。【鉛霜】處女の經閉で熱あるには、生地黃汁で服す。【木香・乳香・烏藥・白芷・桑耳】いづれも血氣に主效がある。【茘枝核】血氣痛には、香附子と共に服す。【華茇】血氣痛、月經不調には、蒲黃と共に丸にして服す。【附子】通經には、當歸と共に煎じて服す。【芥子】酒で末を服すれば經水を通ずる。【韭汁】經脈の逆行を治するには、童尿を入れ

(三)結塊ハ子宮結塊。
(四)淋露ハ漏下ナリ。經血淋瀝、斷エザルヲ云フ。
(五)血室ハ子宮。

て飲む。【絲瓜】末にして酒で服すれば月經を通ずる。【土瓜根】經水不利には、芍藥、桂枝、䗪蟲と共に末にして酒で服す。【薏苡根】煎じて服すれば通經する。【牛膝】(六)血結、經病で不調なるには、乾漆、地黄汁と共に丸にして服す。【牛蒡根】月水通ぜず、積塊で死せんとするには、三回蒸し酒に浸して日毎に飲む。【馬鞭草】月經を通ずる。(七)癥塊には熬膏して服す。【虎杖】通經には、沒藥、凌霄花と共に末にして服す。【蒺藜】通經には、當歸と共に末にして酒で服す。【木麻】月閉癥瘕の者が久しく服すれば姙娠する。【硇砂】月水不通で積聚刺痛するに用ゐ、結血を破り、子宮を暖める。【皂莢、陳橘皮と共に丸にして服す。【白堊土】婦人の寒熱、癥瘕、月閉、不姙、子宮の冷ゆるに用ゐる。【銅鏡鼻】血閉、癥瘕、(八)伏腸、(九)絕孕に用ゐる。【烏金石】月水を通ずるには、煎じた湯で巴豆三丸を服す。【蠶砂】月經久閉には、炒つて酒で煮て一盞を飲めば通じる。【葛上亭長】血閉癥塊には、米と共に炒り研つて服す。【烏鴉】經閉には、炙いて研り水蛭等の藥と共に服す。【獺膽】通經には、硇砂等の藥と共に丸にして服す。○爪も同じ。【白狗屎】月水の乍ち多く乍ち少きには、燒いて末にし酒で服す。【鼠屎】通經には、酒で一錢を服す。【童男童女髮】通經には、斑蝥、麝香と共に

(六)血結ハ血塊。
(七)癥塊ハ血塊。
(八)伏腸ハ腸ノ一部分ニ起ルカタマリ。
(九)絕孕ハ姙娠停止。

末にして服す。【人乳】日に三合を飲めば通經する。【水蛭・地膽・樗雞・五靈脂・鼈甲・納鼈・穿山甲・龍胎・蛤粉・菩薩石・銅弩牙・朴消・紫荊皮・木占斯・桂心・乾漆・厚朴】酒で煎じる。【栝樓根・質汗・甜瓜蔓・蓬莪茂・三稜・棗木・紫葳・菴羅果・桃仁・牡丹皮・劉寄奴・紫參・薑黃・鬱金・紅藍花・瞿麥・番紅花・續隨子・蛇莓・瓦松・石帆・赤孫施・蒲黃】いづれも血を破り、經を通じる。【大棗】婦人の(一〇)臟躁で悲哭し、祟の如くなるには、小麥、甘草と共に水で煎じて服す。【葶藶】陰中に納るれば月水を通じる。

氣を益し血を養ふ　【人參】血虛の者に用ゐて氣を益す。陽が生ずるときは陰も長ずるのである。【朮】(一一)腰髓の間の血を利し、胃を開き食物を消化する。【熟地黃】(一二)傷中胞結で經候不調になり、(一三)衝任伏熱で久しく不姙なるには、當歸、黃連と共に丸にして服す。【石菖蒲】婦人の(一四)血海冷敗に用ゐる。【補骨脂・澤瀉・陽起石・玄石・白玉・青玉・紫石英】いづれも子宮虛冷で月經不順、不姙症のものに主效がある。【阿膠】婦人の血枯で經水不調、不姙なるには、炒つて研り酒で服す。【雀卵・烏賊魚骨・鮑魚汁】いづれも婦人の血枯病、肝を傷めて唾血、下血するに主效

(一〇)臟躁、ヒステリー。
(一一)腰髓ハ腰ト脊髓トノ併稱。
(一二)傷中胞結ハ子宮病。
(一三)衝任ハ衝門、任脈ノ併稱、下腹部ノ經穴。
(一四)血海冷敗ハ子宮病。

(一五)天癸ハ月經。

(一)帶下ハ和名シラチ、ナガチ、又コシケ。即チ子宮出血、子宮及ビ陰膣粘膜炎。

(二)白帶、シラチ。

(三)赤帶下、ナガチ。

(四)漏下ハ子宮出血。

(五)白淫ハ遺精。婦人ノ白淫ト云フハ白帶ニ當ルモノ。

があり、經閉を通ずる 【驢包衣】(一五)天癸不通には、煆いて研り、麝を入れて新汲水で飲下す。三服を過してはならぬ。

(一)帶下 これは濕熱に痰を夾むもので、虚と實とある。

【蒼朮】濕を燥し、脾を強くする 四製して丸にして服す 【艾葉】(二)白帶には、雞子を煮て食ふ。【石菖蒲】(三)赤、白帶下には、破故紙と共に末にして服す。【白芷】赤、白の(四)漏下に用ゐ、能く膿を蝕する 白帶の冷痛、腥穢には、蜀葵根、白芍、枯礬と共に丸にして服す ○石灰に漬けて研末し酒で服す 【草果】乳香と共に末にして服す。【糯米】婦人の(五)白淫には、花椒と共に燒いて研り、醋糊で丸にして服す 【蓮米】赤、白帶には、江米、胡粉と共に烏骨雞を入れて煮て食ふ 【白扁豆】炒つて研り米飲で日毎に服す ○花も同じ 【蕎麥】炒り焦して雞子白で服す 【韭子】白帶、白淫には、醋で煮て丸にして服す 【芍藥】香附と共に末にし煎じて服す ○乾薑と共に末にして服す 【沙參】七情內に作り、或は虛冷するには、末にして米飲で日毎に服す 【狗脊】虛女の白帶、衝任虛損で關節重きには、鹿茸と共に丸にして服す 既婚の婦人にも治效

がある。【枸杞根】帶下脈數には、地黃と共に酒で煮て飮む。【椿根白皮】滑石と共に丸にして服す。○乾薑、芍藥、黃蘗と共に丸にして服す。【木槿皮】酒で煎じて用うれば帶下を止める。赤、白に隨つて用ゐる。【楡莢仁】牛肉と羹にして食へば帶下を止める【茯苓】丸にして服す。【松香】酒で煮て丸にして服す。【槐花】牡蠣と共に末にし酒で服す。【冬瓜仁】炒つて研り湯で服す。【牡荊子】炒り焦して飮服する。【益母草】末を湯で服す。【夏枯草】末を飮服する【雞冠花】酒に浸して飮み、或は末を服す【馬齒莧】絞汁を雞子白に和して服す【大薊根】酒に浸して飮む【酢漿草】陰乾して酒で服す【椒目】炒つて研り水で服す【欓子】石菖蒲と共に末にして服す。【韭汁】童尿と共に一夜露して溫服する【葵葉・葵花】帶下、目中の溜火を治し、血を和し、燥を潤す。末にして酒で服す。赤、白に隨つて用ゐる。【蜀葵根】膿血、惡汁を散じ帶下を治す。白芷、芍藥、枯礬と共に化した蠟で丸にして服す。【敗醬】帶下を治し、多年の凝血を破り、膿を化して水にする。【漏盧】産後の帶下には艾葉と共に丸にして服す。【甑帶】(六)五色帶下には煮汁を服す【澤蘭子】(七)婦人の三十六疾。【馬矢蒿・蠡實・紫葳・茜根・白蘞・土瓜根・赤地利・鬼箭羽・水芹・蒲

(六)五色帶下ハ白崩、赤崩、黃崩、靑崩、黑崩。

(七)婦人三十六疾ノ解、病源候論ニ見ユ。

黄・景天・猪苓・李根白皮・金櫻根・酸榴皮・桃毛・白果・石蓮・芡實・城東腐木・橡斗・秦皮・人參・黄芪・肉蓯蓉・何首烏・葳蕤・當歸・芎藭・升麻】升提する。【柴胡】升提する。【陽起石・白石脂・五色石脂・玉泉・石膽・代赭石・石硫黄・石硫赤・硇砂】いづれも赤、白帶下、不姙症に主效がある。【石灰】白帶、白淫には、茯苓と共に丸にして服す。【雲母粉】水で方寸匕を服すれば立ろに效が現れる。【禹餘糧】赤、白帶には、乾薑と共に丸にして服す。【石燕】月水の湛濁、多年の赤帶には、煎じて飲む。或は末を日每に服す。【白礬】(八)白沃漏下、經水不利、(九)子腸堅僻で中に乾血あるには、燒いて研り杏仁と共に丸にして陰戸内に納れる。【白瓷器】(一〇)白崩帶に主效がある。【伏龍肝】烟が盡きるまで炒つて椶灰、梁上塵と共に服す。【秋石】棗肉で丸にして服す。【牛角䚡】灰に燒いて酒で服す。【狗頭骨】同上。【兎皮灰】同上。【猪腎】多く食ふがよし。【猪肝】金墨、百草霜と共に煨いて食ふ。【羊腰】醋で洗ひ蒸して食へば數回で癒える。【羊肉】産後の赤、白帶下で不姙娠となれるには、或、蒜で煮熟し、酥を入れて食ふ。【山羊肉】赤、白帶に主效がある。【狗陰莖】(一一)婦人帶下の十二疾。【鹿角】(一二)白濁には、炒つて研り酒で服す。【鹿茸】赤、白下には、炙いて

(八)白沃ハ白帶下ヲ云フ。
(九)子腸ハ子宮ヲ云フ。今ノ子宮粘膜炎。
(一〇)白崩帶、シラチ。
(一一)帶下十二病、一日多赤、二日多白、三日月水不通、四日陰

末にし酒で服す　處女の白帶、衝任虛寒には、狗脊と共に白飯で丸にして服す。【白馬左蹄】五色帶下には、灰に燒いて酒で服す。【駝毛・烏驢皮・牛骨・牛蹄甲陰莖・麋角・鹿血・阿膠・丹雄雞・烏骨雞・雞內金・雀肉・雀卵・雀屎・伏翼・五靈脂・鰻鱺魚・鯉魚鱗・龍骨・鼉甲・龜甲・鼈肉・鱟魚骨・海螵蛸・牡蠣粉・馬刀・海蛤・蛤粉・蜜蜂子・土蜂子・蠶蛻紙】灰。【蚌粉・故綿】灰。【淡菜・海蛇・全蠍・丹參・三七・地楡】いづれも赤、白帶に主效がある。【貫衆】醋で炒り、末にして服すれば赤、白帶を止める。【蛇牀子】枯礬と共に陰戸に納れる。【古磚】赤く燒きその上に蒸餅を置いて坐る。

(一)崩中漏下　月水不止。(二)五十歲後の行經。

營を調へ熱を淸くす　【當歸】酒で服す。絕孕、崩中、諸種の不足。【丹參】功力は當歸に同じ。【芎藭】酒で煎じる。【生地黃】崩中及び經の止らぬには、汁に擂つて酒で服す。【芍藥】崩中で痛み甚しきには、柏葉と共に煎じて服す。經水不止には艾葉と共に煎じて服す。【肉蓯蓉】血崩の絕陰不產。【人參】(三)血脫に用ゐて陽を益

僂、五日子藏堅、六日子門僻、七日合陰陽患痛、八日小腹寒痛、九日子門閉、十日子宮冷、十一日夢與鬼交、十二日五藏不定。

(三)白濁ハ膀胱加多兒。

(一)崩中漏下ハ子宮出血。

(二)五十行經ハ老年ニテ月經アルヲ云フ。

(三)血脫ハ血崩ニ同ジ。

す。陽が生ずれは陰も長ずるのである。【升麻】陽明の清氣を升す。【柴胡】少陽の清氣を升す。【防風】炙いて研り麪糊と酒で煮て一錢を服すれば效がある。【白芷】崩、漏の陽明の經に入りたるに主效がある。【香附子】炒り焦して酒で服すれば、血の(四)崩山の如くなるもの、或は五色漏帶を治す。常に服するがよし。【黄芩】淋漓下血に主效があり、陰を養ひ陽を退け、脾經の濕熱を去る。○陽が陰に乘じて崩中下血するには、研末して霹靂酒で一錢を服す。四十九歲で月水の止らぬには、(五)條芩を七回醋に浸して炒つて研り、丸にして日毎に服す。【靑蘘】汁にして半升を服すれば立ろに癒える。【雞冠花及び子】末を酒で服す。【大小薊】煎汁を服す。或は酒に浸して飲む。【菖蒲】産後の崩中には、酒で煎じて服す。【蒲黄】崩中を止め、瘀血を消す。五靈脂末と共に炒り、酒で煎じて服す。【凌霄花】末を酒で服す。【茜根】(六)血内崩、及び月經止まぬを止める。五十後の行經は敗血として論ずるものであつて、これ等には阿膠、柏葉、黄芩、地黄、髮灰と共に煎じて服す。【三七】酒で二錢を服す。【石韋】研末して酒で服す。【水蘇】煎じて服す。【柏葉】月水の止まぬには、芍藥と共に煎じて服す。○木賊と共に炒り末にして服す。【槐花】漏血には、燒いて研り

(四) 崩山ハ出血ノ形容。

(五) 條芩ハ黄芩ノ新根、細實ニシテ堅キモノヲ云フ。

(六) 血内崩ハ血崩ニ同ジ。

酒で服す。○血崩の止らぬには、黄芩と共に秤錘を燒いて酒で服す。【淡竹茹】崩中で月水の止らぬには、微炒し水で煎じて服す。【黄麻根】水で煎じる。【甜瓜子】月經過多には、研末して水で服す。【黑大豆】月水の止らぬには、炒り焦して酒を注いで用ゐる。【白扁豆花】血崩には、焙じ研つて飲服する。【蒸餅】燒き研つて飲服する。【玄胡索】損傷が原因の血崩には酒で煮て服す。【縮砂】焙じて研り湯で服す。【益智子】同上。【椒目】焙じて研り酒で服す。【胡椒】諸藥と共に丸にして服す。【艾葉】漏血崩中の止らぬには、乾薑、阿膠と共に煎じて服す。【木莓根皮】酒で煎じて用うれば崩を止める。【續斷・石蓮子・蠡實・茅根・桃毛・小蘗・冬瓜仁・松香・椿根白皮・鹿角・鹿茸・鹿血・猪腎・烏骨雞・丹雄雞・雞内金・雀肉・鱉尾・蚌殼・文蛤・海蛤・鮑魚】いづれも漏下崩中に主效がある。【毛蟹殼】崩中腹痛には、燒き研つて飲服する。【牡蠣】崩中及び月水不止には、煅いて研り、艾を醋で煎じた膏で丸にして服す。【鼈甲】五色漏下には、醋で炙いて研り酒で服す。○乾薑、訶黎勒と共に丸にして服す。【紫鉚】經水不止には、末を服す。【鰾膠】崩中赤白には、焙じて研り雞子、煎餅、食酒で飲下す。【阿膠】月水不止には、炒り焦して酒で服す。血を和し陰

を滋くす。【羊肉】崩中で垂死のものは、歸、芐、乾薑と煮て服す。

止澀　【椶灰】酒で服す。【蓮房】經の止まぬには、燒いて研り酒で服す。○血崩には、荊芥と共に燒いて服す。○產後の崩には、香附と共に燒いて服す。【敗瓢】蓮房と共に燒いて服す。【絲瓜】椶と共に燒いて服す。【木耳】黑く炒つて髮灰と共に服し汗を取る。【桑耳】黑く燒いて水で服す。【槐耳】燒いて服す。【烏梅】燒いて服す。【梅葉】椶灰と共に服す。【荷葉】燒いて服す。【桃核】燒いて服す。【胡桃】十五箇を燒いて研り酒で服す。殼もよし。【甜杏仁・黃皮】燒いて服す。【鳧茈】(七)一歲に一箇を燒いて研り酒で服す。【漆器灰】椶灰と共に服す。【故綿】髮と共に燒いて服す。【敗蒲席灰】酒で服す。【木芙蓉花】經血不止には、蓮房灰と共に飲服する。【槐枝灰】赤白崩には、酒で服す。【幞頭灰】水で服す。【白紙灰】酒で服す。【蠶蛻紙灰】槐子末と共に服す。【百草霜】狗膽汁で服す。【松烟墨】漏下五色には、水で服す。【烏龍尾】月水不止には、炒つて荊芥末と共に服す。【綿花子】血崩の泉の如くなるには、性を存する程度に燒いて酒で三錢を服す。【貫衆】酒で煎じる。【丁香】酒で煎じる。【地楡】月經止らず、血崩で赤、白漏下するには、醋で煎じて服す。【三七】酒で服す。【地

(七)意義解シガタシ。

錦】酒で服す。【木賊】崩中赤白、月水不斷には、當歸、芎藭と共に服す。○漏血の止まぬには、五錢を水で煎じて服す。血崩氣痛には、香附、朴消と共に末にして服す。【石花】細茶、漆器と共に末にして酒で服す。【桑花】水で煎じる。【翻白草】酒に擂る。【醍醐菜】杵汁を酒で煎じる。【夏枯草】研末して飲服する。【桂心】煅いて研り二錢を飲服する。【何首烏】甘草と共に酒で煮て服す。【柞楊皮】牡丹、牡蠣と共に酒で煎じて用ゐれば白崩を止める。【橡斗殼・金櫻根・榴皮】根も同じ。【鬼箭羽・城東腐木・石膽・代赭石・白堊土・玄精石・硇砂・五色石脂・太乙餘糧】いづれも(八)赤沃崩中、漏下不止に主效がある。【赤石脂】月水過多には、補骨脂と共に末にし、水で二錢を飲服する。【禹餘糧】崩中、漏下五色には、赤石脂、牡蠣、烏賊骨、伏龍肝、桂心と共に末にして服す。【伏龍肝】漏下には、阿膠、蠶沙と共に末にし酒で服す。【五靈脂】血崩の止まぬもの、及び經水過多には、半生半炒にして酒で服す。能く血を行らし血を止める。○末を熬膏し、神麴を入れて丸にして服す。○燒いて性を存し、鐵錘を燒いて淬した酒で服す。【鵲巢】積年の漏下には、燒いて研り酒で服す。【牛角鰓】燒いて研り酒で服す。【羊脛骨】月水不止には、煅いて椶灰を入れ酒で服す。【狗頭骨】

(八)赤沃ハ赤帶下。

（一）子煩ハ姙娠時ノ心神煩亂。
（二）胎啼ハ胎中聲アルヲ云フ。

血崩には、燒いて研り糊で丸にして酒で服す。【烏驢屎】血崩及び月水不止には、燒いて研り糊で丸にして酒で服す。【烏驢皮・羖羊角】燒く。【馬懸蹄】煆く。【馬鬐毛及び尾】燒く。【牛骨及び蹄甲】煆く。【孔雀屎】煆く。【龍骨】煆く。【鼉甲】燒く。【海螵蛸・鯉魚鱗】いづれも崩中下血、漏下五色に主效がある。

胎前　（一）子煩。（二）胎啼。

安胎　【黄芩】白朮と共に用ゐる。胎を安じ熱を淸するの聖藥である。【白朮】枳殼と共に丸にして服すれば、胎を束ねて出產を易くする【續斷】姙娠三个月の胎墮を防ぐ。杜仲と共に丸にして服す。【益母草】子も同じ。胎前には熬膏して服するがよし。【丹參】生胎を安全にし、死胎を墮す。【靑竹茹】八、九个月目に傷動して痛みを感ずるには、酒で煎じて服す。【竹瀝】交接に因つて胎を動じた場合には、一升を飲む。【白藥子】胎熱不安には、白芷と共に末にして服す。【黄連】驚きに因つて胎動、出血するには酒で服す。【知母】月が足らずして腹が痛み、宛も出產する如き狀態なるには、丸にして服す。【枳殼】腹痛には、黄芩と共に煎じて服す。【甘草、白朮と

共に丸にして服すれば、胎を痩せしめて出産を容易にする。【大棗】腹痛には、焼いて研り尿で服す。【縮砂仁】氣を行らし、痛みを止める。胎氣傷動して痛み忍び難きには、炒つて研り酒で服す　○(一)子癇昏瞀には、黑く炒つて酒で服す。【香附子】胎を安にし、氣を順にする。末を紫蘇湯で服す。これを鐵罩散と名ける。○惡阻には、藿香、甘草と共に末にし、鹽湯に入れて服す　【檳榔】胎動下血には、葱湯で末を服す　【益智子】(二)漏胎下血には、縮砂末と共に湯で服す　【大腹皮・欅皮・陳橘皮・藿香・木香・紫蘇】いづれも氣を行らし、胎を安ずる。【芎藭】胎氣損動には、酒で二錢を服す　また姙娠の有無を驗することも出來る。【當歸】姙娠傷動、或は胎兒死亡の場合にこれを服すれば、死せぬものは安全になり、已に死せるものは下る。芎藭末と共に水で煎じて服す。○墮胎下血には、葱白と共に煎じて服す。【硃砂】如上の症狀には、末一錢と雞子白三箇を和して服す。未だ死せぬものは安全になり、已に死するものは排出する。【葱白】下血搶心で困篤なるには、濃く煎じて服す。未だ死せざるものは安全になり、已に死せるものは排出する。【薤白】當歸と共に煎じて服す。【艾葉】姙娠下血、半產下血には、仲景の膠艾湯が主效がある。○胎動で心痛、腰

(一)子癇ハ姙婦痙攣。

(二)漏胎ハ受胎後數月ニシテ血忽チ大ニ下リ胎墮スルモノヲ云フ。

脹し、或は下血し、或は胎兒の死せるには、酒で煮て服す。○胎が心に迫るには、醋で煮て服す。【阿膠】胎動下血には、葱豉湯で化して服す。○葱、艾と共に煎じて服す。○尿血には飲服する ○血痢、大便血には煎じて服す。【黃明膠】酒で煮る。【秦艽】甘草、白膠、糯米と共に煎じて服す。○阿膠、艾葉と共に煎じて服す。【木賊】川芎と共に末にして煎じて服す。【生地黃】擣汁、或は末、或は酒に漬け、或は雞子と煮る。【桑寄生】阿膠、艾葉と共に煎じる。【醬豆】炒つて研り酒で服す。【赤小豆芽】日に三回酒で服す。また漏胎を治す。【桃梟】燒いて服す。【蓮房】燒いて服す。【百草霜】椶灰、伏龍肝と共に童尿酒で服す。【雞子】二箇を生で白粉に和して食ふ。【鹿角】當歸と共に煎じて服す。○腰痛には、燒いて七回酒中に入れて飲む。【生銀】水で煎じ、或は苧根と共に酒で煎じて服す。【代赭石・鹿茸・麋角・黑雌雞・豉汁・大薊・蒲黃・蒲蒻・賣子木】いづれも血を止め胎を安ずる。【菖蒲】半產下血の止まぬには、擣汁を服す。【荷鼻】胎動で黃水を見るには、一箇を燒いて研り、糯米湯で服す。【糯米】胎動で黃水を下すには、黃芪、芎藭と共に煎じて服す。【秫米】同上。【粳米】同上。【蜜蠟】下血で死せんとするには、一兩を化して酒半升に投じて服す

れば立ろに止る【熟地黄】漏胎の止まぬものは、血が出盡きれば死ぬ。これには生地黄末と共に白朮湯で服す。○胎痛で脈虚するには、當歸と共に丸にして服す。【苧根】銀と共に煎じて服す。【葵根】灰に燒いて酒で服す。【五倍子】酒で服す。【雞卵黄】酒で煮て日毎に食ふ。【雞肝】切つて酒に和して食ふ。【龍骨・鐵秤錘】いづれも漏胎下血の止まぬに主效がある。【人參・黄芪】胎前の諸虚。

外治　【弩弦】胎動で(一)膈に上るには、腰へ係ければ立ろに下る。【蛇蛻】胎動で出産するやうに感ずるには、袋に入れて腰へ係ければ下る。【伏龍肝】研つて水で服す。【井底泥・犬尿泥】いづれも姙娠傷寒に主效がある。腹に塗れば胎を護る。【嫩卷荷葉】姙婦傷寒には、蚌粉と共に腹に塗り、幷に服す

子煩　【竹瀝】胎氣上沖して煩燥するには、日毎に頻に飲む。【葡萄】煎じて服す。汁に擂るもよし。【黄連】酒で一錢を服す。【知母】棗肉で丸にして服す。【生銀】葱白、阿膠と共に煎じて服す。【蟹爪】煎じて服す。

胎啼　【黄連】腹中兒哭には、煎汁を常に呷ふ。

(一)膈ハ横膈膜。

産難

(一)催生ハ分娩ヲ易クスルコト。

(一)**催生**　【香附子】九个月、十个月目にこれを服すれば、決して驚恐の虞がない。【縮砂、甘草】と共に末にして服す　福胎飲と名ける。【人參】横生、倒産には、乳香、丹砂と共に雞子白、薑汁で調へて服すれば子母倶に安全である　【白芷】煎じて服す。或は百草霜、童尿と共に醋湯で服す。【益母草】難産及び子の死せるには、擣汁を服す　【蒺藜子】貝母と共に末にしてて服すれば、生を催し、胎を墮し、胞衣を下す。【貝母】末を服す。【麻子仁】倒産には二箇を呑む。【黄麻根】煮て服すれば、生を催し、血を破り、胞衣を下す。【鹽豉】燒いて研り酒で服す　【皂莢子】一箇を呑む。【柞木皮】甘草と共に煎じて服す。【乳香】丸にして服し、末にして服す。○丁香、兎膽と共に丸にして服す。【龍腦】新水で少量を服すれば立ろに下る　【鳳仙子】水で呑む。【山査核】呑む。【桃仁】呑む。【牛尿中大豆】呑む。【槐實】内熱難産には之を呑む　【舂杵糠】燒いて服す。【柑橘瓤】燒いて服す。【蓮花・胡麻・赤石脂・代赭石・禹餘糧・石蟹・蛇黄】煮る。【鰾膠】燒く。【蛟髓・白雞距】燒いて酒に和して服す。

【白雄雞毛】同上。【雞子白】生で一箇を呑む。【烏雞冠血・兎血】乳香と共に末にして服す。【兎腦】乳香と共に丸にして服す。頭も同じ。【兎皮毛】血が上つて心を攻めるには、燒いて末にし酒で服す。【敗筆頭灰】藕汁で服す。【鼠灰】酒で服す。【騾蹄灰】麝を入れて酒で服す。【麝香】水で一錢を服すれば下る。【羚羊角尖】刮つて末にし酒で服す。【狗毛灰】酒で服す。【白狗血】血が上つて心を攻むるには酒で服す。【猪心血】乳香、丹砂に和し丸にして服す。【眞珠】酒で一兩を服すれば下る。【鼈甲】燒き末にして酒で服す。【龜甲】燒いて末にし酒で服す。○母體が矮小で交骨の開かぬには、髮灰、當歸と酒で服す。【生龜】臨月にこれを佩び、出產時に燒いて服す。【海馬・文鰩魚】いづれも同じ。【本婦爪甲】燒いて末にし酒で服す。【人尿】煎じて服す。【蠶蛻紙灰】蛇蛻灰と共に酒で服す。【土蜂窠】湯に泡けて服す。【彈丸】酒で一錢を服す。【松烟墨】水で服す。【芒消】童尿酒で服す。【雲母粉】酒で半兩を服す。口に入れば卽時に產する。【諸鐵器】赤く燒いて酒に淬す。【布鍼】十四箇を燒いて酒に淬す。【鐵鑊鏽】白芷、童尿と共に醋に入れて服す。【馬銜】煮汁を服す。幷に之を持つ。【銅弩】牙。【古文錢】いづれも酒に淬す。【銃楔灰】酒で服す。【箭幹】弓弦と共に

(二) 月閉ハ月水不通ノ

燒いて酒で服す。【弓弩弦】煮汁、或は灰に燒いて服す。【破草鞋灰】酒で服す。【簸箕】水に淋して服す。【車脂】豆二箇程を呑む。【夫裩帶】五寸を燒いて酒で服す。【鍾馗左脚】燒いて末にし水で服す。○いづれも產難及び胞衣不下に主效がある。【蛇蛻】橫生、逆產、胎衣不下には、炒り焦して酒で服し、湯に泡けて產門を浴する。○蟬蛻、頭髮と共に燒いて研り酒で服す。【鹿糞】日を經て產せぬには、乾けると、濕れると各三錢を末にして薑湯で服す。【猪膏】酒に化して多く飮む。【五靈脂】半生半炒にして酒で服す。【牛膝】酒で煎じる。【地黃】汁を醋に和して服す。【洗兒湯】飮む。【井底泥】水で服す。【竈突後黑土】酒で服す。○いづれも胎包を下す。【金箔】七片を磨つて湯で服す。

滑胎 【楡白皮】末。【牽牛子】末を服す。○いづれも臨月にこれを服すれば、胎を滑し、產を易くする。【冬葵子】末を服す。○牛膝と共に煎じて服す。○根も同じ。【葵花】橫生、倒產には酒で服す。【黃葵子】湯で服す。【車前子】酒で服す。或は兎絲子と共に用ゐる【蜀黍根】酒で服す。【赤小豆】呑み、或は煮て服す。○生で研り水で服すれば產後の(二)月閉を治す。【馬檳榔】數箇を細嚼して井水で飮下す。【當歸】芎

末、大豆、童尿と共に流水で服す。［慈姑］汁一升を服す。［瞿麥］煮汁［酸漿子］呑む［木通・通草・澤瀉・預知子・水松・馬齒莧・黄楊葉・海帶・麥蘖・滑石・漿水］いづれも産難、横生、逆生、胎衣不下に主效がある。［蜂蜜］横産、難産には、麻油と共に各〻半盌を服すれば立ろに下る。［蒲黄］日月不足で産せんとするもの、及び胞衣不下には、いづれも水で二錢を服す。○地龍、橘皮と共に末にして服するが甚だ妙である。

外治

［蓖麻仁］擣いて足心に貼る。［本婦鞋］炙いて腹下を熨す。［蟻垤土］炒って心下に搨す。［牛屎］熱して腹上に塗る。○いづれも産難に主效があり、生胎、死胎、胞衣を下す。［食鹽］産兒の足、并に母の腹に塗る。［釜下墨］兒の足に畫く。○いづれも逆生に主效がある。［磨刀水］盤腸産には、腸上を摩り、內用として慈石湯を服す。［赤馬皮］臨産に之に坐る。［馬銜・郎君子・飛生・石燕］いづれも臨産時に之を把る［廁籌］烟に燒けば生を催す。［女中衣］井戶の上を覆へば胎衣を下す。［亂髮］胎衣不下には、母の口中を撫で廻す。［市門土］八月目に之を帶び、臨産時に酒で一錢を服すれば安産する。［海馬・文鰩魚・獺皮・生龜］いづれも臨月に佩ぶ。

胎死　［當歸］芎末、童尿と共に流水で服す。［丹參］末。［黃葵子］末。［瞿麥］煎じる。［益母草］汁。［貝母］末にして酒で服す。［鬼臼］酒で煎じる。［紅花］酒で煎じる。［大麥蘖］水で煎じる。［麥麴］水で煎じ、胎を磨す。［紫金藤・苦瓠］灰。［雀麥］水で煎じる。［大豆］醋で煎じる。［胡麻油］蜜に和す。［肉桂］童尿酒で末を服す。［榆白皮］末。［皂莢刺灰］酒で服す。［木莓根皮］血を破る。［炊蔽灰］水で服す。［松煙墨］水で服す。［蓖麻子］四箇を巴豆三箇と共に麝香を入れて臍に貼る。［伏龍肝］酒で服し、臍下に貼る。［水銀］二兩を呑めば直に下る。［胡粉］水で服す。［硇砂］當歸と共に酒で服す。［丹砂］水で煮て研末し酒で服す。［斑蝥］一箇を燒いて末にし水で服す。［蟹爪］甘草、阿膠と共に煎じて服す。［夜明砂灰］酒で服す。［烏雞］煮汁を服し、臍下を摩す。［雞卵黃］薑汁に和して服す。［雌雞屎］二十一箇を水で煎じ米粥を煮て食ふ。［鹿角屑］葱湯で服す。［羊血］熱飮する。［人尿］煎じて服す。○いづれも死胎、及び胎衣を下す。

墮生胎　［附子］墮胎に用ゐて百藥の長である。［天雄・烏喙・側子・半夏・天南星・玄胡索・補骨脂・莽草・商陸・瞿麥・牛膝・羊躑躅・土瓜根・薏苡根・茜根・

蒺藜・紅花・茅根・鬼箭羽・牡丹皮・大麥糵・麥麴・䕡茹・大戟・薇銜・黑牽牛・三稜・野葛・藜蘆・乾薑・桂心・皂莢・乾漆・槐實・巴豆・欓根・衣魚・螻蛄・虻虫・水蛭・䗪虫・蠐螬・蚱蟬・斑蝥・芫青・地膽・蜈蚣・蛇蛻・石蠶・馬刀・飛生・亭長・蜥蜴【蟹爪】桂心、瞿麥、牛膝と共に末にし、酒で煎じて服す。【雞卵白】（三）三家卵、三家鹽、三家水で和して服す。【麝香】桂心と共に用ゐる。【石蟹・硇砂・水銀・胡粉・琉璃餅】研末して黃酒で服す。【雄黃・雌黃・朴消・代赭・牛黃・茶湯】沙餅少量を入れ、一夜露して用うれば、姙娠三月のものも下る。【安息香】（四）鬼胎を下す。【芫花根】鬼胎癥瘕を下す。研末して一錢を桃仁湯で飲下し、産戸に入れば胎を下す。【土牛膝根】麝香を滲して産戸に內るれば胎を下す。【苦實把豆兒】同上。

産後

虛を補し血を活す　【人參】（一）血運には、紫蘇、童尿と共に酒で煎じて服す。〇不語には、石菖蒲と共に煎じて服す。〇發喘には、蘇木湯で末二錢を服す。〇祕塞には、麻

（三）三家卵、三軒ノ人家ニ得タル雞卵。

（四）鬼胎ハ奇體トモ書ス。胎兒ノ形體奇怪ナルモノ。

（一）血運、メマヒ。

(二) 血瘕ハ子宮痙攣。

(三) 血奔ハ産後血ノ甚シク瀉下スルヲ云フ。

仁、枳殼と共に丸にして服す。○諸虚には、當歸、猪腎と共に煮て食ふ。【當歸】血痛には、乾薑と共に末にして服す。自汗には、黄芪、白芍藥と共に煎じて服す。【蒲黄】血運。(二)血瘕、血煩、血痛、胞衣不下には、いづれも水で二錢を服し、或は煎じて服す。【蘇木】血運、血脹、血噤、及び氣喘で死せんとするには、いづれも煎じて服す。【黄芪】産後一切の病。【杜仲】諸病には棗肉で丸にして服す。【澤蘭】産後のあらゆる病。○根を副食にして食ふ。【益母草】熬膏して用うれば胎前、産後の諸病に主效がある。【茺蔚子】同上。【地黄】酒に釀して用うれば、産後のあらゆる病を治す。酒で服すれば惡血を下す。【桃仁】酒で煮る　【薤白・何首烏】いづれも産後の諸疾に主效がある　【麻子仁】酒に浸して用うれば、瘀血、産後の餘疾を去る。【玄參・蜀椒・蟬蛇膏・蟶・淡菜・阿膠】いづれも産乳、餘疾に主效がある。【童尿】酒に和して用うれば、産後の惡血諸疾を逈治す。【羊肉】産婦の字乳、餘疾を利す。○腹痛虚弱、腹痛厥逆、歸、芎、甘草と共に水で煎じて服す。【羊脂】如上の症狀には、地黄、薑汁と共に煎じて食ふ。【黄雌雞】(一)産後に食ふがよし。或は百合、粳米と共に煮て食ふ。【黒雌雞】同上。【狗頭】産後(三)血奔して四肢に入るもの。煮て食ふ。【繁縷】血

を破る。產婦は食ふがよし。或は酒で炒り、或は汁を絞り、或は醋糊で丸にして服す。【馬齒莧】血を破り、產後の虛汗、及び血痢を止める。【蕓薹子】滯血を行り、產後一切の心腹痛を治す。

血運　【紅花】酒で煮て服すれば、惡血、胎衣を下す。【茜根】水で煎じる。【紅麹】酒に擂る。【神麴】炒つて研り湯で服す。【虎杖】水で煎じる。【夏枯草】汁。【松煙墨】醋で磨る。【白紙灰】酒で服す。【鰾膠】燒いて末にし、童尿酒で服す。【雞子】生で一箇を呑む。【產婦血】一棗大の量を醋に和して服す。【接骨木】血運煩熱には煎じて服す。【續斷】血運寒熱で心下の硬きには煎じて服す。【紅藥子】血運の腹脹、厥逆には、紅花と共に煎じて服す。【百合】血運であらぬことを口走るもの。【香附子】血運であらぬことを口走るには、生で研り薑、棗で煎じて服す。【漆器】煙に燒いて熏ずる。【米醋】炭を煅いて淬し、熏ずる。○韭菜に沃いて熏ずる。

血氣痛　【丹參】宿血を破り、新血を生ず。【敗芒箔】好血を止め、惡血を去る。酒で煮て服す。【三七】酒で服す。【芎藭・三稜・莪茂・甘蕉根・玄胡索】酒で服す。【雞冠花】酒で煎じる。【大黃】醋で丸にする。【虎杖】水で煎じる。【甕菜・蒴藋】水で煎じ

る。【紅藍花】酒で煎じる。【赤小豆・羊蹄實・敗醤・牛膝・紅麹】酒で擂る。【槐耳】酒で服す。【薑黄】桂と共に酒で服す。【鬱金】燒いて研り、醋で服す。【蓮薏】生で研つて飲服する。【生薑】水で煎じる。【三歳陳棗核】燒く。【山査】水で煎じる。【秦椒・桂心】酒で服す。【天竺桂・梫木】水で煎じる。【質汗・芫花】當歸と共に末にして服す。【欄木】水で煎じる。【菴藺】茴、或は子を童尿酒で煎じる。【劉寄奴】煎じ、或は末にする。【天仙藤】炒つて研り童尿酒で服す。【沒藥】血竭、童尿酒と共に用ゐる。【慈姑】汁一升を服すれば、血悶の心を攻めて死せんとするに主效がある。【荷葉】炒り香しくして童尿で服す。【枳實】酒で炒つた芍藥と共に煎じて服す。【石刺木】煎汁。【紫荊皮】醋糊で丸にして服す。【鬼箭羽】當歸、紅花と共に煎じる。○或は四物湯と共に用ゐる【琥珀】丸、散藥に入れる。【茱萸根白皮・升麻】酒で煎じる。【麻黄】酒で煎じる。【布】鹽を包んで煆いて服す。【釜下墨】酒で服す。【伏龍肝】酒で服すれば立ろに下る。【戸限下土】酒で服す。【白然銅】煆いて醋に淬して飲む。【鐵斧】燒いて酒に淬して飲む。【鐵秤錘】同上。【石琅玕】水に磨る。【烏金石】赤く燒いて酒に淬し、煆いた寒水石と共に末にして服す。【薑石】代赭石と共に丸にして服す。【蟹爪】

酒醋で煎じて服す。○血の下らぬには、蟹を煮て食ふ。【雞子白】醋で一箇を呑む。【羊血】血悶で悶絶せんとするには、一升を熱飲する。【鹿角】燒いて末にし豆汁で服す。【羚羊角】燒いて末にし酒で服す。【海馬・白殭蠶・五靈脂・伏翼・龍胎・兎頭】炙き熱して腹痛を摩す。【乾漆】産後の靑腫疼痛、及び血氣水疾には、麥芽と共に煅いて研り酒で服す。

下血過多　【貫衆】心腹痛には、醋で炙り研末して服す。【艾葉】血の止らぬには、老薑と共に煎じて服すれば立ろに止る。○感寒腹痛には、焙じて臍上を熨す。【紫菀】水で服す。【石菖蒲】酒で煎じる。【樗木皮】水で煎じる。【椿白皮・桑白皮】炙いて水で煎じる。【百草霜】白芷と共に末にして服す。【烏氈皮】酒で服す。○いづれも血を止める。【鱓魚】食ふがよし。【凌霄花】いづれも産後の悪漏淋瀝に主效がある。【旋覆花】葱と共に煎じて服す。【紫背金盤】酒で服す。【小薊】益母草と共に煎じて服す。【代赭石】地黄汁で和して服す。【松烟墨】煅いて研り酒で服す。○いづれも墮胎下血の止まぬに主效がある。

(四)**風痙**　【荊芥】産後の中風で痙直し、口噤し、寒熱し、意識不明となれるには、水で煎

(四)風痙ハ中風ト痙

じ童尿酒を入れて服す。或は當歸を加へる。【白朮】澤瀉と共に煮て服す。【羌活】研末して水で服す。【黑大豆】炒り焦して酒を注ぐ。【穭豆】同上。【雞屎】炒り焦して酒を注ぐ。【白鮮皮】餘痛中風には、水で煎じて服す。【竹瀝・地楡】いづれも産乳痙疾に主效がある。【雞蘇】産後中風で惡血の止まぬには煎じて服す。【井泉石】産後の(五)搐搦。【鹿肉】産後の風虛邪僻。

寒熱 【柴胡・白馬通灰】水で服す。【羖羊角灰】酒で服す。○いづれも産後の寒熱悶脹に主效がある。【苦參】産後の煩熱に主效がある。【甘竹根】煩熱には煮汁を用ゐる。【松花】壯熱には、芎、歸、蒲黃、紅花、石膏と共に煎じて服す。【知母・猪腎】煮て食ふ。【狗腎】煮て食ふ。○いづれも産後の蓐勞寒熱に主效がある。

血渴 【黃芩】産後の血渴には、麥門冬と共に煎じて服す。【紫葛】煩渴には、煎じて呷ふ。【芋根】産婦によし。食へば血を破り、汁を飲めば渴を止める。

欬逆 【石蓮子】産後の欬逆で嘔吐、(六)心忡するには、黃芩と共に末にし水で煎じて服す。【壁錢窠】産後欬逆が三五日續き死せんとするには、煎汁を呷ふ。

乳汁を下す 【母猪蹄】通草と共に煮て食ひ、汁を飲む。【牛鼻】羹にして食へば、三

攣トノ併稱。産後ノ感冒ニテ痙病ヲ發スルコトアリ、破傷風ヲ痙病ト云フ。

(五) 搐搦、ヒキツケ。

(六) 心忡ハ神經性心悸。ムナサワギ。

日を過ぎずして乳が大いに出る。【羊肉】臛にして食ふ。【麞肉】臛にして食ふ。【鼠肉】羹、臛にして食ふ。【死鼠】燒いて末にし酒で服す。【鯉魚】燒いて二錢を服す。鱗灰もよし。【鰒魚汁】麻仁、葱、豉と共に羹に煮て食ふ。【蝦汁】煮汁、或は羹。【胡麻】炒つて研り鹽を入れて食ふ。【麻子仁】煮汁。【赤小豆】煮汁。【豌豆】煮汁。【絲瓜】燒いて性を存し、研つて酒で服し汗を取る。【萵苣】煎汁を服す。○子を研つて酒で服す。【白苣】同上。【木饅頭】猪蹄と共に煮て食ふ。【通草】同上。【貝母】知母、牡蠣粉と共に猪蹄湯で日毎に服す。【土瓜根】研末して一日二回酒で服す。【栝樓根】燒いて研り酒で服す。或は酒水で煎じて服す。【栝樓子】炒つて研り酒で二錢を服す。【胡荽】煮汁。或は酒。【繁縷・澤瀉・細辛・般孽】いづれも乳を出す。【石鍾乳粉】漏蘆湯で調へて一錢を服す。乳が出れば止める。【石膏】煮汁を服す。【王不留行】血脈を通じ乳を出す神藥である。【穿山甲】炮いて研り、酒で二錢を服す。涌泉散と名ける。【蜜蜂子】炒り調理して食ふ。【漏蘆・飛廉・京三稜】いづれも水で煎じて乳を洗ふ。

回乳　【神麹】産後乳を飲む子が無く、(七)回轉せんとするには、炒つて研り酒で二錢を服す。これは李瀕湖が自製の神方である。【大麥蘖】炒つて研り白湯で二錢を

(七)回轉ハ乳ノ出ヅルナ止メルコトナラン。

服す。【繳脚布】一夜乳房を撫で揉めば回る。

(八)斷產【零陵香】酒で二錢を服し、一兩まで服し盡せば姙娠せぬ。【薇銜】食へば姙娠せぬ。【鳳仙子】產後に呑めば受胎せぬ。【玉簪花根】產後に鳳仙子、紫蔵、丹砂と共に丸にして服すれば、復び姙娠せぬ。【馬檳榔】經水後に常に二箇を嚼み井水で飲下す。久しうすれば子宮が冷えて姙娠せぬ。【白麪】月經後、一升を酒に浸して三日に服し盡す。【印紙灰】產後に水で二錢を服すれば不姙になる。【水銀・黑鉛】いづれも子宮を冷す。【牛膝・麝香・凌霄花】

(一)陰病

陰寒【呉茱萸】椒と共に用ゐる。【丁香・蛇牀子】いづれも塞ぐ。【硫黃】煎じて洗ふ。

陰吹【亂髮】婦人の胃氣が下泄して(二)陰吹甚だ喧しきには、猪膏で亂髮を煎じ化して服するがよし。病が尿に從つて出る。

陰腫痛【白蘞・白堊土】いづれも女陰腫痛に主效がある。【肉蓯蓉・牛膝】酒で煮

(八)斷產ハ避姙ノコト。

(一)陰病ハ陰部ノ病。

(二)陰吹ハ婦人陰戸ノ噴氣ヲ云フ。

て服す。〔蛇牀子〕洗ふ。〔卷柏〕洗ふ。〔枸杞根〕洗ふ。〔訶梨勒〕蠟に和し燒いて熏ずる。〔枳實〕炒つて煎じる。〔炒鹽〕熨す。〇いづれも婦人の陰痛に主效がある。〔黃蓍〕婦人子臟の風邪の氣に主效がある。〔防風〕當歸、芍藥、陽起石と適當に配合して用ゐれば、婦人子臟の風に主效がある。〔黃連〕・菊苗・羌活・白芷・藁本・蓽茇・白鮮皮・地錦・乾漆・槐實・陽起石〕いづれも婦人の(三)疝瘕痛に主效がある。〔蜀羊泉〕婦人陰中の內傷、皮間の積實。〔澤蘭〕洗ふ。〔大豆〕飯に和して杵いて納れる。〔桃仁〕燒いて傅ける。〇いづれも產後の陰腫に主效がある。〔青布灰〕髮灰と共に服す。〔五倍子〕末を傅ける。いづれも交接後出血の止まぬに主效がある。

(四)**陰痒、陰蝕**　〔蛇牀子・小薊・狼牙・瞿麥・荊芥〕牙皂、墻頭腐草と共に煎じて洗ふ。〔五加皮・槐白皮・槐耳・桑耳・蕪荑・胡麻・枸杞根・椿白皮〕落雁木と共に湯に煎じる。〔城東腐木・猪膽〕いづれも湯に煎じて熏じ洗ふ。〔鯉魚骨・桃仁〕いづれも燒烟して熏ずる。〔桃葉〕杵く。〔杏仁〕燒いて研る。〔羊蹄根〕末にして鯉魚腦に和す。〔鰻鱺・雄雞肝・猪肝・羊肝・狗陰莖・狐陰莖〕いづれも擣いて陰中に納れる。陰痒、陰蝕の蟲有るに主效がある。〔石膽・黑石脂・孔公孽・土殷孽・白礬・硫黃・

(三)疝瘕痛、疝氣ニテ腹腰ノ痛ム病。

(四)陰具ノ痛痒。

(五)陰脫ハ子宮脫出。
(六)婦人ノ陰癩ハ子宮脫出。
(七)子腸ハ子宮ノ別名。
(八)頂心ハ頭顱ノ頂上、百會ノ穴。

龜甲】燒く。【鯽膽】骨灰も同じ。【鯉骨】灰。【雞子】光粉と共に炒る。【烏鰂骨】いづれも婦人の陰痒、陰蝕、陰瘡に主效がある。【箭笴・針線袋】いづれも產後の腸痒に主效がある。密に席下へ入れて置くのである。

(五)陰脫　【土瓜根】(六)婦人の陰癩には、桂枝、芍藥、䗪蟲と共に末にして酒で服す。【慈石】子宮の收らぬは癩疾と名ける。これには煆いて酒に淬し丸にして服す。【穿山甲】婦人の陰癩が卵のやうに硬くなれるには、炙いて研り酒で服す。【升麻・柴胡】いづれも升提する。【羌活】酒で煎じて服す。【枯礬】陰脫で痒きには、一日三回酒で服す。【車脂】酒で煮る。【景天】酒で服す。【鼈頭灰】水で服す。【人屎】炒赤して、酒で一日三回服す【狐陰莖】いづれも產後の子腸脫下に主效がある。【蓖麻子】(八)頂心、及び臍に貼る。【蠍】鼻に吹く。【半夏】出產に子腸が先づ下り、產後にそれが收らぬには、末を鼻に嗜げば止む。【白及】烏頭と共に末にして納れる。【鐵爐中紫塵】羊脂と共に煖して納れる。【茄根灰】納れる。【鐵孕粉】龍腦少量と共に水に研つて刷く。【羊脂】頻に塗る。【鯽魚頭】燒いて傅ける。【兎頭】燒いて傅ける。【五倍子】礬湯で洗つて後に傅ける。【石灰】炒つて水に淬して洗ふ。【皂莢根皮子】楝皮、石蓮子と

共に湯に煎じて熏洗する。【蛇牀子・老鴉蒜・老鴉眼睛草・篁竹根】いづれも水で煎じて熏洗する。【胡麻油】煎じ熱して熏洗し、皂角末を鼻に吹く。【枳殼】煎じて産後の腸出を浴する。【鐵精】羊脂に和して炙いて熨す。【五靈脂・白雞翎・鼠屎】いづれも燒烟して熏ずる。

産門不合　【石灰】炒り熱して水に淬して洗ふ。

産門生合　【鉛】(九)鋌にして日毎に紝する。【石灰】産門を銅錢で劃り開いて傅ければ血が止る。

脬損　【黄絹】婦人が交接、及び生産で脬を損じ、小便が淋瀝して斷えぬには、炭灰の淋汁で煮爛し、蜜蠟、茅根、馬勃を入れ湯に煎じて日毎に服す。○あるひは白牡丹皮、白及末と共に水で煎じて日毎に服す。

小兒初生諸病

沐浴、解毒、便閉、(一)無皮、不啼、不乳、吐乳、目閉、血眼、(二)腎縮、(三)解顱、(四)顖陷、(五)顖腫、(六)項軟、(七)龜背、語遲、行遲、流涎。

(九)棍棒狀ニ作リ、毎日挿入ス。

(一)無皮ハ小兒生レテ一身皮ナク、是紅肉ナルモノ。

(二)腎縮ハ小兒生レ七日ニシテ、兩腎縮

ルナリ。
(三)解顱ハ小兒ノナドリノ合ハヌナリ。
(四)顖陷ハ小兒ノナドリノ陷リテ、クボムナリ。
(五)顖腫ハ小兒ノナドリノ腫レテ高クナルナリ。
(六)項軟ハ天柱力ナキナリ。
(七)龜背ハ背高クシテ龜甲ノ如クナルモノ。
(八)臍風ハ俗ニホホヅキムシト云フ。初生兒臍帶ノ化膿スルニ由リ、諸筋ニ劇シキ攣縮ヲ起スモノ。
(九)穀神ハ穀食ノ能力ヲ云フ。

夜啼、臍腫、(八)臍風。

沐浴 【猪膽・黃連・梅葉】桃、李葉と共に用ゐる。【益母草・虎骨】いづれも湯に煎じて兒を洗へば瘡疥諸病を生ぜぬ。【輕粉】浴後少量で身を摩すれば風を畏れず、又諸氣を解す。

解毒 【甘草】汁。【韭汁】いづれも少量を灌げば、惡水、惡血を吐出して永く諸疾を患はぬ。【豆豉】濃く煎じて咂はせれば、三五日にして胎毒が自ら散ずる。【胡麻】生で嚼み、絹に包んで咂はせれば、兒の毒は自ら下る。【粟米粥】日每に少量を嚼み與ふれば(九)穀神を助ける。【硃砂】蜜で豆ほどの量を和す。【牛黃】蜜で豆ほどの量を和す。【黃連】一匙を灌ぐ。○いづれも胎毒、及び痘毒を解す。【臍帶】初生三日日に、その兒の臍帶を灰に燒いて乳で服ませれば、痘患を免れる。

便閉 【胡麻油】初生兒の大小便不通には、芒消少量を入れて煎沸し、徐に灌げば通じる。【甘草】枳殼と共に水で煎じて灌ぐ。【葱白】尿不通には、乳で煎じて灌ぐ。【輕粉】先づ胸、背、手足の心、幷に臍等の七處を咂ひ、三分を蜜で化して與へ服ま

すれば通ずる。

無皮　【白米粉・車輦土・密陀僧】初生兒の皮無きには、いづれもこれを撲てば、三日にして皮が生じる。

不啼　【冷水】少量を灌ぎ、外を葱で鞭つ。

不乳　【水銀】米粒大を呑ませ、咽に下れば直ちに乳に就く。これは咽中に痲子ほどの物がある爲である。【凌霄花】百日の兒が突然乳を飲まぬには、藍汁、消黄と共に丸にして服す。

吐乳　【蓬莪茂】綠豆と共に乳で煎じ、牛黄を調へて服す。【蘧篨】牛黄、食鹽少量と共に人乳で煎じて服す。

目閉　【甘草】一个月以內目が閉ぢて開かず、或は腫濇し、或は出血するを慢肝風と名ける。猪膽汁で炙き、研末して灌ぐ。【蒼朮】上記の症狀には、二錢を猪膽汁に入れ煮熟して熏じ、嚼んで汁を哺ます。【芎藭】小兒がよく目を閉ぢたがり、或は赤腫するは腦熱である。朴消、薄荷と共に末にして鼻中へ吹く。【熊膽】蒸水を頻に點け、內用として(一〇)四物に天花粉、甘草を加へて服す。

(一〇)四物ハ當歸、川芎、芍藥、熟地黄ヲ云フ。

血眼　【杏仁】嚼んで乳汁で點ける。

腎縮　【呉茱萸】大蒜、硫黄と共にその腹に塗り、蛇牀子を燒烟して熏ずる。

解顱　【防風】白及、柏子仁と共に末にし乳で和す。【天南星】醋で和す。【漆花・榔楡皮・蟹蓋灰】白及と共に末にする。【鼠腦・猪頰車髓・黃狗頭】炙いて研り雞子白で和す。【驢頭骨及び懸蹄灰】油で和す。○いづれも日毎に塗る。【丹雄雞冠血】上に滴らし、赤芍末をまぶす。

顖陷　【烏雞骨】地黃と共に末にして服す。【烏頭】附子、雄黃と共に末にして貼る。【半夏】足心に塗る。

顖腫　【黃蘗】水で和して足心に貼る。

項軟　【附子】南星と共に貼る。【蓖麻子】病後の天柱骨倒には、木鼈子仁と共に貼る。

龜背　【紅內消】龜尿で調へて塗れば久しうして自ら癒える。

語遲　【百舌鳥】炙いて食ふ。【伯勞踏枝】鞭つ。

行遲　【五加皮】木瓜と共に末にして服す。【木占斯】

流涎　【半夏】皂莢子仁と共に、薑汁で丸にして服す。【牛噍草】服す。【鹿角】末にして米飲で服す。【白羊屎】頻に口中へ納れる。【東行牛涎】塗る。【桑白皮汁】塗る。【天南星】水で調へて足に貼る。

夜啼　内治　【當歸】(一)胎寒でよく啼き日夜止まぬには、焙じて研り乳で和して灌ぐ。【前胡】蜜で丸にして服す。【劉寄奴】地龍と共に末にして服す。【伏龍肝】丹砂、麝香と丸にして服す。【燈花】乳頭に抹して吮はす。【胡粉】水で豆三粒ほどを服す。【硫黄】黄丹と共に煨き(二)埋過して丸にして服す。【白花蛇睛】研つて竹瀝で灌ぐ。【虎睛】研つて竹瀝で灌ぐ。【牛黄】乳汁で豆ほどの量を化して灌ぐ。【狼屎中骨】灰に焼いて水で服す。或は豺皮灰を加へる。【縛猪縄灰】水で服す。【巴豆】時珍曰く、小兒の夜啼は多くは停乳、腹痛である。余は毎に蠟匱巴豆藥一二丸を服せしめて屢〻效があつた。　外治　【牽牛子・五倍子・牛蹄甲・馬蹄・馬骨】いづれも臍に貼る。【狗毛】紅絹の袋に盛つて小兒の臂に係ける。【雞屎】小兒を浴し、また少量を服す。【猪窠草・雞窠草・井口邊草・白雄雞翎・牛屎】いづれも密に席下に置く。【土撥鼠頭骨・燒尸場土】いづれも枕傍に置く。【仙人杖】身邊に置く。【樹孔中草】戸中に著

(一)胎寒、生來低温ノ小兒。

(二)金陵本ノ埋字ハ字劃漫汗、讀ムベカラズ。

（一三）人中ハ人ノ面部上唇正中ノ凹窪。承漿ハ下唇正中下ノ凹窪。

ける。〔古櫬板〕燈を點じて照す。

臍腫　〔荊芥〕湯に煎じて洗つて後、葱を煨いて貼れば直に消する〔桂心〕灸いて熨す〔東壁土・伏龍肝・白石脂・枯礬・車脂・龍骨・海螵蛸・猪頬車髓〕杏仁と共に擣く〔臍帶灰〕當歸、麝と共に用ゐる〔油髮灰・當歸・甑帶灰・緋帛灰・錦灰・綿灰〕いづれも臍の濕、或は腫に傅ける。

臍風　〔獨蒜〕臍上に置いて口から蒜氣が出るほど灸し、汁を鼻に搐く〔鹽豉〕臍に貼つて灸する〔裘猫〕諸藥と共に貼つて灸する〔鯽魚〕先づ艾で（一三）人中、承漿に灸し、燒いて研り酒で服す〔全蠍〕酒で灸き、研つて麝を入れて服す〔白殭蠶〕二箇を炒つて研り蜜で服す。〔守宮〕丹砂で養つて赤くし、末にして薄荷湯で服す。〔猴屎〕燒いて研り蜜で服す〔牛黄〕竹瀝で化して服す。〔白牛屎〕口中に塗る〔雞屎白〕口噤し、面赤きは心に屬し、白きは肺に屬する。酒で研り、或は水で煮て汁を服す〔猪脂〕百日以内の兒の噤風は、口中に蝸牛白虫の如き物があるのである。これで擦れば消える。〔驢毛〕麝を入れて炒り焦し、乳汁で和して服す。〔烏驢乳・猪乳・牛涎・牛齝草汁・大豆黄卷汁〕いづれも灌ぐ。〔釣藤〕甘草と共に煎じて服す〔夜合

花枝】煮汁で小兒の(一四)撮口を拭ふ。【葛蔓】灰に燒いて咽に點ける。【天漿子】殭蠶、輕粉と共に灌ぐ。○蜈蚣と共に燒いて服す。【甘草】濃く煎じる【蛇莓汁】いづれも灌ぎ入れて痰涎を吐かす。

(一)驚癇　陰、陽の二症がある。

陽症　【黃連】肝、膽、心の風熱を平ぐ。【羌活・龍膽草・靑黛・金銀薄・鐵粉・剪刀股・馬銜・鐵精・銅鏡鼻・雄黃・代赭石・鼈甲・鯪鯉甲・全蝎・守宮・龍骨】齒、腦、角も同じ。【眞珠・牡蠣粉・蛇蛻・白花蛇・烏蛇・伏翼・五靈脂・牛膽・牛黃】竹瀝で化して服す。【駝黃・野猪黃・熊膽・鮓答・羚羊角・狐肝膽・蛇黃】いづれも肝風を平げ、驚癇を鎭める。【甘草】心火を泄し、元氣を補ふ。煎汁で撮口の風痰を吐かす。【釣藤】甘草と共に煎じて服す。小兒の寒熱、十二驚癇、胎風に主效がある。【丹砂】色赤くして心に入り、神を安んじ、熱を除く。生後一个月以內の驚風で死せんとするには(二)五心に塗る。○驚熱で多く啼くには、牛黃と共に服す。○(三)客忤卒死には蜜と共に服す。○驚忤で發語し得ぬは血が心竅に入つたのである。それに

(一四)撮口、ツグミグチ。臍風ニ由リテ起ル病狀。ヒキツケノ一種。

(一)驚癇ハ小兒ノヒキツケルヤマヒ。

(二)五心ハ五處ノ穴ヲ云フカ。前額上曲差ノ上ニアリ。

(三) 客忤ハ小兒ノオビエヤマヒ。非常ノ物又ハ他人ヲ見テ驚ク病。

(四) 煎消ハ溶解スルコト。

(五) 盤腸痛ハ小兒ノ小腸ノ實氣ノ爲ニ疼痛スルモノ。

は猪心血で丸にして服す。○急驚搐搦には、天南星、全蠍と共に末にして服す。【盧薈・龍腦】引經。【石菖蒲・柏子仁・茯神・茯苓・牡丹皮・琥珀・荊瀝・淡竹瀝・淡竹葉・竹茹・木通・天竹黄・鉛霜・黄丹・紫石英・蓄薩石・玳瑁・象牙・犀角】汁に磨つて服す。【天漿子】研汁を服す。○全蠍、丹砂と共に丸にする。【田螺】いづれも心經の痰熱、驚癇に主效がある。【臘雪】小兒の熱啼を止める。【油髪灰】乳で服すれば小兒の驚啼を止める。【髮髲】雞子黄と合せて(四)煎消し水にして服すれば、小兒驚熱のあらゆる病に主效がある。【月經】驚癇發熱には、青黛に和して水で二錢を服す。口に入れば鎮る。【黄芩】肺虚驚啼には、人參と共に末にして服す。【桔梗・薄荷・荊芥・防風・藁本・紫菀・款冬花】いづれも驚癇、上焦の風熱に主效がある。【桑根白皮】汁。【細辛・驢乳・驢毛・牛鼻津・白狗屎・馬屎中粟】いづれも客忤驚熱に主效がある。【慈石】煉汁。【地黄・玄石】いづれも腎を養ひ、驚を鎮めるに主效がある。【乳香】沒藥と共に服す。【阿魏】炮蒜と共に丸にして服す。○いづれも(五)盤腸痛驚に主效がある。【半夏・天南星・枳殼・杏仁・神麴・殭蠶・青礞石・金牙石・白礬・石綠・石油・水銀・粉霜・輕粉・銀硃・雷墨】いづれも驚癇の風痰、熱痰に主效

（六）驚竄ハ目ヲマハシテ眼球ガ上ニ向フ。

（七）慢驚ハ小兒ノヒキツケ。

（八）足風ハ腰脚ノ疼痛スル病ヲ云フ。

がある【薇銜・女萎・女菀・莽草・蕪荑・白鮮皮・蜀羊泉・鯉魚脂・蜂房・鸛屎・鴨血・雞子・雄雞血・雞冠血・雞屎白・猪心・猪卵・猬皮】灰。【虎睛】魄、鼻、爪いづれも同じ。【猴頭骨・狗屎】屎中の骨も同じ。【六畜毛蹄甲・牛拳木】煎じて服す。【車脂】口中に納れる【胡燕窠土】いづれも驚癇に主效がある。【蜥蜴】蜈蚣、螳螂と共に鼻に嗃けば搐を鎮める【藍葉】凝水石と共に頭上に傅ける。【廁籌】燒いて顖に貼れば（六）驚竄を治す。【白玉】寒水石と共に足心に塗れば驚啼を止める【老鴉蒜】車前と共に手足の心に塗れば急驚に主效がある。【牡鼠】油で煎じて驚癇を摩す。【黄土】驚風で全身黒色になりたるを熨す。【燈火】焠く。【李葉・楡葉・馬絆繩】いづれも水で煎じて浴す。【安息香】これを燒けば驚を辟ける。【鵞毛・雁毛】いづれも小兒の驚癇を辟けるに主效がある。

陰症　【黄芪・人參】黄芪、甘草と同じく小兒の胃虚で（七）慢驚となりたるを治す。乃ち火を泄し、金を補ひ、土を益し、木を平にするの神品である。【天麻】（八）足風の神藥である。【天南星】慢驚には、天麻、麝香と共に服す。或は丸にして服すれば痰を墜す。○暑毒が心に入つて昏迷し搐搦するには、白附子、半夏と共に生で研り、猪膽で丸

(九)慢脾風ハ咽頭粘膜加多兒、咽頭粘膜炎。

(一〇)金陵本ニ川烏トアリ。通行本川芎トアルハ誤。

(一)疳ハ一ニハ乾ナリ、痩瘁シテ少血ナルヲ云フト解シ、又疳ハ甘ナリ、肉食肥

にして服す。【附子】慢驚には、全蠍と共に煎じて服す。○尖は風痰を吐かす。鼻に吹けば臍風を治す。【烏頭】同上。【蜀椒】牡蠣と共に醋で煎じて服す。【胡椒】(九)慢脾風には、丁香、羊屎と共に末にして服す。【蚤休】驚癇で頭を搖し舌を弄するは、熱が腹中にあり、慢驚に陽症を帶びたものである。栝樓根と共に末にして服す。【烏藥】湯に磨つて服す。【開元錢】慢脾驚風には、痰を利すること奇妙である。一箇を燒き珠子を出して研末し、木香湯で飲下す。【騏驎竭】乳香と共に丸にして服す。【麻黃】吐泄後の慢驚脾風には、白朮、全蠍、薄荷と共に末にして服す。【桂心】肝を平にする。【焰消・硫黃】金液丹 【升麻・遠志・蛇牀子・縮砂・曼陀羅花】いづれも慢驚、陰癇に主效がある 【羊肉】頭、蹄、頭骨、いづれも同じ。【羊乳・鹿茸・馬陰莖及び鬐毛】いづれも陰癇に主效がある。【獨頭蒜】臍に灸し、また汁を鼻に嚊ぐ。【蕓薹子】(一〇)川烏と共に末にして頂に塗る。

(一)諸疳　虛熱で蟲がある。

【黃連】猪肚で蒸し、丸にして用うれば、疳を治し蟲を殺す。○小兒が土を食ふには、

甘ノ物ヲ食シテ生ズル病ヲ云フトアリ。諸疳中脾疳最モ著名ナリ、四肢痩セ腹脹ルルモノナリ。今ノ腹膜炎ニ當ル。
(二)骨蒸ハ勞熱。
(三)五疳ハ風疳(又肝疳)、驚疳(又心疳)、涎疳(又脾疳)、氣疳(又肺疳)、急疳、又腎疳ノ五疳ヲ指ス。
(四)無辜ハ鳥名、夜出デテ夜干小兒ノ衣ニ病毒ヲ移スモノト云フ。悶癖ハ急ニ腹中ニ痞塊ヲ生ズル病。
(五)瘰癧ハ結核性腺腫。

汁をたに拌ぜ晒して與へる。【胡黄連】(二)骨蒸疳痢に主效がある。○潮熱するには、柴胡と共に服す。○疳熱肚脹には、五靈脂と共に丸にして服す。○肥熱疳には、黄連、硃砂と共に猪膽の內に置いて煮熟し、盧薈、麝香を入れて丸にして服す。【靑黛】水で服すれば、疳熱、疳痢、蟲を殺すに主效がある。【使君子】(三)五疳の虛熱に主效がある。蟲を殺し、脾胃を健にし、小兒のあらゆる病を治す。【盧薈】上記の症には、使君子と共に丸にして服す　【大黄】熬膏し丸にして服すれば、(四)無辜、悶癖、(五)瘰癧に主效がある。【黑牽牛】疳氣浮腫には、白牽牛の半生半炒と、陳皮、靑皮と共に等分を丸にして服す。【橘皮】疳瘦には、黄連、麝香、猪膽と共に丸にして服す。【棟實】五疳には、川芎、猪膽と共に丸にして服す。【輕粉】泥を食ひ肚の大なるには、沙糖で丸にして服す。【綠礬】疳氣には、火で煆いて醋に淬し、棗肉で丸にして服す。【蠶蛹】煮て食へば疳氣を治し、熱を退け蟲を殺す。【白殭蠶】久疳の天柱骨倒には、炒つて研り薄荷湯で半錢づつを服す。【糞蛆】一切の疳に主效がある。研末して麝香湯で服す。或は甘草を入れて末にし、或は灰に燒いて食物に拌ぜる。蝦蟇に生じた蛆は尤も妙である。【蜘蛛】燒いて啖へば大腹疳に主效がある。【夜明砂】一切の疳病には、研末して猪肉

(六)無辜疳ハ小兒斷後ニ結核ヲ生ズルモノ。

(七)鬾病ハ脾疳ノ別名。

(八)瓜丁ハ瓜蒂ニ同ジ。

汁で服し、胎毒を取り下す。○(六)無辜疳には、末を飯に拌ぜて食ふ。○(七)鬾病には紅絹の袋に入れて佩ぶ。【五靈脂】五疳で潮熱し、蟲あるには、胡黃連、猪膽と共に丸にして服す。【野猪黃】水に研り日毎に服す。膽も同じ。【牡鼠】炙いて食へば、寒熱諸疳に主效がある。羮にしたものは、甚だ人を瘦せしめる。○哺露大腹には、炙いて食ふ。【鼠屎】疳病大腹には、葱、豉と共に煎じて服す。【柴胡・前胡・甜瓜葉・阿勃勒、いづれも疳熱に主效がある。【萹蓄】鬾病。【漏蘆】猪肝と煮て食ふ。【苦耽・離鬲草・白蘩】いづれも無辜疳疾に主效がある。【益母草】粥に煮る。【樗根皮】丸にして服す。【胡粉】雞子と共に蒸し、或は炒る。【雞子】輕粉、巴豆を入れて蒸して食ふ。【大棗・狼把草・鼈血・鰻鱺・狸頭骨】猫骨も同じ。【豺皮・兎屎・獾肉・鴉】いづれも疳痢に主效がある。【葛葎】疳痢には肛に吹く。【鵜鶘觜】久痢で疳になるには、燒いて末にし水で服す。【薔薇根・蕪荑・羊蹄根・虎膽・熊膽・猪膽】いづれも疳蟲を殺す。【蚺蛇膽】鼻に灌げば腦疳を治す。肛に灌げば疳痢を治す。【鯽魚膽】鼻に灌げば腦疳を治す。【白棘針】研末して(八)瓜丁と共に鼻に嗃けば諸疳に主效がある。【苦楝・冬瓜・柳枝皮及び白皮・郁李根・楮葉】いづれも湯に煎じて病兒を浴す。

（一）預解ハ豫防。

【伯勞・白馬眼】いづれも小兒の鬾病にこれを佩ぶ。

痘瘡

（一）預解　【黄連・臍帶】いづれも初生諸病の條下にある。【葵根】煮て食ふ。【黒大豆】綠豆、赤小豆、甘草と共に煮て食ひ汁を飲む。【胡麻油】濃く煎じて食ひ、外には葱涎と共に全身に摻る。【硃砂】蜜で調へて服す。【白水牛蝨】焙じて研り麪餅にして食ふ。【生玳瑁】生犀と共に汁に磨つて日毎に服す。【兎肉】臘月に醬にして食ふ。【兎血】硃砂、或は雄黃と共に丸にして服す。【白鴿】大晦日の夜之を食ひ、毛を水で煎じて兒を浴す。○卵を半日厠中に入れ、白を取つて丹砂に和し、丸にして服すれば、毒は兩便に從つて出る。【雞卵】蚯蚓を入れて蒸熟し、立春の日に食ふ。○童尿、或は厠坑中に七日浸し、洗淨して煮て食ふ。【鶴卵】煮て食ふ。【鸛卵】煮て食ふ。【絲瓜蔓・壺盧鬚・兎頭・鰻魚】いづれも大晦日の夜湯に煎じて兒を浴すれば、痘の出ること多きものは少からしめ、少きものは無からしめる。

內托　【升麻】毒を解し、痘疹の前熱を散ず。【柴胡】痘後の熱を退ける。【牛蒡子】痘

(二)乾陷ハ、痘ノ狀態ノ形容。

(三)倒陷ハ痘膿時ニ胃心煩躁耳輪時目皮ニ南瓜色ニ焦枯黒陷アルモノヲ云フ。

(四)倒靨ハ倒陷ヨリ甚シキ者。

か出て不快に、便閉し、咽利せざるには、荊芥、甘草と共に煎じて服す。【貫衆】升麻、芍藥と共に煎じる。【老絲瓜】燒いて研り、沙糖水で服す。【山査】水で煎じる。〇(二)乾陷には、酒で煎じる。【荔枝】酒に浸す。〇殼は湯に煎じる。【葡萄】酒に擂つて服す【橄欖】研る。【胡桃】燒いて研り、胡荽酒で服す。【胡荽】酒に浸して服す【泰和老雞】五味で調理して煮て食ふ。【竹筍】湯【蝦湯・魚湯・生蜆水】いづれも痘が出て不快なるに主效がある。【黃芪】氣虛で色白く、起らざるに主效がある。【人參】同上。【甘草】痘の出た初期に、乾き、淡くして發展せず、色白きもの、漿を行らさぬもの、光澤なきもの、既に痂となつても胃弱で食事を攝れぬもの、痘後に癰腫を生ずるもの、或は潰して後收らぬものは、皆元氣の不足である。いづれも參、芪、甘草の三味を主として用ゐ、營衞を固くし、氣血を生ずるがよし。或は糯米を加へて肺を助け、芎藭で氣を行らし、芍藥で痛みを止め、肉桂で血を引き膿を化す。【芎藭・芍藥・肉桂・糯米・肉豆蔻】瀉を止める。【丁香】灰白で起らぬもの、脾胃虛弱。【麻黃】(三)風寒倒陷には、蜜で炒り酒で服す。【猪心血】痘瘡の(四)倒靨には、片腦と共に酒で服す。引いて心經に入るには、乳香と共に丸にして服す。【猪齒・猫頭・猫牙】人、猪、犬の牙と共

に灰に燒いて水で服す。【猫屎】人、狗、猪の屎と共に灰に燒き水で服す。【狗屎中粟】末にして一錢を服す。【人牙】燒いて麝香を入れ酒で服す。【人中白】燒いて研り湯で服す。【天靈蓋】燒いて研り酒で三分を服す。或は雄黃を加へる。【白丁香】研末し麝を入れて酒で服す。【鴉頭】燒いて研り水で服す。【老鴉左翅】灰に燒き猪血で丸にして服す。○いづれも陷下に主效がある。【大戟】黑を變じて腎に歸す。研末して水で服す。【威靈仙】上記の症には、片腦と共に服す。【紫草】血熱で紫赤となり、便閉するものによし。○紅花、蟬蛻と共に煎じて服す。【紅花】血を和す。【燕脂】乾紅には、胡桃と共に服す。○痘疔に點ける。○目に點ければ病が目に入らぬ。【犀角】磨汁。【玳瑁】磨汁。【樺皮】煮汁。○いづれも紫赤、乾紅に主效がある。【抱過雞子殼】倒陷、便血、昏睡には、焙じて研り湯で五分を服し、胸背、(五)風池に塗る。【猪膘】便閉には煮て食ふ。【燈心草】煩喘し、尿の利せざるには、鼈甲と共に煎じて服す。【牛黃】紫黑になり、譫語し、發狂するには、丹砂と共に蜜で服す。【丹砂】心に入つて狂亂するには、益元散、片腦と共に水で服す。【山豆根】咽痛不利に用ゐる。【白柿】痘の目に入りたるには、日毎に食ふ。【眞珠】痘疔には、研末して水で服す。【桃膠】痘後

(五)風池ハ耳後髮際陷中ノ穴名。

の發搐には、酒で化して服す。【象牙】痘の收らぬには、水に磨つて服す。【黄明膠】瘢痕には、水で化して服す。

外治　【沈香】乳香、檀香と共に煙に燒けば、惡氣が痘に托するを辟ける。【稻草・猪爪殼】いづれも煙に燒けば惡氣を辟ける。【胡荽】酒で煎じて病兒に噴き、牀、帳、席下に灑ぐ。【縛猪繩・狗毛】紅絹の袋に盛つて小兒の臂に繫ける。【牛蹄甲】燒いて末にし臍に貼る。【牛屎】密に席下に置く。【馬骨灰】乳上に塗り貼る。【馬蹄灰】同じ【牛黄】乳汁で化して豆ほどの量を服す。【虎睛】散にして竹瀝で服す。【狼屎中骨】灰に燒いて水で服す。【豺皮】狼屎骨と共に灰に燒いて水で服す。【土撥鼠頭骨】枕邊に置けば安になる。

小兒驚癇　陰、陽の二證がある。

陽證　【甘草】元氣を補ひ、心火を瀉す。小兒の撮口發噤には、煎汁を灌ぎ、痰涎を吐き去る。【黄連】肝、膽、心の火を平にする。【胡黄連・黄芩】小兒の驚啼には、人參と共に末にして服す。【防風】上焦の風邪、四肢の攣急を治す。【羗活】諸風癇痓に用

ゐ、腎間の風を去り、肝風を搜る。【白鮮皮】小兒の驚癇。【老鴉蒜】急驚に主效がある。車前と共に手足に貼る。【龍膽】骨間の寒熱、驚癇の心に入りたるもの。【細辛】小兒の客忤には、桂心と口中に納れる【薇銜】驚癇吐舌。【薄荷】風熱を去る。【荊芥】一百二十驚には、白礬と共に丸にして服す。【牡丹】(一)驚癇瘈瘲。【藁本】(二)癇疾脊厥の強きもの。【莽草】風癇の日に數十回發作するを摩す。【半夏】鼻に吹く。【青黛】水で服す。【藍葉】凝水石と共に頭上に傅ける。【女萎・女菀・紫菀・款冬花】驚癇寒熱。【蜀羊泉】小兒の驚。【蛇莓】孩兒の口噤には汁を灌ぐ。【凌霄花】生後百日の兒が故無くして乳に口を着けぬには、藍葉、消黃と共に丸にして服す。【葛蔓】小兒の口噤は、病が咽中に在るためである。灰に燒いて點ける。【釣藤】小兒の寒熱、十二驚癇、瘈瘲、客忤、(三)胎風には、甘草と共に煎じて服す。【石菖蒲】客忤、驚癇。【麴】食癇。【淡竹筍】痰熱を消す。小兒の(四)驚癇天弔に用ゐる。【李葉】驚癇を浴する。【杏仁・柏子仁】小兒の夜啼、驚癇には、溫水で服す。【乳香】甘遂と共に服す。【沒藥】盤腸氣痛には乳香と共に服す。【阿魏】盤腸痛には、蒜と共に炮いて丸にして服す。【安息香】これを燒けば驚を辟ける。【盧薈】心を鎮め、熱を除く。【夜合花枝】小兒の撮

(一)瘈瘲ハ搐搦、ソリカヘリ。
(二)癇疾ハ癲癇。脊厥ハ脊強ノコトトスレバ、轉筋ノ意味ナリ。
(三)胎風ハ懷胎ノトキ、母ガ風邪ニ感ジテ、兒ニウツルヲ云フ。
(四)天弔、ヒキツケ。

(五) 胎驚ハ胎兒ノ驚搐ヲ云フ。

(六) 胎癇ハ胎驚ノ別名。

(七) 牙關、ハグキ。

口には、煮汁で拭ひ洗ふ。【楡花】小兒の癇熱を浴する。【蕪荑】驚後の失音には、麴蘖、黄連と共に丸にして服す。【龍腦】心經に入つて諸藥の使となる。【桑根白皮汁】天弔驚癇、客忤を治す。【枳殼】驚風の搐搦、痰涎には、豆豉と共に末にして薄荷汁で服す。【荊瀝】心熱、驚癇。【茯苓・茯神】驚癇。【琥珀】(五)胎驚には、防風、硃砂と共に末にして服す。〇(六)胎癇には、硃砂、全蠍と共に末にして服す。【淡竹葉・青竹茹・竹瀝】驚癇天弔、口噤煩熱。【天竹黄】驚癇天弔。諸風熱を去る。【車脂】驚啼を止めるには、口中に納れる。【馬絆繩】煎じて癇の小兒を洗ふ。【木牛拳】煎じて服すれば小兒の癇を止める。【廁籌】頤に貼れば驚竄を治す。【燈火】驚風を焠く。【臘雪】小兒の熱啼。【黄土】驚風で全身黑色なるを熨す。【胡燕窠土】小兒の驚癇。【金薄・銀薄】風熱驚癇に用ゐ、心を鎭め、魂を安ずる。【錫恡脂】小兒の天弔搐搦には、水銀、牛黄と共に丸にして服す。【鉛霜】積熱痰涎を去り、驚を鎭める。牛黄、鐵粉と共に服す。〇驚風の喉閉、口緊には、蟾酥少量と共に烏梅に蘸けて(七)牙關に擦る。【黄丹】驚癇に用ゐ、心を鎭め、神を安ずる。【銅鏡鼻】客忤驚癇で顏色青きには、燒いて酒に淬して飮む。【鐵粉】驚癇發熱で涎多きに用ゐ、心を鎭め、肝を抑へる。水で少量を服し、或

は丹砂を加へる。【鐵精】風癇。【鐵華粉】虚癇。【剪刀股】驚風。【馬銜】風癇。【白玉】小兒の驚啼には、寒水石と共に足心に塗る。【紫石英】心を補ひ、驚を鎮める。○風熱瘛瘲には、寒水石諸藥と共に煎じて服す。【菩薩石】熱狂驚癇。【硃砂】色赤くして心に入るものである。心熱はこれ以外では除けぬ。○一个月以内の小兒の驚風で死せんとするには、水に磨つて五心に塗る。○驚熱で多く啼くには、牛黄と共に末にして服す。○客忤卒死には、蜜で方寸匕を服す。○驚忤で發語せぬは、血が心竅に入るためである。猪心血で丸にして服す。○急驚搐搦には、天南星、全蝎と共に末にして服す。【水銀】驚風で熱涎の潮するには、南星、麝香と共に服す。【粉霜・輕粉】いづれも痰涎驚熱を下す。【銀硃】(八)内釣驚啼には、乳香、大蒜と共に丸にして服す。【雄黄】驚癇には、硃砂と共に末にして服す。【石油】小兒の驚風には、化し和して丸、散にして服す。【慈石】腎を養ひ、驚を止める。水で錬つて飲む。【玄石・代赭】小兒驚風が腹に入つたもの。○急驚搐搦の鎮らぬには、火で煆き醋に淬し、金箔湯で一錢を服す。【石綠】輕粉と共に急驚を吐かす。【礞石】驚風痰涎には、煆き研つて服し、また丸にして服す。【金牙石・蛇黄・雷墨・鹽豉】小兒の撮口には、臍に貼つて灸する。

(八) 内釣ハ小兒ノ癇氣。

【露蜂房】驚癎の瘈瘲寒熱には、煎汁を服す。【蜣螂】驚搐を鎮める。蜈蚣、蜥蜴と鼻に嗃く。【天漿子】急、慢驚風には、研汁を服す。○全蠍、硃砂と共に丸にして服す。○噤風には、蜈蚣と共に焼いて丸にして服す。○臍風には、殭蠶、膩粉と共に灌ぐ。【白殭蠶】驚癎客忤に用ゐて風痰を去る。○撮口噤風には末にして蜜で服す。○地で焼いた大蒜の泥で制して服す。【棗猫】臍風。【全蠍】小兒の驚癎風搐には、薄荷で包んで炙き研つて服す。○胎驚天弔には、硃砂、麝香を入れる。或は丸にして服す。○風癎、及び慢驚には、石榴を用ゐ煅いて末にして服す。○慢驚には、白朮、麻黄と共に末にして服す。○臍風には、麝と共に服す【玳瑁】熱を清くし、急驚客忤を止める。【鱉甲】小兒驚癎には、炙いて研り乳で服す。【眞珠】小兒の驚熱。【田螺殼】驚風に痰あるもの。【牡蠣】神を安んじ、煩を去る　小兒驚癎。【龍骨】小兒の熱氣驚癎に用ゐ、神を安んじ、魂魄を鎮める。【龍齒】小兒の五驚、十二癎で身熱し、近くべからざるもの。【龍角】驚癎瘈瘲で身熱火の如きもの。【鯪鯉甲】肝驚。【守宮】風痓驚癎。○心虚驚癎。【蛇蛻】小兒の百二十種の驚癎瘈瘲で、弄舌し搖頭するものに用ゐる。【白花蛇】小兒風熱の急、慢驚風の搐搦。【烏蛇・鯉魚脂】小兒の驚忤諸癎。【鸛屎】天弔驚風の

發作止まざるには、炒つて研り、麝香、牛黄、蠍を入れて末にして服す。【鵝毛】小兒に衣せれば驚癇を辟ける。【雁毛】同上。【鴨肉】小兒熱驚。【雞冠血】小兒の卒驚、客忤、搐弔。【白雄雞血】驚風の醒めぬには、唇口、腦に抹す。また驚癇を治す。【雞子】驚を止める。【伏翼】小兒の驚には、硃砂を釀して燒き研つて服す。○慢驚には、炙き焦して、人中白、蠍、麝と共に丸にして服す。【五靈脂】小兒の驚風五癇。【雞屎白】小兒の驚忤、驚啼には、灰に燒き水で服す。【猪心血】心熱驚癇には、硃砂末を調へて服し、引いて心に入る。【猪心肝腎】いづれも驚癇に主效がある。【豚卵・猪乳齒屎】いづれも驚癇に主效がある。【白狗屎】小兒の驚癇客忤には、燒いて服す。【狗屎中骨】寒熱驚癇。【牛膽】驚風を治するに奇功がある。【鼻津】客忤に之を灌ぐ。【馬屎】燒いて末にし、酒で煮て小兒の卒忤を浴す。【尾】烟に燒いて客忤を熏ずる。【屎中粟】燒いて用うれば、小兒の客忤を治す。【馬絆繩】煎じて小兒の癇を浴す。【驢乳】小兒の癇疾、客忤、天弔、風痰咳には之を服す。【驢毛】煎じて飲めば客忤を治す。【牛黄】驚癇寒熱には、竹瀝で調へて服す。或は蜜で調へ、或は硃砂を入れる。【駝黄】風熱驚疾。【六畜毛蹄甲】客熱驚癇。【鮓答・虎睛・虎魄・虎鼻・爪・象牙・

犀角】濃く汁に磨つて服す。【牛黄及び角・野猪黄及び脂・熊膽】驚癇瘈、瘲には、竹瀝で化して服す。【羚羊角】肝を平にし、風を鎭める。【麝香】驚癇、客忤、驚啼に用ゐ、諸竅を通じ、經絡を開き、肌骨に透り、邪氣を辟ける。【狐肝膽】驚癇の寒熱搐搦。【牡鼠】油で煎じて驚癇を摩す。【猬皮】驚啼には、燒いて服す。【猴頭骨及び手】驚癇の寒熱口噤。【髮髲】雞子黄に合せて煎消し、水にして服すれば、小兒驚熱のあらゆる病に主效がある。【油髮灰】乳で服すれば小兒の驚啼を止める。【月經血】小兒の驚癇發熱には、靑黛に和して水で二錢を服す。口に入るれば直に癒える。

陰證　【黄芪】脈を補ひ、心を瀉す。【人參】黄蓍・甘草と同じく、小兒の胃虛で慢驚となりたるには、火を瀉し、金を補ひ、土を益し、木を平にするの神劑である。【桔梗】(九)小水に主效がある。【楊柳根】風寒で、外出の不快なるには、湯に煎じて浴す。【茱萸】口噤には、一二粒を嚼んで抹す。【茶葉】痘痒を熏燒する。【馬齒莧】灰。【敗茅・黄絹】灰。【海螵蛸】末。【黄牛屎】灰。【蕎麥・大豆・赤小豆・豌豆・綠豆】いづれも研つて爛痘、及び癰に傅ける。【枇杷葉】爛痘を洗ふ。【靑羊脂】豆瘡の疥の如くなるを摩す。【薑石・芒消】いづれも痘毒に塗る。【雄黄】痘疔には、紫草末、燕脂と共に水

(九) 小水ハ尿。

で塗る。【蜂蜜・酥油】いづれも痘痂の落ちんとして落ちぬを潤せば、瘢痕も無くなる。【白殭蠶】雄雞尾を酒に浸したものと和して痘瘢に塗る。【蜜陀僧】人乳で調へて痘瘢に塗る。【猪肉汁・馬肉汁】いづれも痘瘢を洗ふ。【柳葉】夏季に蛆を生じたるには、敷き臥して之を引く。【蓽澄茄】鼻に嚏げば、痘の目に入るを治す。

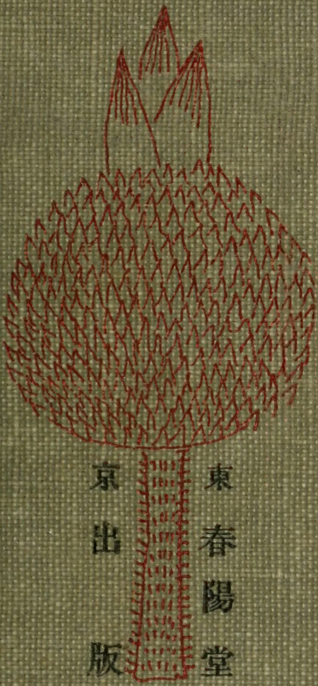
本草綱目主治第四卷下　終

昭和四年八月十五日印刷
昭和四年八月十八日發行

頭註國譯本草綱目第二冊
非賣品

監修兼 白井光太郎
翻譯者 鈴木眞海
東京市日本橋區通三丁目八番地
發行者 和田利彥
東京市日本橋區通三丁目八番地
印刷者 木村諭吉
東京市日本橋區通三丁目八番地
刊行所 春陽堂
電話日本橋五一・六四一・三七八八
振替口座東京一六一七

東京・日東印刷株式會社印行・本鄉



東京春陽堂出版